広域基幹河川弘田川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

弘田川西岸遺跡

2008年1月

香川県教育委員会

序　　文

弘田川西岸遺跡は弘田川の河川改修工事に伴い発掘調査を行った、善通寺市仙遊町、善通寺町に所在する遺跡です。

発掘調査は香川県教育委員会から委託をうけ、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成７年度に実施しました。

弘田川西岸遺跡の発掘調査では、縄文時代から古代に及ぶ遺構と遺物が多量に出土しました。なかでも縄文土器は、後期前半におけるこの地域の土器の様相を知るための重要な資料として注目されるとともに、竪穴住居、大型の掘立柱建物跡などからなる弥生時代中期後半～後期前半の集落跡は、丸亀平野の拠点集落とされる旧練兵場遺跡と一連の弥生時代集落を形成していたことがわかりました。

整理作業は、香川県埋蔵文化財センターが平成18年度に実施し、その成果を刊行することになりました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの間、香川県土木部河川砂防課及び関係機関、地元関係者各位に多大な御協力と御指導を頂きました。ここに深く感謝の意を表するとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年１月

香川県埋蔵文化財センター

所長　　渡　部　明　夫

例　　言

1．本報告書は、弘田川の河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、香川県善通寺市仙遊町、善通寺市善通寺町に所在する弘田川西岸遺跡（ひろたがわせいがんいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土木部河川砂防課からの依頼を受け、香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査の期間及び担当は以下のとおりである。

平成７年度

対象面積　　5,231㎡

調査期間　　平成７年４月１日～平成７年11月30日

調査担当者　谷畑雅稔、片桐孝浩、高橋佳緒里

4．発掘調査にあたって、下記の関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県土木部河川砂防課、香川県善通寺土木事務所、地元自治会

5．報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。

本報告書の執筆・編集は片桐孝浩が担当した。

6．報告書の作成にあたっては、以下の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい（敬称略・五十音順）

千葉　豊、冨井　眞

7．本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標系第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海水位（T.P.）を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

ＳＢ…掘立柱建物跡　ＳＨ…竪穴住居跡　ＳＴ…墓跡　ＳＫ…土坑跡　ＳＤ…溝跡

ＳＰ…柱穴跡　ＳＲ…自然流路跡

8．石器実測図中、スクリントーンを貼っている部分は擦痕を、輪郭線の回りの「←→」は摩滅・使用痕の範囲を、輪郭線の周りの「｜－｜」は敲打痕の範囲を表す。なお、現代の欠損は黒く塗りつぶしている。

9．挿図の一部に国土地理院地形図　「善通寺」（1/25,000）を使用した。

10. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1998年度版』による。

目　　次

序文
例言
第１章　調査の経緯・経過……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の経過……3
第２章　立地と環境……9
　第１節　地理的環境……9
　第２節　歴史的環境……9
第３章　調査の成果……12
　第１節　周辺の旧地形復元……12
　第２節　調査成果の概要……12
　第３節　遺構・遺物について……14
第４章　まとめ……240
　第１節　弥生時代中期後半～後期終末及び６・７世紀の遺構の変遷……240

図 版 目 次

図版１ (1) 調査区遠景(南より)
(2) 調査区遠景(北より)
図版２ (1) 調査区全景(南より)
(2) 調査区全景(西より)
図版３ 第Ⅰ調査区全景(真上より)
図版４ 第Ⅱ調査区北部全景(真上より)
図版５ 第Ⅱ調査区中央部全景①(真上より)
図版６ 第Ⅱ調査区中央部全景②(真上より)
図版７ 第Ⅱ調査区南部全景(真上より)
図版８ 第Ⅱ調査区全景(真上より)
図版９ (1) 第Ⅰ調査区北部検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区北部検出状況(南より)
図版10 (1) 第Ⅰ調査区北部検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区北部検出状況(南より)
図版11 (1) 第Ⅰ調査区北半遺構検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SH01土層断面(東より)
図版12 (1) 第Ⅰ調査区SH01土層断面(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SH01検出状況(南より)
図版13 (1) 第Ⅰ調査区SH01炉検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SH01炉検出状況(西より)
図版14 (1) 第Ⅰ調査区SH04土層断面(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SH04側板土層断面(西より)
図版15 (1) 第Ⅰ調査区SH04炉上層断面(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SH04炉検出状況(南より)
図版16 (1) 第Ⅰ調査区SH07第１層遺物出土状況(南西より)
(2) 第Ⅰ調査区SH07遺物出土状況(西より)
図版17 (1) 第Ⅰ調査区SH07検出状況(北西より)
(2) 第Ⅰ調査区北半遺構検出状況(南より)
図版18 (1) 第Ⅰ調査区北半遺構検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区南部検出状況(北より)
図版19 (1) 第Ⅰ調査区南部検出状況(西より)
(2) 第Ⅰ調査区発掘風景(南より)
図版20 (1) 第Ⅰ調査区ST03検出状況(西より)
(2) 第Ⅰ調査区ST03検出状況(西より)
図版21 (1) 第Ⅰ調査区ST03検出状況(西より)
(2) 第Ⅰ調査区ST03検出状況(西より)
図版22 (1) 第Ⅰ調査区ST03検出状況(西より)
(2) 第Ⅰ調査区ST03土層断面(西より)
図版23 (1) 第Ⅰ調査区ST01・02検出状況(東より)
(2) 第Ⅰ調査区ST01検出状況(北より)
図版24 (1) 第Ⅰ調査区ST01検出状況(東より)
(2) 第Ⅰ調査区ST01断面検出状況(北より)
図版25 (1) 第Ⅰ調査区ST02検出状況(北より)
(2) 第Ⅰ調査区ST02検出状況(東より)
図版26 (1) 第Ⅰ調査区ST02検出状況(北より)
(2) 第Ⅰ調査区ST02検出状況(南より)
図版27 (1) 第Ⅰ調査区ST02断面検出状況(東より)
(2) 第Ⅰ調査区ST02断面検出状況(東より)
図版28 (1) 第Ⅰ調査区SD01土層断面(西より)
(2) 第Ⅰ調査区SD01検出状況(西より)
図版29 (1) 第Ⅰ調査区SD03土層断面(西より)
(2) 第Ⅰ調査区SR01西壁土層断面(南東より)
図版30 (1) 第Ⅰ調査区SP0791(SB07)土層断面(東より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0816(SB07)土層断面(東より)
図版31 (1) 第Ⅰ調査区SP0854検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0475検出状況(南より)
図版32 (1) 第Ⅰ調査区SP0461検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0462検出状況(東より)
図版33 (1) 第Ⅰ調査区SP0499検出状況(東より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0122検出状況(北より)
図版34 (1) 第Ⅰ調査区SP0375検出状況(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0375検出状況(東より)
図版35 (1) 第Ⅰ調査区SP0931出状況
(2) 第Ⅰ調査区SP0480根石検出状況(西より)
図版36 (1) 第Ⅰ調査区SP0714土層断面(南より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0714土層断面(南より)
図版37 (1) 第Ⅰ調査区SP0610土層断面(西より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0725(SB05)土層断面(南より)
図版38 (1) 第Ⅰ調査区SP0592(SB06)土層断面(西より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0908土層断面(東より)
図版39 (1) 第Ⅰ調査区SP0892土層断面(北より)
(2) 第Ⅰ調査区SP0956土層断面(北より)
図版40 (1) 第Ⅰ調査区SP0079土層断面(南より)
(2) 第Ⅱ調査区北半検出状況(南より)

図版41 (1) 第Ⅱ調査区遺構検出状況(南より)
(2) 第Ⅱ調査区SH20・22・23南部遺構検出状況(北東より)
図版42 (1) 第Ⅱ調査区SH20遺構検出状況(南東より)
(2) 第Ⅱ調査区SH20炉遺物検出状況(南東より)
図版43 (1) 第Ⅱ調査区南部遺構検出状況(北東より)
(2) 第Ⅱ調査区SH22遺物検出状況(南より)
図版44 (1) 第Ⅱ調査区SH28検出状況(北西より)
(2) 第Ⅱ調査区SH45炉遺物検出状況(西より)
図版45 (1) 第Ⅱ調査区中央部遺構検出状況(北より)
(2) 第Ⅱ調査区SH47・48・49・50検出状況(東より)
図版46 (1) 第Ⅱ調査区SH47・48・49・50検出状況(東より)
(2) 第Ⅱ調査区SH50遺物出土状況(北より)
図版47 (1) 第Ⅱ調査区SH48遺物出土状況(東より)
(2) 第Ⅱ調査区SH48土層断面(北より)
図版48 (1) 第Ⅱ調査区SH48検出状況(東より)
(2) 第Ⅱ調査区SH48土坑内遺物出土状況(南より)
図版49 (1) 第Ⅱ調査区SH48土坑内遺物出土状況(西より)
(2) 第Ⅱ調査区SH47遺物出土状況(南より)
図版50 (1) 第Ⅱ調査区SH47遺物出土状況(北より)
(2) 第Ⅱ調査区SH47遺物出土状況(東より)
図版51 (1) 第Ⅱ調査区SH53検出状況(北より)
(2) 第Ⅱ調査区SH53検出状況(北より)
図版52 (1) 第Ⅱ調査区SB13検出状況(北より)
(2) 第Ⅱ調査区南半遺構検出状況(北より)
図版53 (1) 第Ⅱ調査区SH58検出状況(南より)
(2) 第Ⅱ調査区SH58検出状況(南より)
図版54 (1) 第Ⅱ調査区SH58遺物出土状況(東より)
(2) 第Ⅱ調査区SH58遺物出土状況(南より)
図版55 (1) 第Ⅱ調査区中央部遺構検出状況(北より)
(2) 第Ⅱ調査区中央部遺構検出状況(北より)
図版56 (1) 第Ⅱ調査区SB13検出状況(北より)
(2) 第Ⅱ調査区SB13検出状況(北より)
図版57 (1) 第Ⅱ調査区SP1913遺物出土状況
(2) 第Ⅱ調査区SR03土層断面(南西より)
図版58 (1) 第Ⅱ調査区SR04土層断面(南西より)
(2) 第Ⅱ調査区SR05土層断面(北西より)
図版59 (1) 第Ⅱ調査区SP1760(SB13)根石出土状況(南より)
(2) 第Ⅱ調査区SP1758根石出土状況(南より)
図版60 (1) 第Ⅱ調査区SP1912土層断面(北東より)
(2) 第Ⅱ調査区SP1918土層断面(北東より)
図版61 (1) 第Ⅲ調査区全景(北より)
(2) 第Ⅲ調査区SH59検出状況(北東より)
図版62 (1) 第Ⅲ調査区SH59第2遺構面検出状況(北東より)
(2) 第Ⅲ調査区SH59炉遺物出土状況(南より)
図版63 (1) 第Ⅲ調査区SP2015根石検出状況(南より)
(2) 第Ⅲ調査区SP2016根石検出状況(南より)
図版64 (1) 現地説明会風景
(2) 現地説明会風景
図版65 第Ⅰ調査区SB02(SP68) 48
第Ⅰ調査区SB04(SP377) 78
第Ⅰ調査区SH01 123・125～127・130
図版66 第Ⅰ調査区SH01 129・131～133・135
図版67 第Ⅰ調査区SH01 134・139・141・142・150
図版68 第Ⅰ調査区SH01 152・180・197・209～211・213・214
図版69 第Ⅰ調査区SH01 215
第Ⅰ調査区SH04 267
第Ⅰ調査区SH07 285～288・291・292
図版70 第Ⅰ調査区SH07 294・299・308・344・366・383・418・421
図版71 第Ⅰ調査区SH07 424・428・480・492・496・504・505
図版72 第Ⅰ調査区SH07 507・514・524・550・551・554
図版73 第Ⅰ調査区SH07 555
図版73 第Ⅰ調査区SH15 665・666
第Ⅰ調査区SH19(SP931) 680・684
第Ⅰ調査区ST01 687・688
第Ⅰ調査区ST02 694
図版74 第Ⅰ調査区ST03 696
第Ⅰ調査区SK01 724・738
第Ⅰ調査区SD01 777・780・781・782
図版75 第Ⅰ調査区SR01 876
第Ⅰ調査区SP122 910
第Ⅰ調査区SP375 916
第Ⅰ調査区SP426 926
第Ⅰ調査区SP461 952

第Ⅰ調査区SP462　954～956
図版76　第Ⅰ調査区SP475　957
第Ⅰ調査区SP480　960・962
第Ⅰ調査区SP499　982
第Ⅰ調査区SP556　1013
第Ⅰ調査区SP589　1045
第Ⅰ調査区SP793　1078・1079
図版77　第Ⅰ調査区SP793　1080
第Ⅰ調査区SP854　1102
第Ⅰ調査区SP879　1118
第Ⅰ調査区包含層　1164・1166・1174・1200・1201
図版78　第Ⅰ調査区包含層　1202～1205・1207・1208・1214・1217
図版79　第Ⅰ調査区包含層　1223・1232
第Ⅱ調査区SB09(SP1290)　1236
第Ⅱ調査区SB12(SP1710)　1256
第Ⅱ調査区SH20　1312・1342・1343
図版80　第Ⅱ調査区SH20　1358
第Ⅱ調査区SH22　1409・1410
第Ⅱ調査区SH25　1477・1493
第Ⅱ調査区SH26　1499・1538・1539
第Ⅱ調査区SH27　1568
図版81　第Ⅱ調査区SH28　1600・1601・1618
第Ⅱ調査区SH33(SP1241)　1706
図版81　第Ⅱ調査区SH35　1716・1717
第Ⅱ調査区SH36　1728
第Ⅱ調査区SH37　1742
図版82　第Ⅱ調査区SH37　1779・1781・1797
第Ⅱ調査区SH41　1842
第Ⅱ調査区SH45　1915
第Ⅱ調査区SH47　1925・1935
第Ⅱ調査区SH48　1979・1997
図版83　第Ⅱ調査区SH48　2024・2031・2043・2048・2051・2065・2069・2082
図版84　第Ⅱ調査区SH48　2083・2084・2098・2099・2117・2148・2150
第Ⅱ調査区SH53　2215
図版85　第Ⅱ調査区SH55　2281・2283
第Ⅱ調査区SR03　2395・2398
第Ⅱ調査区SR04　2416・2449・2465・2473
図版86　第Ⅱ調査区SR04　2457
第Ⅱ調査区SR05　2523・2546～2549
図版87　第Ⅱ調査区SR05　2551
第Ⅱ調査区SP1407・1408　2553
第Ⅱ調査区SP1595　2554
第Ⅱ調査区SP1678　2565
第Ⅱ調査区SP2009　2577
第Ⅱ調査区SP1913　2578・2581・2582
図版88　第Ⅱ調査区SP1913　2583・2586
第Ⅱ調査区縄文包含層　2587～2592・2594～2611・2613～2616
図版89　第Ⅱ調査区縄文包含層　2617～2630・2632～2641・2648～2655・2657～2662・2664・2665・2668～2671・2674～2678
図版90　第Ⅱ調査区縄文包含層　2679～2694・2697・2698・2702～2731
図版91　第Ⅱ調査区縄文包含層　2732～2737・2739～2764・2766～2775・2777～2782
図版92　第Ⅱ調査区縄文包含層　2804・2844・2846～2881
図版93　第Ⅱ調査区縄文包含層　2882～2911・2921・2927・2930
図版94　第Ⅱ調査区縄文包含層　2937～2940・2943～2946・2948～2951・2954～2958・2961～2975・2977・2978・2990・3004
図版95　第Ⅱ調査区縄文包含層　3017・3018・3021・3022・3024・3026・3027・3029・3031・3033・3034・3036・3037・3040
第Ⅱ調査区包含層　3073
図版96　第Ⅲ調査区SH59　3137・3165
第Ⅲ調査区SH59(SP1974)　3167
第Ⅱ調査区SR04焼土塊・窯壁
第Ⅱ調査区包含層窯壁

挿　図　目　次

第１図　発掘調査頭初調査区割図 ……2
第２図　第1トレンチ土層実測図……4
第３図　第2～第6トレンチ土層実測図……5～6
第４図　発掘調査区割図，報告時調査区割図 ……8
第５図　遺跡位置図 ……9
第６図　周辺遺跡位置図……11
第７図　周辺旧地形復元図……13
第８図　SB01平・断面図 ……15
第９図　SB01・02出土遺物実測図 ……16
第10図　SB02平・断面図 ……17
第11図　SB03平・断面図，出土遺物実測図 ……19
第12図　SB04平・断面図，出土遺物実測図 ……20
第13図　SB05平・断面図，出土遺物実測図 ……22
第14図　SB06平・断面図，出土遺物実測図 ……23
第15図　SB07・08平・断面図，出土遺物実測図 ……25
第16図　SH01・02・03位置関係図 ……26
第17図　SH01平・断面図 ……27
第18図　SH01出土遺物実測図① ……28
第19図　SH01出土遺物実測図② ……30
第20図　SH01出土遺物実測図③ ……31
第21図　SH01出土遺物実測図④ ……32
第22図　SH01出土遺物実測図⑤ ……33
第23図　SH01出土遺物実測図⑥ ……34
第24図　SH01遺物出土状況図 ……35
第25図　SH02平・断面図，出土遺物実測図 ……36
第26図　SH03平・断面図，出土遺物実測図 ……37
第27図　SH04・05平・断面図，出土遺物実測図 ……39
第28図　SH06平・断面図，出土遺物実測図 ……41
第29図　SH07平・断面図，遺物出土状況 ……41
第30図　SH07出土遺物実測図① ……43
第31図　SH07出土遺物実測図② ……44
第32図　SH07出土遺物実測図③ ……45
第33図　SH07出土遺物実測図④ ……46
第34図　SH07出土遺物実測図⑤ ……47
第35図　SH07出土遺物実測図⑥ ……49
第36図　SH07出土遺物実測図⑦ ……50
第37図　SH07出土遺物実測図⑧ ……51
第38図　SH07出土遺物実測図⑨ ……52
第39図　SH07出土遺物実測図⑩ ……53
第40図　SH07出土遺物実測図⑪ ……54
第41図　SH07出土遺物実測図⑫ ……55
第42図　SH08平・断面図，出土遺物実測図 ……56
第43図　SH09平・断面図 ……57
第44図　SH09出土遺物実測図 ……58
第45図　SH10・11平・断面図，SH11出土遺物実測図 ……59
第46図　SH12平・断面図，出土遺物実測図 ……59
第47図　SH13平・断面図，出土遺物実測図 ……61
第48図　SH14平・断面図 ……62
第49図　SH15平・断面図，出土遺物実測図 ……63
第50図　SH16・17・18平・断面図，出土遺物実測図 ……64
第51図　SH19平・断面図，出土遺物実測図 ……66
第52図　ST01平・断面図 ……67
第53図　ST01出土遺物実測図 ……68
第54図　ST02平・断面図，出土遺物実測図 ……70
第55図　ST03平・断面図，出土遺物実測図 ……71
第56図　ST04平・断面図，出土遺物実測図 ……72
第57図　SK01平・断面図，出土遺物実測図 ……73
第58図　SK02・04・05・06・08平・断面図，
出土遺物実測図……75
第59図　SD01平・断面図，出土遺物実測図 ……78
第60図　SD02・03平・断面図 ……79
第61図　SD02・03出土遺物実測図 ……81
第62図　SR01出土遺物実測図① ……84
第63図　SR01土層断面図 ……85～86
第64図　SR02土層断面図 ……85～86
第65図　SR01出土遺物実測図② ……87
第66図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図①……88
第67図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図②……89
第68図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図③……90
第69図　柱穴出土遺物実測図④……91
第70図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図⑤……92
第71図　柱穴出土遺物実測図⑥……93

第72図　柱穴出土遺物実測図⑦……94
第73図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図⑧……95
第74図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図⑨……96
第75図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図①……97
第76図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図②……98
第77図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図③……99
第78図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図④ ……100
第79図　SB09平・断面図，出土遺物実測図 ……103
第80図　SB10平・断面図 ……104
第81図　SB11平・断面図 ……106
第82図　SB12平・断面図 ……107
第83図　SB13平・断面図 ……108
第84図　SB10・11・12・13出土遺物実測図 ……109
第85図　SH20・21・22・23位置関係図 ……111
第86図　SH20・21平・断面図 ……112
第87図　SH20出土遺物実測図① ……113
第88図　SH20出土遺物実測図② ……114
第89図　SH20出土遺物実測図③ ……115
第90図　SH20出土遺物実測図④，
　　SH21出土遺物実測図 ……116
第91図　SH22平・断面図 ……117
第92図　SH22出土遺物実測図① ……118
第93図　SH22出土遺物実測図② ……119
第94図　SH22出土遺物実測図③ ……120
第95図　SH22出土遺物実測図④ ……121
第96図　SH23平・断面図 ……122
第97図　SH23出土遺物実測図 ……123
第98図　SH24・25・26位置関係図 ……124
第99図　SH24平・断面図 ……125
第100図 SH25平・断面図，出土遺物実測図 ……126
第101図 SH26平・断面図 ……128
第102図 SH26出土遺物実測図① ……129
第103図 SH26出土遺物実測図② ……130
第104図 SH27平・断面図，出土遺物実測図 ……131
第105図 SH28平・断面図 ……132
第106図 SH28出土遺物実測図 ……133
第107図 SH29平・断面図，出土遺物実測図 ……135
第108図 SH30平・断面図，出土遺物実測図 ……137
第109図 SH31平・断面図，出土遺物実測図 ……138
第110図 SH32・39平・断面図，出土遺物実測図 ……140
第111図 SH33・37・40・41・42位置関係図 ……142
第112図 SH33平・断面図，出土遺物実測図 ……143
第113図 SH35平・断面図，出土遺物実測図 ……144
第114図 SH36平・断面図，出土遺物実測図 ……145
第115図 SH37平・断面図，出土遺物実測図① ……146
第116図 SH37出土遺物実測図② ……147
第117図 SH37出土遺物実測図③ ……149
第118図 SH38・43位置関係図 ……150
第119図 SH38平・断面図，出土遺物実測図 ……151
第120図 SH40平・断面図，出土遺物実測図 ……153
第121図 SH41平・断面図 ……154
第122図 SH41出土遺物実測図 ……155
第123図 SH42平・断面図，出土遺物実測図 ……156
第124図 SH43平・断面図，出土遺物実測図 ……157
第125図 SH27・28・29・30・32・36位置関係図 ……158
第126図 SH44平・断面図，出土遺物実測図① ……159
第127図 SH44出土遺物実測図② ……160
第128図 SH45平・断面図 ……161
第129図 SH45出土遺物実測図 ……162
第130図 SH47平・断面図，出土遺物実測図① ……163
第131図 SH47出土遺物実測図② ……164
第132図 SH48平・断面図 ……166
第133図 SH48出土遺物実測図① ……167
第134図 SH48出土遺物実測図② ……168
第135図 SH48出土遺物実測図③ ……169
第136図 SH48出土遺物実測図④ ……170
第137図 SH48出土遺物実測図⑤ ……171
第138図 SH48出土遺物実測図⑥ ……172
第139図 SH48出土遺物実測図⑦ ……173
第140図 SH48出土遺物実測図⑧ ……174
第141図 SH48出土遺物実測図⑨ ……175
第142図 SH49平・断面図，出土遺物実測図 ……176
第143図 SH50平・断面図，出土遺物実測図 ……178
第144図 SH52平・断面図，出土遺物実測図 ……179
第145図 SH53平・断面図 ……180
第146図 SH53出土遺物実測図 ……181

第147図 SH45平・断面図，出土遺物実測図 ……182
第148図 SH55・56平・断面図，出土遺物実測図 ……183
第149図 SH57・58位置関係図 ……184
第150図 SH57平・断面図，出土遺物実測図 ……186
第151図 SH58平・断面図，出土遺物実測図 ……187
第152図 SK10・11平・断面図，出土遺物実測図 ……189
第153図 SD06・07断面図，出土遺物実測図 ……190
第154図 SR03・04土層断面図 ……191～192
第155図 SR04土層断面図 ……193
第156図 SR05土層断面図 ……193
第157図 SR03出土遺物実測図① ……194
第158図 SR03出土遺物実測図② ……195
第159図 SR04出土遺物実測図① ……196
第160図 SR04出土遺物実測図② ……197
第161図 SR04出土遺物実測図③ ……198
第162図 SR04出土遺物実測図④ ……200
第163図 SR05出土遺物実測図① ……201
第164図 SR05出土遺物実測図② ……202
第165図 柱穴出土遺物実測図 ……203
第166図 SP1913平・断面図，出土遺物実測図 ……204
第167図 縄文包含層範囲図 ……205
第168図 縄文包含層出土遺物実測図① ……206
第169図 縄文包含層出土遺物実測図② ……207
第170図 縄文包含層出土遺物実測図③ ……208
第171図 縄文包含層出土遺物実測図④ ……209
第172図 縄文包含層出土遺物実測図⑤ ……210
第173図 縄文包含層出土遺物実測図⑥ ……211
第174図 縄文包含層出土遺物実測図⑦ ……212
第175図 縄文包含層出土遺物実測図⑧ ……213
第176図 縄文包含層出土遺物実測図⑨ ……214
第177図 縄文包含層出土遺物実測図⑩ ……215
第178図 縄文包含層出土遺物実測図⑪ ……216
第179図 縄文包含層出土遺物実測図⑫ ……217
第180図 縄文包含層出土遺物実測図⑬ ……218
第181図 縄文包含層出土遺物実測図⑭ ……219
第182図 縄文包含層出土遺物実測図⑮ ……221
第183図 縄文包含層出土遺物実測図⑯ ……222
第184図 第Ⅱ調査区包含層出土遺物実測図① ……223
第185図 第Ⅱ調査区包含層出土遺物実測図② ……224
第186図 第Ⅱ調査区包含層出土遺物実測図③ ……225
第187図 SB14・15平・断面図，SB14出土遺物実測図……227
第188図 SH59平・断面図① ……228
第189図 SH59平・断面図② ……229
第190図 SH59出土遺物実測図 ……230
第191図 SH59平・断面図④ ……231
第192図 SH60平・断面図，出土遺物実測図 ……233
第193図 SH61・62平・断面図 ……234
第194図 SK14・15・16・20平・断面図，出土遺物実測図 236
第195図 SK22平・断面図，出土遺物実測図 ……237
第196図 第Ⅲ調査区包含層出土遺物実測図① ……238
第197図 第Ⅲ調査区包含層出土遺物実測図② ……239
第198図 弥生時代中期後半～後期後葉の遺構変遷図243～244
第199図 弥生時代後期後半～後期終末及び
6・7世紀の遺構変遷図……245～246

表　目　次

第1表　柱穴観察表……249～261
第2表　土坑観察表 ……261
第3表　土器観察表……262～348
第4表　石器観察表……349～358
第5表　玉製品観察表 ……358
第6表　金属製品観察表 ……359

付　図　目　次

付図1　縄文時代～弥生時代後期初頭遺構配置図
付図2　弥生時代後期以降遺構配置図

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

善通寺市内では、戦前より地元讃岐宮の宮司であった矢原高幸によって数多くの遺跡が発見されている。矢原は市内で採集した考古資料を保管しており、その中には、明治29（1896）年に開設された旧陸軍第11師団が、明治30（1897）年に市街地の北側一帯を陸軍演習のため練兵場とした付近から採集した考古資料も含まれていた。戦後になって練兵場付近の開発や矢原の採集した考古資料を基に練兵場一帯を旧練兵場遺跡と命名した。旧練兵場遺跡の資料は、昭和31（1956）年に六車恵一により香川県下の弥生土器の集成・編年作業の際に良好な資料として図化されたことで、旧練兵場遺跡が注目される。

旧練兵場遺跡の範囲は西を弘田川によって、東・南を中谷川によって限られた東西約１km、南北約0.4kmの東西に長い範囲で、概ね現在の市営住宅と独立行政法人国立病院機構善通寺病院（旧国立善通寺病院）、四国農業試験場の敷地範囲に相当する。

旧練兵場遺跡関係の発掘調査は、昭和33（1958）年に矢原、尽誠学園教諭大久保義朗によって実施された国立善通寺病院前庭地点が最初で、その後昭和58（1983）年、平成元（1989）年に善通寺市教育委員会が調査主体となり、旧練兵場遺跡の東端に相当する中村廃寺、中央部の仙遊遺跡、西端の彼ノ宗遺跡の発掘調査が行われている。平成６（1994）年以降は香川県教育委員会が、国立善通寺病院内、四国農業試験場内を確認調査し、平成13（2001）～16（2004）年に国立善通寺病院の建替えに伴い大規模な発掘調査を行い、旧練兵場遺跡の詳細が明らかとなった。

今回の弘田川河川改修工事に伴う弘田川西岸遺跡の発掘調査は、旧練兵場遺跡の西端に位置する弘田川の改修工事で、昭和59年度に善通寺市教育委員会が実施した弘田川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査「彼ノ宗遺跡」の延長部分である。

この弘田川河川改修工事は、香川県土木部河川砂防課が善通寺市から多度津町に北流する弘田川について昭和44年から実施し、継続して行っていた。この継続工事のなかで、平成３年に事業地外の水田耕作を可能にするための側溝工事中に土器が出土したとの連絡があり、香川県教育委員会文化行政課職員が立会したところ、竪穴住居跡等が確認されたため、直ちに工事を中止し、その取り扱いについて協議した。その結果、平成３年度は側溝部分（幅２ｍ×長さ230m）のみを事前に発掘調査し、残りの部分については再協議とした。発掘調査の結果、検出した遺構・遺物及びその時期等は旧練兵場遺跡のそれに酷似したが、旧練兵場遺跡が善通寺市仙遊町にあること旧練兵場遺跡に近接するものの弘田川を挟んで西側に位置することから、遺跡名を「弘田川西岸遺跡」とした。

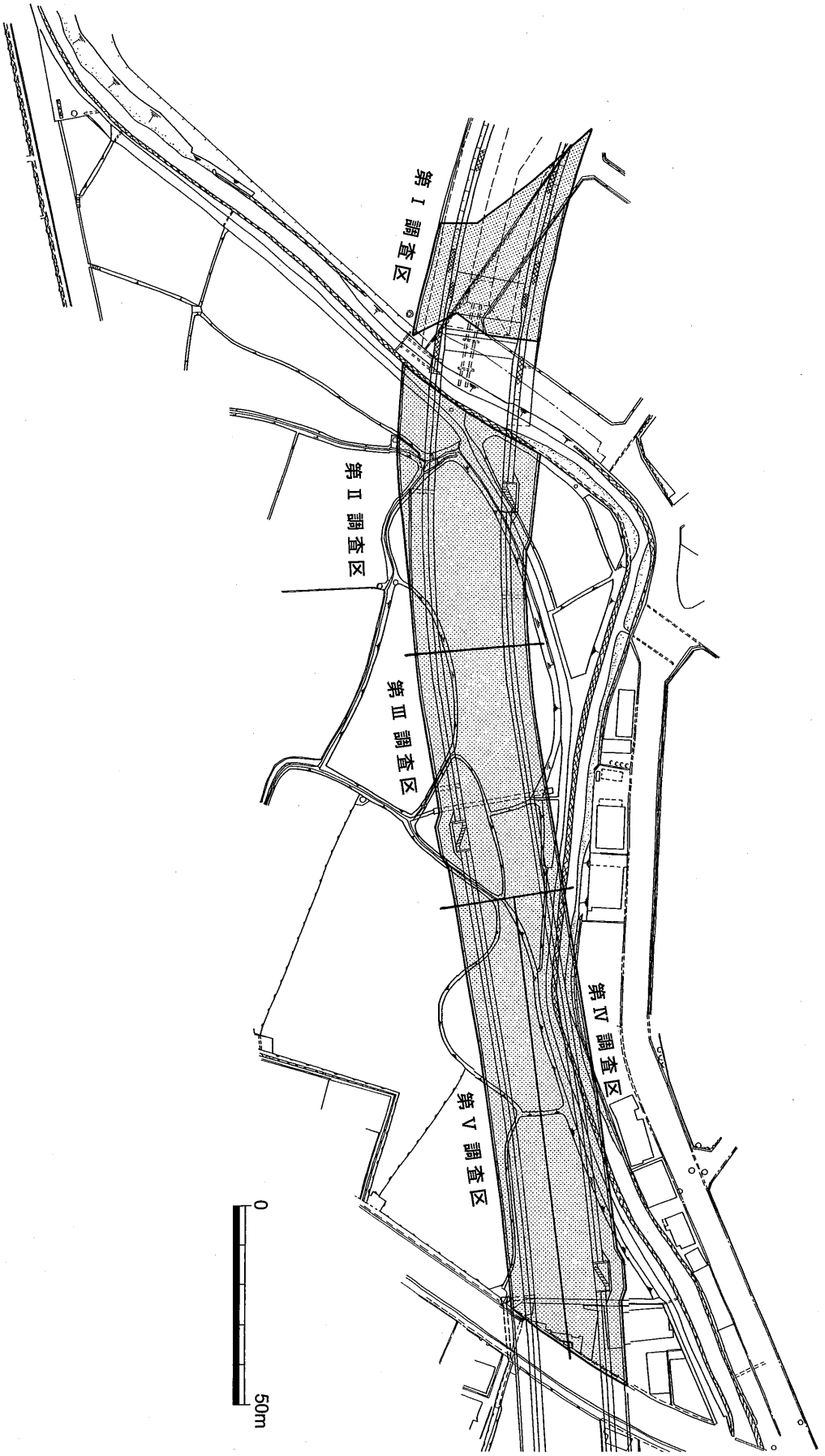
平成６年香川県教育委員会は、平成３年調査の残りの部分について、香川県土木部河川課と協議を行い、工事予定地内の埋蔵文化財について、発掘調査を実施することで合意した。当該地の調査は6,390㎡で、香川県教育委員会は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターと平成７年４月１日付けで「埋蔵文化財調査契約書」を締結した。

参考文献

笹川龍一　1984『中村廃寺発掘調査報告（旧練兵場遺跡内）』善通寺市教育委員会

笹川龍一　1985『彼ノ宗遺跡』善通寺市教育委員会

笹川龍一　1986a『仙遊遺跡発掘調査報告書』善通寺市教育委員会



第１図　発掘調査頭初調査区割図

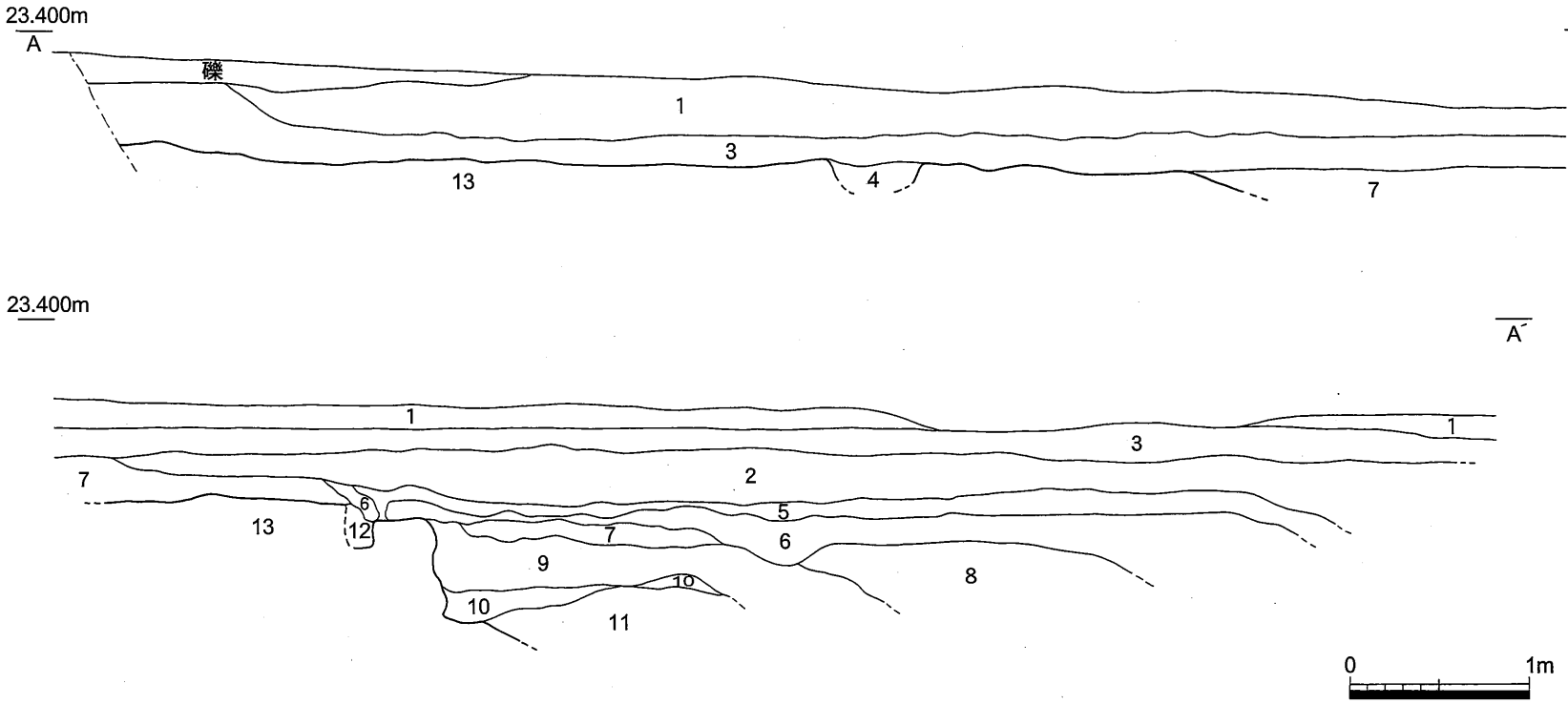
笹川龍一 1986b「彼ノ宗遺跡の発掘調査とその問題点」『香川史学』15香川歴史学会
笹川龍一 1989a『中村廃寺』善通寺市教育委員会
笹川龍一 1989b「古墳時代の竪穴住居跡で確認された廃絶時の祭祀について」『香川史学』18香川歴史学会
笹川龍一 1995「旧練兵場遺跡の研究史」『旧練兵場遺跡シンポジウム』善通寺市教育委員会・(財)元興寺文化財研究所
尽誠学園史学会 1959「国立病院前庭遺跡発掘調査概報」『西讃史誌』1 尽誠学園史学会
西岡達哉 1998『旧練兵場遺跡』香川県教育委員会・(財) 香川県埋蔵文化財調査センター
六車恵一 1956「讃岐弥生式土器聚成図録」『文化財協会報』特別号1 香川県文化財保護協会
六車恵一 1958「石包丁と讃岐の初期農耕」『文化財協会報』特別号3 香川県文化財保護協会
森下英治 1994『旧練兵場遺跡』香川県教育委員会
森下英治 1997『旧練兵場遺跡』Ⅱ 香川県教育委員会
森下英治 1998『旧練兵場遺跡』Ⅲ 香川県教育委員会
西岡達哉 1999「讃岐地方における弥生時代中期集落の機能と構造について」『古代学協会四国支部第13回大会資料 瀬戸内の弥生時代中期集落』古代学協会四国支部
矢原高幸 1973『善通寺市の古代文化』善通寺市
矢原高幸 1977「原始・古代」『善通寺市史』1 善通寺市

第2節 調査の経過

弘田川西岸遺跡は香川県による「弘田川河川改修工事」に先立ち、発掘調査を実施した遺跡である。調査対象地は現在の弘田川を挟んで、北側の部分（善通寺市仙遊町）と南側の部分（善通寺市善通寺町）の大きく二つの地区に分かれている。発掘調査面積は6,390 ㎡で、発掘調査期間は平成7年4月1日～平成8年3月31日であった（第1図)。しかし発掘調査を開始した後、現在の弘田川の北・南の部分の遺構の検出状況及び現在の弘田川南側調査対象地内及び周辺の地形から隣接する現在の弘田川がかなり蛇行していることが予想されたため、予備調査を実施した。予備調査は調査区を横断する方向で、第1～6トレンチを設定し、遺構範囲の確定を行った（第2・3図)。その結果、第1・2トレンチ及び第4～6トレンチで、遺構面とそれを切る自然河川を確認し、第3トレンチでは遺構面がないという状況が判明した。つまり南側調査区内の北側及び東側は旧弘田川によって削平を受け、調査対象地内に遺構面が存在しない部分があることを確認した。そのため調査対象面積を当初の6,390 ㎡から5,231 ㎡に変更し、調査期間も短縮し、平成7年4月1日～同年11月30日の8ヶ月とした。

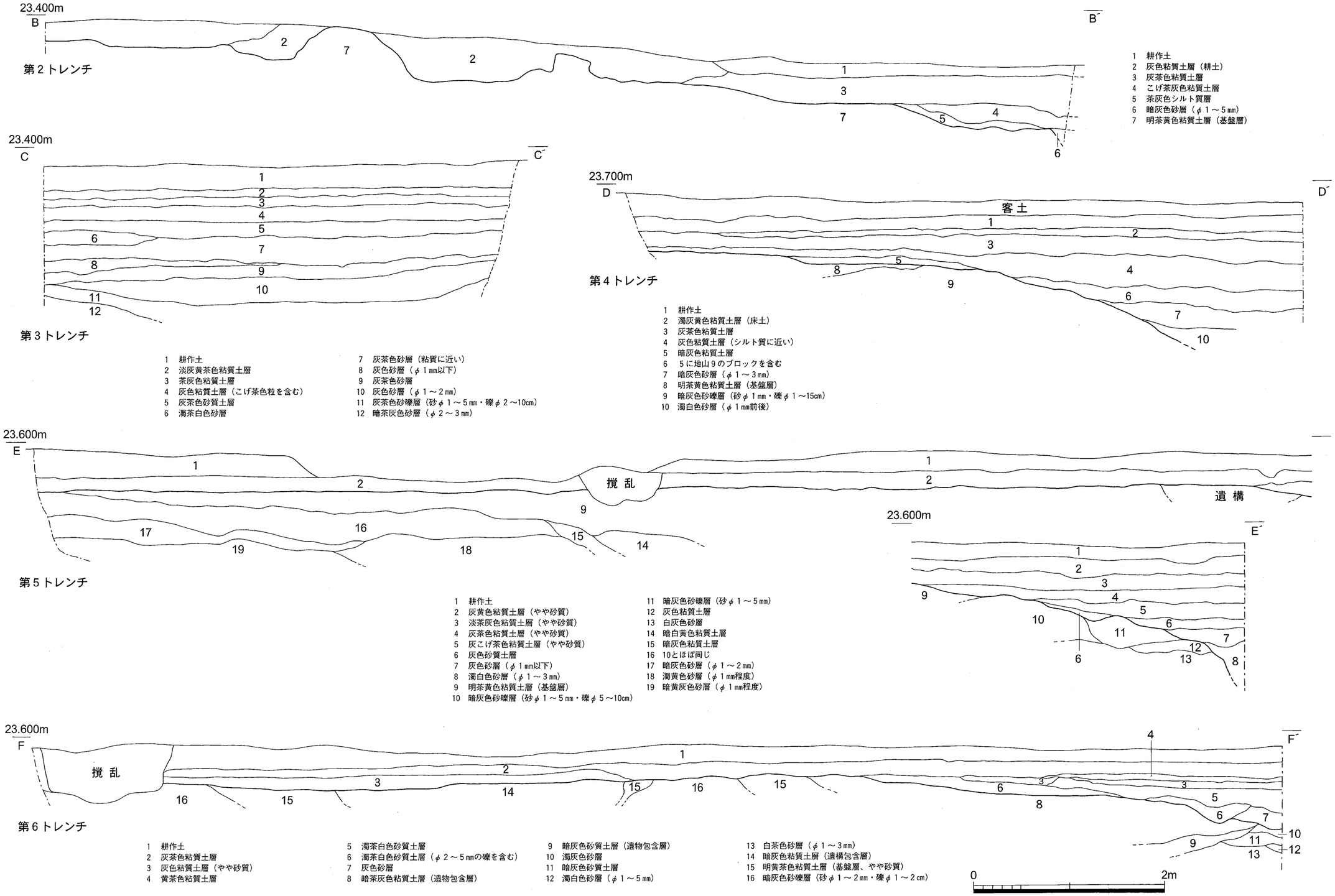
当初、調査区を北より第Ⅰ～Ⅴ調査区と呼称し、発掘調査を開始した（第1図)。現在の弘田川より北側を第Ⅰ調査区、南側を第Ⅱ～Ⅴ調査区とし、第Ⅰ・Ⅱ調査区から発掘調査を開始したが、予備調査で、調査地区及び面積を変更するとともに調査区の呼称を第Ⅰ～Ⅳ調査区と変更した（第4図)。

発掘調査は直営方式で、グリッドは設定せず、調査区ごとに調査を進めていった。



1　耕作土
2　暗茶灰色粘質土層
3　こげ茶灰色粘質土層（シルト質に近い）
4　灰色粘質土層（溝埋土）
5　4にφ1～7㎜の砂粒を含む
6　こげ茶灰色シルト層
7　暗こげ茶灰色粘質土層
8　こげ茶灰色砂層
9　こげ茶灰色粘質土層
10　灰色シルト層
11　暗茶色砂礫層（砂φ1～2㎜・礫φ2～10㎝）
12　13と暗灰色粘質土層の混じった土層
13　暗茶黄色粘質土層（基盤層）

第2図　第1トレンチ土層実測図



第3図　第2～第6トレンチ土層実測図

発掘調査体制は下記のとおりである。

平成７年度

文化行政課

総括	課長	高木　尚
	課長補佐	高木　一義
総務	係長	山崎　隆
	主査	星加　宏明
	主事	高倉　秀子
埋蔵文化財	副主幹	渡部　明夫
	主任技師	森下　英治
	技師	塩崎　誠司

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	大森　忠彦
	次長	真鍋　隆幸
総務	参事（土木）	別枝　義昭
	係長	前田　和也
	主査	西村　厚二
調査	文化財専門員	谷畑　雅稔
	文化財専門員	片桐　孝浩
	参事	糸目　末夫
	調査技術員	高橋佳緒里

整理作業は平成18年５月１日より開始し、平成19年３月31日に終了した。

調査区の呼称は、発掘調査当初北より第Ⅰ～Ⅳ調査区としていたが、整理作業の段階で弘田川の旧流路によって区切られた調査区を一つの纏まりとして、現在の弘田川より北側を第Ⅰ調査区、南側を第Ⅱ・Ⅲ調査区とした。つまり第Ⅱ・Ⅲ調査区を第Ⅱ調査区、第Ⅳ調査区を第Ⅲ調査区と変更した（第４図）。

整理作業体制は下記のとおりである。

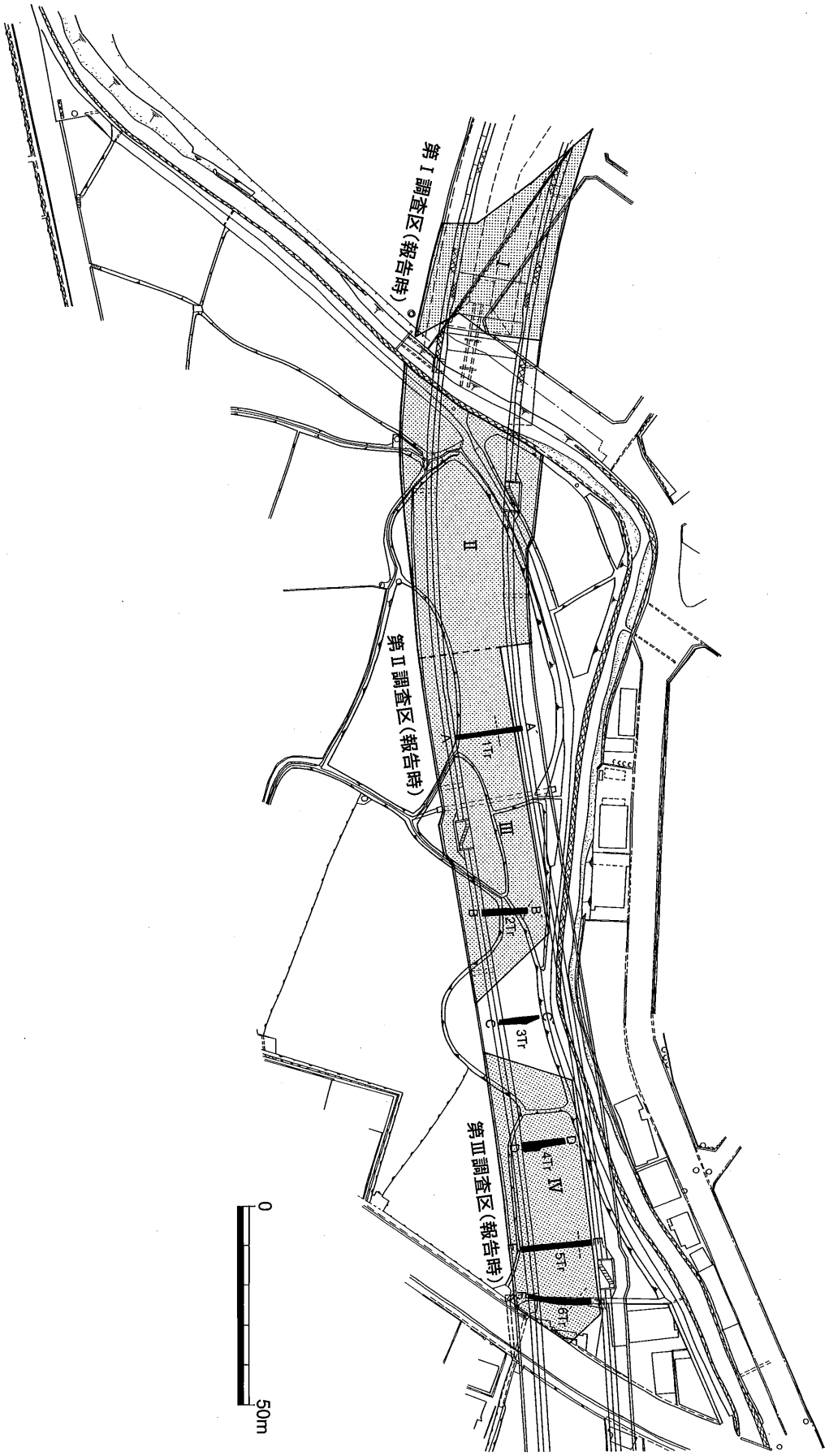
平成18年度

文化行政課

総括	課長	三谷　雄治
	副主幹	河内　一裕
総務	副主幹	谷　主昌
	主事	脇　悠介
埋蔵文化財	課長補佐	藤好　史郎
	文化財専門員	山下　平重
	文化財専門員	信里　芳紀

香川県埋蔵文化財センター

総括	所長	渡部　明夫
	次長	榊原　正人
総務課	課長	野口　孝一
	主任	嶋田　和司
	主任	田中　千晶
資料普及課	課長	廣瀬　常雄
	主任文化財専門員	片桐　孝浩
	整理作業員	池内　妙子
		加藤　恵子
		北濱　敦子
		木下　祐美
		高島　千春
		米田　静恵

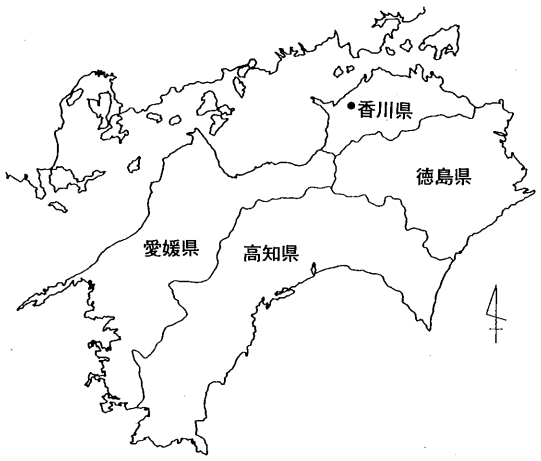


第 4 図　発掘調査区割図，報告時調査区割図

第２章　立地と環境

第１節　地理的環境

弘田川西岸遺跡が所在する香川県善通寺市は、香川県を西から西讃・中讃・東讃に区分すると中讃にあり、その中讃地域の西部で、やや内陸部に位置する。現在の行政区分では、北は仲多度郡多度津町、東は丸亀市及び仲多度郡まんのう町・琴平町、南は三豊市高瀬町、西は国道11号線が通る鳥坂峠を境に三豊市三野町と境を接している。南部に大麻山(616.3m)、南西部に我拝師山(481.2m)、北西部に天霧山（360.4m）があり、北部から東部にかけて平坦な地形が広がる。この平坦地は、ちょうど香川県一の面積を持つ丸亀平野の南西部に位置している。



第５図　遺跡位置図

この丸亀平野は阿讃山脈を水源とする土器川・金倉川と、三豊平野と丸亀平野の境にある大麻山山塊を水源とする弘田川の沖積作用よって形成された沖積平野で、北に向かって緩やかに傾斜する。善通寺市の平野東部には金倉川が北流し、西部には弘田川が北流し、瀬戸内海に注ぎ込む。地盤は土地条件図でみると、川による緩扇状地・谷底平野・氾濫平野となっている。弘田川西岸遺跡が所在する善通寺市仙遊町・善通寺町付近は、ちょうど現在の弘田川を境に西は谷底平野・氾濫平野で、東は緩扇状地とされている。

第２節　歴史的環境

弘田川西岸遺跡が位置する丸亀平野西部、特に金倉川以西は、歴史的に見ると、弥生時代以降の基盤層である黄色系粘質土（シルト）を境として、基盤層上面に生活が営まれる時代と基盤層形成時及び形成以前に生活が営まれる時代とに明確に分かれる。この黄色系粘質土（基盤層）より下位では、善通寺市永井遺跡で縄文時代後期の河川が確認され、多量の土器・石器・自然遺物が出土している。また、旧練兵場遺跡の調査資料中に縄文時代後期以降の土器が出土しており、弘田川流域の基盤層の形成年代が、縄文時代後期頃あるいはそれ以後に形成された可能性が考えられる。

弘田川流域で弥生時代以前の遺物は出土するものの竪穴住居等の明確な遺構は検出していないのが現状である。しかし、永井遺跡の河川下部から長さ19.6mの範囲で、打ち込まれた杭を14本検出していることや堅果類を加工するための磨石などが出土していることから、近接して縄文時代の集落があった可能性が考えられる。

弥生時代になると前期～中期初頭では金倉川流域の東の地域で龍川四条遺跡や龍川五条遺跡、中の池遺跡、平池南遺跡を確認しており、弘田川流域では甲山北遺跡や三井遺跡を確認している。弥生時代前期の遺跡は全て、河川の流域に沿うという立地が共通している。弥生時代中期の凹線文が盛行する中期後半まで継続する遺跡は、平野内にほとんど認められず、矢ノ塚遺跡や月信遺跡、吉原火上山遺跡など丘陵裾や丘陵斜面に立地する遺跡が多く認められる。前期段階で盛行した金倉川流域や弘田川流域の遺跡もこの段階の遺構は確認されておらず、集落が途切れることがわかる。弥

生時代後期になると旧練兵場遺跡や稲木遺跡、九頭神遺跡、彼ノ宗遺跡、弘田川西岸遺跡が盛行する。

この中でも旧練兵場遺跡は特異で、弥生時代前期から集落が形成され、その他の河川流域の集落が途切れる段階でも継続しており、連綿と集落が営まれていたことが窺える。

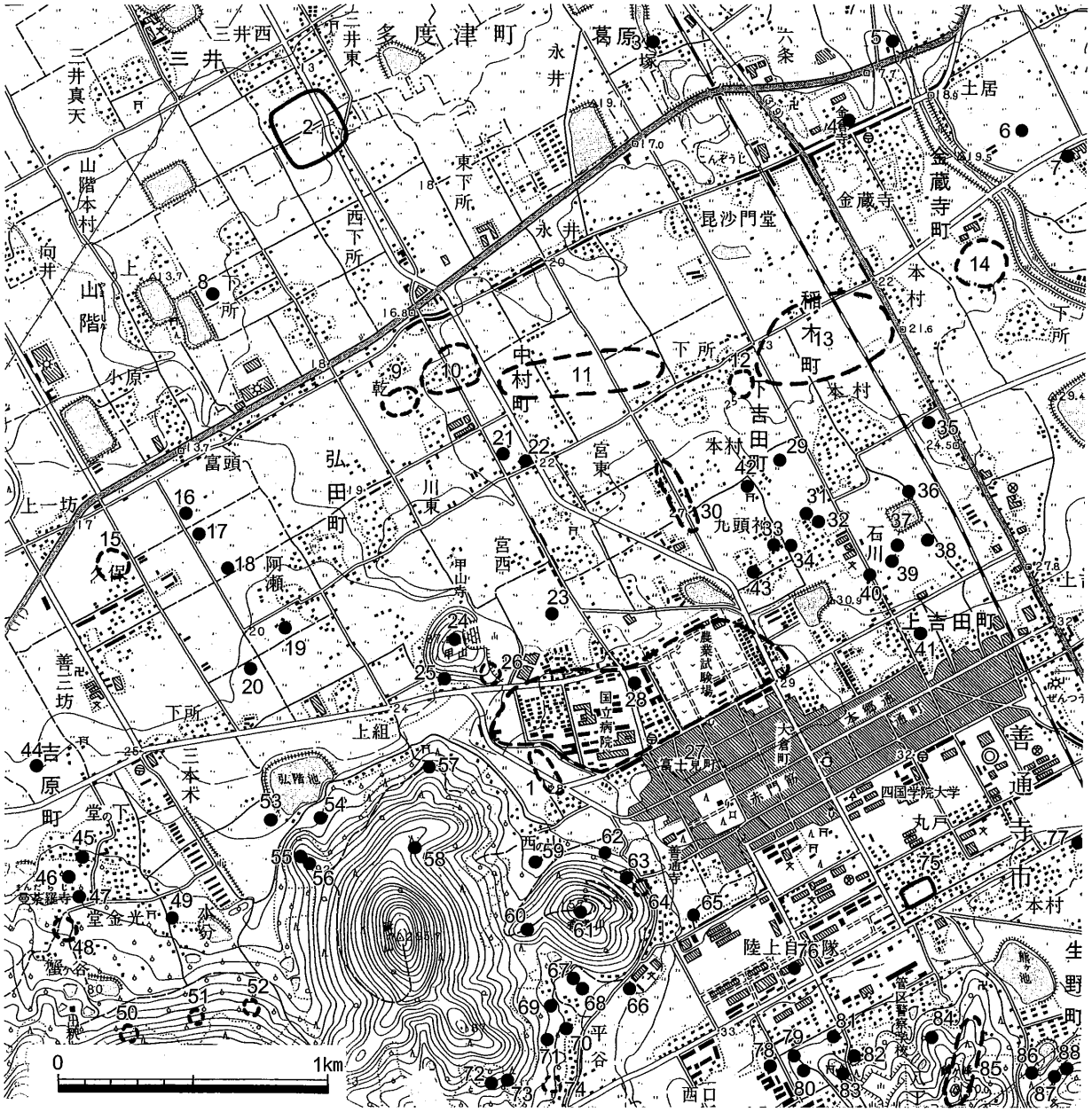
旧練兵場遺跡は森下が詳細に検討している（森下2006)。それによると微地形的に３～４本の埋没小河川に分断された５～６の微高地から構成され、西から、当遺跡の第Ⅱ・Ⅲ調査区が所在する弘田川西岸地区、彼ノ宗遺跡が所在する彼ノ宗地区、善通寺病院地区、仙遊遺跡が所在する仙遊地区、試験場地区としている。特に香川県教育委員会により平成13年から本格的に発掘調査を実施している善通寺病院地区は、南北約400m、東西約150mの広がりを持ち、中期中葉から終末期までの竪穴住居跡209棟、掘立柱建物跡75棟、櫓状建物３棟、布掘建物４棟、貯蔵穴、土器棺墓、井戸をなど検出している。概ね同規模の微高地５地区からなる旧練兵場遺跡は香川県内最大級の集落跡であることがわかる。

古墳時代の前半期の集落の調査例はあまりないが、後半期になると稲木遺跡や旧練兵場遺跡（中村廃寺遺跡）で、竈付きの方形竪穴住居跡が検出されており、西から東方向への集落の移動を窺わせる。一方墳墓は丸山古墳、大麻山経塚、大麻山椀貸塚などの積石塚や、全長35～40m程度の後円部を積み石、前方部を盛り土で成形した野田ノ院古墳が造られ、小規模分散的な前方後円墳の分布状況が認められる。古墳時代中期では生野鑵子塚古墳や青龍古墳などの大型円墳が主体を占め、前方後円墳はほとんど造られなくなる。しかし前方後円墳の系譜は、中期段階で磨臼山古墳、後期前半代で王墓山古墳、菊塚古墳へと継続される。古墳時代後期になると石室内部に線刻の認められる宮が尾古墳や群集墳の岡古墳群が確認されている。

古代の善通寺市は「和名抄」に載る古代郷のうち、那珂郡金倉郷と多度郡生野・良田・吉原・弘田・中村の五郷が市域に比定される。大化前代多度郡で勢力を保っていた氏族は佐伯氏、那珂郡では和気氏で、佐伯氏は国造であり、後の空海は佐伯氏の一族である。佐伯氏の氏寺は白鳳から奈良時代前期に創建された善通寺で、現在丸亀平野に残る条里地割に合致した寺域である。また、市街地には以下の生野本町遺跡で、７世紀末～８世紀初頭の掘立柱建物跡と考えられる柱穴列を検出しており、官衙的性格の遺跡と考えられている。またその他にも金蔵寺下所遺跡、稲木北遺跡なども官衙的性格を有する遺跡として注目できる。

参考文献・引用文献

森下英治 2006「瀬戸内の大規模密集型集落－香川県旧練兵場遺跡と周辺遺跡」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会2006年度愛媛大会実行委員会



1	弘田川西岸遺跡	23	大平墓	45	四つ塚古墳	67	地神さん
2	三井遺跡	24	甲山城跡	46	地蔵塚古墳	68	吉田八幡古墳
3	中山古墳	25	甲山西シスト群	47	由記明神社遺跡	69	平谷シスト１号墳
4	金倉廃寺	26	甲山遺跡	48	曼荼羅寺南遺跡	70	平谷シスト２号墳
5	仏名廃寺	27	旧練兵場遺跡	49	曼荼羅寺古墳	71	平谷シスト３号墳
6	五社はん	28	遊塚	50	我拝師山遺跡Ｂ	72	勧智院山２号墳
7	五条荒神	29	どうらん塚遺跡	51	我拝師山遺跡Ｃ	73	勧智院山１号墳
8	コートはん	30	九頭神遺跡	52	我拝師山遺跡Ａ	74	カンチンバエ遺跡
9	乾遺跡	31	五社はん	53	お塚さん	75	生野本町遺跡
10	中村遺跡	32	石川古墳	54	筆の山古墳	76	藤の森古墳
11	永井遺跡	33	吉田八幡古墳	55	東山１号墳	77	遊塚
12	石川遺跡２号	34	みこし休め	56	東山２号墳	78	伏見かんす塚
13	稲木遺跡	35	おふく塚	57	朝比奈古墳	79	平塚
14	金蔵寺下所遺跡	36	三八荒神	58	筆の山かんす塚	80	杵塚
15	上一坊遺跡	37	塚之内塚	59	西山古墳	81	北向前方後円墳陪塚４号
16	鬼塚	38	あぶみ塚	60	香色山１号墳	82	北向前方後円墳陪塚３号
17	いか塚	39	つんつん塚	61	香色山遺跡	83	北向前方後円墳陪塚２号
18	多度郡条里「四ノ坪」	40	善光塚	62	山下古墳	84	どん山古墳
19	隠居屋敷	41	王塚	63	佐伯八幡山窯跡	85	鶴ヶ峰古墳群
20	うめ塚	42	本村東古墳	64	佐伯八幡遺跡	86	行人塚
21	やまし塚	43	吉田廃寺跡	65	ホトギ塚	87	遠藤塚
22	佐伯行道の墓	44	鷺井神社古墳	66	大塚	88	遠藤塚の陪塚

第６図　周辺遺跡位置図

第３章　調査の成果

第１節　周辺の旧地形復元

丸亀平野南西部にある善通寺市域の旧地形復元は、森下が旧練兵場跡を詳細に検討した中で、埋没河川の復元や微高地の推定を行っている（森下2006）。その中で当遺跡は、森下が分類した弘田川西岸地区に当たり、旧練兵場遺跡群の一部であるとしている。

ここでは森下の復元を参考に、再度この弘田川西岸地区の微高地を周辺の地形から詳細に見てみたい。現在の弘田川は大麻山山塊に源を発し、我拝師山との間にある大池を介しながら善通寺市街地に流路を取り、香色山の裾を回り、北流する。更にこの流路は善通寺の寺域の北から蛇行し、甲山の東を回り北上する。当遺跡の東側・北側で、その蛇行が顕著に認められ、特に北西部、五岳橋付近では極端な孤を描き、甲山の東側へと流路を取る。次に地形図から土地区画のみだれや土地の高低差を見ることで、旧地形、特に弘田川の旧流路を推定し、埋没河川と微高地を区分したい。微高地は、県道善通寺・詫間線と善通寺から伸びる市道とが合流する部分を中心に確認され、埋没河川は微高地を取り巻くように推定できる。埋没河川①は現在の弘田川の旧流路と考えられ、ちょうど善通寺を越えたあたりで、微高地の左右に分かれ、左流路は推定微高地南西側、香色山の北裾から筆の山の東裾、甲山の東裾で現在の弘田川の流路となり、右流路は概ね現在の弘田川と同じ位置を北流する。更にこの流路には善通寺北側付近にある埋没河川②善通寺・詫間線の富士見橋あたりで合流し、北流するようである。したがってこれらの埋没河川（旧流路）によって囲まれた部分が弘田川西岸地区で、規模は長軸約330m、短軸約170mを測る楕円形状を呈する微高地が推定できる（第７図）。これらの旧流路が推定できることで、調査区北西部、五岳橋付近の極端な蛇行が、本来微高地の南西側を北流する旧流路の延長とするとスムーズに理解できる。

参考文献・引用文献

森下英治 2006「瀬戸内の大規模密集型集落－香川県旧練兵場遺跡と周辺遺跡」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会2006年愛媛大会実行委員会

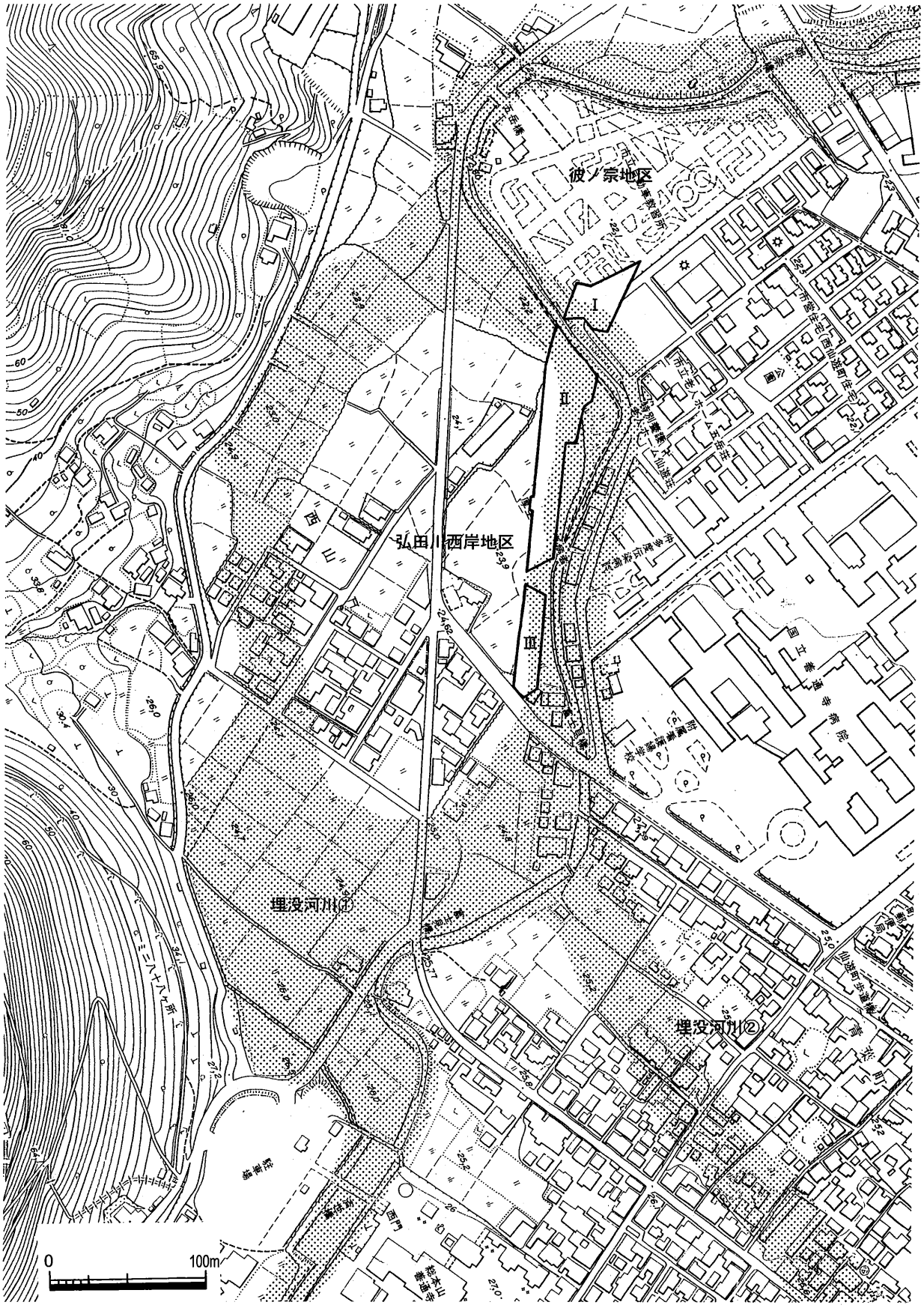
第２節　調査成果の概要

弘田川西岸遺跡は善通寺市仙遊町と善通寺町に所在し現在の弘田川とその旧流路によって、調査区は３つに区分できる。その区部されたそれぞれの調査区を北から第Ⅰ・第Ⅱ・第Ⅲ調査区と呼称する。第Ⅰ調査区は善通寺市仙遊町で、現在の弘田川の北岸に、第Ⅱ・Ⅲ調査区は善通寺市善通寺町で、現在の弘田川の南岸と西岸に位置する。

弘田川西岸遺跡も旧練兵場遺跡群の一部と森下が指摘しているように、発掘調査の結果、旧練兵場遺跡群と同時期の遺構を検出していることからも裏付けられたこととなる。

検出した遺構は、掘立柱建物跡15棟、竪穴住居跡62棟、墓跡4基、土坑22基、溝7条、自然河川5条、柱穴2,095基である。ほとんどが第Ⅰ・Ⅱ調査区で検出しており、特に第Ⅰ調査区東部では柱穴の検出密度が、第Ⅱ調査区北部では竪穴住居跡がかなり切りあう状態で検出しており、遺構密度が高い地区である。

次節から遺構・遺物について、それぞれの調査区の遺構・遺物ごとに説明する。なお説明は時期ごとには行っていない。



第７図　周辺旧地形復元図

第３節　遺構・遺物について

第Ⅰ調査区

第Ⅰ調査区は南北に長い弘田川西岸遺跡調査対象範囲の北端に位置し、この調査区のみ善通寺市仙遊町に所在する。また、南に位置する第Ⅱ調査区とは現在の弘田川によって分断されており、その弘田川の北側に位置している。この位置は、森下（森下2000）の旧練兵場遺跡の地形区分では西微高地４（森下2006では彼ノ宗地区）に当たり、昭和59年に発掘調査が行われた彼ノ宗遺跡に隣接する。今回の発掘調査の結果、彼ノ宗遺跡で検出した遺構との継続が確認でき、第Ⅰ調査区は広義の旧練兵場遺跡群、狭義の彼ノ宗遺跡の一部であることがわかった。

遺構面は現地表下約45～50cmで検出している。遺構面を形成する基盤層は淡茶黄色粘質土で、若干色調は変わるものの、調査区全面で確認できる。かなり安定した基盤層で、第52図で見ると、基盤層上位に遺物を少量包含する堆積土が３層確認でき、第52図第２層が暗灰褐色粘質土、第３層が暗茶黒灰色粘質土、第４層が暗灰茶色粘質土である。

遺構の検出は、第Ⅰ調査区で検出した遺構に時期幅があることから、それぞれの堆積土上面で、遺構面があった可能性も考えられるが、遺構内堆積土が、堆積土第２～４層と酷似していることから、それぞれの遺構面での検出を断念し、基盤層上面での検出とした。

第Ⅰ調査区では、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、墓跡（土器棺墓・土壙墓）、溝跡、土坑跡、柱穴跡、自然流路跡を検出している。

参考文献・引用文献

森下英治　2000「旧練兵場遺跡の集落構造」『旧練兵場遺跡シンポジウム』善通寺市教育委員会・(財)元興寺文化財研究所

森下英治　2006「瀬戸内の大規模密集型集落－香川県旧練兵場遺跡と周辺遺跡」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会2006年度愛媛大会実行委員会

１．掘立柱建物跡

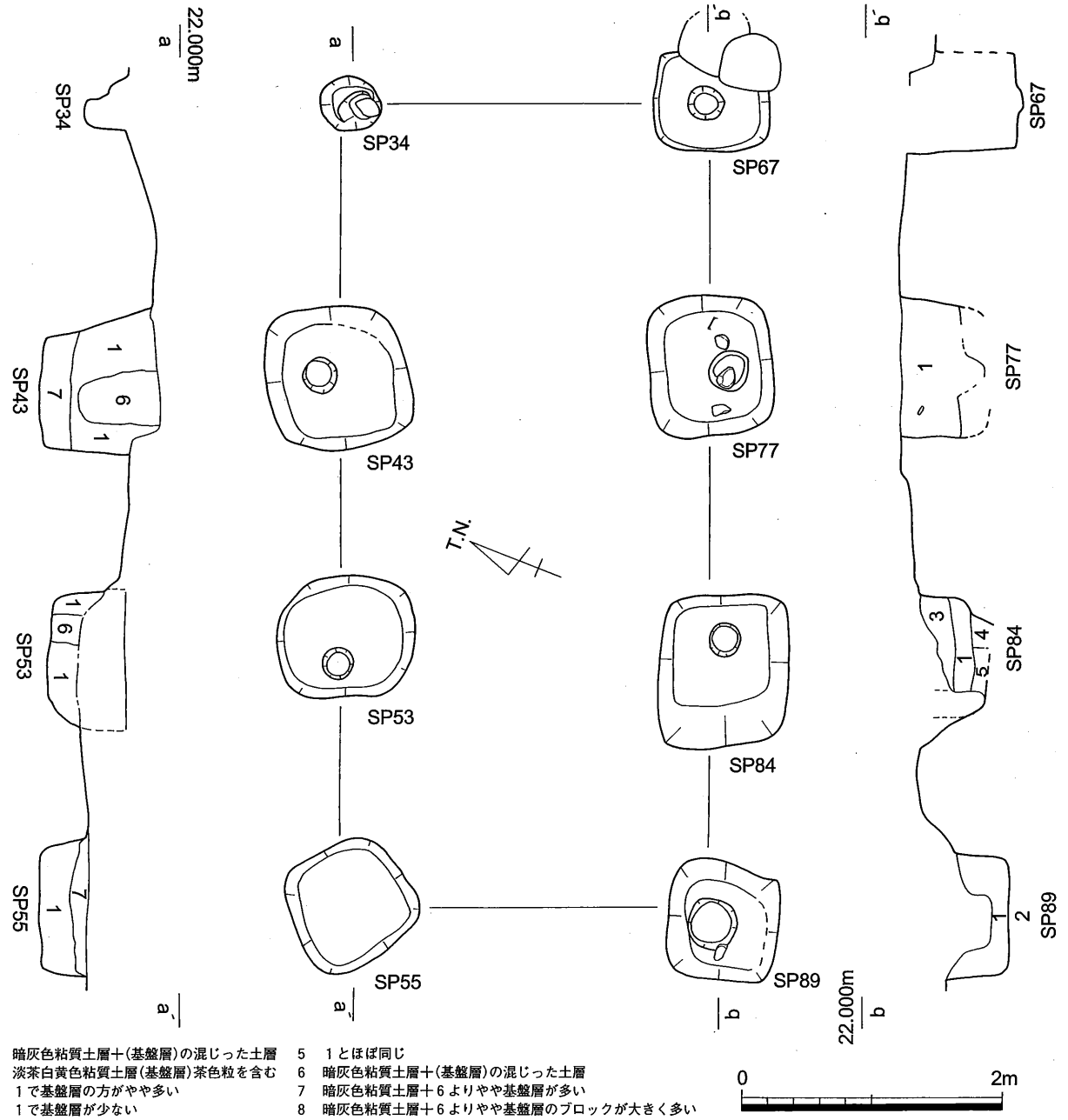
第Ⅰ調査区で検出した柱穴は総数1019基、これらは調査区全域、特に北側で濃密に確認しているが、後述する７棟以外に掘立柱建物を構成するまでには至っていない。

ＳＢ01

ＳＢ01は第Ⅰ調査区北部、標高約21.72ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行３間で、2.81×6.14ｍ、床面積約17.3㎡を測る。構成する柱穴は全て隅丸方形を呈し、一辺の長さ75～115cmと大振りで、検出面からは約90cmと深く、しっかりした掘り方を持つ。ほとんどの柱穴には柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径24～28cmを測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から22.0°西を取る。

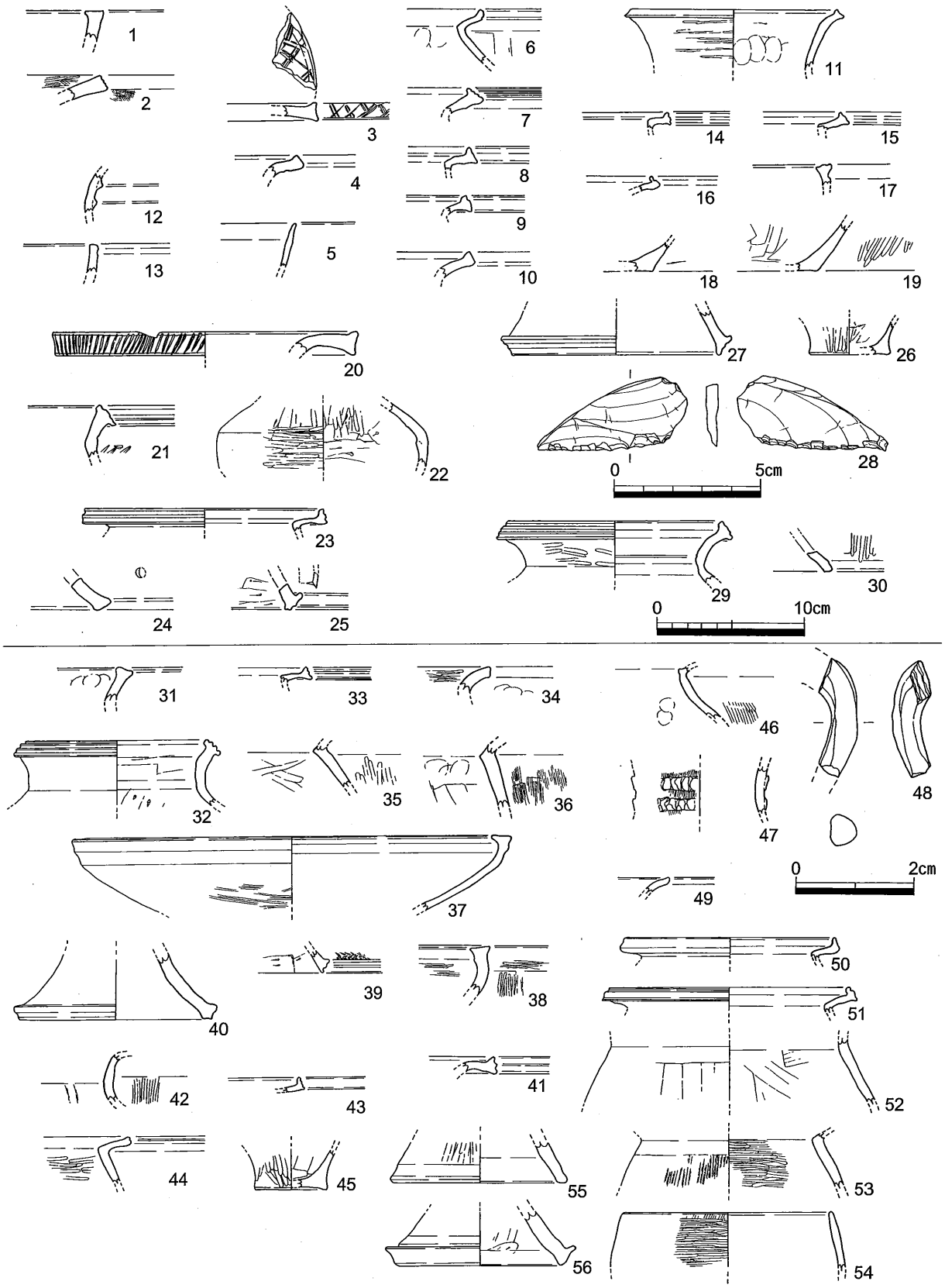
柱穴の堆積土は基盤層である淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土で、それぞれの堆積土は基盤層のブロックの多少で分けられる。柱痕は他の土層に比べると、暗灰色粘質土への基盤層の混入が少ない。

それぞれの柱穴から弥生土器、鉄製品、サヌカイトが出土している。１・２はＳＰ34出土の遺物である。１は台付き鉢の口縁部、２は器台の口縁部である。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。３～11はＳＰ43出土の遺物である。３～５は壺で、口縁部外面に



第8図　SB01平・断面図

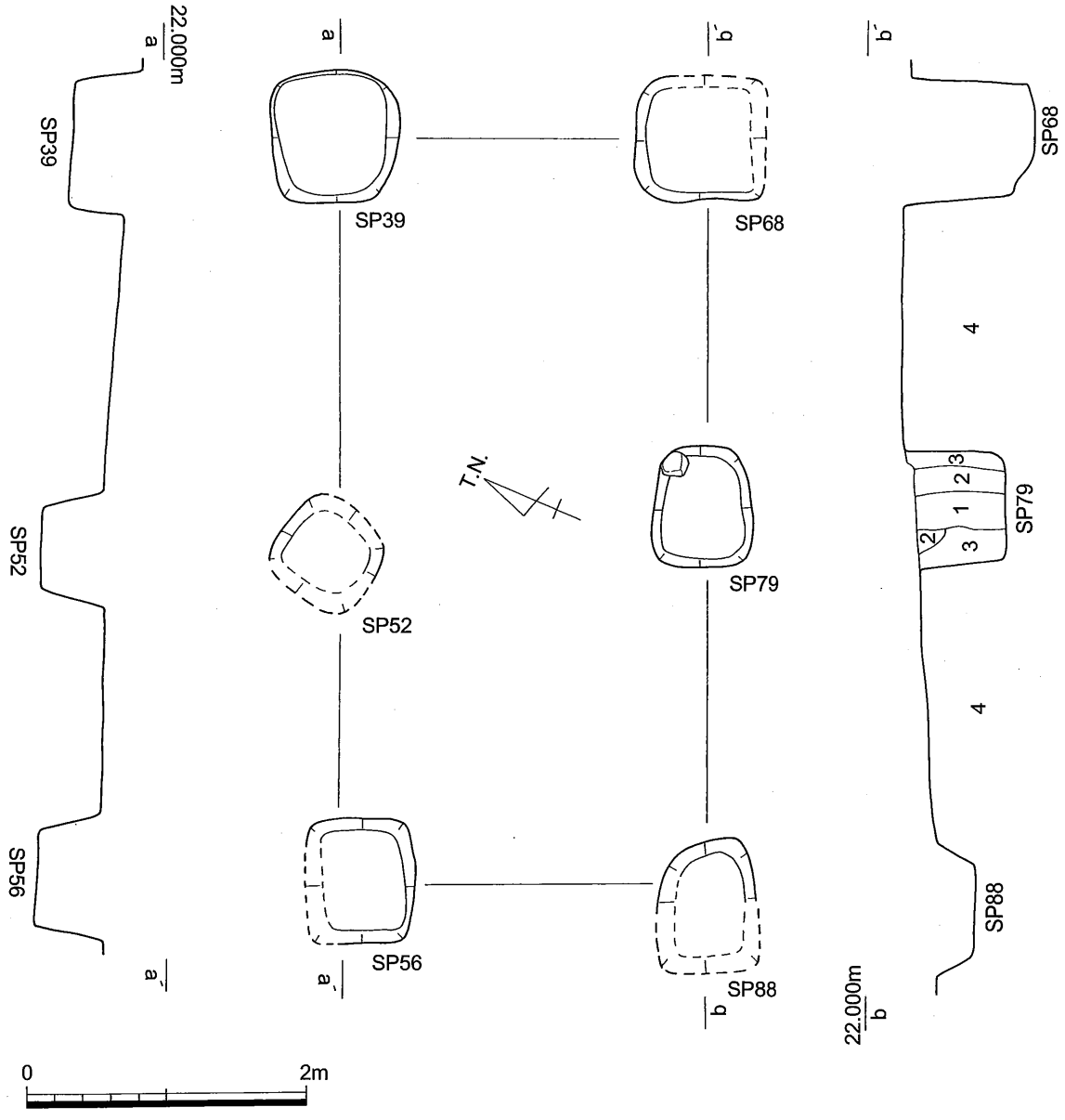
ヘラ先による斜格子文が施されている。5は細頸壺の口縁部で、直前的に外上方に延びる。6～10は甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に2～3条の沈線を持つ。11は頸部から口縁部にかけて朝顔形に広がる壺で、端部を左右に僅かに摘み出す。この柱穴からは壺・甕の破片が出土している。12・13はＳＰ53出土の遺物である。12は壺で、頸部外面に2条の、断面三角形の突帯を巡らす。13は鉢の口縁部である。この柱穴からは壺・甕・鉢の破片、サヌカイト剥片が出土している。甕体部の内面には、ヘラ削り・指ナデが、外面には板ナデが施されている。14～19はＳＰ55から出土した遺物である。14～16は甕で、口縁端部を拡張し、2条の沈線を施す。17は高坏の口縁部で、端部上面に退化凹線が認められる。この柱穴からは壺の破片、鉄小片、サヌカイト剥片が出土している。20～25はＳＰ67出土の遺物である。20～22は壺で、端部を拡張し、退化凹線やヘラ先による刻み目



第9図　SB01・02出土遺物実測図

が施されている。22は細頸壺の体部である。23は甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に2条の沈線を持つ。24は器台の脚で、円形の透かしが認められる。25は高坏の脚で、端部を拡張し、退化凹線を持つ。方形の透かしがある。この柱穴からはサヌカイト剥片が出土している。26～28はＳＰ77出土遺物である。28はサヌカイト製のスクレイパーである。この柱穴からは壺・甕の破片が出土している。29・30はＳＰ89出土の遺物である。29は壺で、頸部が外反しながら延び、口縁端部を上下に拡張し、外面に3条の沈線を持つ。この柱穴からは甕の破片が出土している。

時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。



1　暗灰色粘質土層十（基盤層）の混じった土層
2　暗灰色粘質土層十1よりやや基盤層が多い
3　暗灰色粘質土層十1より基盤層のブロックが大きく多い
4　淡茶白黄色粘質土層（基盤層）茶色粒を含む

第10図　SB02平・断面図

ＳＢ02

ＳＢ02は第Ⅰ調査区北部、標高約21.73ｍで検出した掘立柱建物跡である。ちょうどＳＢ01と重なっており、柱穴ＳＰ53とＳＰ52、ＳＰ55とＳＰ56、ＳＰ67とＳＰ68の切りあい関係から掘立柱建物跡ＳＢ01より古いことがわかる。規模は、梁間１間×桁行２間で、2.62×5.33ｍ、床面積約14.0㎡を測る。構成する柱穴は全て隅丸方形を呈し、一辺の長さ87～95㎝と大振りで、検出面からは50～93㎝と深く、しっかりした掘り方を持つ。柱穴ＳＰ79には柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径約25㎝を測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から23.0°西を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土で、それぞれの堆積土は基盤層のブロックの多少で分けられる。柱痕は他の土層に比べると基盤層の混入が少ない。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。31～40はＳＰ39出土の遺物である。31・32は壺で、頸部が緩やかに外反し、口縁端部は上下に拡張し、外面に３条の沈線を持つ。33～36は甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に沈線を持つ。頸部屈曲部内面は明瞭な稜を持つ。37～40は台付き鉢あるいは高坏である。39は高坏の脚端部で、外面に綾杉状の文様が施されている。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。41はＳＰ52出土の遺物である。甕の口縁部で、上下に拡張し、外面に２条の沈線を持つ。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。42～45はＳＰ56から出土した遺物である。42は壺の頸部、43～45は甕で、口縁端部を上方に拡張するものと短く摘み出すものがある。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。46～48はＳＰ68出土の遺物である。46は甕、47は壺である。48は骨製の装身具と思われる。表面はかなり研磨し、上端側面には切り目が確認できる。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。49～56はＳＰ79出土遺物である。49～53は甕で、口縁端部をそのまま終わらせるものと上方に拡張し、外面に沈線を持つものがある。54は坏部が鉢状を呈する高坏、55・56は高坏の脚あるいは台付き鉢の脚部である。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。

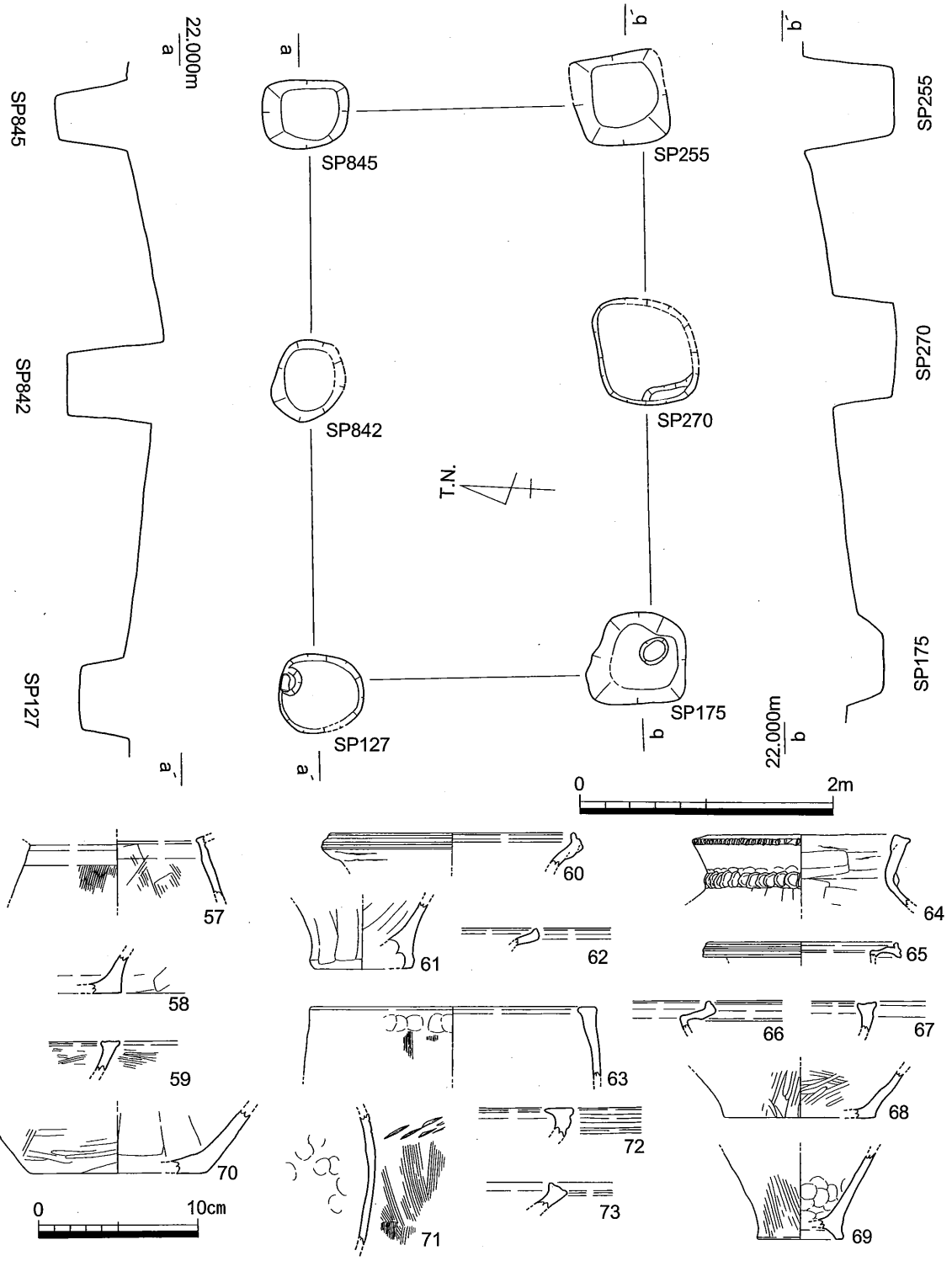
時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ03

ＳＢ03は第Ⅰ調査区北部、標高約21.85ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行２間で、2.63×4.51ｍ、床面積は約11.9㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形や歪な円形を呈し、隅丸方形のものは一辺の長さ53～85㎝で、検出面からは60～80㎝と深く、しっかりした掘り方を持ち、歪な円形のものは直径約65㎝、検出面からの深さは約75㎝を測る。４つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径約25㎝を測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から3.5°西を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。57～59はＳＰ226出土の遺物である。57は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。59は鉢あるいは高坏の口縁部である。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片が出土している。60～63はＳＰ127出土の遺物である。60は壺の口縁部で、端部を上方に拡張し、外面にかなり退化した沈線を持つ。62は甕の口縁部で、端部を上方に摘み出す。63は無頸壺の口縁部である。この柱穴からは壺・高坏の破片、サヌカイト剥

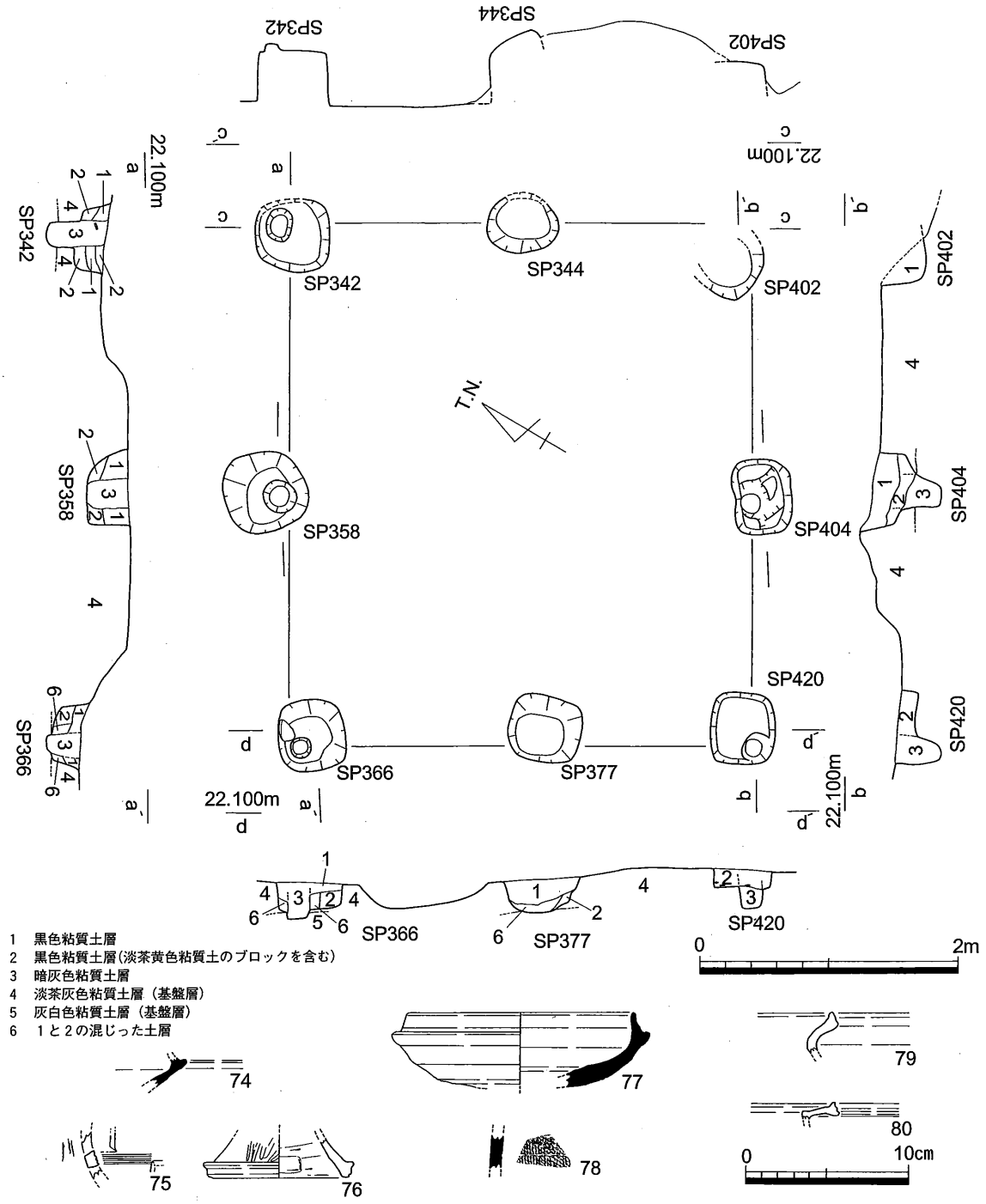


第11図　SB03平・断面図，出土遺物実測図

片が出土している。64～69はＳＰ255出土の遺物である。64は壺で、頸部外面に指先による刺突文を持つ突帯を巡らす。65・66は甕で、口縁端部を上方に拡張し、65は外面に２条の沈線を持つ。67は高坏の口縁部である。68・69は底部で、しっかりした平底を持つ。この柱穴からはサヌカイト剥片が出土している。70はＳＰ276から出土した遺物である。この柱穴からは壺・甕の破片が出土している。71～73はＳＰ175出土の遺物である。71は甕の体部で、体部最大径部分の外面にヘラ先による斜めの刻み目、下半に８本／１cmの刷毛目が施されている。72は高坏の口縁部で、端部を左右

に拡張し、口縁部外面には２条の凹線を施す。73は器台の口縁部である。この柱穴からは壺の破片なども出土している。またＳＰ222からは甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。

時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。



第12図　SB04平・断面図，出土遺物実測図

ＳＢ04

ＳＢ04は第Ｉ調査区中央部、標高約21.98ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間２間×桁行２間で、3.52×3.97ｍ、床面積は約14.0㎡を測る。構成する柱穴は歪な隅丸方形を呈し、一辺の長さ50～59㎝で、検出面からは45～65㎝と深く、しっかりした掘り方を持つ。５つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径17～25㎝を測る。建物は東西棟で、北西－南東方向（短軸）は真北から31.5°西を取る。

柱穴の堆積土は黒色粘質土で、下位層には基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを含む黒色粘質土が堆積する。柱痕は暗灰色粘質土で、堆積土と若干の差が認められる。

それぞれの柱穴から須恵器、弥生土器、サヌカイトが出土している。74はＳＰ342出土の遺物で、須恵器坏身である。柱穴からは弥生土器片が出土している。75・76はＳＰ366出土の弥生土器高坏の脚部で、２は脚部に２段、方形の透かしが認められる。柱穴からは須恵器甕の破片が出土している。77・78はＳＰ377出土の遺物である。77は須恵器坏身で、立ち上がりが短く、内傾しながら延びる。陶邑編年（田辺1981）で、ＴＫ43型式に対応する。78は陶質土器である。外面に縄蓆文ののちヘラ先による沈線が施されている。柱穴からは須恵器甕の破片が出土している。79はＳＰ404から出土した弥生土器甕で、口縁端部を上方に摘み上げる。この柱穴からは壺・甕・高坏・鉢の破片、サヌカイト剥片が出土している。80はＳＰ420出土の弥生土器甕である。この柱穴からは壺の破片、サヌカイト剥片が出土している。またＳＰ358・402からは弥生土器壺・甕の破片が出土している。

時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物に弥生時代の遺物が出土しているが、ＴＫ43型式の須恵器の坏身が出土していることから古墳時代後期、６世紀後半と考えられる。

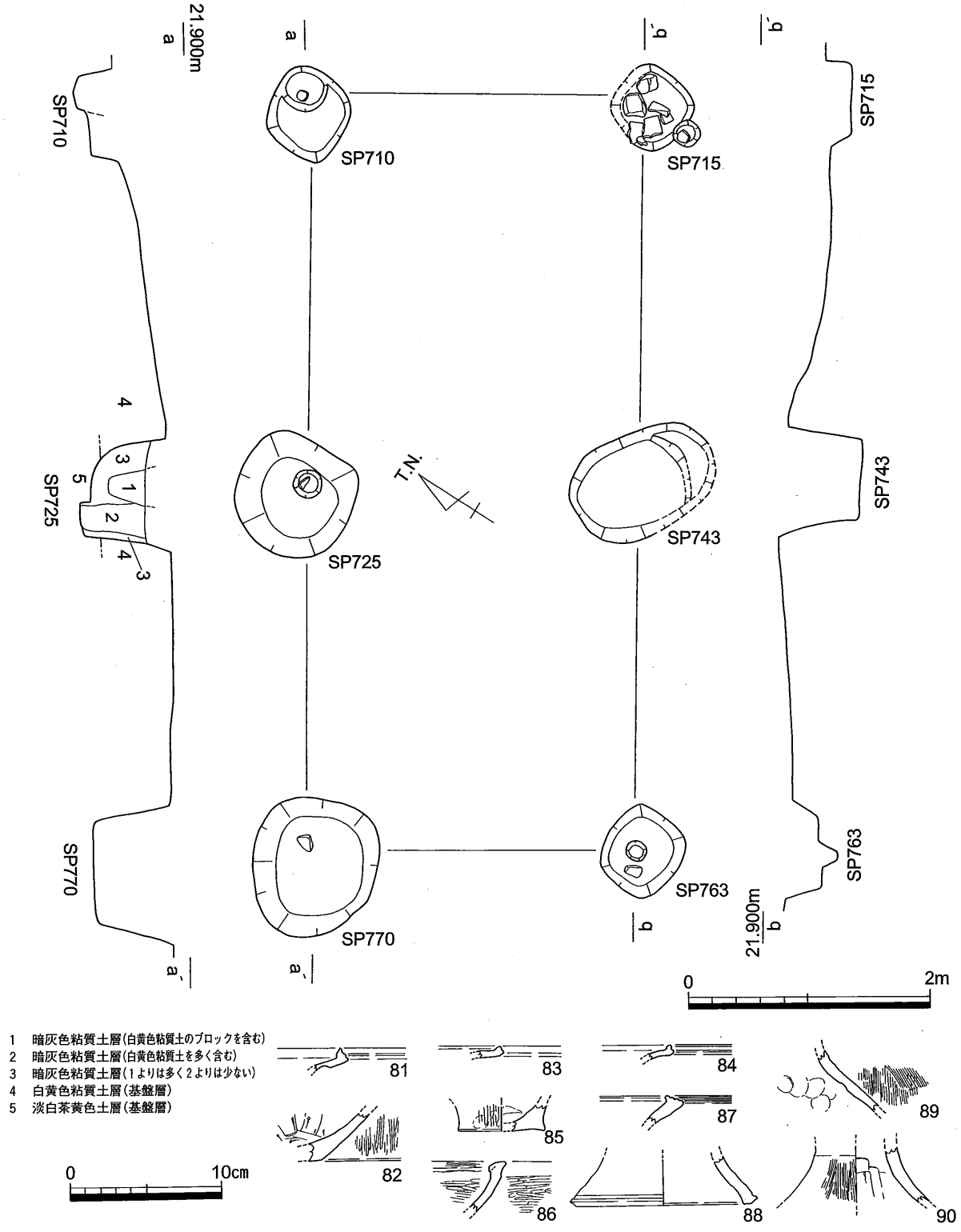
ＳＢ05

ＳＢ05は第Ｉ調査区中央部、標高約21.87ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行２間で、2.27×6.30ｍ、床面積は約14.3㎡を測る。構成する柱穴は歪な隅丸方形を呈し、一辺の長さ65～115㎝で、検出面からは65～73㎝と深く、しっかりした掘り方を持つ。４つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径17～24㎝を測る。建物は東西棟で、北西－南東方向（短軸）は真北から33.5°西を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。柱痕は基盤層のブロックを少量含む暗灰色粘質土である。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。81・82はＳＰ710出土の遺物である。81は甕の口縁部で、端部を上方に拡張し、２条の沈線を持つ。この柱穴からは壺・甕の破片が出土している。83～88はＳＰ725出土の遺物である。83・84は甕の口縁部で、端部を上方に僅かに摘み出し、外面に１条の沈線を持つ。86は鉢あるいは高坏の口縁部で、内外面にヘラ磨きが施されている。87・88は器台である。この柱穴からは甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。89・90はＳＰ770出土の遺物である。89は甕の体部、90は高坏脚部である。この柱穴からはサヌカイト剥片が出土している。またＳＰ532・164からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。

時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。



第13図　SB05平・断面図，出土遺物実測図

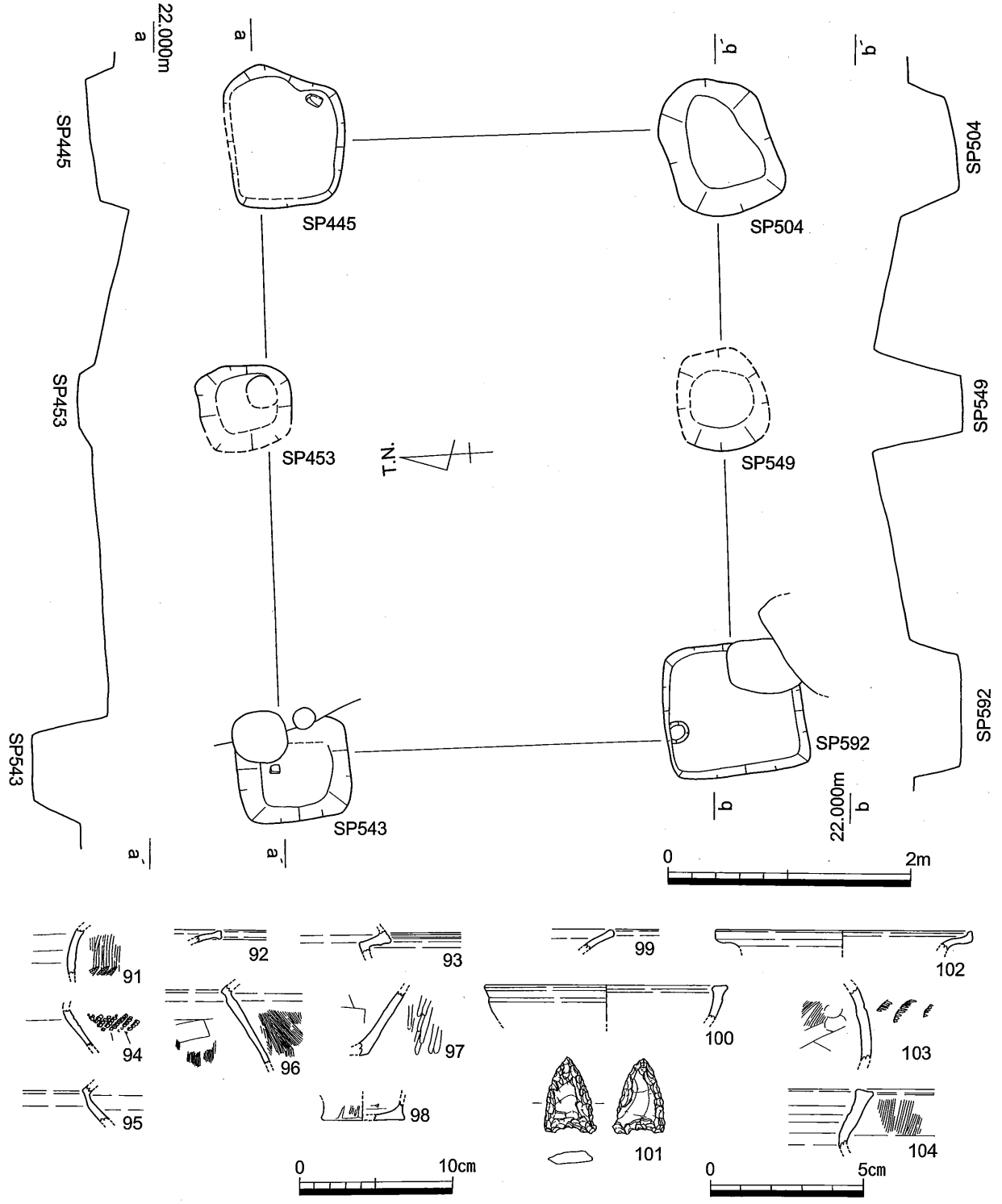
ＳＢ06

ＳＢ06は第Ⅰ調査区中央部、標高約21.83ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行２間で、3.70×5.00ｍ、床面積約18.5㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形を呈し、一辺の長さ85～110㎝で、検出面からは40～72㎝と深く、しっかりした掘り方を持つ。２つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径25～30㎝を測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北

から1.0°東を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを多量に含む暗灰色粘質土が堆積する。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。91～98はＳＰ445出土の遺物である。91は壺で、外反気味に延び、頸部屈曲部外面に櫛先刺突文が施されている。92～98は甕で、屈曲部内面に明瞭な稜を持つ。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。99～101はＳＰ453出土の遺物である。100は高坏の口縁部で端部を左右に摘み出す。101はサヌカイト製の



第14図　SB06平・断面図，出土遺物実測図

凹基式石鏃である。この柱穴からは甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。102～104はＳＰ592出土の遺物である。102・103は甕で、体部外面に櫛先刺突文が施されている。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。またＳＰ543からは壺・甕・高坏の破片が出土している。

時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ07

ＳＢ07は第Ⅰ調査区中央部、標高約21.40ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行１間で、3.14×4.93ｍ、床面積約15.5㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形を呈し、一辺の長さ115～145㎝で、検出面からは14～27㎝としっかりした掘り方を持つが、削平を受けているものと思われ、検出面からはかなり浅い。２つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径22～34㎝を測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から14.5°西を取る。１間×１間で、柱穴掘り方の一辺が１ｍを越え、他の掘立柱建物跡とは規模が異なることから、櫓状の掘立柱建物跡と考えられる。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。柱痕は基盤層のブロックを少量含む暗灰色粘質土である。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。105はＳＰ569出土の高坏の口縁部である。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。106～109はＳＰ791出土の遺物である。106は頸部外面に指先による刺突文を施す突帯を巡らす。107・108は甕の口縁部で、端部を上方に僅かに摘み出し、外面に２～３条の沈線を持つ。109は鉢あるいは高坏の口縁部である。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。110～117はＳＰ816出土の遺物である。111は壺の頸部で、外面に刻み目を持つ断面三角形の突帯を巡らす。113は甕の口縁部で、端部を上方に摘み出す。114・115は高坏の口縁部で、114は端部を左右に拡張し、上面に退化凹線を持つ。115の口縁部は「Ｃ」字形口縁を持つ。116は器台の脚と思われる。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。

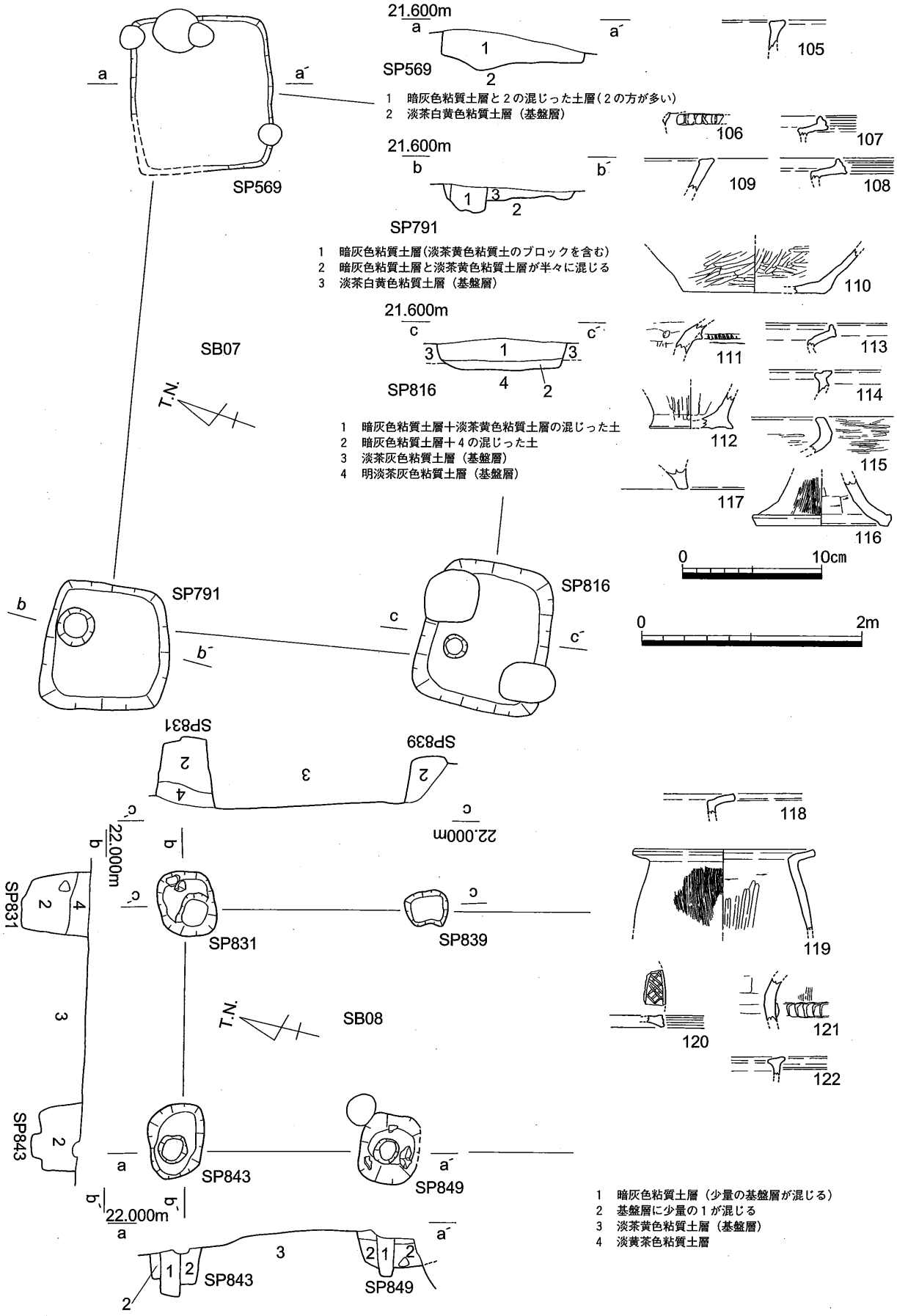
時期は掘立柱建物跡を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ08

ＳＢ08は第Ⅰ調査区南部、標高約21.87ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行（２）間で、2.21×（1.90）ｍを測る。構成する柱穴は歪な隅丸方形を呈し、一辺の長さ38～57㎝で、検出面からは42～51㎝と深く、しっかりした掘り方を持つ。３つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径22～25㎝を測る。建物は南北棟で、北－南方向（長軸）は真北から12.5°西を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを多量に含む暗灰色粘質土が堆積する。柱痕は基盤層のブロックを少量含む暗灰色粘質土である。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。118・119はＳＰ831出土の遺物である。118・119は甕で、頸部は「く」の字に屈曲し、内面には明瞭な稜を持つ。口縁部は水平気味に延び、端部はそのまま終わらせる。体部外面に11本／１㎝の刷毛目、内面にヘラ磨きが施されてい



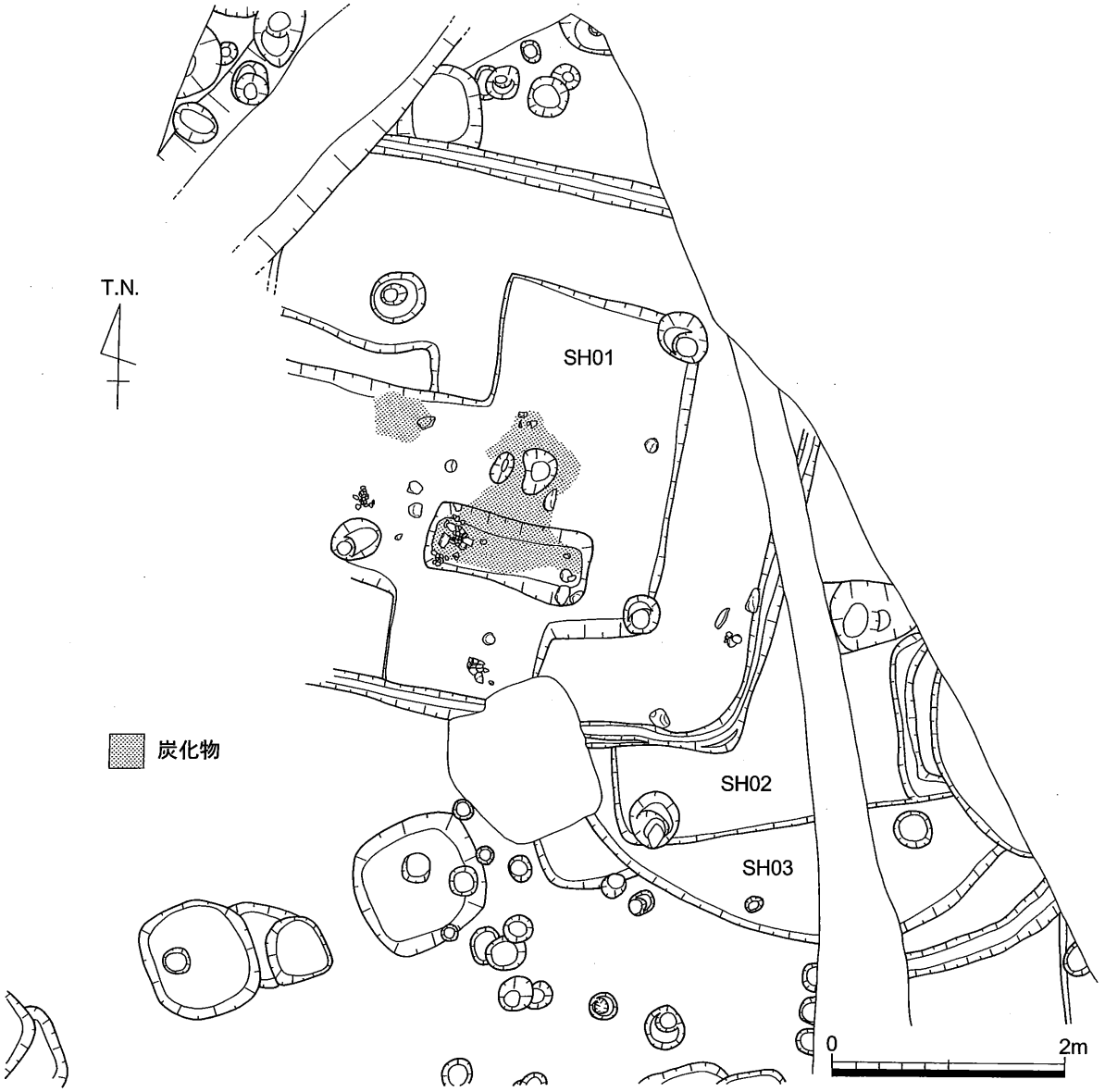
第15図　SB07・08平・断面図，出土遺物実測図

る。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。120～122はＳＰ843出土の遺物である。120は壺の口縁部で、上面にヘラ先による斜格子文が施されている。121は頸部外面に指先による刺突文を持つ突帯を巡らす。122は高坏口縁部である。この柱穴からは甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。またＳＰ849・839からは壺・甕の破片が出土している。

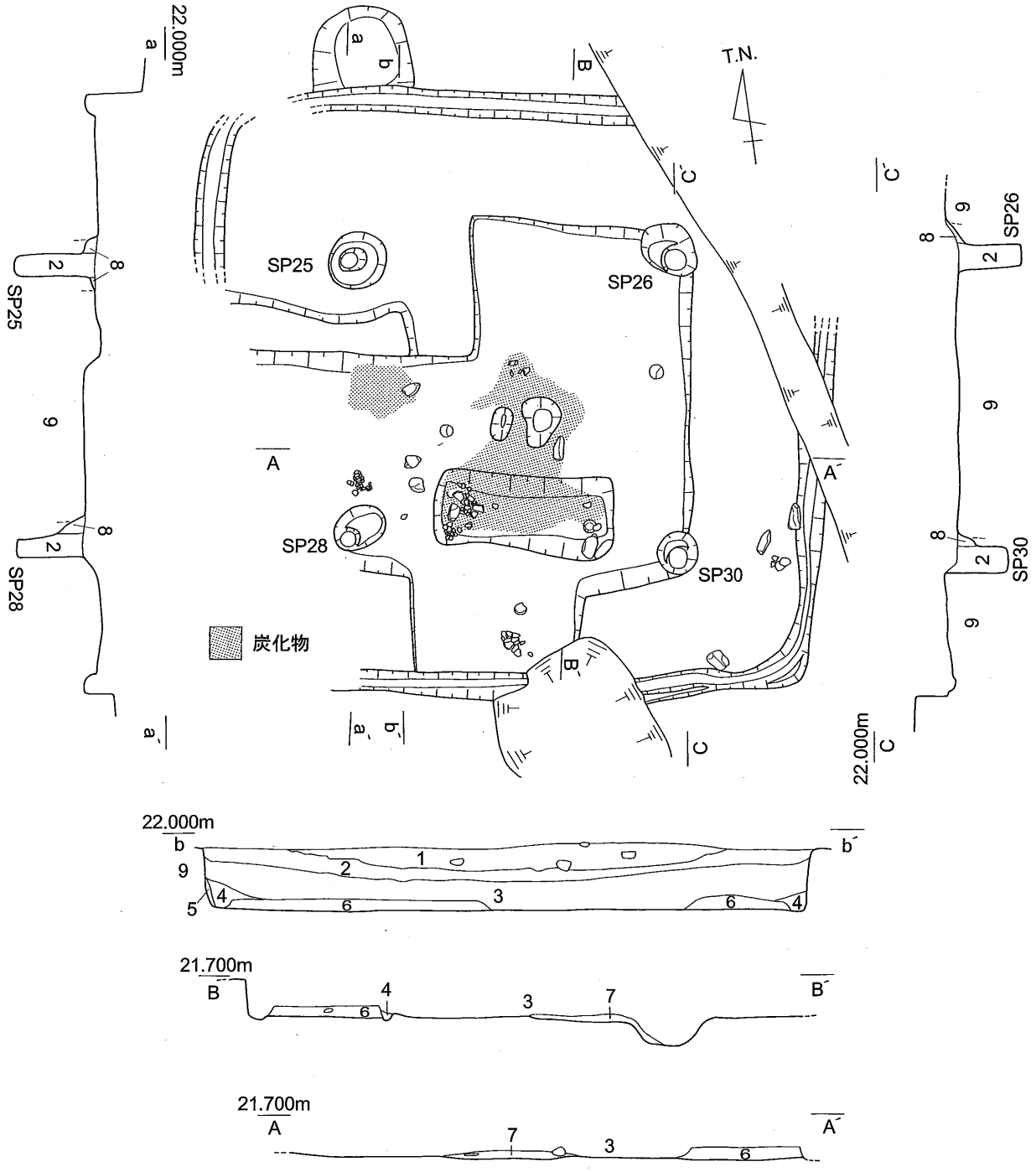
時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期後半と考えられる。

２．竪穴住居跡

第Ⅰ調査区で検出した竪穴住居跡はＳＨ01～19の総数19棟で、平面形態が円形のものと方形のものがあり、調査区北部ではこれらが切り合っており、密集度は高い。調査区南部ではＳＲ01・02によって切られた部分、中州状になった部分でも掘立柱建物跡・竪穴住居跡・柱穴跡が確認できることから、本来は遺構面としての基盤層が続いていたものと考えられる。

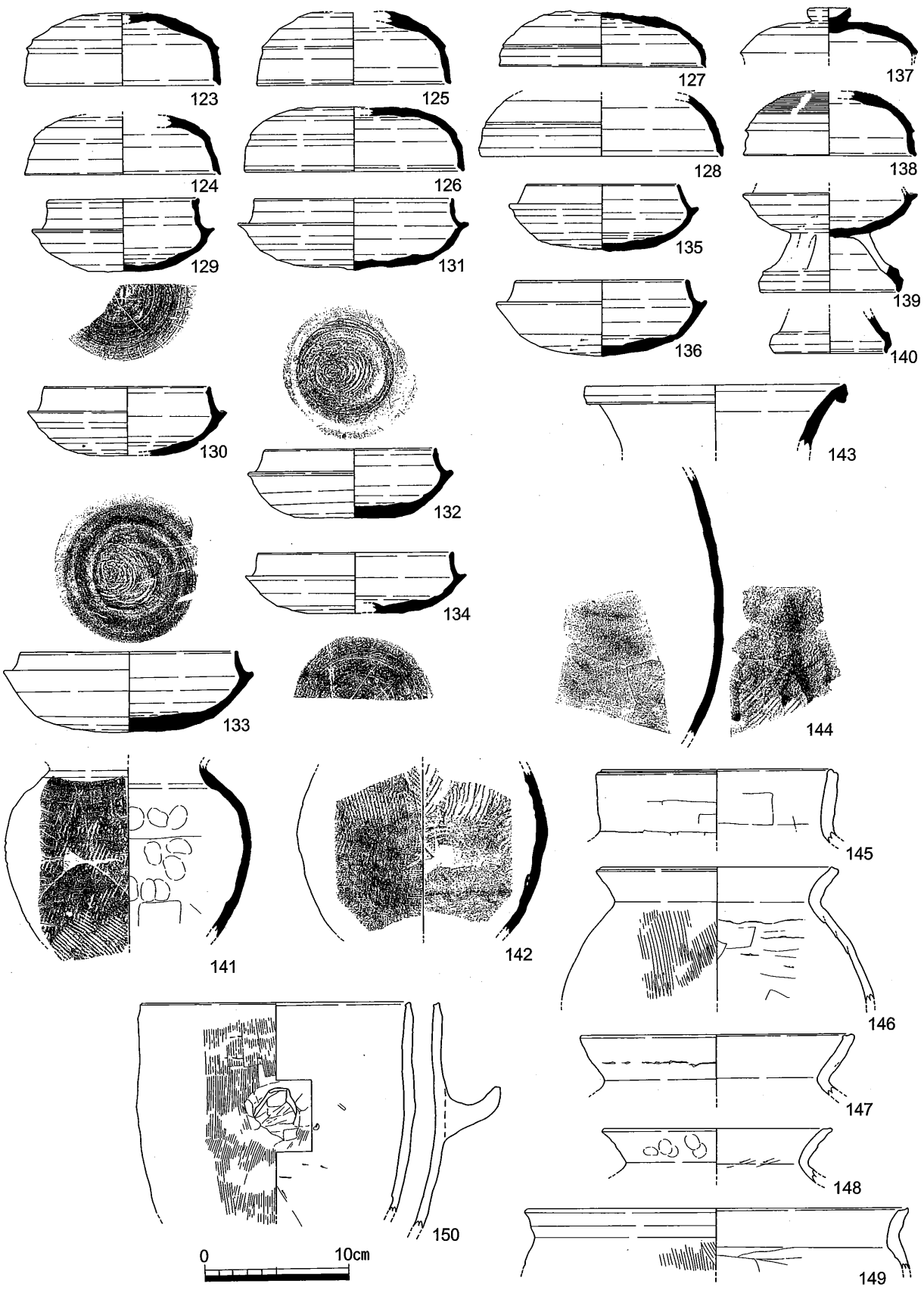


第16図　SH01・02・03位置関係図



1　暗黒灰色粘質土層（10cm程度の石、土器多量に含む）
2　暗茶灰色粘質土層
3　暗茶灰色粘質土層（9のブロックを含む）
4　暗灰色粘質土層
5　暗黒灰色粘質土層
6　貼り床土層（暗茶灰色粘質土のブロックを少量含む、基盤層を多量に含む）
7　炭
8　暗茶灰色粘質土層（9のブロックが少量混じる）
9　淡茶黄色粘質土層（基盤層）

第17図　SH01平・断面図



第18図　SH01出土遺物実測図①

SH01

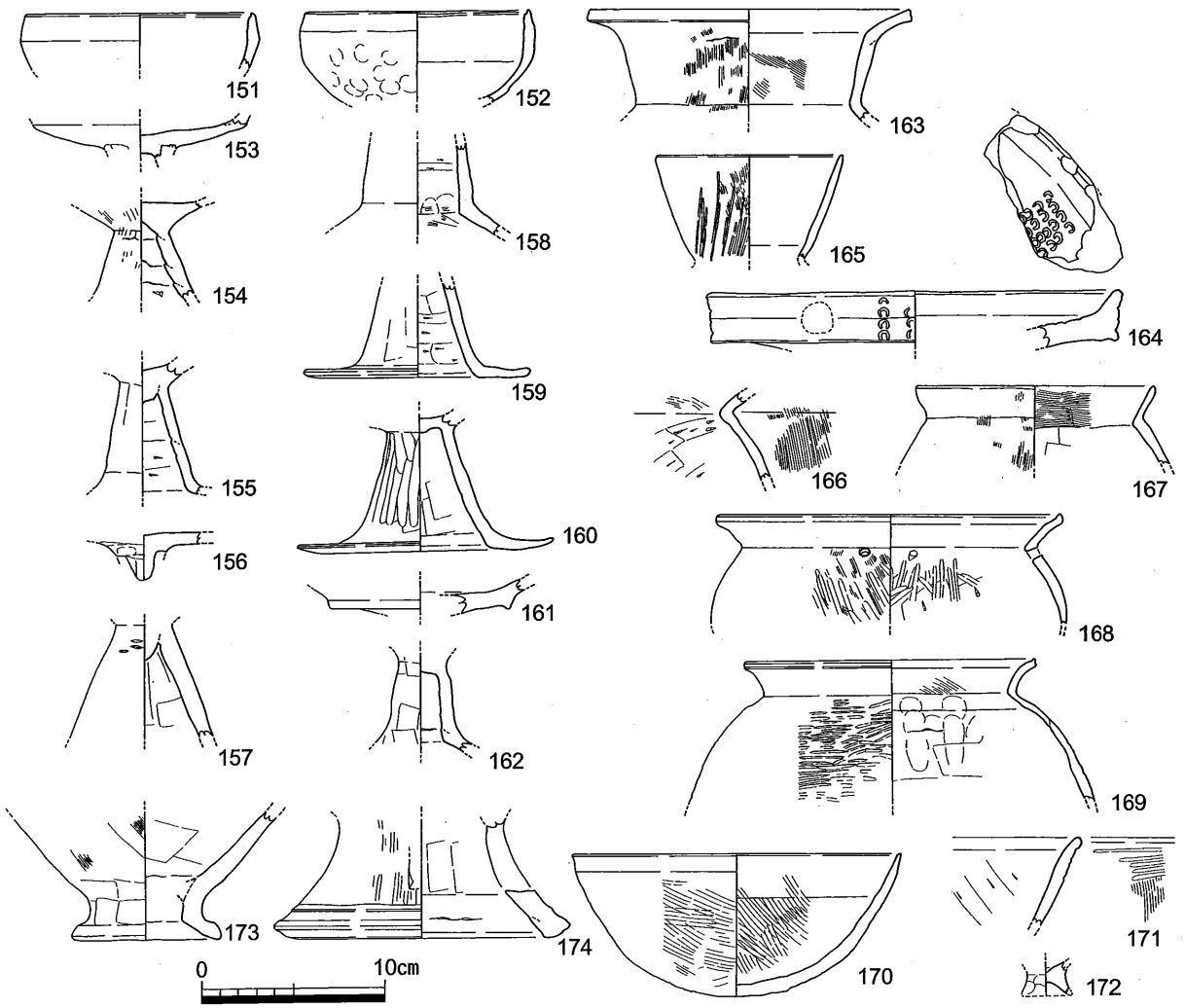
ＳＨ01は第Ｉ調査区北端、標高21.85ｍで検出した竪穴住居跡である。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約4.80ｍ、西－東方向が約5.08ｍ、検出面からの深さは約0.52ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約10.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は５層で、ほぼ中央部にレンズ状に堆積する第１層暗黒灰色粘質土、ほぼ水平堆積する第２層暗茶灰色粘質土・第３層淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土、竪穴住居内周囲の壁構内を中心に第４層暗灰色粘質土、側板痕跡としての第５層暗黒灰色粘質土が堆積している。この竪穴住居跡ＳＨ01は彼ノ宗遺跡で検出した竪穴住居跡ＳＴ－17に相当する。

竪穴住居内ではほぼ中央に土坑状の窪みを中心として、東西約0.7ｍ、南北約1.1ｍの範囲に焼土・炭化物が約５㎝の厚さで堆積する。また近接して南側には平面形態が長方形を呈し、規模は長軸約1.42ｍ、短軸約0.59ｍで、断面隅丸の逆台形状を呈した土坑を検出した。この土坑には北側に堆積する炭化物層が連続して土坑北側部分を中心に堆積する。また土坑の西・東端からは土器片と10㎝程度の川原石が出土しており、特に西側からは纏まって出土している。この焼土・炭の範囲と土坑はこの竪穴住居の炉と考えられ、北側が地床炉、南側の土坑が炭化物・置き火の保管場所と考えられる。円形の炉が明確に掘削されていないが、この炉の形態は「10型中央土坑」と呼ばれるもので、松本分類の４類に相当し、弥生時代後期末～終末期に確認できるとしている（松本2000）。竪穴住居内の周りにはベッド状遺構を確認した。ベッド状遺構は基盤層を削り出しの成形ではなく、第６層を盛ることによって成形している。幅約１ｍで、南側・西側が切れており、北西隅が幅約２ｍと広くなる。ベッド状遺構内部との高低差は約10㎝で、北西部の広くなった部分には幅約30㎝、高低差約３㎝の東西方向の高まりが確認できる。主柱穴は４穴で、東側はちょうどベッド状遺構の内側隅部分で検出し、西側は北西の柱穴が広くなったベッド状遺構部分で、南西の柱穴がちょうどベッド状遺構が切れた部分で検出した。主柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈し、規模は径が35～47㎝、深さ40～65㎝を測る。堆積土は２層、柱痕部分（第８層）と埋め土（第９層）に分けられる。調査時は埋め土が単層としたが、おそらく下位にも基盤層（第10層）と同じ色・質の埋め土があった可能性があったと考えられる。また、柱痕から直径17～20㎝の柱材が使用されたものと考えられる。竪穴住居壁際には壁溝を検出した。他の遺構・撹乱等で削平を受け、遺構が残っていない部分もあるが、おそらく全周していたものと考えられる。検出面の幅は15～23㎝、深さ0.7～0.9㎝を測る。土層断面ｂ－ｂ´に側板痕跡と考えられる土層（第５層）を確認しており、最大幅が約4.0㎝で、側板の厚さがほぼその程度であった可能性が推測できる。

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土（第１～３層）出土遺物、ベッド状遺構の張床土（第６層）出土遺物、床面直上出土遺物、炉内出土遺物、柱穴出土遺物に分けられる。

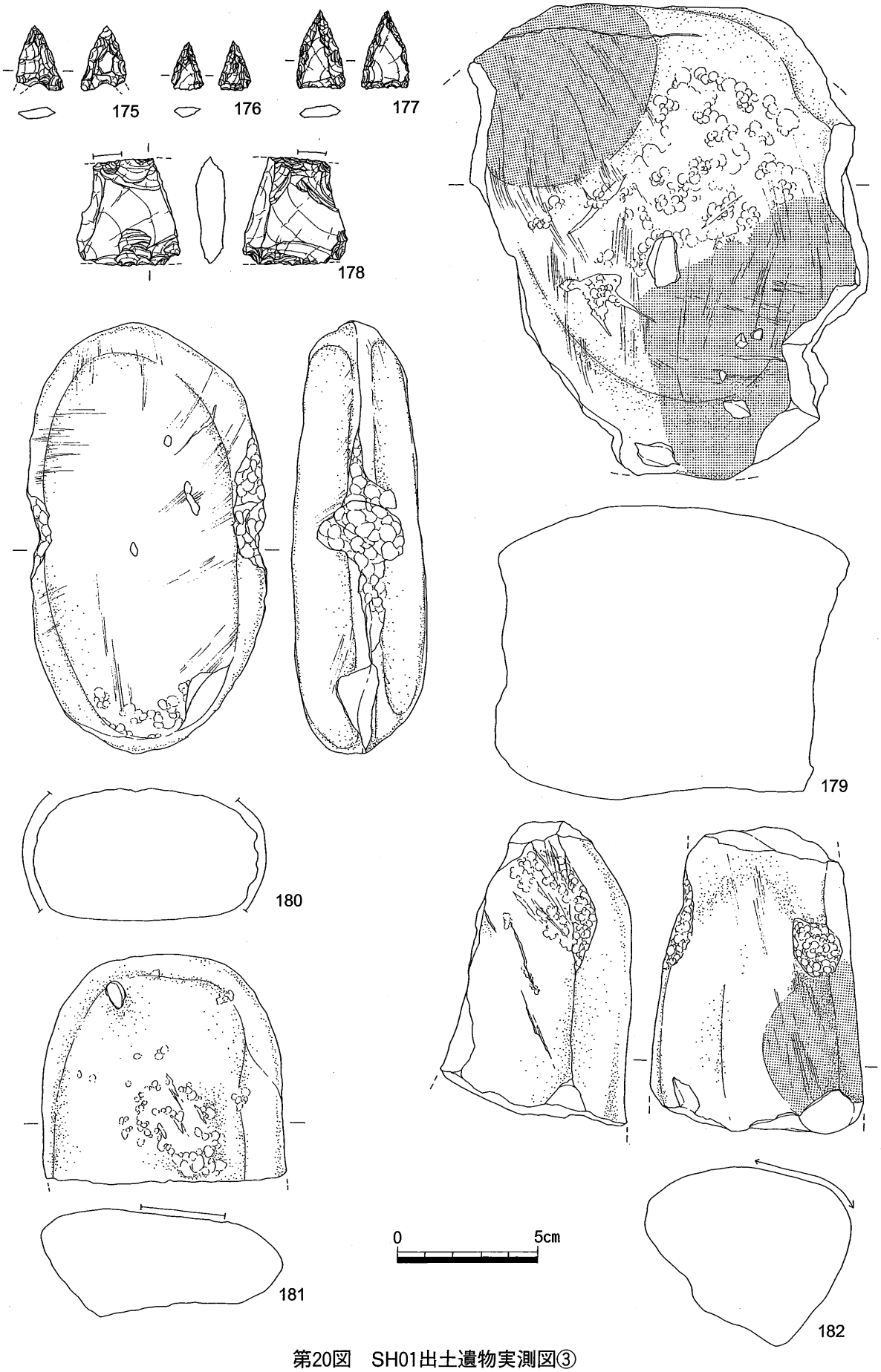
123～182は竪穴住居内堆積土第１層から出土した遺物で、この層のみに古墳時代の須恵器・土師質土器・土師器が多量に出土している。第１層は平面が不定型、幅約3.5ｍ、最深部約0.22ｍで、竪穴住居跡のほぼ中央部がレンズ状に窪むように堆積する。出土した遺物は弥生時代中・後期の弥生土器、古墳時代の須恵器・土師質土器・土師器・石製品、10㎝程度の礫（ほとんどが砂岩）が28ℓコンテナ11箱分と多量に出土している。

123～144は須恵器である。123～128は坏蓋で、天井部と体部の境にシャープな稜を持つもの



第19図　SH01出土遺物実測図②

(123) や稜がやや退化したもの (124～126)、沈線のみになったもの (127・128) がある。口縁端部は内面に明瞭な段を持つもの、からやや窪ませるものがある。それぞれ天井部と体部の境の稜や口縁端部内側の段の形骸化に伴い、法量では口径がやや大きくなり、器高はやや低くなる傾向が認められる。129～136は坏身で、口縁部が上方に真っ直ぐ延び、端部内面に段を持つもの (129) や口縁部が上方に真っ直ぐ延び、端部の段が退化したもの (130～132)、段を持たず、そのまま丸く終わらせ、やや内傾しながら真っ直ぐ延びるもの (133～136) のがある。129・134は底部外面にヘラ先による線刻が、132・133は内底面に同心円状の当具痕が施されている。これら須恵器坏蓋・坏身は123と129、124～126と130～132、127・128と133～136がセットになるものと思われ、この形態差は、時期差と考えられる。時期はそれぞれが陶邑編年 (田辺1981) で、ＴＫ47、ＭＴ15、ＴＫ10型式に対応し、６世紀初頭から６世紀中葉と考えられる。137～140は高坏である。高坏蓋の天井部に中央部が窪む摘みが付き、上面には描き目が施されているものも認められる。脚部は短く、長方形の透かしが３箇所認められる。141～144は壺で、141は体部内面が指頭痕の後横ナデを、外面には５本／１cmの細かい平行叩きが施されている。142は体部内面上半に同心円状の当具痕が、下半は横ナデにより当具痕をすり消し、外面には４本／１cmの平行叩きが施されている。143は口縁部で、端部外面を断面三角形状に肥厚させる。144は体部内面が横ナデ、外面には３本／１cmの平行

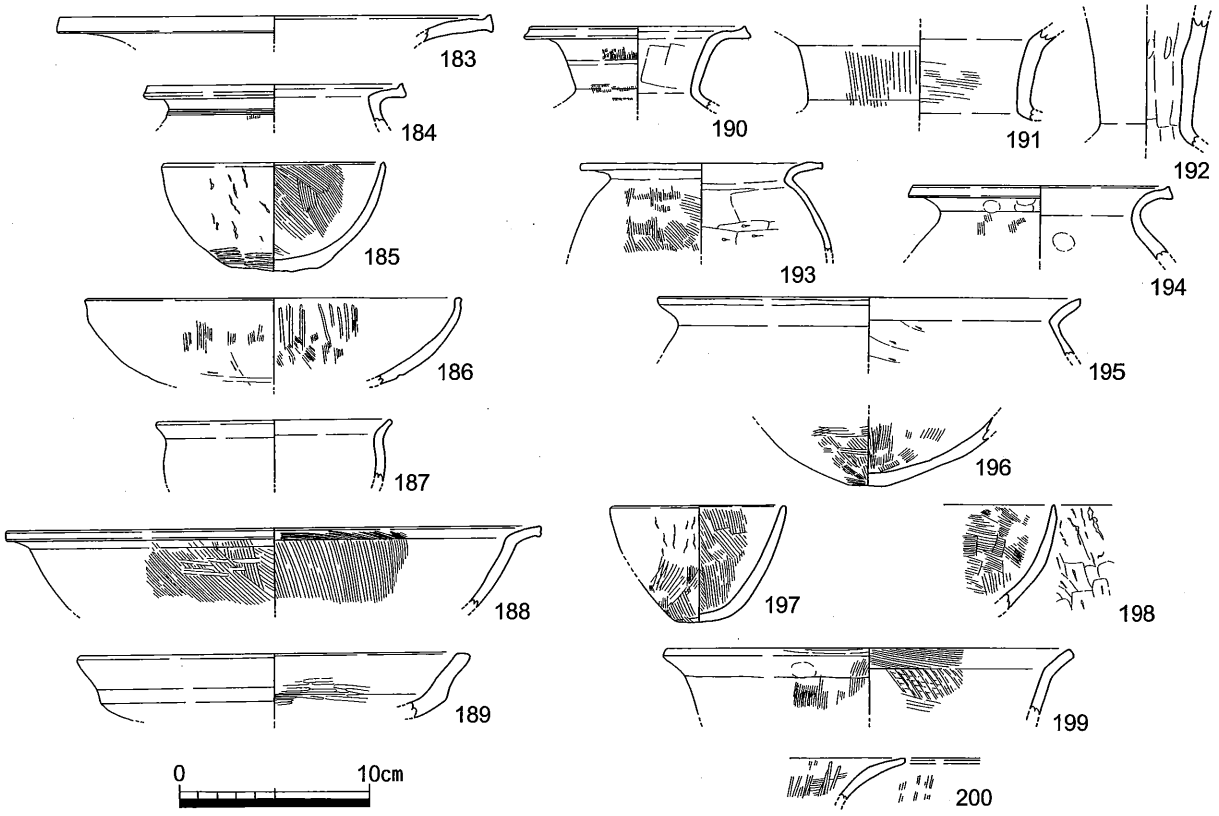


第20図　SH01出土遺物実測図③

叩きが施されている。

145～162は土師質土器・土師器である。145～149は土師質甕で、頸部から口縁部にかけて直立するもの（145）、頸部が「く」の字に屈曲し、外反するもの（146・148・149）、内湾するもの（147）がある。口縁端部は上面を僅かに窪ませる。146は内湾する口縁部で、端部は上面に面を持ち、内方を僅かに摘み出す。147は口縁端部を内方に僅かに摘み出す。150は甑で、体部のやや上位に上方に屈曲する取手を持つ。口縁端部は短く内傾し、上面は僅かに窪ませる。151・152は土師器坏である。体部は内湾し、口縁部は上方に延び、口縁端部内面は僅かに沈線が確認できる。体部外面には指頭痕が認められる。153～162は土師器高坏である。坏部の形状は不明であるが、脚部は「ハ」字状に延び、下部でほぼ水平に屈曲する。脚部は直線的なものとやや内湾気味のものがある。坏部と脚部の接合は、坏部の底に突出部を作り、脚部上端の穴に差込、接合する。161は坏部下半で、ほぼ中央部に屈曲が認められ、外面に突帯状の突出が巡る。

163～174は弥生土器で、壺・甕・鉢・製塩土器・器台・石製品が出土している。163～165は壺で、164は口縁部上面に竹管文が、拡張した外面には円形浮文と竹管文が施されている。165は小型丸底壺で、口縁部が内湾気味に外上方に延びる。外面には細かい刷毛目の後、1.0～1.5㎜のヘラ磨きが施されている。166～169は甕で、168は頸部と体部の屈曲部下に穿孔が認められる。体部内外面はヘラ磨きが施され、丁寧な作りをする。頸部は「く」の字に屈曲し、内面に稜を持つ。口縁端部はそのまま終わらせる。170・171は鉢で、171は大型鉢と考えられる。172は製塩土器で、脚部はかなり小さく、脚部外面は指ナデが、体部外面にはヘラ削りが施されている。174は脚台付の鉢で、脚部に長方形の透かしが認められる。

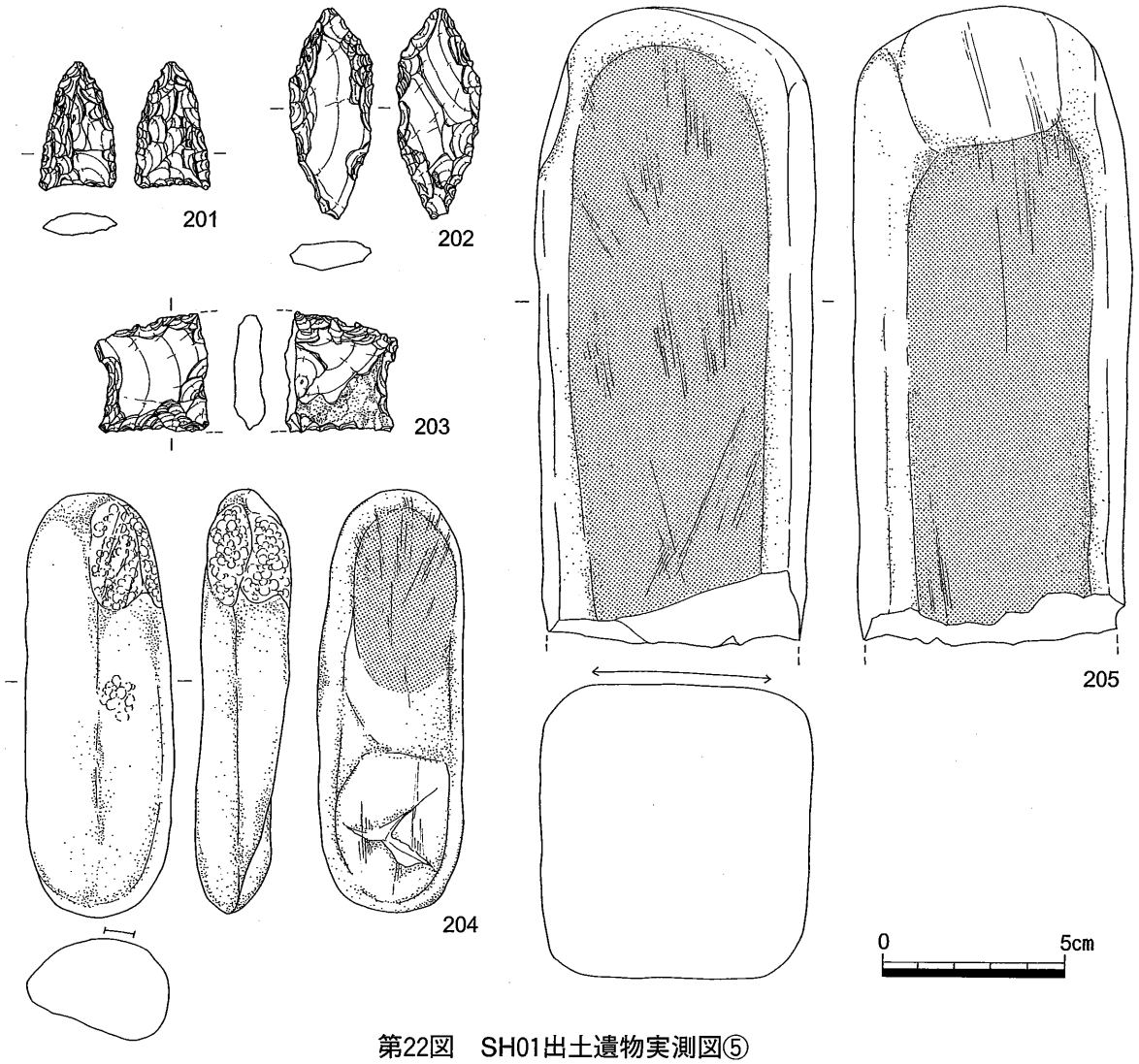


第21図　SH01出土遺物実測図④

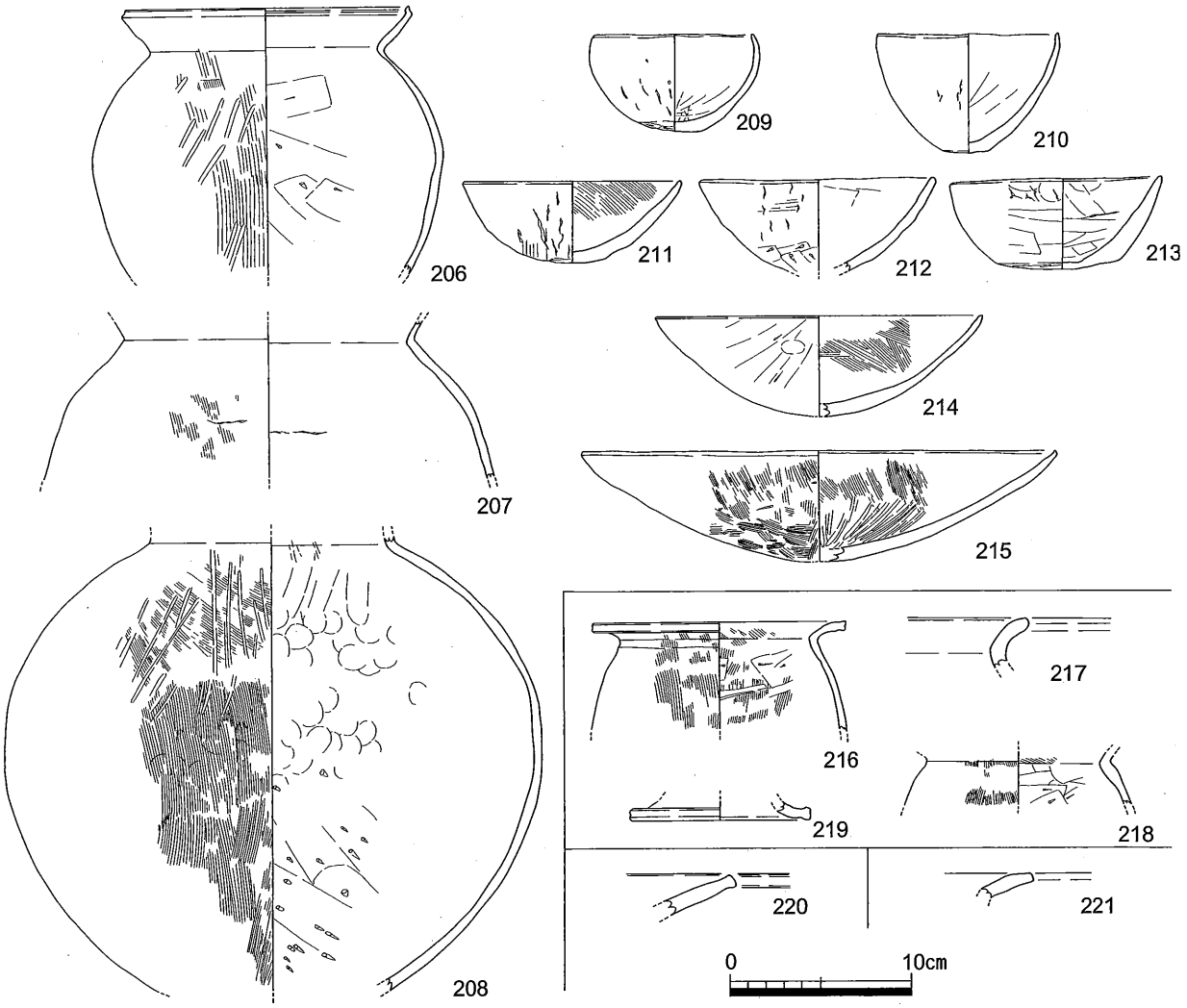
175～182は石製品である。175～177はサヌカイト製の石鏃で、基部の形状が凹基式のものと平基式のものがある。178はサヌカイト製の石包丁、179は安山岩製の砥石、180・181は砂岩製の台石である。182は砂岩製の叩き石で、ちょうど角部分に敲打痕が確認できる。

183～189は竪穴住居内堆積土第２層から出土した遺物で、第１層のように古墳時代の須恵器・土師質土器・土師器は包含していない。第２層の堆積状況はほぼ水平堆積で、層厚は約15cmを測る。遺物は弥生土器壺・甕・鉢・高坏が出土している。183は壺で、頸部が外反しながら朝顔型に延び、口縁端部を上方に僅かに摘み出す。184は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持ち、口縁端部は上方に僅かに摘み上げる。185～188は鉢で、体部が内湾し、口縁端部に至るものと口縁部を「く」の字に屈曲させるものがある。189は高坏である。

190～205は竪穴住居内堆積土第３層から出土した遺物で、この堆積層は水平堆積で、層厚は約25cmを測る。遺物は弥生土器で、壺・甕・鉢・高坏・石製品が出土している。190～192は壺で、頸部が直線的に外傾しながら延び、口縁部をほぼ水平に屈曲させる。192は細頸壺で、頸部が直線的にやや外傾しながら延びる。193～196は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持つものと緩やかに屈曲するものがある。口縁端部は上方に僅かに摘み上げる。197～199は鉢で、体部が内湾し、口縁端部に至るものと口縁部を「く」の字に屈曲させるものがある。第２・３層出



第22図　SH01出土遺物実測図⑤

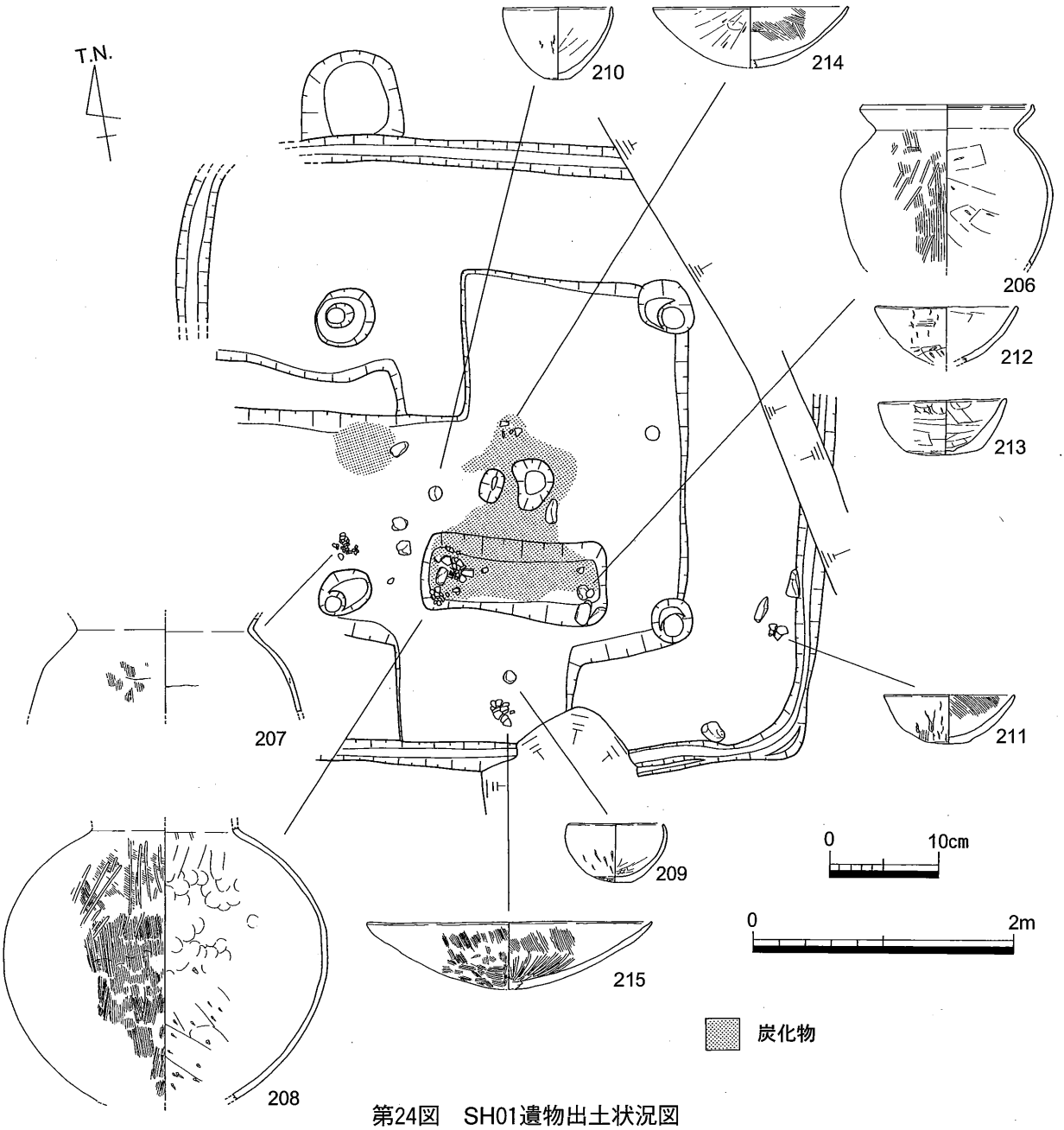


第23図　SH01出土遺物実測図⑥

土の鉢の法量には、口径が約28cm程度の大、約20cm程度の中、約11cm程度の小の３形態が認められる。200は高坏で、外反する口縁部から端部をそのまま終わらせる。201～205は石製品である。201・202はサヌカイト製の石鏃、203はサヌカイト製の石包丁、204は砂岩製の叩き石、205は砂岩製の砥石が出土している。

206～215は竪穴住居内床面直上から出土した遺物である。これらは出土した位置を大別するとベッド状遺構上面、ベッド状遺構内側床面、炉内の３箇所に分けられる。ベッド状遺構上面から出土した遺物は鉢（211）で、南東隅の壁溝際で出土している。器高の低い小型の鉢である。ベッド状遺構内側床面から出土した遺物は甕・鉢で、方形の炉を中心に北側に鉢（210・214）が、西側に甕（207）が、南側に鉢（209・215）が出土している。甕は頸部が「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つものである。鉢は大・中・小の３形態が認められる。方形の炉内からは甕（206・208・220）・鉢（212・213）が出土している。甕206は頸部が「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持つ。口縁部は直線的に外上方に延び、口縁端部を上方に摘み出す。体部外面に刷毛目、内面にヘラ削りが施されている。

竪穴住居内最下部には堆積土ではないが、ベッド状遺構の貼り床土として第６層淡茶黄色粘質土（基盤層）ブロックを多量に含む暗茶灰色粘質土が確認できる。216～219は貼り床土内から出土し



第24図　SH01遺物出土状況図

た遺物で、甕・高坏が出土している。

221は南西の主柱穴ＳＰ28から出土した甕である。

時期は竪穴住居内堆積土第１層から古墳時代の須恵器が出土しているが、床面直上遺物、炉出土遺物で、鉢に小型の器種が多量にあること、甕の口縁端部が拡張せず、そのまま終わらせるものが主体であること、甕の体部最大径がほぼ中央にあることから弥生時代後期終末と考えられる。

この竪穴住居の時期は、前述した松本の「10型中央土坑」の時期と合致することから妥当と考えられる。

参考文献・引用文献

松本和彦 2000「10型中央土坑について」『都市計画道錦町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』香川県教育委員会

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

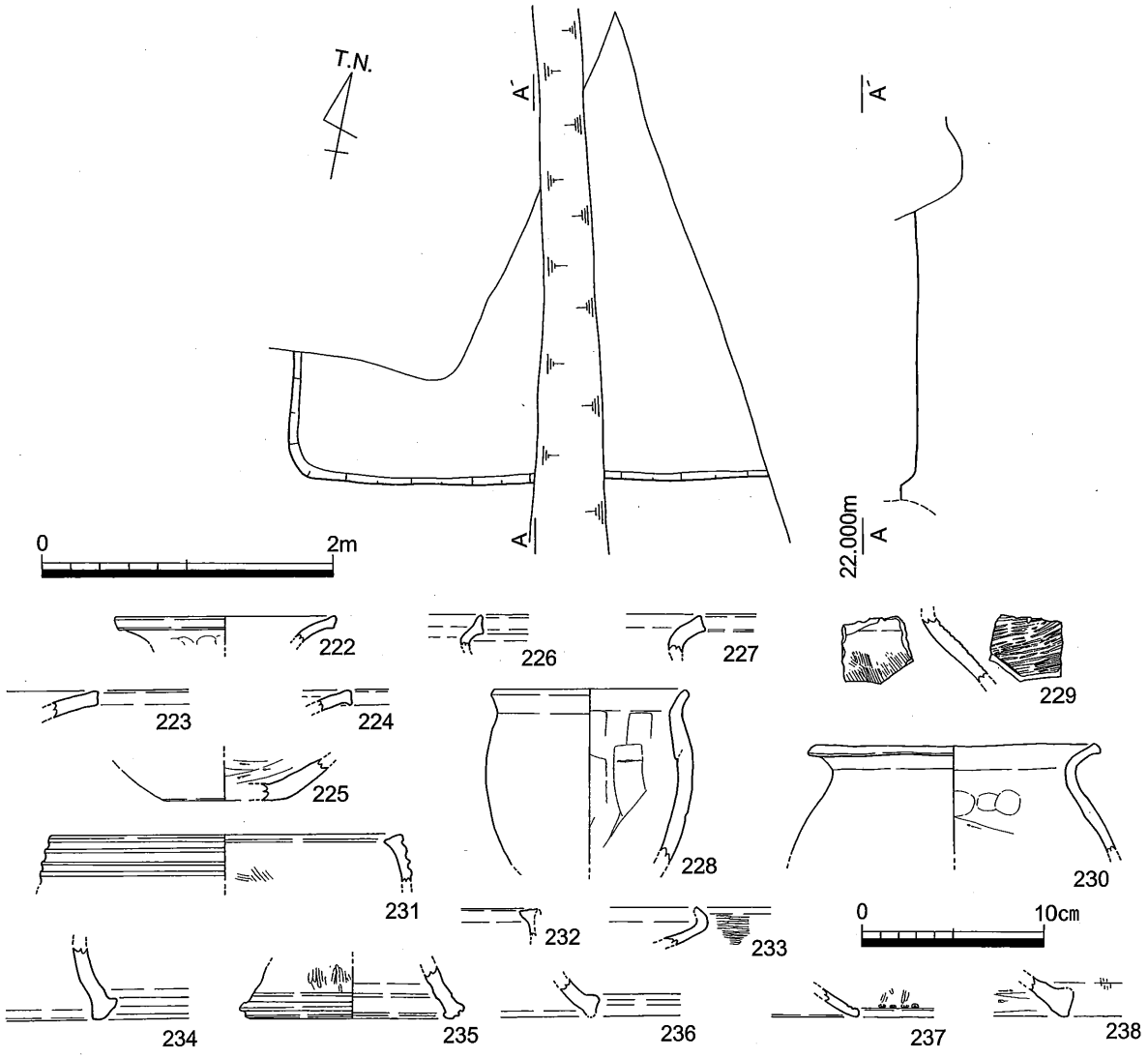
ＳＨ02

ＳＨ02は第Ｉ調査区北端、標高21.73ｍで検出した竪穴住居跡である。北西部がＳＨ01によって切られており、東部分が調査区外となっているが、残存する南西部の形態から、平面形態は方形を呈することがわかる。規模は不明であるが、北－南方向の残存長が約0.87ｍ、西－東方向の残存長が約3.30ｍ、検出面からの深さは約0.06ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約11.5°西を取る。竪穴住居内の堆積土は単層で、暗茶灰色粘質土が堆積している。

竪穴住居跡ＳＨ01の掘削がＳＨ02の床面より約20cm深く掘削されていることや東部分が調査区外であること、竪穴住居中央部に撹乱溝があることから、竪穴住居内の詳細は不明で、主柱穴も確認していない。

竪穴住居内堆積土から弥生土器が出土している。

222～225は壺である。口縁部が朝顔形に開くもので、端部を上方あるいは下方に僅かに摘み出す。226～230は甕で、226は口縁端部を上方に拡張する。229は体部外面に平行叩きが密に施され、内面には刷毛目が施されている。230は頸部が緩やかに屈曲し、口縁端部を僅かに下方に摘み出す。体部外面には指ナデが、内面にはヘラ削り、上部には指頭痕が施されている。231～238は高坏である。



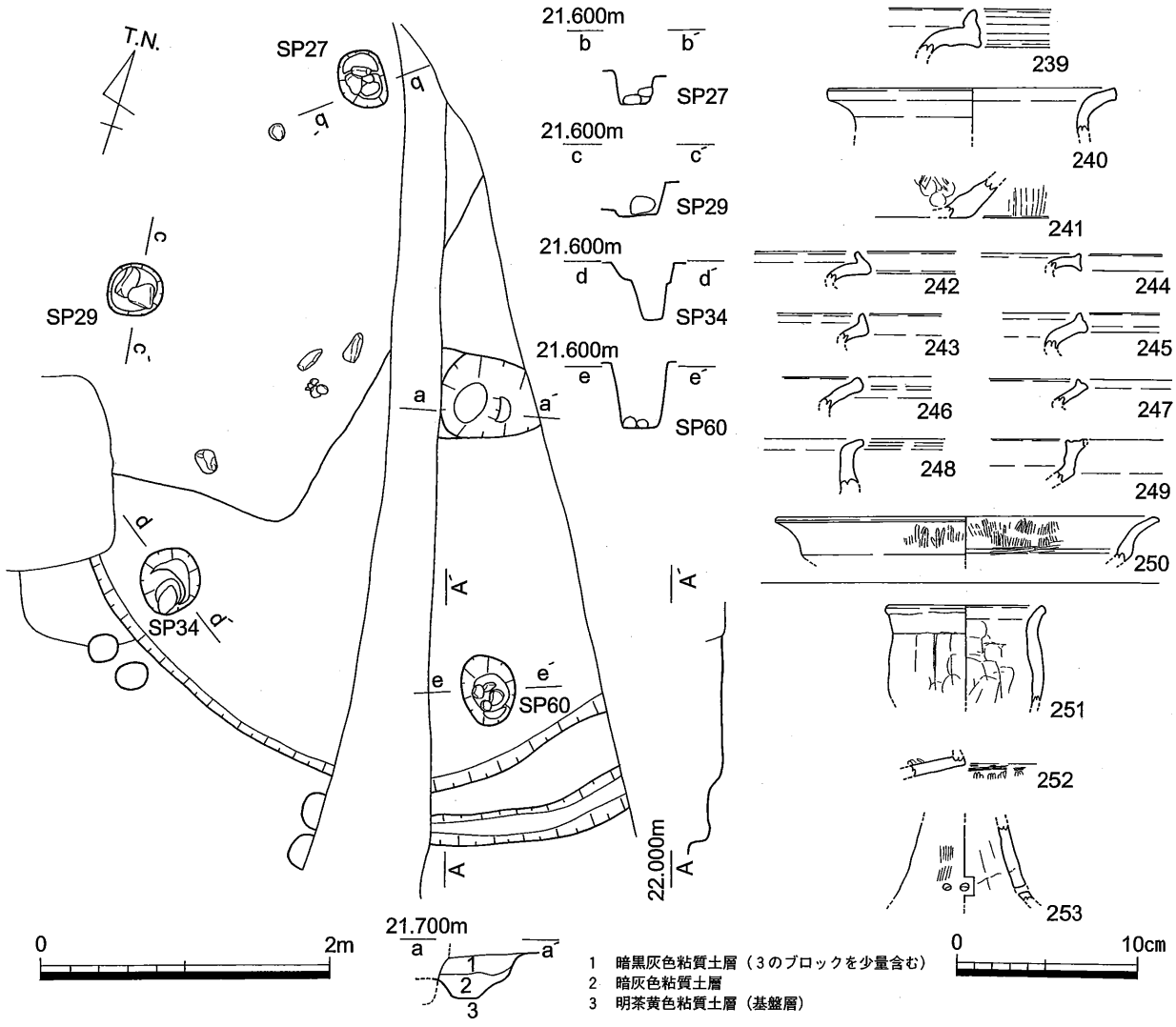
第25図　SH02平・断面図，出土遺物実測図

231～133は口縁部で、231は内湾し、口縁部外面に4条の凹線が施されている。232は口縁端部を左右に拡張するもの、233は口縁端部を内方に緩やかに屈曲させるもので、「C」字状口縁を持つ。234～238は高坏脚で、脚端部を上下に拡張するもの、そのまま終わらせるものと、口縁部と同様にかなりのバリエーションが認められる。235は脚端部を上下に拡張し、外面に2条の凹線を持つ。234・236・238は脚端部を拡張し、外面を僅かに窪ませる。237は脚端部をそのまま終わらせるものである。

出土遺物に時期差が認められる。特に高坏では口縁部・脚部の形状において顕著で、弥生時代中期のものと弥生時代後期のものが認められる。壺・甕は概ね弥生時代後期のものであることから、この竪穴住居の時期を弥生時代後期中葉とする。

SH03

SH03は第Ⅰ調査区北端、標高21.88mで検出した竪穴住居跡である。北西部がSH02によって切られており、東部分が調査区外となっているが、残存する南部の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は残存部分及び主柱穴から推定直径は約6.9mを測る。ほぼ中央部に平面形態が楕円形を



第26図　SH03平・断面図，出土遺物実測図

呈する炉を検出した。堆積層は2層で、上層が明茶黄色粘質土のブロックを少量含む暗黒灰色粘質土で、下層が暗灰色粘質土である。主柱穴は現存4穴で、推定6穴と考えられる。主柱穴平面形は歪なものもあるが、概ね円形で、直径0.38～0.42m、深さ0.39～0.44mを測る。全ての柱穴の底には10～20㎝程度の礫を1～4個程度敷き、根石としている。残存する南部では、竪穴住居掘り方と壁溝を検出している。壁溝は約1.5mの範囲で確認し、幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。この部分では壁溝から約0.3m程度内側に基盤層を削り出した段差が認められ、周囲に約0.3mの平らな部分を持つ竪穴住居跡であることがわかる。竪穴住居内の堆積土は単層で、暗黄茶灰色粘質土が堆積している。

竪穴住居内堆積土及び中央土坑（炉）から弥生土器が出土している。

239～241は壺で、頸部が直線的に上方に延び、口縁部をほぼ水平に外反させ、口縁端部を上方に摘み上げるものとそのまま終わらせるものがある。239は上方に摘み上げた口縁部外面に2条の退化凹線が施されている。242～247は弥生土器甕である。242・243は口縁端部を上方に摘み上げる。これ以外は僅かに上下に摘み出すもので、口縁端部外面に沈線等は確認できない。248～250は高坏である。全て口縁部で、端部を拡張するもの（249）、そのまま終わらせるもの（248・250）がある。

251～253は炉から出土した遺物で、弥生土器甕・高坏である。252は坏部下半で内外面にヘラ磨きが密に施されている。253は脚部で、2個一対の穿孔が推定5箇所に施されている。

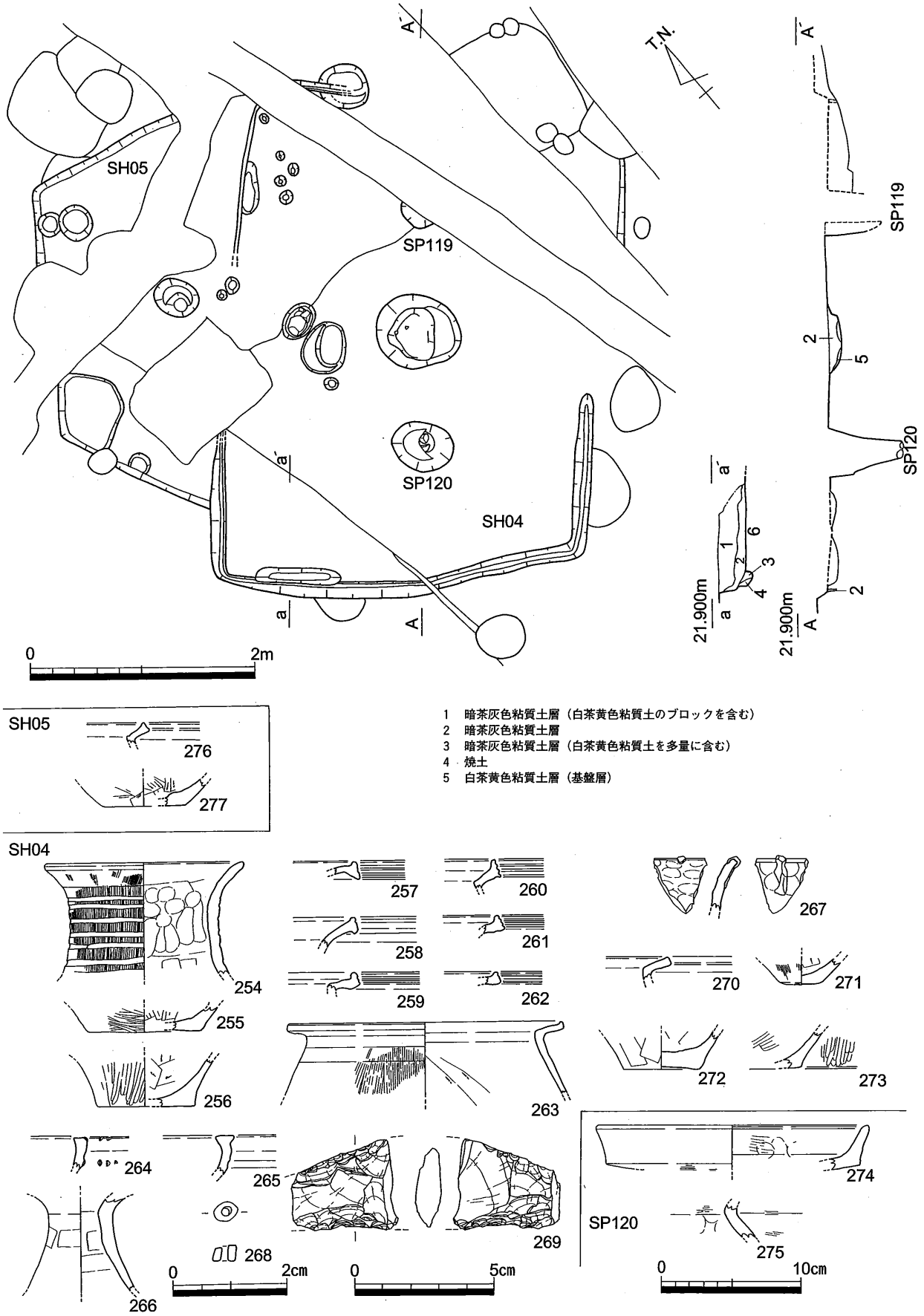
出土遺物に時期差が認められるが、炉出土遺物や堆積層出土の壺・甕・高坏などから弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＨ04

ＳＨ04は第Ⅰ調査区北部、標高21.84mで検出した竪穴住居跡である。平面形態は長方形を呈し、規模は北東－南西方向が約4.58m、北西－南東方向が約3.45m、検出面からの深さは最大で、約0.24mを測る。北東－南西方向の長軸主軸は真北より約45.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は検出面に段差があるために、竪穴住居西側の隅部分では2層確認できるが、それ以外の部分はかなり削平を受けており、堆積土は確認できなかった。竪穴住居内の2層の堆積土は第1層が基盤層である白茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土で、第2層が暗茶灰色粘質土と似通っている。これに加えて壁溝の堆積土は側板痕跡と考えられる堆積土第4層が暗灰色粘質土、壁溝埋土の第3層は基盤層白茶黄色粘質土のブロックを多量に含む暗茶灰色粘質土となる。炉内には第2層が堆積し、基盤層直上には第5層の焼土が堆積する。

竪穴住居内ではほぼ中央に炉、その両側に主柱穴を2穴、周囲に壁溝及び側板痕跡を検出している。中央部の炉は平面形態が概ね円形で、直径0.67～0.75m、深さは南東側が5㎝程度、北西側が11㎝程度を測り、断面が二段掘りを呈している。その深い部分の南東側には焼土が堆積する。主柱穴は中央の炉を挟み、0.5～0.6mの位置に2穴確認している。北東側の柱穴は削平されているが、平面形態は2穴とも概ね円形で、南西側の柱穴は直径0.43～0.56m、深さ0.63mを測る。壁溝は南隅を中心に約0.13mの幅で検出し、それ以外の部分では側板の痕跡が0.02～0.05mの幅で検出している。

竪穴住居内から遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土出土遺物、床面直上出土遺物、炉



第27図　SH04・05平・断面図，出土遺物実測図

内出土遺物、柱穴出土遺物である。

254～269は堆積土第１・２層から出土した遺物で、弥生土器・石製品が出土している。254～256は壺で、頸部が直線的に上方に延び、口縁部を緩やかに外反させ、端部を丸く納めるもの（254）が出土している。頸部外面には縦方向の刷毛目の後、６条の沈線が施されている。257～263は甕で、口縁端部を上下に拡張し、外面に２～３状の退化凹線を施すものが多く出土している。263は頸部を「く」の字に屈曲させ、直線的に延びる口縁部から端部を上方にのみ短く摘み上げたものである。264～266は高坏で、264は口縁部外面の凸部分と端部外面に刻み目を持ち、265は口縁部外面に２条の退化凹線を施す。267は鉢で、口縁部外面に縦方向の紐を貼り付ける。268はガラス製の臼玉である。やや濁った青色を呈する。269はサヌカイト製の石包丁である。

270・271は床面直上、272・273は炉、274・275は主柱穴ＳＰ120から出土した遺物である。

時期は竪穴住居内出土遺物の263・270の甕から、弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＨ05

ＳＨ05は第Ⅰ調査区北部、標高21.82ｍで検出した竪穴住居跡である。平面形態は南東部をＳＨ04と重複し、切られていることから全容は不明であるが、残存する部分から多角形（推定５角形）を呈するものと考えられる。しかし残存する掘り方の深さが６㎝程度と浅いことや多角形住居としては残存最大幅が約3.5ｍと小さいことから竪穴住居のベッド状遺構の内側の痕跡と考え、この竪穴住居跡はおそらく円形あるいは多角形の竪穴住居跡のベッド状遺構の内側のみが残っているもの推定する。規模は一辺の長さが約2.2ｍ、検出面からの深さは最大で、約0.06ｍを測る。

竪穴住居内で炉・主柱穴などの遺構は検出していない。通常の竪穴住居跡では多角形ベッド状遺構のそれぞれのコーナー部辺りに主柱穴を確認するが、この竪穴住居跡では確認できず、炉も確認していない。そのため詳細は不明である。

竪穴住居内から弥生土器が出土している。

276・277は堆積土から出土した遺物で、276は甕、277は壺の底部と考えられる。甕は頸部が「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。口縁端部は上方に僅かに摘み出す。

時期は竪穴住居内堆積土から出土した甕（276）から、弥生時代後期中葉と考えられる。

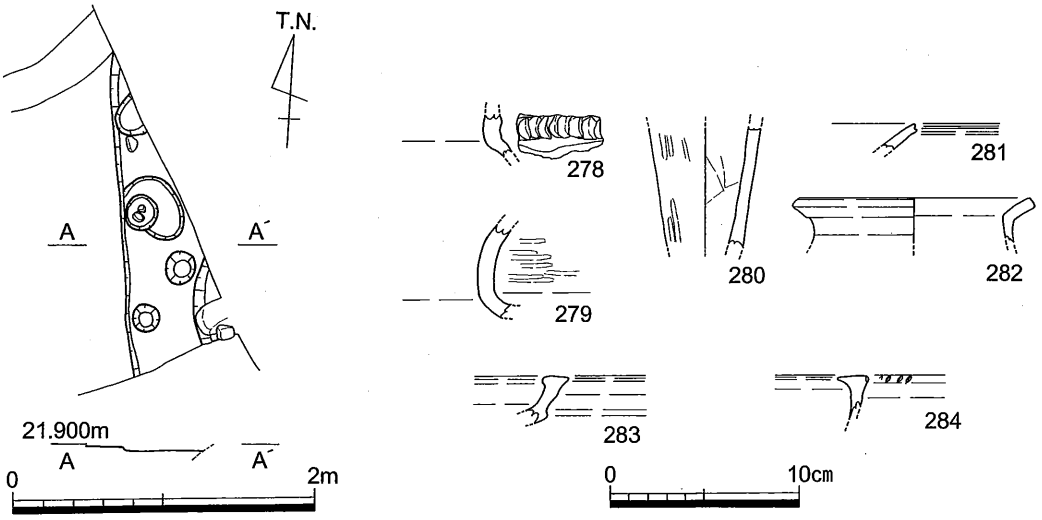
ＳＨ06

ＳＨ06は第Ⅰ調査区北端、標高21.90ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居跡の東側ほとんどが調査区外に延び、南部は撹乱、更に全体的にかなり削平を受けている。残存する西部の一部が直線的に延びることから平面形態は方形を呈することがわかる。規模は不明であるが、北－南方向の残存長が約2.15ｍ、検出面からの深さは約0.03ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約7.5°西を取る。竪穴住居内の堆積土は単層で、暗茶灰色粘質土が堆積している。

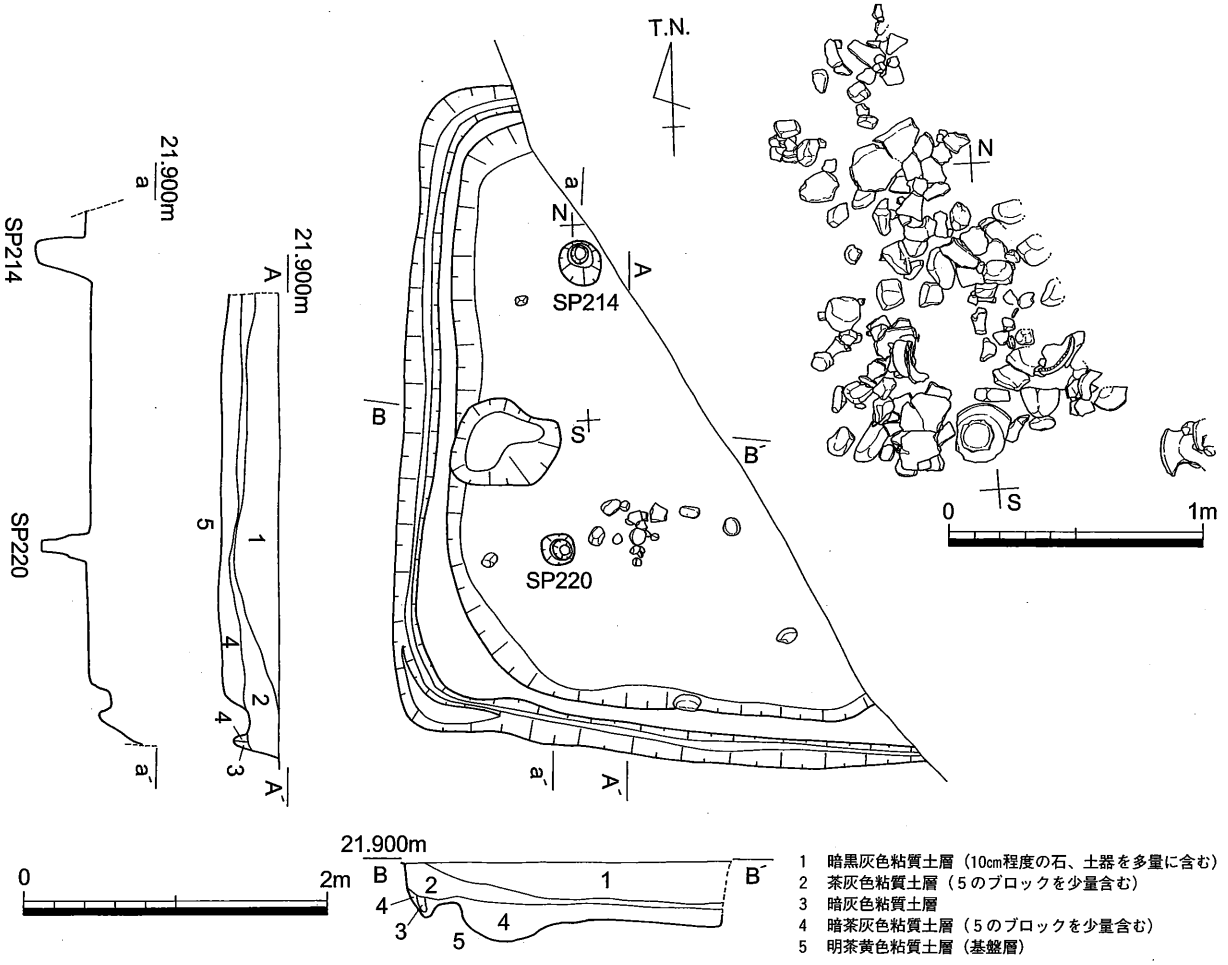
東部分が調査区外であること南部に撹乱溝があることから、竪穴住居内の詳細は不明で、主柱穴も確認していない。

竪穴住居内堆積土から遺物が出土している。

278～280 は弥生土器壺である。278・279 は口縁部が朝顔形に開くもので、279 は頸部と体部の境の屈曲部外面に刻み目のある突帯を持つ。280 は細頸壺で、頸部はほぼ直線的に外上方に延びる。



第28図　SH06平・断面図，出土遺物実測図



第29図　SH07平・断面図，遺物出土状況

281・282は弥生土器甕である。口縁端部は拡張せず、281は僅かに外面に沈線を施している。283は弥生土器高坏である。口縁端部上面をほぼ水平にする。284は脚付きの鉢である。口縁端部上面を水平にし、外面口唇部に刻み目を施す。

時期は、細頸壺の頸部が直線的であること、甕の口縁端部がそのまま終わらせていることから弥生時代後期前半と考えられる。

SH07

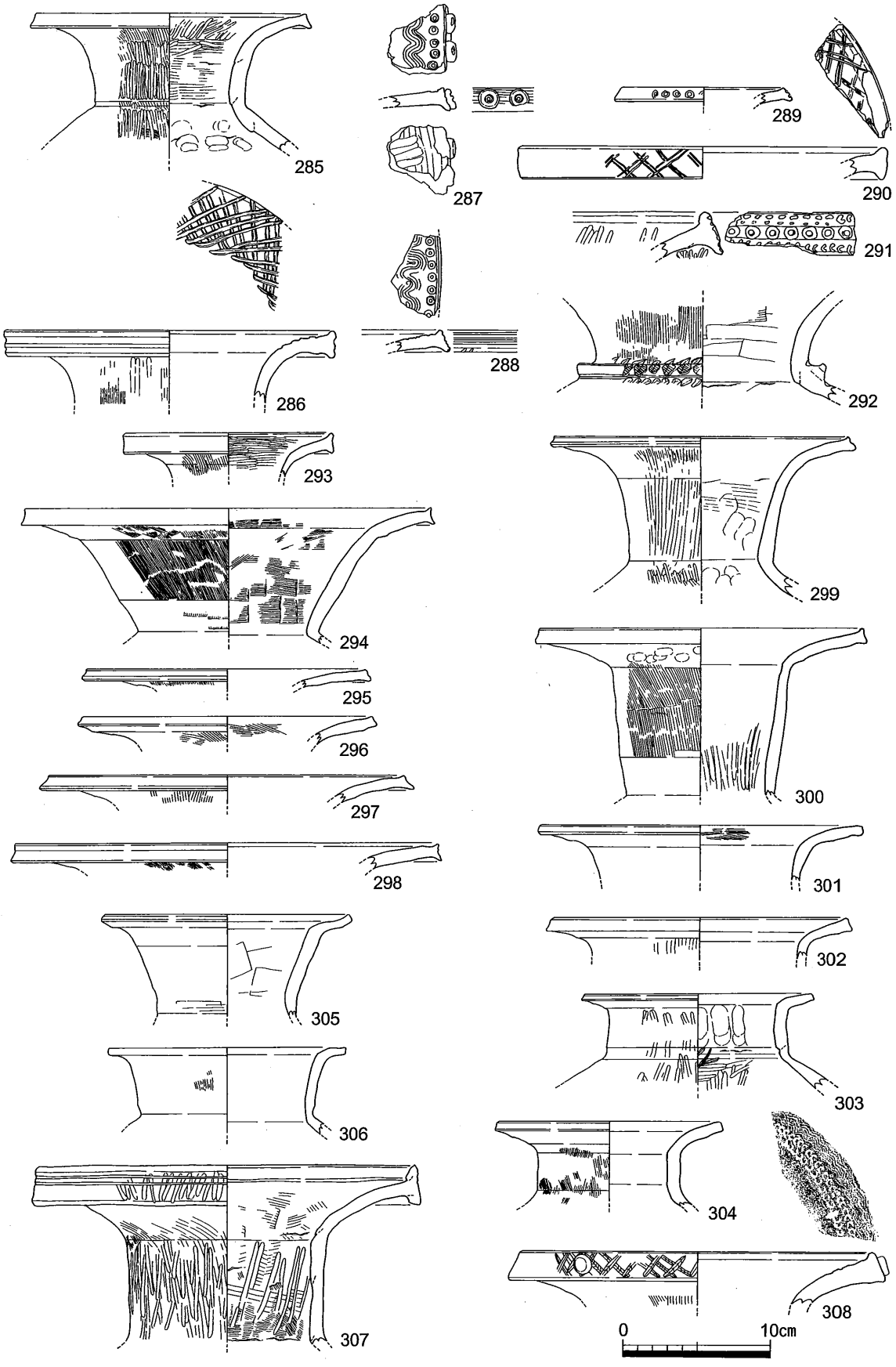
ＳＨ07は第Ｉ調査区北部、標高21.84ｍで検出した竪穴住居跡である。北東部が調査区外に延びるが、平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約4.41ｍ、西－東方向南側の残存長が約3.60ｍ、検出面からの深さは約0.40ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約4.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は４層で、ほぼ中央部にレンズ状に堆積する第１層暗黒灰色粘質土、ほぼ水平堆積する第２層茶灰色粘質土・第４層明茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土、竪穴住居内周囲の壁構内を中心に第４層と側板痕跡としての第３層暗灰色粘質土が堆積している。

竪穴住居内では主柱穴及び壁溝を検出している。炉は検出しておらず、調査区外にあるものと思われる。壁溝の内側には壁溝に沿うように、幅15～30cm程度の土手状の高まりがあり、床面はこの土手状の高まり上端から約20cm程度低い位置で検出した。主柱穴は床面の北西及び南西隅近くで、西側２穴を検出している。平面形態は円形を呈し、規模は直径が23～30cm、深さ30～37cmを測る。柱穴断面が２段掘りになっており、内側の低い部分が柱痕と考えられる。推定柱痕径は10～13cmを測る。壁溝は竪穴住居検出部分の壁際で検出しており、全周しているものと思われる。検出面の幅は20～25cm、深さ約10cmを測る。土層断面Ａ－Ａ´、Ｂ－Ｂ´に側板痕跡と考えられる土層（第３層）を確認しており、最大幅が約4.0cmで、側板の厚さがほぼその程度であった可能性が推測できる。

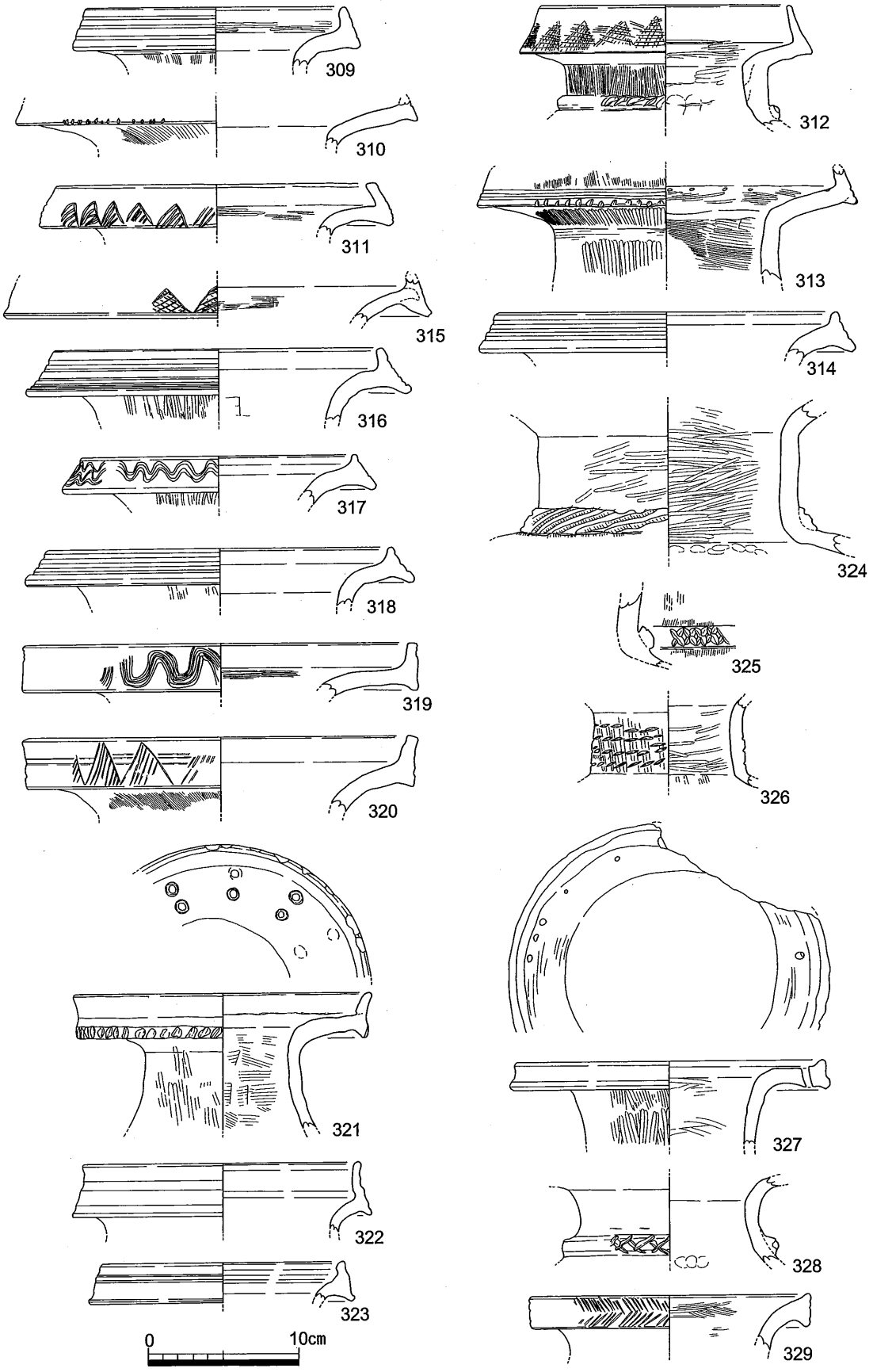
竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土（第１・２・４層）出土遺物、床面直上出土遺物、壁溝内出土遺物に分けられる。

285～521は竪穴住居内堆積土第１層から出土した遺物で、この層のみに古墳時代の須恵器が少量出土している。第１層の上面は隅丸の方形状を呈し、一辺約3.5ｍ、最深部約0.30ｍで、竪穴住居跡のほぼ中央部がレンズ状に窪むように堆積する。出土遺物は弥生時代中・後期の弥生土器、古墳時代の須恵器、10cm程度の礫（ほとんどが砂岩）がコンテナ７箱分と多量に出土している。第１層のレンズ状堆積と古墳時代の須恵器を包含する状況は、ＳＨ01と同様である。

285～495は弥生土器で、壺・甕・鉢・製塩土器・器台・石製品などが出土している。285～347は壺で、大別すると頸部が朝顔形に開くもの、頸部が直線的に延び、口縁部が開くもの、頸部が短く、口縁部が開くものがある。頸部が朝顔形に開くものは、口縁端部を上下方向に僅かに拡張し、端部外面に沈線・斜格子文・竹管文が施されている。また口縁部上面（内面）には斜格子文・竹管文・波状文が施されている。頸部が直線的に延びるものは、頸部の角度がかなり開き延びるもの、やや開き延びるもの、ほぼ上方に延びるもの、やや内傾気味に延びるものがある。10は頸部がかなり開くもので、口縁端部は上下に摘み出す。頸部から口縁部にかけて内外面に11本／１cmの細かい刷毛目が施されている。頸部がやや開き気味に延びるものも口縁端部を上下に僅かに摘み出すが、その端部は丸みを持つ。頸部外面には５～８本／１cmのやや粗い刷毛目が施されている。頸部がほぼ上方に延びるものは、口縁端部をかなり上下に拡張し、外面には沈線・鋸歯文・波状文・櫛先による格子文・綾杉文が施されている。また頸部外面にはヘラ先による刺突文、頸部と体部の境の屈曲部外面には櫛先・ヘラ先による格子文が施された突帯を巡らすものもある。頸部がやや内傾するものは、口縁端部を上下に拡張するが、端部外面下半に刻み目を持つ程度で、加飾は少ない。頸部が短く屈曲するものの口縁端部は、僅かに上下あるいは下方に拡張するものの、外面の施文は少ない。このように出土した壺の頸部の形態により、口縁端部の拡張・施文に違いが認められる。339は口

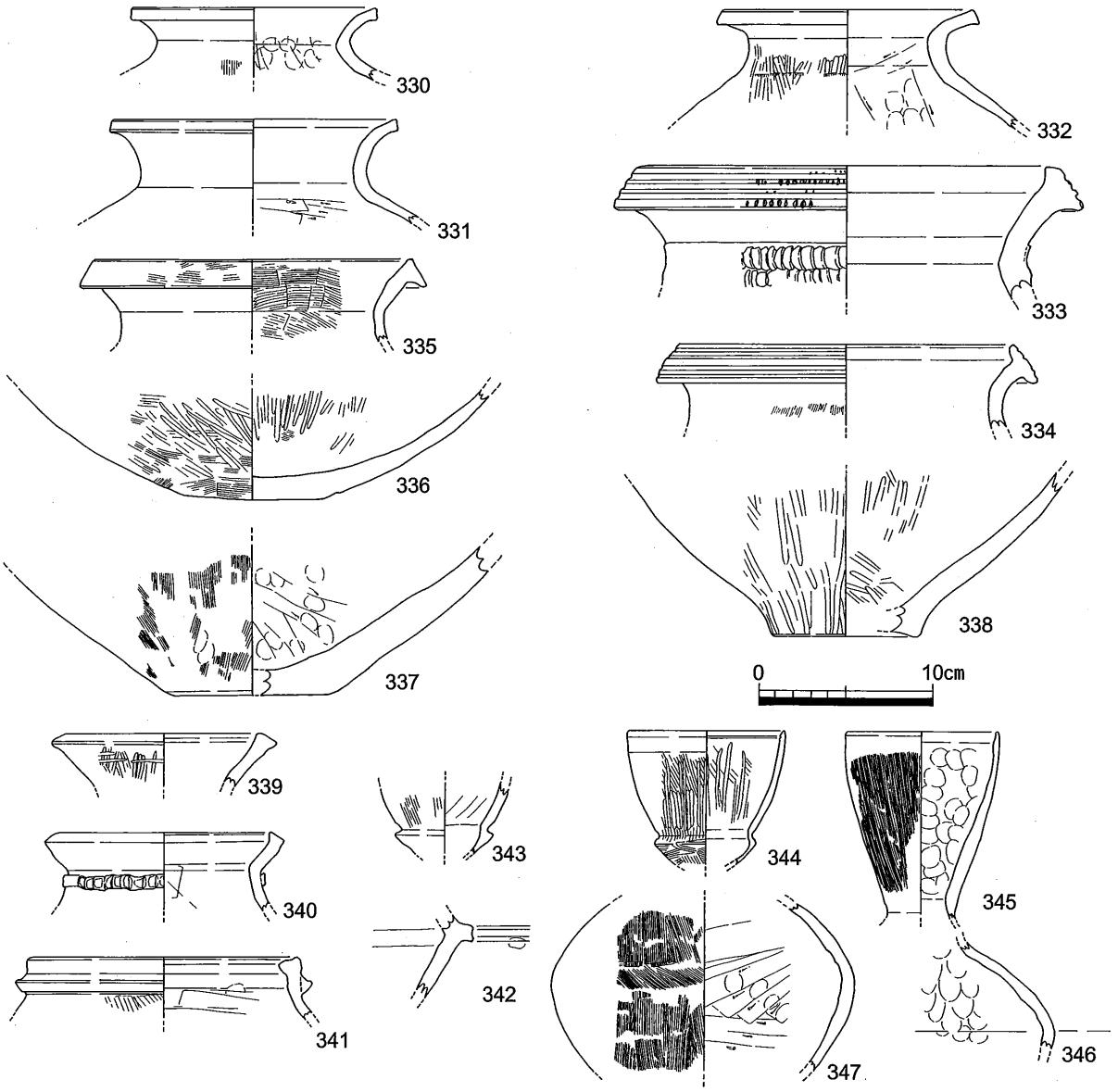


第30図　SH07出土遺物実測図①

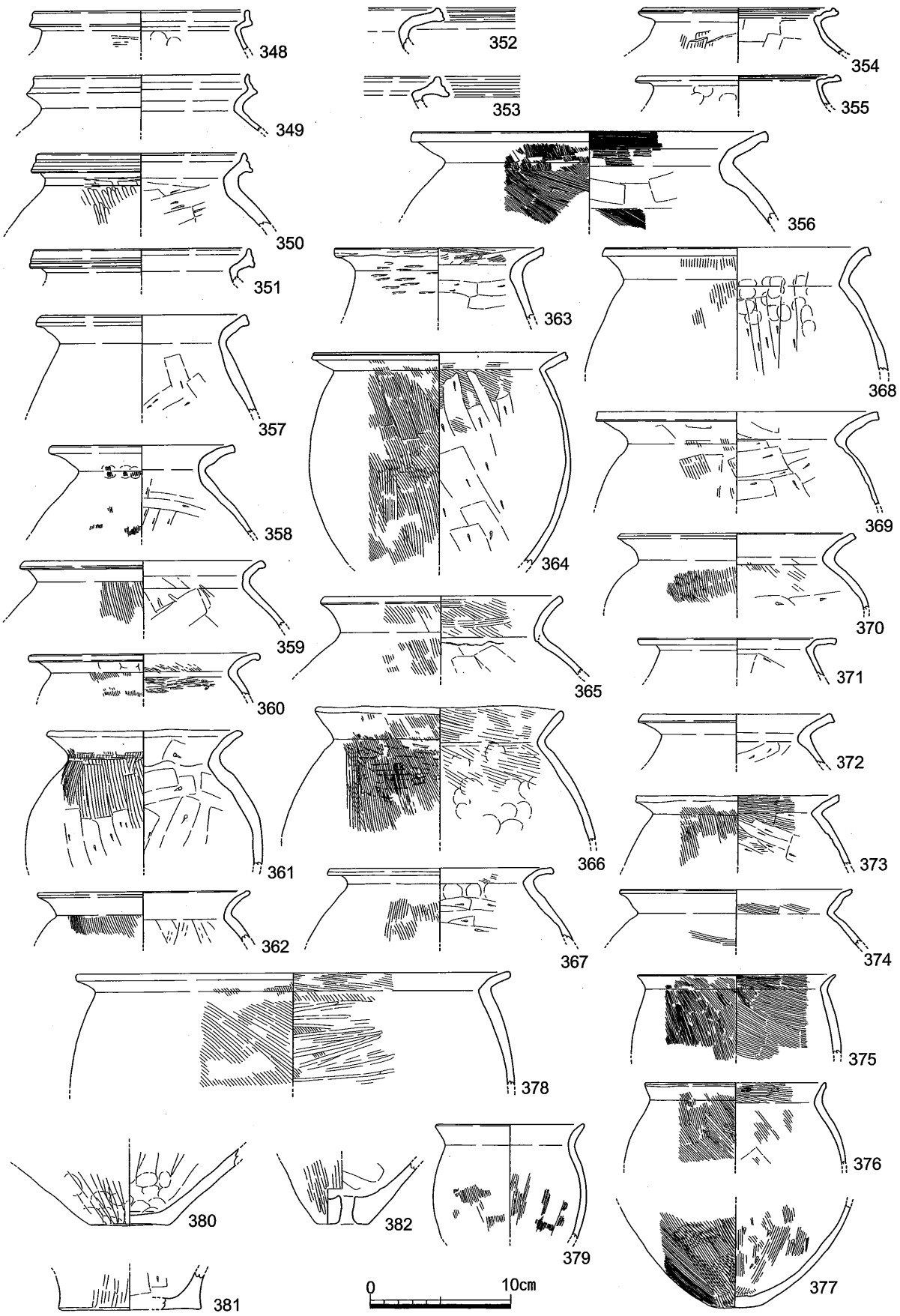


第31図　SH07出土遺物実測図②

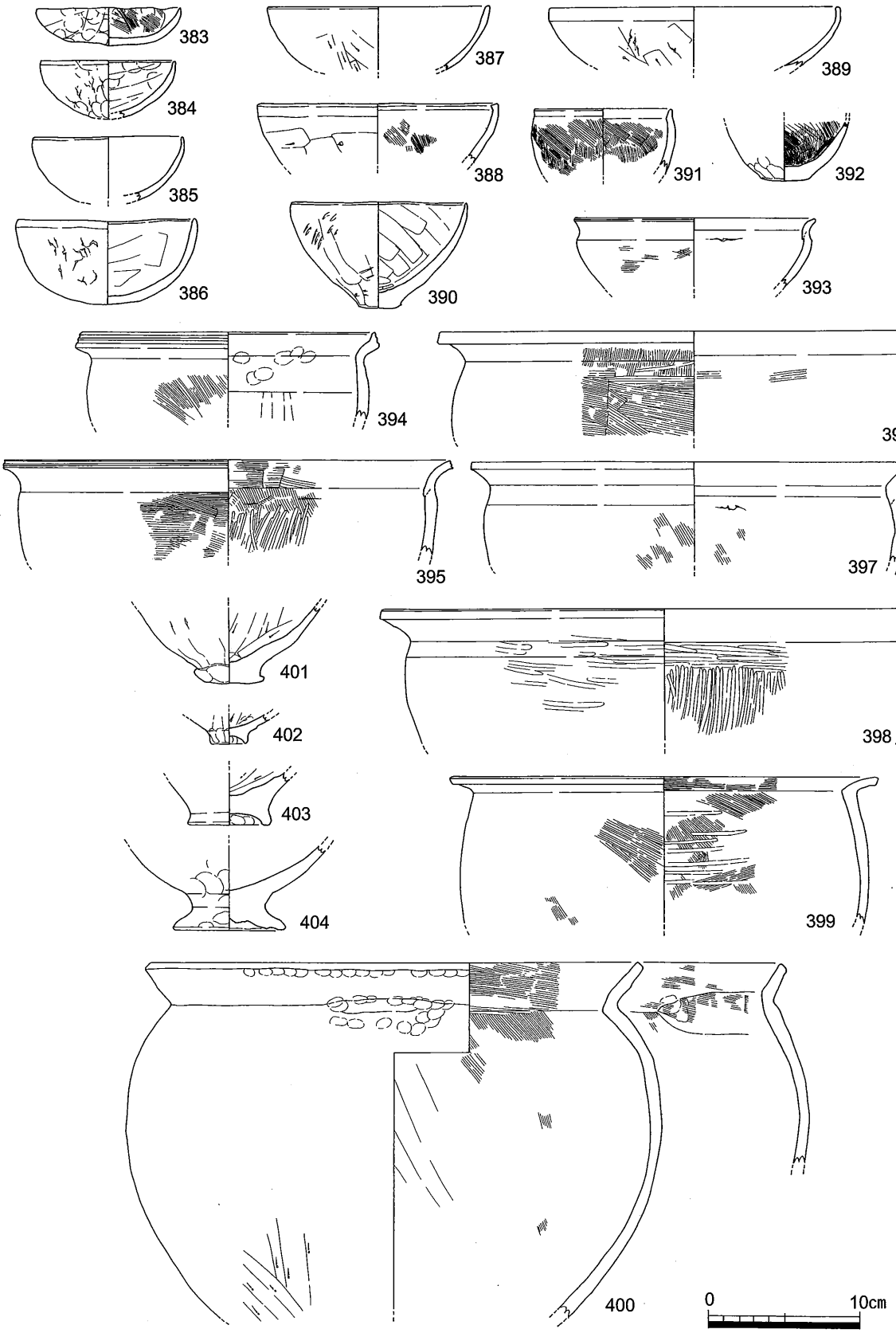
縁部が直線的に外上方に延び、口縁端部を僅かに上下に摘み出す壺である。340は頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部が短く、やや内湾気味に外上方に延びる壺である。頸部屈曲部外面には爪形圧痕文を持つ突帯をめぐらす。341は口縁部が内傾し、口縁部外面下に断面三角形の突帯を一条めぐらす無頸壺である。342は体部が算盤球状を呈し、屈曲部外面に断面方形の突帯をめぐらす特殊壺と考えられる。343・344は小型丸底壺で、体部は算盤球状を呈し、浅く、小さい。口縁部は内湾気味に外上方に延びる。口縁部内外面には縦方向のヘラ磨きが施されている。底部に脚が付くかは不明である。345～347は細頸壺である。345の口縁部は下半が直線的で、上半が内湾気味に延びる。壺の時期は弥生時代中期後半から後期前半と考えられる。348～382は甕である。頸部は「く」の字に屈曲し、頸部内面に稜をもつものと緩やかに屈曲するものがある。口縁端部は上下あるいは上方のみに拡張するものは少なく、ほとんどがそのまま終わらせるものである。体部内面にはヘラ削りが、外面には主として刷毛目が施されている。354・355は全体的に薄く作られており、口縁部内面に凹線状の窪みを持つ。366は体部外面に叩きの後、９本／１cmの刷毛目が、内面には指頭痕が施



第32図　SH07出土遺物実測図③



第33図　SH07出土遺物実測図④



第34図　SH07出土遺物実測図⑤

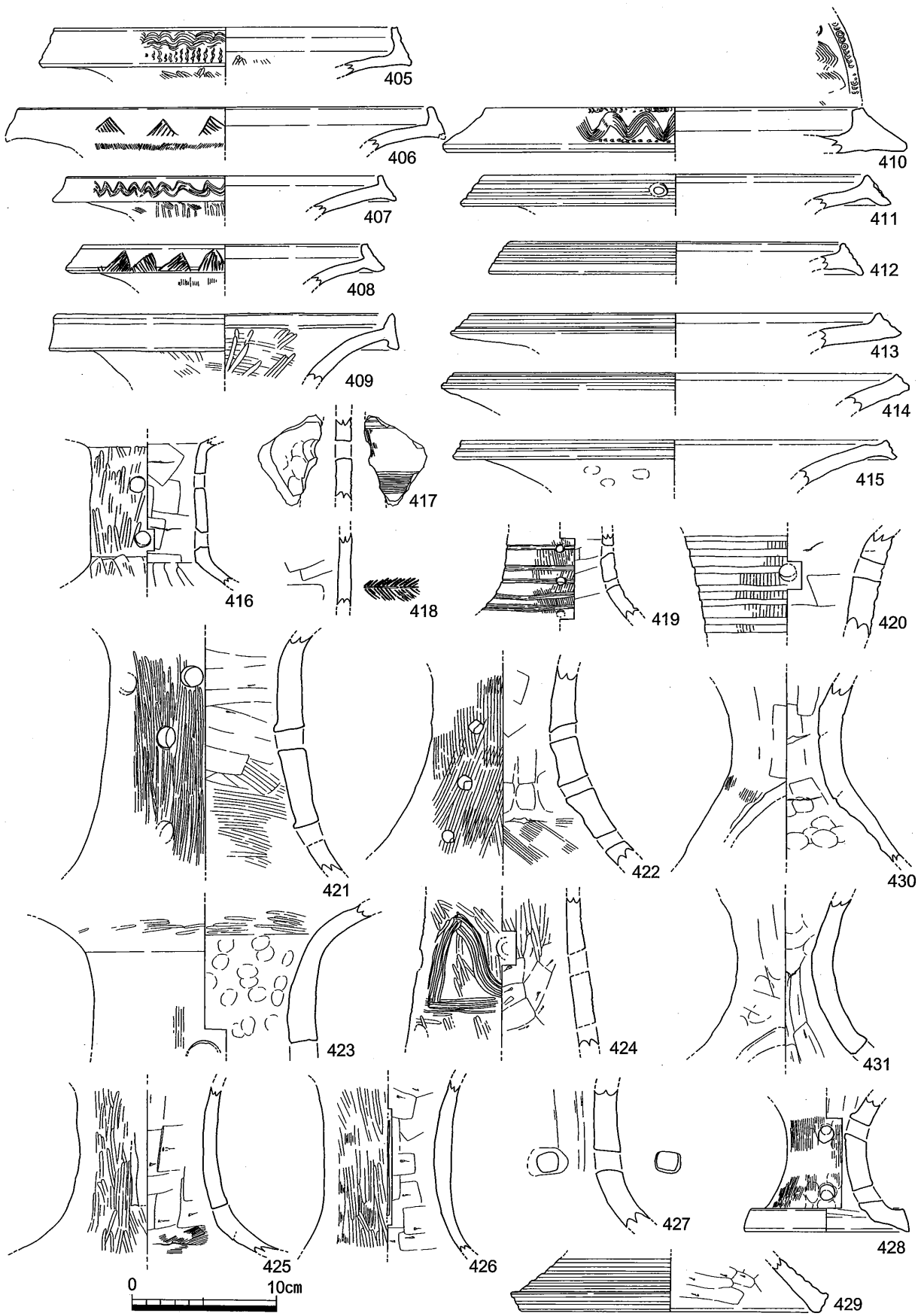
される甕で、弥生時代後期中葉と考えられる。377の底部は丸底気味の平底を呈し、丸底化が認められる。甕の時期は弥生時代後期前半から後期中葉と考えられる。383は皿、384～404は鉢である。鉢は口縁部が内湾し、そのまま終わらせるもの、口縁部を「く」の字に屈曲させるもの、また底部は丸底のもの、突出気味に平底の底部を持つもの、高台状を呈するものがある。口縁部の形態では、それぞれに大・中・小があり、口縁部をそのまま終わらせるものは、口径約20cm、15～16cm、9～10cmを測る。口縁部が屈曲するものは、口径約30cm以上、16～20cm、約9cmを測る。口縁部を屈曲させるものに大型化の傾向が認められる。405～431は器台である。中央部が筒状を呈し、上下が外方に広がる形態である。口縁部は上方に拡張するものと上下に拡張するものがある。口縁端部外面には波状文・鋸歯文・竹管文などが施されている。筒状の部分には円形・方形穿孔、三角形状の透かしを持つ。外面には縦方向のヘラ磨き・刷毛目・沈線・櫛先による波状文などが施されている。418は筒部外面に綾杉文が認められる。430・431は下半部に三角形状の透かしを持つもので、ヘラ磨き・刷毛目を施さず、指頭痕・指ナデのみのもので、他の器台に比べるとやや雑に作られている。432～479は高坏である。口縁部の形態で、「C」字形口縁を持つもの、水平に口縁部を持つもの、口縁部が内方に「く」の字に屈曲するもの、内湾する口縁部から端部が左右に拡張するもの、口縁部が内方に屈曲し、外反しながら外上方に延び、端部を左右に拡張するもの、そのまま終わらせるものなど、口縁部の形態にかなりのバリエーションが認められる。また脚部は上半部が筒状を呈するもの、スカート状に開くものがあり、円形の穿孔、矢羽状透かしを持つものがある。脚部内面にはヘラ削りを多用するものが目立つ。477は脚部下半外面に葉状の線刻が認められる。480～492は支脚である。粘土塊を成形したもの、筒状を呈するもの、筒状を呈し、上端と下端が外方に開くもの、取手状を呈するものがある。480は断面台形を呈し、粘土塊から上面を若干傾斜させ、下面は中央部を窪ませ、高台状を呈する。上端と下端を外方に開くものは胴長で、口縁端部には刻み目を施している。小型のものは器高が6cm程度を測る。494は製塩土器の脚の可能性が考えられる。495は脚台付きの鉢か。

496は円形に成形した粘土塊である。

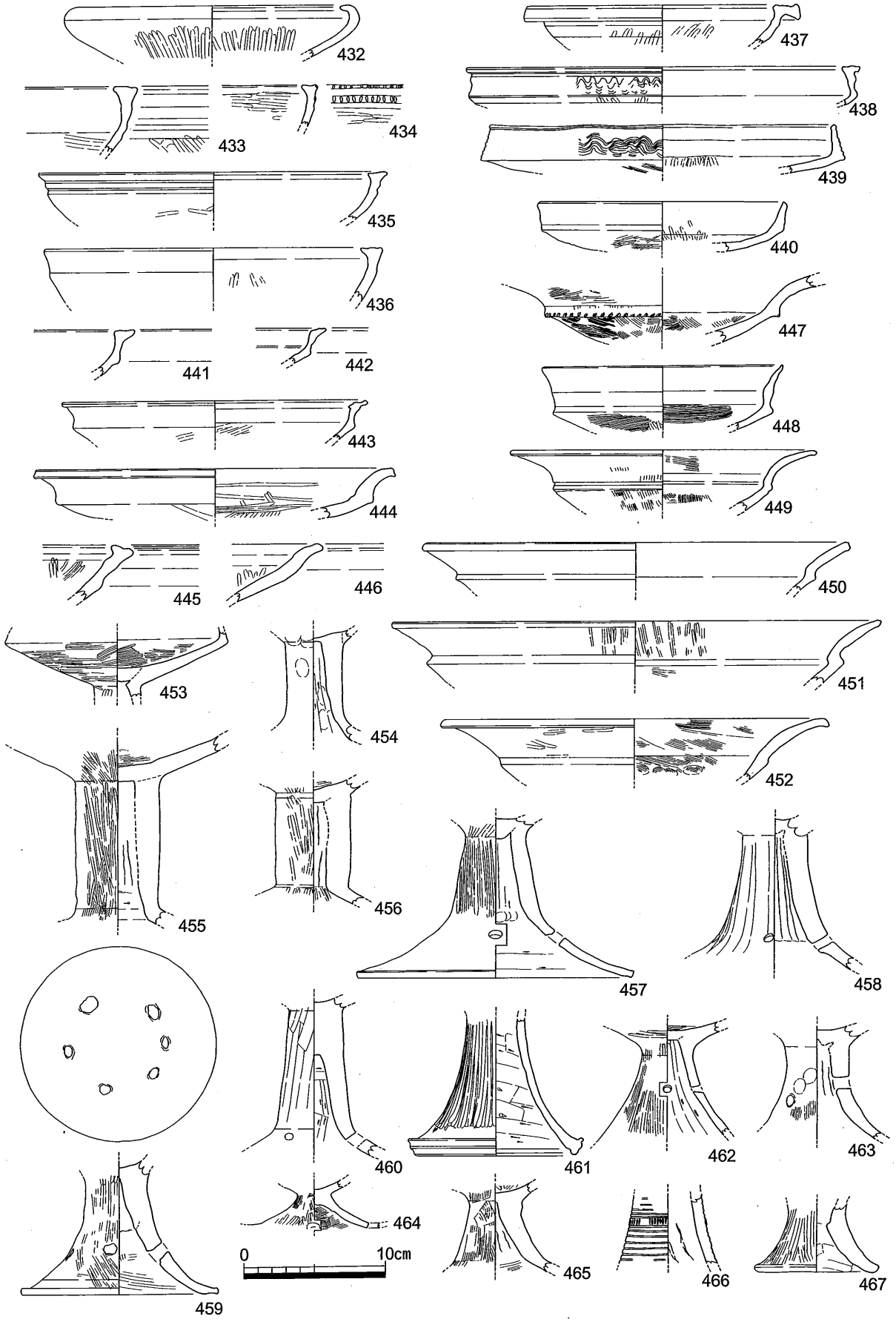
497～499は須恵器である。497・498は坏身で、口縁部が内傾気味に上方に真っ直ぐ延び、端部内面に段を持つ。底部はヘラ削りが施されている。499は壺あるいは甕の体部で、外面に5mm角の格子目叩きが、内面に同心円状の当具痕が認められる。時期はそれぞれが陶邑編年（田辺1981）で、MT15型式に対応し、6世紀前半と考えられる。

500～521は石製品である。500・501はサヌカイト製の石鏃で、500は紡錘形を呈し、基部は凹基式のものである。504は結晶片岩製の石包丁で、両端に抉りが認められる。505は大形のスクレイパーである。506は緑泥片岩製の柱状片刃石斧、507は緑泥片岩製の蛤刃石斧である。509～512は砂岩製の叩き石、513～520は砂岩製の台石、521は砂岩製の台石兼砥石である。

522～536は堆積土第2層から出土した遺物で、第1層のように古墳時代の須恵器は包含していない。第2層の堆積状況はほぼ水平堆積で、層厚は厚い部分で、約20cmを測る。出土遺物は弥生土器で、壺・甕・鉢・高坏が出土している。522・523は壺で、口縁端部を上下に摘み出す。524～529は甕で、527は口縁端部を上方に短く摘み上げるが、それ以外のものはそのまま終わらせるものである。頸部は「く」の字に屈曲し、頸部内面に明瞭な稜を持つ。体部は紡錘形を呈し、体部最大径はほぼ中位にある。底部は僅かに平底を残す。体部外面には7～9本／1cmの刷毛目が、内面にはヘ



第35図　SH07出土遺物実測図⑥

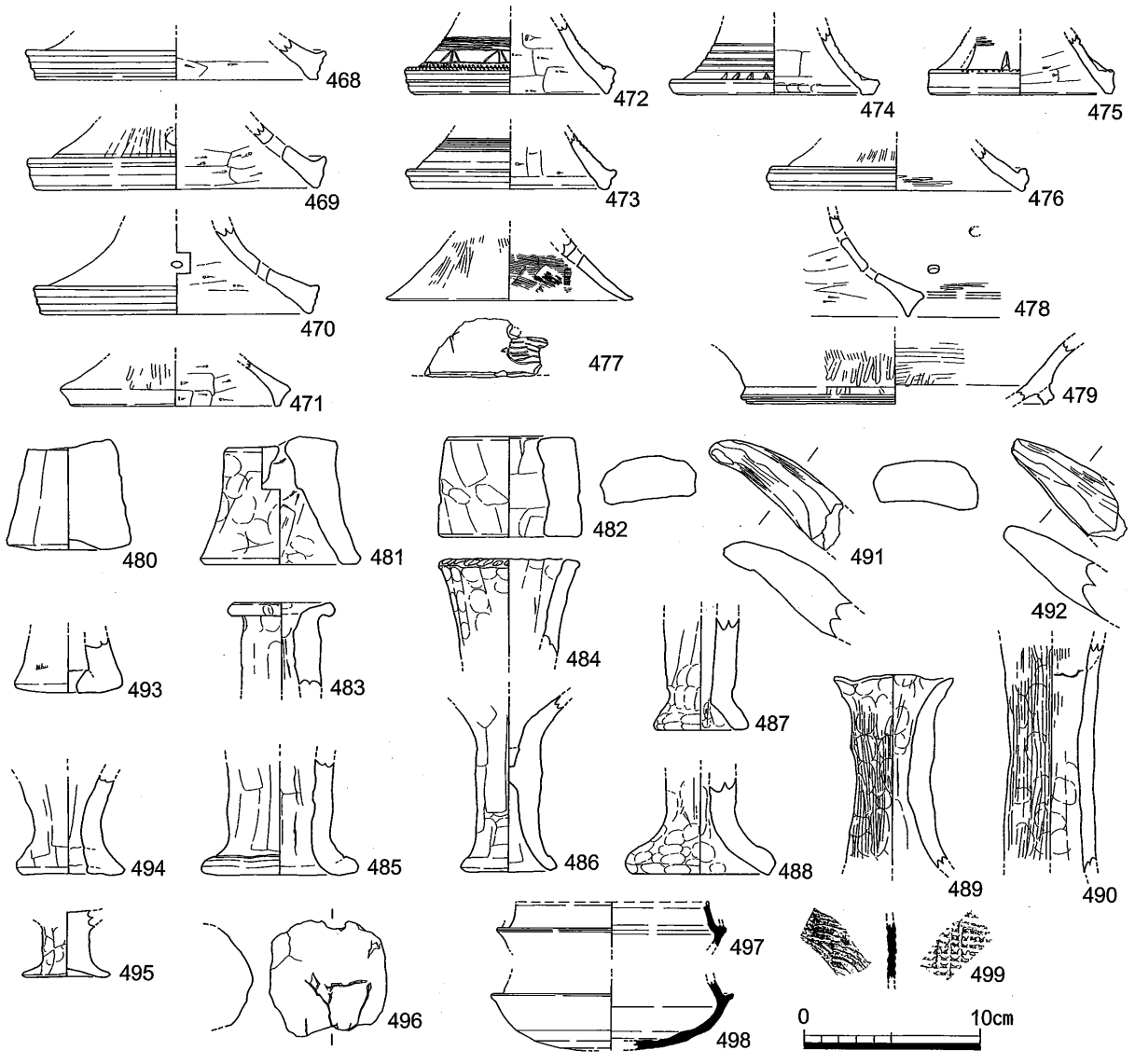


第36図　SH07出土遺物実測図⑦

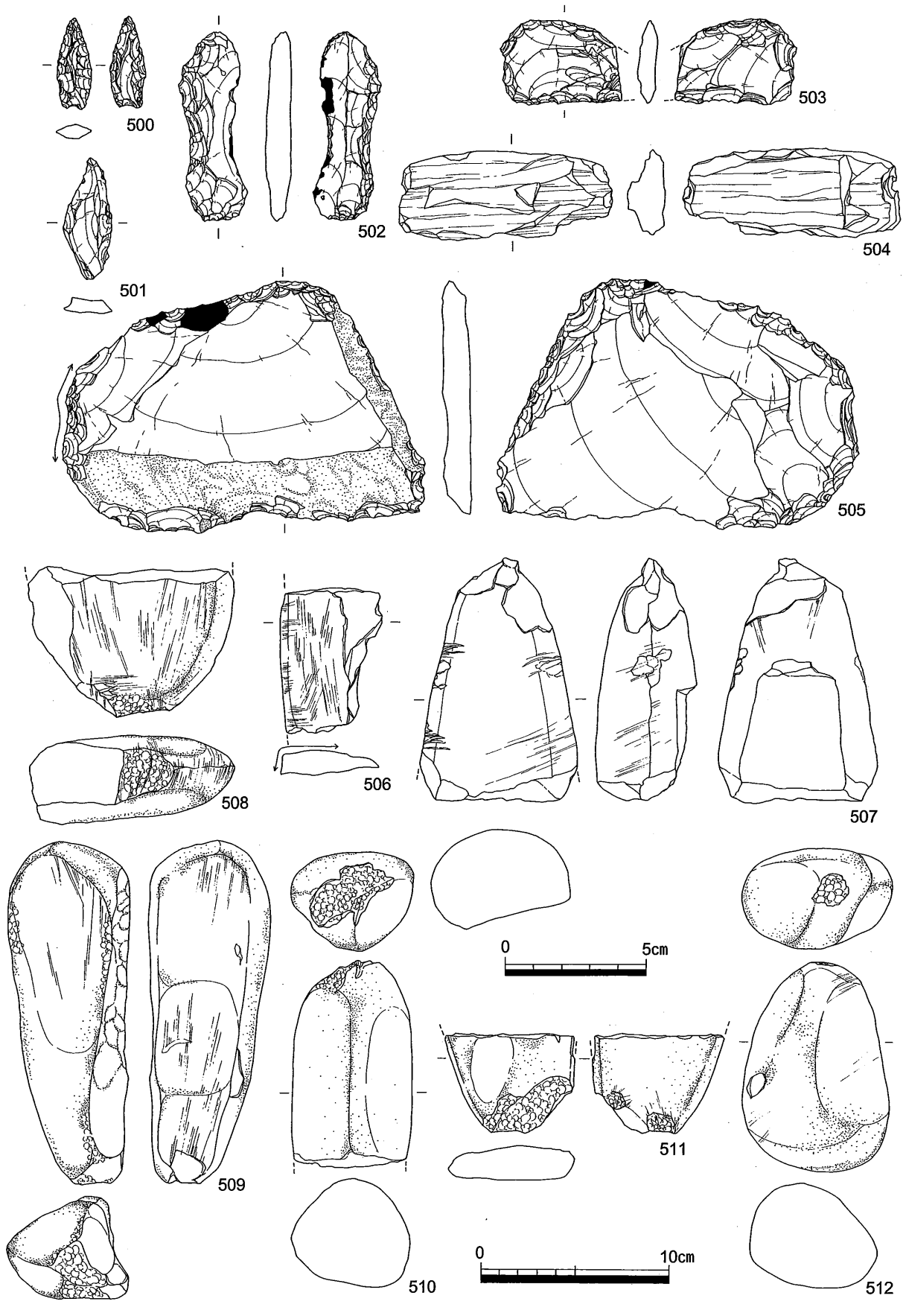
ラ削りが施されている。529は体部内面下半がヘラ削りで、上半は指頭痕が施されている。530～534は鉢で、口縁部が内湾し、そのまま終わらせるものと「く」の字に屈曲するものがある。535・536は高坏で、535は口縁部が「C」字形を呈する高坏である。

537～545は堆積土第4層から出土した遺物で、堆積層は水平堆積で、層厚は約13㎝を測る。出土遺物は弥生土器で、壺・甕・高坏が出土している。537～540は壺で、口縁部がそのまま終わるものと上下に拡張するものがある。538は口縁端部外面に2条の沈線が施される。543は底部に穿孔が認められることから、甑と考えられる。544・545は高坏で、口縁部が内湾し、上端をほぼ水平にする。

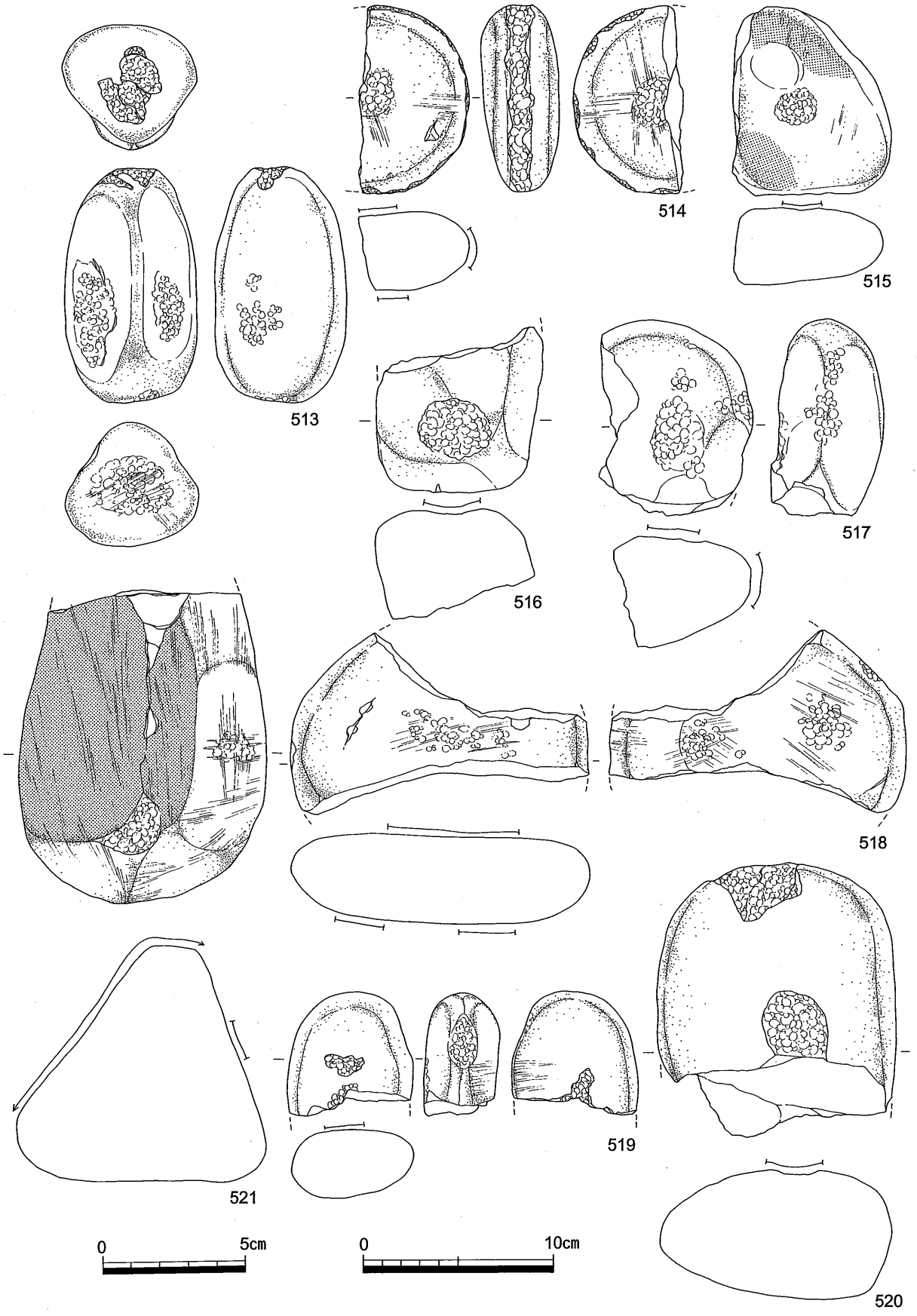
546～553は竪穴住居内床面直上から出土した遺物である。これらは床面南西部で出土している。546・547は壺で、口縁端部を上下と上方のみに拡張したものがある。両者ともに端部外面に2～3条の沈線が施されている。548・549は甕である。549は体部が紡錘形を呈し、「く」の字に屈曲する頸部から口縁部がかなり水平気味に開き、口縁端部はそのまま終わらせる。体部最大径はほぼ中位にあり、体部外面には5本／1㎝の粗い刷毛が、内面にはヘラ削りが全面に施されている。



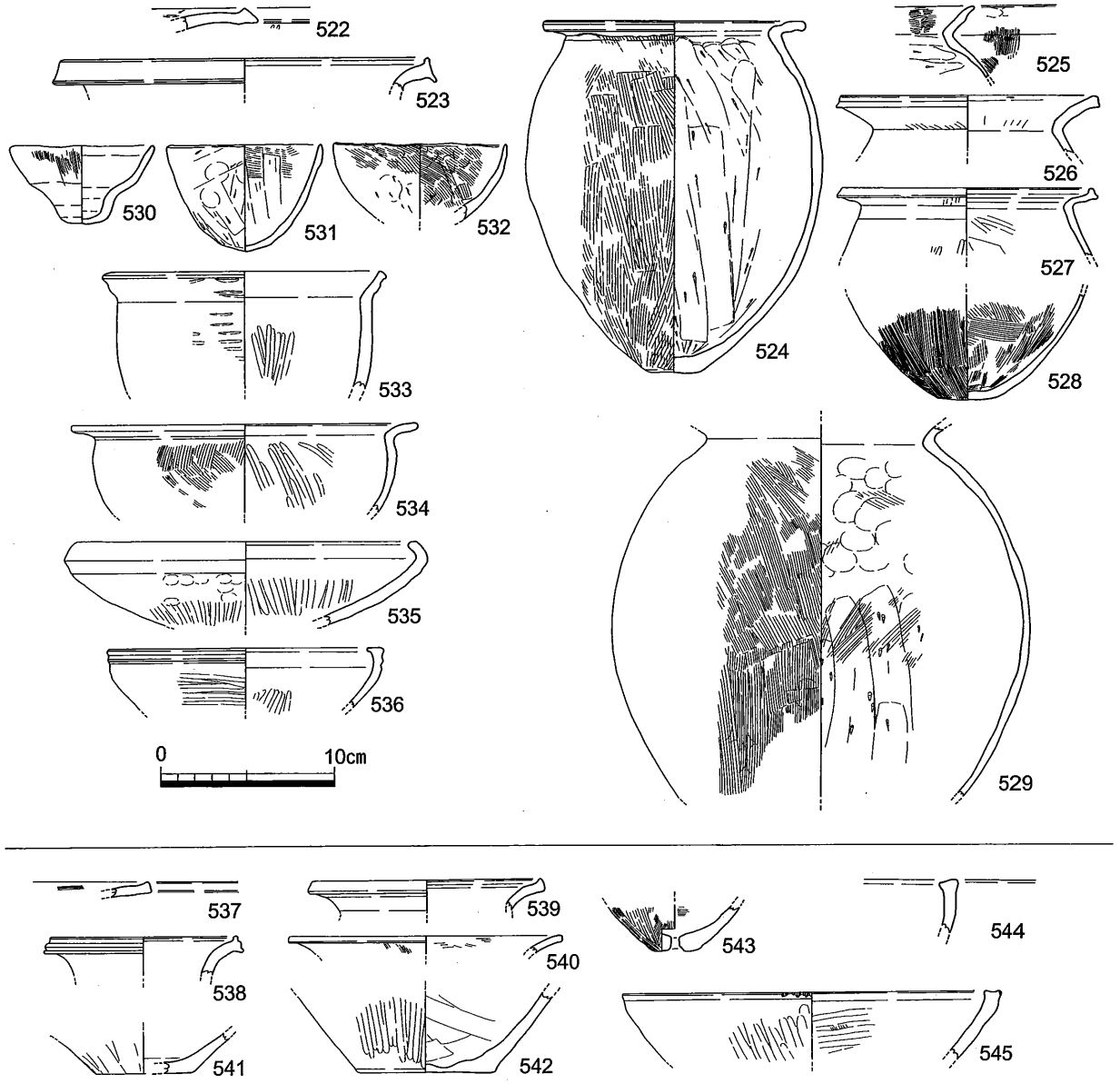
第37図　SH07出土遺物実測図⑧



第38図　SH07出土遺物実測図⑨



第39図　SH07出土遺物実測図⑩



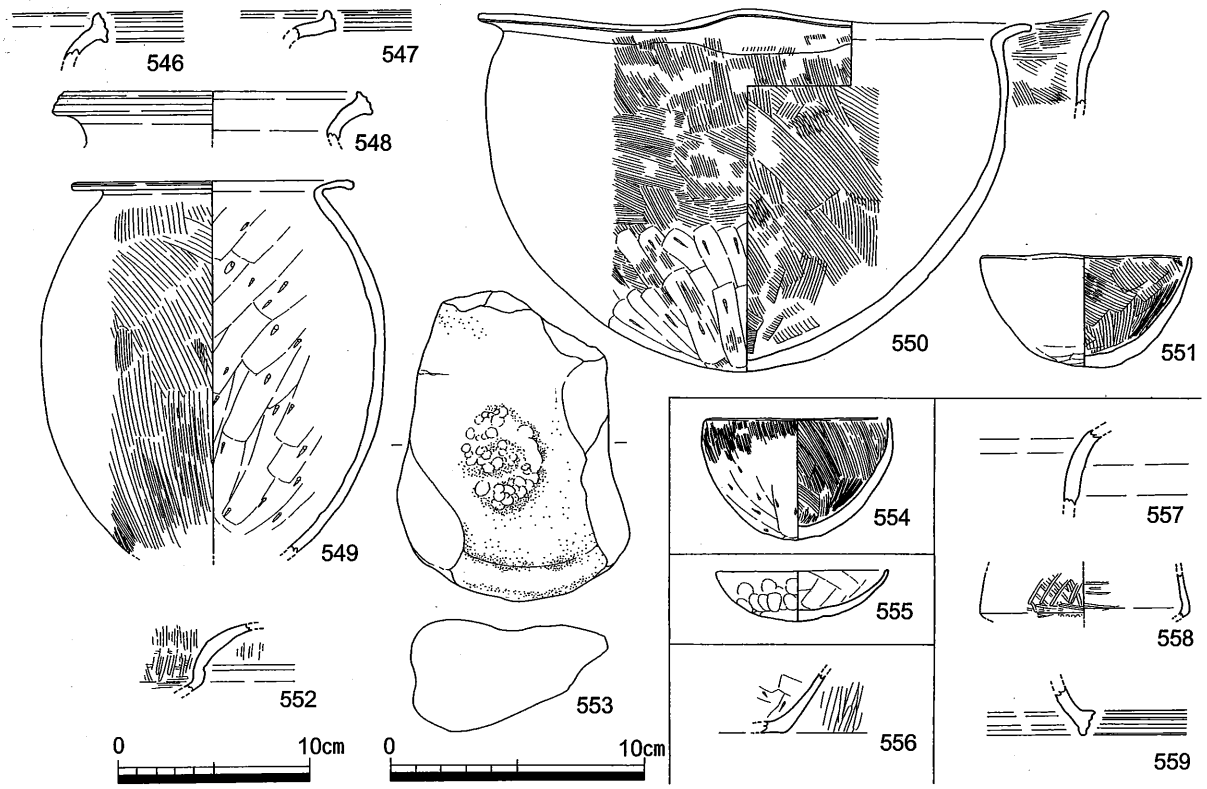
第40図　SH07出土遺物実測図⑪

550・551は鉢で、大形のものと小型のものがある。大形のものは口縁部を「く」の字に屈曲させる。内外面ともに刷毛目調整を主としているが、外面下半から底部にかけてはヘラ削りが認められる。552は高坏、553は砂岩製の台石である。554・555・556は床面直上の単独で出土したものである。557～559は壁溝から出土した遺物である。

時期は竪穴住居内堆積土第１層から古墳時代の須恵器が出土しているが、床面直上遺物、壁溝出土遺物で、鉢に小型の器種があること、皿があること、甕の口縁端部が拡張せず、そのまま終わらせるものであること、甕の体部最大径がほぼ中央にあることから弥生時代後期後半と考えられる。

参考文献・引用文献

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店



第41図　SH07出土遺物実測図⑫

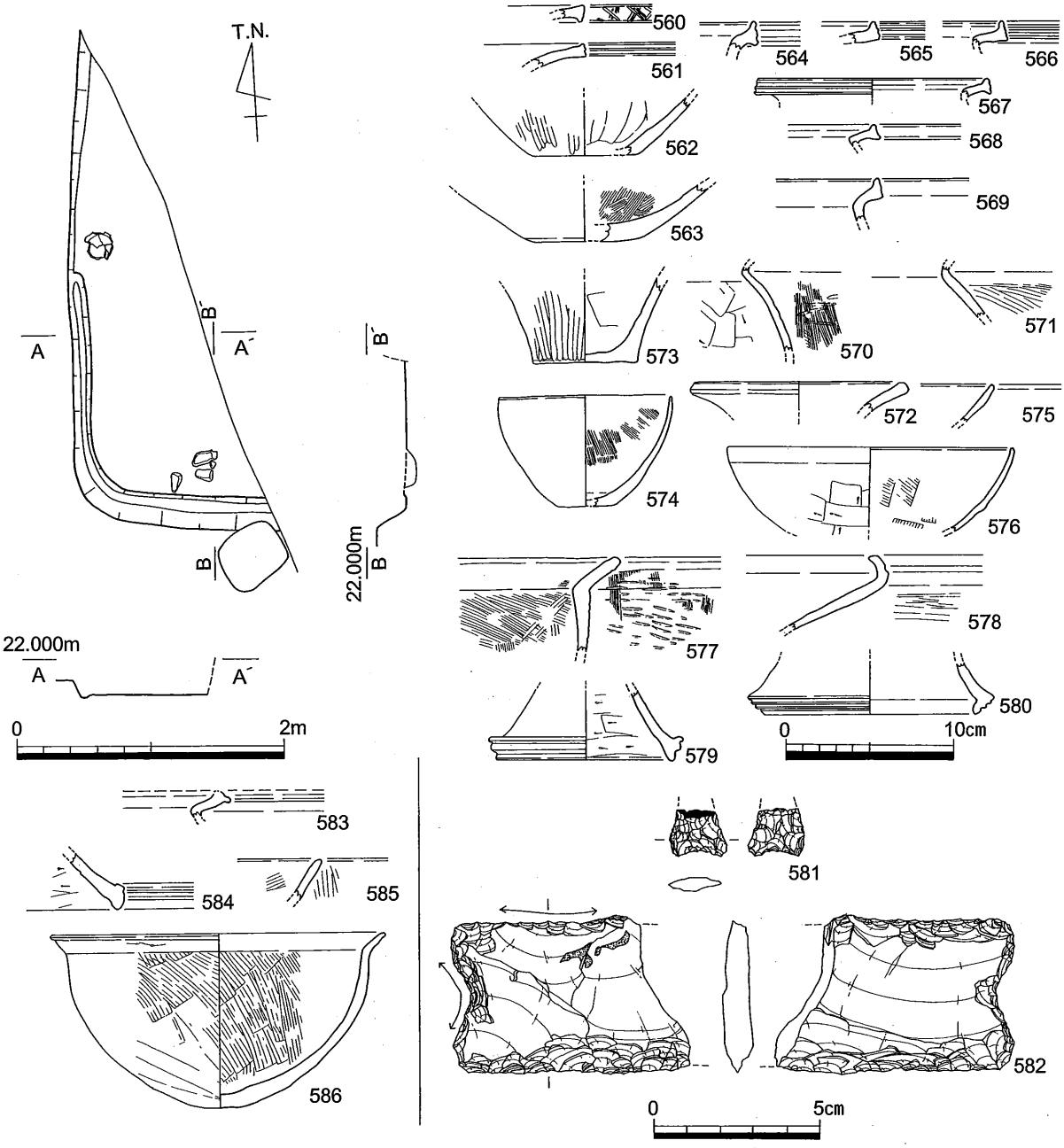
SH08

SH08は第Ⅰ調査区北部、標高21.85mで検出した竪穴住居跡である。北東部が調査区外に延びるが、平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向の残存長が約3.60m、西－東方向南側の残存長が約3.60m、検出面からの深さは約0.15mを測る。北－南方向の主軸は真北より約4.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は明茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土が堆積している。

竪穴住居内では、南西隅部分で壁溝を検出している。炉は検出しておらず、調査区外にあるものと思われる。南西隅部分で検出した壁溝の検出面の幅は14～24cm、深さ約3cmを測る。

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土、床面直上出土遺物に分けられ、上層からは古墳時代中期須恵器が出土している。また、サヌカイトの剥片も出土している。

560～582は堆積土から出土した遺物で、弥生土器の壺・甕・鉢・高坏・石製品などが出土している。560～563は壺で、口縁端部を上方・下方に摘み出し、外面にはヘラ描による格子文を施す。底部はしっかりした平底で、外面に縦方向のヘラ磨きが施されている。564～573は甕で、口縁端部を上方・上下に摘み出し、端部外面に2条の沈線を持つ。頸部は「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。574～577は鉢で、口縁部を内湾させながらそのまま終わらせるものと口縁部を「く」の字に屈曲させるものがある。578～580は高坏で、坏部口縁は「C」字状に巻き込むように内湾する。脚はスカート状に広がり、端部は上下に拡張し、外面に2条の沈線を持つ。脚部内面にはヘラ削りが施されている。581・582はサヌカイト製の石製品で、581は凹基式の石鏃、582は石包丁である。583～586は竪穴住居跡の西壁際の床面直上から出土した遺物である。583は甕で、口縁端部を上下に拡張し、外面に2条の沈線を持つ。584は高坏の脚部、585・586は鉢で、口縁端部をそのまま終わらせるものと「く」の字に屈曲させるものがある。



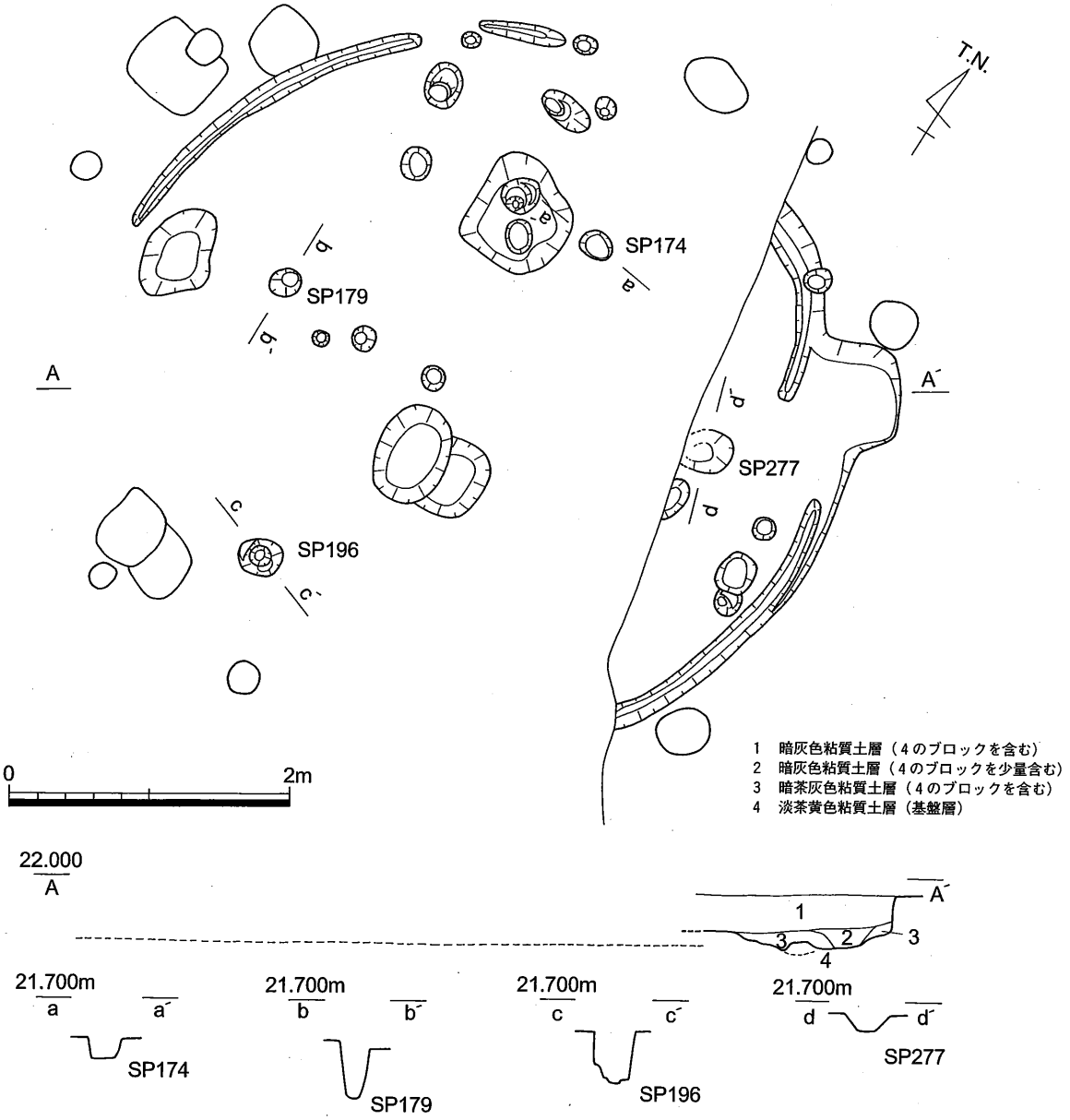
第42図　SH08平・断面図，出土遺物実測図

時期は竪穴住居内堆積土及び床面直上から出土した遺物で、甕の口縁端部を上下に拡張しているものが認められることから弥生時代後期前半～中葉と考えられる。

ＳＨ09

ＳＨ09は第Ⅰ調査区中央部、標高21.87ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の南西部分の削平が著しく、壁溝も確認できないが、残存している部分から平面形態は円形を呈し、北東側で幅約0.8ｍ、長さ約0.3ｍの突出部を持つ。規模は推定で直径約5.40ｍ、検出面からの深さは約0.26ｍを測る。竪穴住居内の堆積土は淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土が全体に堆積する。

かなり削平を受けているため竪穴住居内で、部分的に途切れている壁溝を検出した。壁溝の規模

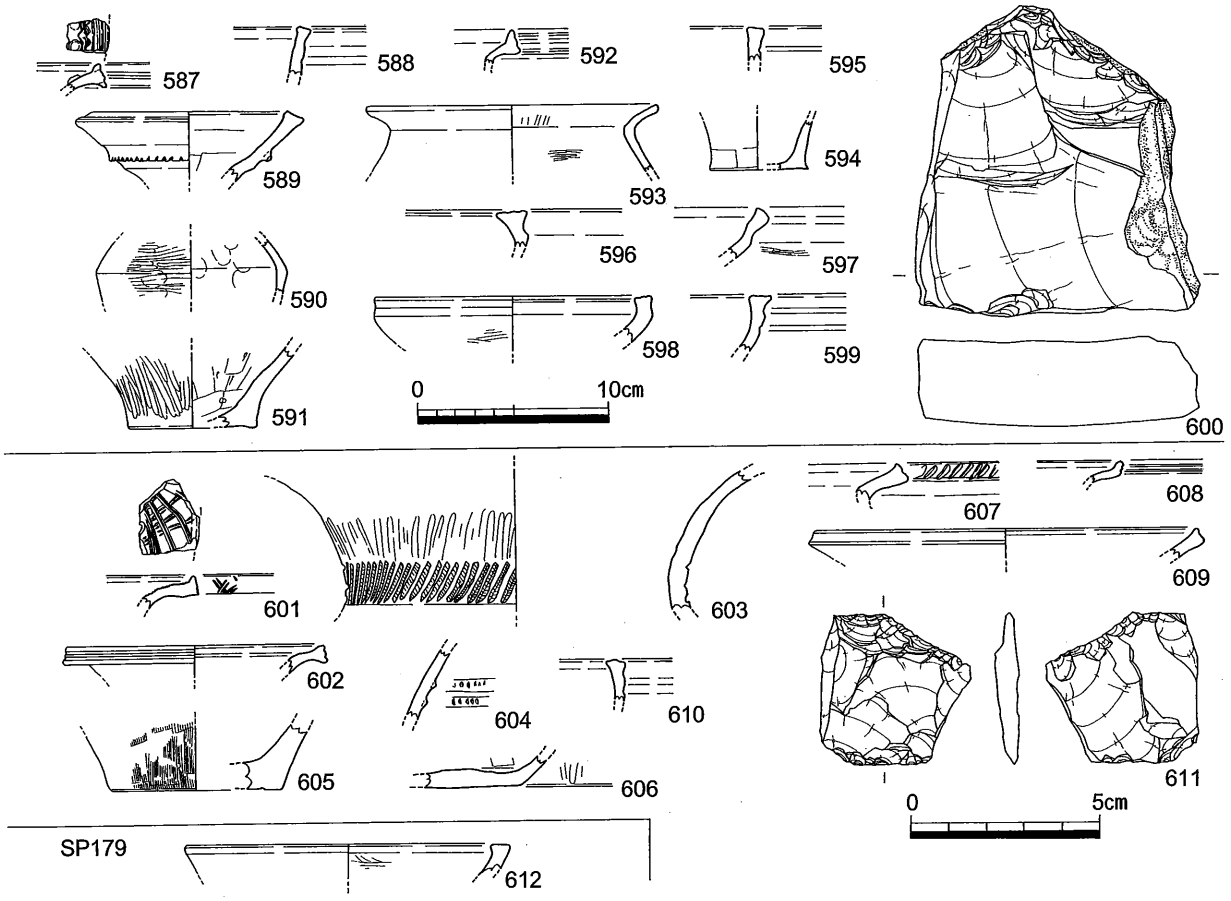


第43図　SH09平・断面図

は幅15～25cm、深さ約５cmを測る。主柱穴は５穴と考えられ、その内の南東側１穴以外の４穴（ＳＰ196、179、174、277）を検出している。主柱穴は平面形態が概ね円形を呈し、直径20～30cm、深さ15～40cmを測る。ほぼ中央部に炉状の柱穴を検出しているが、焼土面・炭等を検出していない。

竪穴住居内からは弥生土器・サヌカイト・焼土が出土している。また、竪穴住居内堆積層中からサヌカイトの0.7～4.0cm程度の剥片が多量に出土している。

587～600は竪穴住居内堆積土の上層から出土したものである。587～591は壺で、口縁部が朝顔形に広がるものと筒状の口縁部が直立いるもの、口縁部が直線的に外上方に延びるものがある。口縁部が直立するものは、口縁部外面に２条の退化した凹線を持ち、外上方に延びるものは刻み目を施した断面三角形の突帯を一条持つ。592～594は甕で、口縁端部を拡張するものとそのまま終わらせ



第44図　SH09出土遺物実測図

るものがある。595は鉢の口縁部、596～599は高坏である。600は石器製作の母岩と思われる。601～611は竪穴住居内堆積土の下層から出土した遺物である。601～606は壺で、頸部から口縁部にかけて朝顔形に開き、口縁端部は僅かに摘み出す。603は頸部下端に櫛先による刺突文を施す。607～609は甕で、607は口縁端部外面に刻み目を持つ。610は高坏、611はサヌカイト製のスクレイパーである。612は主柱穴ＳＰ179から出土した高坏あるいは鉢の口縁部で、端部を左右に僅かに摘み出す。

時期は、甕の口縁端部を拡張し、加飾する弥生時代中期の遺物を含むが、口縁端部をそのまま終わらせるものがあることから弥生時代後期前半～中葉と考えられる。

ＳＨ10

ＳＨ10は第Ⅰ調査区中央部、標高21.80ｍで検出した竪穴住居跡である。ほとんどが調査区外に延び、南西隅の壁溝しか検出していないが、平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向西側の残存長が約0.90ｍ、西－東方向南側の残存長が約0.30ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約6.0°西を取る。

壁溝は、南西隅を検出し、検出面の幅約15㎝、深さ3.0㎝を測る。

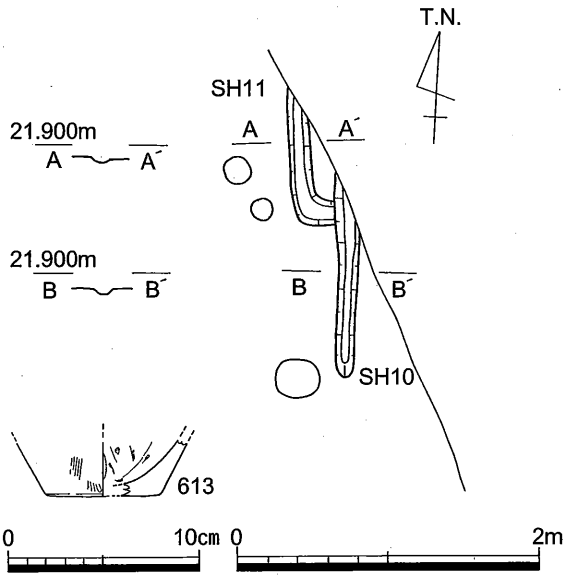
時期は壁溝から遺物が出土していないため、時期は不明であるが、おそらく弥生時代後期と考えられる。

ＳＨ11

ＳＨ11は第Ⅰ調査区中央部、標高21.80ｍで検出した竪穴住居跡である。ほとんどが調査区外に延び、西側の壁溝しか検出していないが、平面形態は方形を呈するものと思われる。規模は北－南方向西側の残存長が約1.55ｍを測り、北－南方向の主軸は真北より約1.5°西を取る。

壁溝は、西側を検出し、検出面の幅約14㎝、深さ3.0㎝を測る。

613は壁溝から出土した壺あるいは甕の底部である。しっかりした平底を呈し、体部外面に刷毛目が、内面にヘラ削りが施されている。

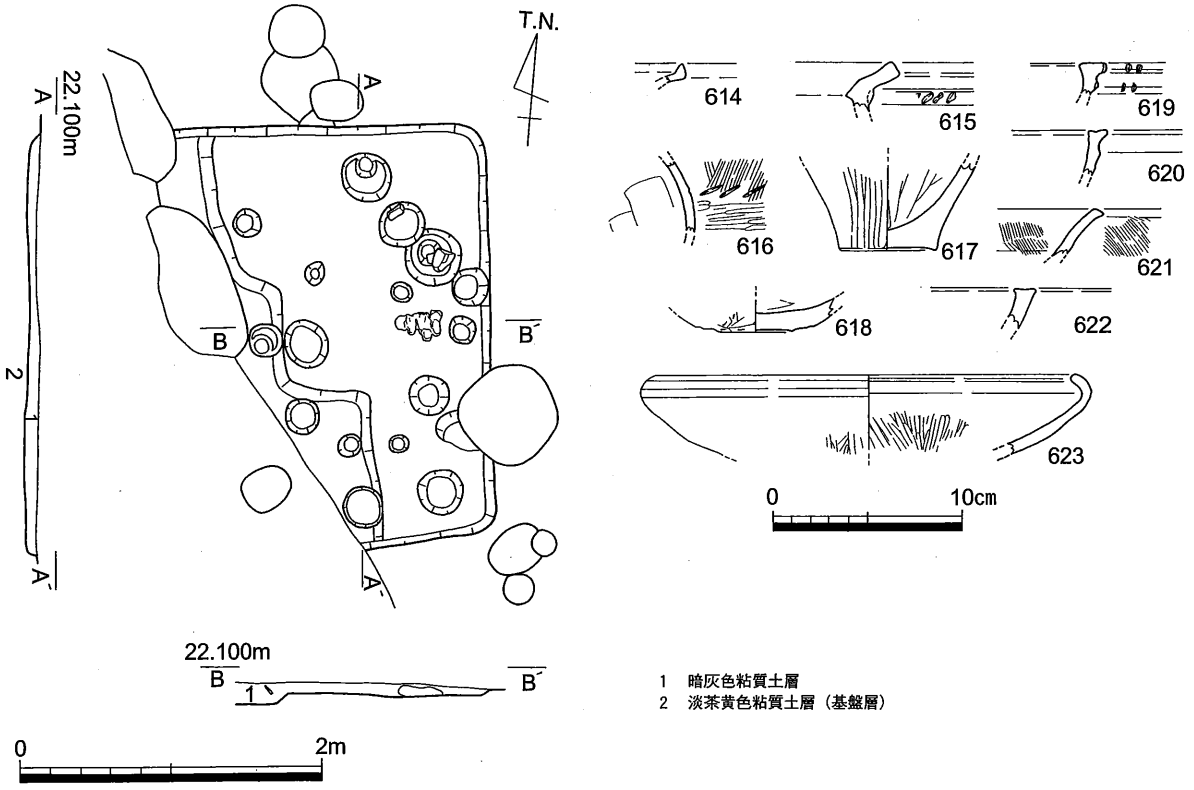


第45図　SH10・11平・断面図,SH11出土遺物実測図

時期は壁溝から出土した遺物が少量であるため、時期は不明であるが、おそらく弥生時代後期と考えられる。

ＳＨ12

ＳＨ12は第Ⅰ調査区中央部、標高21.98ｍで検出した竪穴住居跡である。西部が撹乱により削平を受けているが、平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約2.73ｍ、西－東方向北側の残存長が約2.2ｍ、南側の残存長が約0.80ｍ、検出面からの深さは約0.14ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約5.0°西を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。



第46図　SH12平・断面図，出土遺物実測図

竪穴住居内では、東側にベッド状の高まりがあり、約４cmの高低差が認められる。通常のベッド状遺構と異なり、範囲は北西隅を中心に、東側半分が高くなっている。そのベッド状遺構の東際ほぼ中央に、幅20～30cmの幅で焼土を検出した。壁溝も確認しておらず、遺構内にかなりの柱穴を確認していることから、主柱穴の確定には至っていない。また、規模が一辺約2.73mと小さいことから、ベッド状遺構の内側の可能性も考えられる。

竪穴住居内から弥生土器・サヌカイトの剥片が出土している。

614～623は堆積土から出土した遺物で、弥生土器の壺・甕・鉢・高坏が出土している。614は壺で、口縁端部を上方に拡張させる。615～617は甕で、頸部を「く」の字に屈曲させ、屈曲部外面に刻み目を施した突帯を巡らす。底部はしっかりした平底で、外面に縦方向のヘラ磨きが施されている。618は鉢の底部、619～623は高坏で、口縁部が内湾するように延び、口縁端部を左右に拡張し、外面に刻み目を施すもの外反しながら延び、口縁端部をそのまま終わらせるものと口縁部を「C」字状に巻き込むように内湾するものがある。

時期は竪穴住居内堆積土から出土した遺物から弥生時代後期前半と考えられる。

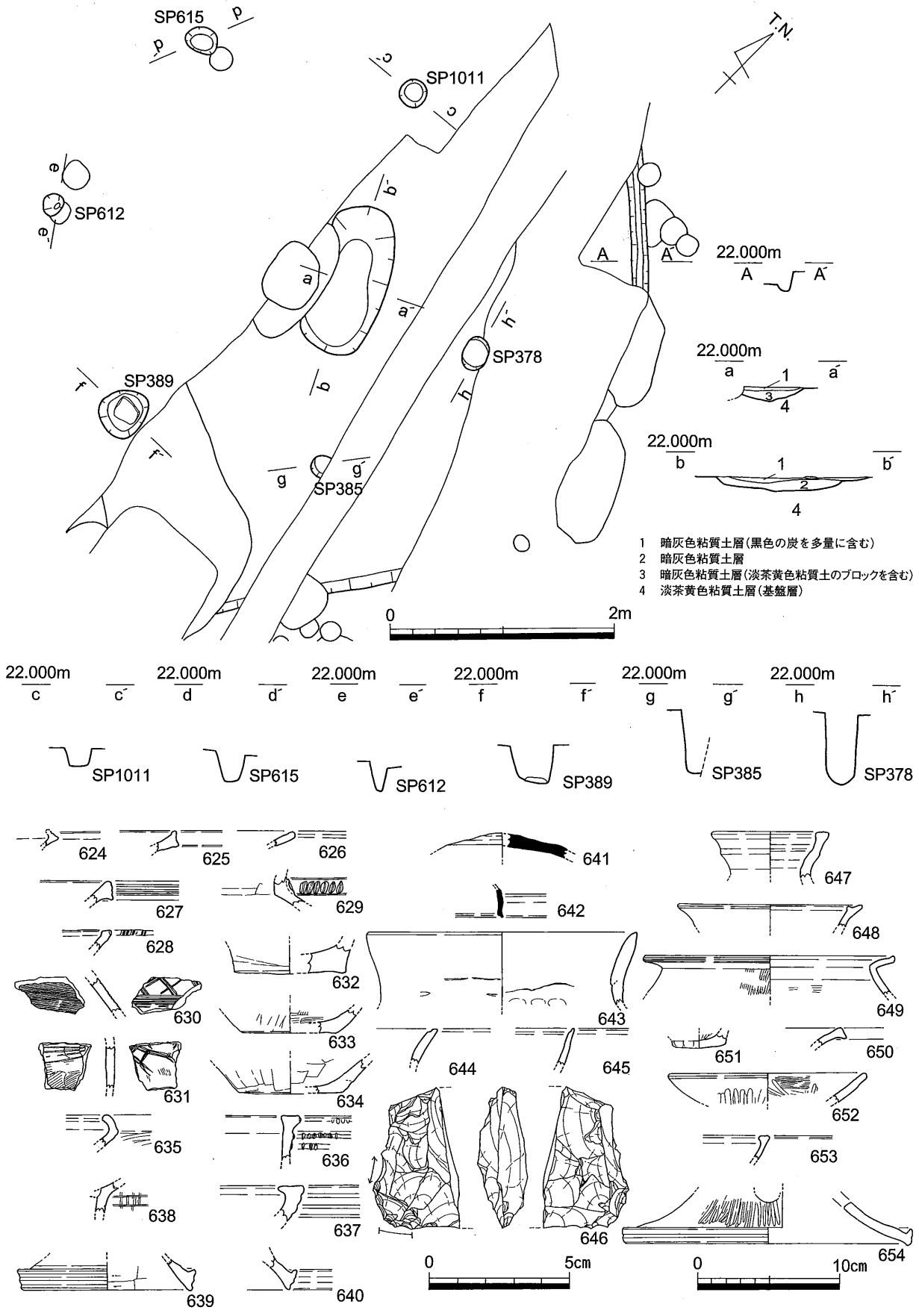
ＳＨ13

ＳＨ13は第Ｉ調査区中央部、標高21.93mで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の西部分の削平が著しく、掘り方や主柱穴しか確認できないが、東側の部分的に残存する壁溝及び主柱穴から平面形態は円形あるいは多角形を呈することがわかる。規模は推定で直径約6.70m、検出面からの深さは約0.11mを測る。竪穴住居内の堆積土は淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土が全体に堆積する。

かなり削平や撹乱を受けているが、東側の一部で壁溝、主柱穴、中央土坑（炉）を検出している。壁溝の規模は幅約14cm、深さ約５cmを測る。この壁溝と南部で検出している掘り方から平面形態が円形あるいは多角形と推定した。主柱穴は６穴と考えられる。平面形態が概ね円形を呈し、直径20～45cm、深さ16～34cmを測る。中央東寄りで炉を検出している。平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸約1.34m、短軸約0.58m、深さ約0.12mで、断面は緩やかな「U」字形を呈する。炉内の堆積土は２層あり、第１層は炭化物を多量に含む暗灰色粘質土で、第２層は炭化物を含まない暗灰色粘質土である。

竪穴住居内からは弥生土器が出土している。624～646は竪穴住居内堆積土の上層から出土したものである。624～631は甕で、口縁端部を上下に摘み出すものとそのまま終わらせるものがある。629は頸部屈曲部外面に刻み目を持つ突帯を巡らす。630・631は体部外面に櫛描による斜格子文が施されている。635～640は高坏で、口縁部を内湾させ、外面に凹線を施し、刻み目を持つものと口縁部を「C」字状に巻き込むように内湾するものがある。脚部は端部を上下に拡張し、外面に２条の凹線を持つ。641・642は須恵器坏蓋で、口縁端部内面に明瞭な段を持ち、端部はシャープに作られている。643・644は土師器甕で、口縁部は外反しながら延び、端部を丸く終わらせる。645は坏の口縁部と思われる。646はサヌカイト製のスクレイパーである。

647～654は中央土坑（炉）出土の遺物である。647・648は壺で、口縁部が直線的に外上方に延びるものと外反しながら外上方に延び、内面に突帯を持つものがある。649・650は甕で、649は頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延び、端部を上方に僅かに摘み出す。体部外面



第47図　SH13平・断面図，出土遺物実測図

に７本／１㎝程度の刷毛目が施されている。651は鉢の底部で、突出した平底を呈している。652は皿状を呈する鉢である。653は高坏の口縁部、654は器台の脚で、円形の透かしが認められる。

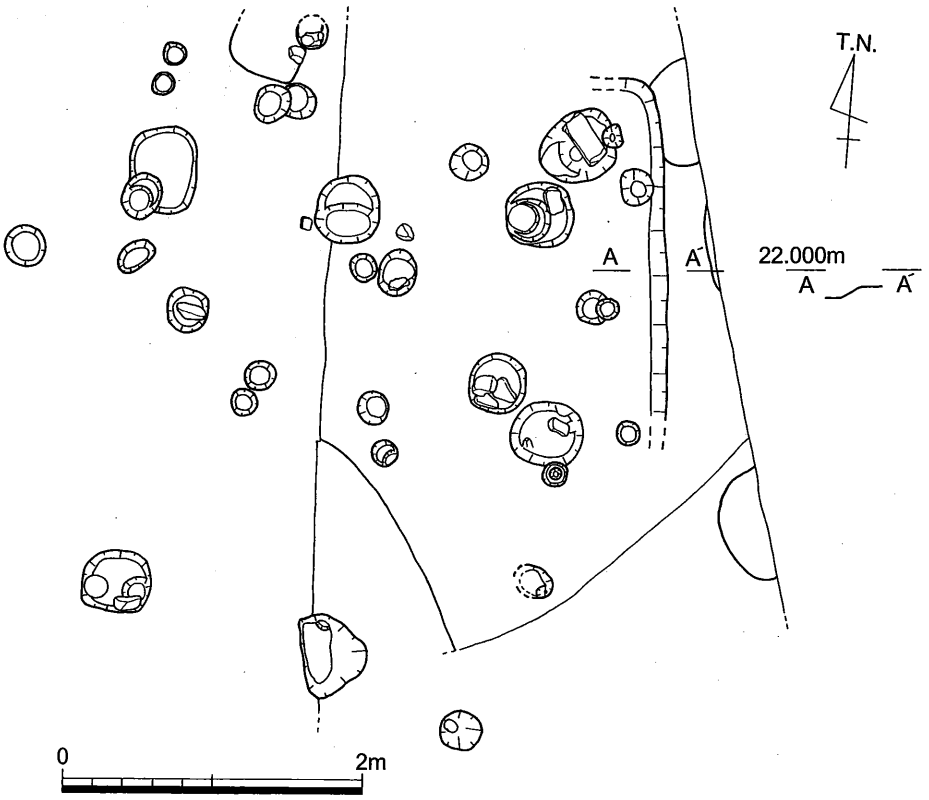
時期は、炉出土の遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＨ14

ＳＨ14は第Ｉ調査区中央部、標高21.98ｍで検出した竪穴住居跡である。西部・南部が撹乱により削平を受けているが、北東隅を検出していることから平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向の残存長が約2.25ｍ、西－東方向北側の残存長が約0.2ｍ、検出面からの深さは約0.08ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約5.0°西を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では、ベッド状遺構・炉を検出しておらず、主柱穴の確定にも至っていない。

竪穴住居内堆積土から出土している遺物が、弥生土器の小片であるため、時期は不明であるが、竪穴住居跡の主軸が５°西を取ることと平面形態が方形であることから弥生時代後期と考えられる。



第48図　SH14平・断面図

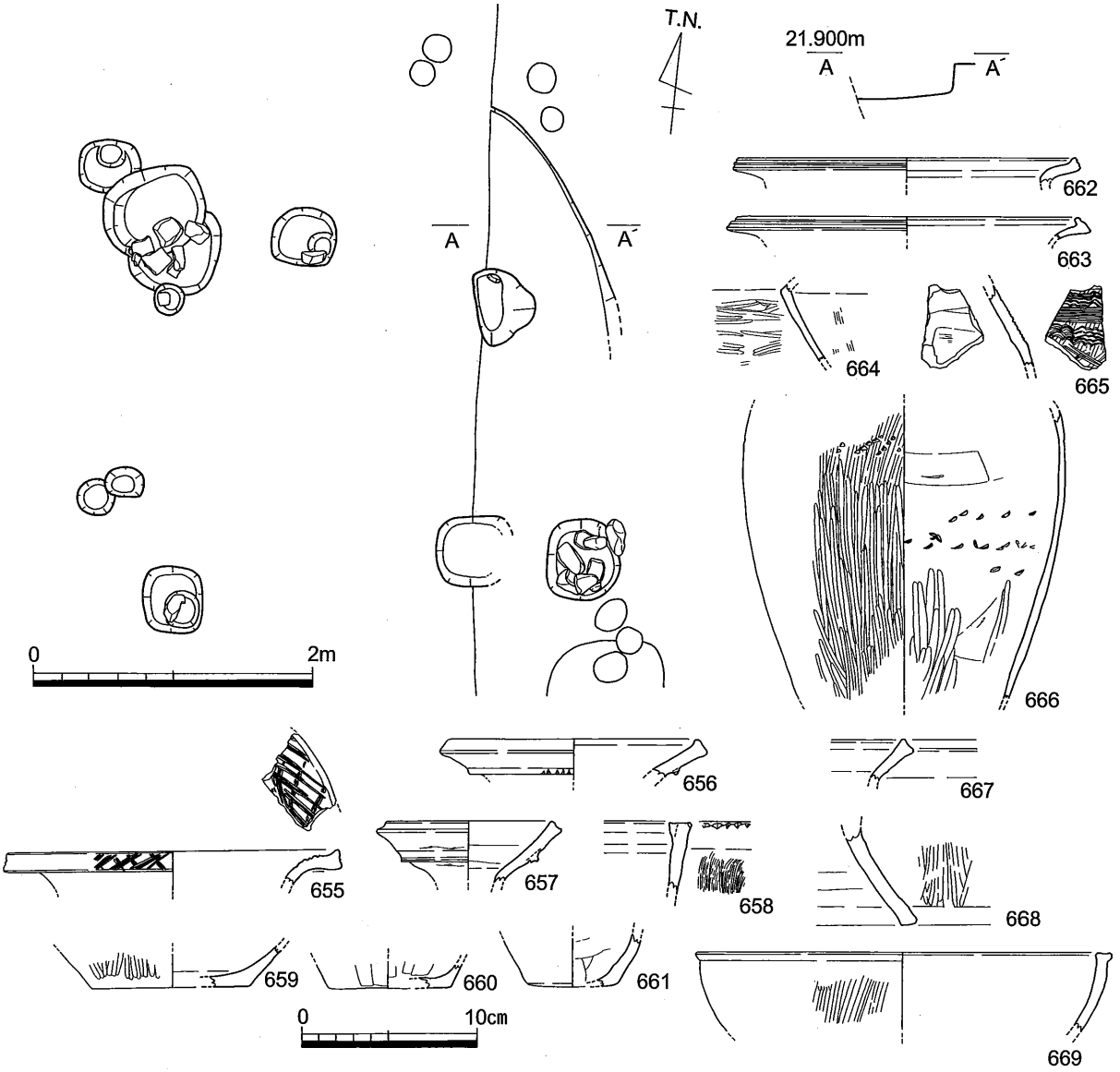
ＳＨ15

ＳＨ15は第Ｉ調査区中央部、標高21.82ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の西部・南部の削平が著しく、北東部の掘り方しか確認していないが、掘り方が弧を描くことから平面形態は円形を呈することがわかる。規模は推定で直径約5.80ｍ、検出面からの深さは約0.22ｍを測る。竪穴住居内の堆積土は淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土が全体に堆積する。

竪穴住居内堆積土から弥生土器・１㎝程度のサヌカイトの剥片が出土している。

655～661は壺で、口縁部が朝顔形に広がり、口縁端部外面及び口縁部内面にヘラ描による斜格子文をもつものと口縁部が直線的に外上方に延び、外面に断面三角形の突帯を巡らすものがある。2はその突帯に刻み目を持つ。662～667は甕で、口縁端部を上方に僅かに摘み出す。体部外面にはヘラ磨きの後、櫛先による刺突文・平行線文・波状文が施されている。668は器台の脚、669は台付き鉢と思われる。

時期は、竪穴住居内堆積土出土遺物から弥生時代中期後半～末頃と考えられる。



第49図　SH15平・断面図，出土遺物実測図

ＳＨ16

ＳＨ16は第Ｉ調査区中央部、標高21.81ｍで検出した竪穴住居跡である。ほとんどの部分が撹乱及び削平を受けているが、南側の一部の掘り方を検出していることから平面形態は方形を呈し、規模は西－東方向南側の残存長が約1.1ｍ、検出面からの深さは約0.07ｍを測る。推定北－南方向の主軸は真北より約18.5°東を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では、ベッド状遺構・炉を検出しておらず、主柱穴の確定にも至っていない。

竪穴住居内堆積土から弥生土器が少量出土している。670は壺の底部で、しっかりした平底を呈している。

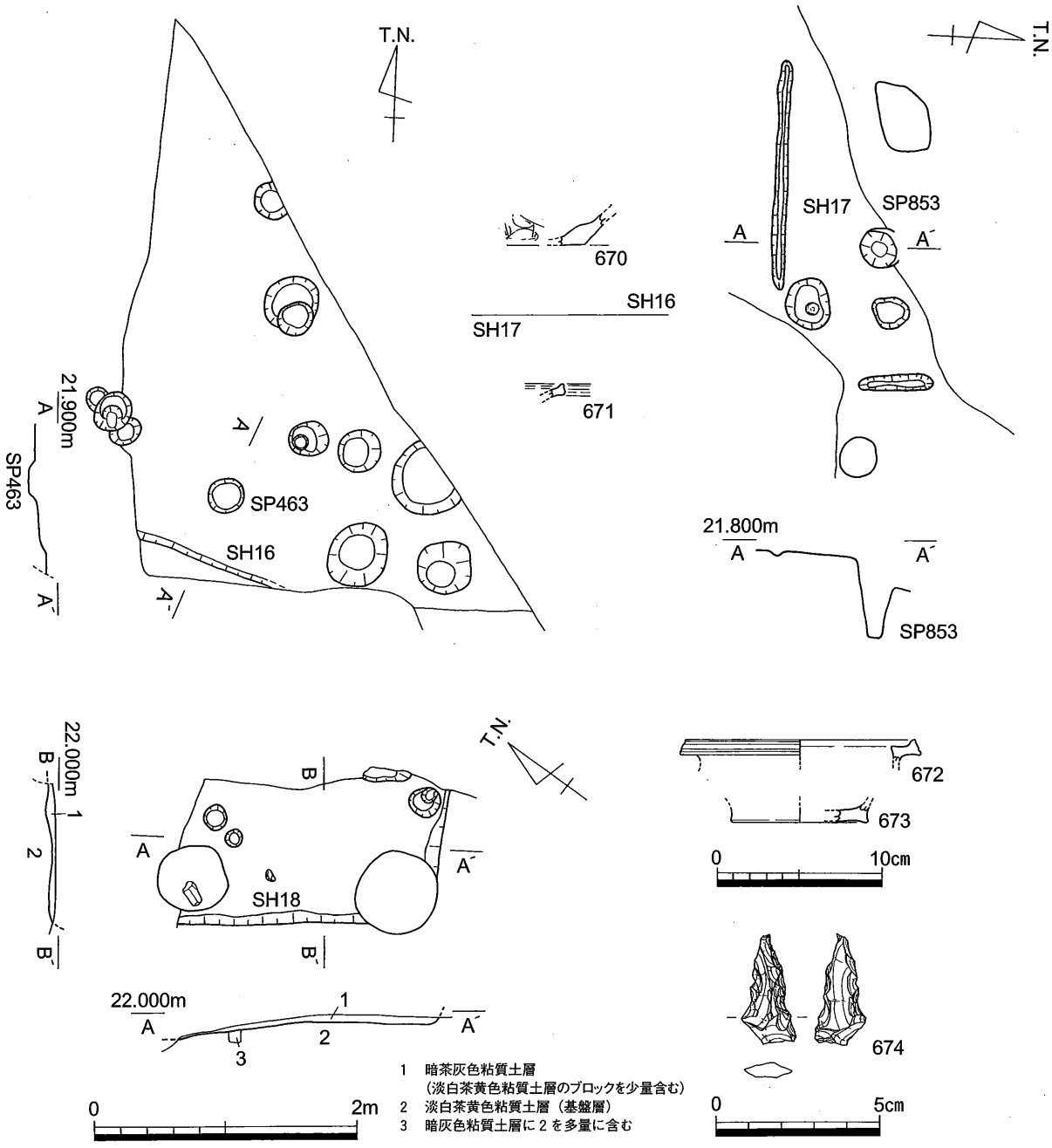
竪穴住居内からほとんど遺物が出土していないが、時期は弥生時代後期と考えられる。

ＳＨ17

ＳＨ17は第Ⅰ調査区中央部、標高21.72ｍで検出した竪穴住居跡である。北側をＳＲ01によって、また全体的に削平を受けているが、西側及び南側の一部の壁溝を検出していることから平面形態は方形を呈する。規模は北－南方向西側の残存長が約1.74ｍ、西－東方向南側の残存長が約0.57ｍを測る。北－南方向の主軸はほぼ真北を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では、ベッド状遺構・炉を検出していないが、南西隅の主柱穴を検出した。

壁溝しか検出していないためにほとんど遺物が出土していない。



第50図　SH16・17・18平・断面図，出土遺物実測図

671は甕で、口縁端部を上方に摘み出す。

時期は竪穴住居出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

ＳＨ18

ＳＨ18は第Ｉ調査区中央部、標高21.97ｍで検出した竪穴住居跡である。北部がＳＲ01により切られ、東部が撹乱や削平を受けているが、南西隅を検出していることから平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向西側の残存長が約1.40ｍ、西－東方向南側の残存長が約0.70ｍ、検出面からの深さは約0.06ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約37.0°西を取る。竪穴住居内の堆積土は、基盤層淡白茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では、ベッド状遺構・炉を検出しておらず、主柱穴の確定にも至っていない。

竪穴住居内堆積土から弥生土器片・サヌカイト片が少量出土している。672・673は甕で、口縁部が水平に延び、端部を上方に拡張し、外面に２条の沈線を持つ。674はサヌカイト製の石鏃である。

遺物がほとんど出土していないため、時期は不明であるが、弥生時代後期と考えられる。

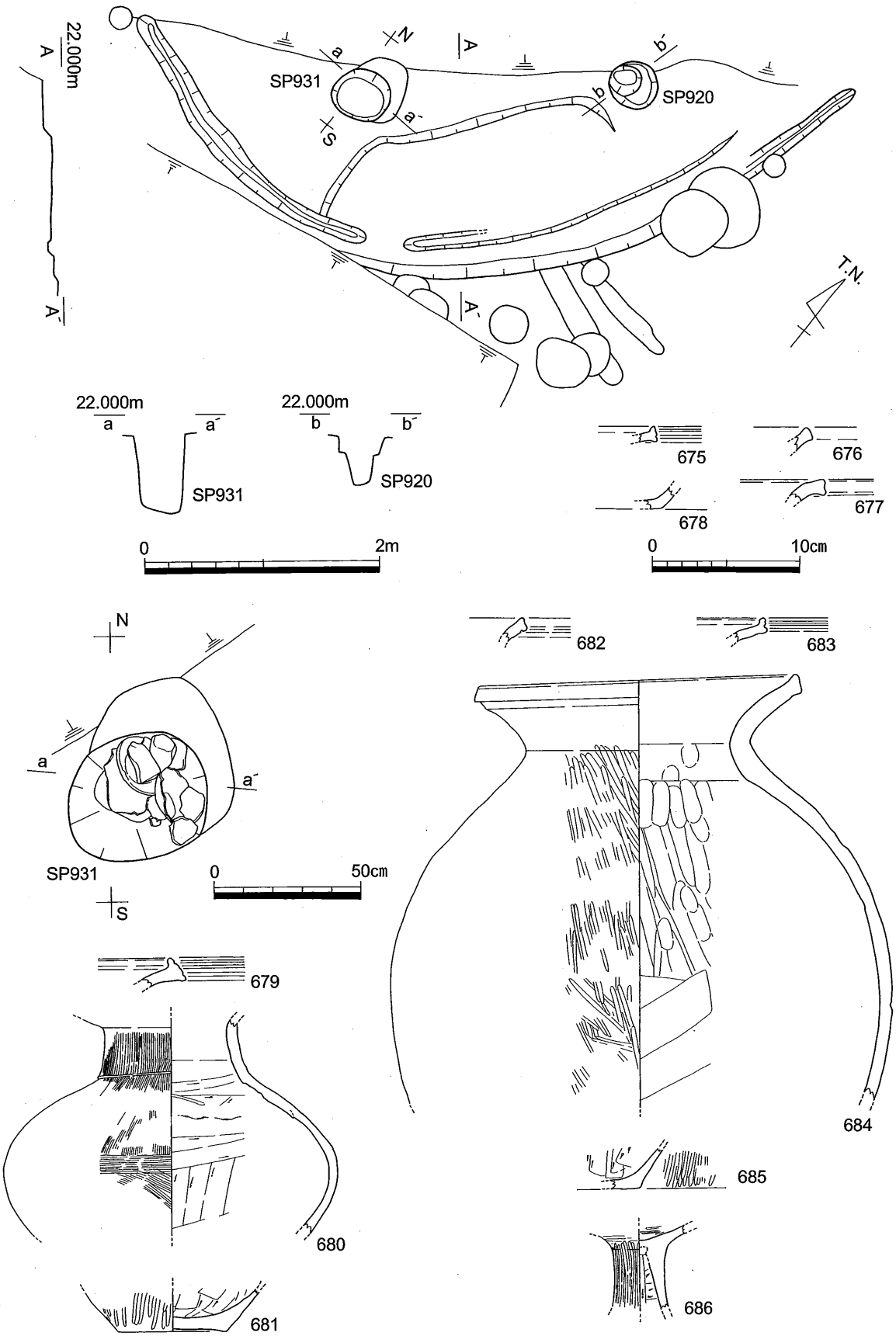
ＳＨ19

ＳＨ19は第Ｉ調査区南端、標高21.97ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の北側３／４程度が、弘田川の旧流路（ＳＲ01）によって削平されているが、残存している部分から平面形態は円形を呈していることがわかる。規模は推定で直径約6.86ｍ、検出面からの深さは約0.04ｍを測る。竪穴住居内の堆積土は淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土が全体に薄く堆積している。

竪穴住居内周りには南側の一部で、幅約１ｍ、範囲が約2.5ｍのベッド状遺構を検出した。竪穴住居中央部との高低差は約4.0㎝を測る。主柱穴は５穴と考えられ、その内の南側２穴（ＳＰ920、ＳＰ931）を検出している。主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径43～47㎝、深さ40～65㎝を測る。また竪穴住居周囲には幅17～23㎝、約9.0㎝の壁溝を約4.0ｍの範囲で確認した。この壁溝は竪穴住居掘り方の約15㎝内側で検出しているが、東側では約1.1ｍの範囲で、別の壁溝を掘り方沿いに検出していることから竪穴住居の建て替えがあった可能性が考えられる。

竪穴住居内からは少量の弥生土器壺・甕・サヌカイトなどが出土している。壺は口縁部を上・下方に拡張し、外面に退化した２条の凹線を施している。甕は口縁部をあまり拡張せず、そのまま終わらせるものである。675～678は竪穴住居内堆積土から出土した土器で、全て甕である。また、主柱穴としたＳＰ931から壺・甕・高坏が出土している。679～681は壺で、679は口縁部を上方に摘み出し、外面に３条の退化凹線が施されている。680はやや内径気味の上方に延びる頸部から「く」の字に屈曲し、口縁部となる壺で、体部はかなり算盤玉状に体部最大径が張る。外面には刷毛目が、内面はヘラ削りが施されている。682～685は甕で、口縁端部はあまり拡張せず、外面はやや窪ませる程度である。684は体部が胴長を呈し、頸部は「く」の字に屈曲し、内面に僅かに稜を持つ。口縁部はやや外反しながら延び、口縁端部を僅かに上方に摘み出す。体部外面にはヘラ磨きが、内面には指ナデを主として施している。686は高坏の脚である。外面にヘラ磨きが施されている。

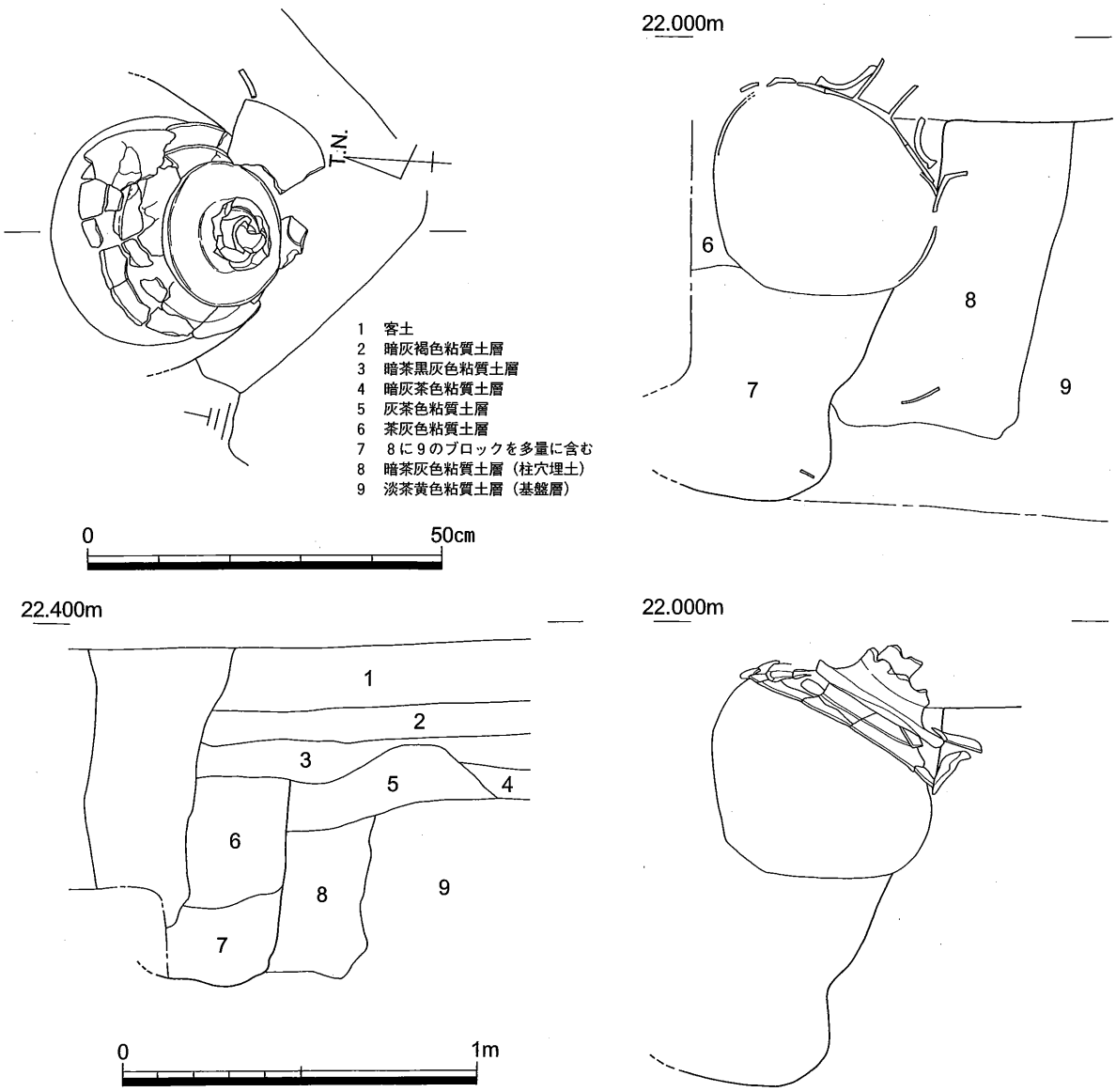
時期は出土遺物から弥生時代後期初頭～前半と考えられる。



第51図　SH19平・断面図，出土遺物実測図

3．墓跡（土器棺墓、土壙墓）

墓跡は土器棺墓跡３基（ＳＴ01～03）、土壙墓１基（ＳＴ04）の総数４基で、全て第Ⅰ調査区の北東部で検出している。土器棺墓は全て小児用と考えられ、同一遺構（集落）と考えられる彼ノ宗遺跡の16基と合わせると19基となる。彼ノ宗遺跡で検出している土器棺墓跡を含めて、その配置を見ると彼ノ宗遺跡のほぼ中央部にその内の９基が集中しており、南部になるに従い希薄となっている。しかも集中する部分は近接して竪穴住居跡はなく、土器棺墓域の様相を呈している。ちょうど森下の地形区分図で見ると微高地は彼ノ宗地区に当たり、土器棺墓は微高地のほぼ中心部に墓域を形成して造られていたものと考えられる。しかし、南周辺部には１あるいは２基と少数の配置が認められ、近接した竪穴住居跡が確認できることから、竪穴住居跡に伴い造られた土器棺墓の存在も指摘できる。一方土壙墓は竪穴住居跡ＳＨ07の南に近接して確認されており、周囲で土壙墓を検出していないことから、単独で造られていることがわかる。



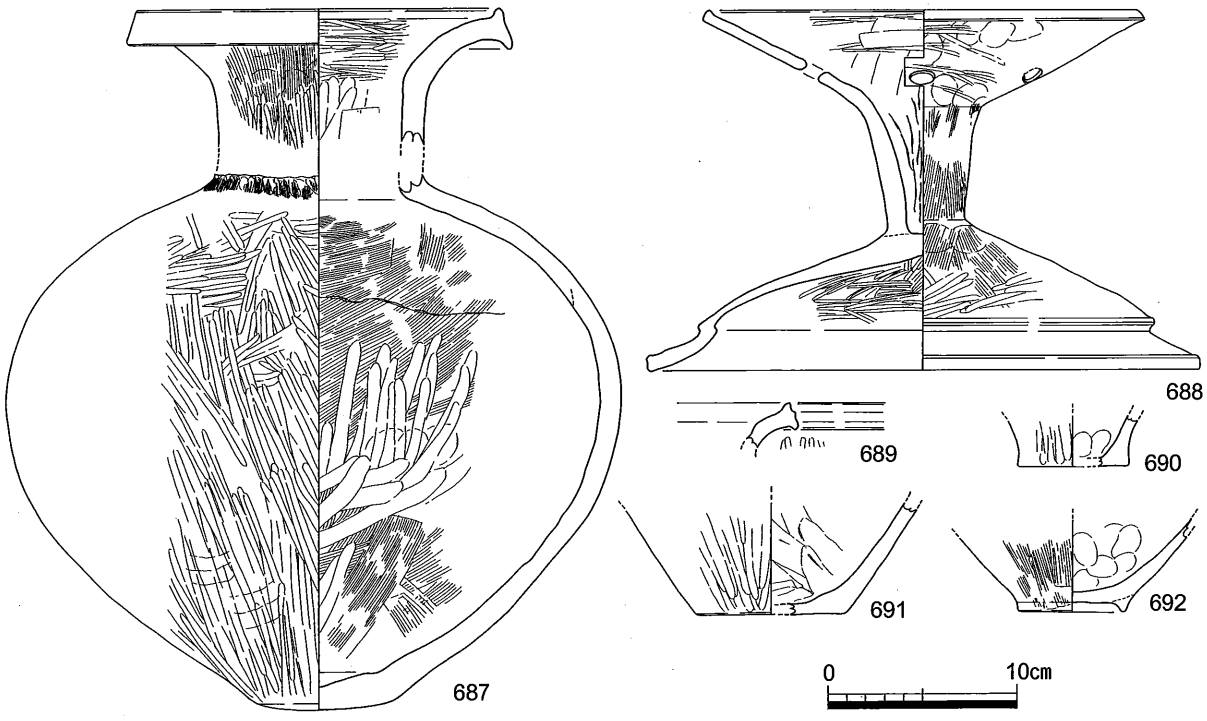
第52図　ST01平・断面図

ＳＴ01

ＳＴ01は第Ｉ調査区の北東端、標高21.90ｍで検出した土器棺墓である。墓壙の掘り込みは深く、約60㎝を測る。北側が撹乱を受けているが、平面形態は歪な円形を呈するものと思われる。墓壙の上面規模は北側を水道管の撹乱により確定できないが、推定で50㎝程度と考えられる。土壙内堆積土は２層に細分でき、下位の第７層が淡茶黄色粘質土（基盤層）のブロックを含む暗茶灰色粘質土で、上位の第６層が茶灰色粘質土である。土器棺はその第７層を埋め戻した後の上面を底面として、土器自体を斜めに、口縁部が南方向を向くように設置されている。中心軸はＮ－3.5°－Ｗの方位とほぼ南北に、傾斜は、約53.5°の角度で設置されている。この土器棺は、第52図の断面から土壙墓掘り方の南側の肩部に接するように設置したことがわかる。また、第52図の土層断面から第５層の灰茶色粘質土を周囲に土盛をした後に土壙墓を掘削し、土器棺墓を設置したことが解り、土器棺墓が当初直径1.5m、高さ推定で0.3mほどの土盛があった可能性が考えられる。

土器棺は壺と高坏から構成されている。甕を棺身とし、高坏を棺蓋とし、完全な形で検出しているために、その詳細がわかる。まず壺を頸部から、打ち欠き棺身とする。次に高坏の脚部を屈曲部から打ち欠き、坏部を蓋とし、打ち欠いた脚部を蓋の補充とする。更に打ち欠いた壺の頸部から口縁部を、高坏の脚軸部に通し、蓋の押さえとしている。このように打ち欠いた壺と高坏の全てを使用し、土器棺は造られていることになる。また、壺に体部穿孔は認められない。

687は土器棺の身となる壺で、底部が平底、体部は倒卵形を呈し、最大径は中位より若干上位にある。頸部と体部の境に指先刺突文が施されている。頸部は朝顔状に外反し、口縁端部は上下に拡張する。体部及び頸部・口縁部内外面にヘラ磨きを多用する。体部内面には刷毛目・指ナデが施されている。688は蓋として使用された高坏で、脚部はほぼ中位で外方に屈曲させる。屈曲部から下位に４箇所の穿孔が認められる。坏部は内湾気味に外上方に延び、口縁部は上方に短く屈曲し、外



第53図　ST01出土遺物実測図

反する。口縁端部・脚端部はそのまま終わらせている。689は墓壙内から出土した甕で、口縁端部を上下に拡張し、外面に２条の退化凹線を持つ。690～692は壺・甕の底部である。692は底部が高台状になるものである。

時期は土器棺となる壺・甕から、弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＴ02

ＳＴ02は第Ｉ調査区の北東端、標高21.90ｍで検出した土器棺墓である。墓壙の掘り込みは２段掘りになっており、１段目が検出面から約18cm、２段目が検出面から約23cmを測る。平面形態は若干歪な円形を呈し、土器棺は掘り方の南寄りに設置されている。墓壙の上面規模は、南北約42.4cm、東西約41.6cmを測る。土壙内堆積土は単層で、濁白黄色粘質土（基盤層）のブロックを含む暗茶灰色粘質土である。中心軸はＮ－52.0°－Ｅの方位で、傾斜は、約45.5°の角度で設置されている。第54図の断面から土器棺は、２段掘りの２段目の底面を土器の体部と同じに掘削されており、掘り方底面と土器棺には隙間がない。

土器棺は壺と甕から構成されている。甕を棺身とし、壺の破片を棺蓋とする。甕は完形であったと考えられるが、体部上半部で割れ、体部内に落ち込んだ状態で検出した。甕の体部上半には焼成後、直径約1.5cmの穿孔が認められる。土器棺設置時の穿孔位置は、土器棺下部になるように設置されている。壺は体部のみの出土で、おそらく体部片を蓋にしたものと考えられる。

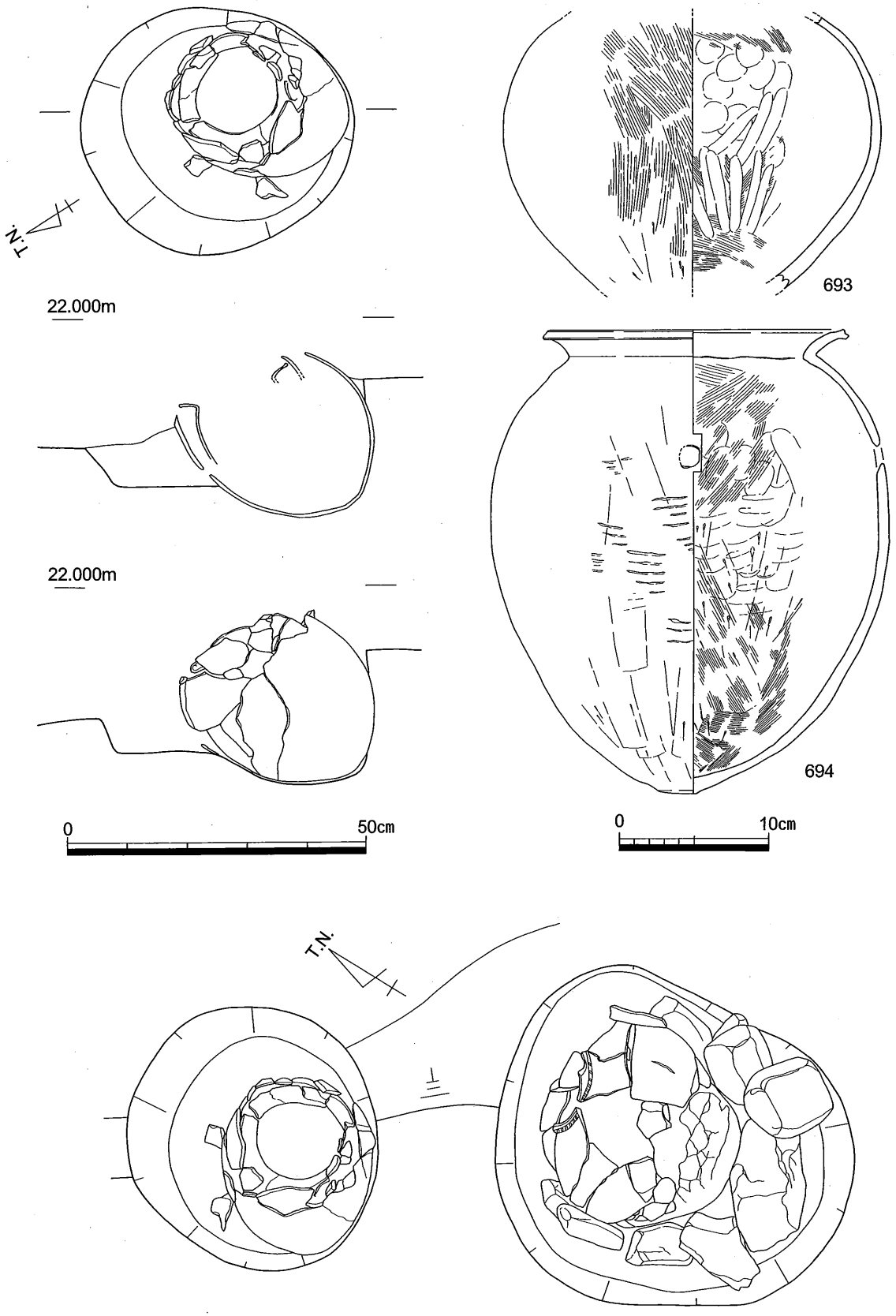
693は土器棺の蓋と考えられる壺で、体部は倒卵形を呈し、最大径は中位より若干上位にある。体部外面には刷毛目を、体部内面には刷毛目・指ナデが施されている。694は棺身とした甕で、底部に僅かに平底を残す。体部は卵形を呈し、体部最大径は上位にある。頸部は「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反しながら延び、口縁端部は上下に僅かに摘み出す。体部外面には叩きの後、下位は縦方向のヘラ削りが、上位は板ナデが施されている。体部内面は下位に縦方向のヘラ削り、上位に指ナデが施され、更に全面に刷毛目が施されている。

時期は土器棺となる甕から、弥生時代後期中葉と考えられる。

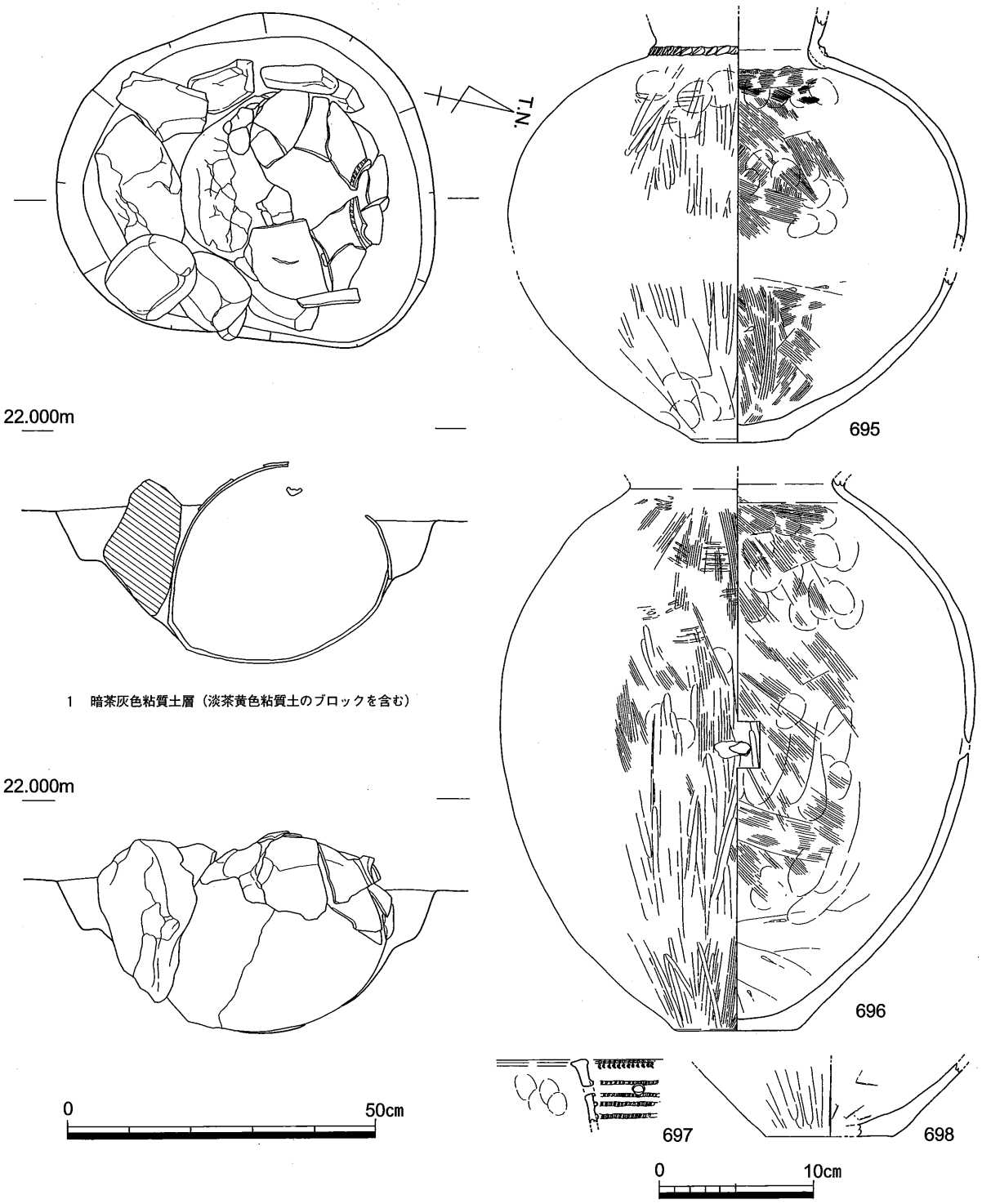
ＳＴ03

ＳＴ03は第Ｉ調査区の北東端、標高21.87ｍ、ＳＴ02とは南側に約20cmと近接して位置する土器棺墓である。墓壙の掘り込みは２段掘りになっており、１段目が検出面から約10cm、２段目が検出面から約25cmを測る。平面形態は楕円形を呈し、土器棺は掘り方の北寄りに設置されている。墓壙の上面規模は、長軸約60.8cm、短軸約53.1cmを測る。土壙内堆積土は単層で、淡茶黄色粘質土（基盤層）のブロックを含む暗茶灰色粘質土である。棺身の口縁部は北方向を向き、中心軸はＮ－13.0°－Ｗの方位で、傾斜は、約36.0°の角度で設置されている。第55図の断面から土器棺は、２段掘りの２段目の底面を土器の体部と同じに掘削されており、掘り方底面と土器棺には隙間がない。一方２段目の掘り方と土器棺には、土器棺側面と底部際に隙間があり、この部分には6.0～22cm程度の砂岩を詰めている。これは土器棺の固定と土器棺を囲うという意識があったと考えられる。

土器棺は壺と甕から構成されている。甕を棺身とし、壺の破片を棺蓋とする。甕は頸部で、口縁部を打ち欠く。甕の体部中位には焼成後、直径約1.0～1.5cmの穿孔が認められる。土器棺設置時の穿孔位置は、土器棺下部になるように設置されている。壺は頸部から口縁部を打ち欠き、更に体部



第54図　ST02平・断面図，出土遺物実測図



第55図　ST03平・断面図，出土遺物実測図

中位で２分する。この２分した底部から頸部の破片を蓋にしたものと考えられる。

695は土器棺の蓋と考えられる壺で、体部は倒卵形を呈し、最大径は中位より若干上位にある。体部外面にはヘラ磨きを、体部内面には刷毛目・指ナデが施されている。体部と頸部の屈曲部外面には指先刺突文の施された突帯を巡らす。696は棺身とした甕で、底部に平底を残す。体部は卵形を呈し、体部最大径はやや上位にある。頸部は「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持つ。体部外面には叩きの後、下位は縦方向のヘラ磨きが、上位は刷毛目が施されている。体部内面は下

位に横方向のヘラ削り、上位に指ナデが施され、更に全面に刷毛目が施されている。

時期は土器棺となる甕から、弥生時代後期中葉と考えられる。

697は無頸壺の口縁部で、口縁端部を左右に摘み出し、外面には刻み目を施す。口縁部下には刻み目を施した４条の突帯を持つ。698は壺の底部で、体部外面に縦方向のヘラ磨きが施されている。

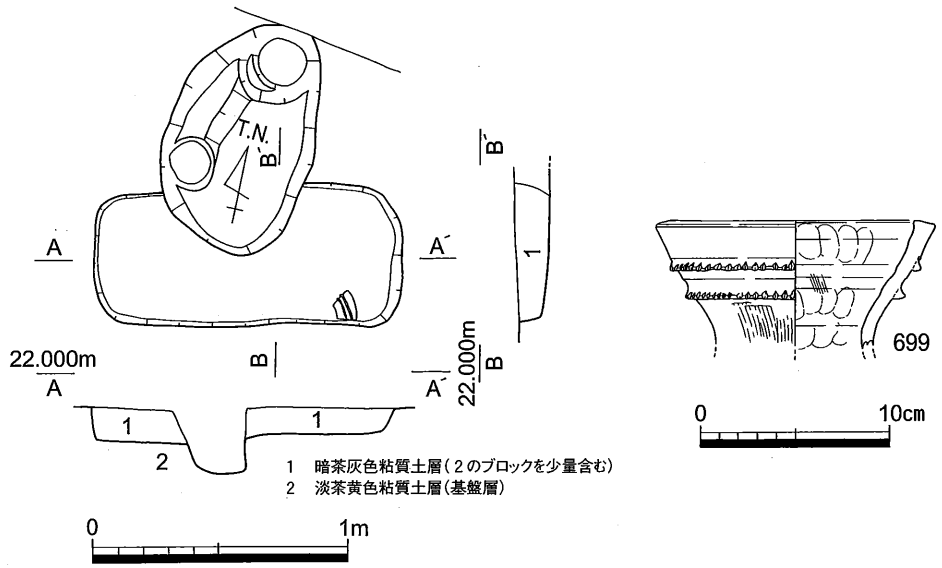
ＳＴ04

ＳＴ04は第Ⅰ調査区の北東端、標高21.88ｍに位置する土壙墓である。平面形態は隅丸の長方形を呈し、規模は長軸（ほぼ東西方向）約1.21ｍ、短軸（ほぼ南北方向）約0.50ｍを測る。墓壙の断面は、箱型を呈し、底面は平たく造られている。土壙内堆積土は単層で、淡茶黄色粘質土（基盤層）のブロックを含む暗茶灰色粘質土である。長軸はＮ－78.0°－Ｅの方位である。

墓壙内からは、ほとんど遺物が出土していない。

699は壺の口縁部で、頸部が緩やかに屈曲し、口縁部はほぼ直線的に外上方に延びる。口縁部下に刻み目の施された突帯を２条巡らす。

時期は墓壙内出土の壺から、弥生時代中期後半と考えられる。



第56図　ST04平・断面図，出土遺物実測図

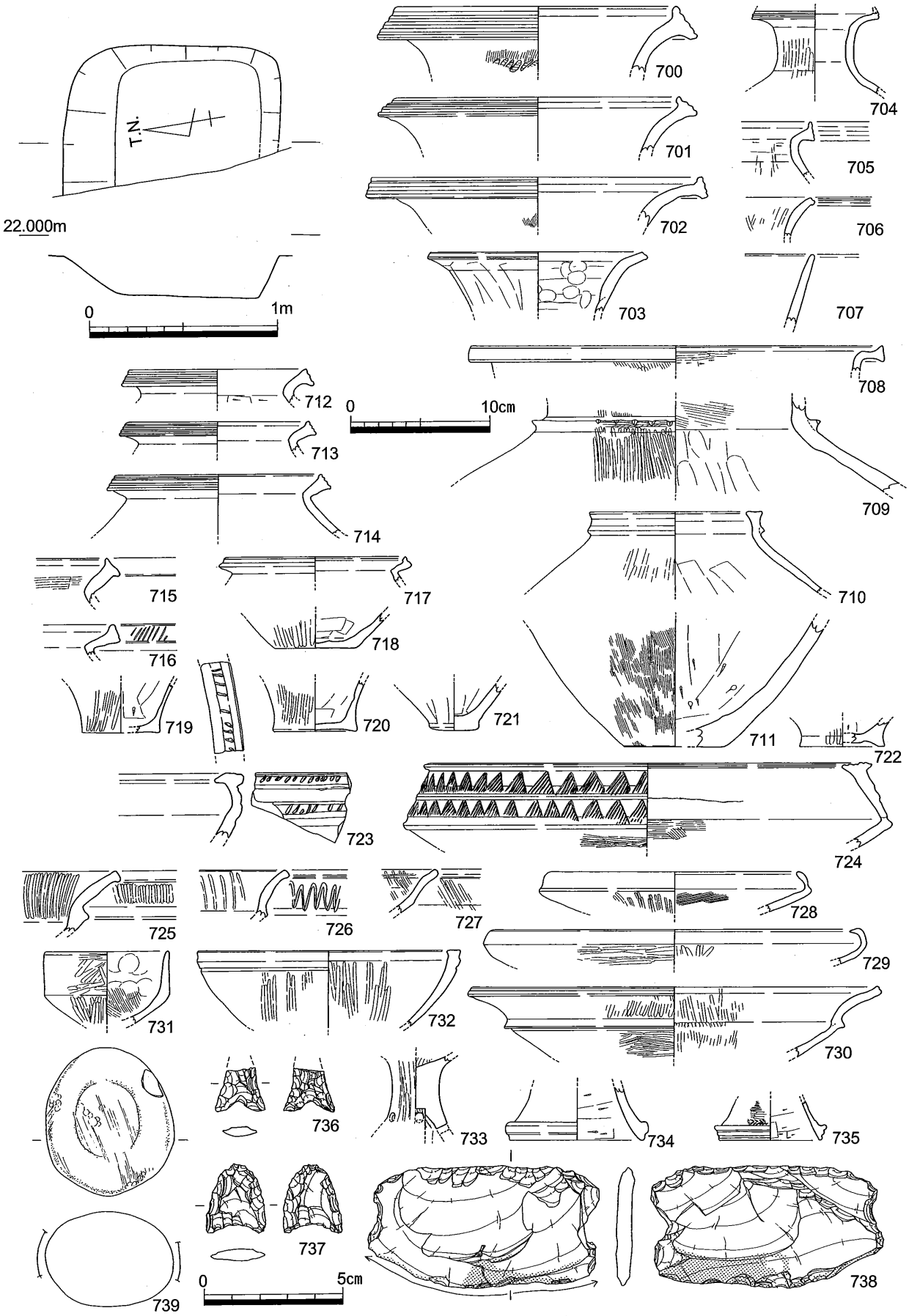
４．土坑跡

第Ⅰ調査区で検出した土坑跡は、総数で８基（ＳＫ01～08）を検出した。これらの土坑は第Ⅰ調査区全域で検出しており、特に集中する部分や、竪穴住居跡に伴うなどの規則性は認められない。

ＳＫ01

ＳＫ01は第Ⅰ調査区北部、標高21.89ｍで検出した土坑跡である。平面形態は西半に撹乱を受けているが、推定で隅丸方形を呈するものと思われる。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向残存長約0.77ｍ、南北方向約1.17ｍ、検出面からの深さは約0.22ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器・石製品が出土している。700～711は壺で、頸部が朝顔形に開くもの、



第57図　SK01平・断面図，出土遺物実測図

頸部がほぼ垂直に延び、口縁部を外反させるもの、直線的に外上方に延びるものがある。頸部が朝顔形に開くものは口縁端部を拡張し、３～４条の沈線をもつものと口縁端部をそのまま終わらせるものがある。頸部が垂直に延び、口縁部を外反させるものは全て端部を上方に拡張し、外面に沈線を施す。707は細頸壺である。709は頸部屈曲部外面に、刻み目を持つ断面三角形の突帯を巡らす。710は無形壺で、口縁部外面に一条の断面三角形の突帯を巡らす。712～716は甕で、頸部を「く」の字に屈曲させ、内面に明瞭な稜を持つものと稜を持たず、緩やかに屈曲させるものがある。口縁端部は僅かに上下に拡張し、外面に２～３条の沈線を持つ。718～722は底部で、721は鉢の底部で、これ以外は甕の底部と考えられる。723は大型の鉢形土器あるいは高坏形土器で、口縁部が内湾しながら延び、端部は左右に拡張する。口縁部外面の凸部分に刻み目が施されている。724は注口付大型高坏形土器である。坏部から逆「く」の字に屈曲し、口縁端部を左右に拡張する。口縁部外面には２条の凹線を挟み、上下に鋸歯文が施されている。725～735は高坏で、口縁部が外反するもの、「C」字状に屈曲するもの、内湾し、端部をそのまま終わらせるもの、口縁部が垂直に延びるものがある。731は坏部がコップ状を呈した形態である。733～735は脚部で、735は外面に綾杉文が施されている。736～739は石製品で、サヌカイト製の石鏃・石包丁、砂岩製の磨石がある。

時期は弥生時代中期後半の遺物を含むが、弥生時代中期末から後期初頭と考えられる。

ＳＫ02

ＳＫ02は第Ⅰ調査区北部、標高21.89ｍで検出した土坑跡である。平面形態は北東部に撹乱を受けているが、推定で隅丸方形を呈するものと思われる。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向残存長約0.56ｍ、南北方向約1.29ｍ、検出面からの深さは約0.10ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器が出土している。740は壺で、頸部が朝顔形に開き、口縁端部外面に鋸歯文が施されている。741・742は甕で、頸部は「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。口縁端部は上方に拡張し、外面に３条の沈線を持つ。743・744は高坏で、口縁部は内湾しながら延び、端部を左右に摘み出す。口縁部外面には２～３条の退化凹線が施されている。

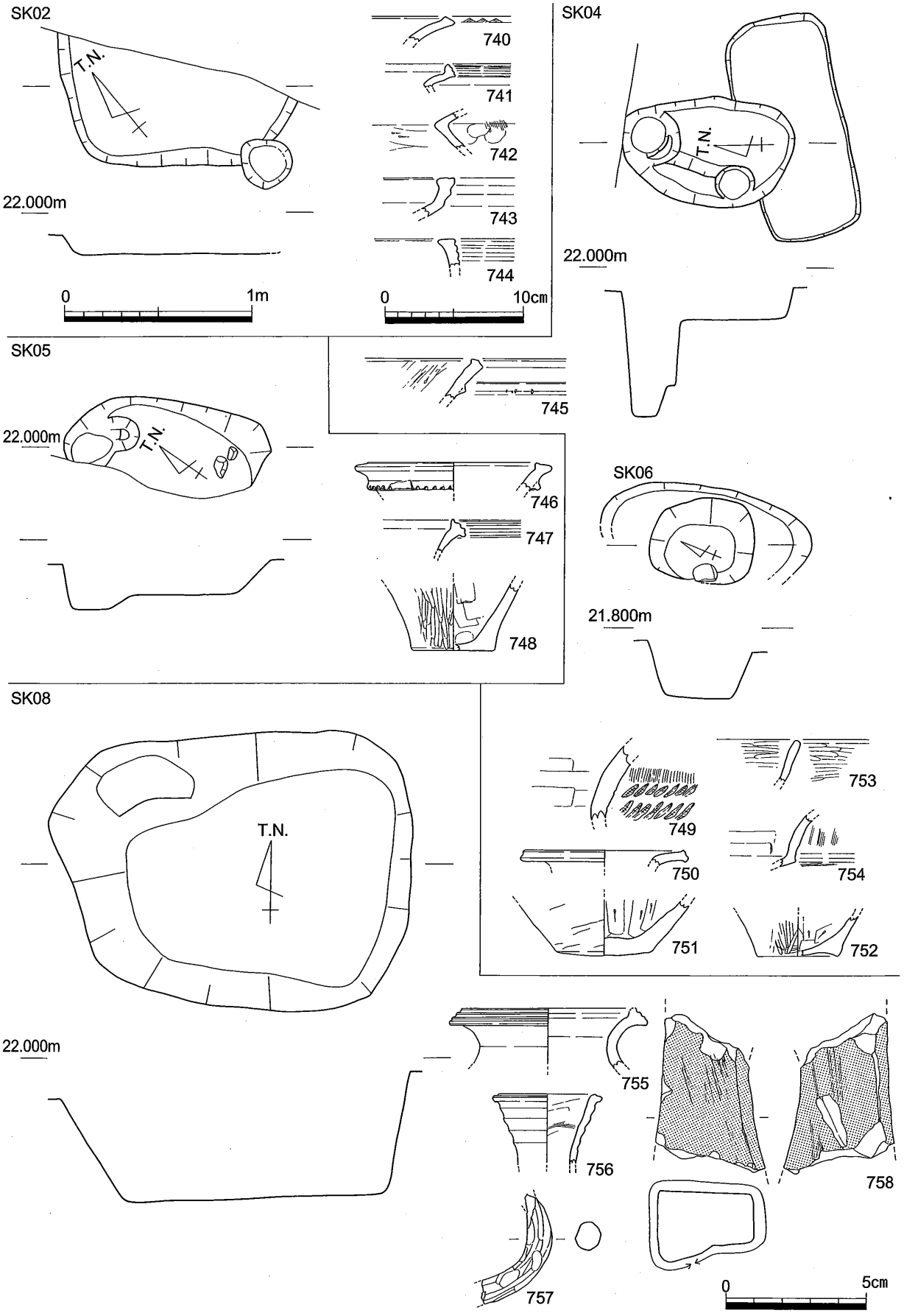
時期は、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＫ04

ＳＫ04は第Ⅰ調査区北部、標高21.88ｍで検出した土坑跡である。平面形態は楕円形を呈し、底面には直径約28㎝で円形の柱穴がある。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向約0.59ｍ、南北方向約0.92ｍ、検出面からの深さは約0.17ｍを、柱穴部分は約0.66ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。土壙墓ＳＴ04を切っていることから、土壙墓埋没後に掘削されたことがわかる。

土坑跡内から弥生土器が出土している。745は壺で、口縁部は直線的に外上方に延びる。口縁部外面には刻み目のある断面三角形の突帯を巡らす。

時期は、弥生時代中期末と考えられる。土壙墓が弥生時代中期後半であることから、時期的には矛盾しない。



第58図　SK02・04・05・06・08平・断面図，出土遺物実測図

ＳＫ05

ＳＫ05は第Ｉ調査区中央部、標高21.87ｍで検出した土坑跡である。平面形態は西部に撹乱を受けているが、推定で歪な楕円形を呈するものと思われる。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向残存長約0.50m、南北方向約1.10m、検出面からの深さは約0.18ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器が出土している。746・747は壺で、746は口縁部が直線的に外上方に延び、端部を左右に摘み出す。口縁部外面には刻み目のある断面三角形の突帯を巡らす。747は頸部が外反しながら延び、口縁端部を拡張し、外面に３条の沈線を持つ。

時期は、弥生時代中期後半～後期初頭と考えられる。

ＳＫ06

ＳＫ06は第Ｉ調査区中央部、標高21.74ｍで検出した土坑跡である。平面形態は西半に撹乱を受けているが、歪な隅丸方形を呈するものと思われる。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向残存長約0.51m、南北方向約1.13m、検出面からの深さは約0.30ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器が出土している。749～752は壺で、頸部が朝顔形に開くもの、頸部がほぼ垂直に延び、口縁部を外反させるものがある。頸部が朝顔形に開くものは、頸部外面に櫛先による刺突文が施されている。753・754は高坏である。

時期は弥生時代後期前半と考えられる。

ＳＫ08

ＳＫ08は第Ｉ調査区南部、標高21.93ｍで検出した土坑跡である。平面形態は隅丸方形を呈する。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向約1.97m、南北方向約1.49m、検出面からの深さは約0.66ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器・石製品が出土している。755・756は壺で、頸部が朝顔形に短く開くもの、直線的に外上方に延びるものがある。頸部が朝顔形に開くものは口縁端部を拡張し、３条の沈線をもつ。頸部から口縁部にかけて直線的に延びるものは、端部を外方に摘み出し、口縁部外面には４条の凹線を持つ。757は取手付の鉢形土器である。758は流紋岩製の砥石である。

時期は弥生時代中期後半～弥生時代中期末と考えられる。

５．溝跡

第Ｉ調査区で検出した溝跡は総数４条（ＳＤ01～04）で、第Ｉ調査区全域で検出しているが、北部が狭くなるため、検出長は短い。検出した溝跡については、部分的に彼ノ宗遺跡との関係から全容を説明したい。

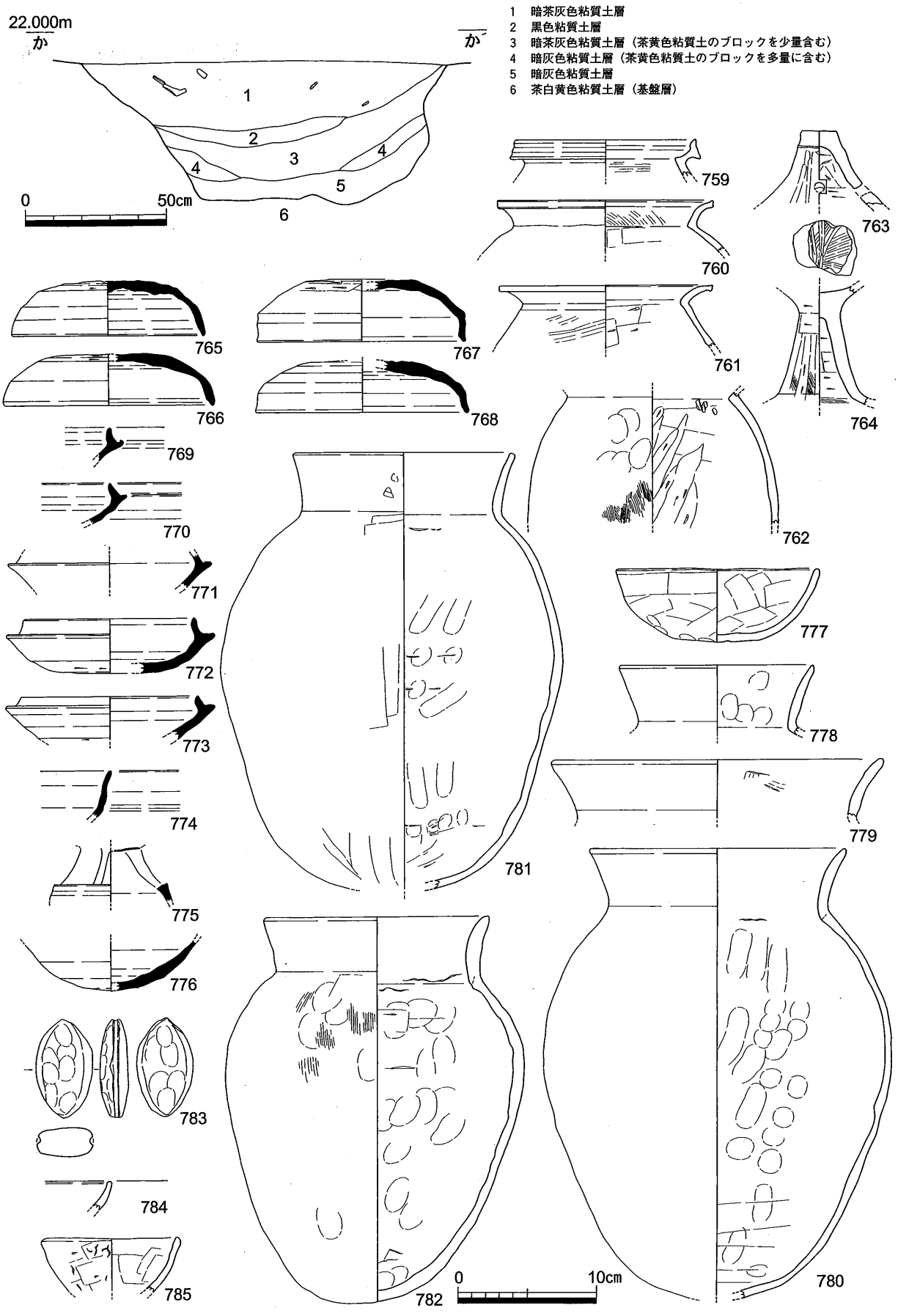
ＳＤ01

ＳＤ01は第Ｉ調査区北端、調査区際で検出した溝跡で、方形の竪穴住居跡ＳＨ01を切り、流路方向は北東－南西（Ｎ－37°－Ｅ）をとる。規模は最大幅約1.30m、深さ約0.52m、検出長約2.7mを測る。溝内堆積土は５層で、上層（第１～３層）が暗茶灰色系の粘質土で、下層（第４・５層）が暗灰色系の粘質土である。土層中中位にある第３・４層は、基盤層の茶白黄色粘質土のブロックを含むことから、短期間に埋め戻されていることがわかる。第１・２層も堆積状況から埋め戻されて可能性があり、この堆積土には土器及び拳大の礫が多量に含まれている。溝跡断面は上部が開く「Ｕ」字状を呈している。

759～785は溝跡出土遺物で、759～783が上層（第59図第１～３層）、784・785が下層（第59図第４・５層）出土遺物である。759～764は弥生土器で、甕・高坏が出土している。甕は口縁端部を拡張し、外面に沈線を持つものも含まれるが、口縁部を外反させ、端部を上方に僅かに摘み上げたものが多く認められる。時期は弥生時代中期から後期のものである。765～776は須恵器で、坏身・坏蓋・高坏・壺が出土している。坏蓋は天井部が扁平で、口縁部との境に屈曲部は認められるが、沈線・段等は認められない。口縁端部内面には僅かに段を持つものとそのまま丸く納めるものがある。坏身は受け部がほぼ水平に、立ち上がりは内径しながら延び、口縁端部はそのまま丸く終わらせる。772は口縁端部内面を僅かに窪ませるが、明瞭な段ではない。陶邑編年（田辺1981）で、ＴＫ43型式に対応する。高坏は無蓋高坏で、口縁部が外反する。775はその脚である。陶邑編年（田辺1981）で、ＴＫ47型式に対応する。壺は底部で、外面にヘラ削りが施されている。777～782は土師器・土師質土器で、坏・甕が出土している。土師器坏は底部が丸底気味の平底で、体部は内湾しながら外上方に延び、口縁端部はそのまま終わらせる。内外面に板ナデが施されている。778～782は土師質土器甕で、底部は丸底、体部は卵形を呈し、体部最大径はやや上位にある。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反しながら延び、端部は丸く終わらせる。781の口縁端部は方形に終わらせ、口縁部の外反が他のものに比べると弱い。783は扁平な紡錘形を呈し、周囲に溝を持つ土錘である。784は弥生土器鉢で、785は土師器鉢である。上層に比べると下層出土遺物は少量である。

時期は弥生時代終末期の竪穴住居跡を切っていること下層出土遺物の785が古墳時代の土師器鉢であること、上層出土遺物が古墳時代後期、６世紀後半であることから概ね６世紀を中心とした時期と考えられる。ただしほとんどの遺物が、第１層を中心として出土していることや第３・４層が短期間で埋め戻されている状況から第３・４層を境にして上位の堆積時期と下位の堆積時期に若干の時間差があることが想定できる。

また同一集落と考えた彼ノ宗遺跡との関係で見ると、この溝跡は同位置にあること、流路方向及び規模・溝内堆積土・出土遺物の時期がほぼ同じであることから彼ノ宗遺跡で検出しているＳＤ－02と同じ溝と考えられ、彼ノ宗遺跡内でほぼ直角に流路方向を変え、当遺跡方向に延びている。彼ノ宗遺跡との間に撹乱部分があるものの、その延長が当遺跡で検出しているＳＤ04に続くものと考えられ、更に流路を南北方向に変えながら南に延び、南部ではＳＲ01に切られている。彼ノ宗遺跡の報告書では彼ノ宗遺跡掘立柱建物跡ＳＢ－01に近接する部分で、須恵器の甕・横瓶・坏、土師器の壺（体部穿孔）・ミニチュアの坏形土器、牛骨がまとまって出土していることから、溝の埋め戻しに伴う祭事の痕跡ではないかとしているが、今回の調査ではそのような状況は確認していない。また、規則性を持った流路方向でないことから区画溝の可能性も低い。



第59図　SD01平・断面図，出土遺物実測図

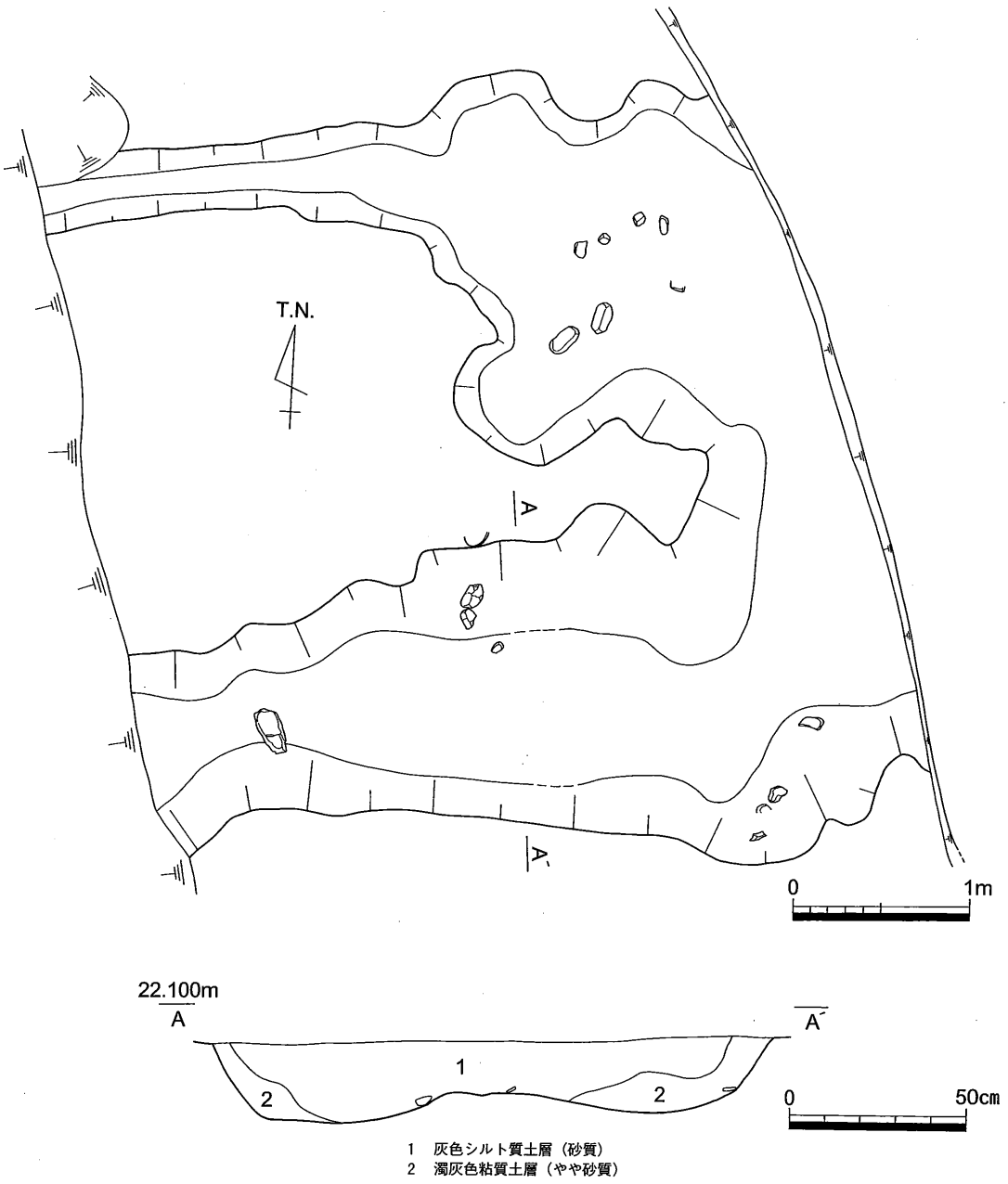
参考文献・引用文献

笹川龍一 1985『彼ノ宗遺跡　～弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～』善通寺市教育委員会

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

ＳＤ02

ＳＤ02は第Ｉ調査区北部、調査区東際で検出した溝跡で、東際で幅が広がり、ＳＤ03と合流し、同一の溝になることを確認している。またＳＤ02は北側で竪穴住居跡ＳＨ07を切っており、これより新しい溝であることがわかる。流路方向は西－東（Ｎ－84°－Ｅ）をとる。規模は西半分で約0.35m、深さ約0.04m、東半分で最大幅約2.23m、深さ約0.08m、検出長約4.3mを測る。溝内堆積土は２層で、第１層が灰色シルト質土で、第２層が濁灰色粘質土である。この堆積土はＳＤ03



第60図　SD02・03平・断面図

と同じ堆積状況が確認できている。溝跡断面は上部がかなり開く「U」字状を呈している。

786～805はＳＤ02出土遺物で、須恵器の坏身・坏蓋・高坏、土師器の甕、弥生土器の壺・甕・高坏・支脚・皿、石製品が出土している。786・787は須恵器の坏蓋で、786は天井部と口縁部の境が「く」の字に屈曲し、口縁端部を丸く終わらせる。787は天井部と口縁部の境外面に沈線を持ち、屈曲させる。口縁端部内面には明瞭な段を持つ。788は坏身で、立ち上がりが内傾しながら延びるが、ほぼ中央部で外側に屈曲し、短い。おそらく786と788は坏身・坏蓋のセット関係になるもので、陶邑編年（田辺1981）で、ＴＫ217型式に対応する。787は古く、陶邑編年（田辺1981）で、ＴＫ10型式に対応する。789は高坏で、脚部に長方形の透かしが認められる。脚端部の形状から陶邑編年（田辺1981）で、ＴＫ47型式に対応する。791は土師質甕で、口縁端部を方形に終わらせる。792～802は弥生土器である。壺は頸部が直線的に上方に延び、口縁部が外反する。口縁端部はあまり拡張せず、施文もないのが主体を占める。794は口縁端部外面に鋸歯文・竹管文を施すものである。甕は頸部を「く」の字に屈曲し端部をそのまま終わらせるものが主体である。高坏は口縁端部を左右に拡張し、上面に退化凹線、外面に４条の沈線が施されている。801は支脚、脚端部に刻み目を持つ。803～805は石製品で、803は横長の石匙、804・805は石包丁である。

時期は弥生時代後期、古墳時代後期（６世紀）の遺物を含んでいるが、786・788などの須恵器の時期及び溝跡内堆積層の状況から７世紀中葉とする。

参考文献・引用文献

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

ＳＤ03

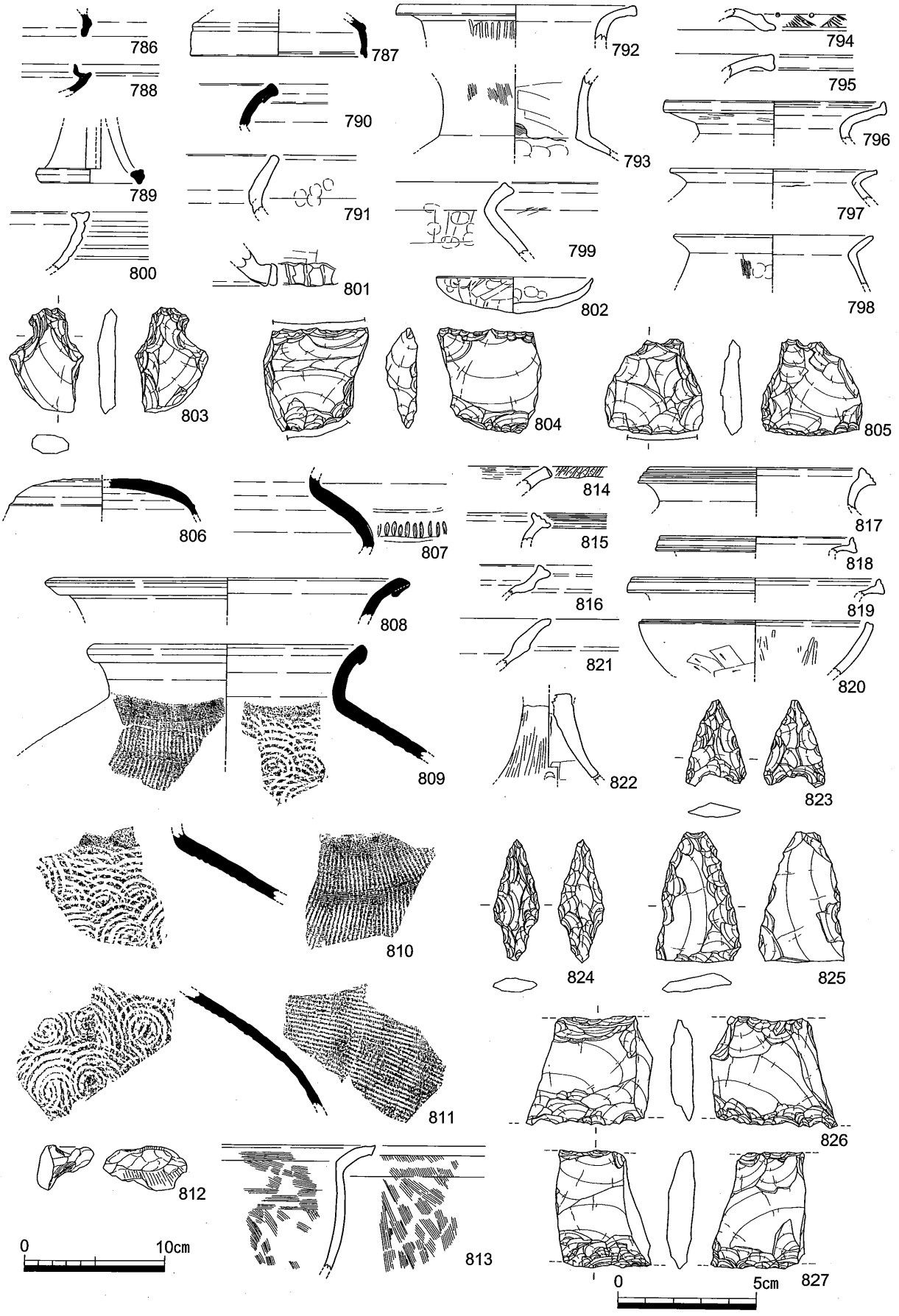
ＳＤ03は第Ｉ調査区北部、調査区東際で検出した溝跡で、東際で幅が広がり、ＳＤ02と合流し、同一の溝になることを確認している。またＳＤ02は竪穴住居跡ＳＨ08を切っており、これより新しい溝であることがわかる。流路方向は西－東（Ｎ－80°－Ｅ）をとり、ほぼＳＤ02と同方向に流路を取っていることがわかる。規模は西半分で約1.20m、深さ約0.17m、東半分で最大幅約1.88m、深さ約0.19m、検出長約4.37mを測る。溝内堆積土は２層で、第１層が灰色シルト質土で、第２層が濁灰色粘質土とＳＤ02と同じ堆積状況である。溝跡断面は上部がかなり開く「U」字状を呈している。

806～827はＳＤ03出土遺物で、須恵器の坏蓋・壺・甕、土師器の甕・鍋、弥生土器の壺・甕・高坏・鉢、石製品が出土している。806は須恵器の坏蓋、807は壺で体部に刻み目を持つ。808～811は甕で、体部内面に同心円文の当具痕、外面に叩き痕を持つ。812は土師器甑の取手、813は土師器鍋である。814～822は弥生土器で、823～827は石製品である。

時期は弥生時代後期、古墳時代後期（６世紀）の遺物を含んでいるが、ＳＤ02と同一の溝であること及び溝跡内堆積層の状況から７世紀中葉とする。

ＳＤ04

ＳＤ04は第Ｉ調査区中央部で検出した溝跡で、やや蛇行しているものの流路方向はほぼ北－南を取る。溝跡の北端部ではＳＤ01と同様な断面形態を取るが、屈曲部から南は２段掘りとなり、溝幅は広がる。規模は北端部で最大幅約1.06m、深さ約0.16m、検出長約8.5mを測り、ＳＤ01



第61図　SD02・03出土遺物実測図

とほぼ同規模を呈するが、南部では最大幅約1.78m、深さは浅い部分で約0.09m、深い部分で約0.11m、検出長約8.5mを測る。溝内堆積土はＳＤ01の下層部分と同じで、ＳＤ01の下層（第４・５層）が暗灰色系の粘質土が堆積する。溝跡断面は上部が開く「Ｕ」字状を呈している。

溝跡より須恵器・弥生土器が出土している

時期はＳＤ01と同時期の６世紀後半、６世紀を中心とした時期と考えられる。

６．自然流路跡

ＳＲ01

ＳＲ01は第Ｉ調査区南部で検出した自然流路跡である。調査区を北東－南西方向に流路を取るもので、規模は最大幅約13.0m、深さ約2.0m、検出長約26.0mを測る。第Ｉ調査区南部の西壁土層断面でみると自然流路跡の堆積土は38層で、概ね上位の第64図第１層～第13層が粘質土を、下位の第14層～第38層が砂層・砂礫層・シルト層を主としている。上位層は第13層を境として、層厚10～17㎝のほぼ水平堆積を呈しており、この自然流路跡が機能しなくなり、安定的に徐々に堆積した期間の堆積層と考えられる。一方下位層は堆積状況から５つの単位に細分でき、その堆積順序から、かなり流路の位置を変えていたことがわかる。下位から第１流路とすると、最下位の第１流路は第30層～第33層で、ＳＲ01の南寄りに流路を取る。幅は推定約3.0m、深さ約0.65mを測り、堆積土は灰色・茶色系の砂層・シルト層を主としている。第２流路は第28・29層、第35～38層で、ＳＲ01の北寄りに流路を取る。幅は推定約5.9m、深さ約1.4mを測り、堆積土は茶色系の砂礫層を主としている。第３流路は第26・27・34層で、ＳＲ01の北寄りに流路を取る。幅は推定約3.4m、深さ約0.5mを測り、堆積土は灰色系の砂層を主としている。第２流路が徐々に堆積し、規模を縮小したものと考えられる。第４流路は第15層～第18層、第21層～第25層で、ＳＲ01の南寄りに流路を取る。幅は推定約4.9m、深さ約0.5mを測り、堆積土はこげ茶色系の粘質土とこげ茶灰色系の砂層を主としている。第５流路は第19・20層で、ＳＲ01の北寄りに流路を取る。幅は推定約4.15m、深さ約0.35mを測り、堆積土は茶色系の砂層を主としている。このように流路の位置を北・南に変えながら、徐々に堆積していったことがわかる。また堆積土が砂層あるいは砂礫層が主体を占めていることから、洪水堆積を呈していたこともわかる。

自然流路跡の各層から弥生土器、石製品、須恵器、土師器、輸入陶磁器等の遺物が多量に出土している。

828～838は第64図第７層から出土した輸入陶磁器、須恵器、石製品である。828は青磁で、外面に蓮弁の先端部を片切り掘りした鏑蓮弁文が施されている。829は白磁小椀、830は10世紀頃の須恵器坏、831・832は７世紀中葉（ＴＫ217型式）の須恵器坏身・蓋、833は６世紀中葉の須恵器坏蓋、834は８世紀の須恵器高台付坏、835は口縁部外面に断面三角形の突帯を巡らす壺の口縁部である。836～838はサヌカイト製の石鏃である。839～845は第64図第８層から出土した弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、石製品である。839は青磁で、外面に鎬が退化し、蓮弁の先端部のみを片切り掘りした蓮弁文が施されている。840は７世紀の須恵器坏蓋、841は８世紀の須恵器高台付坏、842は６世紀の短頸壺、843は弥生土器壺で、体部外面にヘラ先による綾杉状の文様が施されている。844は土師質鍋、845はサヌカイト製の石鏃である。846～871は第64図第９層から出土した弥生土器、土師器、須恵器、石製品である。846は13世紀の土師器坏、847～849は吉備系土師器椀で、底部に

底径の小さいしっかりした高台を持ち、体部は内湾しながら外上方に延びる。内面見込み部分に重ね焼きの痕跡が確認できる。850は土師器土釜の脚、851は９世紀の須恵器坏、852・853は６世紀の須恵器坏蓋、854～857は６・７世紀の須恵器坏身、858～861は７世紀末～８世紀の須恵器高台付坏身、蓋である。862は６世紀の須恵器甕の口縁部で、外面に波状文が施されている。863は６世紀の須恵器無蓋高坏である。864～867はサヌカイト製の石鏃、868はサヌカイト製の石錐、869はサヌカイト製の槍先、870・871は緑泥片岩製の柱状片刃石斧である。872は第64図第11・12層から出土した須恵器甕である。873～882は第64図第12層から出土した弥生土器、瓦器、須恵器、石製品である。873は瓦器椀で、外面に指頭痕、内面見込み部分に格子状のヘラ磨きが施されている。874は７世紀中葉の須恵器坏身、875・876は８世紀の須恵器高台付坏身・蓋である。877は口縁部が細く、シャープに作られた弥生時代後期終末の甕である。878は弥生時代中期の壺、879は高坏、880は鉢である。881はサヌカイト製の石鏃、882はサヌカイト製のスクレイパーである。883～894は第64図第13層から出土した須恵器、土師器、弥生土器である。883は７世紀の須恵器坏蓋で、天井部につまみが付く。884・885は６世紀～７世紀初頭の須恵器坏身で、886は土師質甕である。887～894は弥生時代後期終末から古墳時代前期初頭頃の鉢、壺、甕、高坏である。895は第64図第19・20層から出土したサヌカイト製の石包丁である。896～900は第64図第26・27層から出土した須恵器、弥生土器である。896は十瓶山窯産の須恵器椀、897は土師器椀である。901～904は第64図第28・29層から出土した土師器土釜、須恵器、石製品である。901は土師器土釜で、鍔及び上部がかなり退化している。時期は14世紀である。902は10世紀の須恵器坏、903は７世紀末頃の須恵器坏蓋である。904は結晶片岩製の磨製石斧、905は砂岩製の台石である。906は第64図第30～33層から出土した13世紀の吉備系土師器椀である。

以上ＳＲ01の堆積土及びそれぞれの出土遺物・時期をみると上位から下位にかけて、弥生土器中期～後期や古墳時代、古代、中世の遺物が混在して出土していることがわかる。第13層を境にして上位が粘質土、下位が砂質土と堆積土の質が違い、明確に分離できるが出土遺物は混在し、明確に分離できない。この状況から新しい遺物を基準としてＳＲ01の時期は中世で、13・14世紀の自然流路と考えられる。

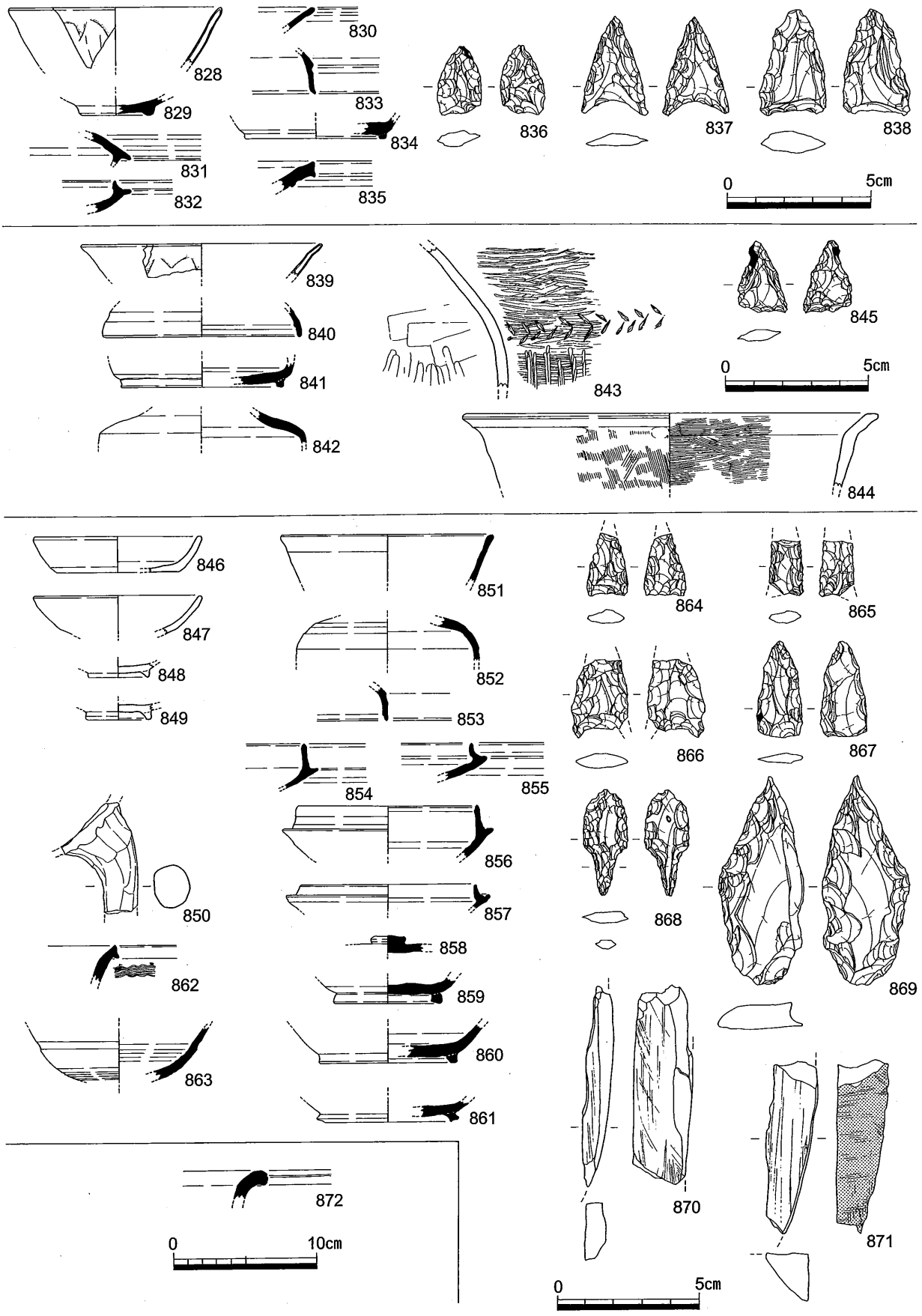
ＳＲ02

ＳＲ02は第Ⅰ調査区最南端で検出した自然流路跡である。ＳＲ01と同方向の北東－南西方向に流路を取るもので、北側の掘り方のみを検出し、南側の掘り方は不明である。この自然流路ＳＲ02の南には現在の弘田川があり、更に南の第Ⅱ調査区北端には南側の掘り方のみを検出しているＳＲ03がある。このＳＲ02とＳＲ03が同一の自然流路で、徐々に埋没し、現在の弘田川になっているとも考えられるが、堆積土・遺物からは断定できない。第Ⅰ調査区南部の東壁土層断面でみると自然流路跡の堆積土は11層で、全て砂質を主としている。下位には１～３㎝の礫層も確認できることから洪水による堆積層の可能性が考えられる。

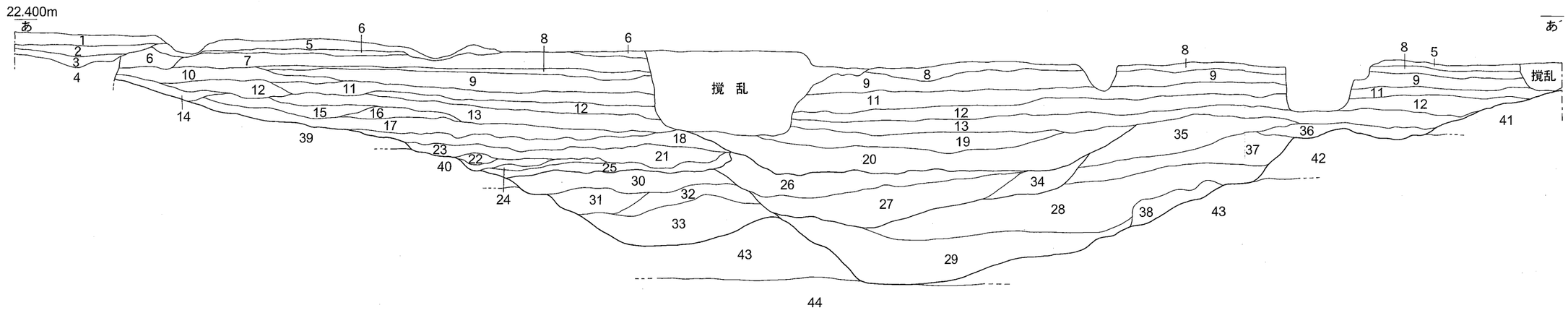
自然流路跡の堆積層からはほとんど遺物が出土していない。

907は第64図第18層から出土した青磁で、外面に蓮弁の先端部を片切り掘りした鎬蓮弁文が施されている。

時期は、ほとんど遺物が出土していないため不明であるが、堆積土が砂を主としていることから

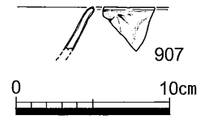


第62図　SR01出土遺物実測図①

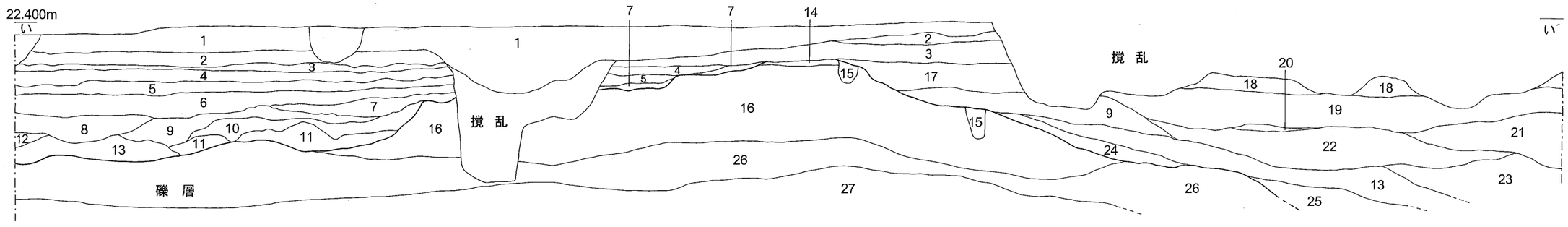


第63図　SR01土層断面図

1　濁茶灰色粘質土層
2　茶灰色粘質土層
3　２に暗茶灰色粘質土と基盤層のブロックを少量含む
4　暗茶灰色粘質土と基盤層の混じった土層
5　灰色粘質土層
6　茶灰色粘質土層（２の方がやや濁っている）
7　淡灰茶色粘質土層
8　灰茶色粘質土層
9　濁こげ茶白色粘質土層
10　こげ茶灰色砂混じり粘質土層
11　濁こげ茶白色砂質土層
12　こげ茶灰色砂質土層
13　濁白色砂層に暗茶灰色粘質土のブロックを含む
14　こげ茶灰色粘質土に基盤層のブロックを少量含む
15　こげ茶灰色砂質土層（ほとんど12と同じだがやや砂質が強い）
16　濁白色砂層
17　こげ茶灰色砂混じり粘質土層
18　暗こげ茶灰色粘質土層
19　淡こげ茶色砂層
20　濁茶白色砂層
21　こげ茶灰色砂層（明茶黄色粘質土のブロックを含む）
22　ほぼ21と同じ
23　暗茶白色砂層
24　暗白色砂層（明茶黄色粘質土のブロックを含む）
25　24で明茶黄色粘質土のブロックの方が多い
26　青灰色砂層
27　茶白色砂層
28　濁茶白色砂礫層（砂φ５mm以下・礫φ５cm以下）
29　淡茶色砂礫層
30　灰色シルト質土層（黒色粘質土のブロックを含む）
31　茶色砂層（φ２～６mm）
32　灰色砂層
33　茶灰色砂礫層（砂φ５mm以下・礫φ５cm以下）
34　茶灰色砂層
35　茶白色砂礫層（砂φ２mm以下・礫φ２cm以下）
36　灰色砂質土層
37　白茶色砂礫層（砂φ２mm以下・礫φ２～10cm）
38　青灰色シルト質土層
39　黄茶色粘質土層
40　明茶黄色粘質土層
41　淡黄茶色粘質土層
42　灰茶色粘質土層
43　淡灰茶色砂質土層（φ３mm以下）
44　灰青色砂質土層（φ２mm以下）

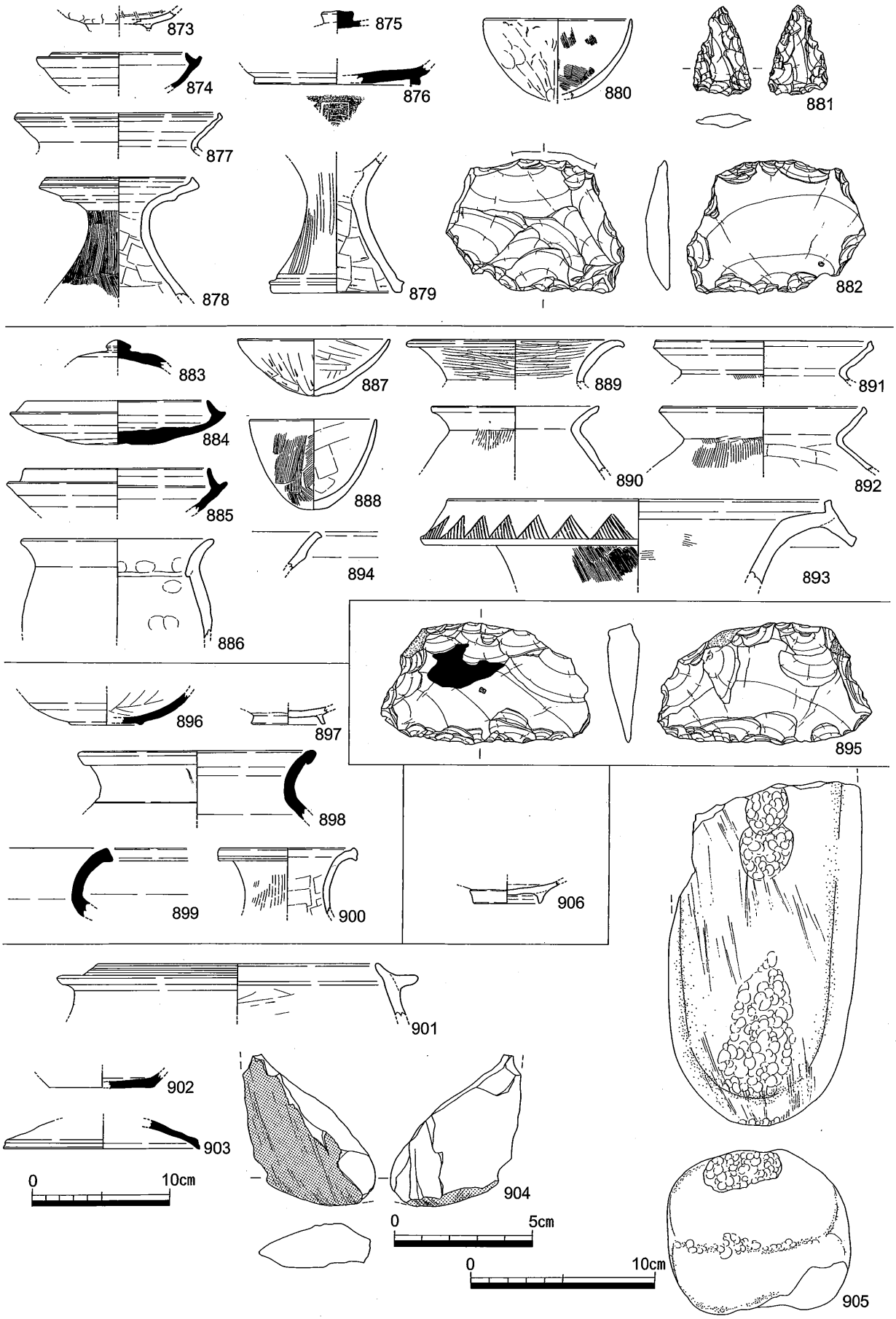


SR02出土遺物実測図

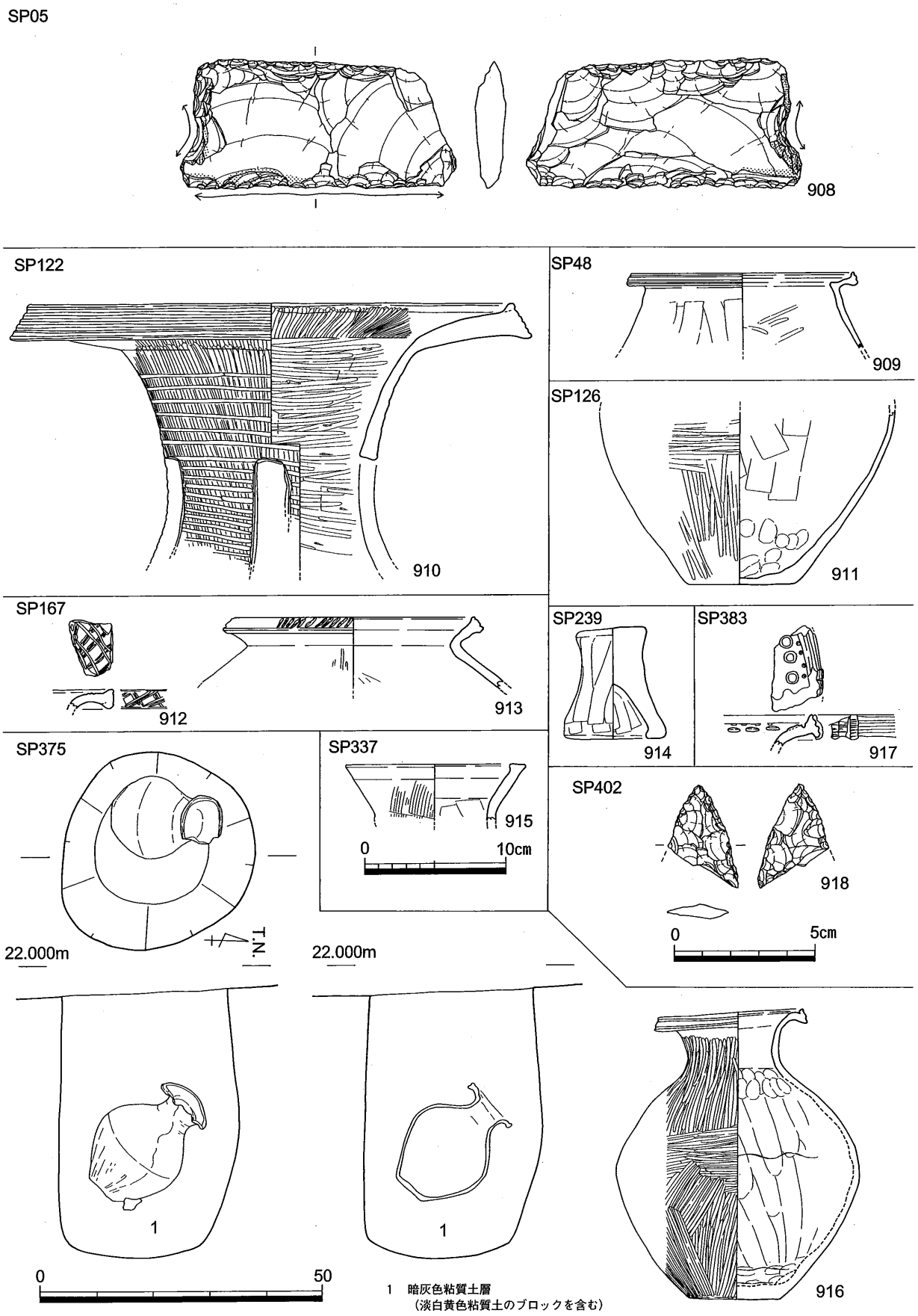


1　耕作土
2　濁灰色粘質土層
3　黄灰色粘質土層
4　灰色砂質土層
5　茶灰色粘質土層
6　こげ茶灰色砂混じり粘質土層
7　暗灰色砂混じり粘質土層
8　濁茶白色砂層（φ１mm以内）
9　こげ茶灰色砂質土層
10　茶灰色粘質土層（基盤層のブロックを含む）
11　淡こげ茶色砂層（φ１mm）
12　茶灰色砂層（φ１mm以下）
13　灰色砂層（φ１mm以上）
14　暗茶灰色粘質土層
15　暗茶灰色粘質土層（基盤層のブロックを含む）
16　淡黄茶色粘質土層（基盤層）
17　茶灰色砂層（こげ茶色粒を含む）
18　灰こげ茶色砂質土層
19　茶色砂層
20　茶色砂層（やや粗い砂粒を含む）
21　淡茶色砂礫層（礫φ１～３cm）
22　茶灰色砂層
23　茶色礫層（礫φ0.5～３cm）
24　灰色シルト質層
25　灰色砂層（φ１～２mm）
26　灰茶色砂礫層（礫１～20cm）
27　灰色砂礫層（砂φ１～２mm・礫φ１～６cm）

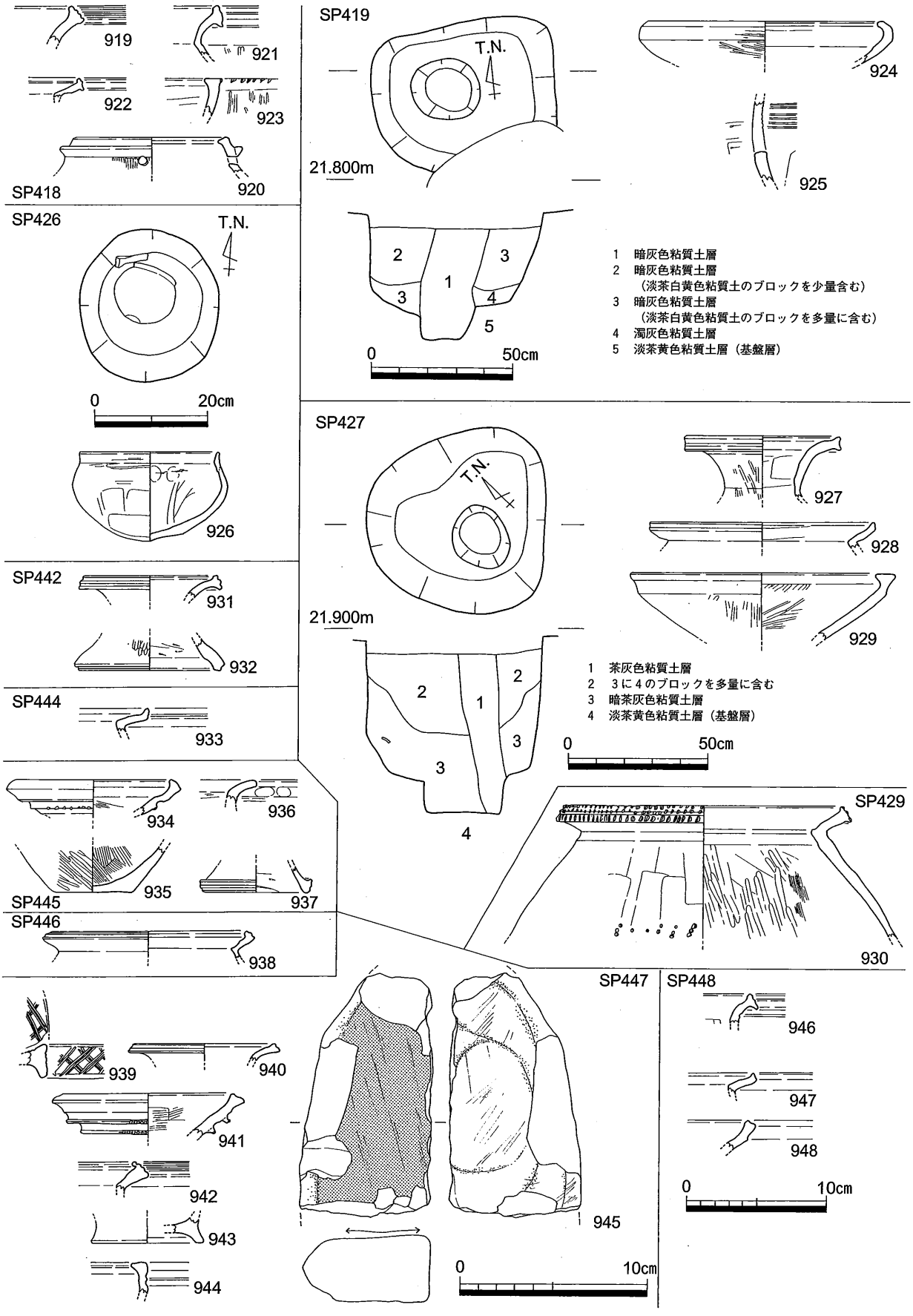
第64図　SR02土層断面図



第65図　SR01出土遺物実測図②



第66図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図①



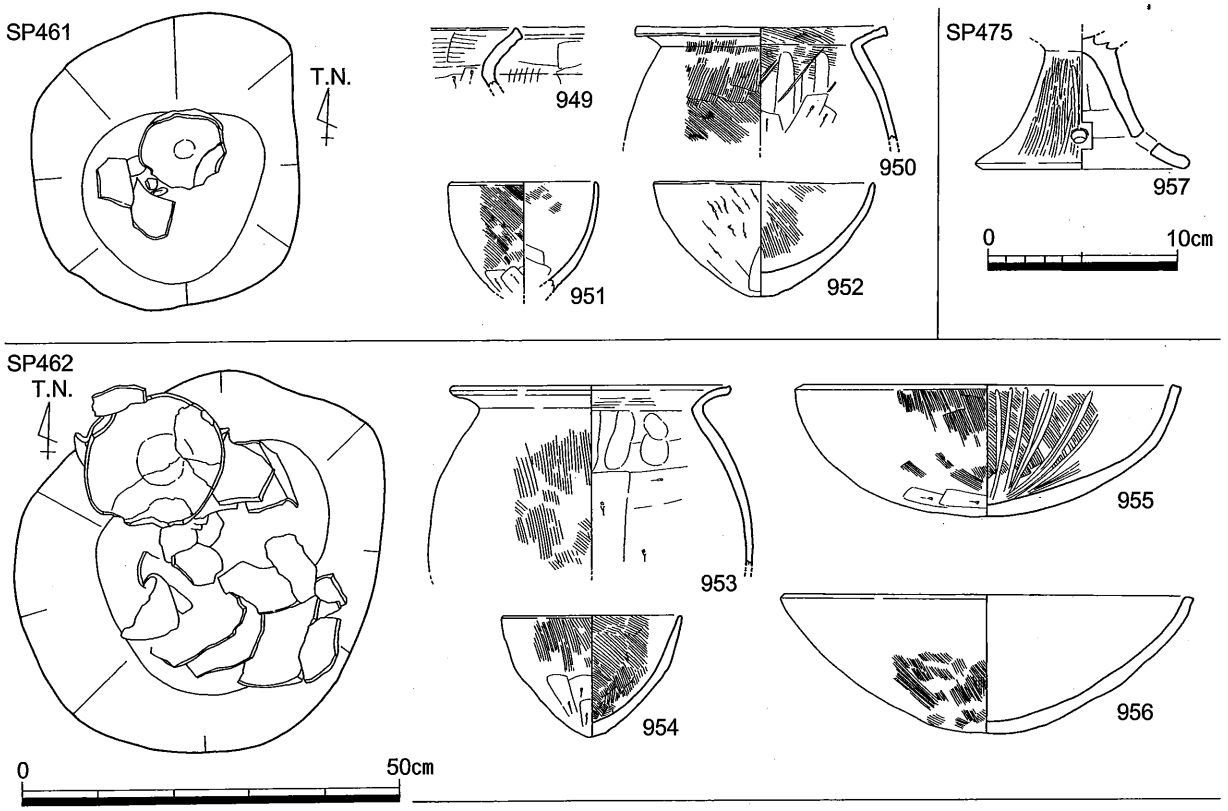
第67図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図②

ＳＲ01より新しいのではないかと考える。東壁土層断面にＳＲ01の堆積土も確認できるが、切りあい関係がないために土層からは前後関係が断定できない。

７．柱穴

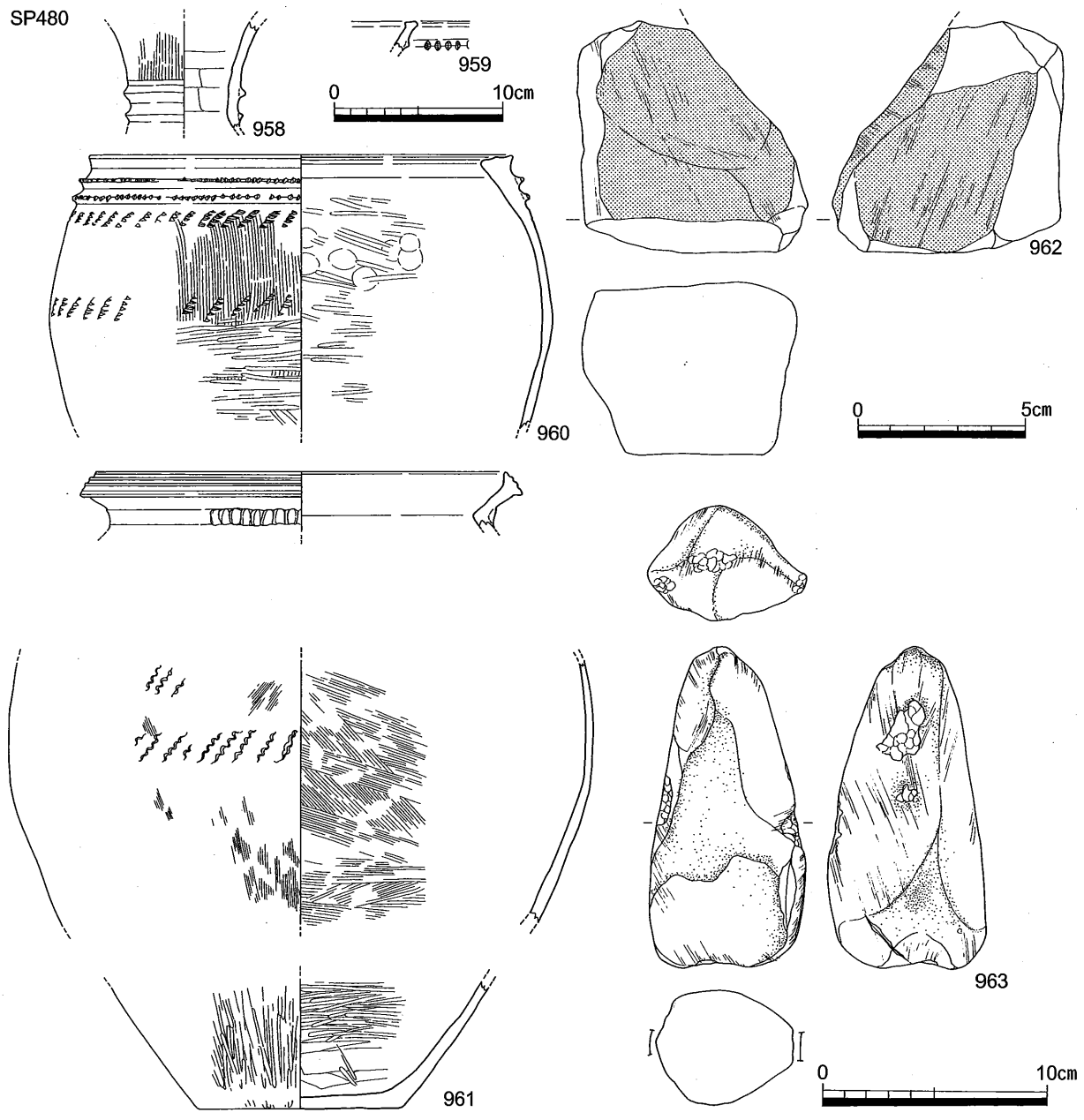
第Ⅰ調査区で検出した柱穴は1019穴で、かなり密度が高い。その中で掘立柱建物は８棟復元したが、使用した柱穴は僅かである。これらの柱穴は掘立柱建物、竪穴住居の主柱穴を構成するものと考えられる。

柱穴からは弥生土器壺・甕・鉢・高坏・支脚・器台や石製品が出土している。910はＳＰ122から出土した器台で、筒部から口縁部は朝顔形に開き、口縁端部は上方に摘み出す。外面には４～５条の沈線が認められる。筒部には長方形の透かしが４方向に認められる。内外面には縦・横方向のヘラ磨きが密に施されている。916はＳＰ375出土の壺で、柱穴中央部よりやや下位で口縁部を上位に向け、傾くようにほぼ完形の状態で出土した。底部は平底で、体部は算盤球状を呈し、体部最大径は中位にある。頸部はほぼ直線的に上方に延び、口縁部はほぼ水平に外反する。口縁端部は上方に拡張し、外面に２条の沈線を持つ。体部外面にはヘラ磨きが密に、内面には指ナデが密に施されている。おそらく掘立柱建物あるいは竪穴住居の廃絶に伴い、柱材を抜き取った後に入れられたものと考えられる。ＳＰ426出土の短頸壺もほぼ完形の状態で出土していることから、ＳＰ375と同様に廃絶時に入れられたものと考えられる。一方ＳＰ461・462・480は出土遺物が完形ではなく、破片の状態で出土していることから、柱穴抜き取り穴に破損品を埋めたものと考えられる。その内ＳＰ480は第Ⅰ調査区南部で検出した柱穴で、柱穴内より弥生土器・石製品が出土している。958～960は壺で、頸部が緩やかに外反するもの、直線的に外上方に延びるもの、無頸壺がある。960は無頸



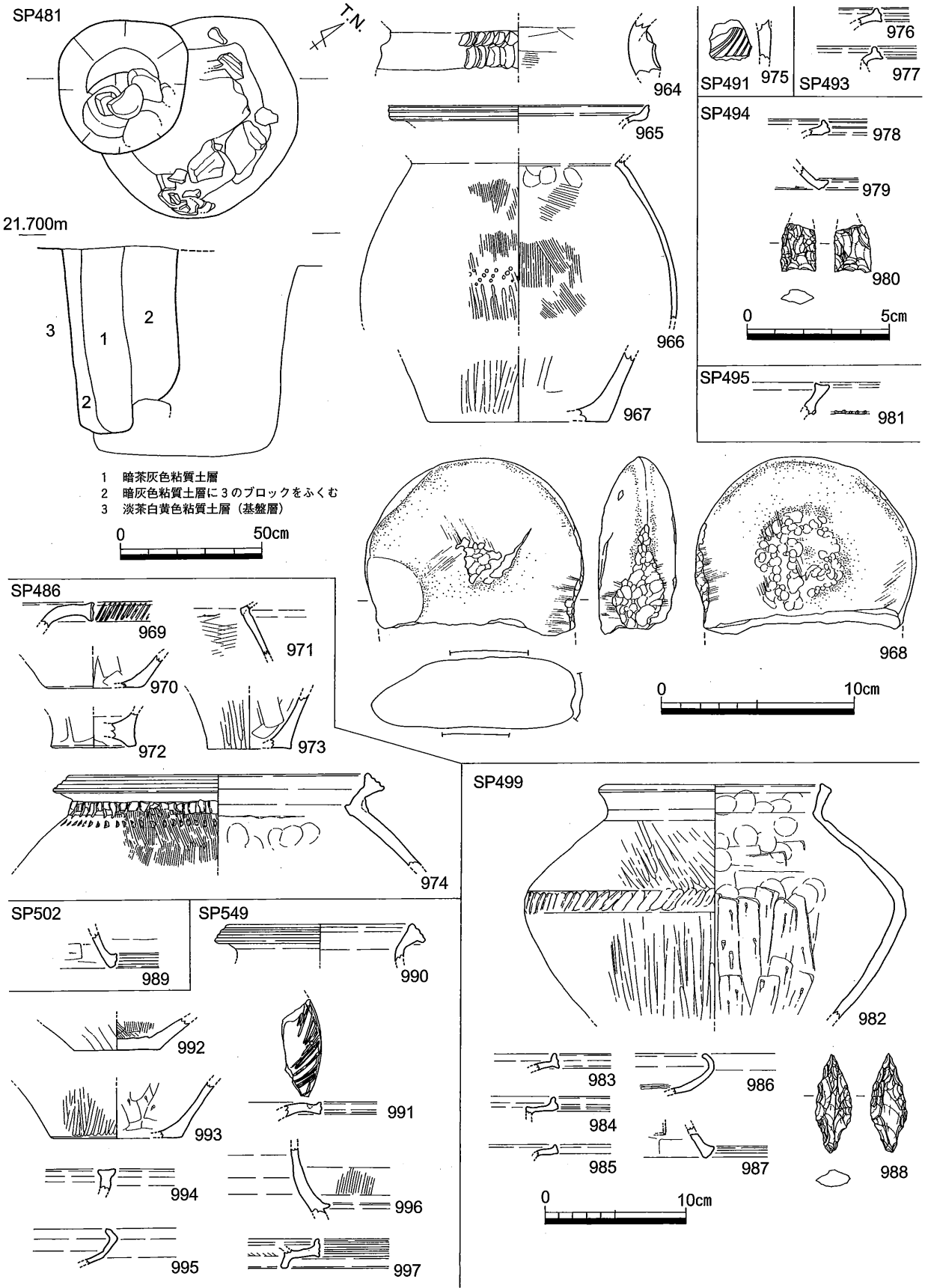
第68図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図③

壺で、口縁端部を外方に摘み出す。口縁部外面には断面三角形で、刻み目を持つ突帯を2条巡らせ、その下位には櫛先刺突文が2段に施されている。962・963は石製品で、962は砂岩製の砥石、963は砂岩製の叩き石である。962の砥石は、復元するとすり鉢状になるものと思われ、その内面下部には朱の痕跡が確認できる。時期は出土土器より、弥生時代中期後半と考えられ、砥石も同時期と考えられる。

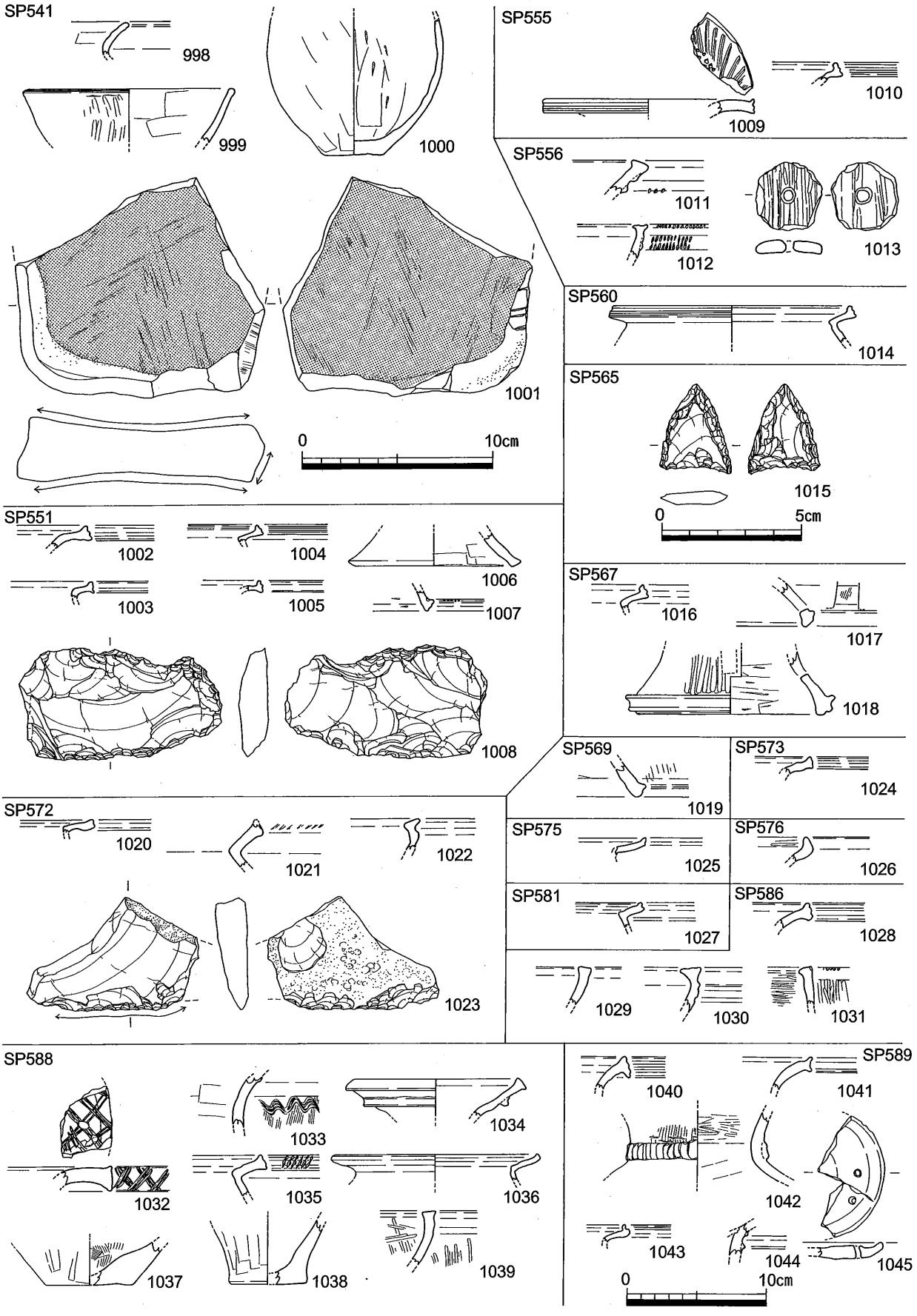


第69図　柱穴出土遺物実測図④

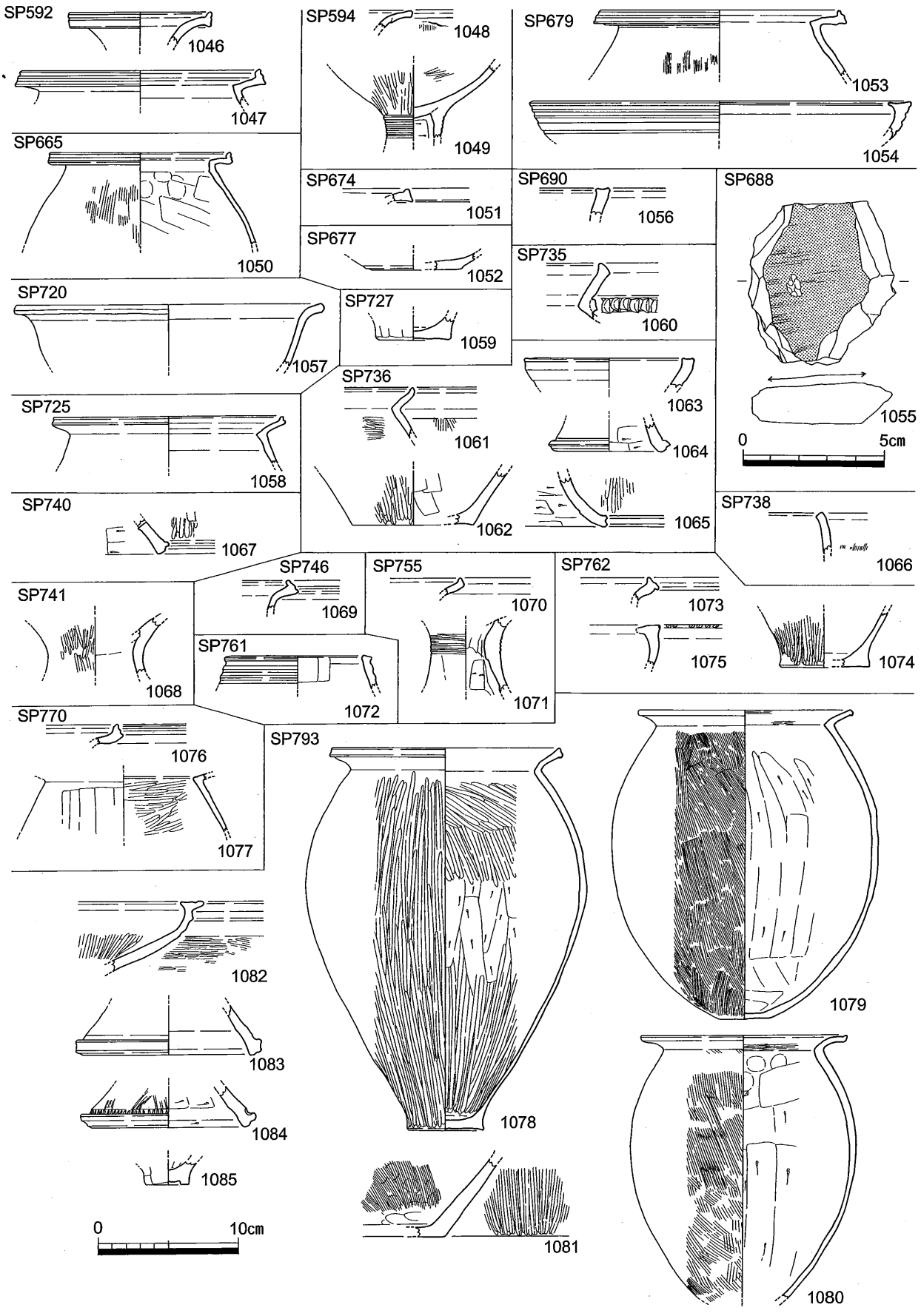
検出した柱穴の時期は概ね弥生時代中期末～後期初頭、弥生時代後期、古墳時代（６世紀末～７世紀前半）の３時期に分けられる。



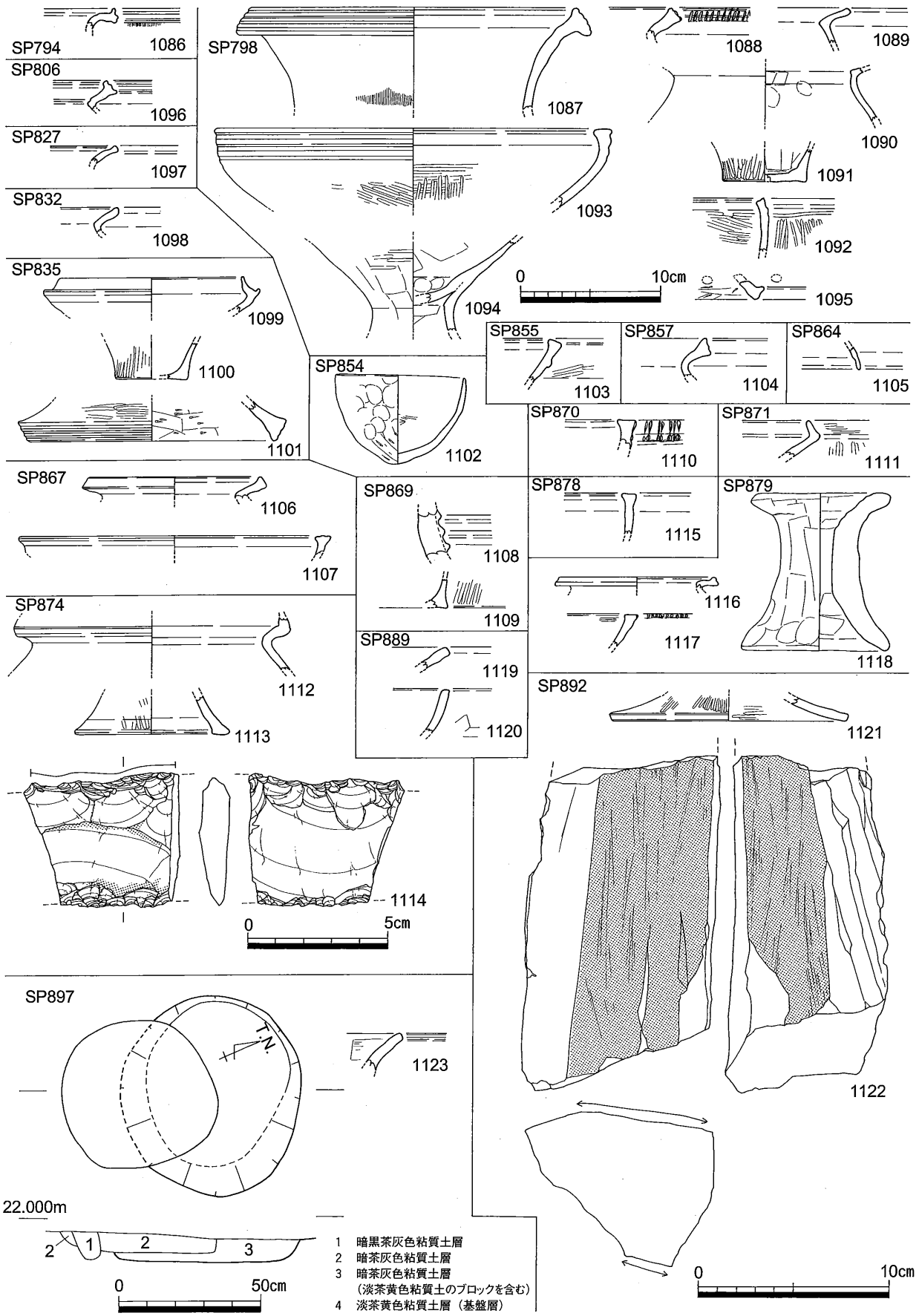
第70図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図⑤



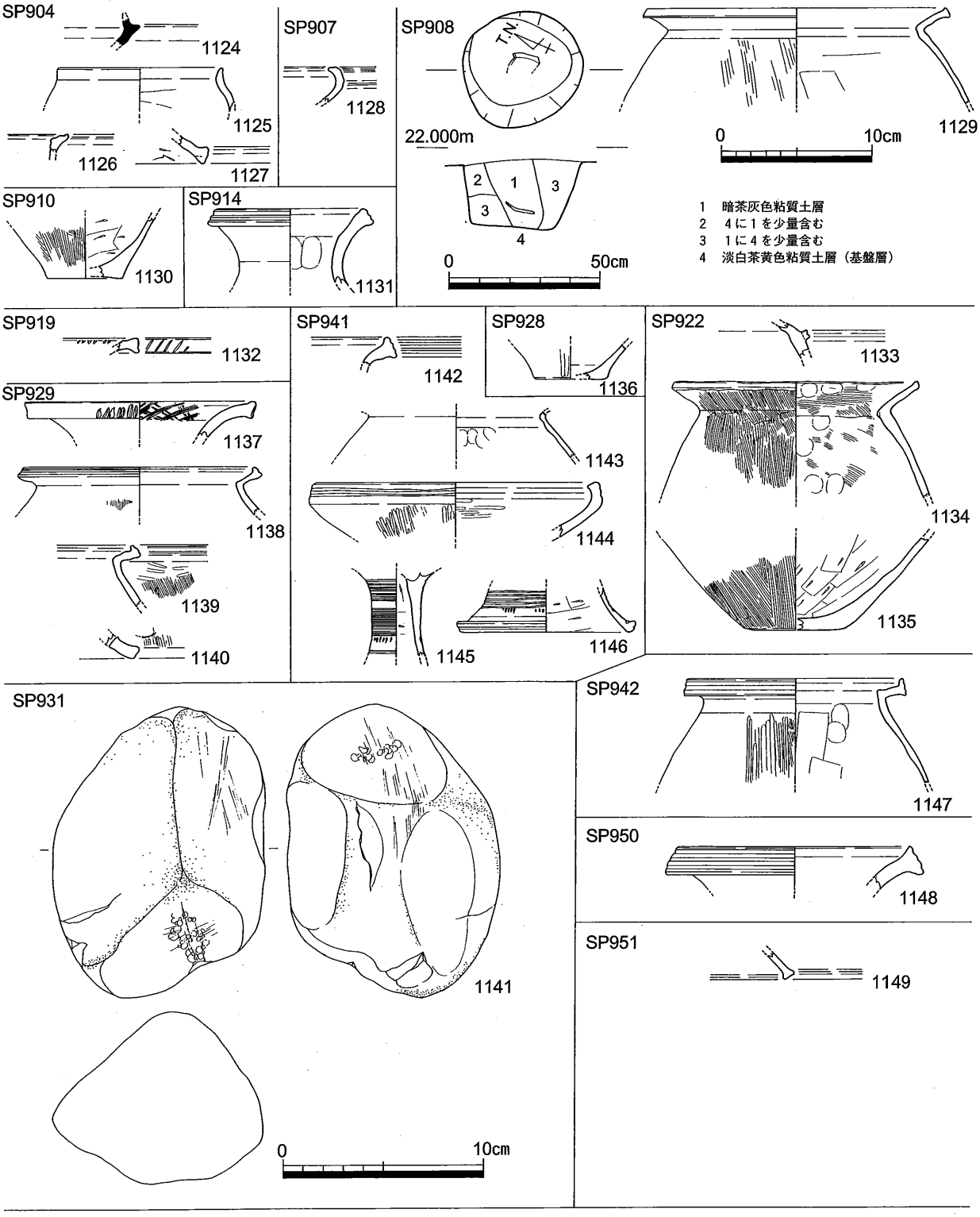
第71図　柱穴出土遺物実測図⑥



第72図　柱穴出土遺物実測図⑦



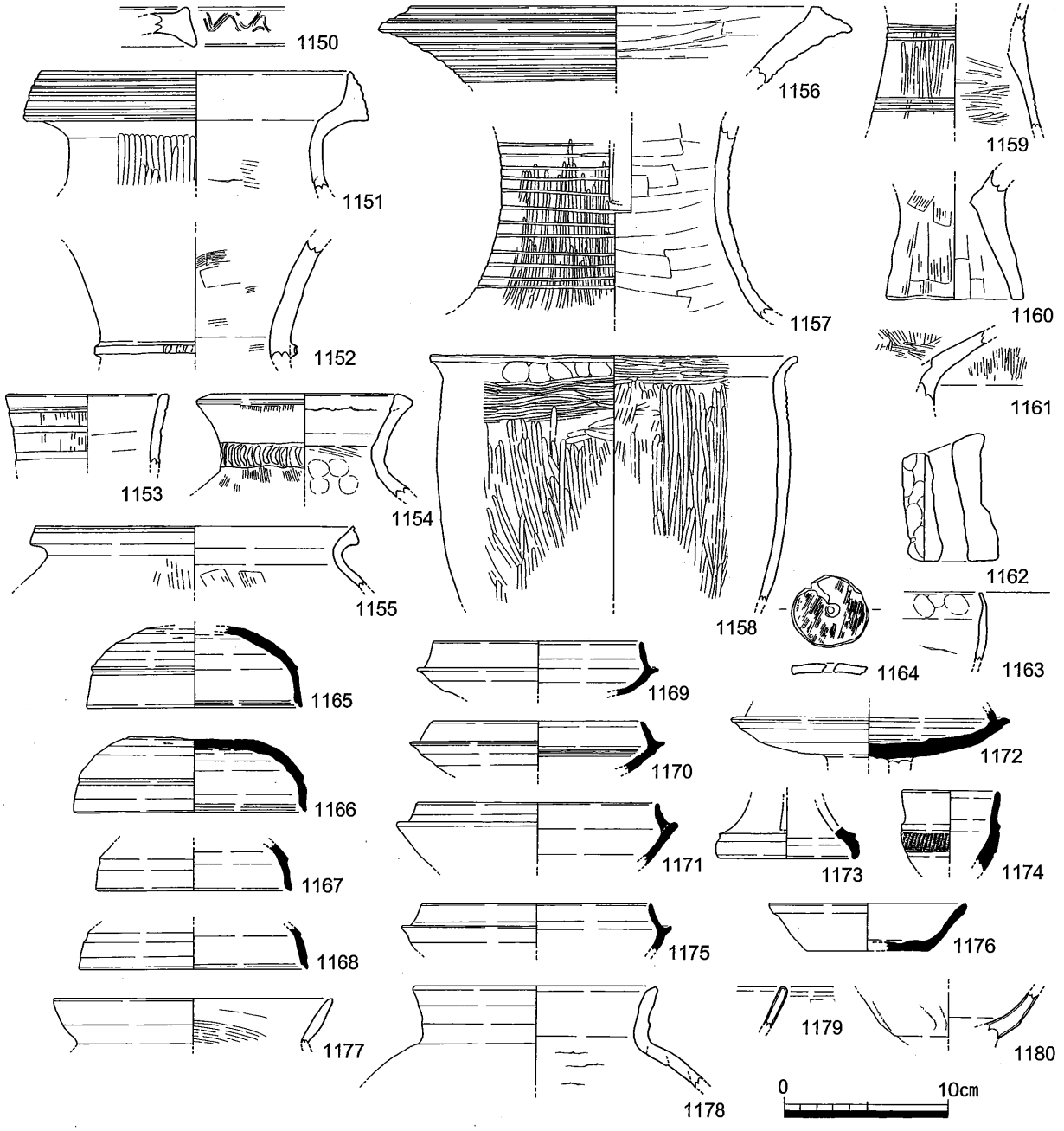
第73図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図⑧



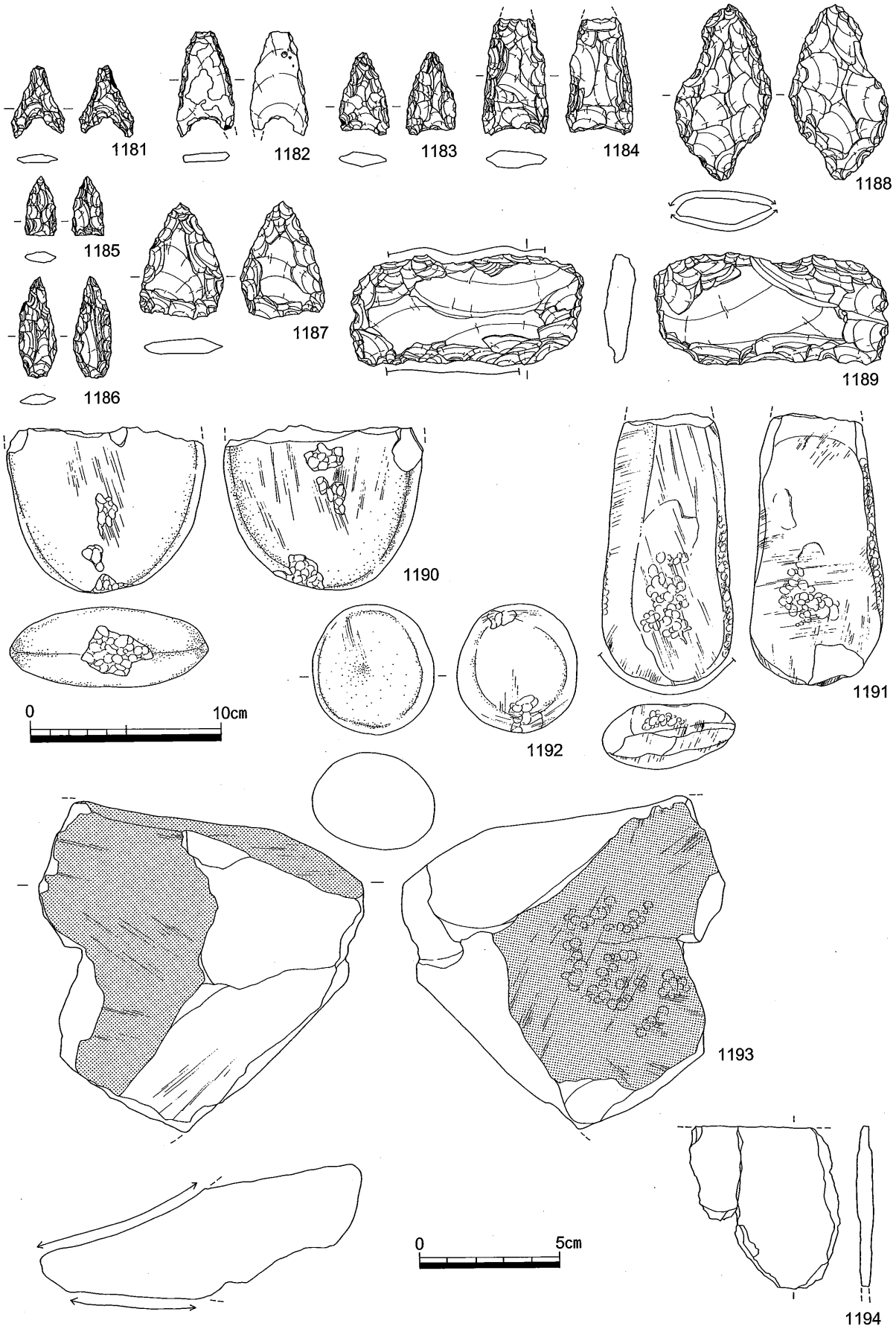
第74図　柱穴平・断面図，出土遺物実測図⑨

8．包含層出土遺物

第Ⅰ調査区包含層から出土した遺物には弥生土器・須恵器・輸入陶磁器・石製品がある。1158は口縁部が如意状を呈するもので、口縁部下に８本程度の多条化した櫛描沈線が施されており、時期は弥生時代前期である。その他の弥生土器は弥生時代中期後半～後期にかけての壺・甕・器台・高坏・支脚が出土している。1163は製塩土器で、内湾気味の体部で、かなり薄く作られる。1164は弥生土器甕の体部を転用した紡錘車である。弥生時代前期の遺物を除くと第Ⅰ調査区で検出した遺構と同時期であることがわかる。須恵器は６世紀の須恵器坏身・坏蓋があり、６世紀末～７世紀初頭の須恵器高坏、９世紀末頃の須恵器坏が出土している。1174は小形の壺で、子持ち壺と考えられる。1179・1180は輸入陶磁器の青磁椀である。時期は中世と考えられ、第Ⅰ調査区ではＳＲ01・02が同



第75図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図①

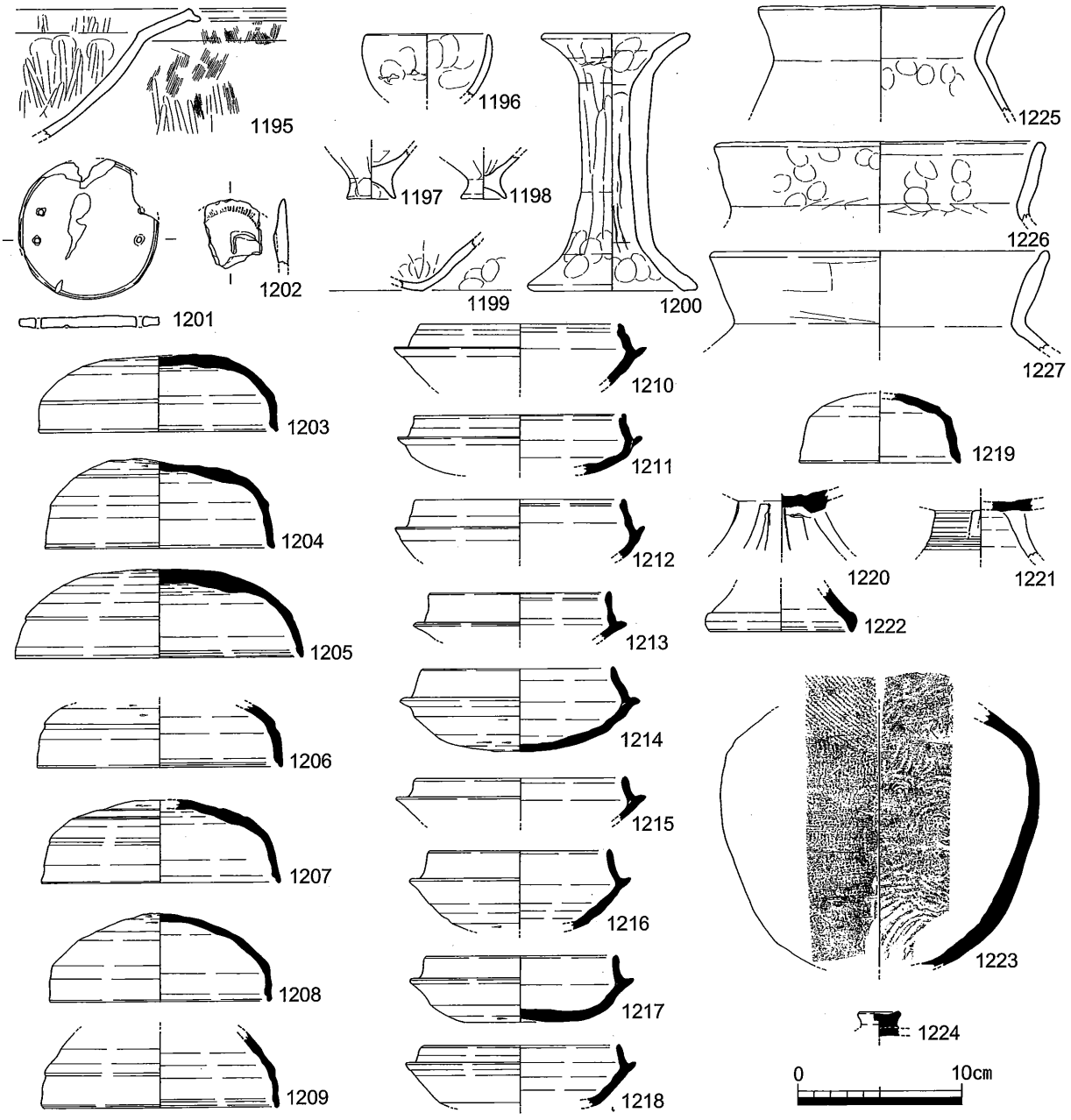


第76図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図②

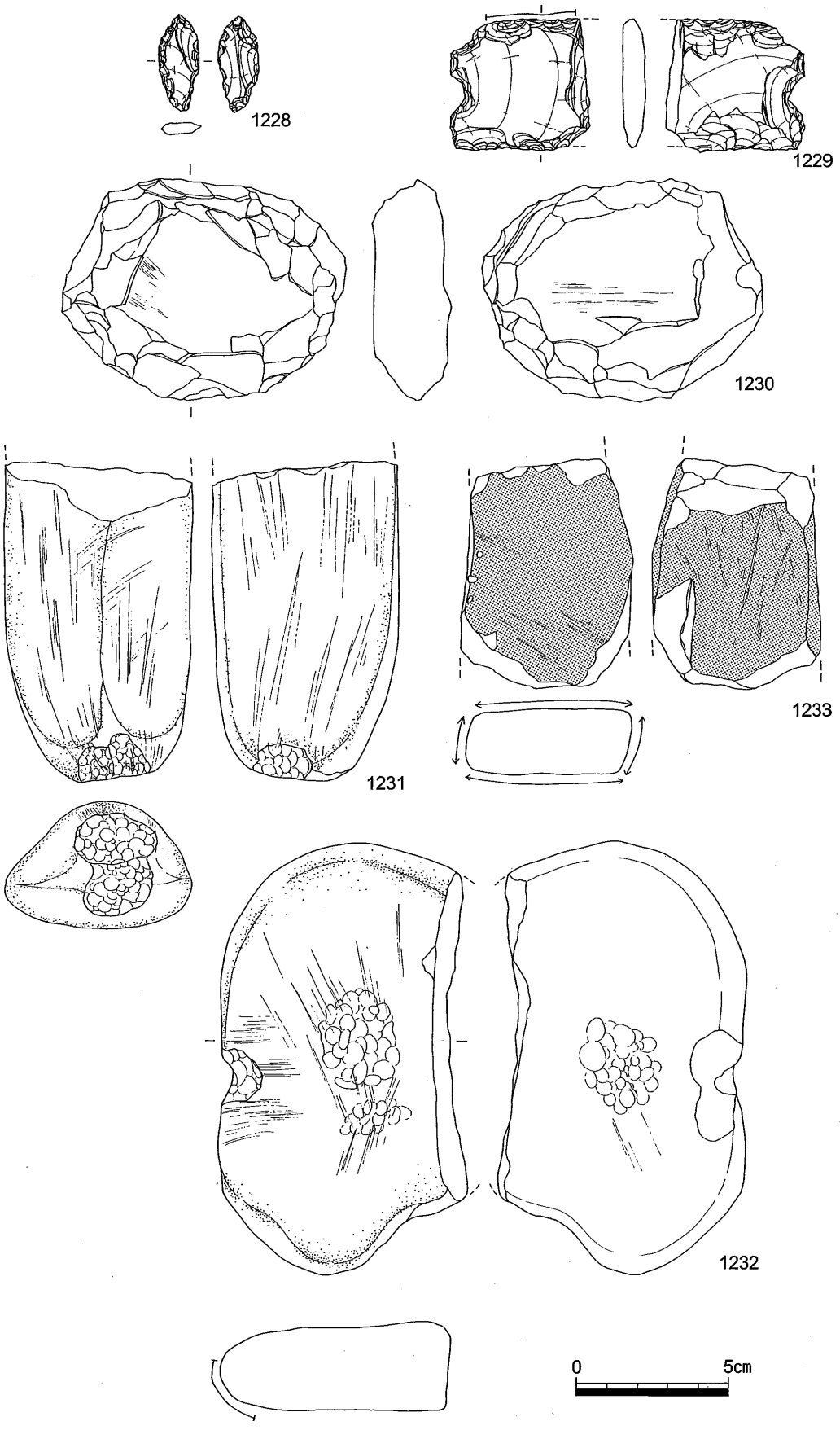
時期と考えられる。1181～1193は石製品で、特に1193はＳＰ480出土の砥石（962）と同様に復元するとすり鉢状になるものと思われ、その内面下部には朱の痕跡が確認できる。1194は鉄製品で、方形状を呈する鉄板である。

1195～1232は第52図土層断面第３層で、第Ⅰ調査区遺構面の上位に堆積する包含層である。

1195～1198・1200は弥生時代の遺物で、鉢・蓋・分銅形土製品・製塩土器・支脚などが出土している。1199は製塩土器で、底部が尖底であることからやや時期は新しく古墳時代と思われる。1201は蓋で、平らな円盤に２個１対の穿孔が対角に認められる。1202は分銅形土製品でほぼ中央部に目（眉）・鼻を表現した粘土紐を張り付けている。上端には櫛先による指突文が施されている。1203～1224は須恵器で、1203～1206が坏蓋、1210～1218が坏身、1219は蓋、1220～1222は高坏、1223は



第77図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図③



第78図　第Ⅰ調査区包含層出土遺物実測図④

壺の体部、1224は蓋の摘みである。坏蓋は天井部と口縁部の境に沈線を持つもの、僅かに屈曲を残すものがある。口縁端部内面は沈線状の段を持つものと僅かに窪みを持つものがある。坏身は立ち上がりが内傾し、口縁端部内面に僅かに段を持つものとそのまま丸く終わらせるものがある。1228～1233は石製品である。

以上第Ⅰ調査区包含層から出土した遺物には弥生時代前期～中世までの時期幅があり、弥生時代中期～後期と古墳時代に主体がある。この2時期は主として検出した遺構の時期と合致する。また朱の痕跡のある砥石が出土していることから朱の精製に関与していた集落であることも考えられる。

第Ⅱ調査区

第Ⅱ調査区は南北に長い弘田川西岸遺跡調査対象範囲の中央部に位置し、善通寺市善通寺町に所在する。また、北に位置する第Ⅰ調査区とは現在の弘田川によって分断されており、その弘田川の南側で、東で屈曲した弘田川の西側に位置している。この位置は、森下（森下2000）の旧練兵場遺跡の地形区分では西微高地５（森下2006では弘田川西岸地区）に当たり、森下は弘田川西岸遺跡（弘田川西岸地区）も含めて、広義の旧練兵場遺跡群としている。

遺構面は現地表下約20～30cmで検出でき、耕作土・床土直下遺構面となることから、かなり削平を受けているものと考えられる。遺構面を形成する基盤層は茶黄色系の粘質土で、調査区全域で確認できる。第Ⅰ調査区で確認できた遺構面と床土（客土）間に包含層を第Ⅱ調査区では確認していない。

第Ⅱ調査区では、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、溝跡、土壙墓、土坑跡、柱穴跡、自然流路跡、縄文土器包含層を検出している。

参考文献・引用文献

森下英治　2000「旧練兵場遺跡の集落構造」『旧練兵場遺跡シンポジウム』善通寺市教育委員会・(財)元興寺文化財研究所

森下英治　2006「瀬戸内の大規模密集型集落－香川県旧練兵場遺跡と周辺遺跡」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会2006年度愛媛大会実行委員会

１．掘立柱建物跡

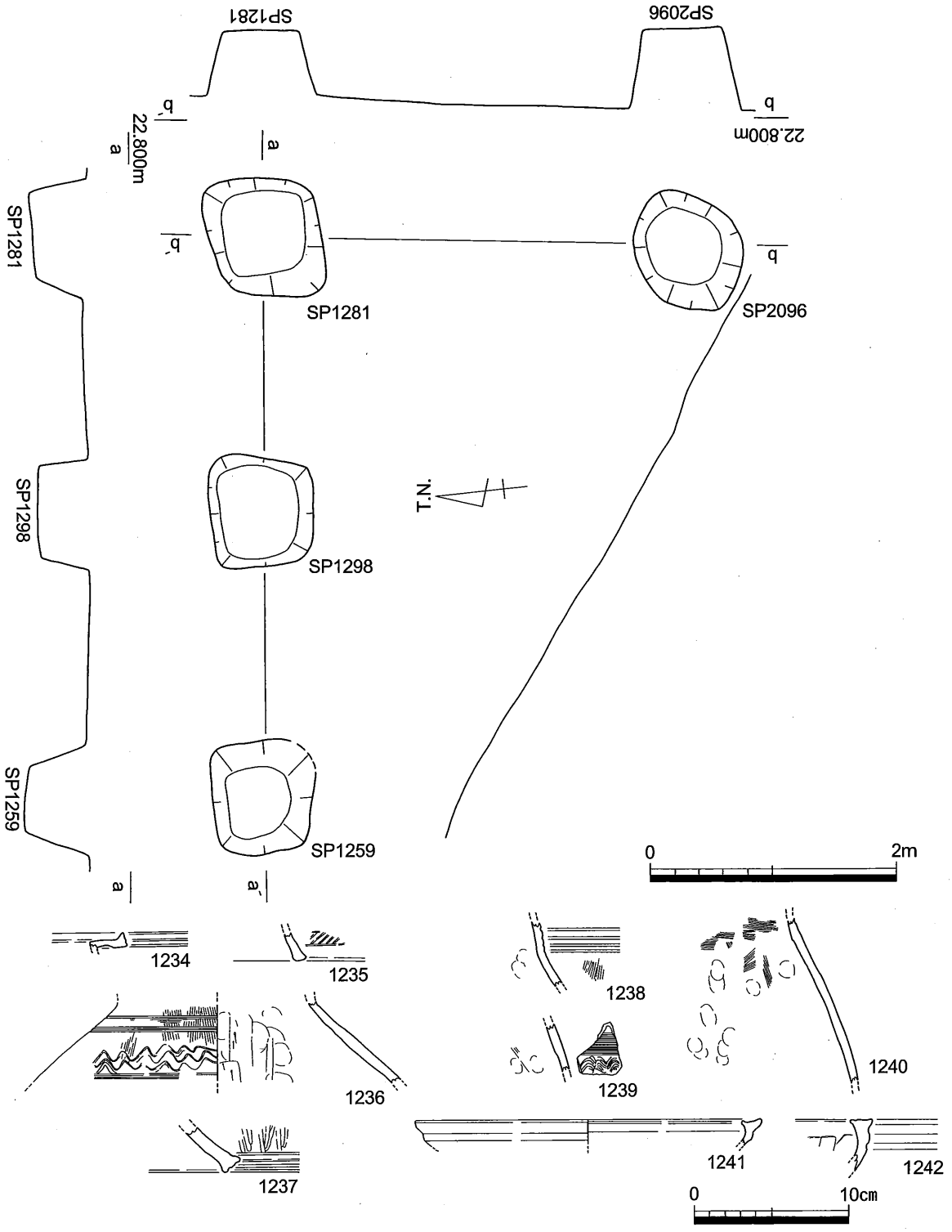
第Ⅱ調査区で検出した柱穴は全域で、濃密に確認しているが、後述する５棟以外に掘立柱建物を構成するには至っていない。

ＳＢ09

ＳＢ09は第Ⅱ調査区中央部、標高約22.46ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、南西部が確認できていないが、梁間１間×桁行２間で、3.40×4.56ｍ、床面積15.5㎡を測る。構成する柱穴は全て隅丸方形を呈し、一辺の長さ85～95cmと大振りで、検出面からは37～69cmと深く、しっかりした掘り方を持つ。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から7.0°東を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土で、それぞれの堆積土は基盤層のブロックの多少で分けられる。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。1234・1235はＳＰ1281出土の遺物である。1234は甕の口縁部で、端部を上方に拡張し、２条の退化凹線を持つ。1235は高坏の脚部で、外面にヘラ先による斜め方向の沈線が施されている。この柱穴からは縄文土器、弥生土器の壺・甕・高坏の破片が出土している。1236・1237はＳＰ1290出土の遺物である。1236は甕の体部上半部で、沈線間に波状文が施されている。1237は器台脚である。この柱穴からは縄文土器、弥生土器の甕の破片、結晶片岩の破片が出土している。1238～1242はＳＰ2096出土の遺物である。1238～1240は甕の体部上半部で、外面には沈線・波状文が施されている。1241・1242は高坏口縁部で、口縁端部を左右に拡張し、上面に退化凹線を持つ。また、口縁部外面にも２条の退化凹線を持つ。この柱穴からは縄文土器、弥生土器の甕の破片、サヌカイトの剥片が出土している。ＳＰ1259からは縄文土器、弥生土器の甕の破片、サヌカイトの剥片が出土している。

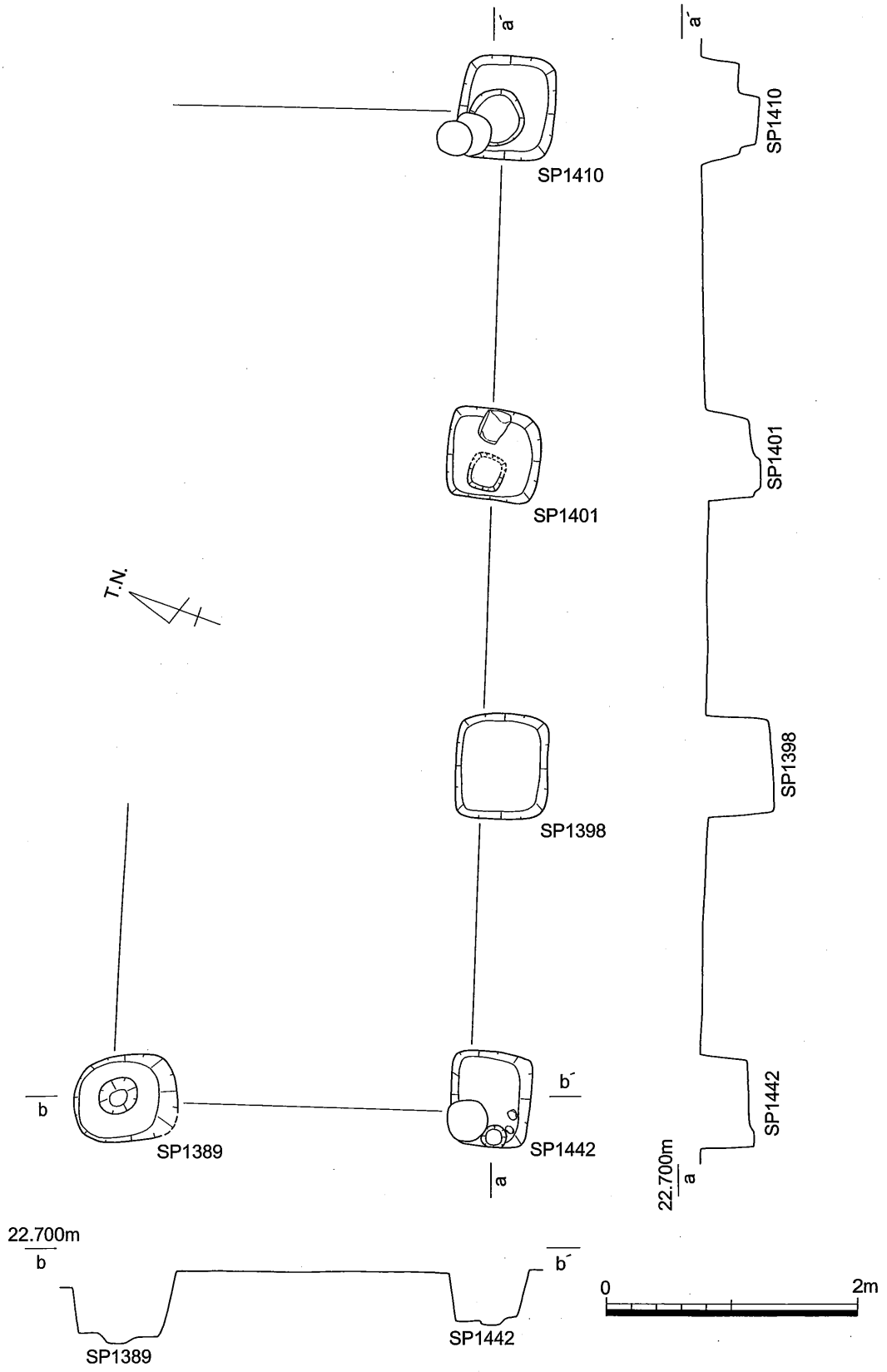


第79図　SB09平・断面図，出土遺物実測図

時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ10

ＳＢ10は第Ⅱ調査区中央部、標高約22.54ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、北側がＳＲ04によって削平を受けているために確認できていないが、梁間１間×桁行３間で、2.78×7.98m、



第80図　SB10平・断面図

床面積約22.2㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形を呈し、一辺の長さ64～84cmで、検出面からは37～54cmと深く、しっかりした掘り方を持つ。４つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径約32～45cmを測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から18.5°西を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。1243～1247はＳＰ1401出土の遺物である。1243・1244は壺で、1243は頸部外面に２段の指頭圧痕を持つ突帯を巡らし、口縁部は外反気味に外上方に延び、端部は上下に拡張する。1244の頸部外面には櫛先による刺突文が施されている。1245・1246は甕で、1245は頸部外面に指頭圧痕文突帯を巡らし、口縁端部を上方に拡張する。1247は「Ｃ」字形口縁を持つ高坏である。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイト剥片が出土している。1248・1249はＳＰ1389出土の遺物である。1248は壺で、頸部外面に櫛先による刺突文が施されている。1249は高坏で、円盤充填の痕跡が確認できる。この柱穴からは壺・甕・高坏の破片が出土している。

時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ11

ＳＢ11は第Ⅱ調査区中央部、標高約22.51ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行３間で、3.01×6.28m、床面積約18.9㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形を呈し、一辺の長さ67～90cmで、検出面からは21～59cmと深く、しっかりした掘り方を持つ。６つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径13～37cmを測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から18.0°西を取る。約３ｍの間隔をあけて北側にあるＳＢ10とは東西主軸をほぼ同じ方向に取り、併行に並んで建つ。またこの掘立柱建物跡ＳＢ11は東西の梁間部分外側に約１ｍの間隔をあけて、各１個の柱穴を確認している。この柱穴は掘立柱建物跡を構成する８個の柱穴と堆積土、柱穴規模、平面形態がほぼ同じであることから、ＳＢ11に付随するもので、棟持ち柱と考えられる。そのためか掘削深度は８個の柱穴より浅く、12～23cmを測る。

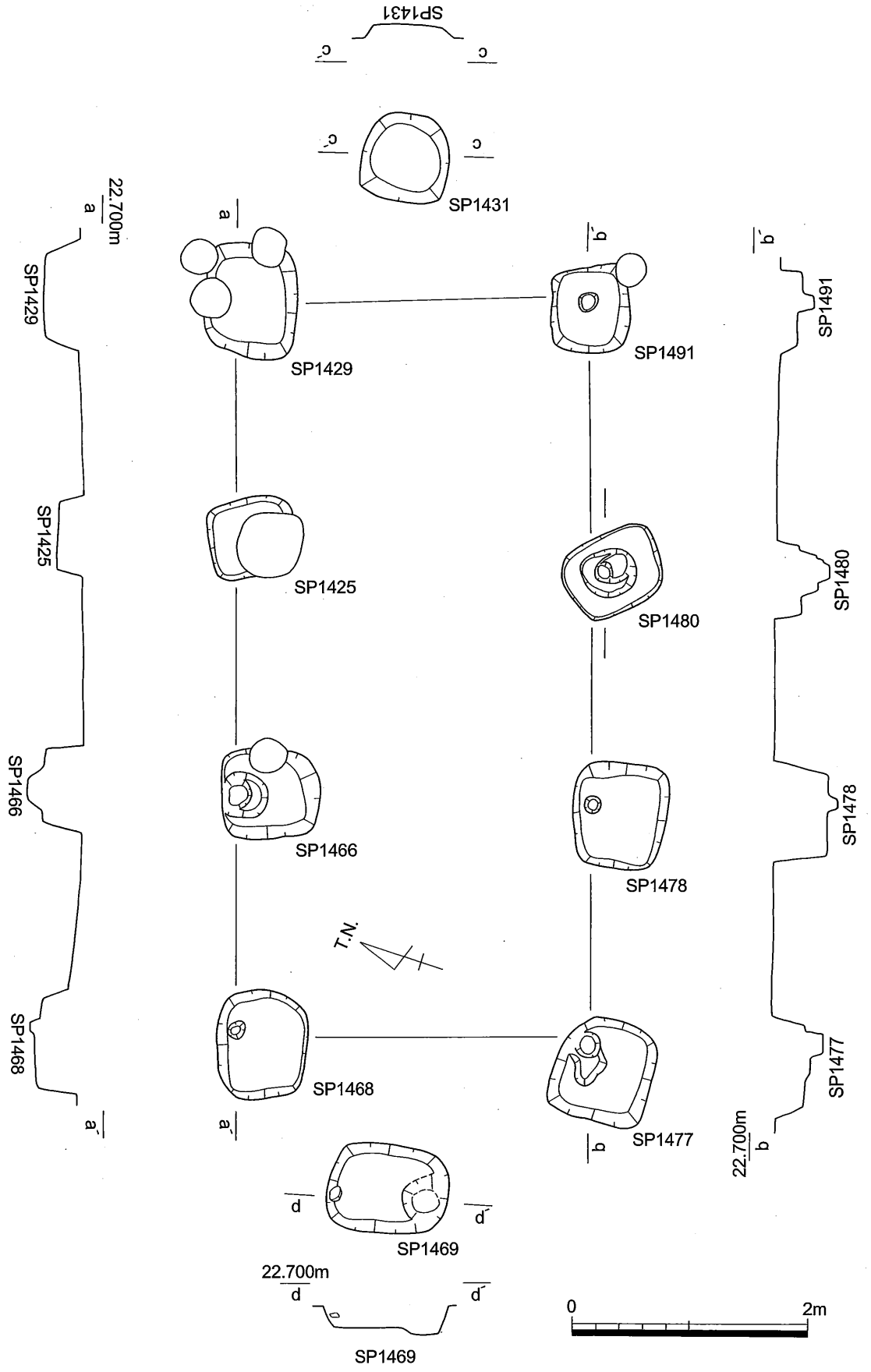
柱穴の堆積土は基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。1250はＳＰ1478出土の遺物で、体部外面に櫛先による刺突文を持つ甕である。この柱穴からは甕の破片が出土している。1251はＳＰ1431出土の弥生土器高坏の脚部で、外面に３条の沈線を持つ。この柱穴からは甕・高坏の破片が出土している。1252はＳＰ1480出土の弥生土器高坏の脚端部である。端部を上方に拡張し、外面に１条の沈線を持つ。これら以外の柱穴ＳＰ1468・1469・1477・1425・1429からも弥生時代の壺・甕の破片、サヌカイトの剥片が出土している。

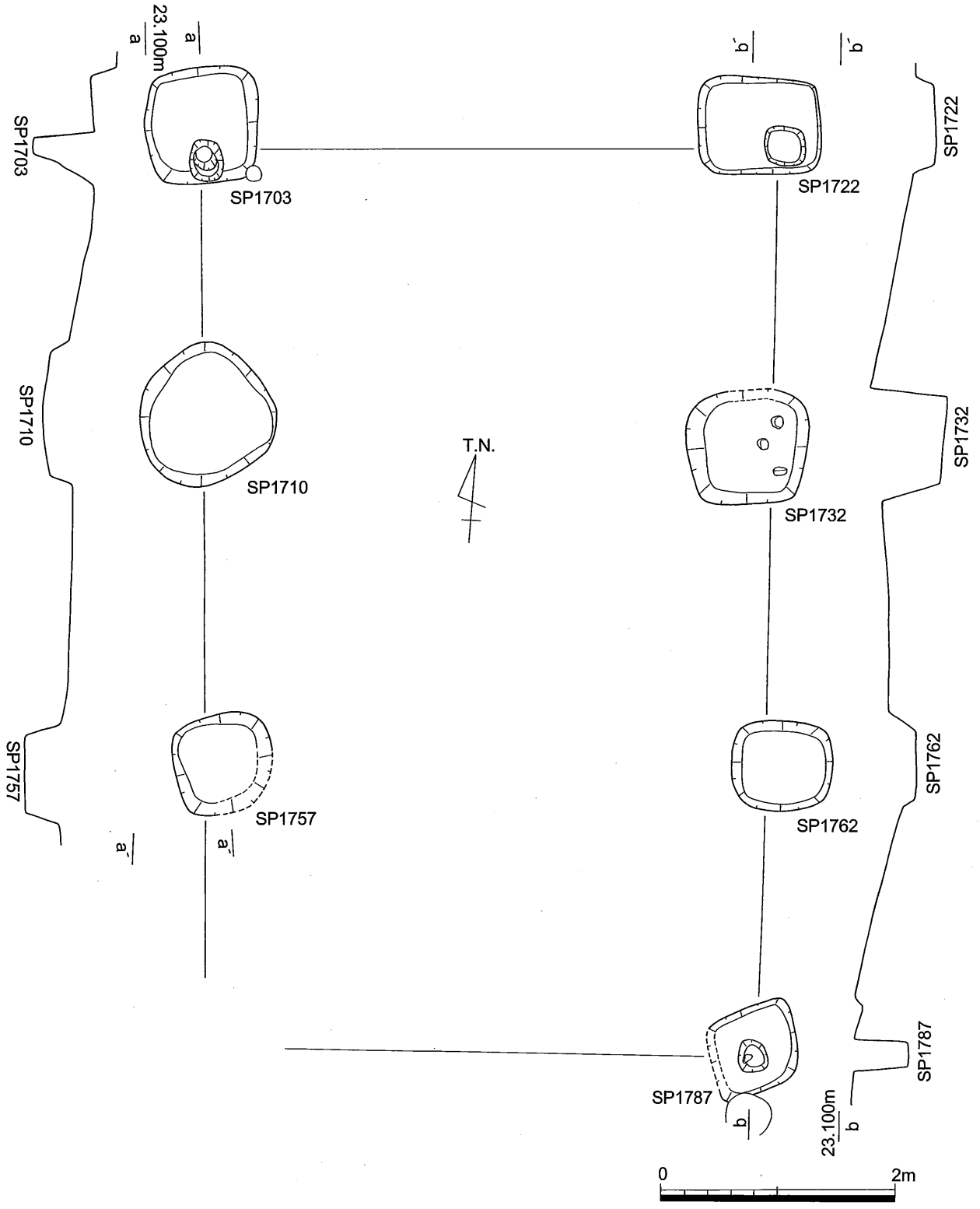
時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ12

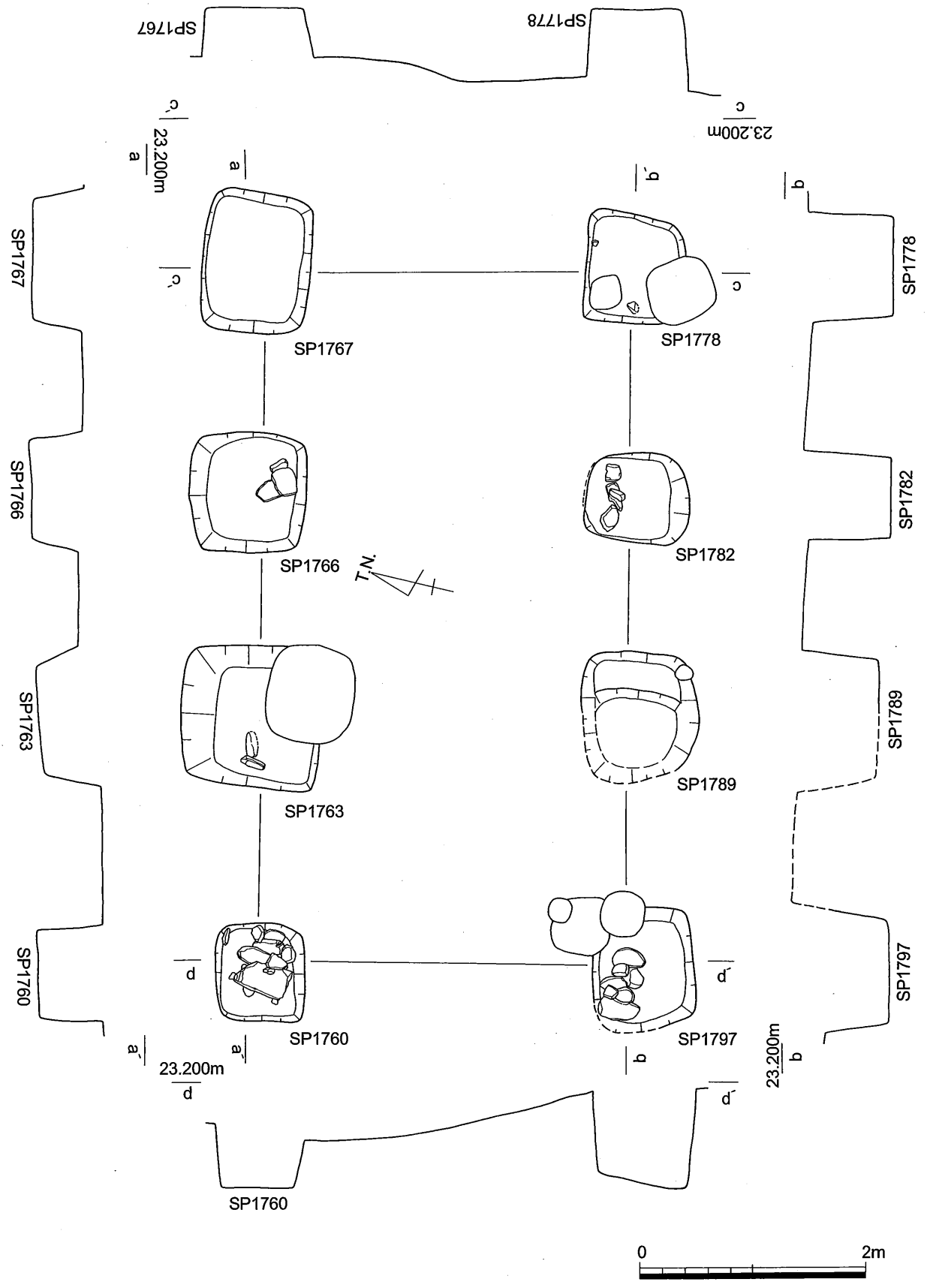
ＳＢ12は第Ⅱ調査区南端、標高約23.00ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行３間で、4.76×7.75m、床面積約36.9㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形を呈し、一辺の長さ85～115cmで、検出面からは48～63cmと深く、しっかりした掘り方を持つ。３つの柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径25～35cmを測る。建物は南北棟で、北－南方向（長軸）は真北か



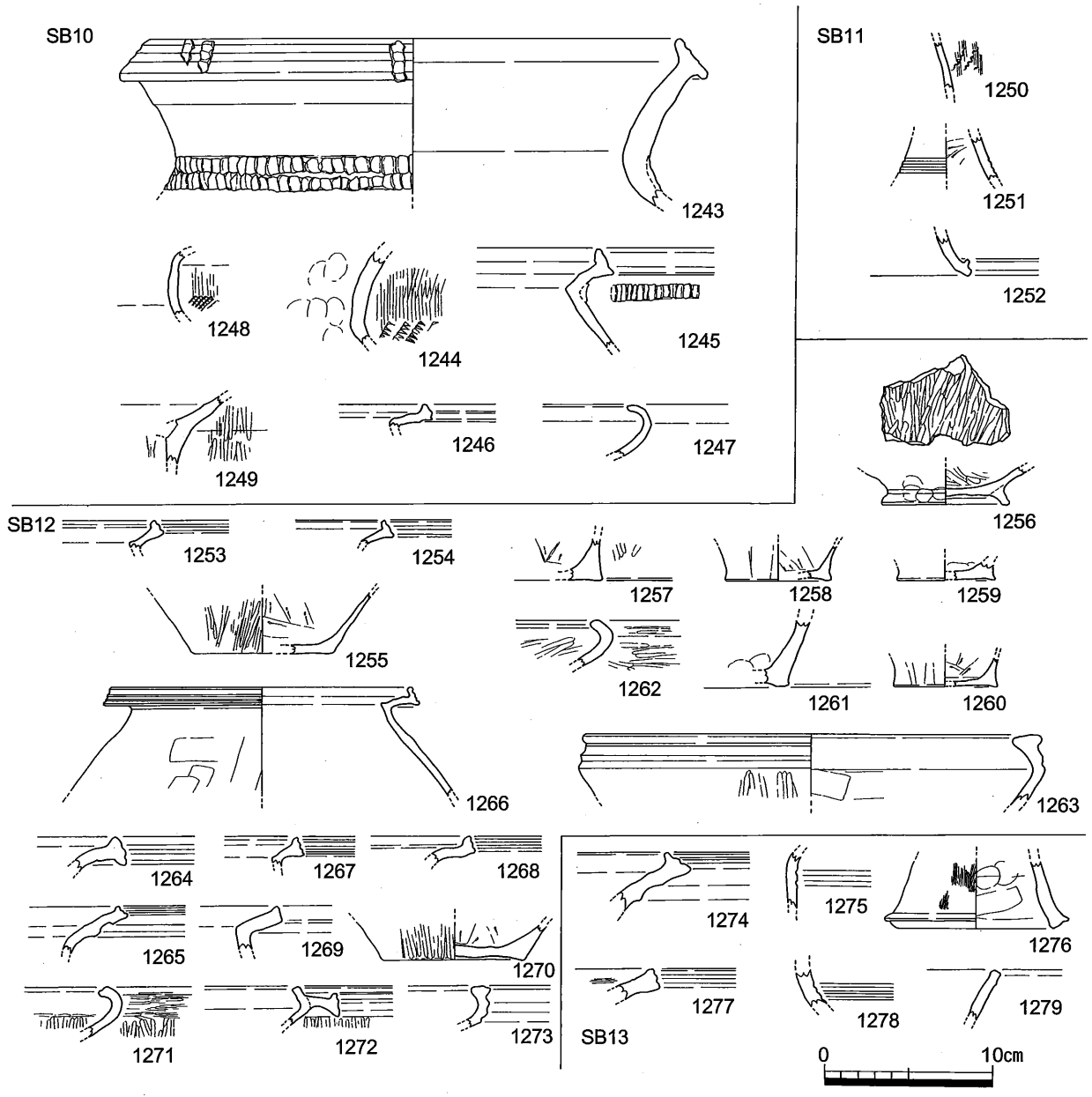
第81図　SB11平・断面図



第82図　SB12平・断面図



第83図　SB13平・断面図



第84図　SB10・11・12・13出土遺物実測図

ら4.0°西を取る。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを含む暗灰色粘質土が堆積する。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。1253～1255はＳＰ1703出土の遺物である。1253・1254は甕の口縁部で、端部を上方に拡張し、２条の沈線を持つ。この柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイトの剥片が出土している。1256～1262はＳＰ1710出土の遺物である。1256は縄文土器浅鉢の底部で、底部外面に高台が付く。1257～1261は底部で、甕の底部と考えられる。1262は高坏で、口縁部が「Ｃ」字形を呈する。この柱穴からは縄文土器、弥生土器壺・甕・高坏の破片が出土している。1263はＳＰ1722出土の高坏の口縁部である。口縁端部を左右に拡張し、上面に退化した凹線を持つ。また口縁部外面にも２条の凹線を持つ。この柱穴からは縄文土器、弥生土器甕・高坏の破片が出土している。1264～1273はＳＰ1732から出土した遺物である。1264・1265は壺で、口縁端部を拡張し、外面に沈線を持つものと端部を若干摘みだし、外面に１条の凹線を持つものが

ある。1266～1269は甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に２～３条の沈線を持つ。1270は壺の底部、1271～1273は高坏である。1271は口縁部が「C」字形を呈するもので、1272は水平に延びる口縁部を持ち、水平縁の内側に１条の隆起帯を持つ。口縁端部は上方に拡張し、外面に２条の退化凹線を持つ。この柱穴からは壺・甕・高坏・器台の破片が出土している。またＳＰ1762・1787・1575からは縄文土器、壺・甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。

時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

ＳＢ13

ＳＢ13は第Ⅱ調査区南端、標高約23.15ｍで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間１間×桁行３間で、3.22×6.28ｍ、床面積約20.2㎡を測る。構成する柱穴は隅丸方形を呈し、一辺の長さ78～121㎝で、検出面からは51～90㎝と深く、しっかりした掘り方を持つ。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から13.5°西を取る。柱穴内底面には流紋岩・砂岩の根石を持つものがある。ＳＰ1760は底面中心部に27×47㎝の流紋岩を据え、周りに10×20㎝の砂岩を配置することで根石としている。ＳＰ1797は柱穴内北側部分に10×20㎝の砂岩を７個配置することで根石としている。

柱穴の堆積土は基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを多量に含む暗灰色粘質土が堆積する。

それぞれの柱穴から弥生土器、サヌカイトが出土している。1274はＳＰ1763出土の壺の口縁部で、口縁端部を拡張し、外面に２条の沈線を持ち、口縁部外面には断面三角形の突帯を巡らしている。この柱穴からは壺・甕の破片が出土している。1275・1276はＳＰ1782出土の遺物である。1275は弥生時代前期の甕で、口縁部下に２条の沈線が認められる。この柱穴からは弥生時代前期の甕の破片、弥生時代後期の甕・高坏の破片が出土している。1277はＳＰ1789出土の遺物である。この柱穴からは甕・高坏の破片、サヌカイト剥片が出土している。またその他の柱穴からは壺・甕の破片、サヌカイトの剥片が出土している。1278・1279はＳＰ1797出土の遺物である。1278は弥生時代前期の壺で、体部外面に３条の沈線が認められる。この柱穴からは弥生時代前期の甕の破片、弥生時代後期の壺・甕の破片が出土している。

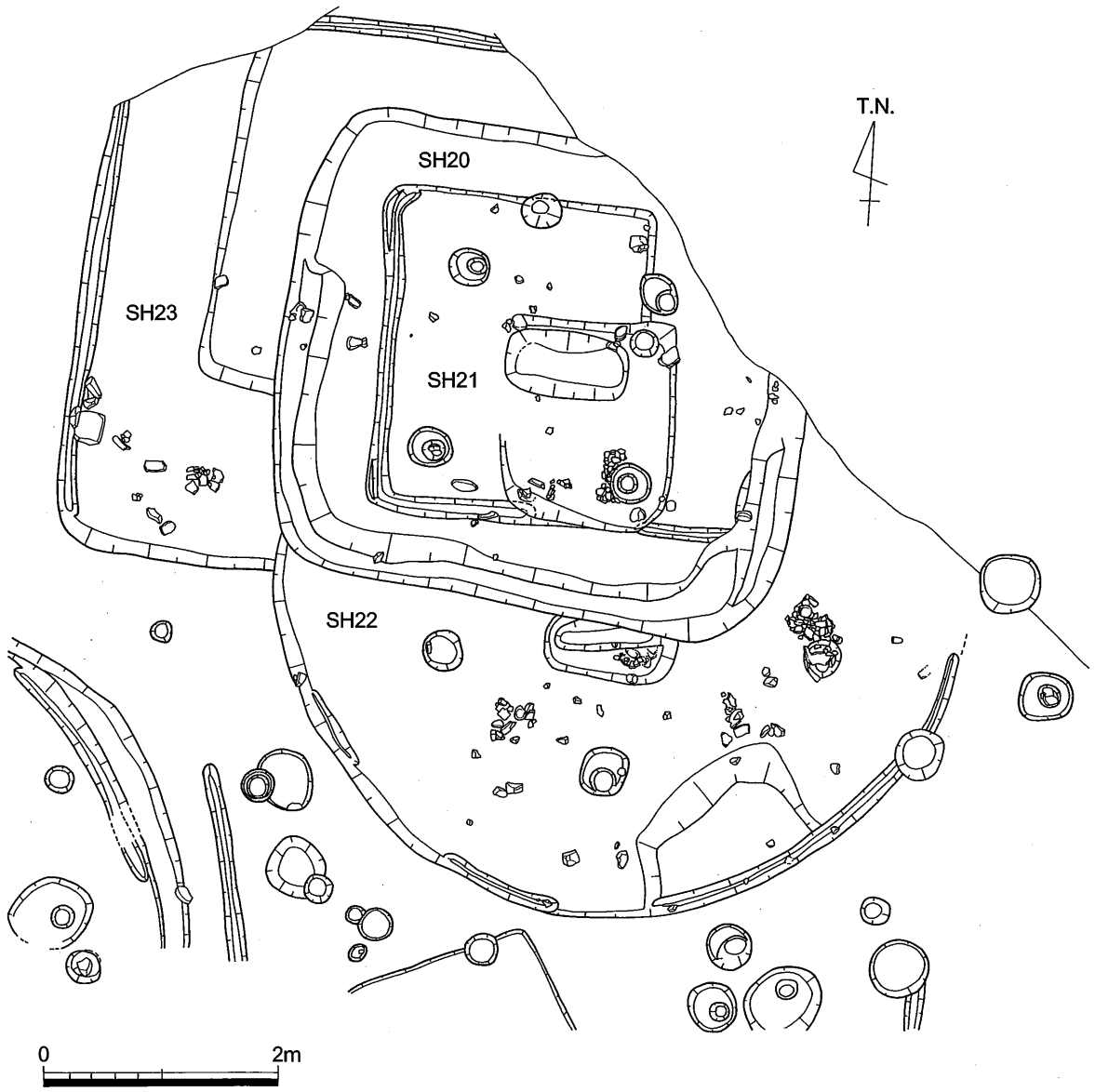
時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。

２．竪穴住居跡

第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡はＳＨ20～58の総数39棟で、平面形態が円形のものと方形のものがあり、調査区北部ではこれらがかなり切り合っており、密集度は高い。調査区中央部から南部では古墳時代の作り付けの竈を有する竪穴住居跡も検出している。

ＳＨ20

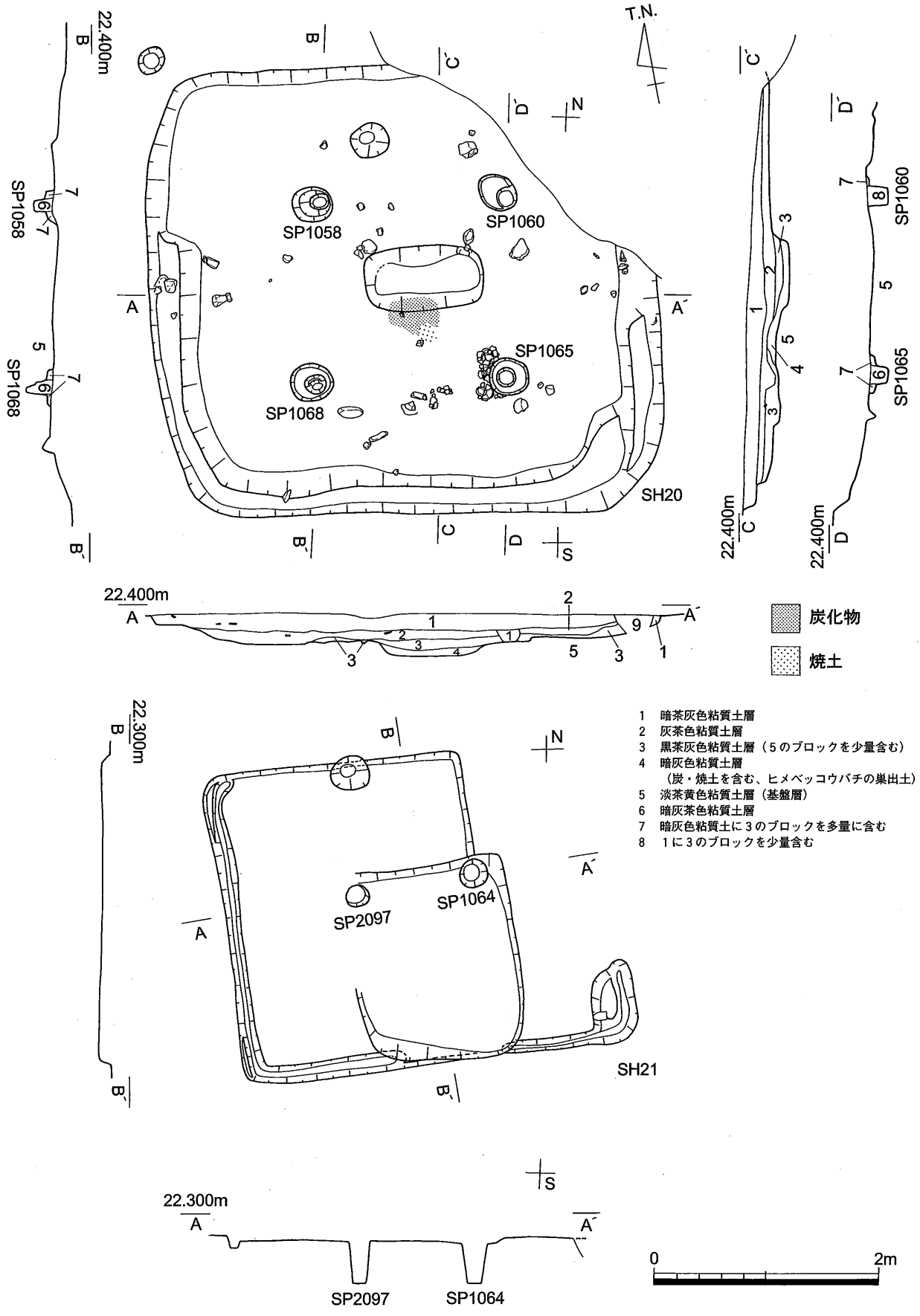
ＳＨ20は第Ⅱ調査区北部、標高22.31ｍで検出した竪穴住居跡である。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は北－南方向が約4.50ｍ、西－東方向が約4.01ｍ、検出面からの深さは約0.36ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約9.5°東を取る。竪穴住居内の堆積土は４層で、上位の第１層暗茶灰色粘質土・第２層灰茶色粘質土はほぼ水平堆積し、第３層は基盤層である淡茶黄色粘質土のブロックを含む黒茶灰色粘質土で、竪穴住居跡内南東部を中心に堆積している。第４層暗灰色粘質土は炉の堆積土で、炭・焼土を多量に含み、ヒメベッコウバチの巣が出土している。



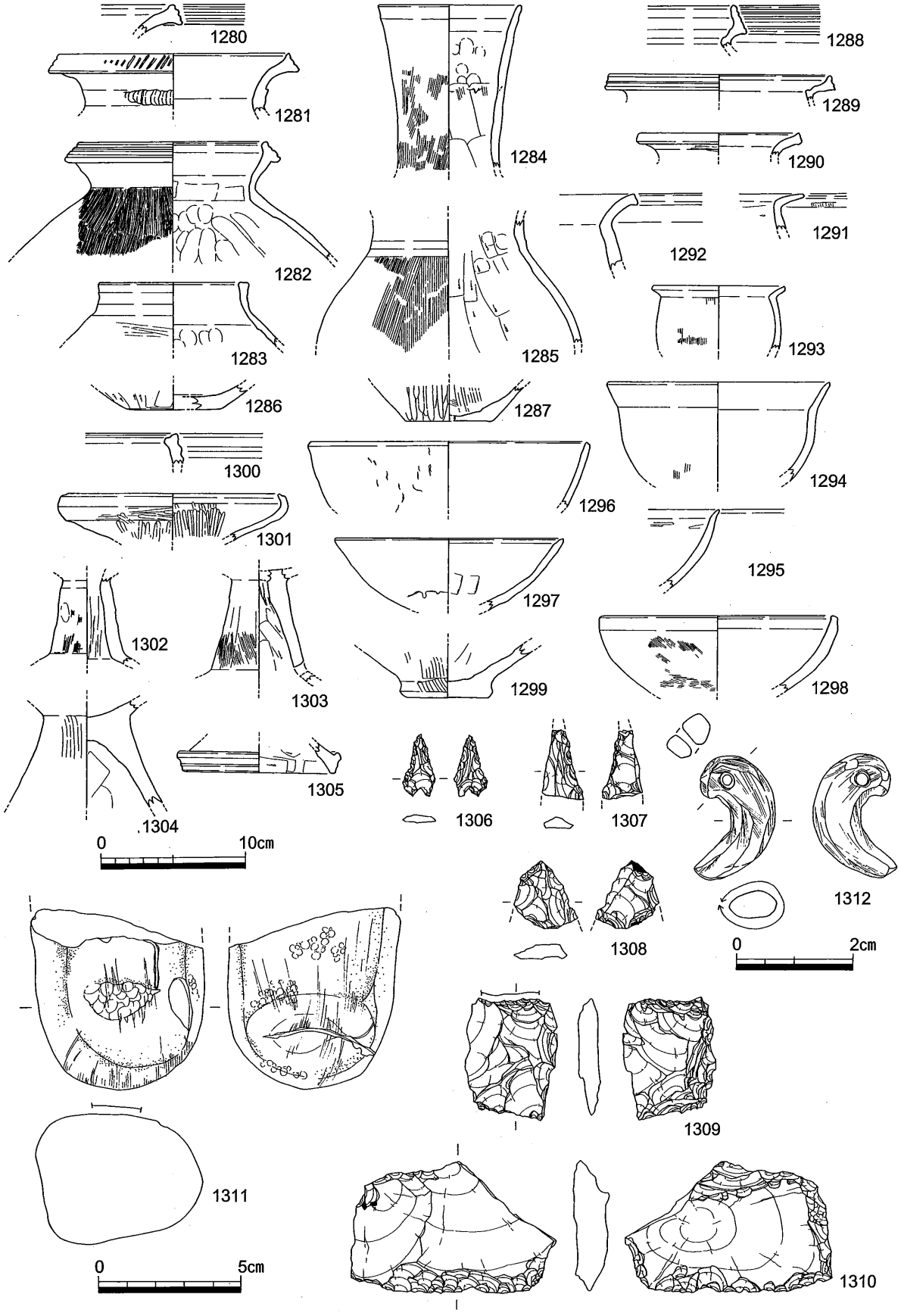
第85図　SH20・21・22・23位置関係図

竪穴住居内ではほぼ中央部に平面形態が長方形を呈し、規模は長辺約1.06m、南北約0.57mで、断面隅丸の逆台形状を呈した土坑を検出した。この土坑中心として、南側約0.50mの範囲に焼土・炭化物が約6cmの厚さで堆積する。この焼土・炭の範囲も含めこの土坑は、この竪穴住居の炉と考えられる。竪穴住居内の南半分には、床面から約10cm高く、幅15～20cmの平らな段が巡る。主柱穴は4穴で、ほぼ四隅に近い部分で検出している。主柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈し、規模は直径が29～38cm、深さ15～25cmを測る。全てに柱痕が確認でき、平面形態は円形を呈し、直径が15～19cmを測る。柱穴の堆積土は3層あり、主としては柱痕部分（第6層暗灰茶色粘質土）と埋め土（第7層黒茶灰色粘質土のブロックを多量に含む暗灰色粘質土）に分けられる。調査時は柱穴の掘り方が浅く、柱痕が深くなっているが、おそらく下位にも基盤層（第5層）と同じ色・質の埋め土があった可能性があったと考えられる。壁溝は検出していない。

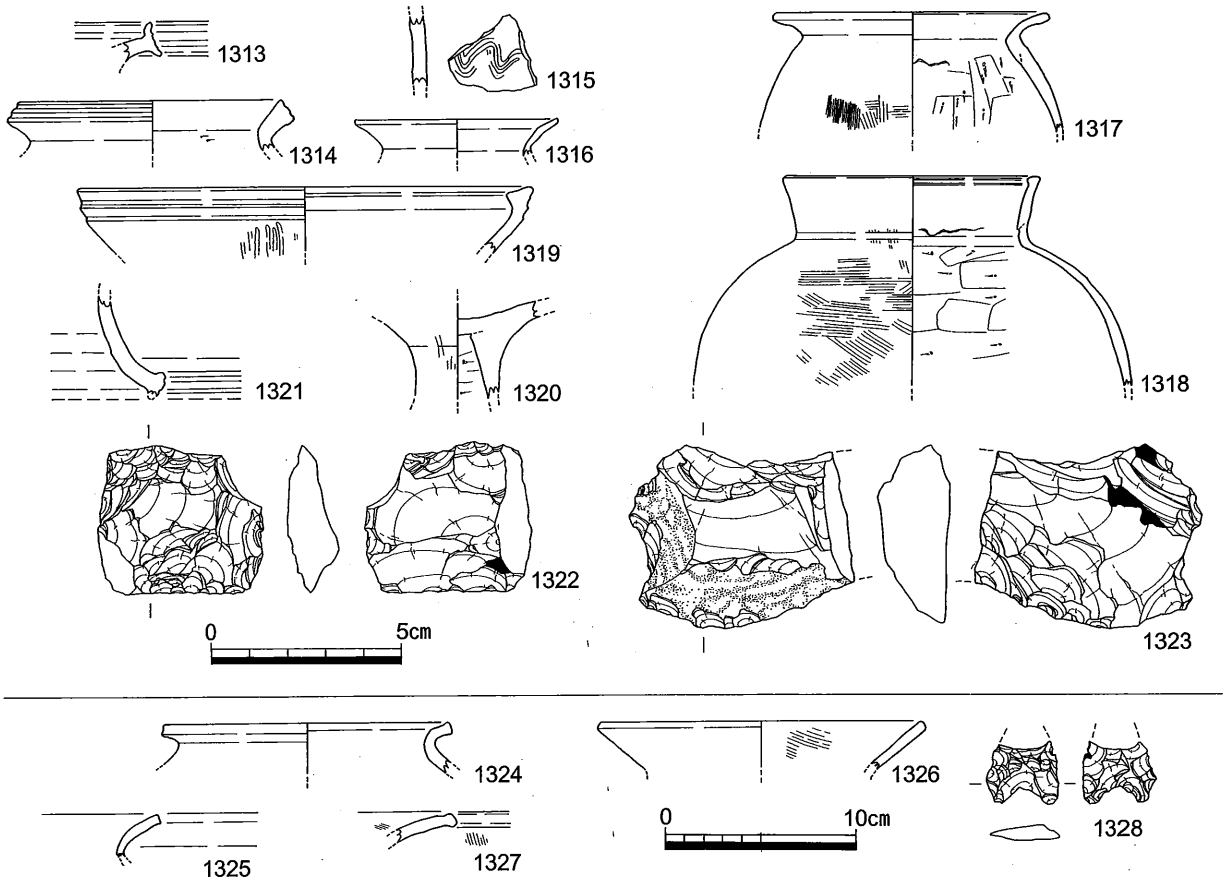
竪穴住居内から多数の弥生土器・石製品が出土している。これらの遺物は竪穴住居内堆積土（第



第86図　SH20・21平・断面図



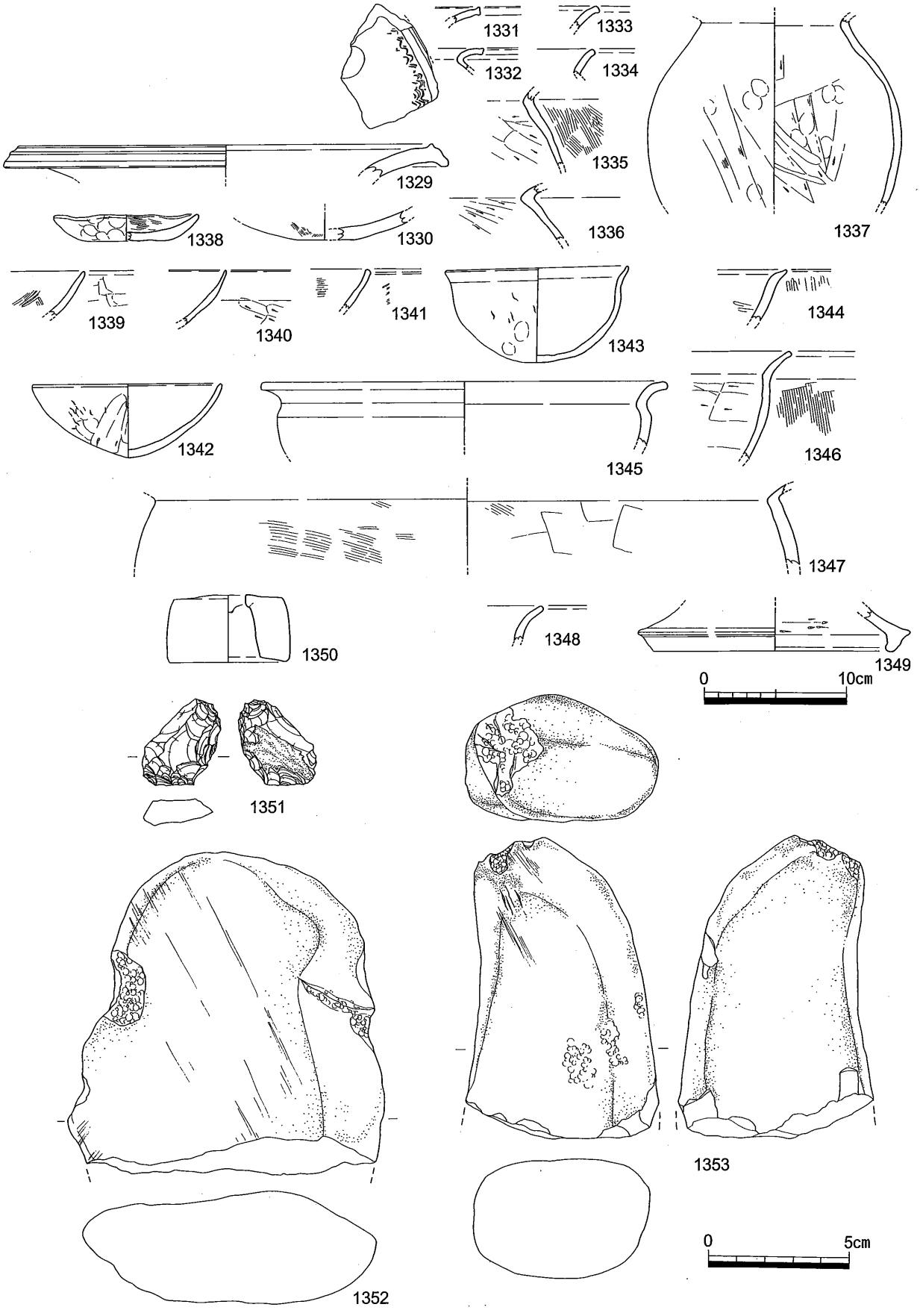
第87図　SH20出土遺物実測図①



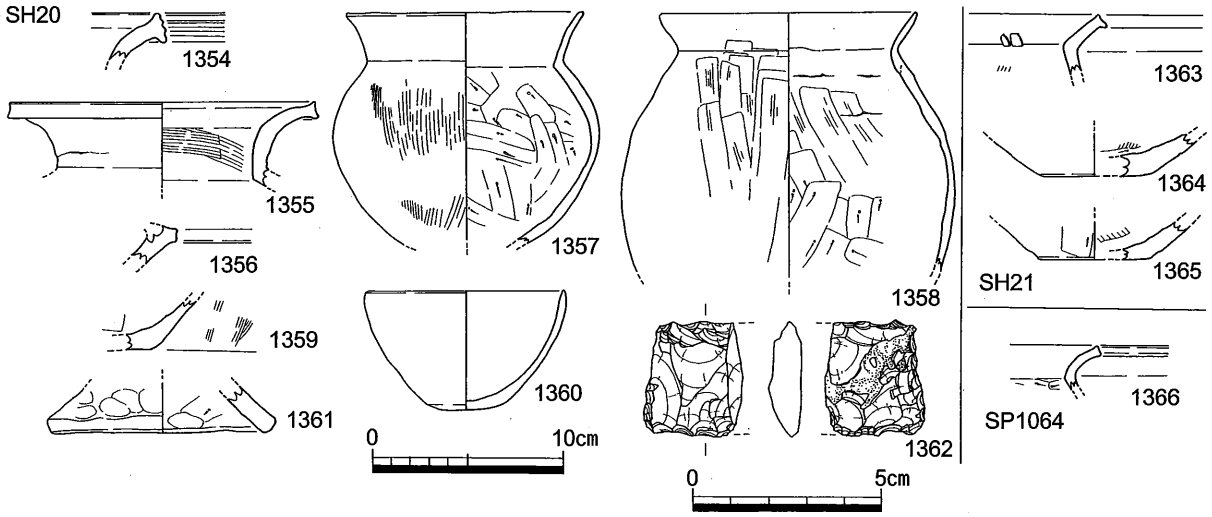
第88図　SH20出土遺物実測図②

1～3層）出土遺物、床面直上出土遺物、炉内出土遺物に分けられる。

1280～1312は堆積土第1層から出土した遺物である。1280～1287は壺で、頸部から口縁部にかけて短く、延び口縁端部を拡張し、外面に沈線を持つものや口縁部が短く上方に延びる無形壺や外反気味に細く延びる細頸壺がある。1281は頸部屈曲部外面に指頭圧痕文突帯を巡らす。1288～1293は甕で、口縁端部を拡張し、外面に沈線を持つものやそのまま終わらせるものがある。1294～1299は鉢で、内湾する体部から、口縁部で「く」の字に屈曲するものとそのまま終わらせるものがある。1299は底部が突出するもので、鉢の底部である。1300～1305は高坏である。1301は口縁部が「C」字形口縁で、坏部内外面にヘラ磨きが密に施されている。1302・1303の脚は下半で外方に屈曲するもので、ちょうど屈曲部に穿孔が認められる。1306～1308は石製品である。1306～1308はサヌカイト製の石鏃、1309・1310はサヌカイト製のスクレイパー、1311は砂岩製の台石で、先端部には擦痕が確認できる。1312は蛇紋岩製の勾玉である。粗割りした石材を面取りし、全面を粗く磨いている。穿孔は直径1㎜と細く、両側からあけられている。1313～1323は堆積土第2層から出土した遺物である。1313～1318は甕で、口縁端部を上下に拡張し、外面に沈線を持つものやそのまま終わらせるものがある。1318は土師器甕で、口縁部が直線的に外上方に延び、僅かに内側に摘み出す。古墳時代の甕である。1319～1321は高坏で、口縁部は内湾し、端部を左右に拡張させる。1320は坏部と脚部の接合部で、円盤充填の痕跡が認められる。1322・1323は石製品で、サヌカイト製の楔状石器である。1324～1328は堆積土第3層から出土した遺物である。1324～1326は甕で、口縁端部をそのまま終わらせている。1326は口縁部が直線的に延びるもので、古墳時代の土師器甕である。1328はサ



第89図　SH20出土遺物実測図③



第90図　SH20出土遺物実測図④，SH21出土遺物実測図

ヌカイト製の石鏃である。

1329～1353は竪穴住居内床面直上から出土した遺物である。1329・1330は壺で、口縁端部を拡張し、外面に２条の退化凹線、内面に波状文が施されている。底部は丸底化している。1331～1337は甕で、口縁端部を僅かに摘み出すものとそのまま終わらせるものがある。頸部は「く」の字に屈曲し、内面に稜を持つ。体部外面には刷毛目、内面にはヘラ削りが施されている。1338は手づくねの皿である。1339～1347は鉢で、口縁部が内湾し、そのまま終わらせるものと「く」の字に屈曲するものがある。そのまま終わらせるものは、口径約13cm程度のもので、「く」の字に屈曲するものは口径約13cm程度のもの口径約29cm程度のもの、更に大型のものの３種類が出土している。1348・1349は高坏で、1350は支脚である。1351～1353は石製品で、1351はサヌカイト製のスクレイパー、1352は砂岩製の叩き石あるいは錘、1353は砂岩製の叩き石である。1354～1362は炉出土遺物である。1354は口縁部が外反しながら延び、端部を上下に拡張し、外面に３条の沈線を持つ。1356は壺の体部で、算盤状を呈し、屈曲部に断面方形の突帯を巡らす。1357・1358は甕である。1358は頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。体部外面には縦方向の板ナデが、内面には下半にヘラ削り、上半に板ナデが施されている。1360は鉢、1361は支脚である。

時期は竪穴住居内堆積土第１～３層から古墳時代の土師器が出土しているが、床面直上遺物、炉出土遺物で、鉢が多量にあること、甕の口縁端部が拡張せず、そのまま終わらせるものが主体であることから弥生時代後期終末と考えられる。

ＳＨ21

ＳＨ21は第Ⅱ調査区北部、標高22.11ｍで検出した竪穴住居跡で、ちょうどＳＨ20の下位で検出した。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約2.80ｍ、西－東方向が約3.54ｍ、検出面からの深さは約0.05ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約2.3°東を取る。

竪穴住居内では周囲に壁溝を検出している。おそらく全周していたと考えられるが、残存するのは西側・南側・東側の一部である。壁溝の規模は、幅13～18cm、深さ約６cmを測る。中央南側に東西約1.5ｍ、南北約1.8ｍで、方形の一段低い部分があり、周囲の西・北・東に幅約1.0ｍ、高低差約５cm程度のベッド状遺構がある。主柱穴は一段低い部分の北西隅と北東隅で２穴検出している。

平面形態は円形を呈し、規模は直径が19～23cm、深さ35～37cmを測る。

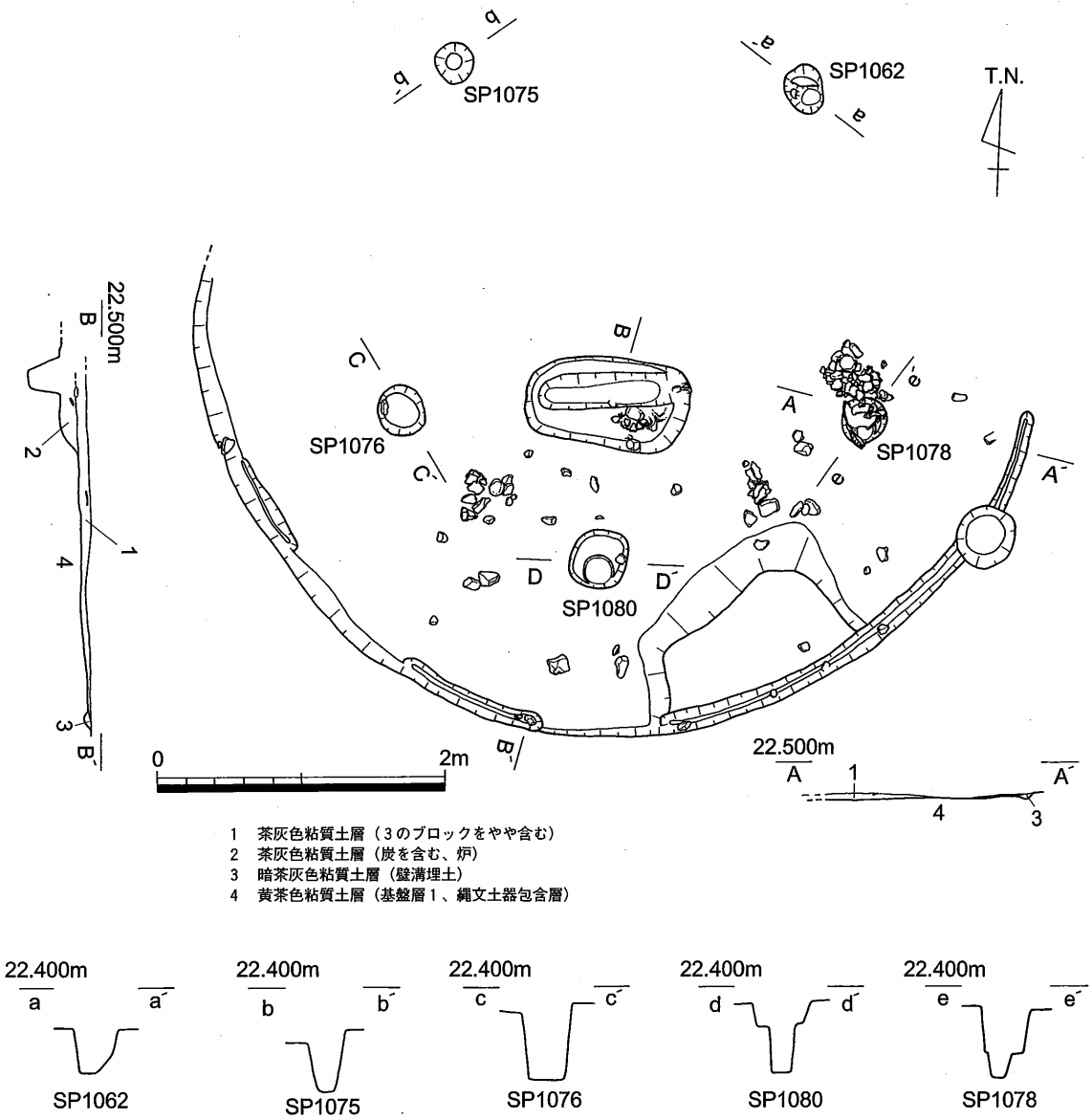
竪穴住居内堆積土から遺物が出土している。

1363～1365は弥生土器甕である。頸部が「く」の字に屈曲し、口縁端部を下方に僅かに摘み出す。底部はしっかりした平底を呈している。1366は主柱穴ＳＰ1064出土遺物である。

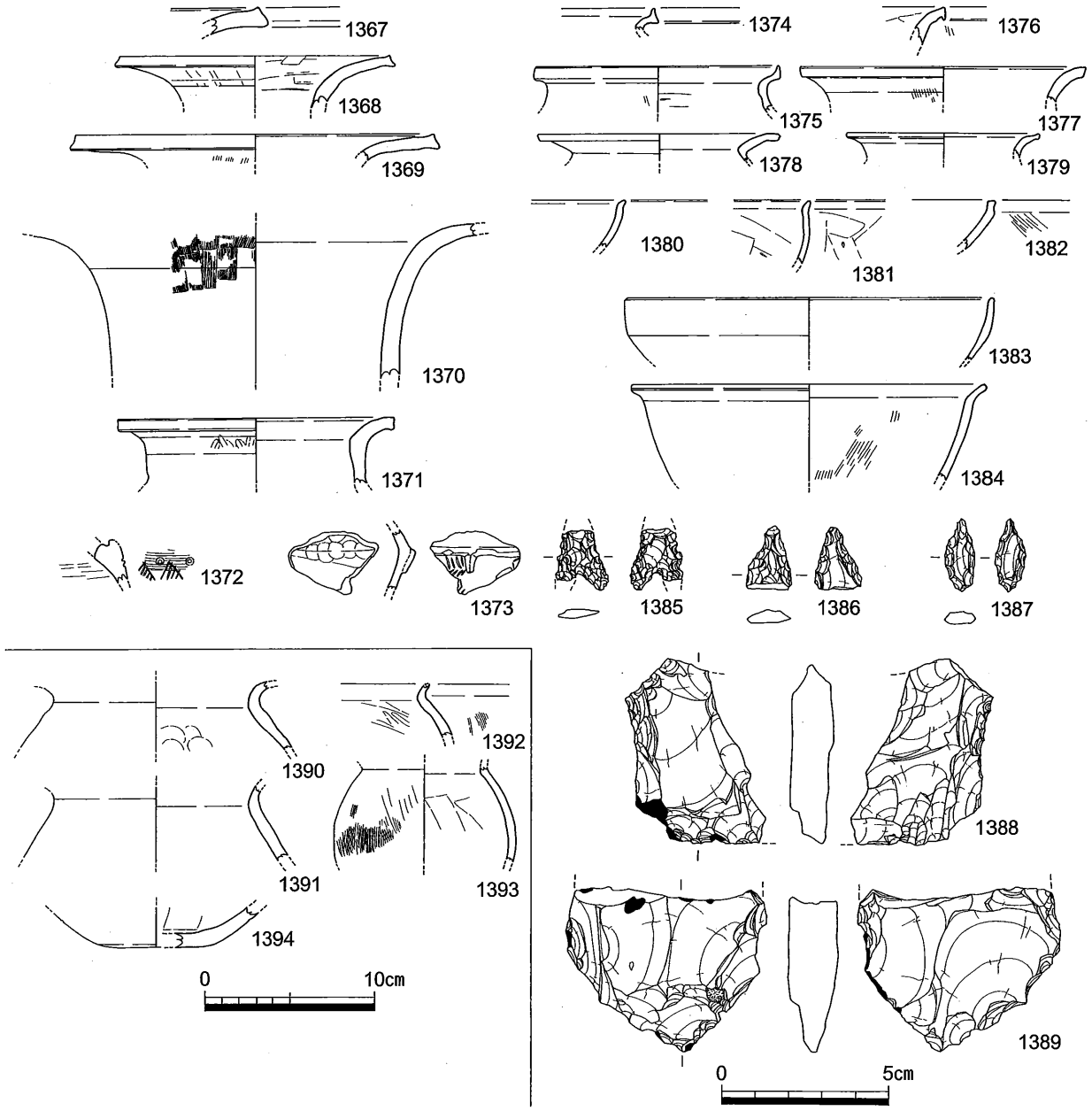
時期は主柱穴出土遺物から弥生時代後期後半～終末と考えられる。

ＳＨ22

ＳＨ22は第Ⅱ調査区北部、標高22.33ｍで検出した竪穴住居跡である。北部がＳＨ20によって切られているが、残存する南部の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は残存部分及び主柱穴から推定直径は約6.1ｍ、検出面からの深さは約0.08ｍを測る。ほぼ中央部南よりに平面形態が隅丸方形を呈する炉を検出した。堆積層は炉及び壁溝堆積土も含めて３層で、第１層基盤層黄茶灰色粘質土のブロックを少量含む茶灰色粘質土が全面に堆積する。主柱穴は柱穴間が若干違うが、５穴と考



第91図　SH22平・断面図

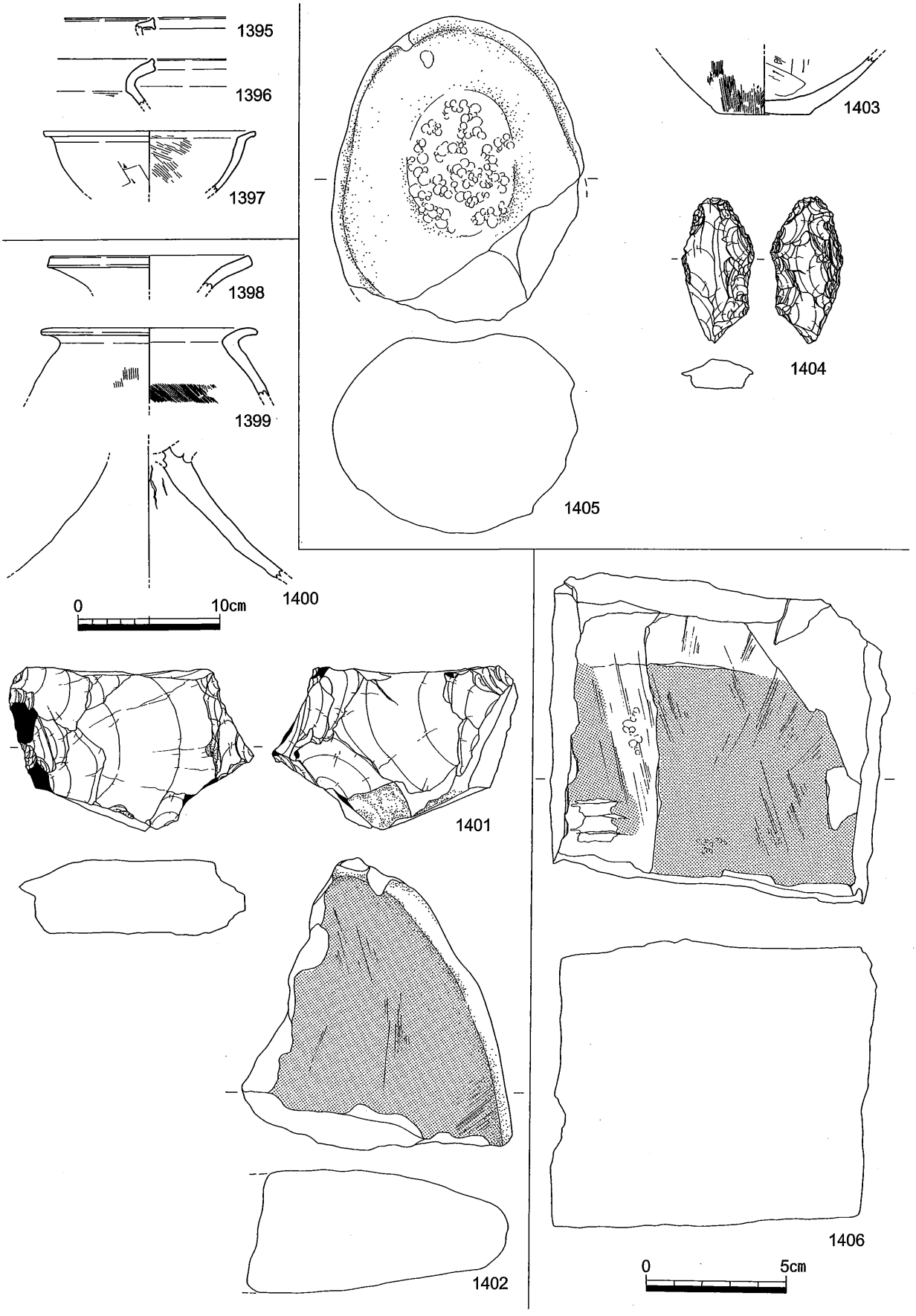


第92図　SH22出土遺物実測図①

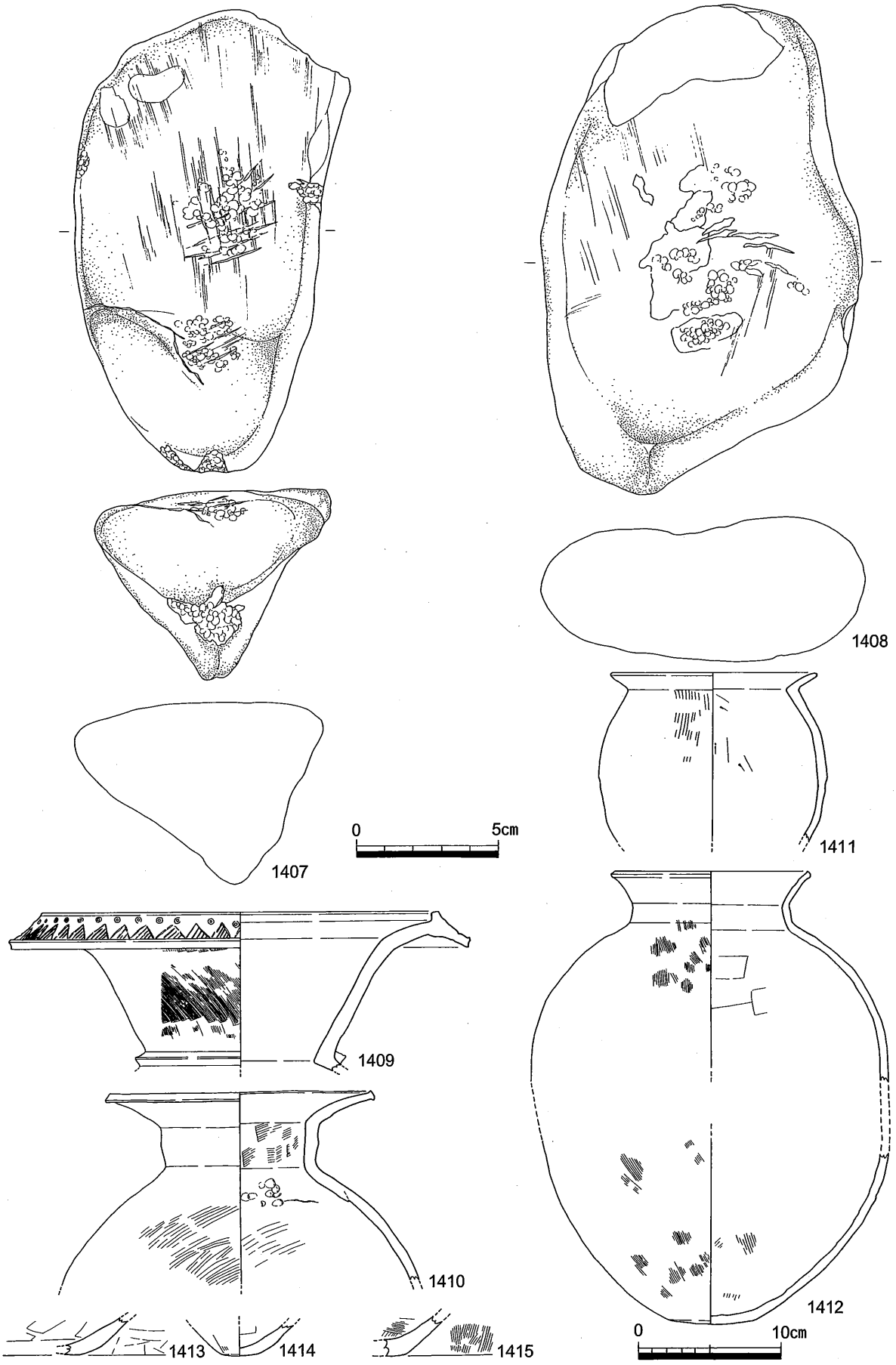
えられる。主柱穴平面形は歪なものもあるが、概ね円形で、直径0.27～0.40m、深さ0.31～0.48を測る。残存する南部では、壁溝を検出している。壁溝は全周していたと思われるが、部分的に途切れている。規模は幅約0.15m、深さ約0.09mを測る。南東部では幅約1.50m、長さ約1.00mで、床面との高低差約８cmの段差を検出しており、竪穴住居の出入り口に伴う階段状施設の可能性が考えられる。

竪穴住居内堆積土・床面直上・炉内から遺物が出土している。

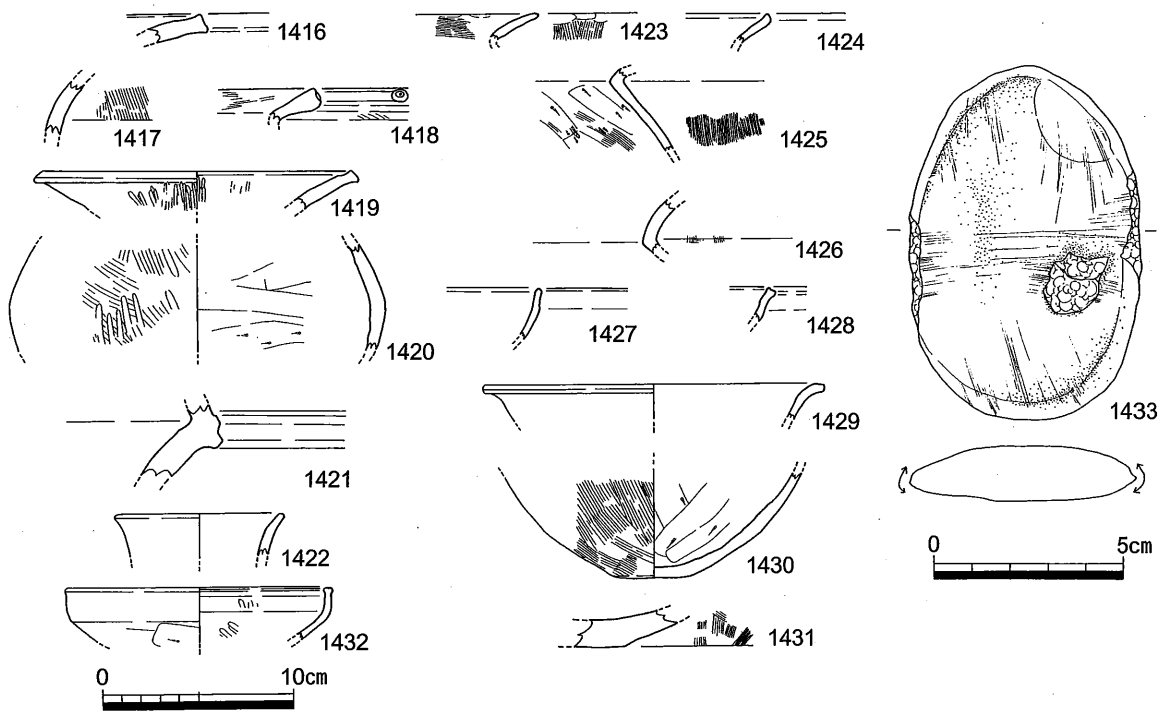
1367～1373は弥生土器壺である。1367～1370は頸部から口縁部にかけて朝顔形に開くもので、口縁端部は僅かに摘み出す。1371は頸部が直線的に上方に延び、口縁部をほぼ水平に外反させ、口縁端部をそのまま終わらせるものである。1372は拡張した口縁端部外面に鋸歯文・竹管文が施されている。1374～1379は甕で1374・1375は口縁端部を上方に拡張させ、それ以外はそのまま終わらせる。



第93図　SH22出土遺物実測図②



第94図　SH22出土遺物実測図③



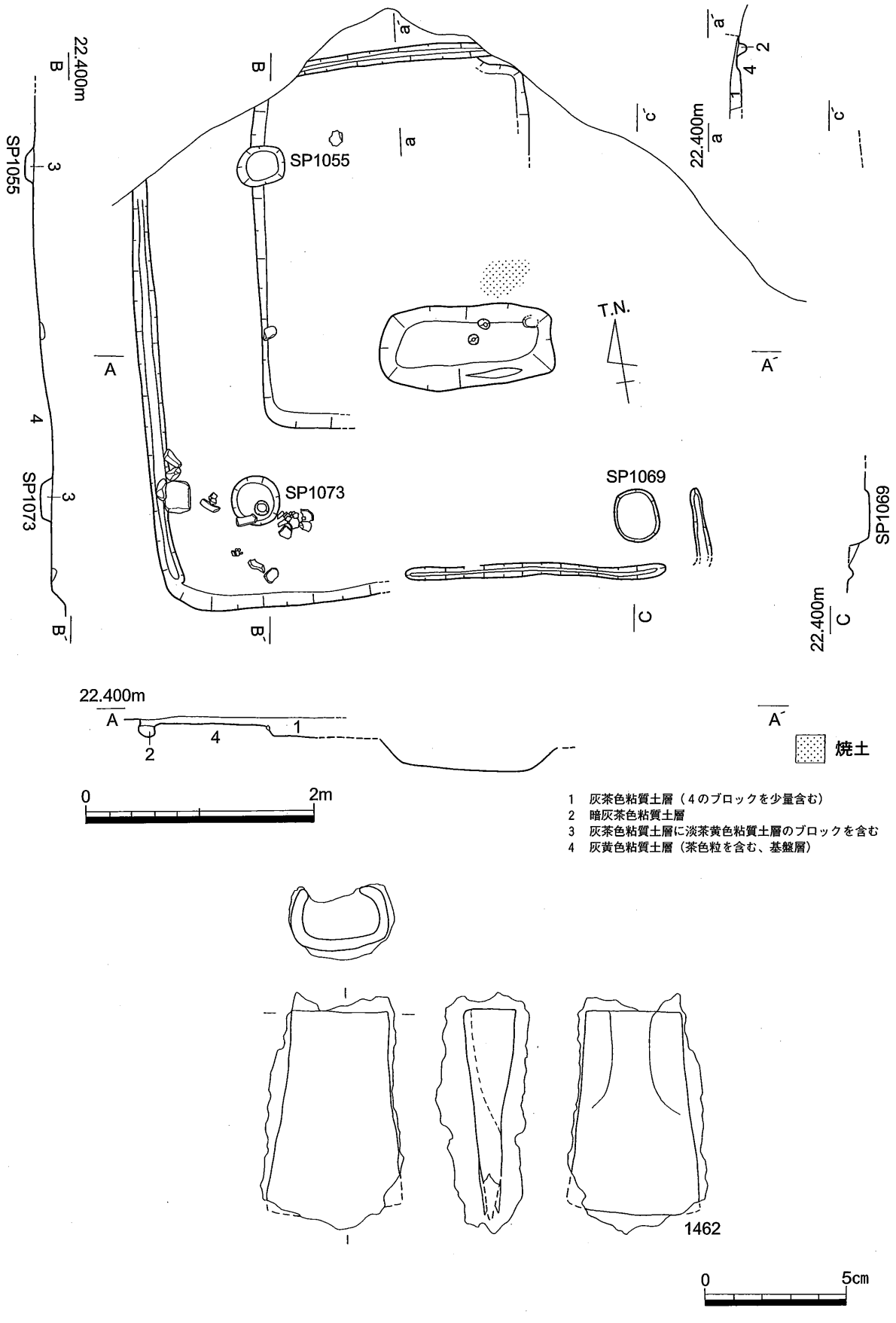
第95図　SH22出土遺物実測図④

1380～1384は鉢で、口縁端部を短く外方に屈曲させるもの、そのまま終わらせるもの、「く」の字に屈曲させるものがある。1385～1389は石製品で、全てサヌカイト製である。1390～1415は床面直上から出土した遺物である。1390～1393は甕、頸部が緩やかに屈曲するものである。1394は壺の底部で、平底を呈している。1395・1396は甕で、口縁端部を僅かに摘み出す。1397は口縁部が「く」の字に屈曲する鉢である。1398は壺、1399は甕で、頸部でかなり屈曲させ、口縁部は外反しながら、端部はそのまま終わらせる。1400は高坏の脚、1401・1402は石製品である。床面直上からかなりの石製品が出土しており、砥石・台石。叩き石が出土している。1409・1410は壺で、1409は口縁部を上下に拡張し、端部外面に鋸歯文・竹管文を施している。1410は頸部が直線的に上方に延び、口縁部は外反する。かなりなだらかな肩部を呈している。1416～1422は炉出土の遺物である。1416～1422は壺で、口縁部が朝顔形に開くもの、頸部から口縁部にかけて直線的に外上方に延び、口縁部を少し外反させる細頸壺がある。1421は体部屈曲部外面に断面方形の突帯を巡らす特殊壺である。1423～1426は甕で、口縁端部はそのまま終わらせる。頸部は「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持つ。1427～1430は鉢で、口縁端部をそのまま終わらせるもの、外反させるものがある。1432は高坏、1433は砂岩製の石錘である。

時期は床面直上出土遺物・炉出土遺物から弥生時代後期後半～終末と考えられる。

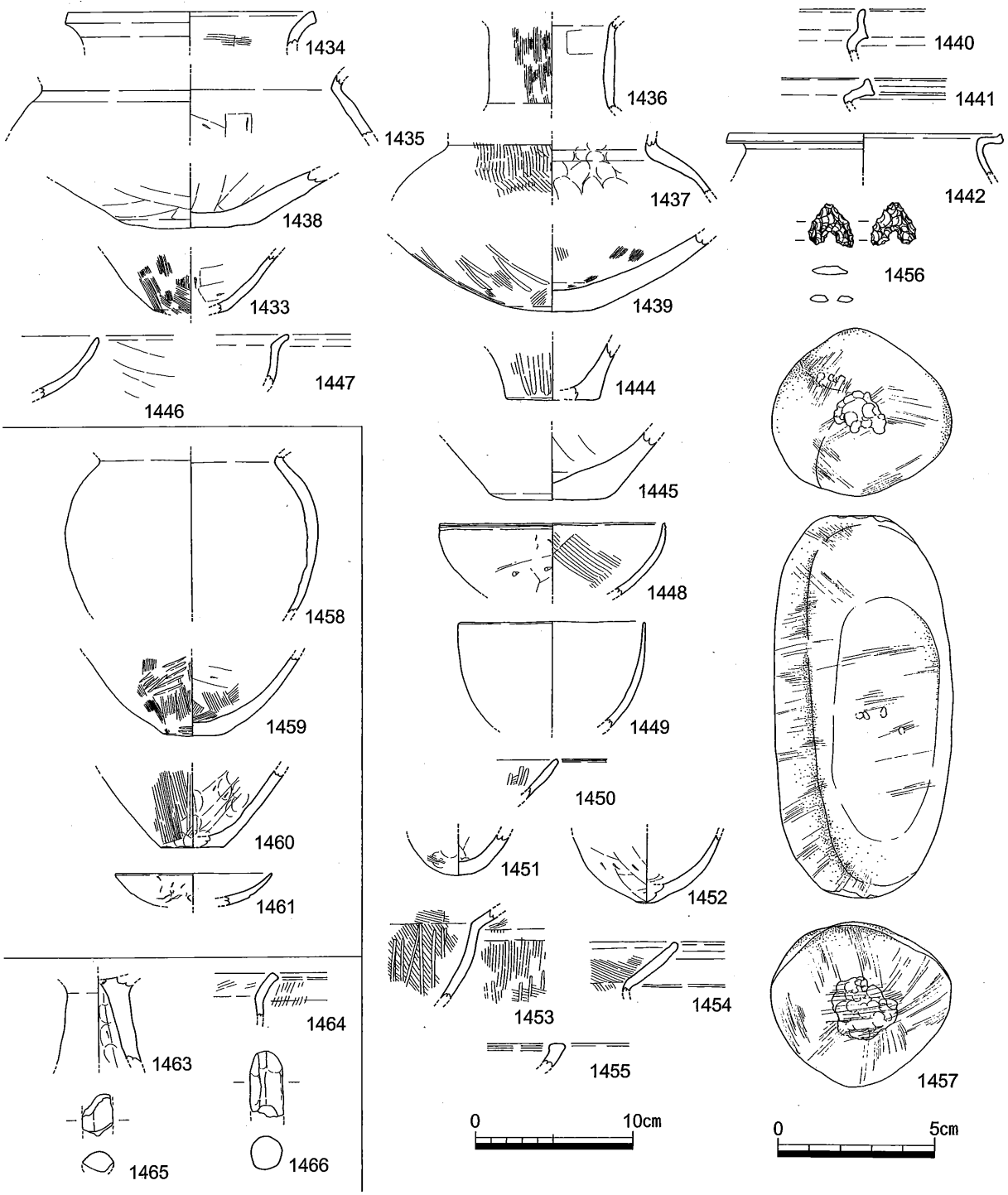
ＳＨ23

ＳＨ23は第Ⅱ調査区北部、標高22.31ｍで検出した竪穴住居跡である。東部がＳＨ20によって切られているが、残存する西部の形態、壁溝から平面形態は隅丸方形を呈し、規模は北－南方向が約4.86ｍ、西－東方向が約4.95ｍ、検出面からの深さは約0.17ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約6.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は壁溝堆積土も含めると２層で、全面に基盤層灰黄色粘質土のブロックを少量含む灰茶色粘質土層が堆積している。壁溝には暗灰茶色粘質土が堆積する。



第96図　SH23平・断面図

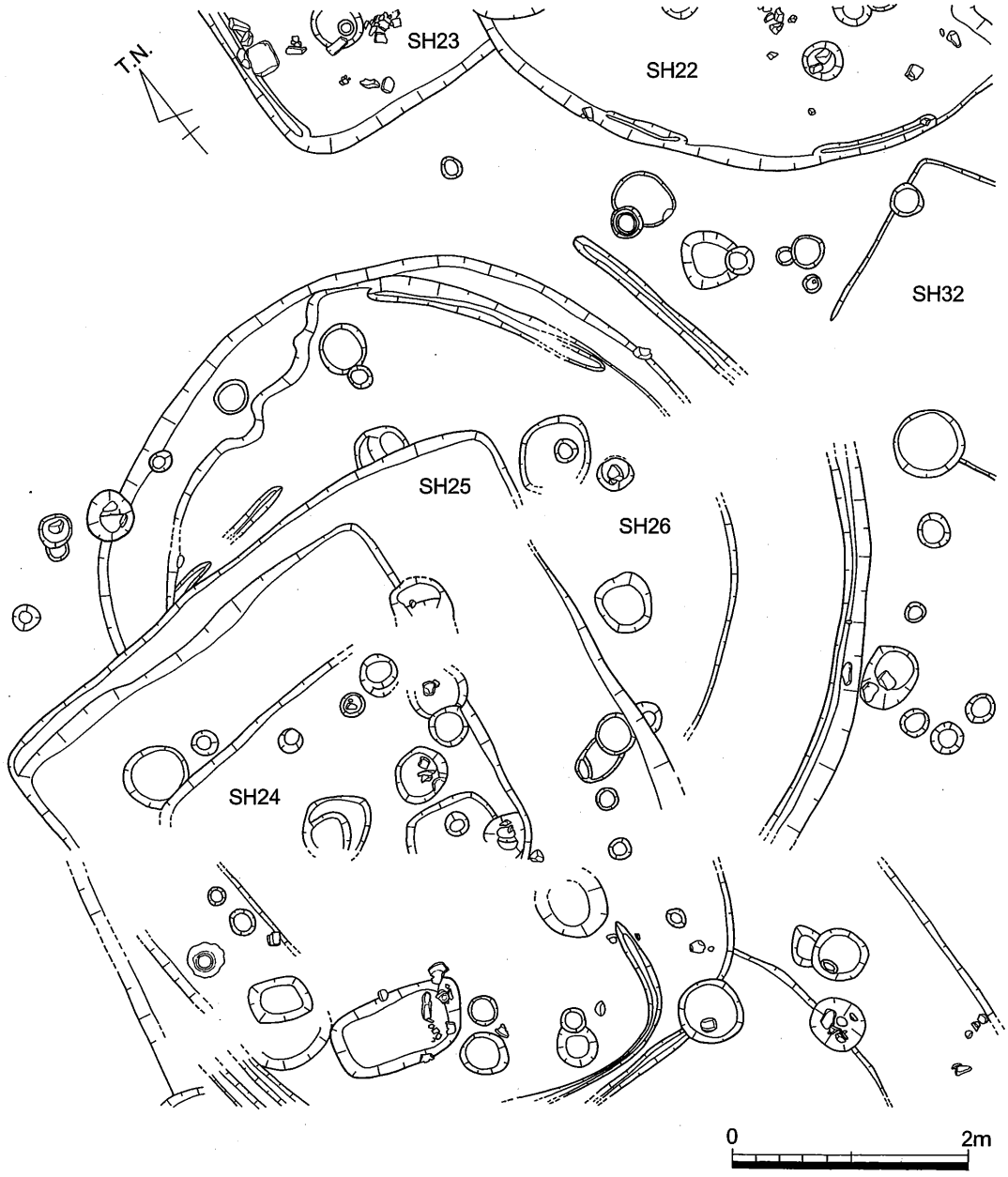
竪穴住居内ではほぼ中央に炉、北東部を除く四隅に主柱穴を３穴、周囲に壁溝を検出している。中央部の炉は平面形態が隅丸の長方形で、東西約1.53m、南北約0.71m、深さは南東側が18cm程度を測る。主柱穴は四隅に３穴確認している。平面形態は概ね円形で、直径0.33～0.45m、深さ0.10mを測る。かなり浅く、据付けただけの構造の可能性が考えられる。壁溝は部分的に途切れてはいるものの全周していたものと考えられ、規模は幅約10cm、深さ約15cmを測る。他の竪穴住居と重なり、削平を受けている部分では、幅約10cm、深さ約３cm程度となる。



第97図　SH23出土遺物実測図

竪穴住居内から遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土出土遺物、床面直上出土遺物、炉内出土遺物である。

1434～1457は堆積土第１層（上位1434・1435・1438・1443・1446・1447、下位1436・1437、1439～1442、1444・1445、1448～1457）から出土した遺物で、弥生土器・石製品が出土している。1434・1436～1439は壺で、頸部が直線的に上方に延び、口縁部を緩やかに外反させる。底部は平底で、かなり開き、体部となる。1435・1440～1444は甕で、口縁端部をかなり上方に拡張させるものや僅かに摘み出すものがある。1446～1454は鉢で、口縁部が内湾しながら延び、そのまま終わらせるもの、「く」の字に屈曲させるものがある。口径に大・中・小の３種類が認められる。1455は高坏である。1458～1462は床面直上出土遺物で、1458～1460が甕で、1461は皿である。1462は鍛造袋状鉄斧であ



第98図　SH24・25・26位置関係図

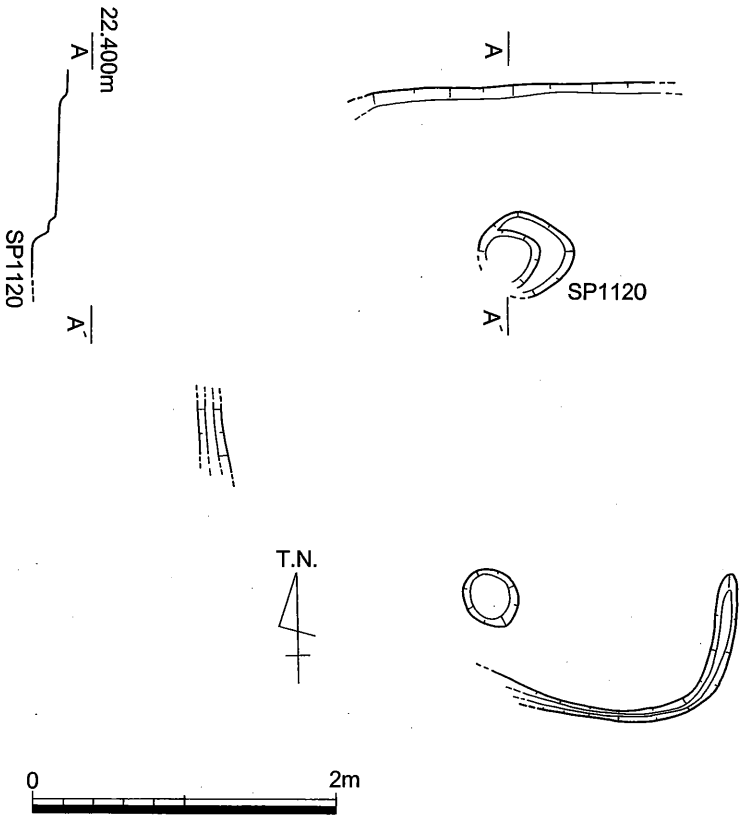
る。かなり錆が進行し、全体に層状剥離が認められる。袋部の折り返しは左右対称ではなく、右が約４㎜長い。刃部になるに従いやや扇状に広がり、刃部の先端は弧を呈する。袋部は幅約3.4×2.2cmの楕円形、全長約7.0cm、厚さ約0.3cmを測る。1463～1466は炉出土遺物である。1463は高坏の脚、1464は口縁部が「く」の字に屈曲する鉢である。1465・1466は棒状の土製品で、用途は不明である。

時期は床面直上遺物、炉出土遺物から弥生時代後期後半と考えられる。

ＳＨ24

ＳＨ24は第Ⅱ調査区北部、標高22.23ｍで検出した竪穴住居跡で、ちょうどＳＨ25の下位で検出した。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約4.27m、西－東方向が約3.53m、検出面からの深さは約0.05ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約0.5°西を取る。

竪穴住居内では部分的に壁溝を検出している。おそらく全周していたと考えられるが、残存するのは西側の一部・南東隅部分である。壁溝の規模は、幅８～17cm、深さ約５cmを測る。主柱穴は南北に２穴検出している。平面形態は歪な円形を呈し、規模は直径が37～64cm、深さ約15cmを測る。



第99図　SH24平・断面図

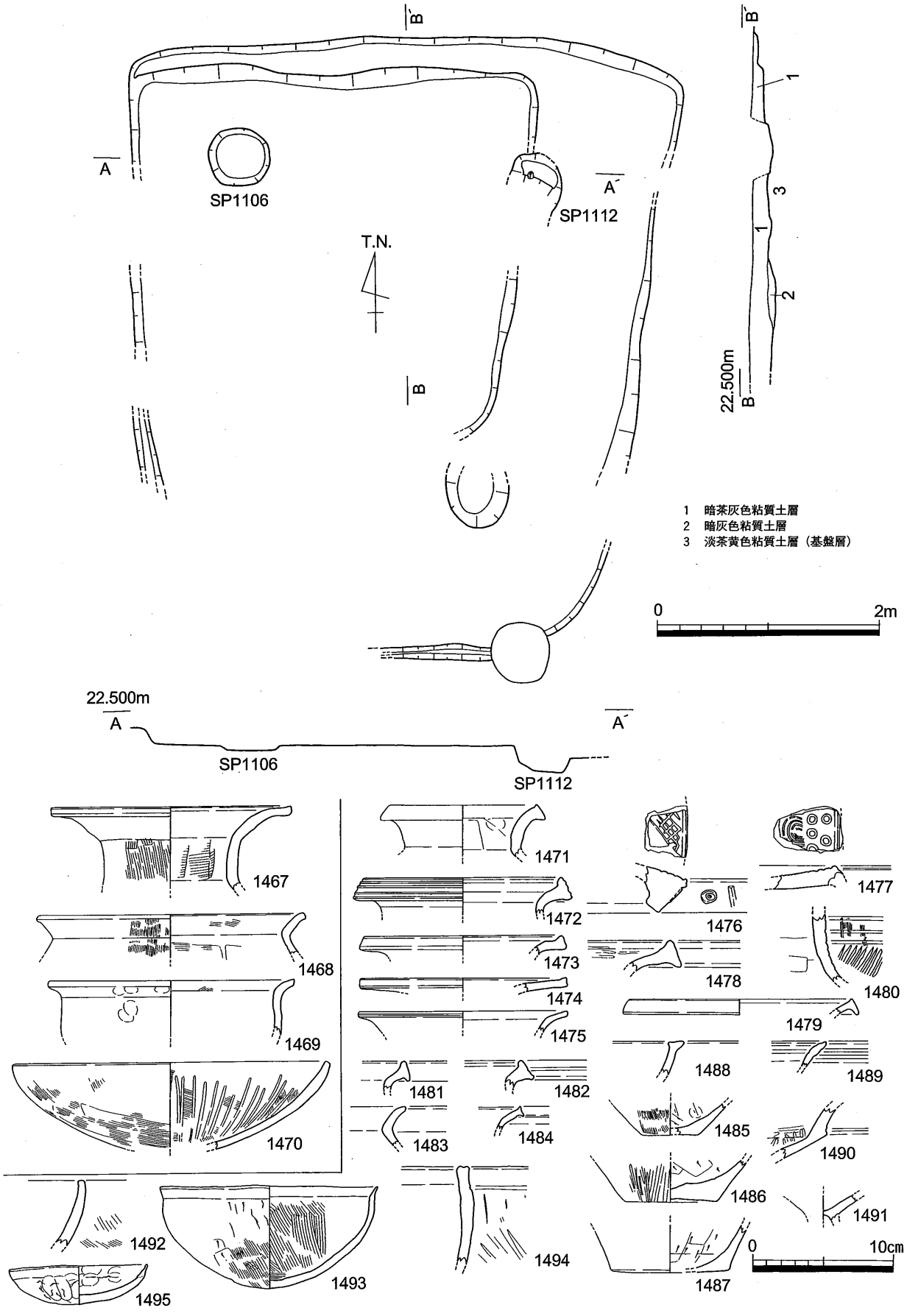
竪穴住居内からは、遺物が出土していない。

ＳＨ25

ＳＨ25は第Ⅱ調査区北部、標高22.35ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居跡の南西側が削平を受けており、掘り方・壁溝が部分的にしか残存していないが、平面形態は方形を呈することがわかる。規模は北－南方向が約5.63m、西－東方向が約4.65m、検出面からの深さは約0.15ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約2.5°東を取る。

竪穴住居内では南西部を除く四隅に主柱穴を３穴、北・東側にベッド状遺構、南側一部に壁溝を検出している。主柱穴は四隅に３穴確認している。平面形態は概ね円形で、直径0.49～0.55m、深さ約0.23ｍを測る。かなり浅く、据付けただけの構造の可能性が考えられる。ベッド状遺構は北側で幅約0.2m程度、東側で幅約1.0m、床面との高低差約５cm程度で検出している。壁溝は南側の一部分でのみ検出しており、規模は幅約13cm、深さ約５cmを測る。

竪穴住居内堆積土から遺物が出土している。遺物は堆積土第１層を上位と下位に分け、取り上げた。下位から出土した遺物には、堆積土第２層出土遺物及びＳＨ24の遺物を少量含んでいる。



第100図　SH25平・断面図，出土遺物実測図

1467～1470は堆積土第１層上位出土遺物である。1467は壺で、頸部から直線的に上方に延び、口縁部は緩やかに外反する。1468は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延び、端部はそのまま終わらせる。1469・1470は鉢で、口縁部が「く」の字に屈曲するものと内湾気味に延び、そのまま終わらせるものがある。1471～1495は堆積土第１層下位出土遺物である。1471～1480は壺で、頸部が朝顔形に開くものと上方に延び、口縁部が外方に屈曲するものがある。口縁端部は1476・1477のようにかなり拡張し、円形浮文・棒状浮文・ヘラ描格子文・竹管文・半同心円文を施しているものもある。これら以外は沈線を施しているものが少量認められるだけで、口縁端部をそのまま終わらせるものがある。1481～1487は甕で、口縁端部を上下に拡張するものとそのまま終わらせるものがある。1488～1491は高坏で、1488は口縁端部を左右に短く拡張する。1489は口縁部が外上方に延び、内外面に凹線を持つものである。1492～1494は鉢で、出土しているものは口径15cm以上の中型鉢である。1495は皿で、内外面に指頭痕が顕著に認められる。

時期は、出土遺物から弥生時代後期前半～中葉と考えられる。

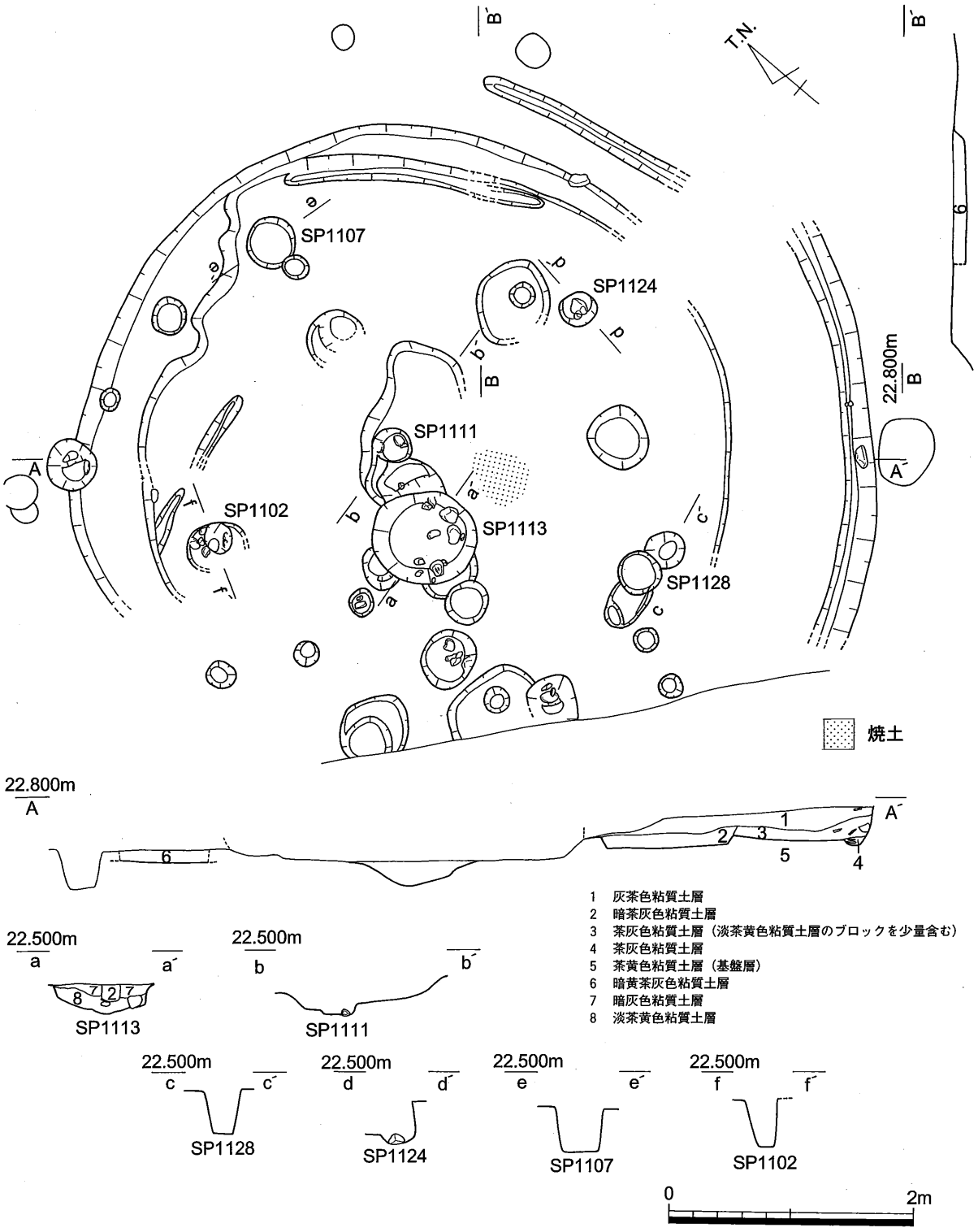
ＳＨ26

ＳＨ26は第Ⅱ調査区北部、標高22.73ｍで検出した竪穴住居跡である。この竪穴住居跡は南東部の一部を除きかなり削平を受けており、更に西側ではＳＨ24・25によって切られている。そのため部分的に掘り方・壁溝しか残存していないが、平面形態は円形を呈し、規模は推定で直径約7.54ｍ、検出面からの深さは約0.28ｍを測る。竪穴住居内の堆積土は壁溝堆積土も含め４層ある。第１層灰茶色粘質土が竪穴住居全体に堆積する土層、第２層暗茶灰色粘質土はベッド状遺構内に堆積する土層、第３層基盤層のブロックを含む茶灰色粘質土はベッド状遺構の上面に堆積する土層である。

かなり削平を受けているが、竪穴住居跡内から壁溝・ベッド状遺構・主柱穴・中央土坑（炉）を検出している。壁溝は部分的にしか残存しないが、規模は幅23～28cm、深さ約５cmを測る。北東部では内側に壁溝を２条検出している。数回の建て替えの可能性が考えられる。ベッド状遺構は南西部を除く周囲で検出し、内側の平面形態は円形を呈する。ベッド状遺構は幅約90cm、床面との高低差５～７cmで全周するものと考えられ、土層断面（Ａ－Ａ´）から基盤層を削り出して造っていることがわかる。主柱穴は５穴と考えられ、その内の南西側１穴以外の４穴（ＳＰ1128、1124、1746、1102）を検出している。主柱穴は平面形態が概ね円形を呈し、直径30～42cm、深さ35～38cmを測る。ほぼ中央部に平面形態が隅丸方形を呈する中央土坑（炉）と平面形態が円形を呈する中央土坑（炉）を検出している。これらの炉は切りあい関係が確認でき、隅丸方形の炉を円形の炉が切っていることがわかる。円形の炉は直径約0.8cm、深さ0.24cmを測る。内部から15cm程度の砂岩が出土している。隅丸方形の炉は長軸1.35ｍ、短軸0.62ｍを測る。

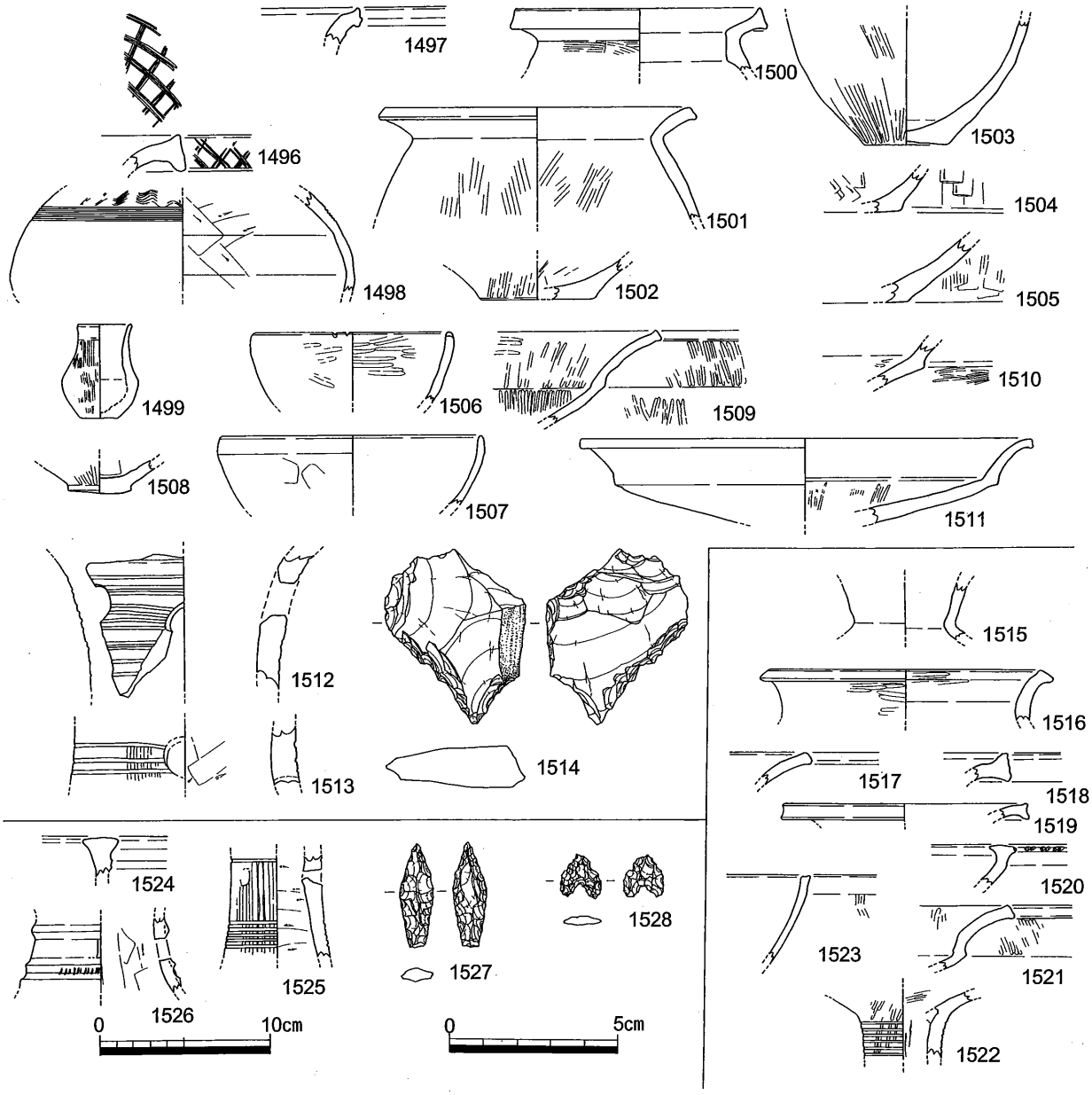
竪穴住居内からは弥生土器・サヌカイトが出土している。

1496～1514は竪穴住居内堆積土第１層から出土した遺物である。1496～1499は壺で、1496は口縁端部を上下に拡張し、外面に２条１単位の斜格子文を、口縁部上面にも同様の斜格子文を施す。1499はミニチュアの壺である。1500～1505は甕で、頸部は「く」の字に屈曲し、口縁端部は僅かに摘み出す。底部は平底を持つ。1506～1508は鉢で、体部から口縁部にかけて内湾気味に上方に延び、端部はそのまま終わらせる。口径が約12cmのものと約16cmのものがある。1506は口縁端部の一部に２箇所の刻み目を持つ。1509～1511は高坏で、坏部から「く」の字に屈曲し、口縁部は外反する。



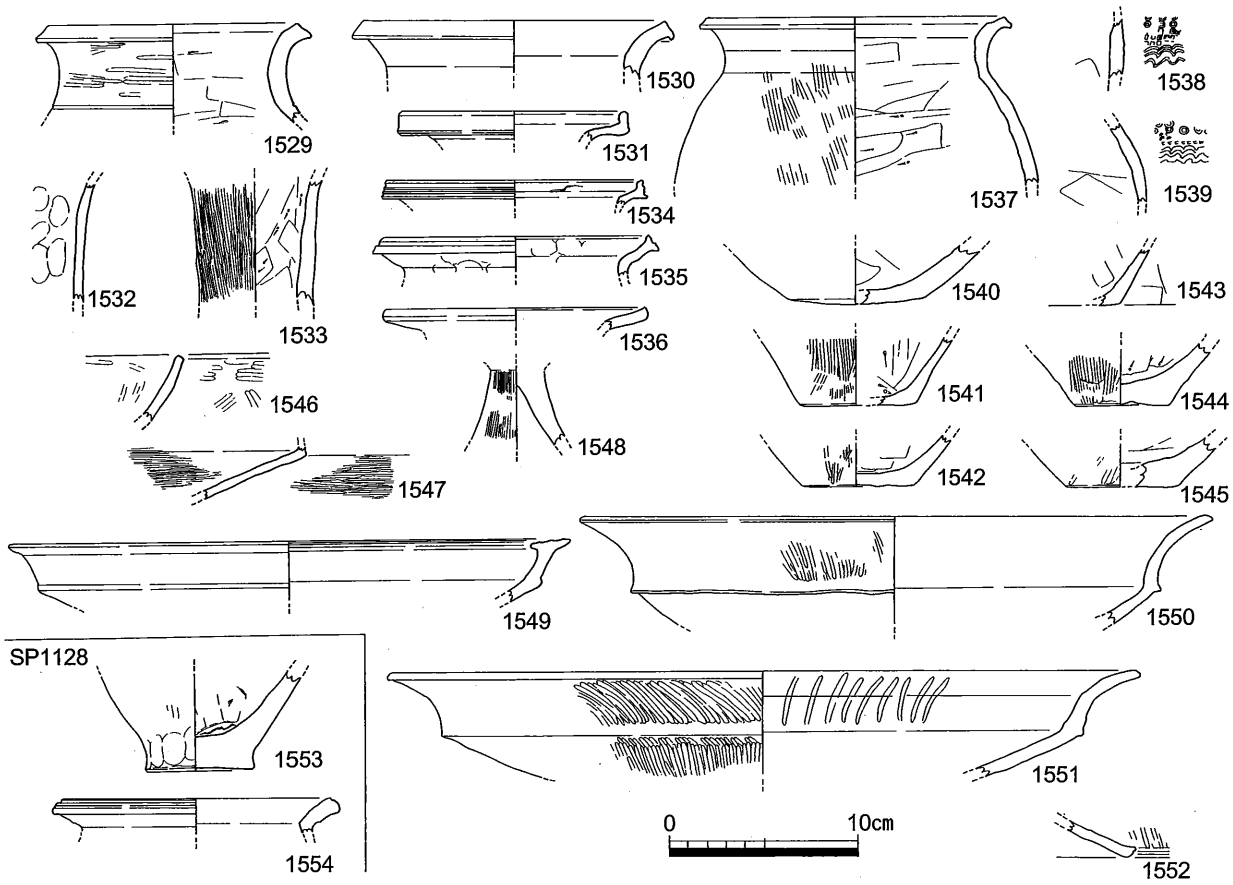
第101図　SH26平・断面図

口縁端部はそのまま方形に終わらせる。内外面にヘラ磨きが密に施されている。1512・1513は器台で、筒部外面に沈線が施され、円形の透かしが認められる。1514はサヌカイト製の石錐である。1515～1523は堆積土第２層から出土した遺物である。1515～1519が壺、1520～1522が高坏、1523が鉢である。1522の高坏の脚軸部外面には現存６条の沈線が施されている。1524～1528は堆積土第３層



第102図　SH26出土遺物実測図①

から出土した遺物である。1524・1525は高坏、1526は器台である。1526の器台軸部外面には断面三角形の突帯が3条巡り、その突帯間には方形の透かしが認められる。1529～1552は円形の炉出土遺物である。1529～1533は壺で、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反させるもの、「く」の字に屈曲させ、口縁端部を上方に拡張するものがある。1532・1533は細頸壺で、頸部が直線的に上方に延びる。1534～1539は甕で、1534・1535の口縁端部は端部外面に2～3条の沈線を持つ。1538・1539の体部外面には波状文・竹管文が施されている。1546は鉢で、口縁部が内湾し、端部はそのまま終わらせる。1547～1552は高坏で、口縁端部を左右に拡張するもの、そのまま終わらせるものがある。1551は坏部から「く」の字に屈曲し、口縁部は外反する。坏部内外面にヘラ磨きが密に施されている。1553・1554はＳＰ1128出土遺物である。1554は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、口縁端部は



第103図　SH26出土遺物実測図②

やや肥厚し、外面に２条の沈線を持つ。

時期は、甕の体部外面に波状文・竹管文を施す弥生時代中期の遺物を含むが、甕・高坏の口縁端部をそのまま終わらせるものがあることから弥生時代後期前半から中葉と考えられる。

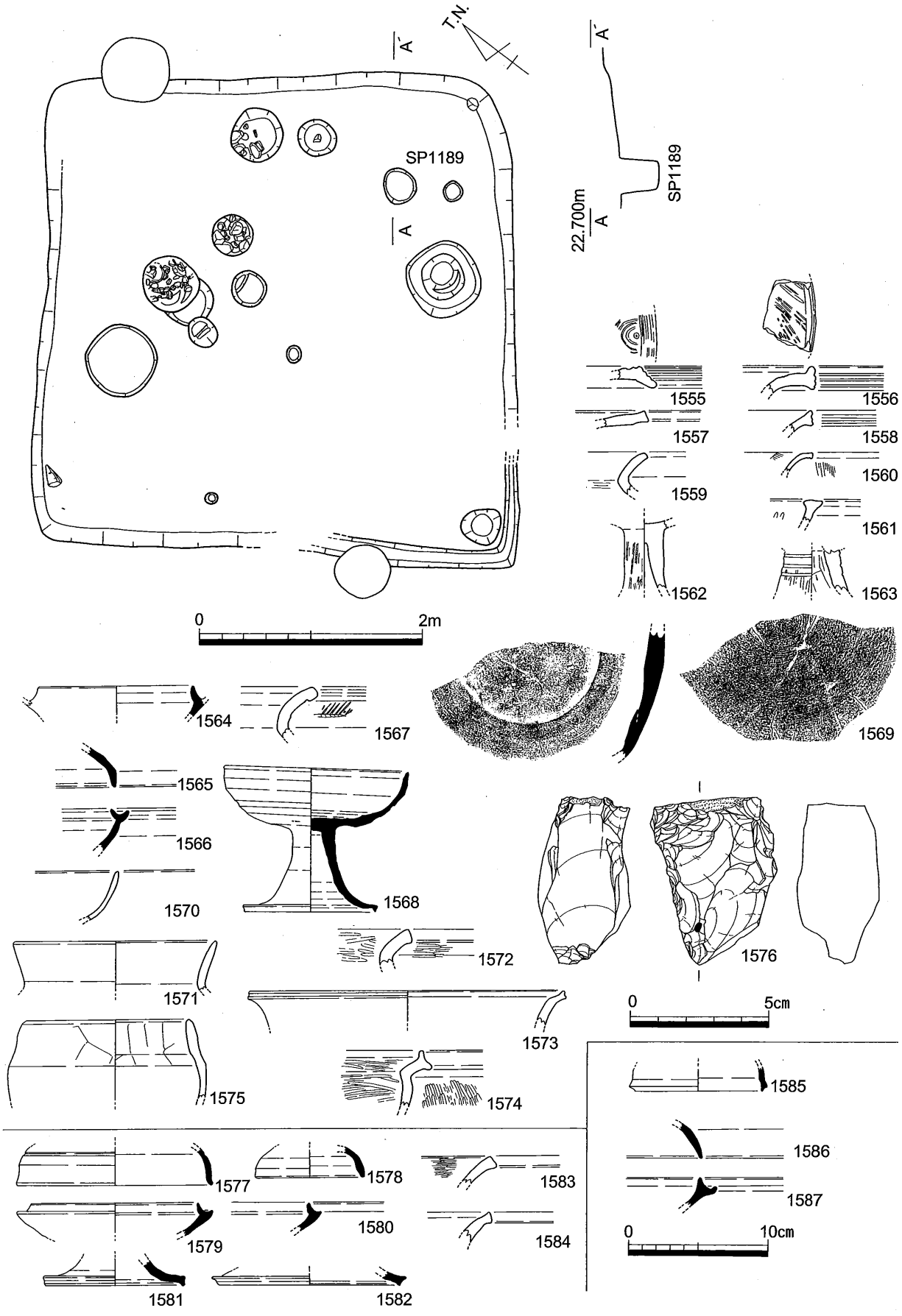
ＳＨ27

ＳＨ27は第Ⅱ調査区北部、標高22.60ｍで検出した竪穴住居跡である。かなり削平を受けているが、平面形態は方形を呈し、規模は北西－南東方向が約4.35ｍ、北東－南西方向が約4.35ｍ、検出面からの深さは約0.10ｍを測る。北西－南東方向の主軸は真北より約36.5°西を取る。

竪穴住居内では主柱穴及び壁溝を検出している。壁溝は南西隅で検出している。検出面の幅は12～22㎝、深さ約5.0㎝を測る。主柱穴は床面の南東隅で１穴を検出している。平面形態は歪な円形を呈し、規模は直径が約30㎝、深さ約35㎝を測る。

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土の上位と下位、床面直上出土遺物に分けられる。

1555～1574は堆積土上位から出土した遺物で、弥生土器・石製品・須恵器・土師器・土師質土器・製塩土器が出土している。1555～1563は弥生土器で、壺・甕・高坏が出土している。この竪穴住居跡周辺には弥生時代の竪穴住居が密集しており、かなりの切りあい関係が確認できる。これらの弥生土器は下位に位置する竪穴住居の遺物と考えられる。1564～1569は須恵器で、1564～1566が坏身・蓋、1567が甕、1568が高坏、1569が提瓶である。坏身は立ち上がりのやや高いものと低いものがあ



第104図　SH27平・断面図，出土遺物実測図

る。1565の坏蓋は1566とセット関係になるもので、時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、７世紀中葉と考えられる。1569は体部中央部に円盤を充填した痕跡が確認できる。1570～1573は土師質の甕、1574は土師質の鍋、1575は製塩土器である。1576はサヌカイトの石核である。1577～1584は堆積層上位から出土した遺物で、須恵器・土師質土器が出土している。1577～1580は坏身・蓋で、坏身は立ち上がりがかなり短く、内傾し延びる。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、７世紀中葉と考えられる。1581・1582は高坏である。1585～1587は床面直上から出土した遺物で、全て須恵器である。1587は坏身で、立ち上がりが短い。

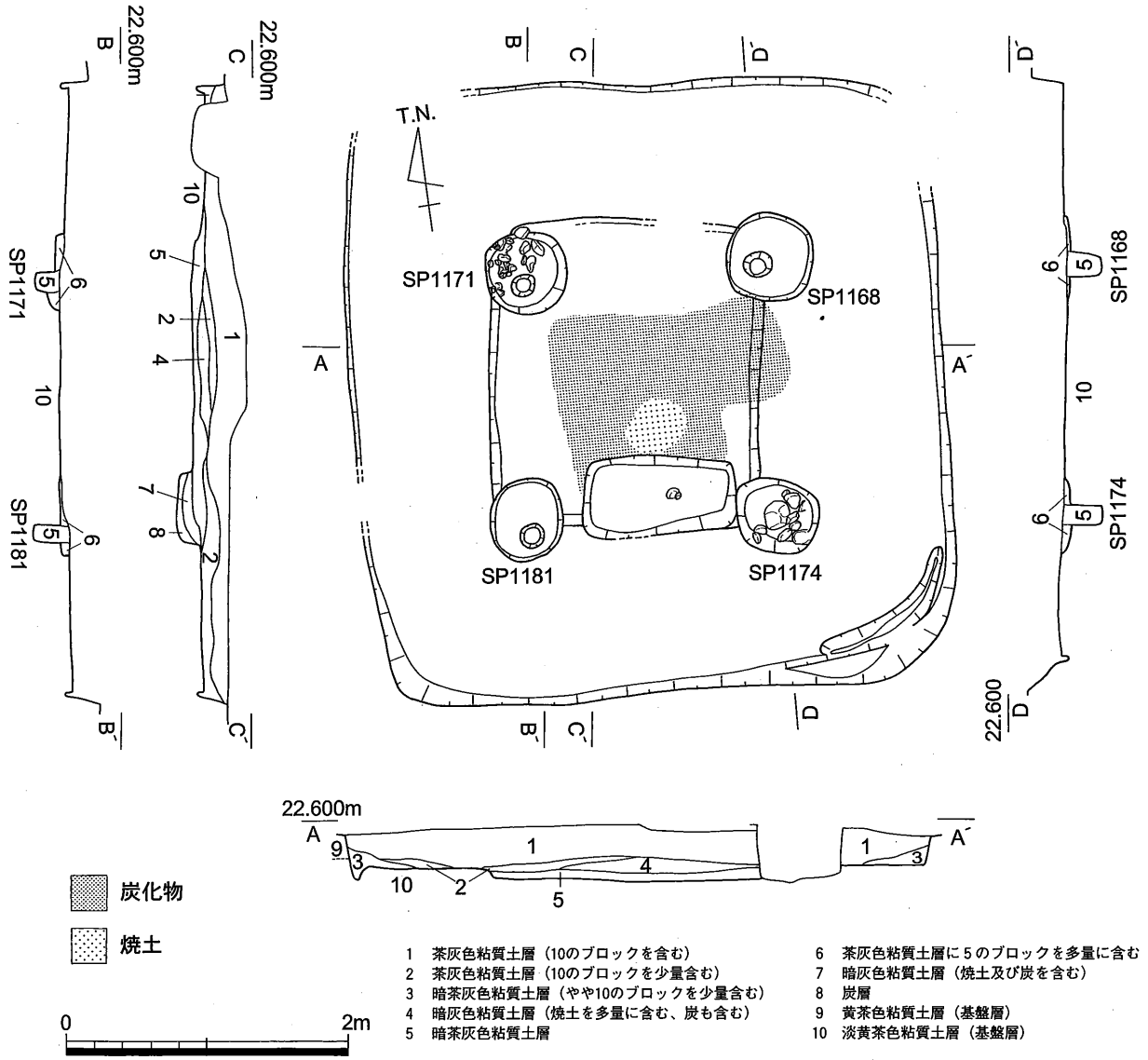
時期は竪穴住居内堆積土下位及び床直出土遺物から７世紀中葉と考えられる。

参考文献・引用文献

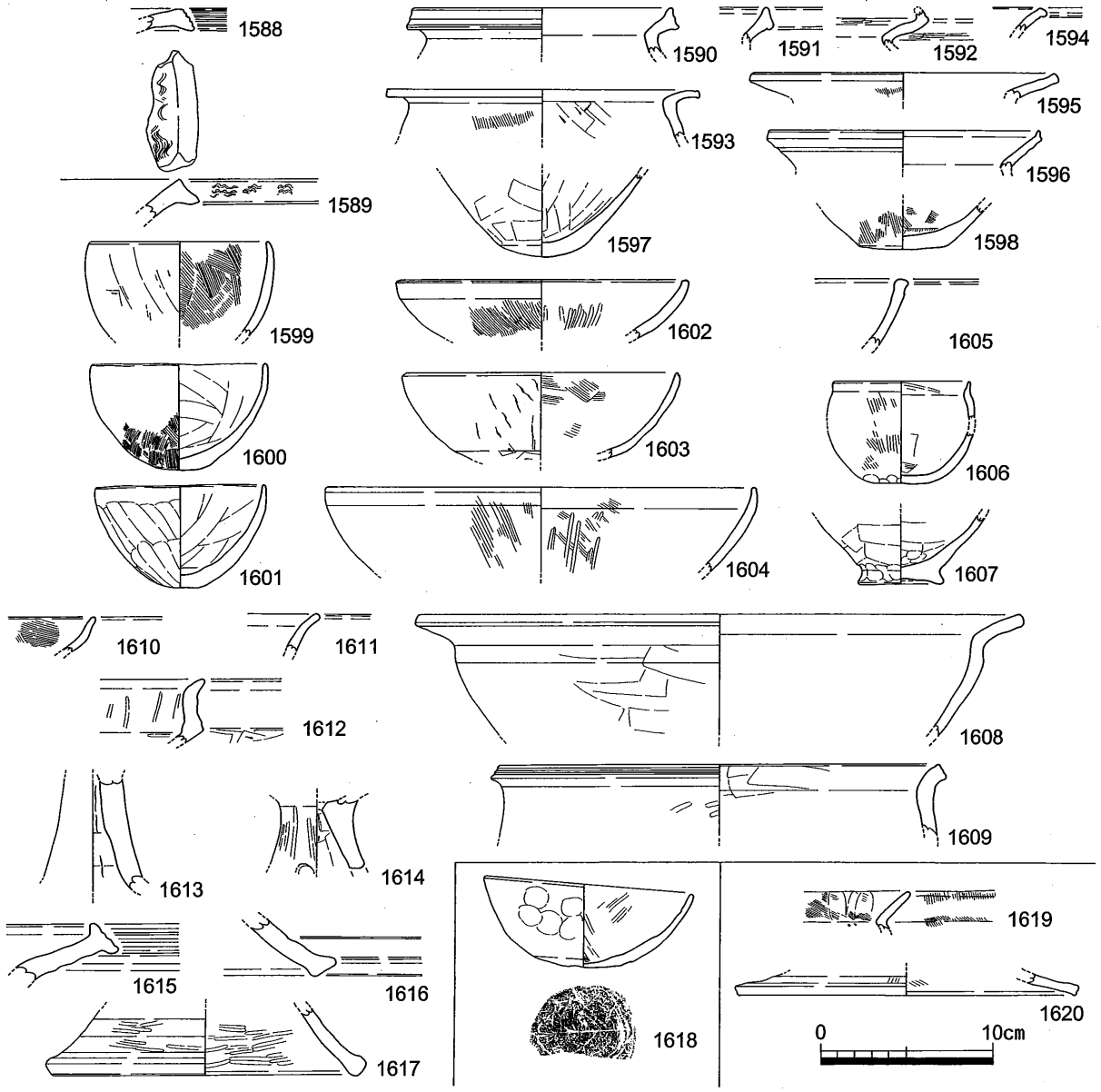
田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

ＳＨ28

ＳＨ28は第Ⅱ調査区北部、標高22.50ｍで検出した竪穴住居跡である。南部をＳＨ27によって



第105図　SH28平・断面図



第106図　SH28出土遺物実測図

切られているが、残りは比較的良い。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向の残存長が約4.35m、西－東方向が約4.24m、検出面からの深さは約0.40mを測る。北－南方向の主軸は真北より約3.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は5層で、第1層茶灰色粘質土が全域に層厚約20cmで堆積し、下位であるベッド状遺構内には第4層暗灰色粘質土、第5層暗茶灰色粘質土が堆積する。また炉内部には、第7層暗灰色粘質土、第8層炭（炭化物）層が堆積している。

竪穴住居内では、壁溝・ベッド状遺構・主柱穴・炉を検出している。明確な壁溝は南東隅部分で検出するのみで、この部分以外では幅4.0～5.0cm、深さ約6.0cmの側板の痕跡を検出している。ベッド状遺構は竪穴住居内の周囲で検出しており、北・西側が幅約1.0m、東・南側が幅約1.2mと場所によって幅の違いが認められる。床面との高低差約5.0cmを測り、土層断面（A－A´）から基盤層削り出しにより造られていることがわかる。主柱穴は4穴で、ベッド状遺構のコーナー部で4穴検出している。平面形態は円形で、直径52～60cm、深さ20～27cmを測る。炉は、ベッド状遺構南

側に接するように検出した。平面形態は長方形を呈し、東西幅約1.1m、南北幅約0.56m、深さ約0.12mを測る。断面形態は隅丸の箱型を呈し、最下層には炭（炭化物）が堆積する。炉北側の床面直上には、炉跡に接するように直径約0.4mの範囲で、円形に焼土が堆積している。またベッド状遺構の内側のほぼ全域には、焼土・炭（炭化物）が堆積している。明確な「10型中央土坑」ではないが、北側の焼土の範囲が地床炉、南側の土坑が炭化物・置き火の保管場所と考えられる。松本分類の4類に相当し、弥生時代後期末～終末期に確認できるとしている（松本2000）。

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土上位第1層出土遺物、堆積土下位第2・4層出土遺物、床面直上焼土・炭（炭化物）層出土遺物に分けられる。

1588～1617は堆積土第1層から出土した遺物で、弥生土器の壺・甕・鉢・高坏・器台が出土している。1588・1589は壺で、口縁端部を下方に摘み出し、外面及び上面には櫛描の波状文を施す。1590～1598は甕で、口縁端部を上方に摘み出し、端部外面に2条の退化凹線を持つものも認められる。1593～1595は口縁端部をそのまま終わらせるもので、1596は口縁端部を短く上方に摘み出す。甕のほとんどが頸部は「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。1599～1609は鉢で、口縁部を内湾させながらそのまま終わらせるものと口縁部を「く」の字に屈曲させるものがある。口縁部を内湾させるものには、口径約10cm、約16cm、約25cmと大・中・小の3種類が確認できる。1610～1614は高坏で、1615～1617は器台である。1618は堆積土2・4層から出土した鉢で、口径約12cmを測ることから小型のものである。1619・1620は焼土・炭（炭化物）層出土遺物である。1619は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延び、口縁端部はそのまま終わらせる。口縁部内外面に刷毛目が施されている。1620は高坏脚である。

時期は床面直上に堆積する焼土・炭（炭化物）層出土遺物から弥生時代後期後半～末と考えられる。

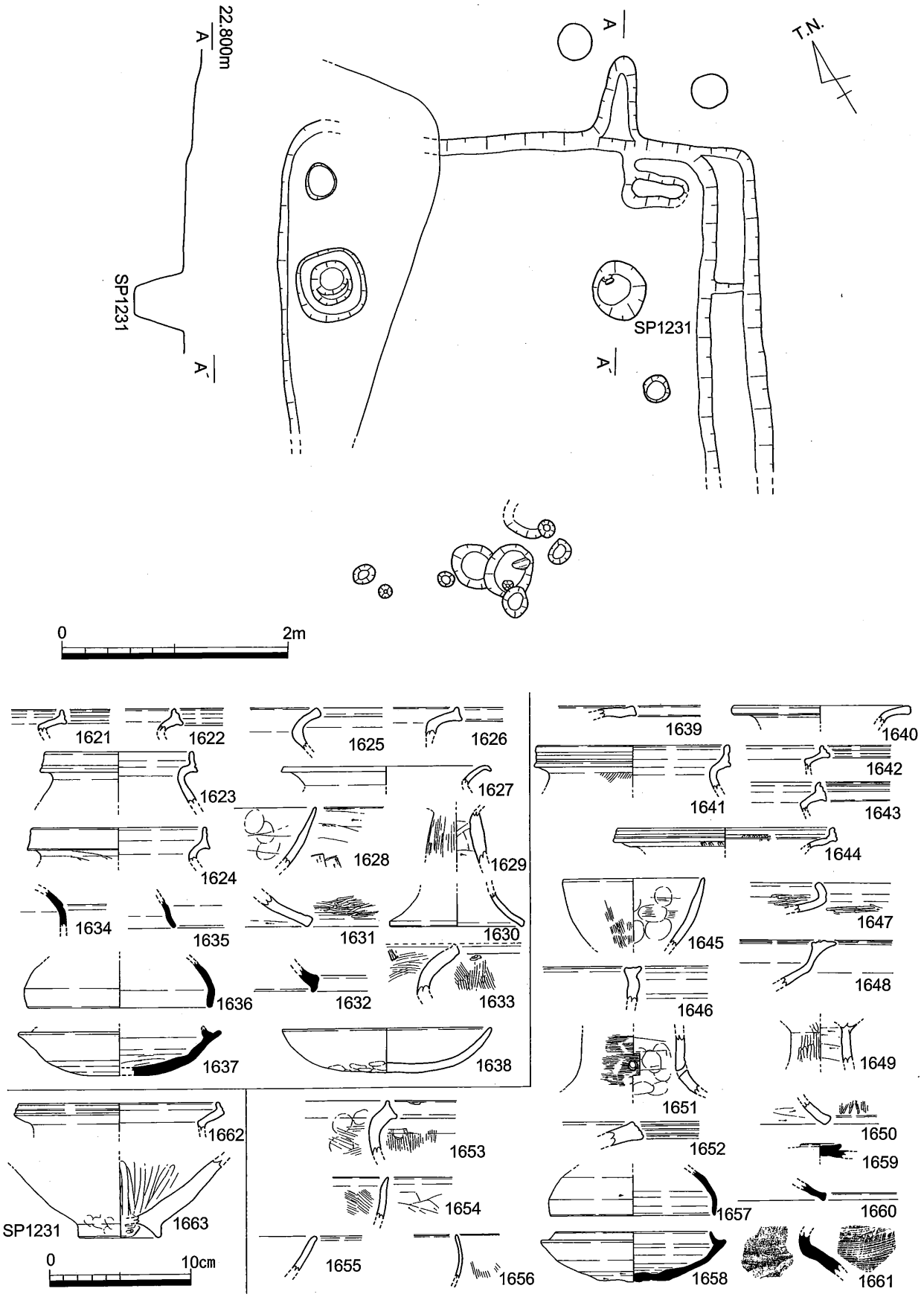
参考文献・引用文献

松本和彦 2000「10型中央土坑について」『都市計画道錦町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』香川県教育委員会

ＳＨ29

ＳＨ29は第Ⅱ調査区北部、標高22.70mで検出した竪穴住居跡である。北西部がＳＨ27によって切られ、南部は調査区に延びているが、平面形態は方形を呈し、北辺東寄りに作り付けの竈の突出部を持つ。規模は北西－南東方向が約4.38m、北東－南西向西側の残存長が約2.7m、東側の残存長が約3.0m、検出面からの深さは約0.16mを測る。北東－南西方向の主軸は真北より約32.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では東側に段状の高まりと北辺の突出部部分で台状の高まり、主柱穴を1穴検出している。竪穴住居跡北辺に付く作り付け竈の突出部は、北西隅から約3m、北東隅から約1.34mと概ね北東隅から1／3の部分で検出している。かなり削平を受けているために底面のみの検出で、付け根部で幅約0.4m、先端部で幅約0.25m、長さ約0.7mで検出し、深さ0.09mから0.06mと底部は先端部に向けて若干の傾斜を持って、浅くなっていることがわかる。また床面とは約6cmの高低差が認められる。作り付け竈の突出部の竪穴住居内側には、約30cmの間隔をあけて、45×15cmで、床



第107図　SH29平・断面図，出土遺物実測図

面との高低差約13cmの台状の高まりを検出している。前述した突出部は作り付け竈の煙突部と考えられ、煙突部前面の竪穴住居内で検出した台状の高まりは造り付け竈の内部構造に関係するものと考えられる。また竪穴住居跡東辺内側には幅25～30cm、床面との高低差10～11cmで台状の高まりを検出している。この台状の高まりは幅が通常のベッド状遺構と比較するとかなり狭いことから、土器などを置く台と考えられ、作り付け竈に関係あるとした台状の高まりに近接していることから竪穴住居内の北東隅及び東側が炊飯施設として機能していたと考えられる。主柱穴は北東隅近くで検出した。平面形態は円形を呈し、規模は直径約50cm、深さ44cmを測る。

竪穴住居内から弥生土器・須恵器が出土している。出土した遺物は堆積土上位、堆積土下位、主柱穴出土遺物に分けられる。

1621～1638は堆積土上位から出土した遺物で、弥生土器・須恵器・土師器が出土している。1621～1633は弥生土器で、この竪穴住居が弥生時代の竪穴住居ＳＨ36を切っていることから混入したものと考えられる。1634～1637は須恵器坏身・蓋である。坏蓋は1634のように天井部と口縁部の境に沈線（段）を持つものもあるが、持たないものもある。口径は約13㎝と小さく、小型化している。坏身は底部がヘラ切りされ、口縁部の立ち上がりは短い。口径は推定で、約11㎝であることから、1636の坏蓋とセット関係にあるものと思われる。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、７世紀中葉と考えられる。1638は土師器坏である。底面に指頭痕が施されている。1639～1661は堆積土下位から出土した遺物で、弥生土器・須恵器・土師器が出土している。1639～1654は弥生土器で、混入と考えられる。1655は土師器坏、1656は製塩土器である。製塩土器は器壁が２㎜程度とかなり薄く作られており、体部から口縁部にかけて内湾しながら上方に延びる。1547～1661は須恵器である。1657は坏蓋で、天井部と口縁部の境に沈線（段）を持たないもので、緩やかに屈曲している。1658は坏身で底部にはヘラ切りの痕跡が認められ、ヘラ削りの範囲も狭い。立ち上がりは短く、口径約11㎝と小さい。1657の坏蓋の口径が約12㎝で、1658とセット関係になる。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、７世紀中葉と考えられる。1659は坏蓋天井部の摘みで、かなり扁平なものである。1660は坏蓋の口縁部で口縁端部は上下に摘み出したような形状である。器高は高くなるようで、1659と同一固体と考えられる。時期は７世紀後半～末にかけてのものである。1661は須恵器甕で体部内面に同心円状の青海波文が、外面には描き目が施されている。1662・1663は主柱穴としたＳＰ1231から出土した遺物である。1662は弥生時代の甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に退化凹線を持つ。1663は底部が高台状を呈する鉢である。全て弥生時代であることから、遺物が混入したものか、あるいは主柱穴ではないのか、疑問が残る。

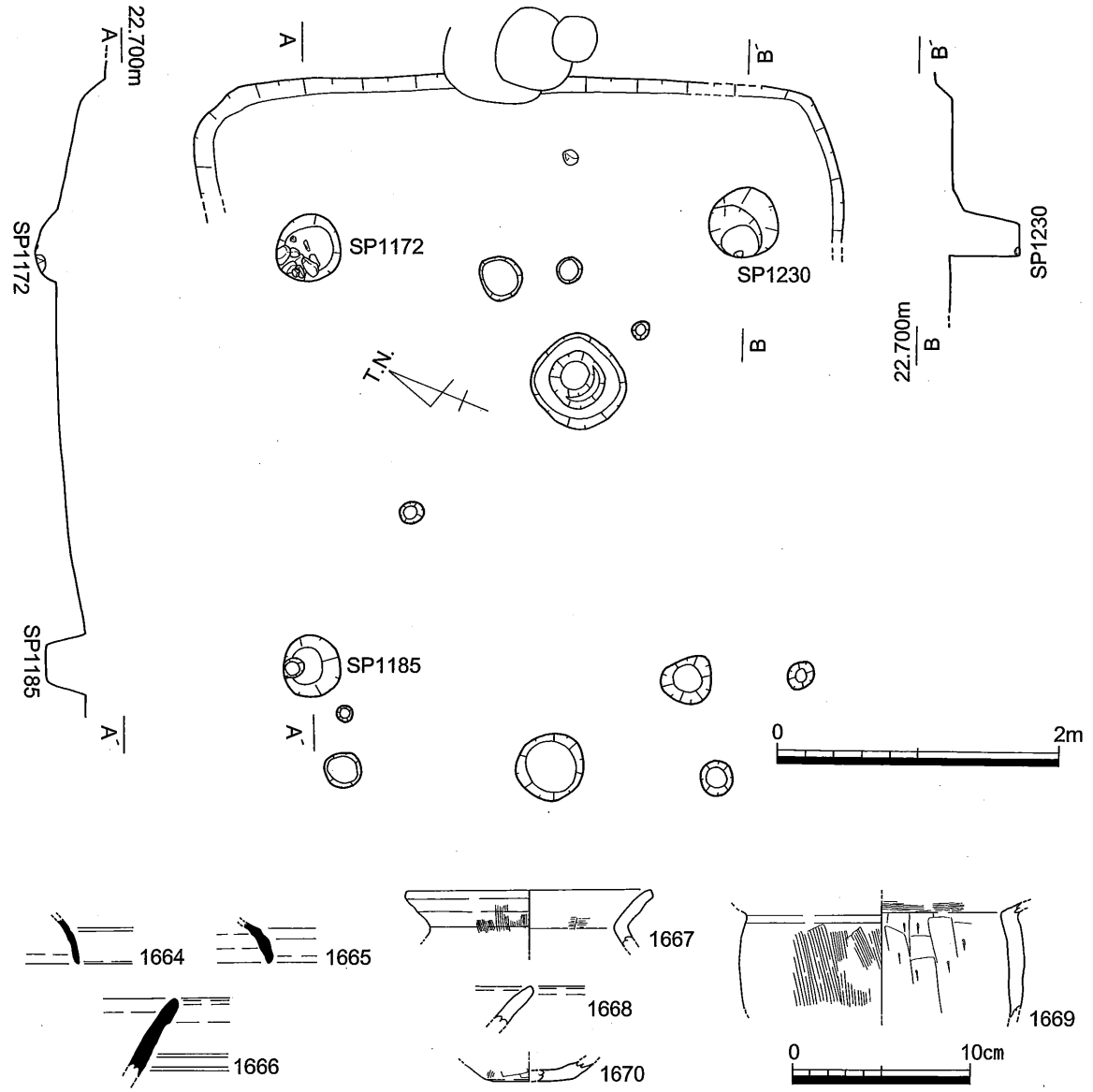
時期は竪穴住居内堆積土出土遺物から、７世紀中葉～末と考えられる。

参考文献・引用文献

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

ＳＨ30

ＳＨ30は第Ⅱ調査区北部、標高22.58ｍで検出した竪穴住居跡である。西部がＳＨ27によって切られ、南部がＳＨ27によって切られており、東側の一部を残すのみとなっているが、北東部に竪穴



第108図　SH30平・断面図，出土遺物実測図

住居のコーナーがあることから、平面形態は方形を呈するものと考えられる。規模は北－南方向が約4.57m、東－西向北側の残存長が約0.87m、南側の残存長が約1.15m、検出面からの深さは約0.12mを測る。北－南方向の主軸は真北より約22.0°西を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

かなり竪穴住居の切り合いがあることから、竪穴住居内の構造については不明であるが、主柱穴は確認した。主柱穴は南西隅の１穴を除き、３穴を検出した。平面形態は円形を呈し、直径45～50cm、深さ27～50cmを測る。

竪穴住居内から須恵器・土師質土器が出土している。

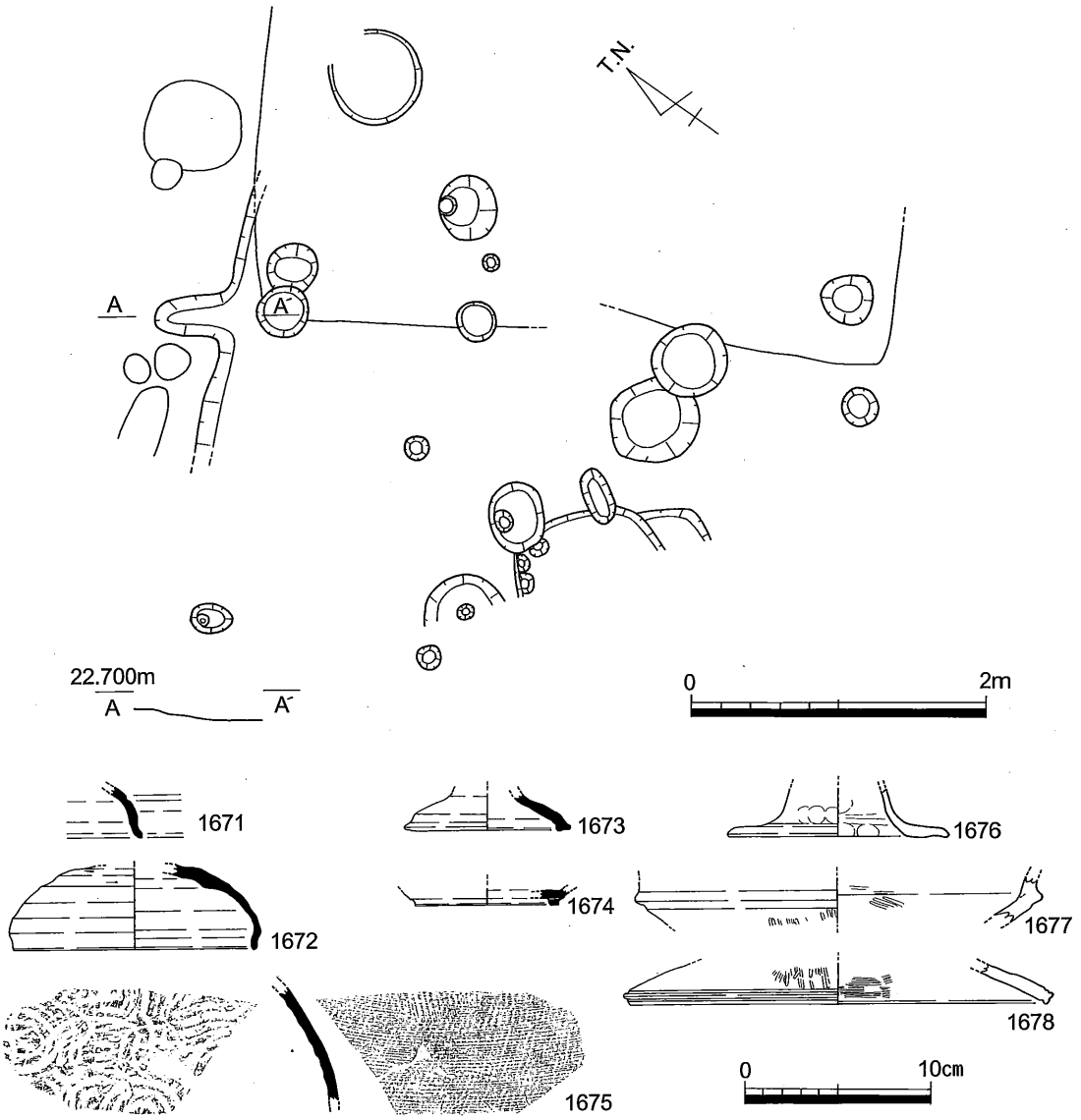
1664～1666は須恵器で、1664・1665は須恵器坏蓋、1666は甕である。坏蓋は1664のように天井部と口縁部の境に沈線を持つものもあるが、沈線を持たず、緩やかに屈曲し、口縁部にいたるものがある。甕は口縁端部外面を僅かに肥厚させる。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ209～217型式併行

期に対応し、７世紀前半～中葉と考えられる。1667～1670は土師質土器の甕である。底部は平底を呈し、体部は長胴気味、頸部は「く」の字に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。口縁端部は僅かに上方に摘み出すようで、1668は端部内面を僅かに窪ませる。体部内外面に縦方向の刷毛目が施されている。竪穴住居内で検出した主柱穴、ＳＰ1230からは弥生時代後期の土器片・サヌカイト剥片・須恵器片が、ＳＰ1172からは弥生時代後期の土器片が、ＳＰ1185からは弥生時代後期の土器片・須恵器片が出土している。

時期は竪穴住居内堆積土出土遺物から、７世紀中葉と考えられる。

参考文献・引用文献

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店



第109図　SH31平・断面図，出土遺物実測図

ＳＨ31

ＳＨ31は第Ⅱ調査区北部、標高22.58ｍで検出した竪穴住居跡である。東部がＳＨ27によって切られ、西・南部は調査区に延びており、北辺の一部分しか残存していないが、平面形態は方形を呈するものと思われる。残存する北辺の中央部には作り付けの竈の突出部を持つ。規模は東－西向北側の残存長が約0.45ｍ、検出面からの深さは約0.08ｍを測る。推定で北－南方向の主軸は真北より約23.5°西を取る。

かなり竪穴住居の切り合いがあり、突出部以外は確認できなかった。竪穴住居跡北辺に付く作り付け竈の突出部は、かなり削平を受けているために底面のみの検出で、付け根部で幅約0.35ｍ、先端部で幅約0.25ｍ、長さ約0.44ｍで検出し、深さ0.08ｍから先端部に向けて若干の傾斜を持って、浅くなっていることがわかる。また床面とは高低差は認められない。

竪穴住居内から弥生土器・須恵器・土師器が出土している。

1677・1678は弥生土器で、弥生時代の竪穴住居ＳＨ27を切っていることから混入したものと考えられる。1671・1672は須恵器坏蓋である。天井部と口縁部の境に沈線（段）を持たず、緩やかに屈曲する。口径は約13㎝と小さく、小型化している。天井部にはヘラ削りが施されている。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、７世紀中葉と考えられる。1673は高坏の脚で、緩やかに下方に屈曲する。1674は須恵器高台付坏で、底部に断面方形の高台が付く。1675は須恵器甕で体部内面に同心円状の青海波文が、外面には描き目が施されている。1676は土師器高坏で、脚部下半で脚端部に向けてほぼ水平に屈曲する。

時期は８世紀の須恵器高台付坏があるが、混入と考え、その他の遺物から、７世紀中葉と考えられる。

参考文献・引用文献

田辺昭三 1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

ＳＨ32

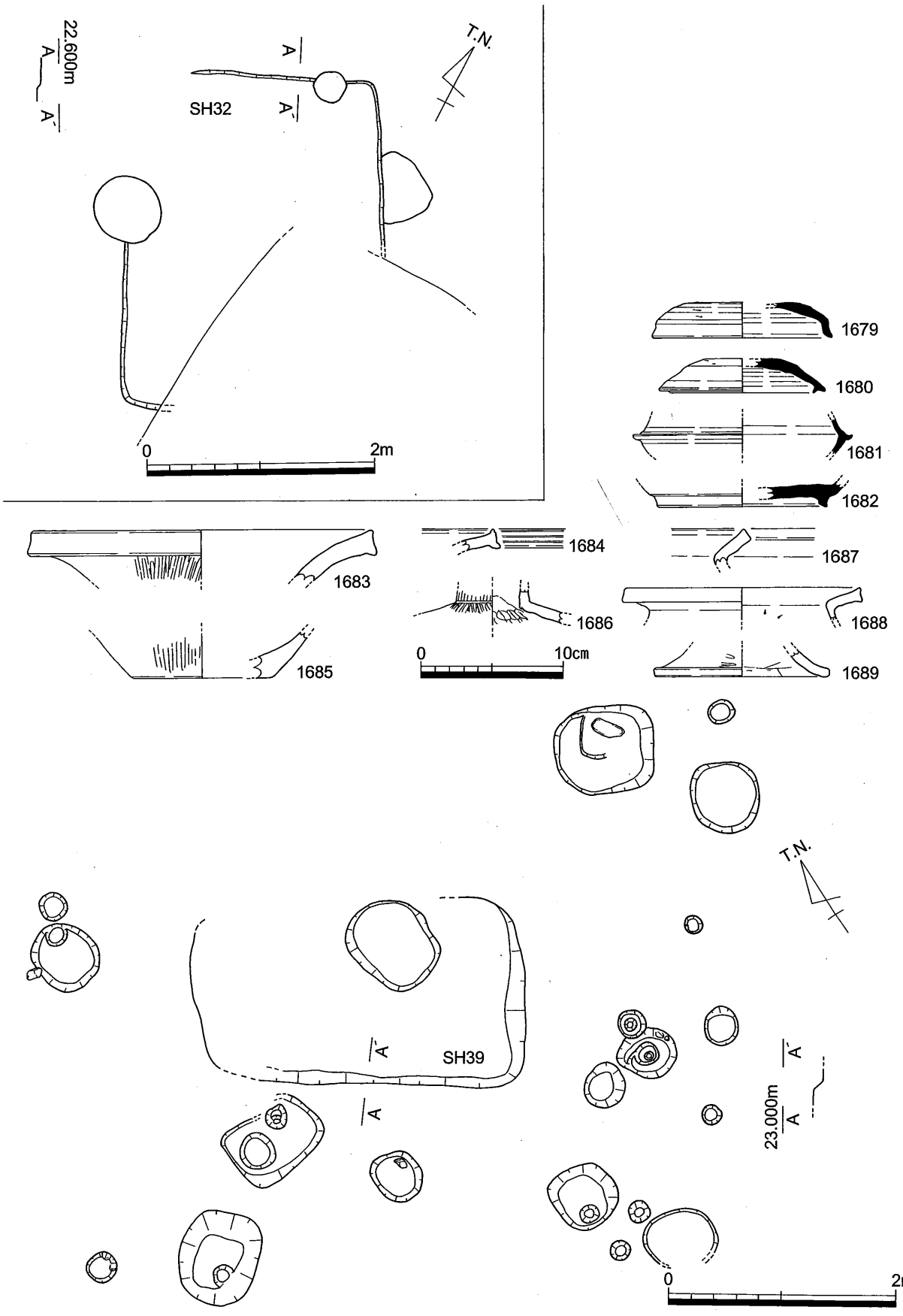
ＳＨ32は第Ⅱ調査区北部、標高22.44ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けているが、北東部の隅部と南西部の隅部を検出していることから、平面形態は長方形を呈するものと思われる。規模は北－南方向が約3.0ｍ、東－西方向が約2.29ｍ、検出面からの深さ約0.08ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約26.0°西を取る。

かなり小型のものであることから、ベッド状遺構の内側の可能性が考えられる。

時期は遺物が出土していないことから不明であるが、ＳＨ27に壁溝から出土した遺物が少量であるため、時期は不明であるが、弥生時代後期後半～末の竪穴住居跡ＳＨ27に切られていることから、おそらく弥生時代後期中葉～後半と考えられる。

ＳＨ33

ＳＨ33は第Ⅱ調査区北部、標高22.74ｍで検出した竪穴住居跡である。西部がＳＨ29によって切られ、北部は全体に削平を受けている。南辺および東西辺の南側しか残存していないが、平面形態は方形を呈するものと思われる。残存する南辺の東寄りに突出部を持つ。規模は東－西方向南側が



第110図　SH32・39平・断面図，出土遺物実測図

約4.30m、南－北方向西側残存長が約1.15m、東側残存長が約2.0m、検出面からの深さは約0.07mを測る。北－南方向の主軸は真北より約17.0°西を取る。

竪穴住居跡南辺に付く突出部は、かなり削平を受けているために底面のみの検出で、付け根部で幅約0.52m、先端部で幅約0.35m、長さ約0.54mで検出し、深さ0.16mから先端部に向けて若干の傾斜を持って、浅くなっていることがわかる。また床面とは約0.08mの高低差を持ち、深くなっている。出土遺物が弥生時代に限定できることと南側に突出部が付いていることから、古墳時代の作り付け竈の突出部とは考えていない。また竪穴住居内からは主柱穴を4穴検出した。主柱穴は平面形態が円形を呈し、規模は20～50cm、深さ29～35cmを測る。

竪穴住居内堆積土は単層で、灰茶色粘質土が堆積する。

竪穴住居内堆積土・主柱穴から弥生土器・石製品が出土している。出土した遺物は堆積土上位、堆積土下位、主柱穴出土遺物に分けられる。

1690～1694は堆積土上位から出土した遺物で、しっかりした平底を持つ甕・壺の底部、高坏の脚、器台、サヌカイト製のスクレイパーが出土している。器台は軸部外面に2条1単位の沈線を持ち、円形の透かしが認められる。1695～1699は堆積層下位から出土した遺物で、甕・高坏・脚台付鉢が出土している。甕の口縁端部は上方に拡張し、外面に2条の沈線を持つものとそのまま終わらせるものがある。1700～1702はＳＰ1227から出土した遺物である。1702は高坏脚で、軸部上端に4条の沈線が施されている。この柱穴からは壺・甕の破片が出土している。1703はＳＰ1248から出土した甕である。頸部が「く」の字に屈曲し、頸部内面は緩やかに屈曲する。口縁部は直線的に外上方に延び、口縁端部は僅かに上下に摘み出す。この柱穴からは壺・甕・鉢・高坏の破片が出土している。1704～1707はＳＰ1241から出土した遺物である。1704は甕で、口縁端部を上下に拡張し、外面に3～4条の沈線を持つ。1706は高坏の脚で、外面に鋸歯文を持つ。この柱穴からは甕・鉢・高坏の破片が出土している。

時期は竪穴住居内堆積土及び主柱穴出土遺物から、弥生時代後期前半～中葉と考えられる。

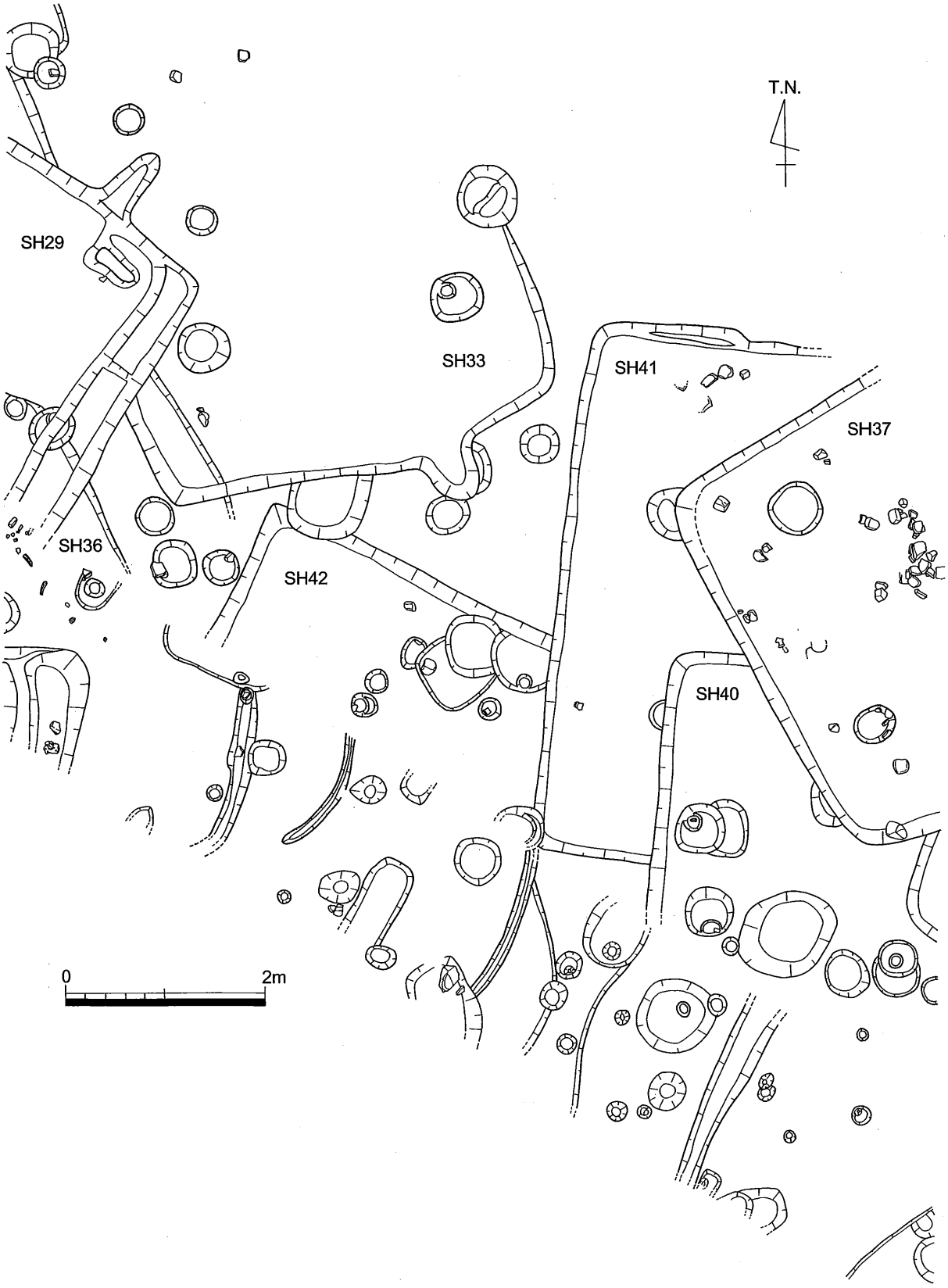
ＳＨ34

ＳＨ34は第Ⅱ調査区北部、標高22.73mで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けており、さらに南西側が調査区外に延びていることから、掘り方及び壁溝の一部を残す竪穴住居跡である。残存する部分の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は推定直径約5.3mを測る。ほぼ中央部に土坑状の掘り込みを検出しているが、炉とは断定できない。壁溝は幅約20cmを測り、若干弧を描くように検出している。主柱穴は確認していない。

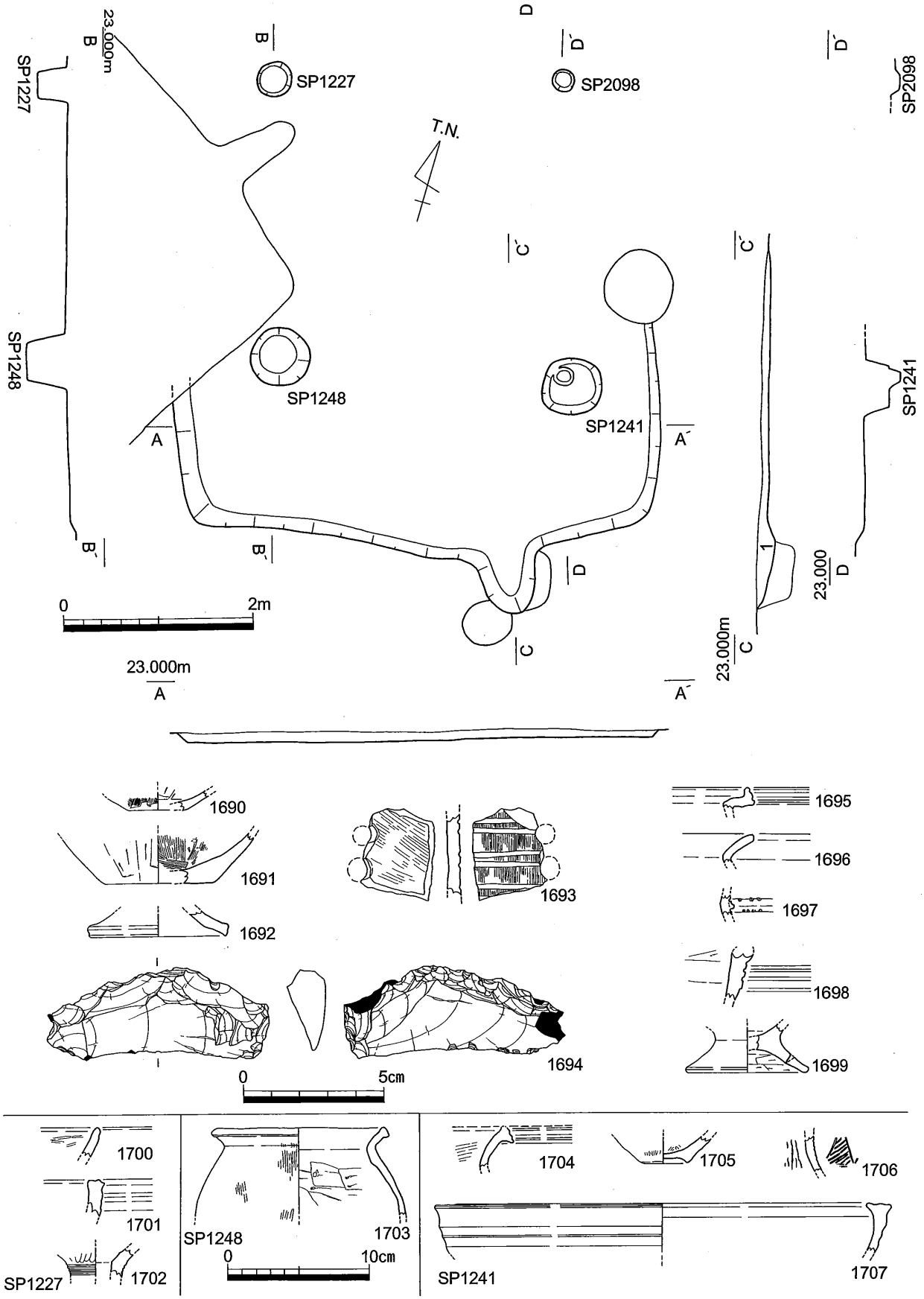
竪穴住居内から遺物が出土していないので、時期決定ができていない。

ＳＨ35

ＳＨ35は第Ⅱ調査区北部、標高22.46mで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の北側をＳＨ22に、南側をＳＨ28に、西側をＳＨ32によって切られているが、残存している部分から平面形態は多角形を呈している。北東部の隅のみしか確認しておらず、残存長は約1.5mと約1.4mを測る。竪穴住居内部でベッド状遺構・主柱穴・中央土坑（炉）を検出している。竪穴住居内側で幅1.1～1.5mのベッド状遺構を検出し、床面からの高低差は約0.04mを測る。主柱穴はベッド状遺構の内側に1



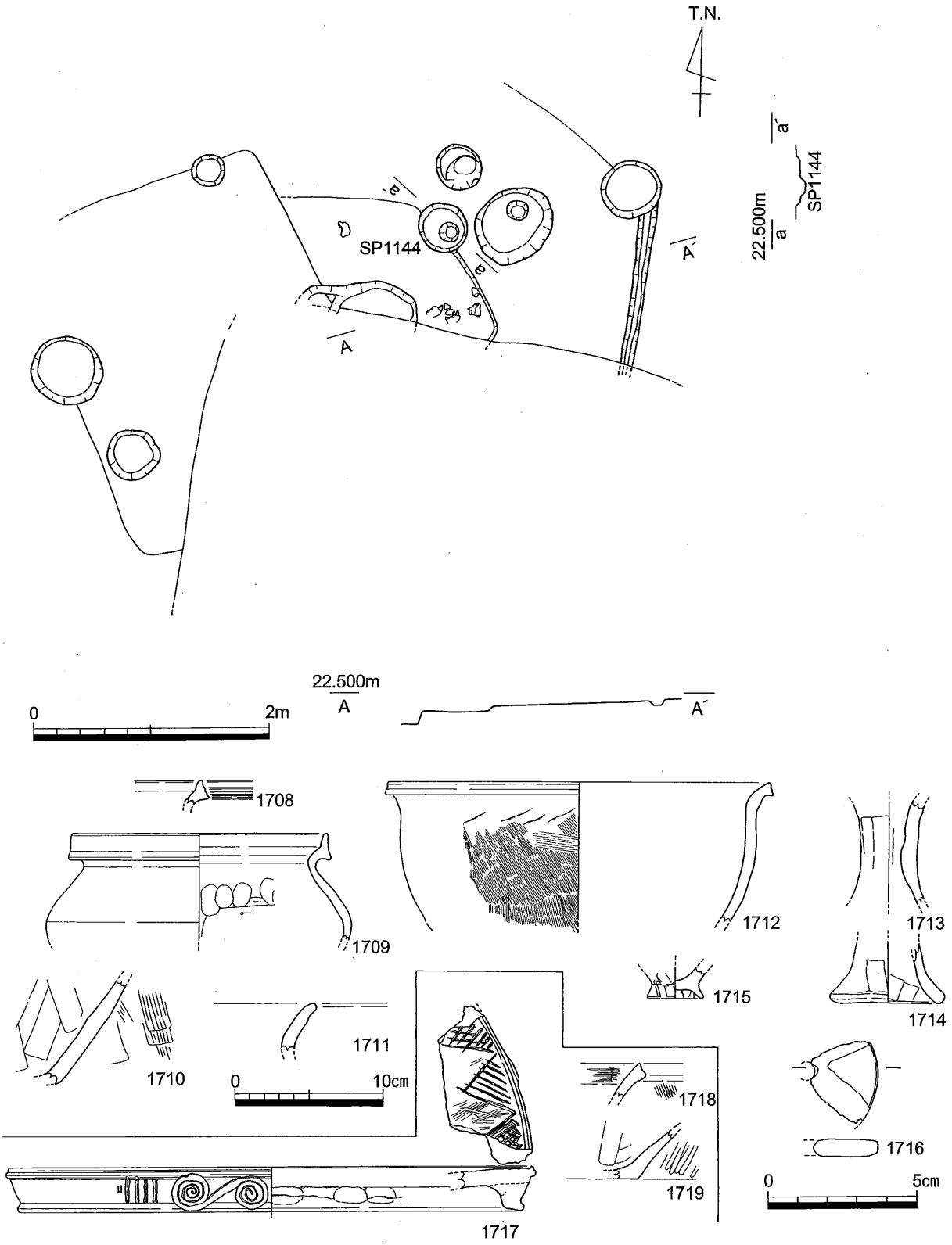
第111図　SH33・37・40・41・42位置関係図



第112図　SH33平・断面図，出土遺物実測図

穴確認している。主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径約0.43cm、深さ0.08mを測る。炉はＳＨ28・ＳＨ32によって切られているために北側半分しか検出していないが、平面形態は楕円形を呈するものと思われる。

竪穴住居内からは弥生土器・石製品が出土している。出土した遺物は堆積土、中央土坑（炉）出



第113図　SH35平・断面図，出土遺物実測図

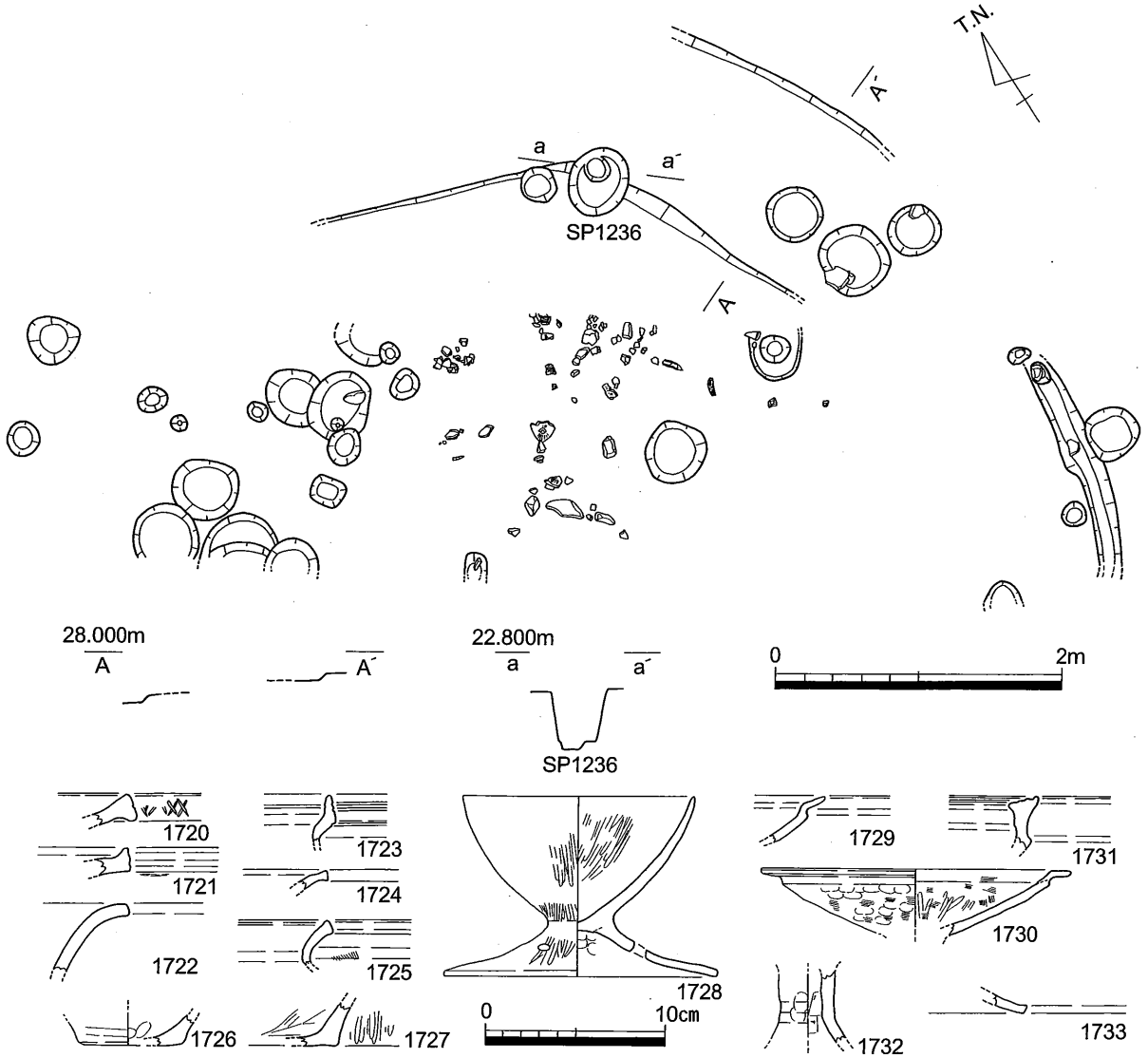
土遺物に分けられる。

1708～1716は竪穴住居内堆積土から出土したものである。1708・1709は甕で、1708は口縁部を上方に拡張し、外面に3条の沈線を持つ。1709は口縁部を上方に延ばすのみで、沈線を持たない。体部はかなり胴張りになる形態である。1712は体部から口縁部にかけて緩やかに外反させる鉢で、口縁端部外面に2条の沈線を持つ。1713・1714は支脚、1716は流紋岩製の紡錘車である。直径約5㎝、厚さ0.6㎝を測る。1717～1719は炉出土遺物である。1717は壺の口縁部で、端部を下方に拡張し、外面に渦巻状の浮文・棒状の浮文を付け、上面には鋸歯文が施されている。

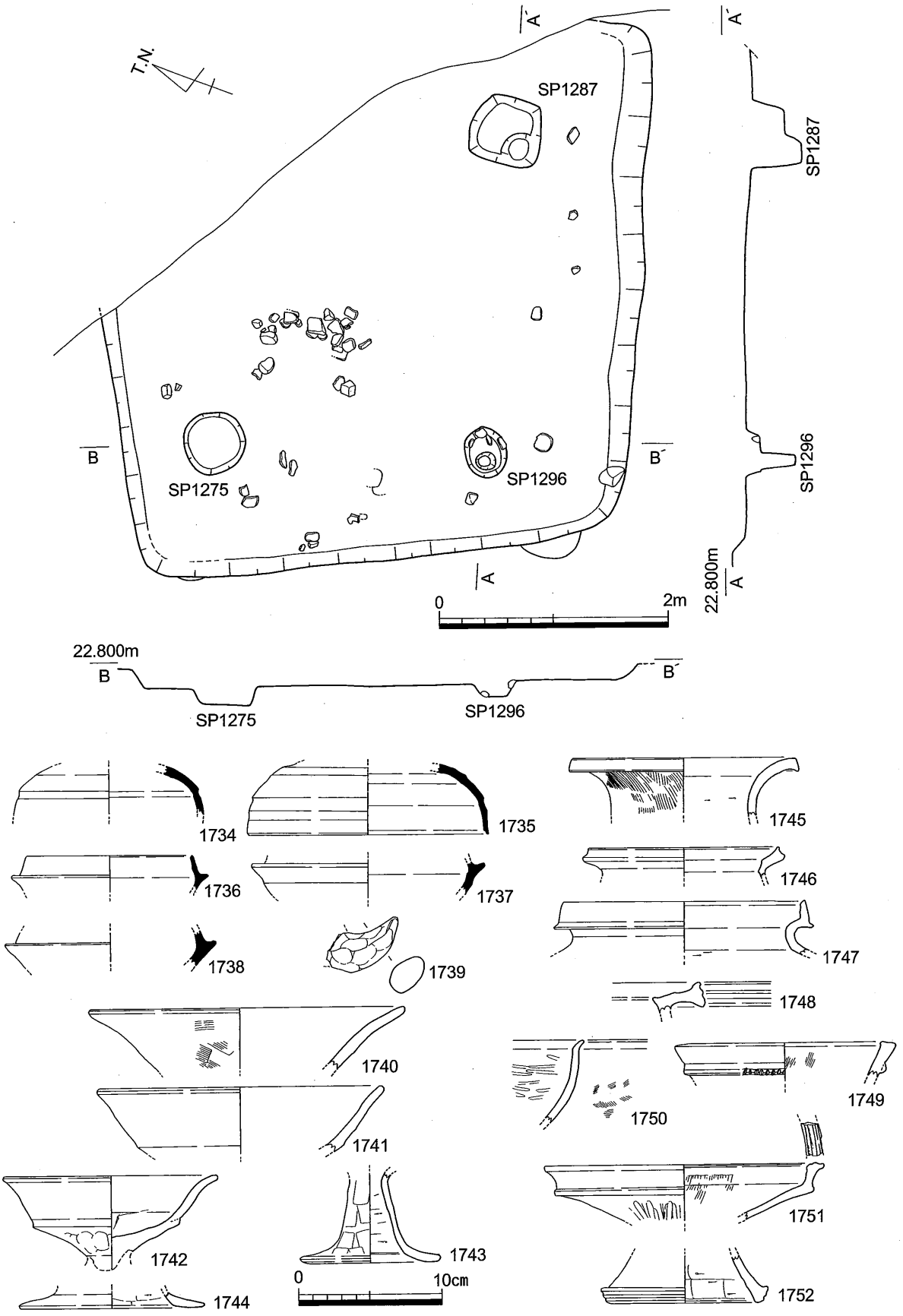
時期は、甕の口縁端部を拡張していること弥生時代後期後半～終末の竪穴住居跡ＳＨ22、ＳＨ28にきられていることから弥生時代後期前半と考えられる。

ＳＨ36

ＳＨ36は第Ⅱ調査区北部、標高22.65ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の南西側が調査区外に延びていることや、全体的に削平を受けているが、残存している部分から平面形態は円形を



第114図　SH36平・断面図，出土遺物実測図

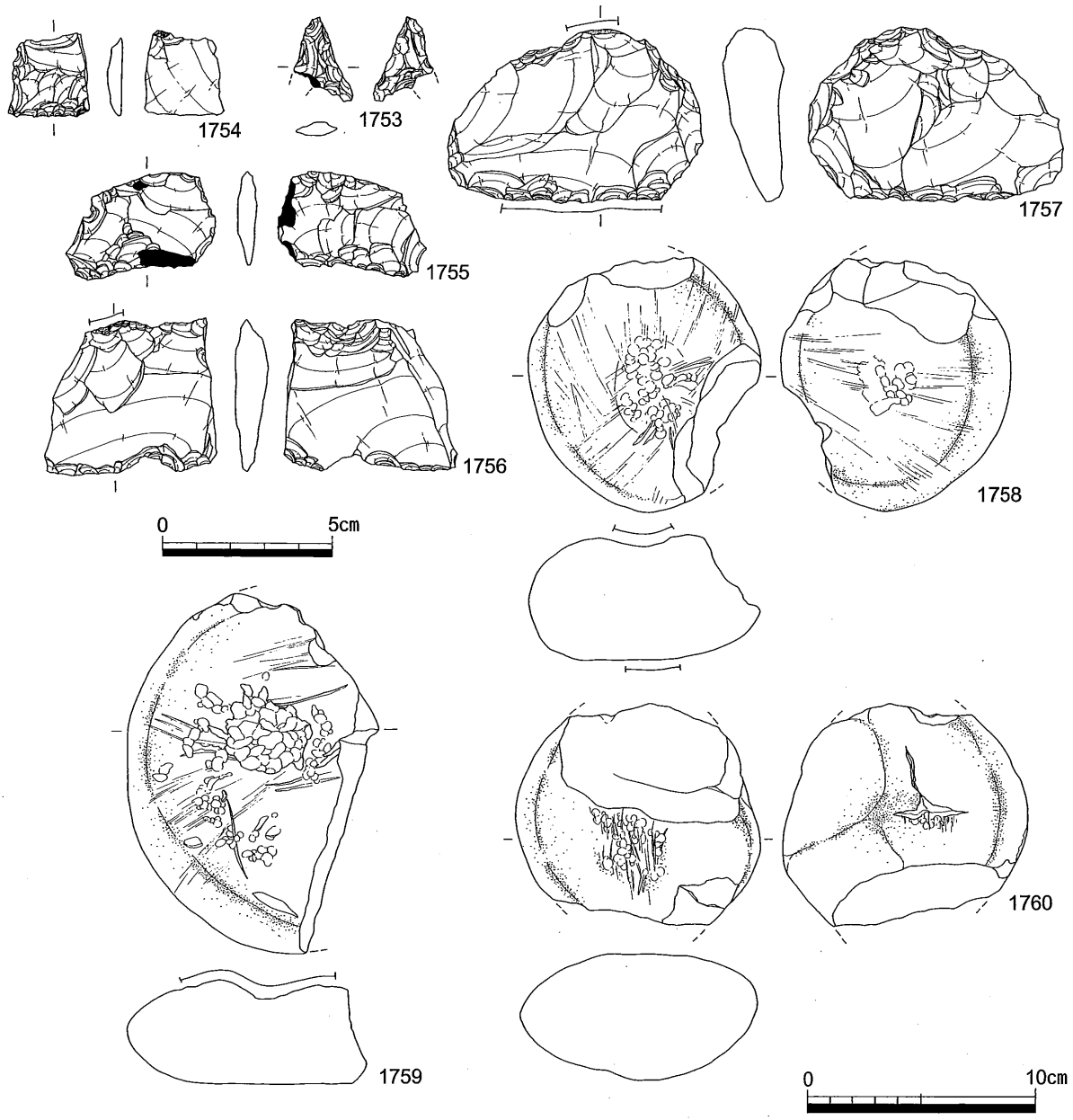


第115図　SH37平・断面図，出土遺物実測図①

呈し、直径約7.88m、検出面からの深さは、約0.05mを測る。東部分の一部とベッド状遺構の一部しか確認していない。竪穴住居内側で幅約1.1mのベッド状遺構を検出し、床面からの高低差は約0.06mを測る。主柱穴はベッド状遺構の内側に1穴確認している。主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径約0.40cm、深さ0.43mを測る。

竪穴住居内からは弥生土器が出土している。

1720～1733は竪穴住居内堆積土から出土したものである。1720～1722は壺で、1720は口縁端部を下方に拡張し、外面に格子文を持つ。1722は頸部から口縁部にかけて朝顔形に開くもので、口縁端部はそのまま終わらせる。1723～1727は甕で、1723は口縁端部を上方に拡張し、外面に2条の沈線を持つ。底部はしっかりした平底を持つ。1728は脚付の鉢で、脚はかなり広がり、ほぼ中位に3箇所の穿孔が認められる。鉢部は内湾気味に外上方に延び、口縁端部はそのまま細く終わらせる。1729～1733は高坏である。1729・1730坏部が直線的に延び、口縁部が上方に屈曲し、更に外方に屈



第116図　SH37出土遺物実測図②

曲する。坏部外面には指頭痕が顕著に認められ、作りが粗い。1731は口縁端部を左右に拡張し、上部に２条の退化凹線を持つ。

時期は、竪穴住居内堆積土から出土した遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＨ37

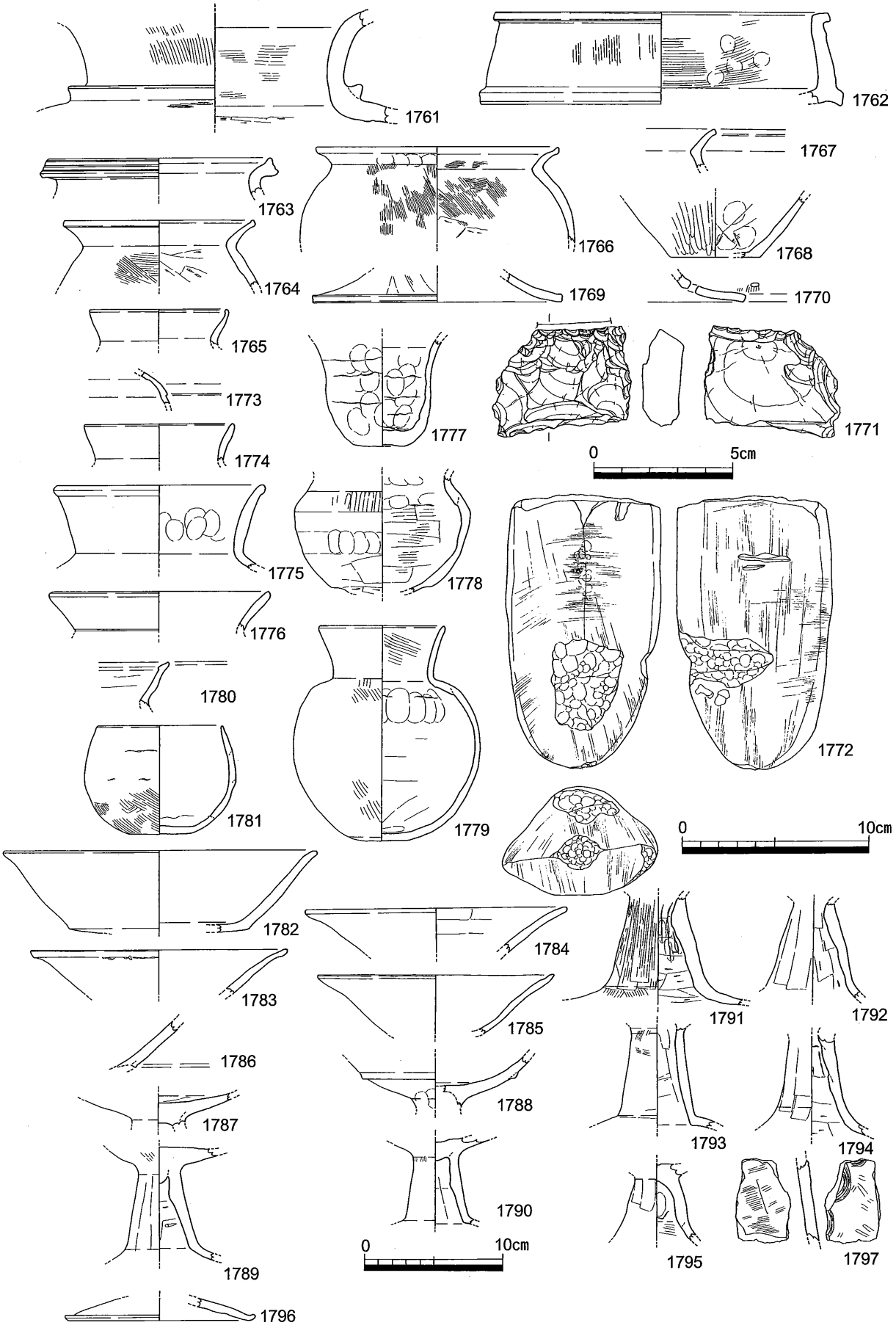
ＳＨ37は第Ⅱ調査区中央部、標高22.73ｍで検出した竪穴住居跡である。北東部をＳＤ06・07、ＳＲ05によって切られているが、それ以外の隅を検出していることから、平面形態は方形を呈する。規模は北西－南東方向が約4.70ｍ、南西－北東が約4.45ｍ、検出面からの深さは約0.16ｍを測る。北西－南東方向の主軸は真北より約27.5°西を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では、主柱穴を確認した。主柱穴は北東隅の１穴を除き、３穴を検出した。平面形態は円形・方形を呈し、円形のものは直径40～55㎝、深さ17～43㎝、方形のものは一辺約0.58ｍを測る。

竪穴住居内から弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器が出土している。出土した遺物は竪穴住居内堆積土上位、堆積土下位出土遺物に分けられる。

1734～1760は竪穴住居内堆積土上位出土遺物である。1745～1760は弥生土器・サヌカイトの石製品、砂岩製の石製品で、この竪穴住居跡が弥生時代の竪穴住居ＳＨ38・40・41を切っていることから、混入したものと考える。1734～1738は須恵器で、1734・1735は坏蓋、1736～1738は坏身である。坏蓋は天井部と口縁部の境に屈曲部に伴う段を持つもので、口縁端部内面にも沈線状の段を持つ。坏身は立ち上がりが細く、上方に延びる。口径は坏蓋が約16.7㎝、坏身が約11.5㎝を測る。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ10型式併行期に対応し、６世紀中葉と考えられる。1739は土師質の甕の取っ手である。1740～1744は土師器高坏である。坏部は口縁部が外反気味に外上方に延び、脚部は下位でほぼ水平方向に屈曲する。脚部内面にはヘラ削りが施されている。高坏は全て坏部の底面に突出部を作り、突出部を脚部上端に差し込むように作られていることがわかる。1761～1772は竪穴住居内堆積土下位出土遺物である。1761～1797は弥生土器・サヌカイトの石製品、砂岩製の石製品で、この竪穴住居跡が弥生時代の竪穴住居ＳＨ38・40・41を切っていることから、混入したものと考える。1773は須恵器坏蓋で、天井部と口縁部の境に屈曲部に伴う段を持つ。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ10型式併行期に対応し、６世紀中葉と考えられる。1774～1780は土師質甕である。底部は平底気味の丸底で、体部は球形を呈する。口縁部はやや外反気味に外上方に延び、端部はそのまま終わらせる。1780は口縁部が直線的に外上方に延び、端部内側を肥厚させる。1781はボール状の鉢で、平底の底部から体部は内湾し、内傾しながら口縁端部となる。1782～1796は土師器高坏で、坏部はほぼ中位で屈曲し、やや外反気味に外上方に延び、口縁端部となる。1788は屈曲部外面に断面三角形の突帯を巡らす。脚部は下半で外方に屈曲し、脚端部となる。軸部内面にはヘラ削りが施されている。1797は器種不明の土製品で、表面に連弧文状の線刻が認められる。

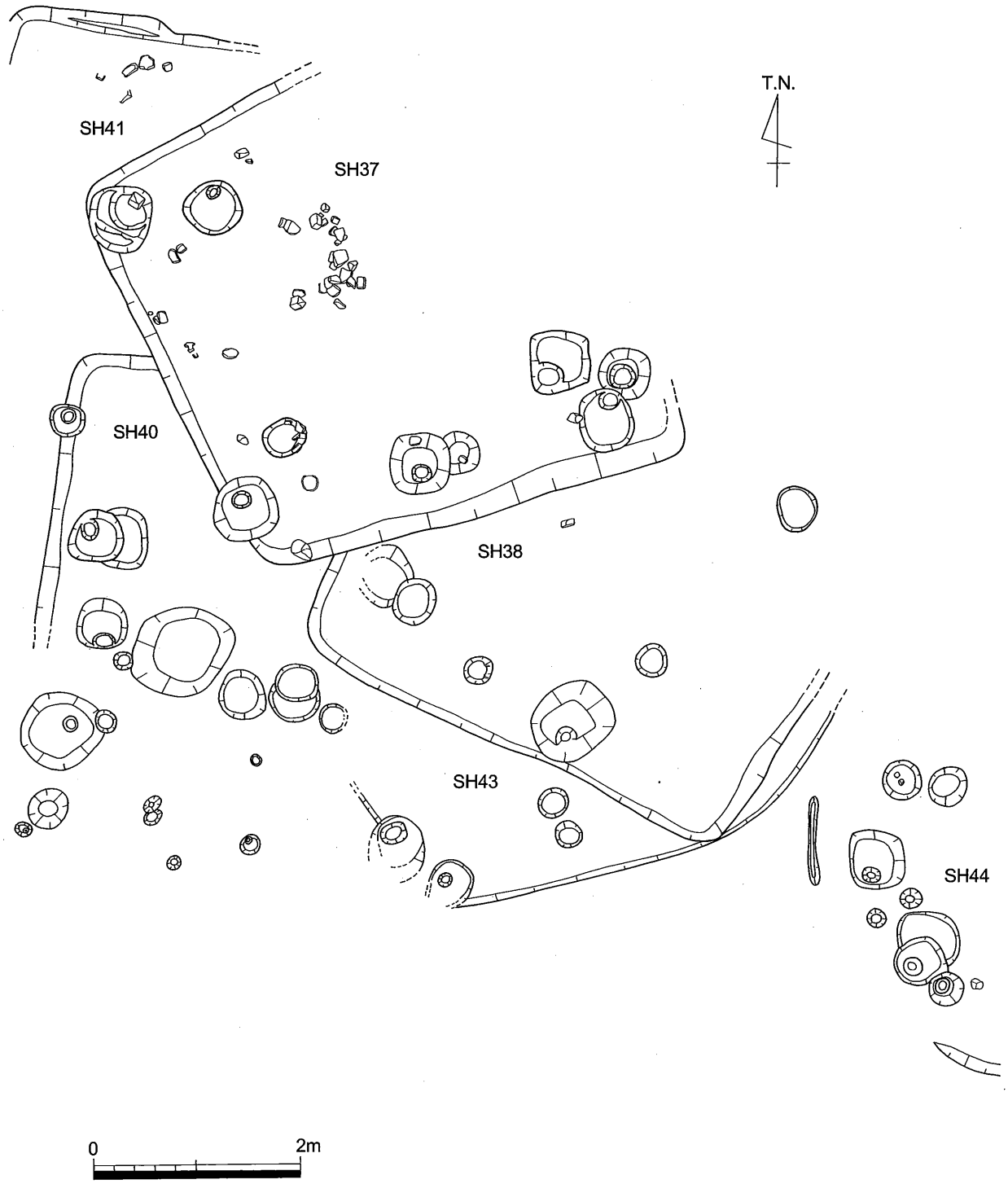
時期は竪穴住居内堆積土出土遺物から、６世紀中葉と考えられる。



第117図　SH37出土遺物実測図③

ＳＨ38

ＳＨ38は第Ⅱ調査区中央部、標高22.80ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の北側をＳＨ37に、北東側をＳＨ39に切られ、南側ではＳＨ40・43を切っている。竪穴住居跡の平面形態は、残存している部分から方形を呈し、規模は北西－南東方向が約4.85ｍ、北東－南西方向西側の残存長が約1.04ｍ、東側残存長が約1.77ｍ、検出面からの深さ約0.12ｍを測る。竪穴住居内からは本来４穴あった内の主柱穴２穴を検出した。主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径約0.40㎝、深さ約0.20ｍ

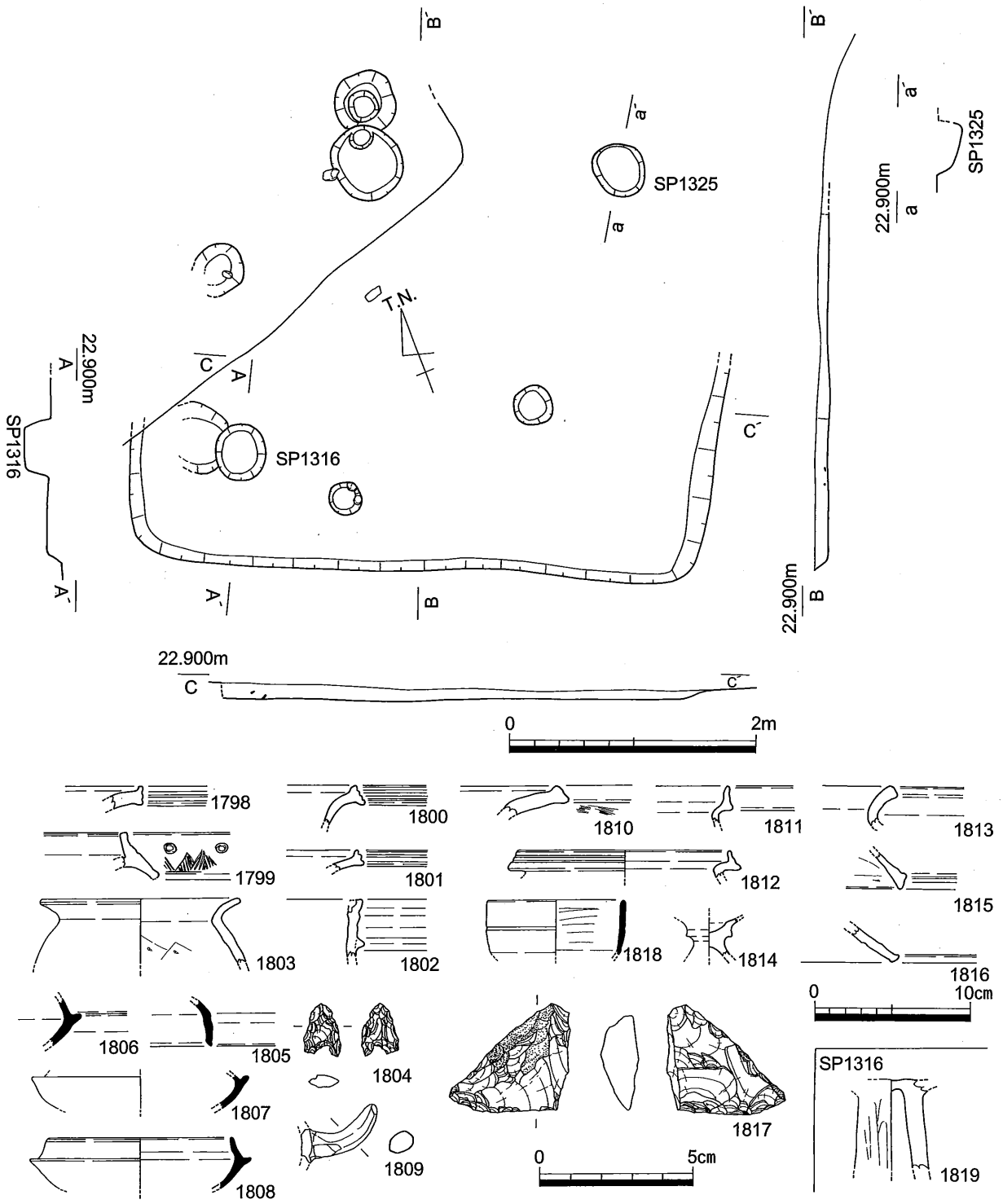


第118図　SH38・43位置関係図

を測る。

竪穴住居内からは弥生土器・石製品・須恵器が出土している。出土した遺物は竪穴住居内堆積土上位、堆積土下位、主柱穴出土遺物に分けられる。

1798～1809は竪穴住居内堆積土上位から出土したものである。1798～1804は弥生土器・サヌカイトの石製品で、この竪穴住居跡が弥生時代の竪穴住居ＳＨ43を切っていることから、混入したものと考える。1805～1808は須恵器で、1805の坏蓋は天井部と口縁部の境に屈曲部に伴う段を持つ。時



第119図　SH38平・断面図，出土遺物実測図

期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ10型式併行期に対応し、６世紀中葉と考えられる。坏身は立ち上がりが内傾し、延びる。1810～1818は竪穴住居内堆積土下位から出土したものである。1810～1817は弥生土器・サヌカイトの石製品で、この竪穴住居跡が弥生時代の竪穴住居ＳＨ43を切っていることから、混入したものと考える。1818は須恵器台付鉢で、コップ状を呈している。1819はＳＰ1316から出土した弥生土器高坏である。

時期は、竪穴住居内堆積遺物から６世紀中葉と考えられる。

ＳＨ39

ＳＨ39は第Ⅱ調査区中央部、標高22.73ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けているが、西部と南部、東部の隅部を検出していることから、平面形態は長方形を呈するものと思われる。規模は北東－南西方向が約1.66ｍ、北西－南東方向が約2.98ｍ、検出面からの深さ約0.09ｍを測る。北東－南西方向の主軸は真北より約34.5°東を取る。規模がかなり小型であることから、竪穴住居跡のベッド状遺構の内側あるいは土坑の可能性が考えられる。

竪穴住居内からは弥生土器・須恵器が出土している。

1683～1689は弥生土器で、この竪穴住居跡が弥生時代の竪穴住居ＳＨ43を切っていることから、混入したものと考える。1679～1682は須恵器で、1679は短頸壺の蓋、1680は坏蓋、1681は坏身、1682は高台付坏身である。

竪穴住居内堆積土から出土した遺物の時期は、弥生時代、７世紀、８世紀と時期幅が認められることから、ここでは断定を避けたい。しかし６世紀中葉の竪穴住居跡ＳＨ38を切っていることから、これ以降であることは間違いない。

ＳＨ40

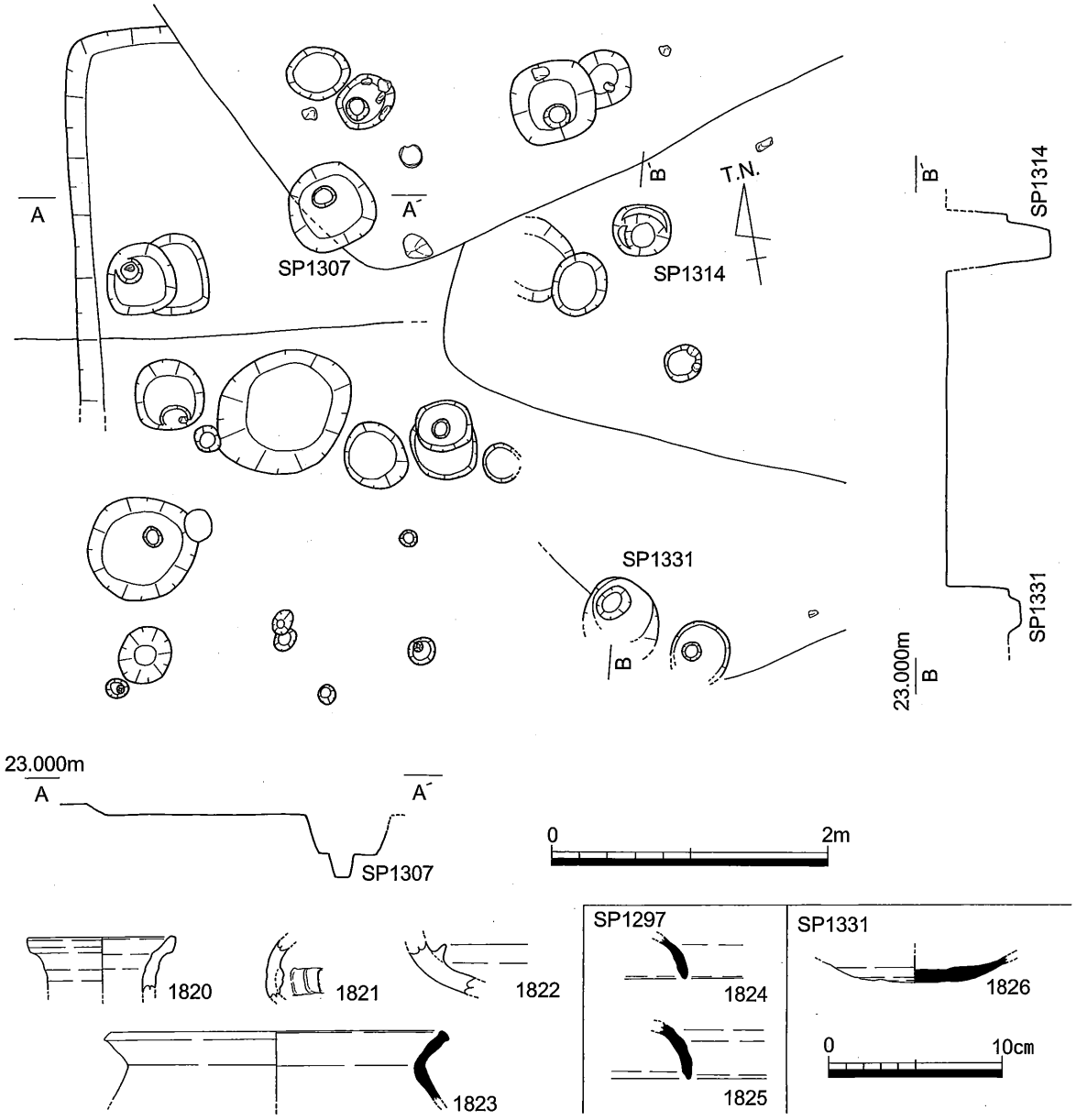
ＳＨ40は第Ⅱ調査区中央部、標高22.82ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の北側をＳＨ37に、東側をＳＨ38に切られ、南側は調査区外に延びている。竪穴住居跡の平面形態は、残存している北西隅部分から方形を呈していることがわかり、規模は不明であるが、北－南方向西側の残存長が約2.75ｍ、東－西方向北側残存長が約0.70ｍ、検出面からの深さ約0.08ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約9.0°東を取る。竪穴住居内からは本来４穴あった内の主柱穴３穴を検出した。主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径0.42～0.63㎝、深さ0.45～0.74ｍを測る。

竪穴住居内からは弥生土器・須恵器が出土している。出土した遺物は竪穴住居内堆積土、主柱穴出土遺物に分けられる。

1820～1823は竪穴住居内堆積土から出土したもので、全て弥生土器である。1820は壺の口縁部で、外反しながら延び、口縁端部を肥厚させる。1821・1822は壺で、頸部屈曲部外面に指頭痕の突帯や断面三角形の突帯を巡らす。1823は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部が直線的に外上方に延びる。1824～1825は主柱穴出土遺物である。1824・1825はＳＰ1297から出土した須恵器坏蓋で、1824は天井部と口縁部の境が緩やかに屈曲するもので、1825はその屈曲部外面に僅かに凹線状の窪みを持つ。1826須恵器坏身の底部で、外面にヘラ削りが施されている。

時期は、主柱穴出土遺物から見ると７世紀前半頃に当たるが、この竪穴住居を切っているＳＨ37・38が６世紀中葉であることから、この竪穴住居跡を７世紀前半にするのには無理がある。竪穴住居

跡と掘り方の時期が一致しないとして、ここでは堆積土出土遺物の時期、弥生時代後期中葉としたい。



第120図　SH40平・断面図，出土遺物実測図

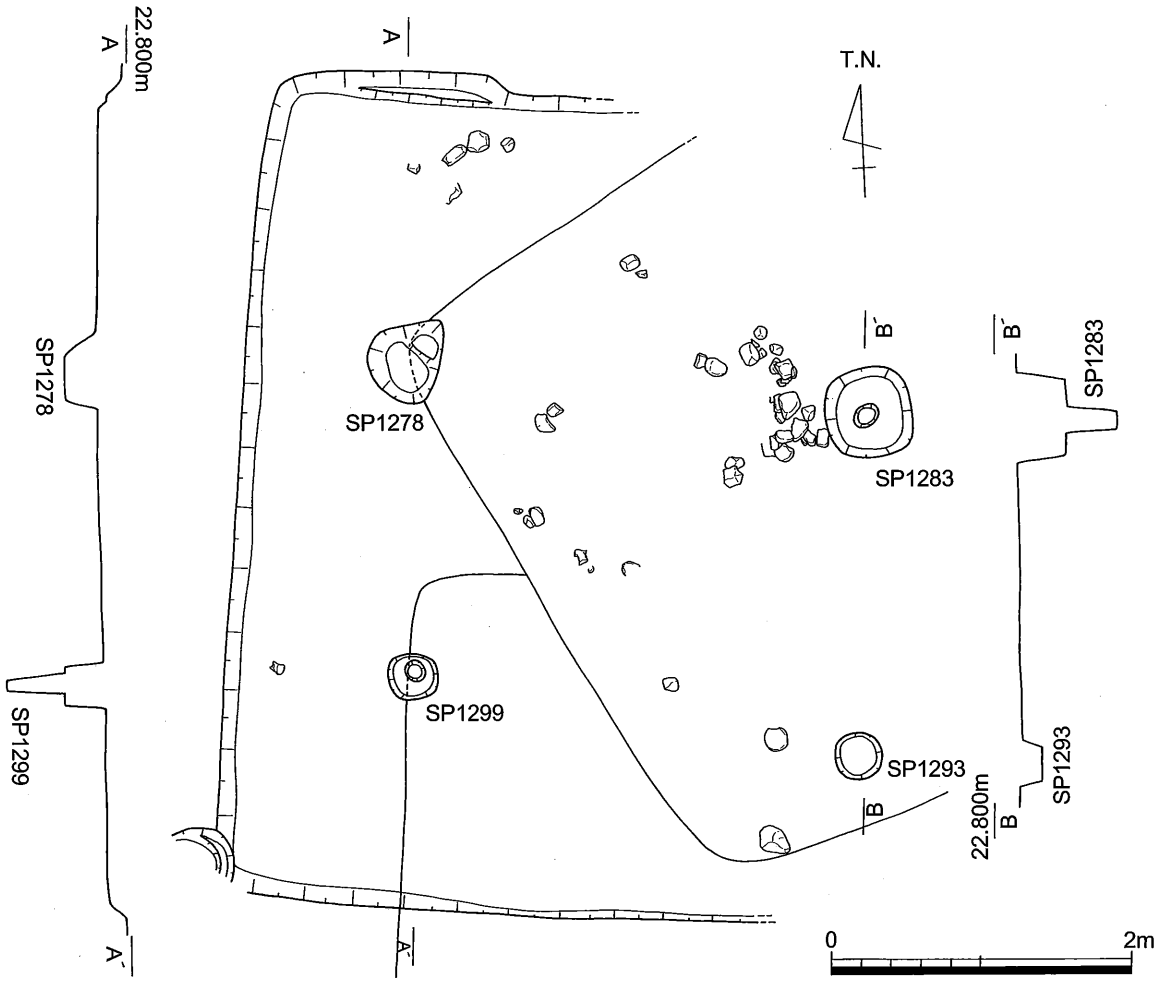
SH41

SH41は第Ⅱ調査区中央部、標高22.76mで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の北側をSD06・07に、東側をSH37に、南東側をSH40に切られている。竪穴住居跡の平面形態は、残存している西半部から方形を呈していることがわかり、規模は北－南方向西側が約5.52m、東－西方向北側残存長が約2.35m、南側残存長が約3.60m、検出面からの深さ約0.16mを測る。北－南方向の主軸は真北より約6.5°東を取る。竪穴住居内からは、主柱穴を4穴検出した。主柱穴は平面形態が歪

な円形を呈し、直径0.32～0.57cm、深さ0.22～0.65mを測る。

竪穴住居内からは弥生土器・須恵器が出土している。出土した遺物は竪穴住居内堆積土、床面直上、主柱穴出土遺物に分けられる。

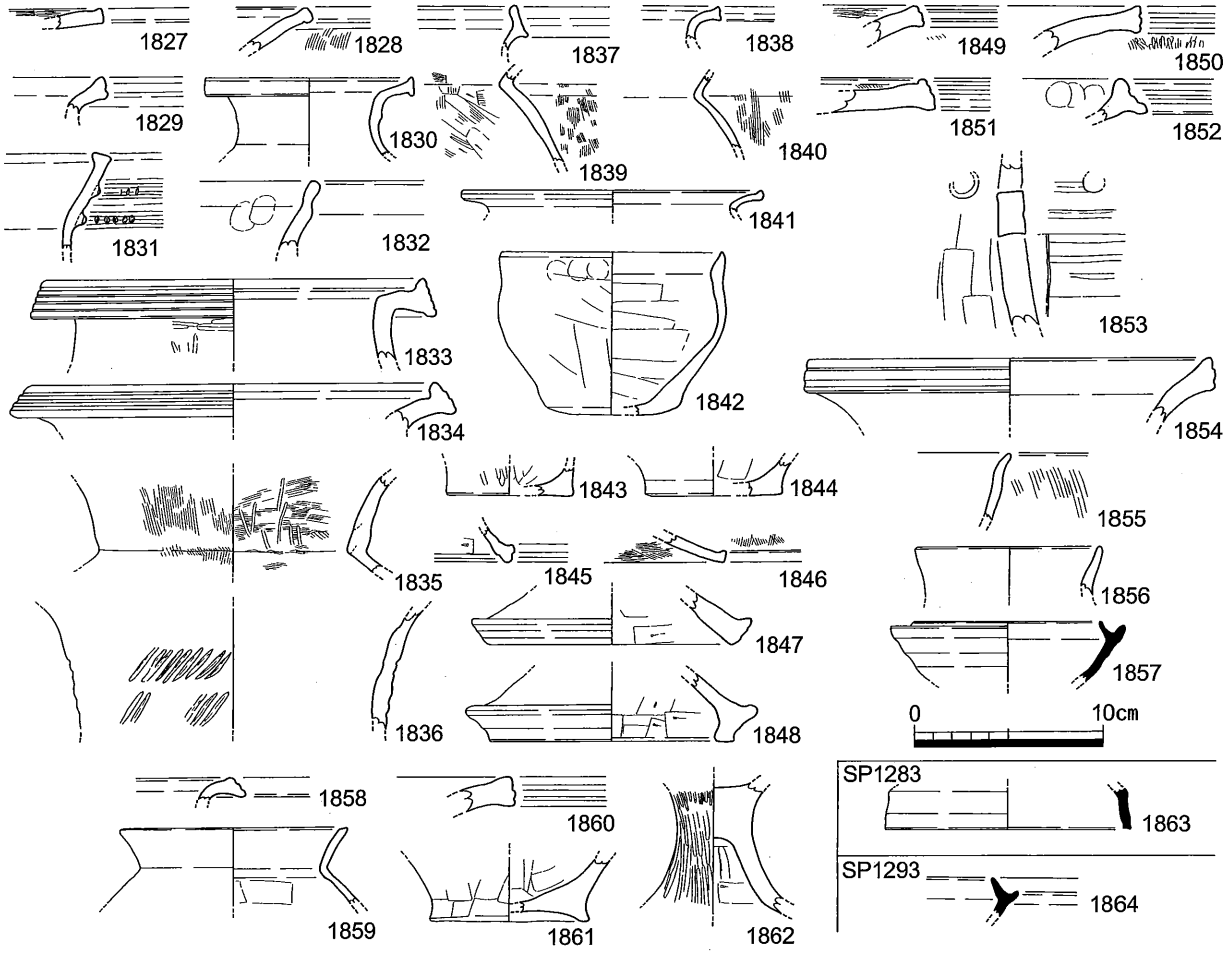
1827～1857は竪穴住居内堆積土から出土したものである。1827～1836で、頸部から口縁部にかけて朝顔形に開くもの、直線的に外上方に延びるもの、口縁部が水平に屈曲するものなどがある。5の頸部から口縁部にかけて直線的に外上方に延び、外面に刻み目を持つ断面三角形の突帯を巡らす壺は、弥生時代中期のものと考えられ、それ以外のものが弥生時代後期のものであることから出土遺物に時期幅が認められる。1837～1844は甕で、口縁端部を上方に拡張するもの、上下に僅かに摘み出すものがある。頸部は「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。1845～1848は高坏で。脚部が発達しているものやそのまま終わらせるものがある。甕・高坏に中期の遺物が認められる。1849～1854は器台で、軸部に長方形・円形の透かしを持つ。1855は鉢で、口縁部を「く」の字に屈曲させる。1856は土師質甕、1857は須恵器坏身である。坏身は立ち上がりが短く、内傾する。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、７世紀中葉と考えられる。1858～1862は床面直上出土遺物で、壺・甕・器台・鉢・高坏が出土している。1863はＳＰ1283から出土した須恵器坏蓋で、天井部と口縁部の境に僅かに段を持つ。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ10型式併行期に対



第121図　SH41平・断面図

応し、6世紀中葉と考えられる。1864はＳＰ1293から出土した須恵器坏身で、内傾する短い立ち上がりを持つ。時期は陶邑編年（田辺1981）ＴＫ217型式併行期に対応し、7世紀中葉と考えられる。

時期は、竪穴住居内堆積土のもっとも新しい遺物から7世紀中葉、また主柱穴出土遺物から見ると6～7世紀頃に当たるが、この竪穴住居を切っているＳＨ37・38が6世紀中葉であることから、この竪穴住居跡を7世紀にするのには無理がある。竪穴住居跡と主柱穴の時期が一致しないとして、ここでは堆積土出土遺物・床面直上出土遺物の時期、弥生時代後期中葉としたい。



第122図　SH41出土遺物実測図

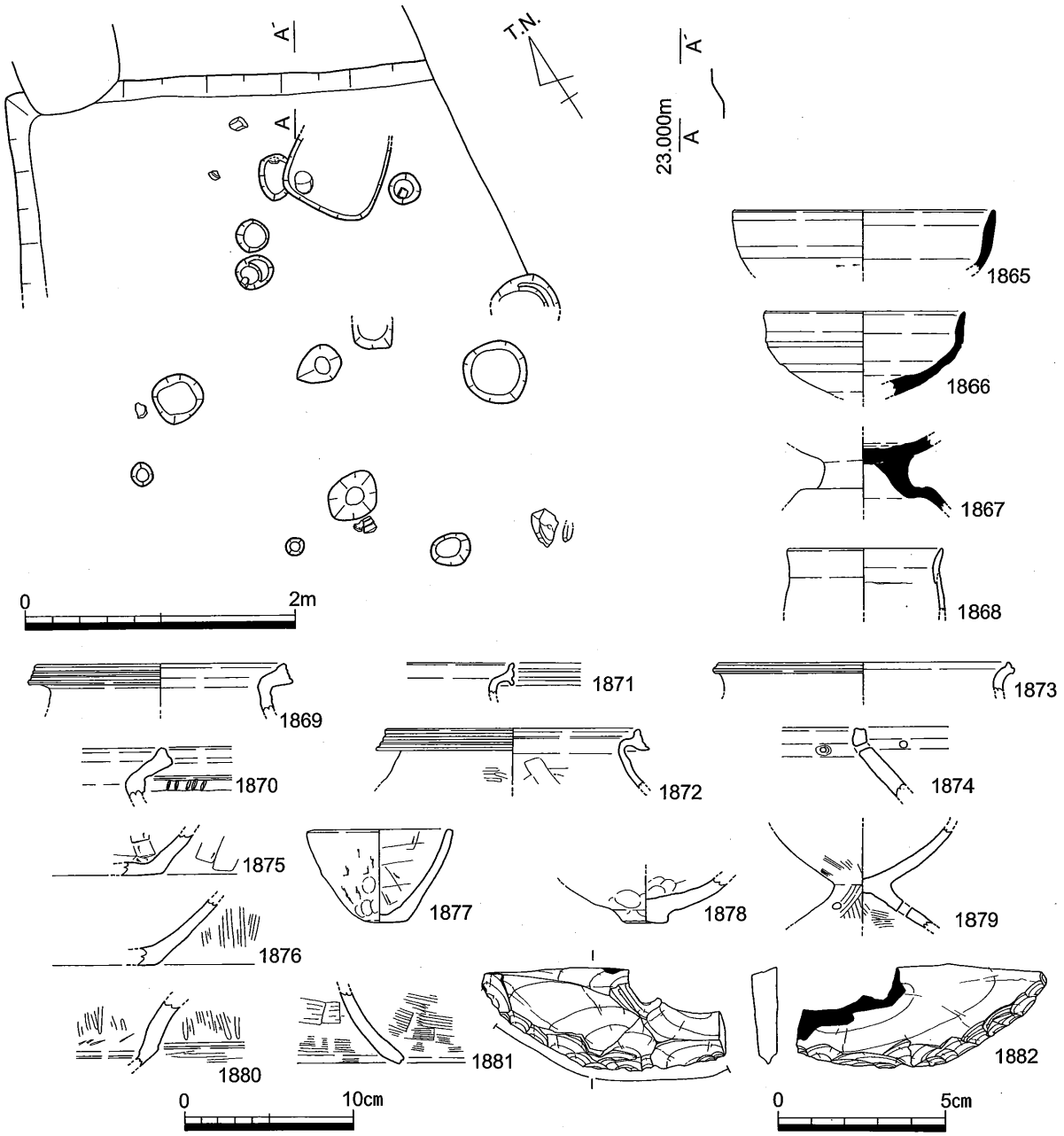
ＳＨ42

ＳＨ42は第Ⅱ調査区中央部、標高22.78mで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の東側をＳＨ41に、南西側が調査区外に延びている。竪穴住居跡の平面形態は、残存している北西隅から方形を呈していることが解り、規模は北西－南東方向北側残存長が約3.14m、北東－南西方向西側残存長が約1.54m、検出面からの深さ約0.10mを測る。北東－南西方向の主軸は真北より約29.0°東を取る。残存する部分が少なく、竪穴住居内の構造がわかる遺構は検出していない。

竪穴住居内からは弥生土器・須恵器が出土している。

1865～1867は須恵器高坏である。1867は脚が外方、更に下方に屈曲する。1869～1881は弥生土器で、1869は壺、1870～1873は甕、1874は無頸壺、1877・1878は鉢、1879は脚付鉢、1880・1881は高坏である。1870は頸部屈曲部外面に刻み目を持つ突帯を巡らしている。甕の口縁端部は上下に拡張し、外面に2～3条の沈線を持つ。1882はサヌカイト製のスクレイパーである。

時期は、弥生時代後期中葉の竪穴住居跡ＳＨ41に切られていること、堆積土出土遺物から弥生時代中期末～後期初頭としたい。



第123図　SH42平・断面図，出土遺物実測図

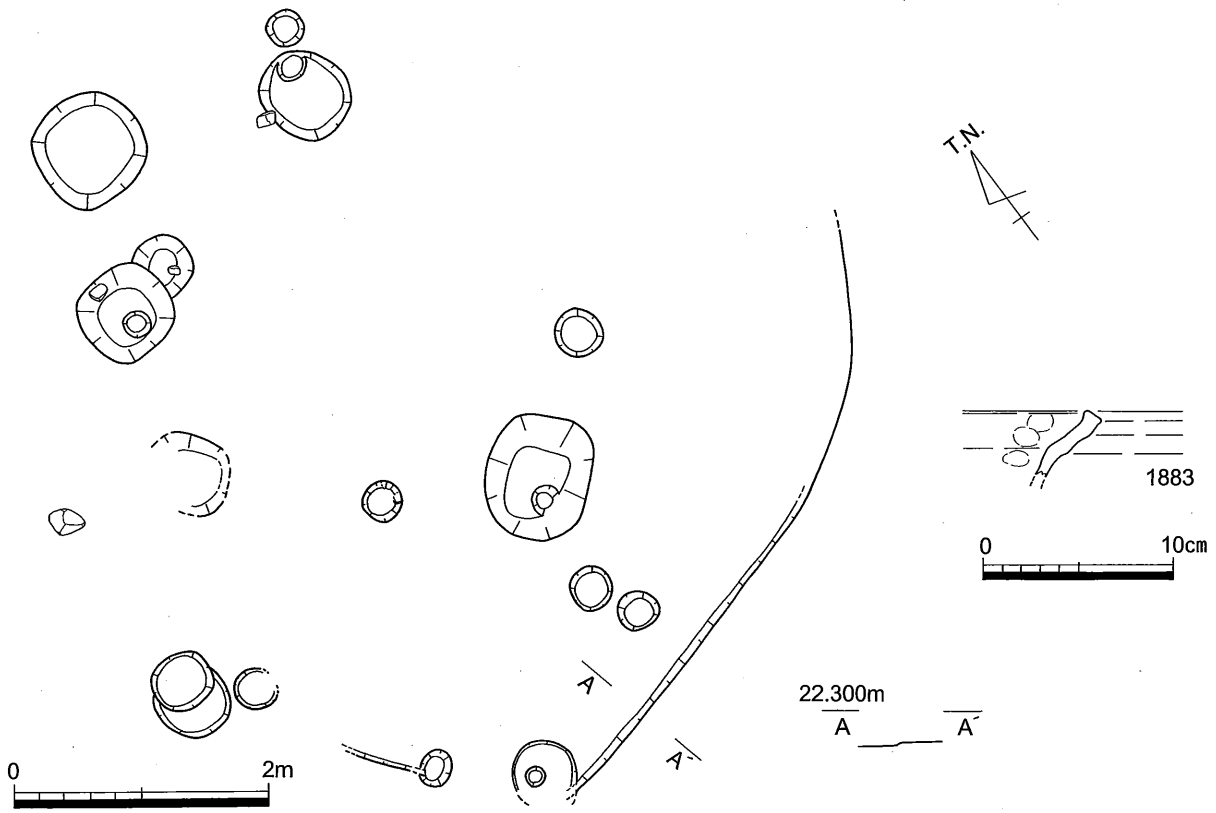
ＳＨ43

ＳＨ43は第Ⅱ調査区北部、標高22.79ｍで検出した竪穴住居跡である。かなり全体的に削平を受けており、更に竪穴住居の北側をＳＨ37～39に切られているが、残存している部分から平面形態は多角形あるいは円形を呈し、推定で直径約5.84ｍ、検出面からの深さは、約0.04ｍを測る。内部構造は不明である。

竪穴住居内堆積土から弥生土器が出土している。

1883は壺で、口縁部は若干屈曲するものの直線的に外上方に延びる。口縁端部は内方に短く摘み出す。

時期は、竪穴住居内堆積土から出土した遺物から弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。



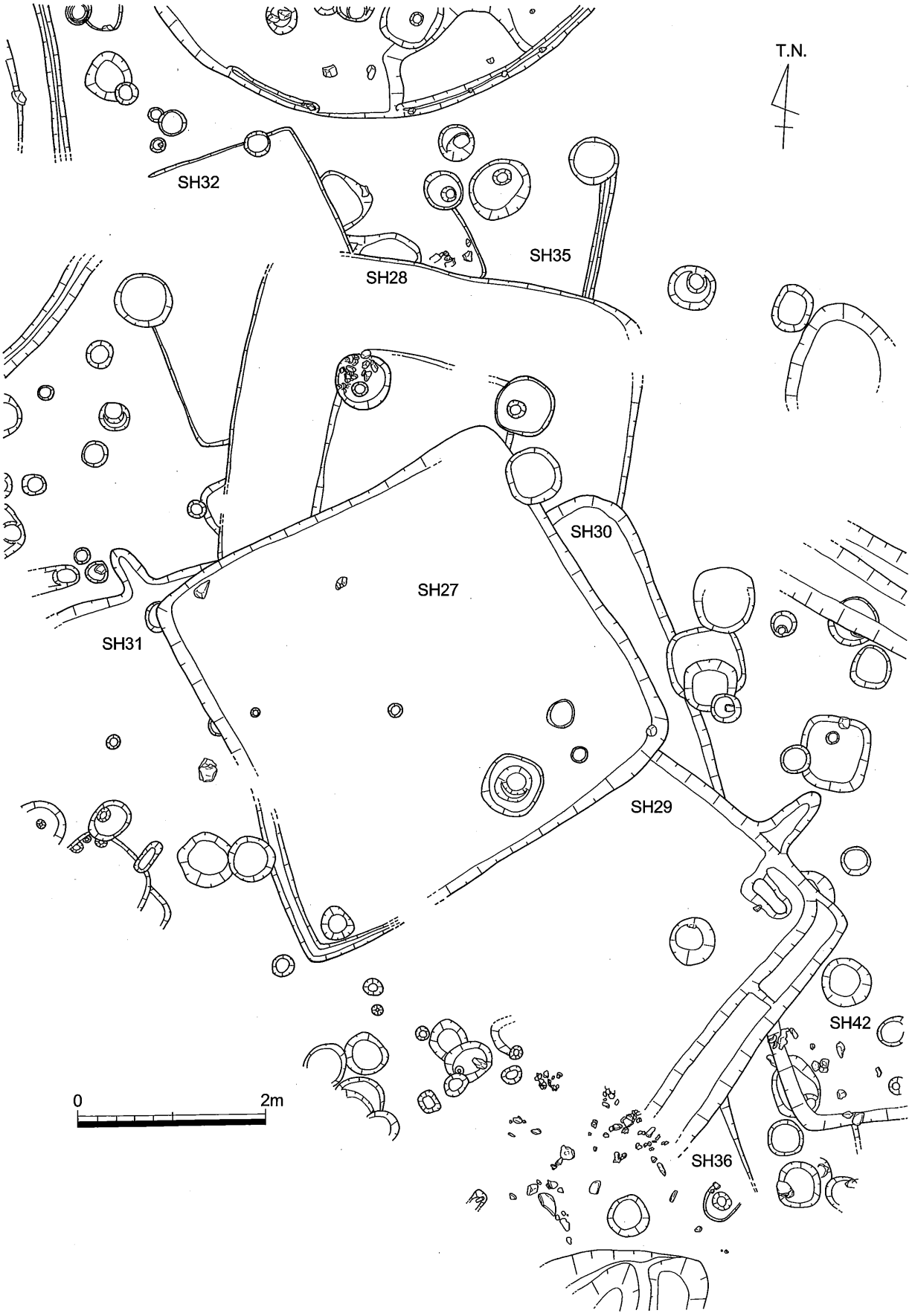
第124図　SH43平・断面図，出土遺物実測図

ＳＨ44

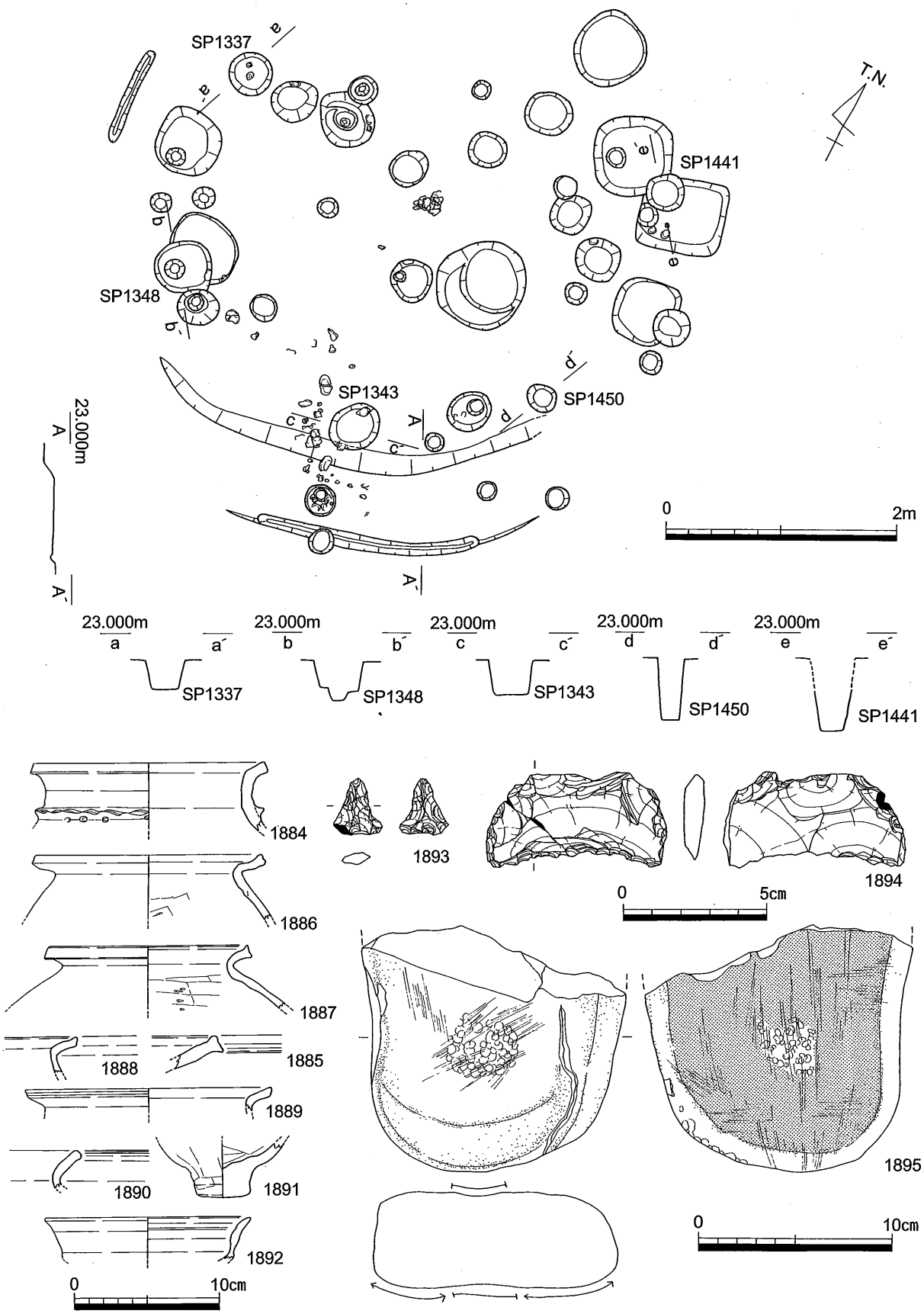
ＳＨ44は第Ⅱ調査区中央部、標高22.86ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けており、壁溝及びベッド状遺構を部分的に残すのみであるが、その残存する壁溝・ベッド状遺構の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は推定直径約5.6ｍ、検出面からの深さは約0.08ｍを測る。竪穴住居内では壁溝、ベッド状遺構、主柱穴、ほぼ中央部で焼土・炭層を検出している。壁溝は南部と西部の一部で検出している。規模は幅10～12㎝、深さ約5.0㎝を測る。ベッド状遺構は南側部分で検出している。幅約0.6ｍで、約3.5ｍの長さで検出している。床面との高低差は約0.1ｍとしっかり残っている。主柱穴は北側の１穴を確認していないが、６穴と考えられ、内５穴を検出している。平面形態は全て円形を呈し、規模は0.25～0.5ｍ、深さ0.25～0.55ｍを測る。この内ＳＰ1348には柱痕の痕跡が確認でき、直径約0.17ｍを測る。ほぼ中央部には焼土が約0.35ｍの範囲で、それを覆うように南東側に炭層が約1.5ｍの範囲に広がっている。明確な土坑（炉）は検出していない。また、床面直上・ベッド状遺構上面から遺物が出土している。

遺物は竪穴住居内堆積土・床面直上・主柱穴から遺物が出土している。

1884～1895 は竪穴住居内堆積土から出土した遺物である。1884・1885 は壺で、1884 は頸部が垂直に延び、口縁部を緩やかに外反させ、端部はそのまま終わらせる。1885 は頸部から口縁部にかけて朝顔形に広がる壺で、端部を上下に僅かに摘み出す。1886～1890 は甕で、頸部を「く」の字に屈曲させ、口縁端部を僅かに摘み出す。頸部の屈曲部内面は緩やかに屈曲し、明瞭な稜を持たない。1891 は底部に突出底を持つ鉢で、体部は内湾しながら延びる。1892 は高坏で、口縁部は外反



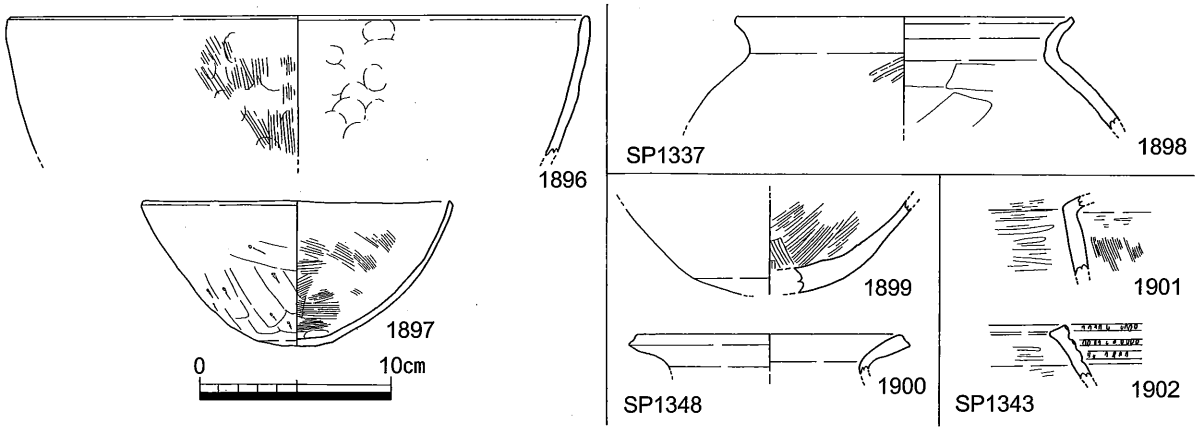
第125図　SH27・28・29・30・32・36位置関係図



第126図　SH44平・断面図，出土遺物実測図①

気味に延び、内面に退化凹線が認められる。1893はサヌカイト製の石鏃、1894はサヌカイト製の石鎌、1895は砂岩製の台石である。1896・1897は床面直上から出土した遺物である。1896は口径約30.2cmの大型の鉢で、内湾気味の体部から口縁部になり、そのまま終わらせる。1897は口径約16.0cmの中型の鉢で、底部に丸底状の平底を持ち、体部は内湾しながら、口縁端部に至る。1898～1902は主柱穴出土遺物である。1898はＳＰ1337出土の甕である。頸部が「く」の字に屈曲し、口縁部は外反気味に外上方に延びる。口縁端部は上方に摘み上げる。1899・1900はＳＰ1348出土遺物である。1899は鉢の底部、1900は甕である。1901・1902はＳＰ1343出土遺物である。1901は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つ。1902は無頸壺で、外面に３条の退化凹線を持ち、凸部に刻み目を持つ。

時期は竪穴住居内堆積土・床面直上出土遺物から弥生時代後期前半～中葉と考えられる。



第127図　SH44出土遺物実測図②

ＳＨ45

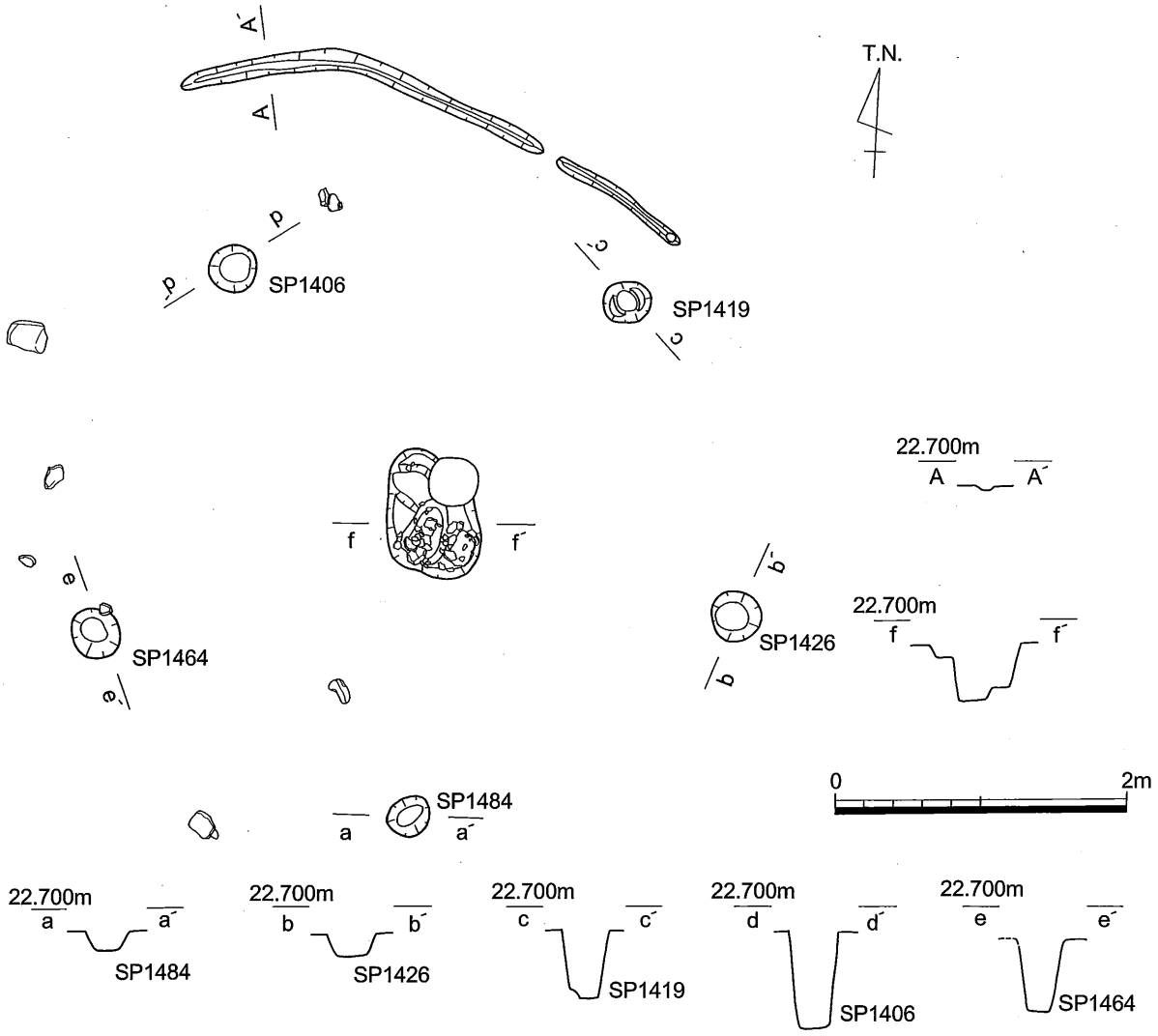
ＳＨ45は第Ⅱ調査区中央部、標高22.53ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けており、壁溝を部分的に残すのみであるが、その残存する壁溝の形態及び主柱穴から、平面形態は円形を呈し、規模は推定直径約6.6ｍを測る。竪穴住居内では壁溝、主柱穴、ほぼ中央部で中央土坑（炉）を検出している。壁溝は北側で検出しており、規模は幅13～15㎝、深さ約4.0㎝を測る。主柱穴は５穴で、平面形態は歪なものもあるが、概ね円形を呈し、直径0.29～0.33ｍ、深さ0.14～0.67を測る。ほぼ中央で検出した炉は、歪な楕円系を呈し、部分的に２段掘りとなり、深くなる。削平を受けているために、堆積土がなく、床面直上遺物もないが、炉から多量の遺物が出土している。

遺物は炉内及び主柱穴から出土している。

1903～1920は炉出土遺物である。1903～1907は壺で、底部に小さい平底を持ち、体部は算盤球状を呈する。体部最大径はやや上位にある。頸部は垂直に延び、口縁部はほぼ水平に緩やかに屈曲する。1903の口縁端部は僅かに上方に摘み上げ、外面と上面に半裁竹管文が施されている。1908～1912は甕で、底部はしっかりした平底を持ち、中央部が僅かに突出する。体部は卵形を呈し、体部最大径はやや上位にある。頸部は「く」の字に屈曲し、内面には明瞭な稜を持つ。口縁端部は僅かに上方に摘み上げる。1913～1916は鉢で、底部に脚を持つものがある。口径が11㎝の小型のものと25㎝の大型のものがある。内湾しながら延び、口縁端部外面を僅かに肥厚させる。1917・1918は高坏、1919は鉄製品、1920は砂岩製の砥石・台石である。鉄製品は鏃の茎の部分と考えら

れる。1921～1923は主柱穴出土遺物である。1921は壺、1922・1923は甕である。

時期は炉出土遺物・主柱穴出土遺物から弥生時代後期前半～中葉と考えられる。

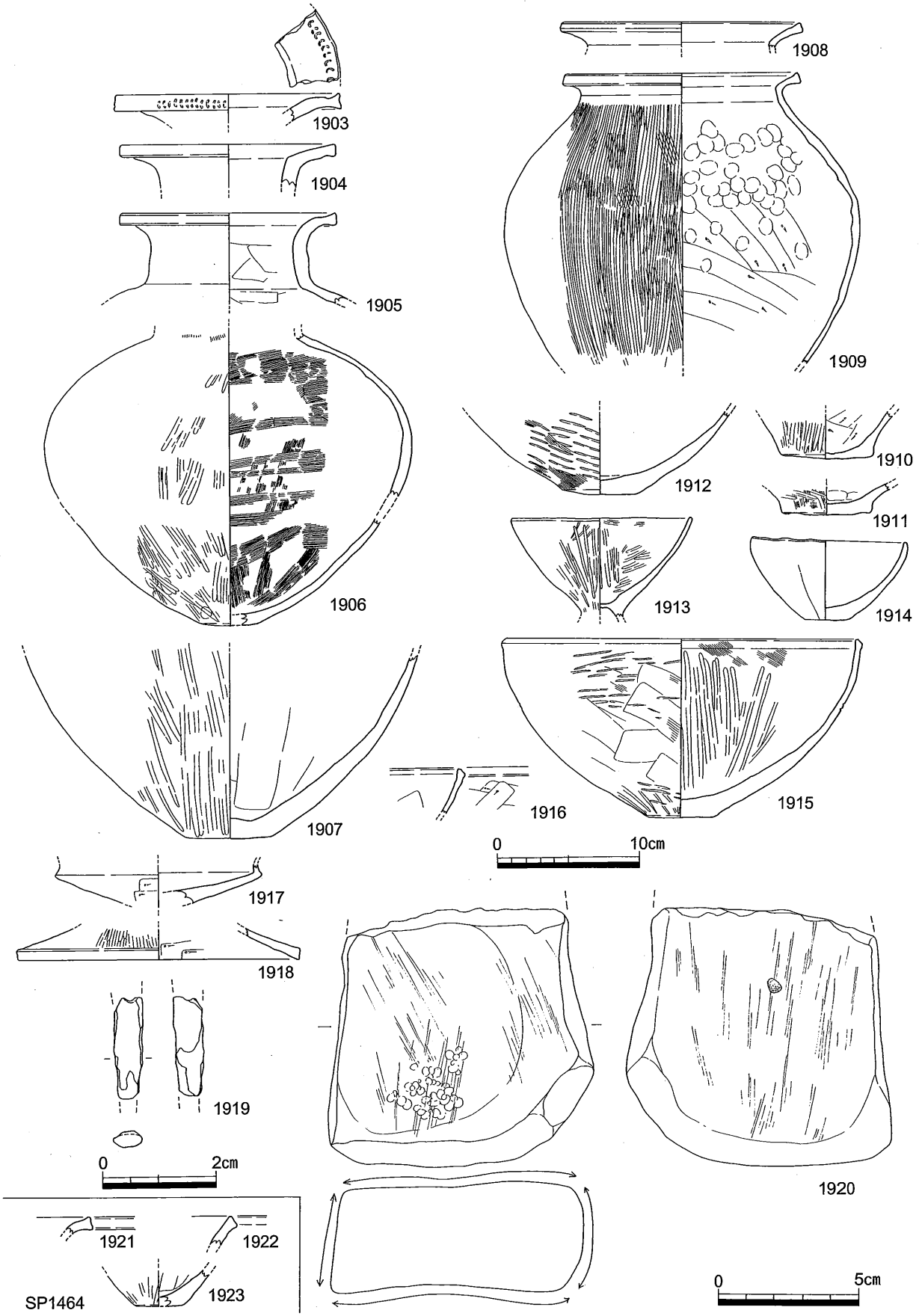


第128図　SH45平・断面図

SH46

SH46は第Ⅱ調査区中央部、標高22.83mで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けており、さらに竪穴住居の南西側が調査区外に延びているが、南東隅及び一辺が直線的であることから平面形態は、方形を呈するものと思われる。規模は北西－南東方向が約3.55m、北東－南西方向北側残存長が約2.2m、北東－南西方向南側残存長が約0.6mを測る。北西－南東方向の主軸は真北より約29.0°西を取る。残存する部分が少なく、竪穴住居内の構造がわかる遺構は検出していない。

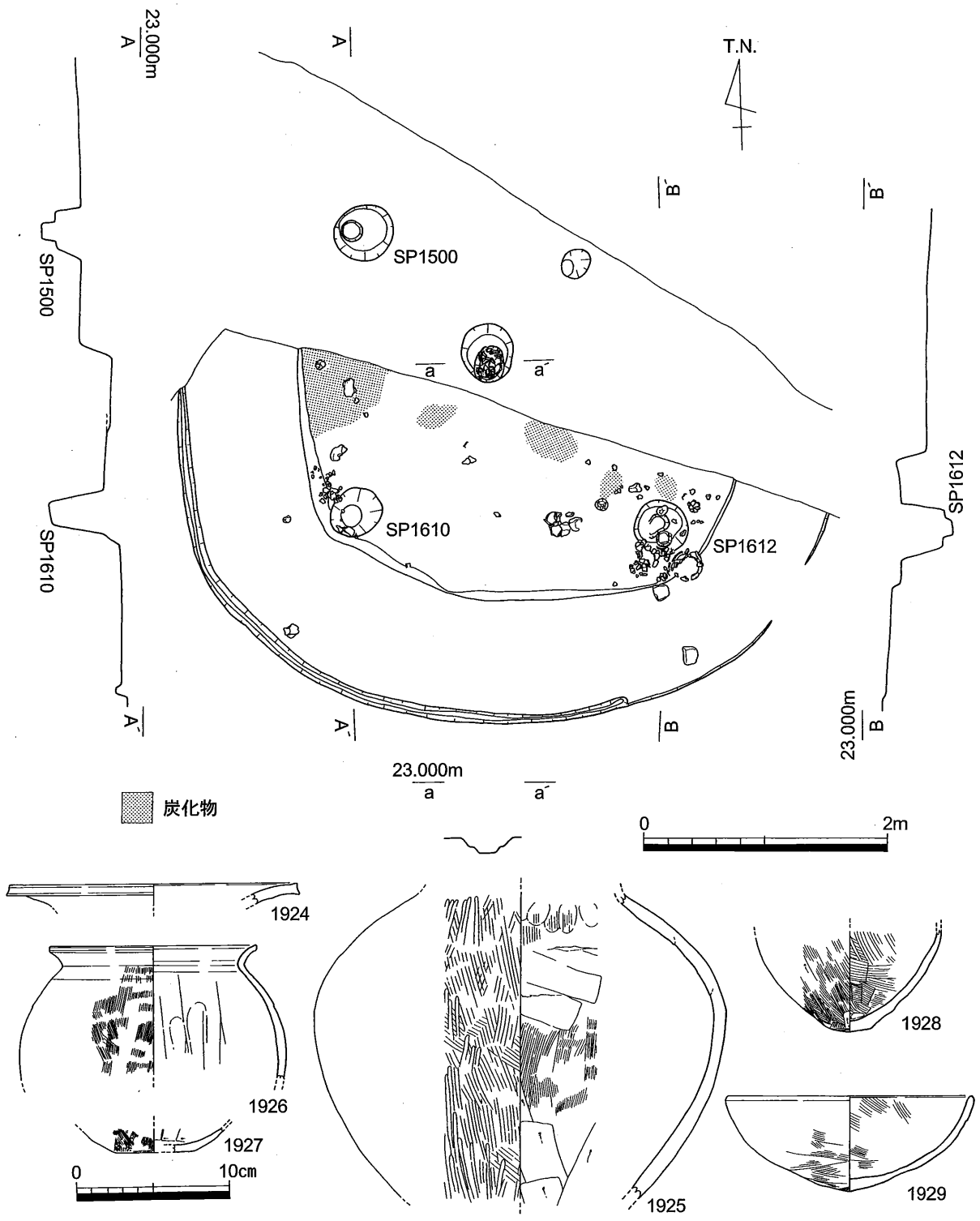
竪穴住居内から遺物が出土していないために時期は不明である。



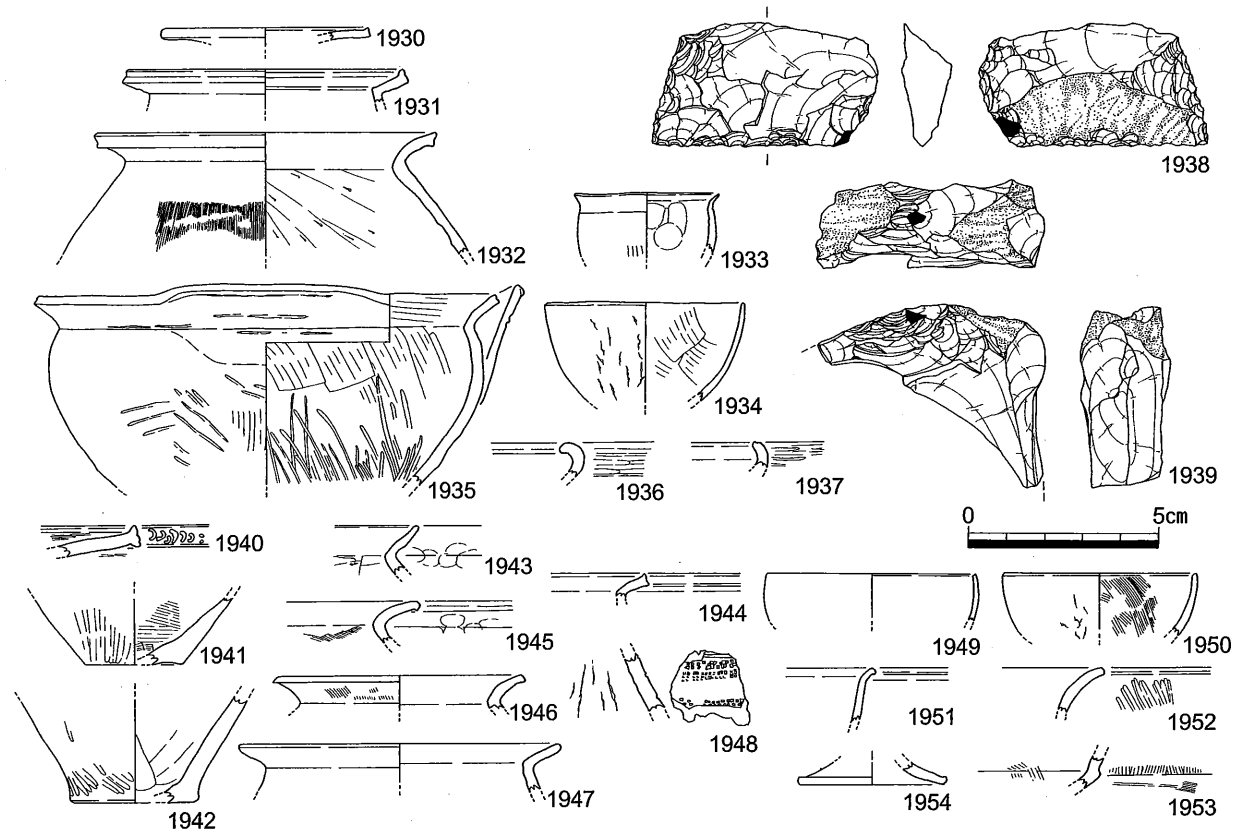
第129図　SH45出土遺物実測図

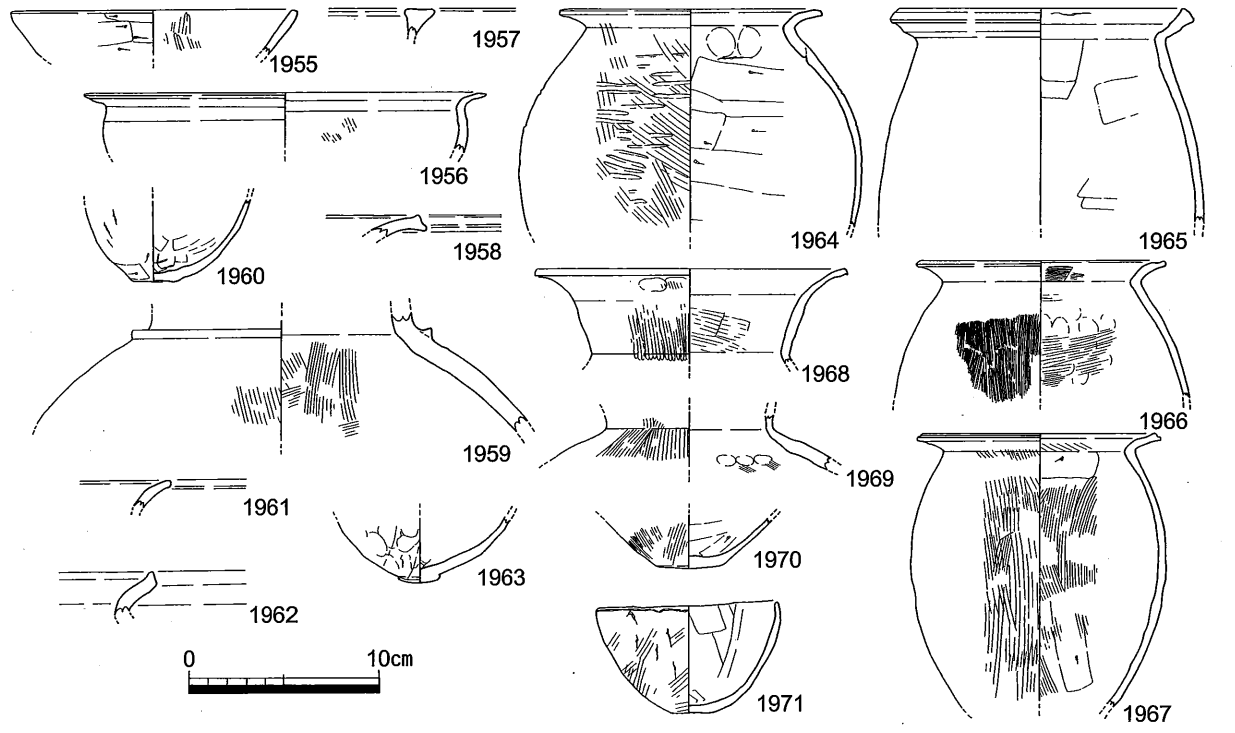
ＳＨ47

ＳＨ47は第Ⅱ調査区中央部、標高22.88ｍで検出した竪穴住居跡である。北半分がＳＲ05によって切られているが、南半部に残存する壁溝・ベッド状遺構の形態から、平面形態は円形あるいは多角形を呈し、規模は推定直径約5.62ｍ、検出面からの深さは約0.16ｍを測る。竪穴住居内では壁溝、ベッド状遺構、主柱穴、ほぼ中央部で炉、焼土・炭を検出している。壁溝は南部から西部の一部で



第130図　SH47平・断面図，出土遺物実測図①





第131図　SH47出土遺物実測図②

検出している。規模は幅0.6～10cm、深さ約4.0cmを測る。ベッド状遺構も壁溝・掘り方と同じ部分で検出している。規模は幅約1.0mで、ベッド状遺構の内側の形態は方形を呈するが、その一辺はやや膨らんでいる。約3.5mの長さで検出している。床面との高低差は約0.1mとしっかり残っている。主柱穴はベッド状遺構の内側屈曲部に4穴あったと考えられるが、北東部の柱穴はＳＲ05によって削平を受けており、確認していない。検出した主柱穴の平面形態は全て円形を呈し、規模は0.44～0.48m、深さ0.42～0.46mを測る。この内ＳＰ474には柱痕の痕跡が確認でき、直径約0.17mを測る。ほぼ中央部で炉を検出している。平面形態は歪な円形を呈し、やや南寄りで2段掘りとなる。その深い部分で土器が出土している。炭はベッド状内側の全域で、床面直上に部分的に5箇所検出している。焼土はその内の西側の炭の下位から出土している。

遺物は竪穴住居内堆積土・ベッド状遺構内堆積土・床面直上・炉から出土している。

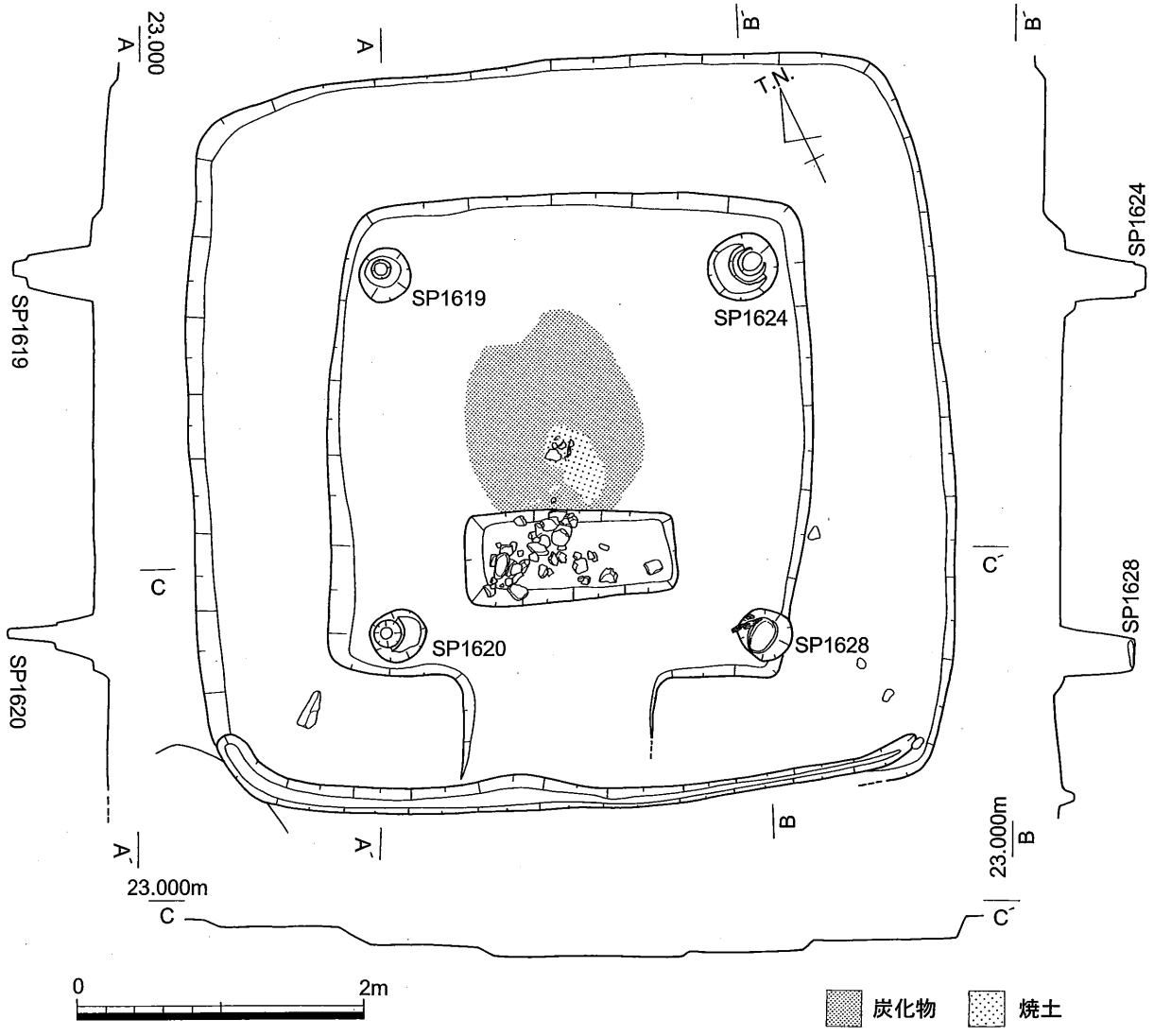
1930～1939は竪穴住居内堆積土から出土した遺物である。1930～1932は甕で、頸部を「く」の字に屈曲させ、口縁端部を僅かに上方に摘み出す。頸部の屈曲部内面は緩やかに屈曲し、明瞭な稜を持つ。1933～1935は鉢で、口縁部を屈曲させるものとそのまま終わらせるものがある。1936・1937は高坏である。口縁部が「C」字形口縁を持つものである。1938はサヌカイト製のスクレイパー、1939がサヌカイトの核である。1940～1954はベッド状遺構内堆積土から出土した遺物である。1940は壺で、口縁端部を拡張し、外面に半裁竹管文が施されている。1943～1948は甕で、頸部が「く」の字に屈曲し、内面にやわらかい稜を持つ。口縁端部はほとんど拡張せず、そのまま終わらせる。1948は甕の体部で、櫛先による刺突文が施されている。1949～1951は鉢で、口縁部が屈曲するものと内湾しながらそのまま終わらせるものがある。1952～1954は高坏である。1955～1971は西側で検出した炭の部分の床面直上から出土した遺物である。1955・1956は鉢で、1956は口縁部が緩やかに「S」字状に屈曲するものである。1958～1960はＳＰ1610周囲の床面直上から出土した遺物である。1958・1959が壺、1960が鉢である。1959の壺は頸部屈曲部外面に断面三角形の突帯を巡らす。1961～1963はほぼ中央部床面直上から出土した遺物である。1961・1962が甕、1963が鉢である。鉢の底部は突出底を呈する。1964～1971はＳＰ1612周囲の床面直上から出土した遺物である。1964～1967が甕、1968・1969が壺、1971が鉢である。1965・1967の甕の体部はやや胴長を呈し、頸部は「く」の字に屈曲し、内面に緩やかな稜を持つ。口縁端部はそのまま終わらせる。壺は頸部から口縁部にかけて朝顔形に開き、口縁端部はそのまま終わらせる。鉢は小型のもので、口径は約10cmを測る。1924～1929は炉から出土した遺物である。1924・1925は壺で、1924は頸部から口縁部にかけて朝顔形に広がり、端部をそのまま終わらせる。２の壺体部は、体部最大径を中央よりやや上位に持つ。1926・1927は甕で、底部に平底を持つ。頸部は緩やかに「く」の字に屈曲し、口縁部は外反気味に延びる。口縁端部はそのまま終わらせる。1928・1929は鉢で、口径が約16.0cmの中型の鉢である。体部から口縁部にかけて内湾しながら延び、端部はそのまま終わらせる。

時期は竪穴住居内堆積土・床面直上・炉・主柱穴出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

ＳＨ48

ＳＨ48は第Ⅱ調査区中央部、標高22.88mで検出した竪穴住居跡である。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約5.20m、西－東方向が約5.30m、検出面からの深さは約0.28mを測る。北－南方向の主軸は真北より約23.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土が堆積する。

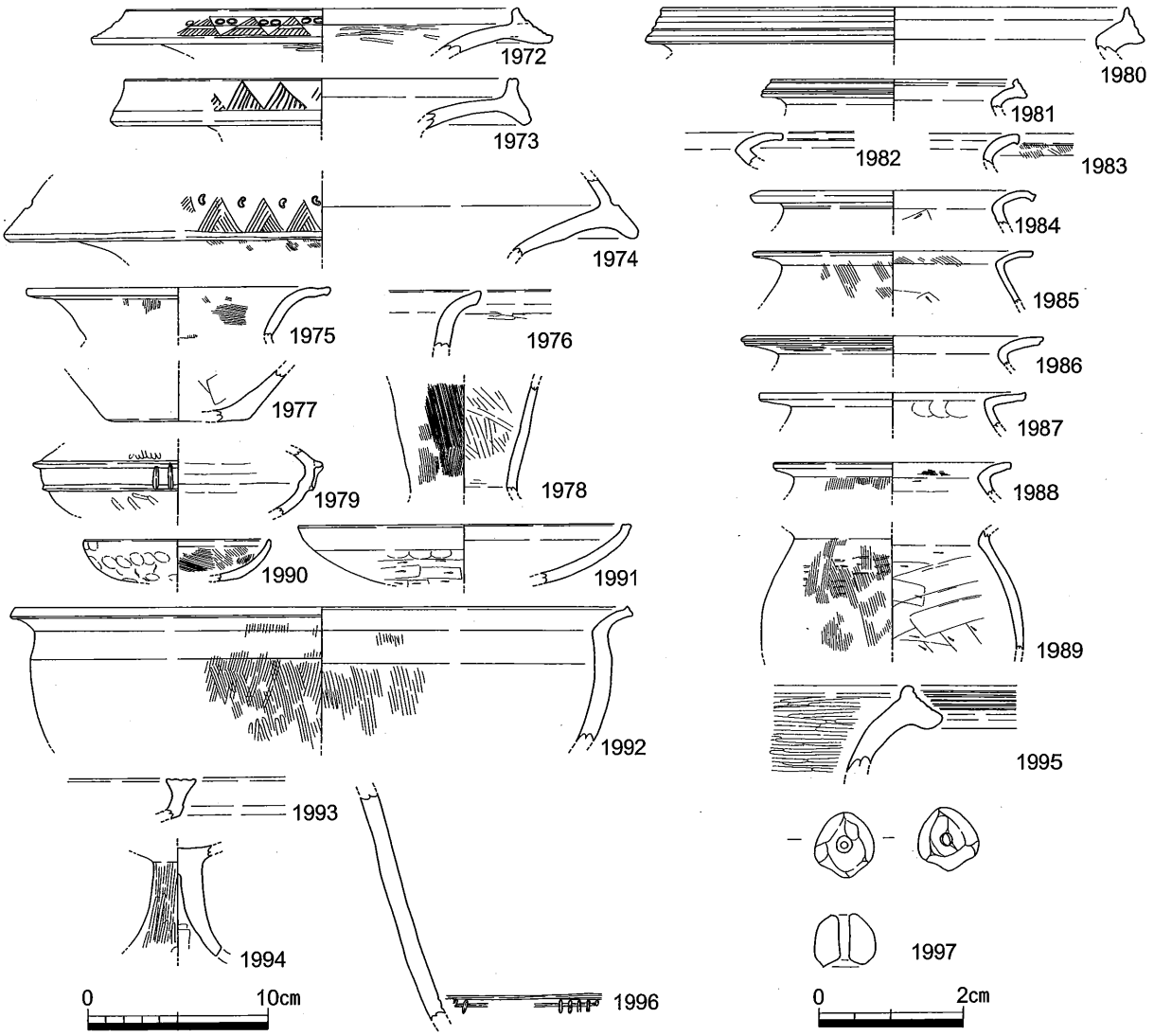
竪穴住居内ではほぼ中央を中心として、東西約1.3m、南北約1.4mの範囲に焼土・炭化物が約2～5cmの厚さで堆積する。また近接して南側には平面形態が長方形を呈し、規模は長辺約1.48m、南北約0.64mで、断面隅丸の逆台形状を呈した土坑を検出した。この土坑には北側に堆積する炭化物層が連続して土坑北側部分を中心に堆積する。また土坑からは土器片と10cm程度の川原石が出土している。この焼土・炭の範囲と土坑はこの竪穴住居の炉と考えられ、北側が地床炉、南側の土坑が炭化物・置き火の保管場所と考えられる。この土坑は「10型中央土坑」と呼ばれるもので、松本分類の4類に相当し、弥生時代後期末～終末期に確認できるとしている（松本2000）。竪穴住居内の周りにはベッド状遺構を確認した。ベッド状遺構は幅0.8～0.9mで、南側の中央部が約1.3mの幅で切れている。ベッド状遺構内部との高低差は8.0～10.0cmを測る。主柱穴は4穴で、ちょうどベッド状遺構の内側隅部分で検出した。主柱穴の平面形態は円形を呈し、規模は直径34～49cm、深さ53～70cmを測る。また、柱穴の断面から柱痕の痕跡が確認でき、直径12cmの柱材が使用されたものと考えられる。竪穴住居の南側の壁際で、壁溝を検出した。検出面の幅は10～18cm、深さ約8.0cmを測る。



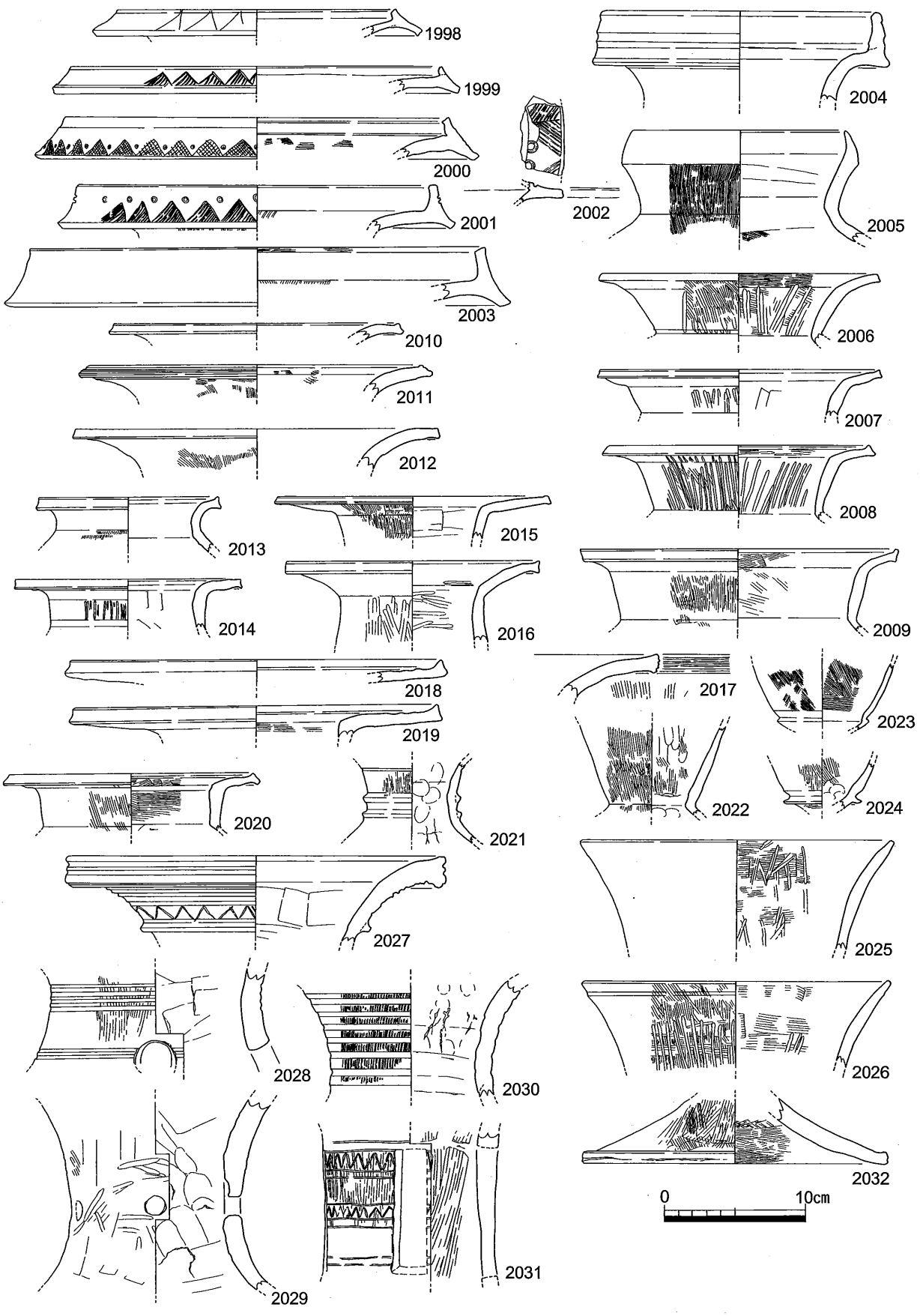
第132図　SH48平・断面図

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土上位、下位、最下位、ベッド状遺構内、炉内出土遺物、柱穴出土遺物に分けられる。

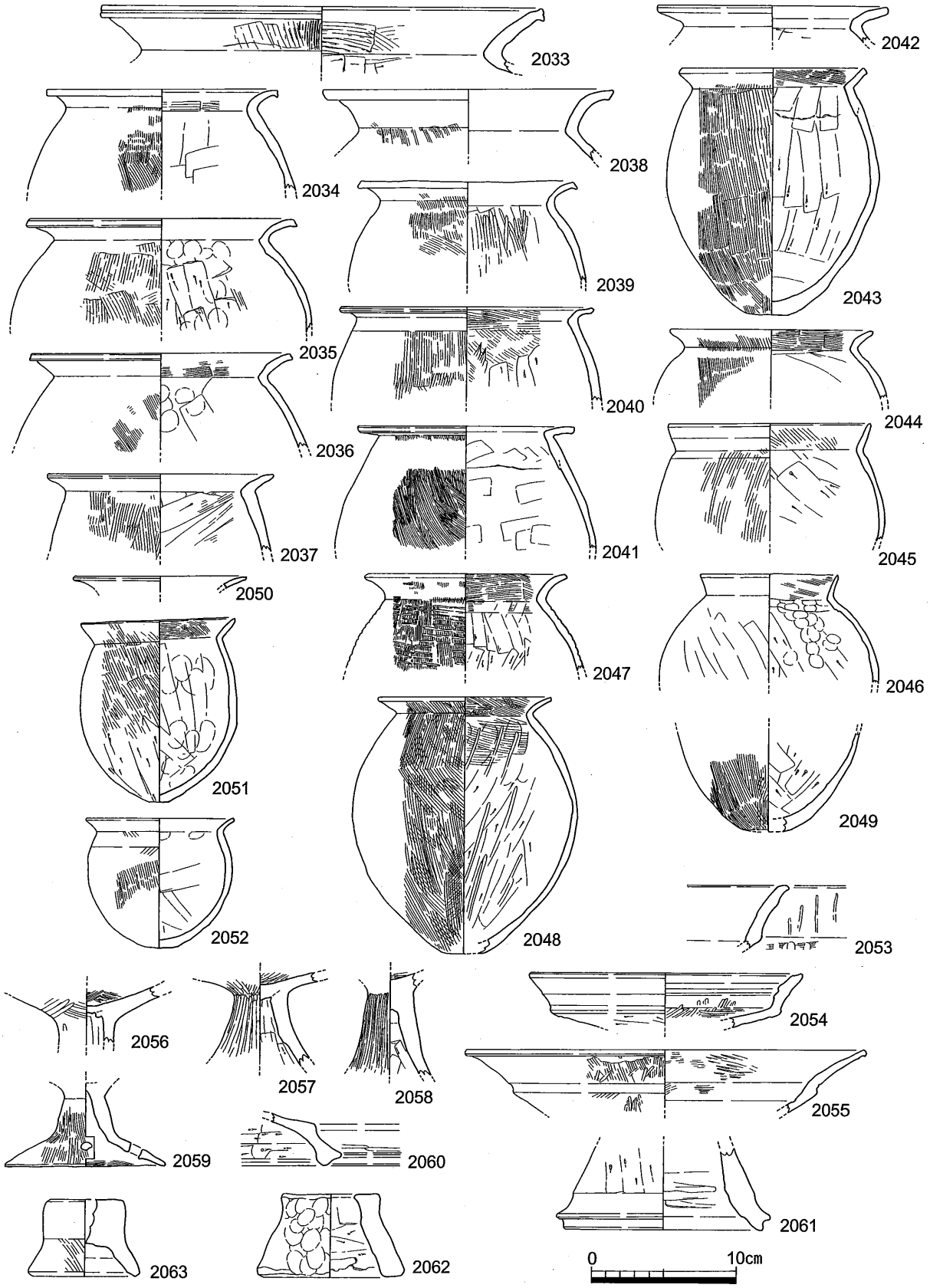
1972～1997は堆積土上位から出土した遺物で、壺・甕・鉢・高坏・器台が出土している。1972～1979は壺で、口縁端部を上下に拡張し、外面に鋸歯文・竹管文を持つ。1975は頸部から口縁部にかけて朝顔形に開くもので、端部はそのまま終わらせる。1978は細頸壺で、頸部が直線的に外上方に延びる。1979は算盤玉状の体部外面に２条の突帯を巡らし、その間に棒状浮文を貼り付けてい1980～1989は甕で、1980のように口縁端部を拡張し、外面に３条の沈線を持つものもあるが、ほとんどは口縁端部をそのまま終わらせるものである。1990は皿で、外面に指頭痕が顕著に認められる。1991・1992は鉢、1993・1994は高坏、1995は器台である。1996は弥生時代前期の壺で、体部に沈線が認められる。1997は瑪瑙製の玉である。1998～2094は堆積土下位から出土した遺物で、壺・器台・甕・高坏・支脚・鉢・石製品が出土している。1998～2026は壺で、頸部は直線的に上方に延び、口縁部をほぼ水平に屈曲させるもの、頸部が直線的に外上方に延び、口縁部をほぼ水平に屈曲させるもの、頸部から口縁部にかけて朝顔形に開くものの３種類が確認できる。口縁部を屈曲させるものも2019のように明瞭な稜を持ち、屈曲させるものと2014のように緩やかに屈曲させるものがある。



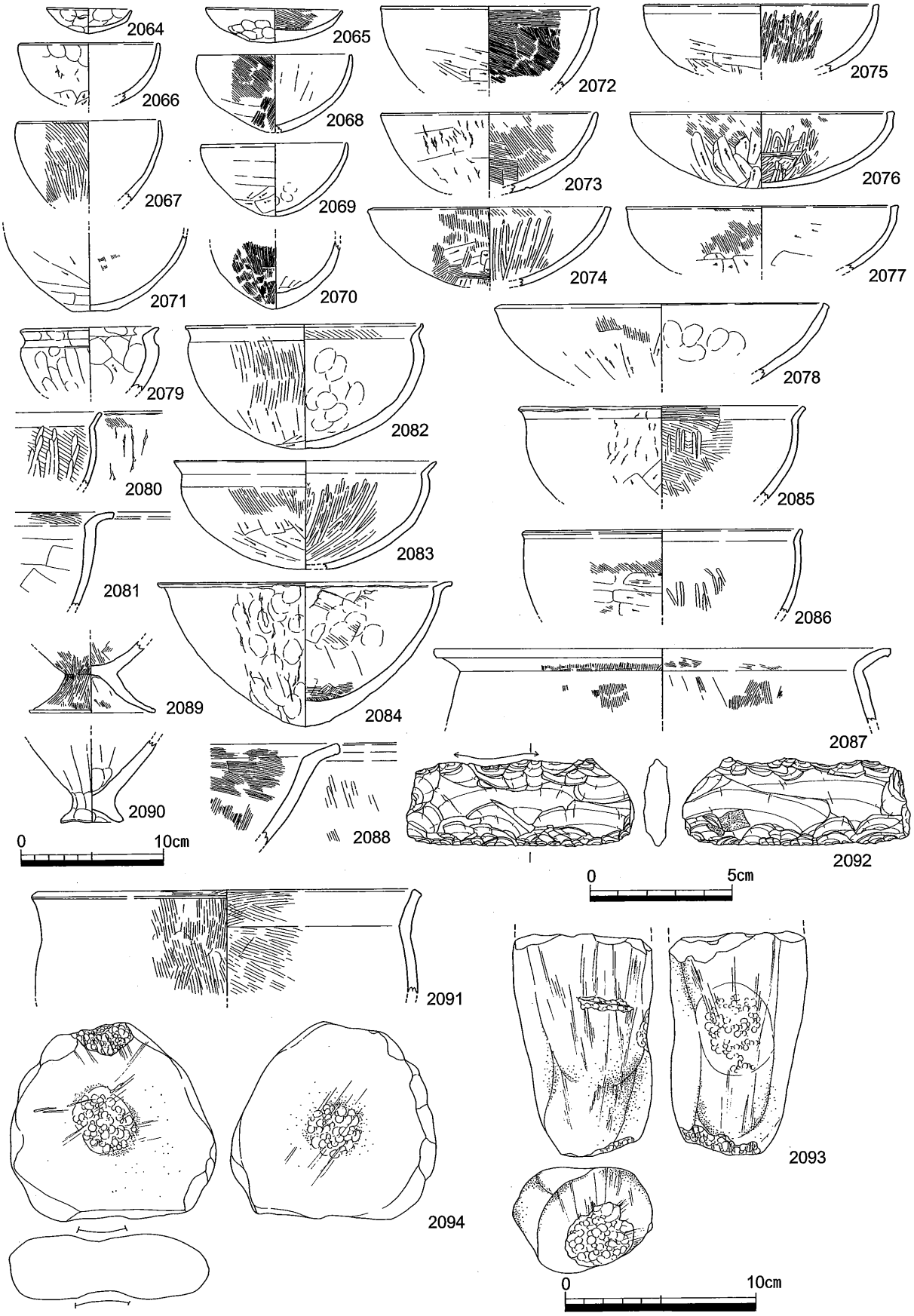
第133図　SH48出土遺物実測図①



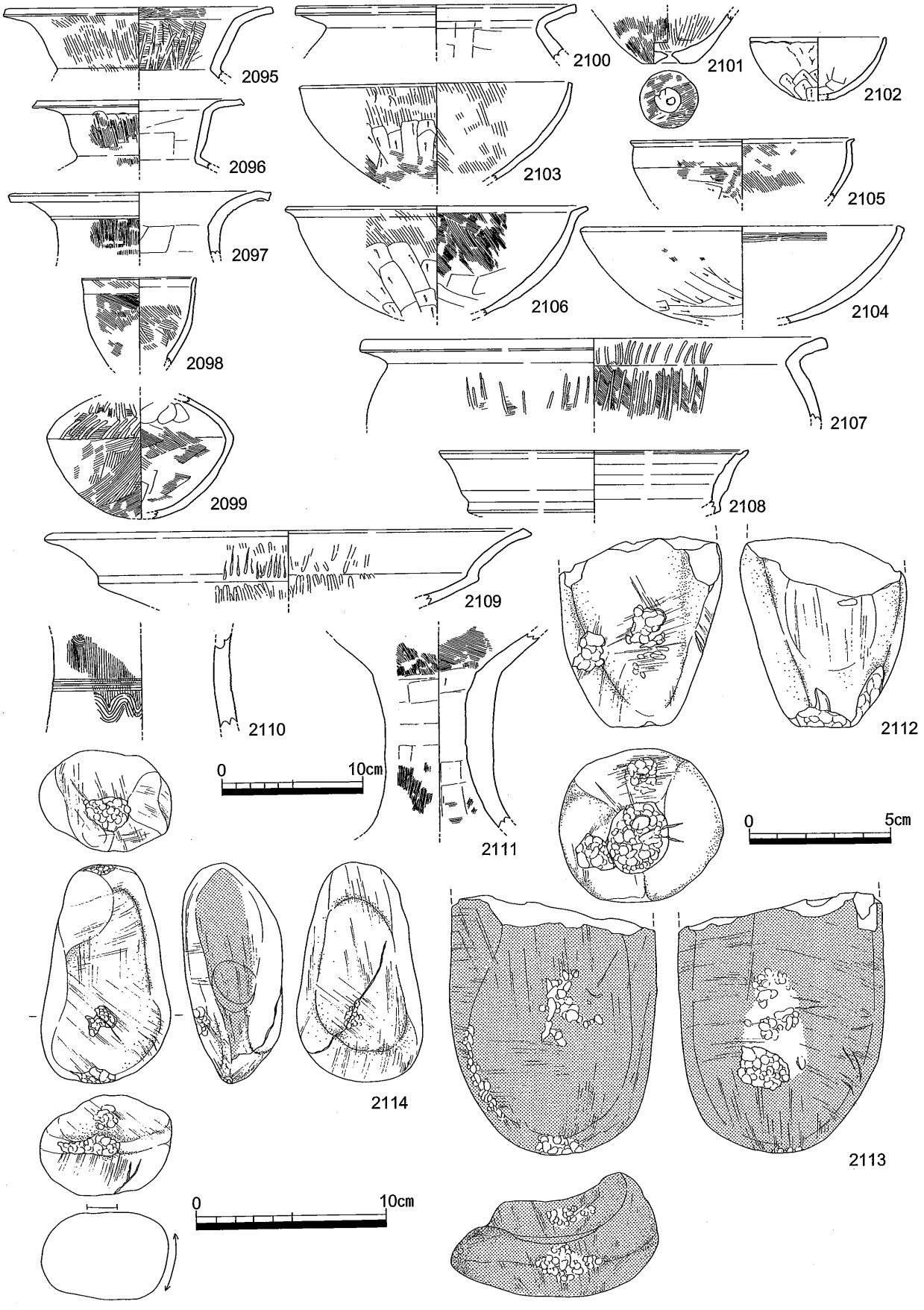
第134図　SH48出土遺物実測図②



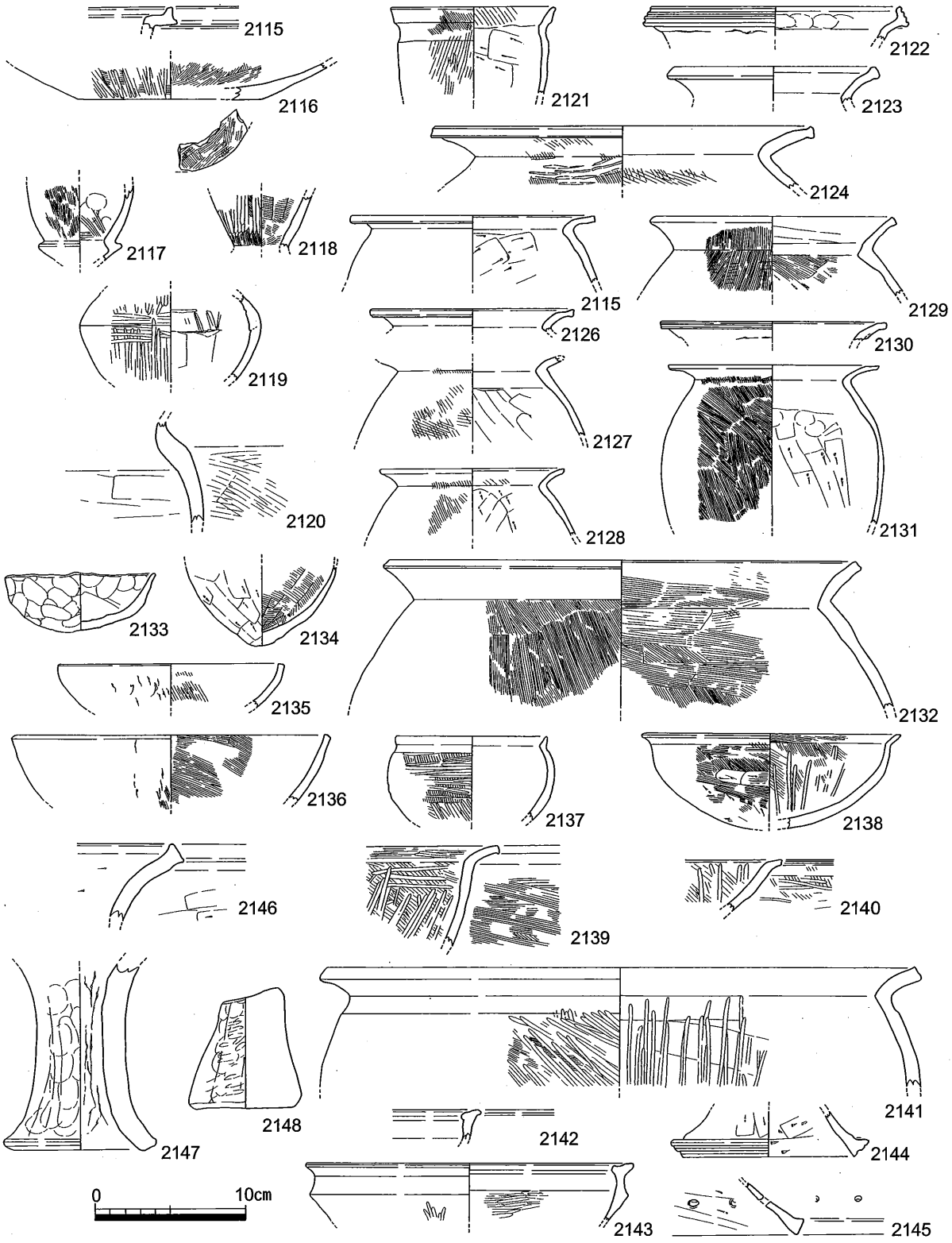
第135図　SH48出土遺物実測図③



第136図　SH48出土遺物実測図④

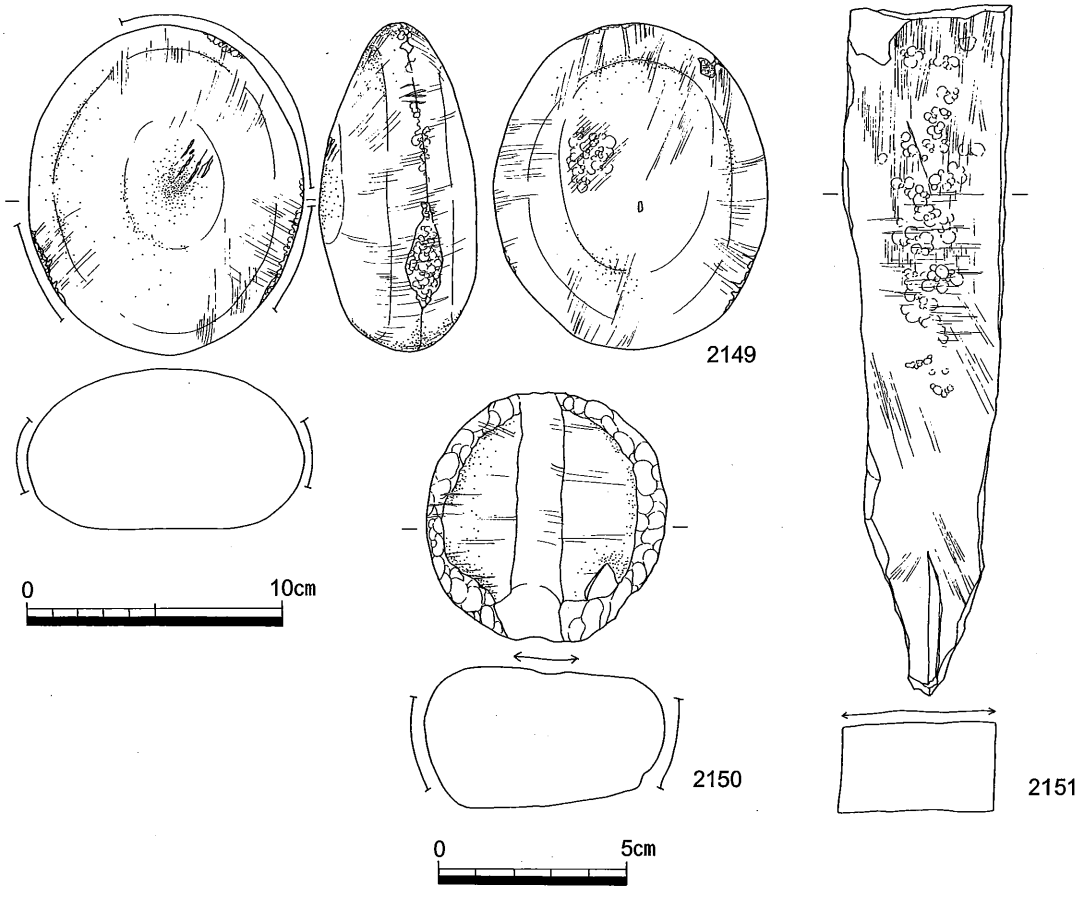


第137図　SH48出土遺物実測図⑤

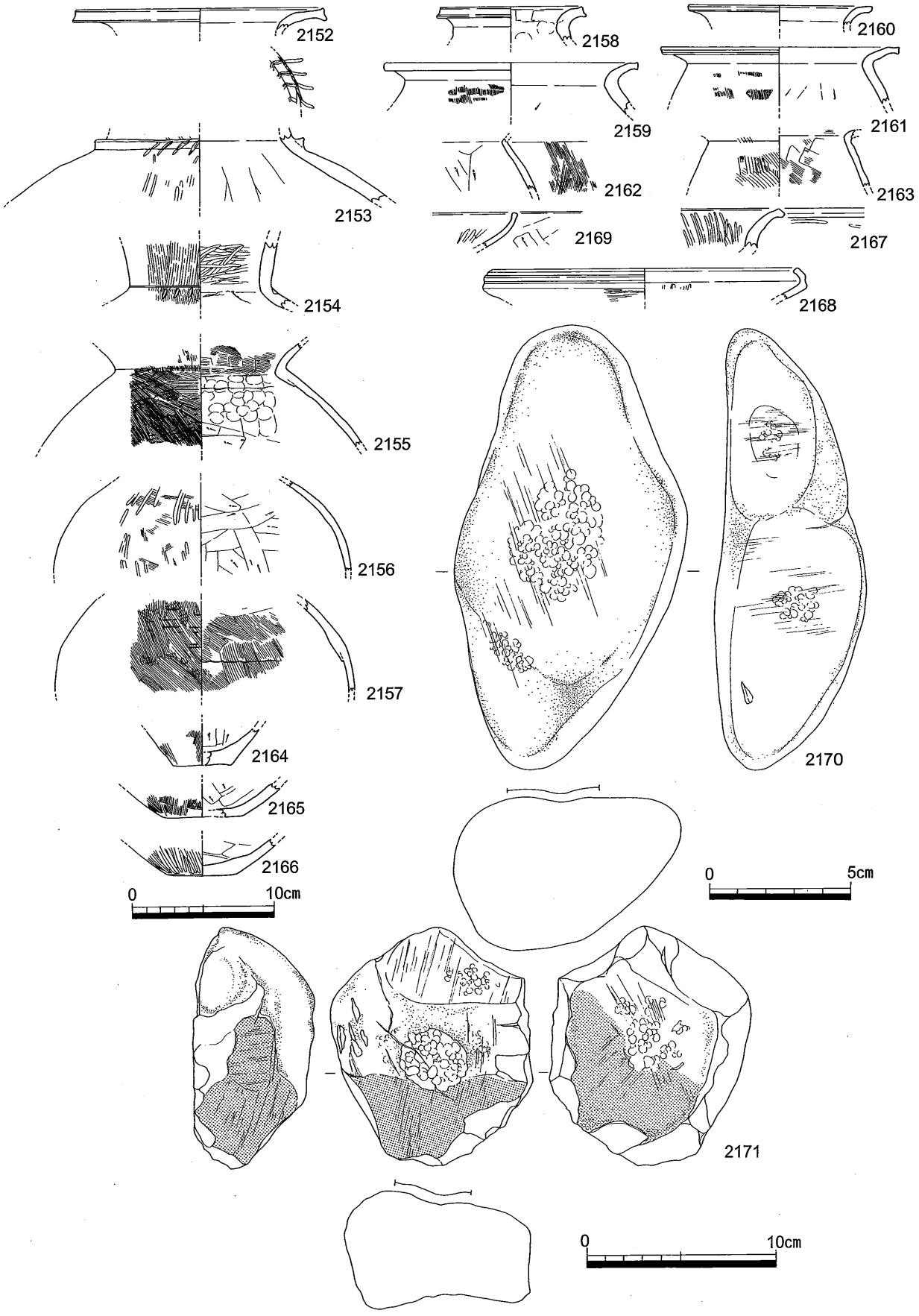


第138図　SH48出土遺物実測図⑥

口縁端部は上下に拡張するものとそのまま終わらせるものがある。口縁部を拡張するものはそのほとんどが外面に鋸歯文を持っている。それ以外はほとんどが口縁端部をそのまま終わらせるか、上下に僅かに摘み出す。2021は頸部外面に断面三角形の突帯を２条巡らす壺で、時期は弥生時代中期と考えられる。2023・2024は小型丸底壺で、2024は体部下位に突帯を巡らす。2025・2026は頸部から口縁部にかけて緩やかに外上方に延びるもので、古墳時代初頭の土師器壺である。2027～2032は器台である。軸部には円形・長方形の透かしがあり、沈線・鋸歯文が確認できる。2033～2052は甕で、底部には僅かに平底を持つ。体部は卵形を呈し、体部最大径はほぼ中位にある。頸部は「く」の字に屈曲し、屈曲部内面に明瞭な稜を持つものと緩やかに屈曲するものがある。口縁端部は拡張せず、そのまま終わらせる。2053～2061は高坏である。2056・2057には円盤充填の痕跡が認められ、2058は坏部底部に脚部を接合したものである。2060は脚部下位で下方に屈曲させるもので、弥生時代中期のものと考えられる。2062・2063は支脚である。2064・2065は皿で、体部外面に指頭痕が顕著に認められる。2066～2091は鉢で、口縁部が内湾しながらそのまま終わらせるものと口縁部を外方に「く」の字に屈曲させるものがある。口径は約10cm程度の小型のもの、口径20cm以内のもの、口径20cmを越えるものの３種類が確認できる。2089・2090は底部に脚あるいは台が付くものである。2092はサヌカイト製の石包丁、2093は砂岩製の叩き石（台石兼用）、2094は砂岩製の台石である。2095～2113は堆積土最下位から出土した遺物で、壺・甕・鉢・高坏・器台・石製品が出土している。2095～2099は壺で、頸部が上方に延びるものと外上方に延びるものがある。口縁端部はそのまま終



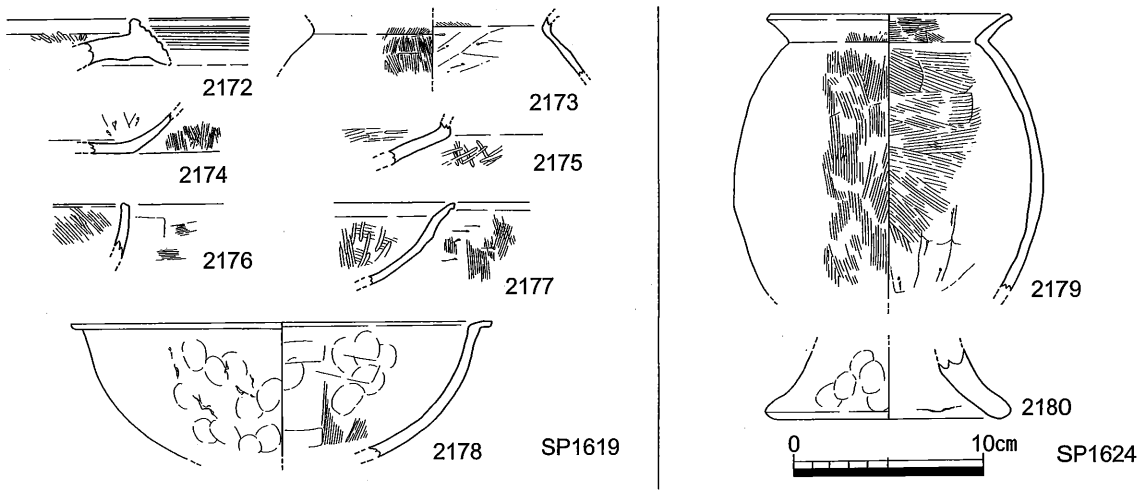
第139図　SH48出土遺物実測図⑦



第140図　SH48出土遺物実測図⑧

わらせる。2098と2099は同一個体と考えられ、体部は算盤球状を呈し、体部最大径はやや上位にある。頸部から口縁部にかけては、やや腰が張るように上方に延びる。2100は甕、2101は底部に穿孔が認められることから甑、2102～2107は鉢である。竪穴住居内堆積土下位出土遺物と同様に口縁部の形態が２種類、口径が大・中・小の３種類確認できる。2108・2109は高坏、2110・2111は器台である。2112～2114は砂岩製の叩き石（台石兼用）である。2115～2151はベッド状遺構内の堆積土から出土した遺物で、壺・甕・鉢・高坏・器台・支脚・石製品が出土している。2115～2120は壺で、2117は小型丸底壺である。2119は細頸壺の体部で、算盤形を呈し、体部最大径はやや上位にある。2121～2132は甕で、2122のように口縁端部を拡張する甕もあるが、ほとんどは口縁端部をそのまま終わらせるものである。2133～2141は鉢である。口縁部の形状、口径で器種分化している。2142～2145は高坏で、坏部から口縁部の境を屈曲させ、口縁部を左右に拡張する。2146は器台、2147・2148は支脚である。2147は筒状の支脚で、上部と下部をスカート状に広げる。2148は粘土隗を円柱状に作り、上端は段を付けることによって土器の体部が安定するように作られている。2149は半深成岩製の叩き石、2150は半深成岩製の石錘、2151は安山岩製の台石である。2152～2171は炉出土遺物で、壺・甕・鉢・高坏・石製品が出土している。2152～2157は壺で、口縁端部は上下に僅かに摘み出す。体部は球形を呈するものと思われる。2158～2166は甕で、頸部は「く」の字に屈曲し、内面に明瞭な稜を持つものと緩やかに屈曲するものがある。口縁端部は拡張せず、そのまま終わらせる。2167・2168は高坏、2169は鉢である。2170・2171は砂岩製の台石である。2172～2178はＳＰ1619から出土した遺物で、壺・甕・高坏・鉢が出土している。2179・2180はＳＰ1624から出土した遺物で、甕・支脚が出土している。

時期は、炉出土遺物、主柱穴出土遺物から弥生時代後期後半と考えられる。



第141図　SH48出土遺物実測図⑨

この竪穴住居の時期は、前述した松本の「10型中央土坑」の時期と合致することから妥当と考えられる。

参考文献・引用文献

松本和彦 2000「10型中央土坑について」『都市計画道錦町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』香川県教育委員会

ＳＨ49

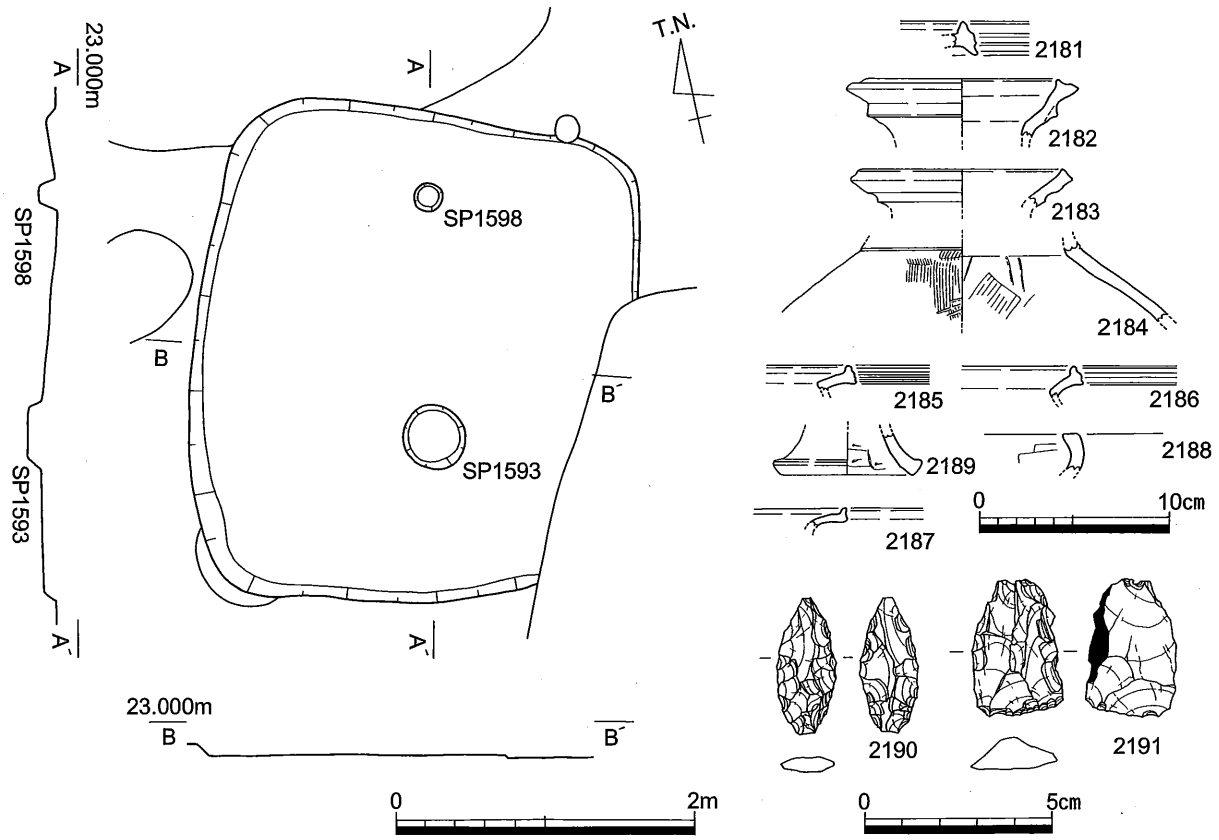
ＳＨ49は第Ⅱ調査区中央部、標高22.86ｍで検出した竪穴住居跡である。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約3.24ｍ、西－東方向が約2.87ｍ、検出面からの深さは約0.10ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約19.5°東を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土が堆積する。

竪穴住居内では南北に、２穴の主柱穴を検出した。主柱穴の平面形態は円形を呈し、規模は直径20～41㎝、深さ９～12㎝を測る。

竪穴住居内堆積土から多数の遺物が出土している。

2181～2184は壺である。2182・2183は頸部から口縁部にかけて直線的に外上方に延びるもので、2182は外面に断面三角形の突帯を巡らす。2182は口縁端部を上下に拡張し、外面に３条の退化凹線を持つ。2185～2187は甕で、口縁端部を上方あるいは上下に拡張し、外面に退化凹線を持つ。2188・2189は高坏で、口縁部が「Ｃ」字形口縁を持つ。2190・2191はサヌカイト製の石鏃である。

時期は、竪穴住居内堆積土出土遺物から弥生時代中期後半～末と考えられる。



第142図　SH49平・断面図，出土遺物実測図

ＳＨ50

ＳＨ50は第Ⅱ調査区中央部、標高22.85ｍで検出した竪穴住居跡である。北東側の一部がＳＲ05によって切られているが、平面形態は隅丸方形を呈し、規模は北－南方向が約3.24ｍ、西－東方向が約3.52ｍ、検出面からの深さは約0.12ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約4.0°東を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土が堆積する。

竪穴住居内ではほぼ中央に炉を、四隅やや内側に主柱穴を、東側掘り方沿いに壁溝を検出した。炉は平面形態が楕円形状を呈し、規模は長軸約0.65ｍ、短軸約0.57ｍ、深さ約0.29ｍを測る。主柱穴は４穴で、平面形態は円形を呈し、規模は直径30～41㎝、深さ26～45㎝を測る。東側掘り方沿いに残る壁溝は、幅約10㎝、深さ約5.0㎝を測る。炉北側を中心として床面直上から遺物が出土している。

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土、床面直上出土遺物、炉内出土遺物に分けられる。

2192～2303は竪穴住居内堆積土から出土した遺物で、壺・甕・高坏・鉄製品が出土している。2192・2193は壺で、頸部は直線的に上方に延び、口縁部はほぼ水平に屈曲する。2194～2200は甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に２～３状の沈線を持つ。2201・2202は高坏、2203は鉄製品で、鏃の茎と考えられる。2204～2209は床面直上出土遺物である。2204・2205は壺、2206～2209は甕である。壺は頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し、口縁端部を上下に僅かに拡張し、外面に２状の沈線を持つ。甕は2207のように上方に短く摘み上げるものと拡張し、退化凹線を持つものがある。2208の体部外面には櫛先の刺突文が施されている。2211・2212は炉内出土遺物で、2211は高坏、2212はサヌカイト製の石鏃である。

時期は、床面直上出土遺物、炉内出土遺物から弥生時代中期後半～末と考えられる。

ＳＨ51

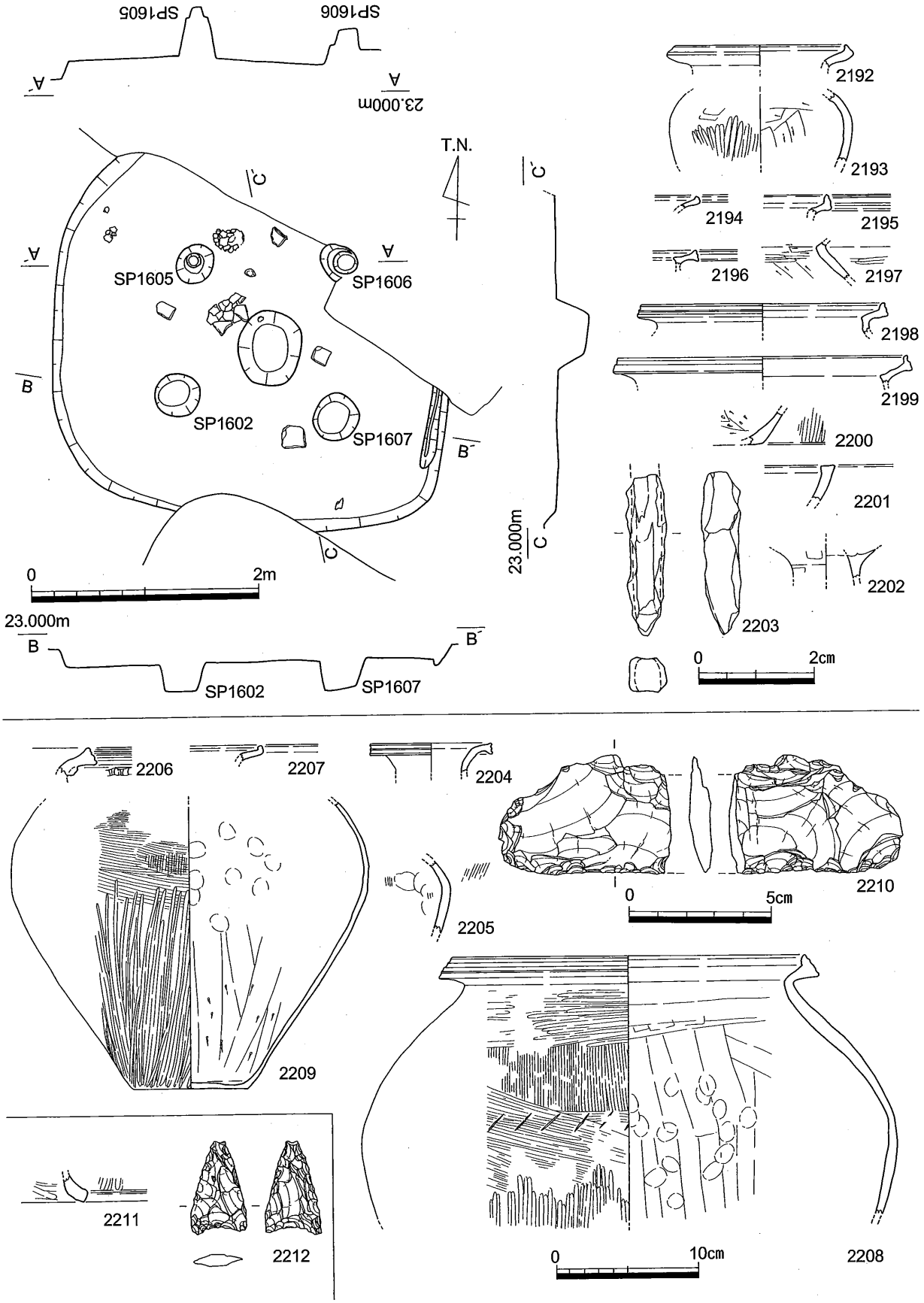
ＳＨ51は第Ⅱ調査区中央部、標高22.66ｍで検出した竪穴住居跡である。北東隅を検出していること及び一辺が直線的であることから、平面形態は方形を呈することがわかる。規模は北－南方向残存長が約2.5ｍ、西－東方向残存長が約3.6ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約1.0°西を取る。

竪穴住居内では周囲に壁溝を検出している。規模は幅約10～15㎝を測る。

竪穴住居内から遺物が出土していないので、時期は不明である。

ＳＨ52

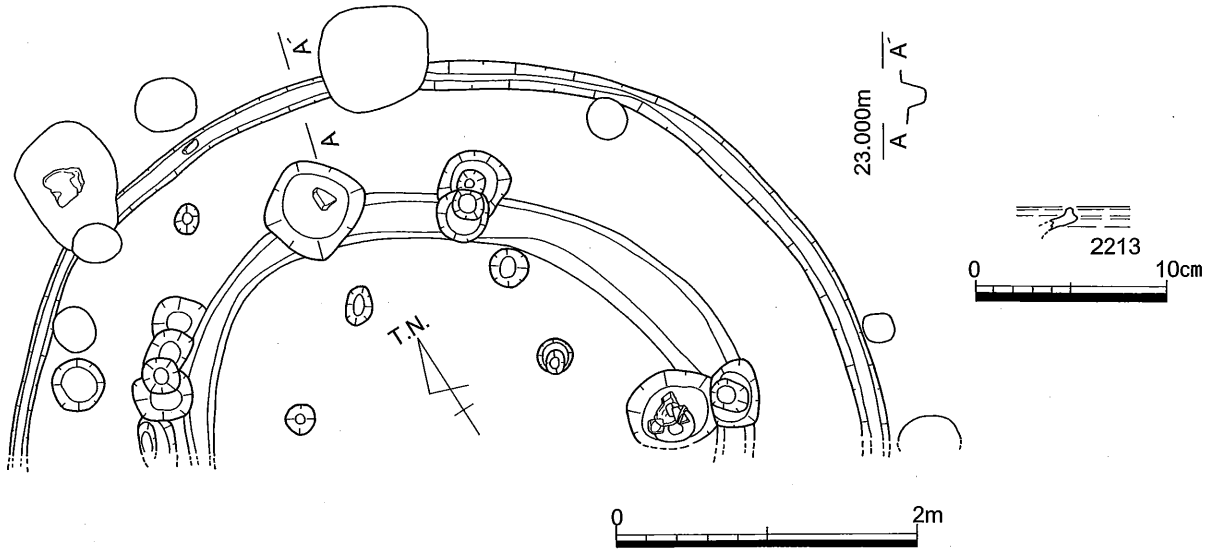
ＳＨ52は第Ⅱ調査区中央部、標高22.84ｍで検出した竪穴住居跡である。南半分が調査区外に延びているが、北半部に残存する壁溝・ベッド状遺構の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は推定直径約5.86ｍ、検出面からの深さは約0.06ｍを測る。竪穴住居内では壁溝、ベッド状遺構、主柱穴を検出している。壁溝は残存する北側部分全てで検出している。規模は幅14～17㎝、深さ約12㎝を測る。ベッド状遺構は内側に壁溝状の溝を持ち、幅0.65～0.7ｍで全周するものと思われる。主柱穴は３穴検出しているが、調査区外も復元すると５穴と考えられる。平面形態は全て円形を呈し、規模は0.33～0.39ｍを測る。



第143図　SH50平・断面図，出土遺物実測図

遺物は壁溝から出土している。2213は甕で、口縁端部を上方に摘み上げ、外面を凹線状に窪ませる。

時期は壁溝出土の甕から弥生時代中期末～後期初頭と考えられる。



第144図　SH52平・断面図，出土遺物実測図

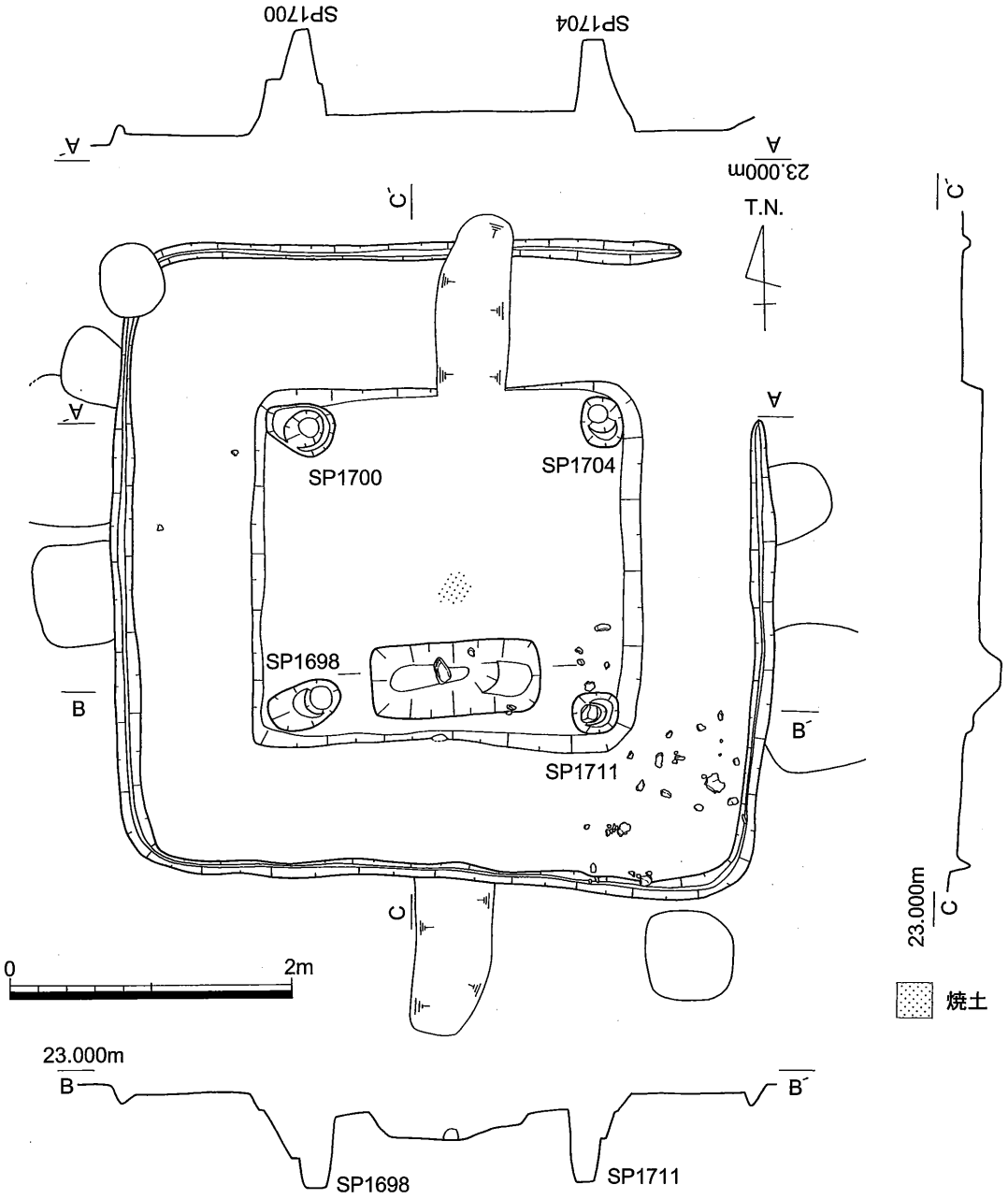
S H53

S H53は第Ⅱ調査区南部、標高22.89mで検出した竪穴住居跡である。平面形態は方形を呈し、規模は北－南方向が約4.54m、西－東方向が約5.22m、検出面からの深さは約0.16mを測る。北－南方向の主軸は真北より約2.5°東を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土が堆積する。

竪穴住居内ではほぼ中央を中心として、東西約0.22m、南北約0.20mの範囲で赤変した部分を確認した。また近接して南側には平面形態が長方形を呈し、規模は長辺約1.19m、南北約0.52mで、断面隅丸の逆台形状を呈した土坑を検出した。この土坑内部は東側が深さ約10cm、西側が深さ約16cmと浅い部分と深い部分があり、深い部分から遺物が出土している。範囲は狭いがこの赤変部分と土坑はこの竪穴住居の炉と考えられ、北側が地床炉、南側の土坑が炭化物・置き火の保管場所と考えられる。この土坑は「10型中央土坑」と呼ばれるもので、松本分類の４類に相当し、弥生時代後期末～終末期に確認できるとしている（松本2000)。竪穴住居内の周りにはベッド状遺構を確認した。ベッド状遺構は幅0.77～0.9mで全周し、削り出しではなく、粘土を貼り付け成形している。ベッド状遺構内部との高低差は12.0～15.0cmを測る。主柱穴は４穴で、ちょうどベッド状遺構の内側隅部分で検出した。主柱穴の平面形態は歪な円形を呈し、規模は直径30～50cm、深さ50～61cmを測る。また、柱穴の断面から柱痕の痕跡が確認でき、直径約20cmの柱材が使用されたものと考えられる。壁溝は竪穴住居掘り方沿い全てにおいて検出した。検出面の幅は10～18cm、深さ約10.0cmを測る。竪穴住居内南東部のベッド状遺構直上部分で遺物が出土している。

竪穴住居内から多数の遺物が出土している。遺物は竪穴住居内堆積土上位、下位、床面直上、炉内出土遺物、柱穴出土遺物、ベッド状遺構埋土に分けられる。

2214～2219は堆積土上位から出土した遺物で、壺・甕・鉢・高坏が出土している。2214・2215は壺で、2214は口縁部上面に粗い波状文が施されている。2215は短頸壺で、口縁部に２個一対の穿孔



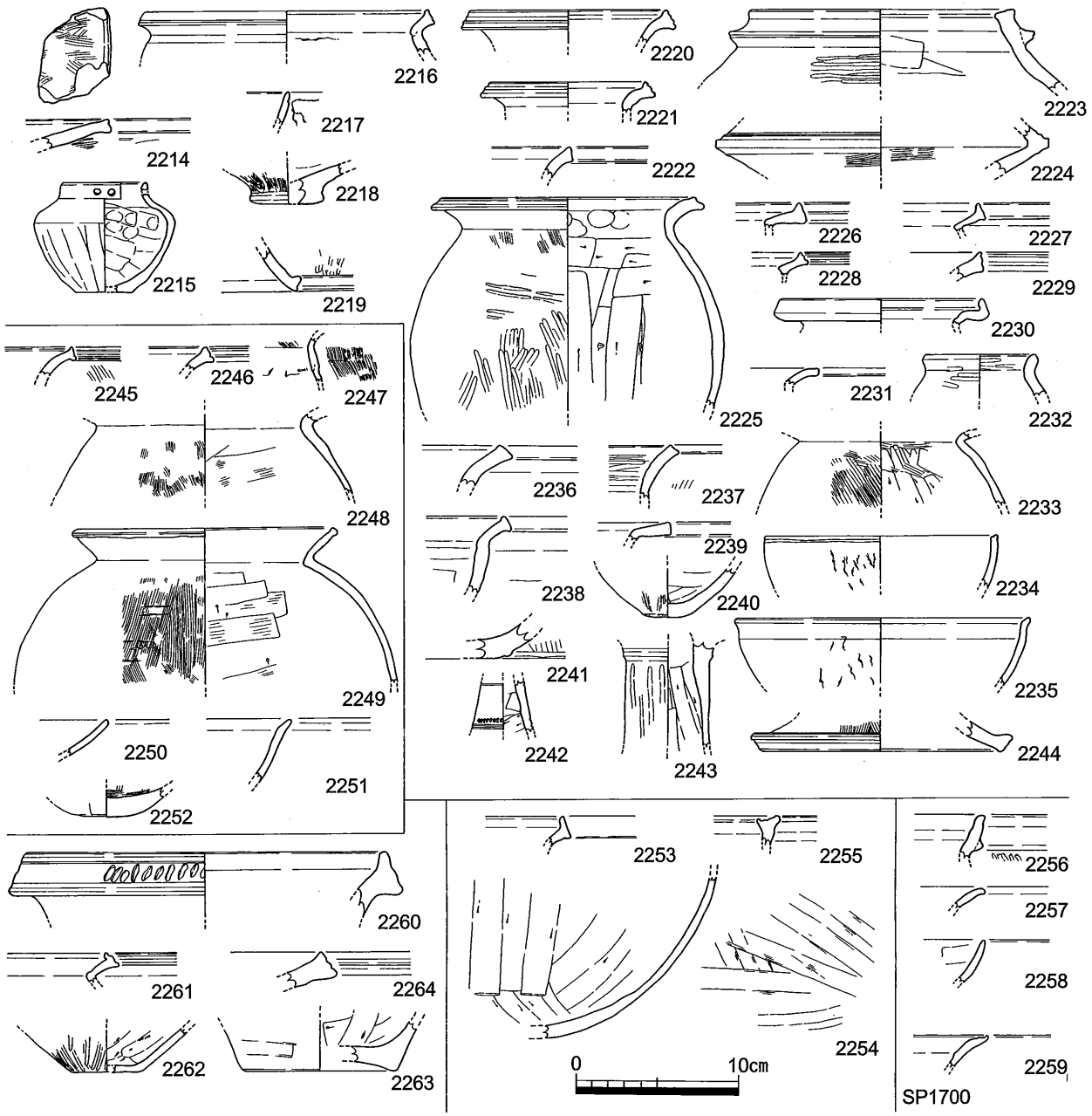
第145図　SH53平・断面図

が認められる。2216は甕、2217・2218は鉢、2219は高坏である。2220～2244は堆積土下位から出土した遺物で、壺・甕・鉢・高坏が出土している。2220～2224は壺である。2223は無頸壺で、口縁部外面に断面三角形の突帯を巡らす。2224は体部が算盤球状を呈し、最大頸部分の外面を突帯状に強調させる壺である。2225～2233は甕、2234～2241は鉢、2242～2244は高坏である。鉢は口径が14cm以上のものである。2242の高坏は脚部外面に沈線・半裁竹管文が施されている。2245～2252は床面直上出土遺物である。2253～2255は炉内出土遺物である。2256～2259はＳＰ1700出土遺物である。2260～2263はベッド状遺構埋土から出土した遺物である。

時期は、床面直上出土遺物、炉出土遺物、主柱穴出土遺物から弥生時代後期後半と考えられる。

参考文献・引用文献

松本和彦 2000「10型中央土坑について」『都市計画道錦町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』香川県教育委員会

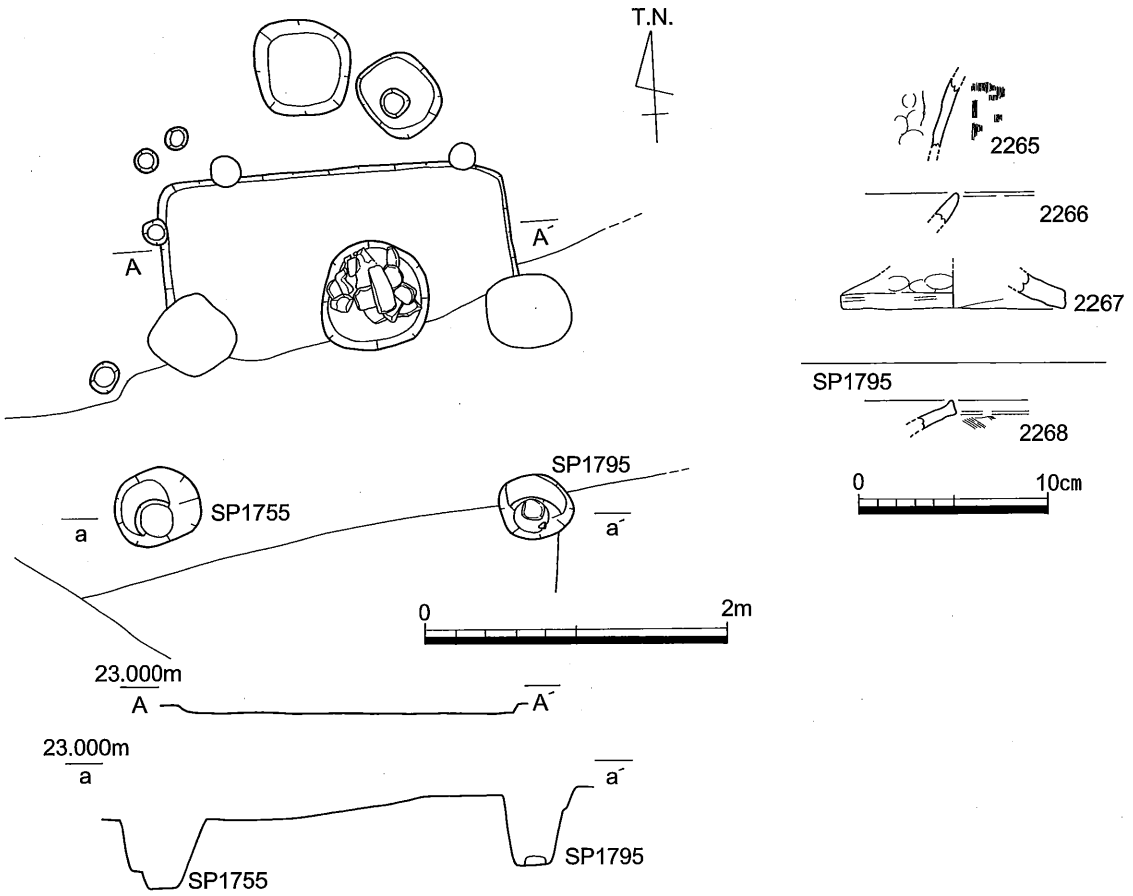


第146図　SH53出土遺物実測図

ＳＨ54

ＳＨ54は第Ⅱ調査区南部、標高22.88ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けているが、北側北東部の隅部と北西部の隅部を検出していることから、平面形態は方形を呈するものと思われる。規模は東－西方向が約2.36ｍ、検出面からの深さ約0.07ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約0.5°東を取る。

かなり小型のものであることから、ベッド状遺構の内側の可能性が考えられる。南側で主柱穴と考えられる柱穴を２穴検出した。平面形態は歪な円形を呈し、規模は直径50～58㎝、深さ約46㎝を



第147図　SH45平・断面図，出土遺物実測図

測る。

竪穴住居内堆積土と主柱穴から遺物が出土している。

2265～2267は堆積土出土遺物で、2265は細頸壺、2266は鉢、2267は支脚である。2268はＳＰ1795から出土した甕で、口縁端部を上方に僅かに摘み出す。

時期は出土遺物から弥生時代後期中葉～後半と考えられる。

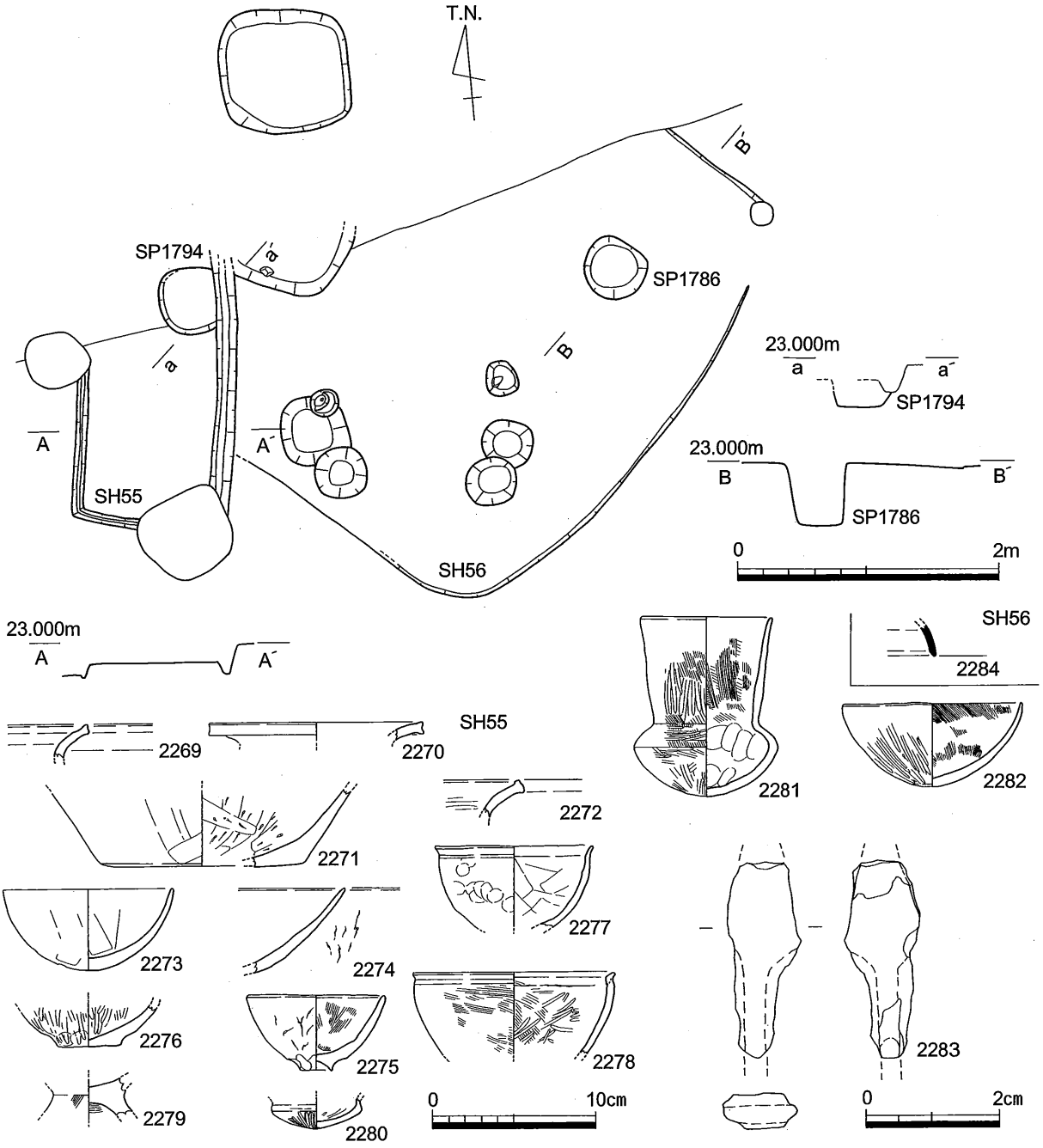
ＳＨ55

ＳＨ55は第Ⅱ調査区南部、標高22.99ｍで検出した竪穴住居跡である。竪穴住居の西側がかなり削平を受けているが、東部で検出した壁溝とベッド状遺構を囲む壁溝状の溝から、平面形態は方形を呈するものと思われる。規模は不明である。北－南方向の主軸は真北より約7.5°東を取る。

竪穴住居内堆積土とベッド状遺構内堆積土から遺物が出土している。

2269～2280は堆積土出土遺物で、2269～2271は壺、2273～2278は鉢、2279は高坏、2280は小型丸底壺である。2281～2284はベッド状遺構内から出土した遺物である。2281は壺で、体部が算盤球状を呈し、頸部から口縁部は直線的に延びる。2282は鉢で、内湾気味の体部から口縁部をそのまま細く終わらせる。2283は鉄族である。2284は須恵器坏蓋で、７世紀と考えられる。

時期は須恵器が出土しているが、その他の出土遺物から弥生時代後期中葉～後半と考える。



第148図　SH55・56平・断面図，出土遺物実測図

ＳＨ56

ＳＨ56は第Ⅱ調査区南部、標高22.98ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けており、南西側の掘り方、北東側の掘り方一部を検出しているのみであるが、南西隅部を検出していることから、平面形態は方形を呈するものと思われる。規模は北東－南西方向が推定約3.97ｍを測る。北西－南東方向の主軸は真北より約48.0°西を取る。

推定で西側隅部にある主柱穴を１穴検出した。平面形態は方形を呈し、規模は一辺約50㎝、深さ約49㎝を測る。

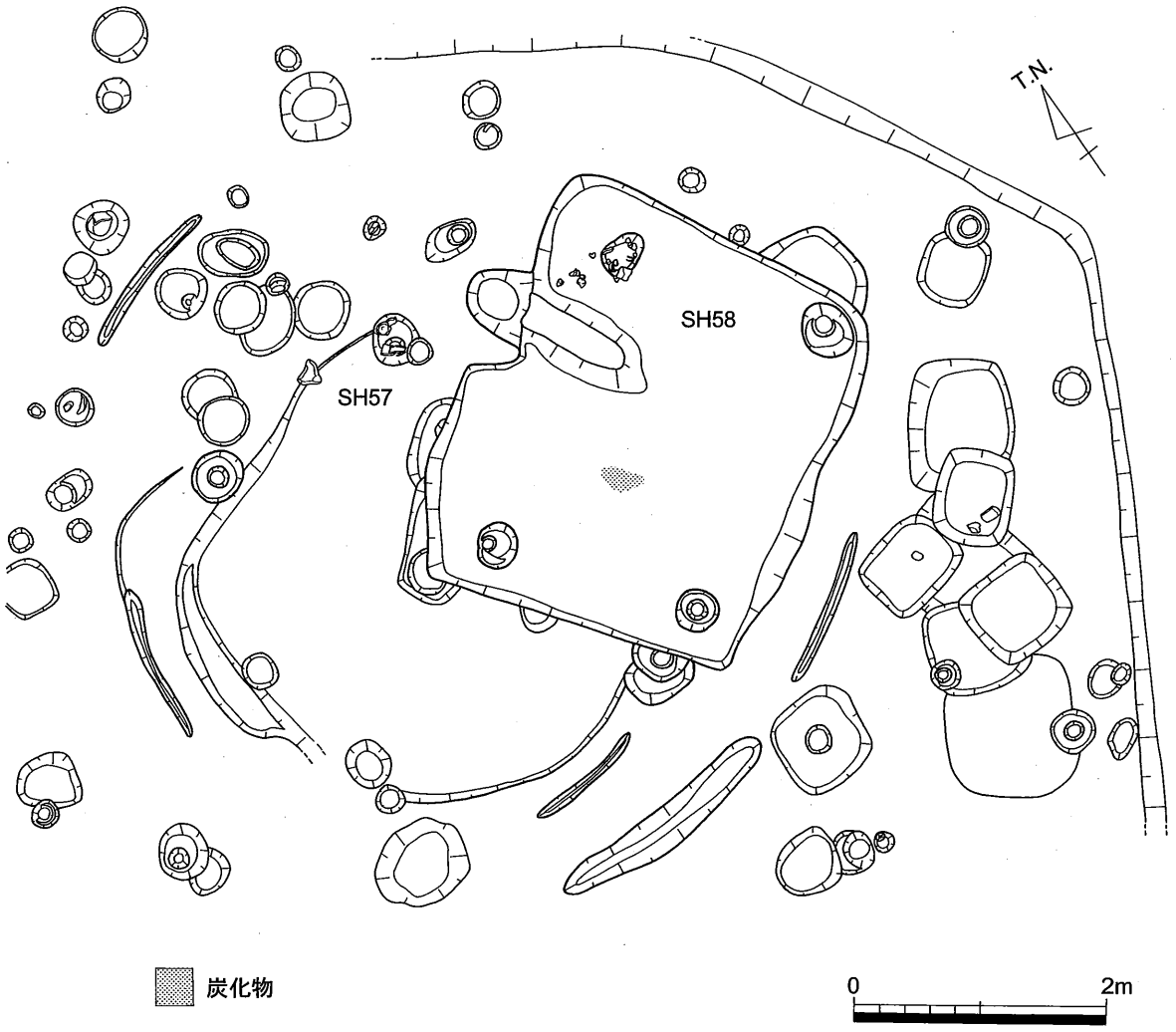
竪穴住居内から遺物が出土していないため、時期は不明である。

ＳＨ57

ＳＨ57は第Ⅱ調査区南部、標高22.95ｍで検出した竪穴住居跡である。全体的にかなり削平を受けており、壁溝及びベッド状遺構を部分的に残すのみであるが、その残存する壁溝・ベッド状遺構の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は推定直径約6.26ｍを測る。竪穴住居内では壁溝、ベッド状遺構、主柱穴、ほぼ中央部で中央土坑（炉）を検出している。壁溝は北・西・南部で部分的に検出している。規模は幅10～30㎝、深さ約5.0㎝を測る。ベッド状遺構は西側で検出している。幅0.65～1.45ｍで、床面との高低差は約0.02ｍを測る。主柱穴は北・西側でしか確認していないが、６穴と考えられ、内４穴を検出している。平面形態は全て円形を呈し、規模は0.29～0.40m、深さ0.47～0.52ｍを測る。この内ＳＰ1849には柱痕の痕跡が確認でき、直径約0.15ｍを測る。ほぼ中央部には平面形態が長方形を呈し、規模は長辺約1.0m、短辺約0.50ｍで、断面隅丸の逆台形状を呈した土坑を検出した。

遺物は竪穴住居内堆積土・ベッド状遺構内堆積土・主柱穴から遺物が出土している。

2285～2291は竪穴住居内堆積土から出土した遺物で、2285～2288は北側、2289～2291南側から出土している。2285・2286は甕で、口縁部を上方に拡張している。2287・2288は高坏で、脚部に穿孔が認められる。2291は口縁部が「Ｃ」字形口縁を呈する。2292～2298はベッド状遺構内から出土し



第149図　SH57・58位置関係図

た遺物で、壺・甕が出土している。甕は口縁端部を上方に拡張し、外面に沈線を持つ。2299は炉出土遺物である。2300～2304は主柱穴ＳＰ1897出土遺物である。2303・2304は器台で、軸部に沈線を巡らす。

時期は竪穴住居内堆積土・炉出土遺物・主柱穴出土遺物から弥生時代後期前半と考えられる。

ＳＨ58

ＳＨ58は第Ⅱ調査区南部、標高23.04ｍで検出した竪穴住居跡である。ちょうど竪穴住居ＳＨ57の南東部分の上部で検出した竪穴住居である。かなり全体的に削平を受けているが、平面形態は方形を呈し、北辺東寄りに作り付けの竈の突出部を持つ。規模は北西－南東方向が約2.84ｍ、北東－南西向が約3.35ｍ、検出面からの深さは約0.04ｍを測る。北西－南東方向の主軸は真北より約31.0°西を取る。竪穴住居内の堆積土は、暗灰色粘質土の単層である。

竪穴住居内では、竈部分の前面に段状の高まり、主柱穴を４穴検出している。竪穴住居跡北辺に付く作り付け竈の突出部は、北西隅から約1.9ｍ、北東隅から約0.9ｍと概ね北東隅から１／３の部分で検出している。かなり削平を受けているために底面のみの検出で、付け根部で幅約0.6ｍ、先端部で幅約0.4ｍ、長さ約0.5ｍで検出し、深さ0.03ｍで、中央部がやや窪んでおり、焼土が堆積している。また床面とは約５㎝の高低差が認められる。作り付け竈の突出部の竪穴住居内側には、連続するように長さ約0.9ｍ、幅約0.25ｍで、床面との高低差約５㎝の台状の高まりを検出している。前述した突出部は作り付け竈の煙突部と考えられ、煙突部前面の台状の高まりは造り付け竈の内部構造に関係するものと考えられる。主柱穴はそれぞれの隅近くで４穴検出している。平面形態は概ね円形を呈し、規模は直径35～45㎝、深さ40～55㎝を測る。

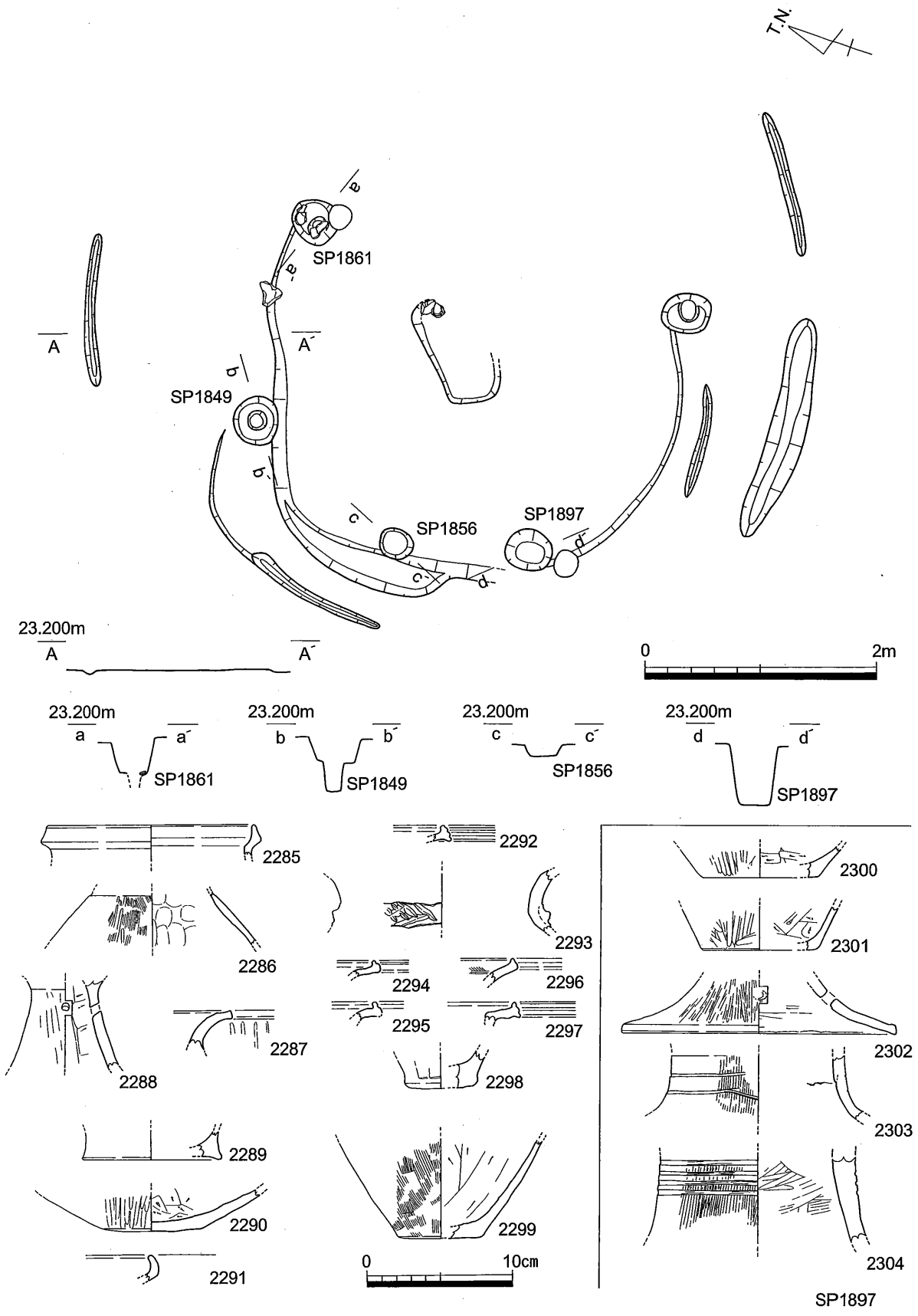
竪穴住居内から弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器が出土している。出土した遺物は堆積土上位、堆積土下位、主柱穴出土遺物に分けられる。

2305～2317は堆積土上位から出土した遺物で、弥生土器・須恵器・土師器が出土している。2313～2317は弥生土器で、この竪穴住居が弥生時代の竪穴住居ＳＨ37を切っていることから混入したものと考えられる。2305～2308は須恵器高台付坏である。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く納める。底部端には断面方形の高台が外方に踏ん張るように付く。2309は高坏の脚端部である。2310～2312は土師器坏で、口縁端部を僅かに内方に摘み出す。2310は内方への摘み出しが明瞭で、内面に沈線状の窪みができている。口縁部内面には斜め方向のヘラ磨きが認められる。2318～2329は堆積土下位から出土した遺物である。2322～2329は弥生土器・石製品で、混入したものと考える。2318は受け部・立ち上がりを持つ坏身で、2321の坏蓋とセット関係になるものである。2319は須恵器高台付坏で、口縁部が直線的に外上方に延び、端部は丸く納める。2320は土師質甕である。体部は長胴形を呈し、頸部は「く」の字に屈曲し、口縁端部を上方に短く摘み上げる。体部内外面に細かい刷毛目が施されている。2330は主柱穴ＳＰ1865から出土した土師質甕、2331は主柱穴ＳＰ1881から出土した土師質甕である。

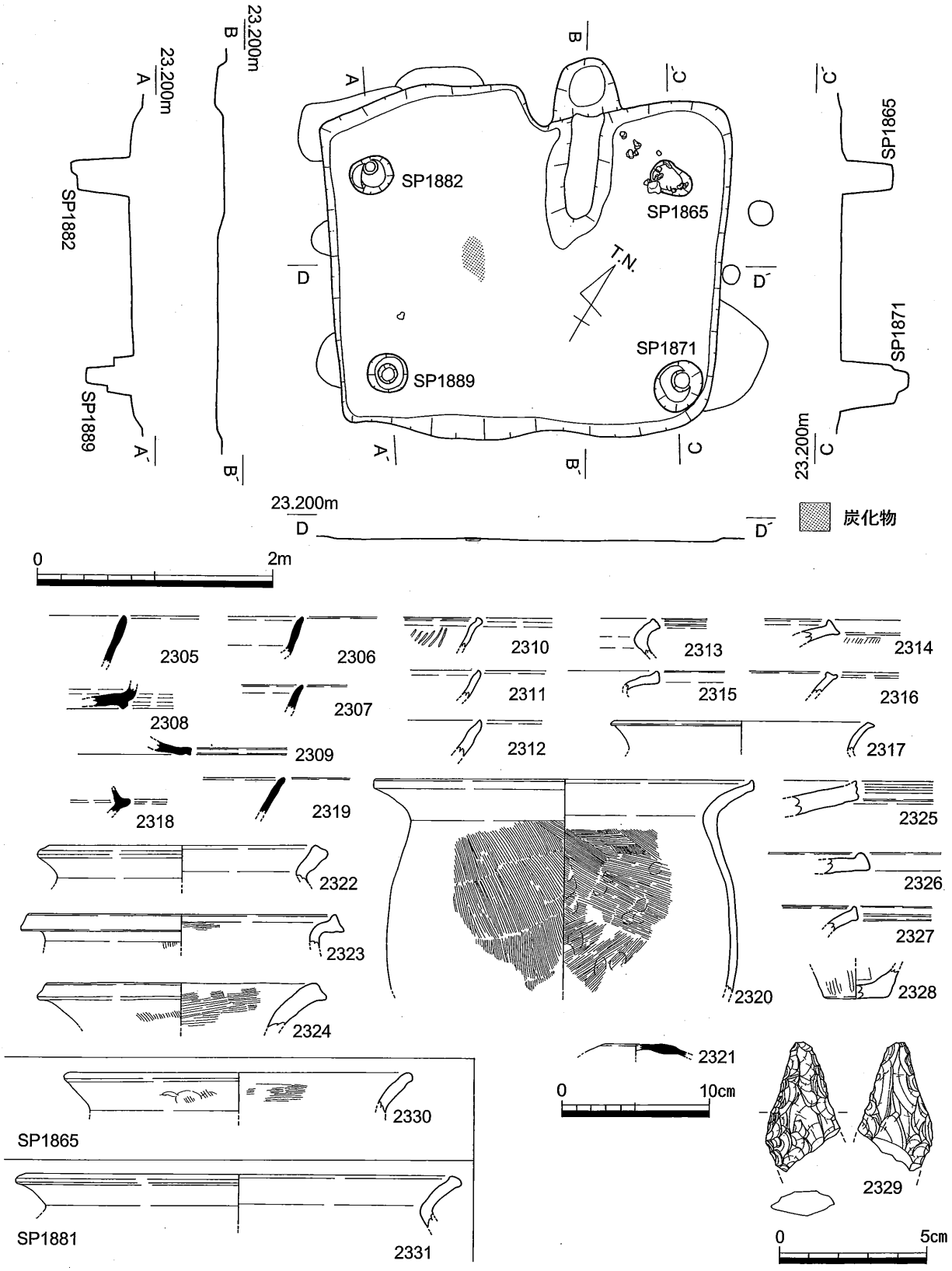
時期は竪穴住居内堆積土出土遺物から、７世紀末～８世紀前半と考えられる。

参考文献・引用文献

田辺昭三1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店



第150図　SH57平・断面図，出土遺物実測図



第151図　SH58平・断面図，出土遺物実測図

3．墓跡（土壙墓）

ＳＴ05

ＳＴ05は第Ⅱ調査区中央部、標高22.88ｍに位置する土壙墓である。西側が調査区外に延びているが、平面形態は隅丸の長方形を呈し、規模は長軸残存長（ほぼ東西方向）約1.23ｍ、短軸（ほぼ南北方向）約0.54ｍを測る。墓壙の断面は、箱型を呈し、底面は平たく造られている。土壙内堆積土は単層で、淡茶黄色粘質土（基盤層）のブロックを含む暗茶灰色粘質土である。長軸はほぼ東西を取る。

墓壙内から遺物が出土していないので、時期は不明である。

4．土坑跡

第Ⅱ調査区で検出した土坑跡は、総数で４基（ＳＫ09～12）を検出した。これらの土坑は第Ⅱ調査区北部を中心として検出している。

ＳＫ10

ＳＫ10は第Ⅱ調査区北部、標高22.40ｍで検出した土坑跡である。平面形態は不定形を呈している。部分的に深い部分と浅い部分があり、底面は一定していない。規模は東西方向約1.80ｍ、南北方向約3.03ｍ、検出面からの深さは約0.20ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から縄文土器・弥生土器が出土している。2332～2342は縄文土器で、2332～2341が深鉢、2342が浅鉢、2343が弥生土器壺である。深鉢は口縁端部を拡張し、外面に沈線・刻み目を持つ。2342の浅鉢は外面に沈線と縄文を持つ。2343は弥生時代前期の壺で、体部外面に沈線が施されている。

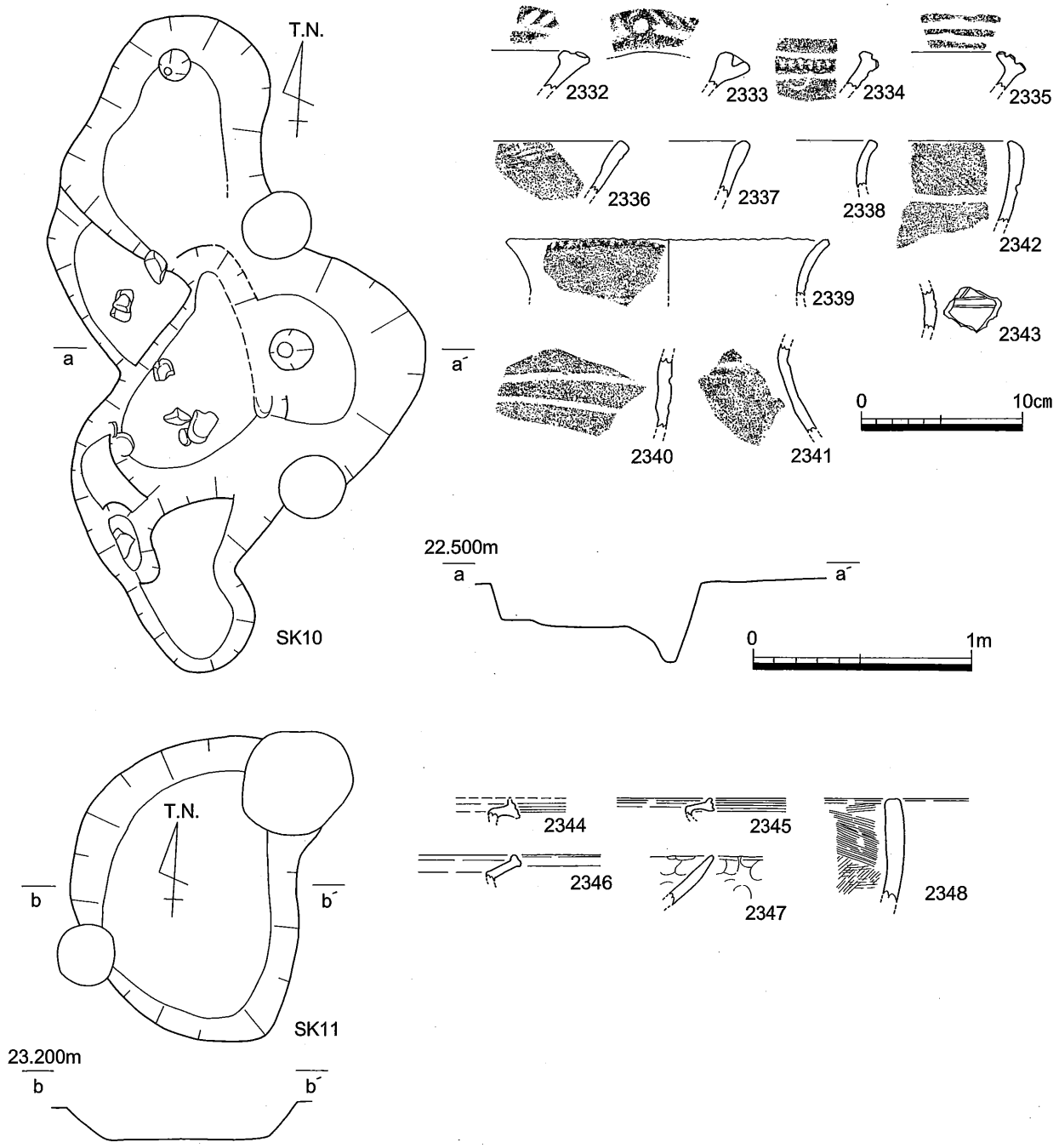
時期は弥生時代前期の遺物を含むが、縄文時代後期の土器が主体を占めていることから縄文時代後期と考えられる。

ＳＫ11

ＳＫ11は第Ⅱ調査区南部、標高23.03ｍで検出した土坑跡である。平面形態は南北に長い歪な楕円径を呈している。土坑跡の断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向残存長約1.03ｍ、南北方向約1.42ｍ、検出面からの深さは約0.14ｍを測る。

土坑跡内から弥生土器が出土している。2344～2346は甕で、口縁端部を拡張し、外面に沈線を持つ。2347は鉢である。

時期は、弥生時代中期末から後期初頭と考えられる。



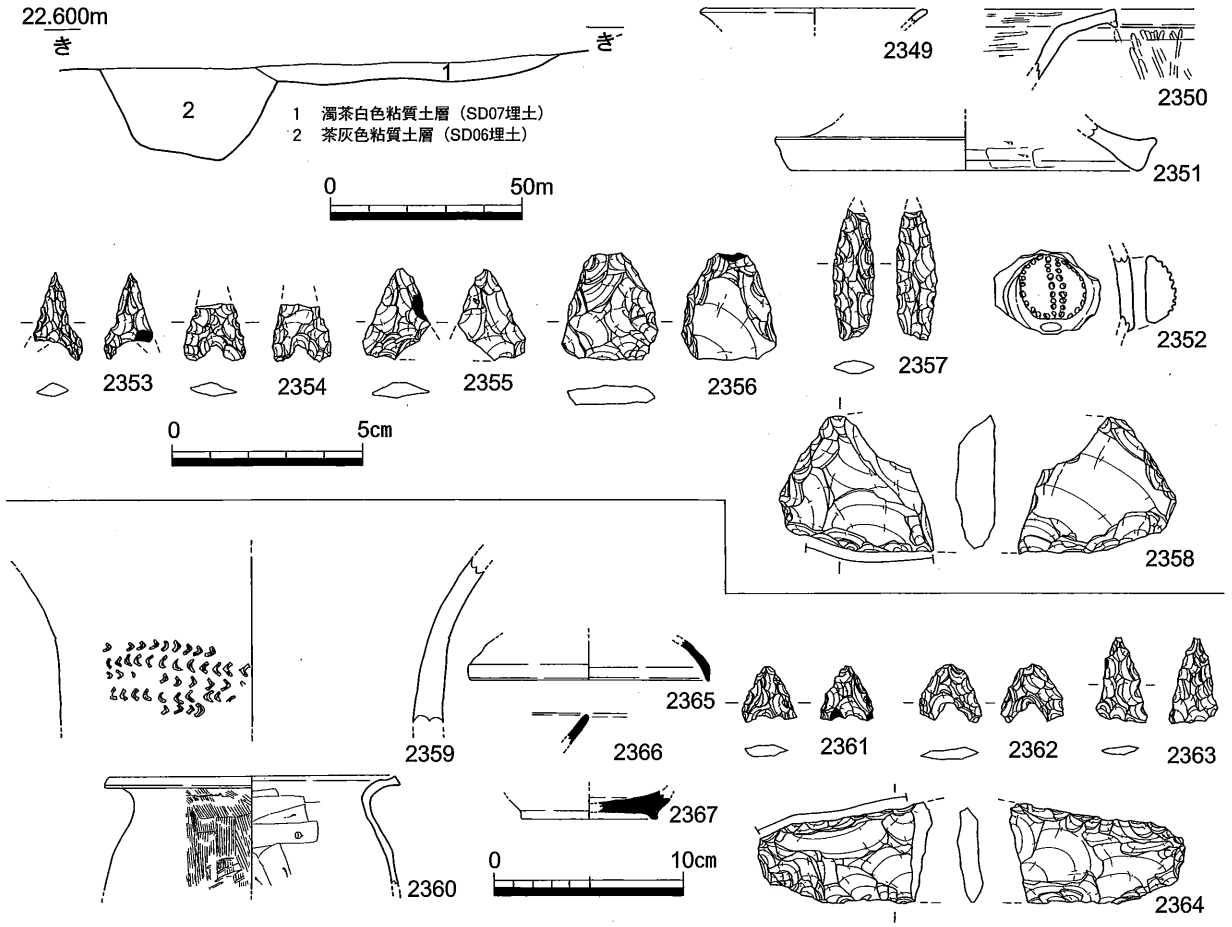
第152図　SK10・11平・断面図，出土遺物実測図

5．溝跡

第Ⅱ調査区で検出した溝跡は総数３条（ＳＤ05～07）で、特にＳＤ06・07は調査区とほぼ併行に検出している。

ＳＤ06

ＳＤ06は第Ⅱ調査区ほぼ全域で検出している。ちょうど旧地形、旧畦畔に合致するように検出した。第Ⅱ調査区で検出した全ての遺構を切っている。流路方向は一定しておらず、概ね西北西－東南東を取る。規模は最大幅約0.47m、深さ約0.25m、検出長約60.2mを測る。溝内堆積土は単層で、茶灰色粘質土が堆積する。溝跡断面は上部が開く「U」字状を呈している。



第153図　SD06・07断面図，出土遺物実測図

2349～2358は溝跡出土遺物で、2349は土師器坏、2350・2351は弥生土器、2352は縄文土器、2353～2358はサヌカイト製の石鏃・スクレイパーである。

時期は出土遺物から中世と考えられる。

ＳＤ07

ＳＤ07は第Ⅱ調査区ほぼ全域で検出した溝で、ちょうどＳＤ06と同じような流路を取る。ＳＤ06と同様に畦畔に伴う溝と考えられる。近接して検出しており、土層断面及び平面的にもＳＤ06を切っていることがわかる。

規模は最大幅約0.82m、深さ約0.05m、検出長約60.2mを測る。溝内堆積土は単層で、濁茶白色粘質土が堆積する。溝跡断面は上部が開く浅い「U」字状を呈している。

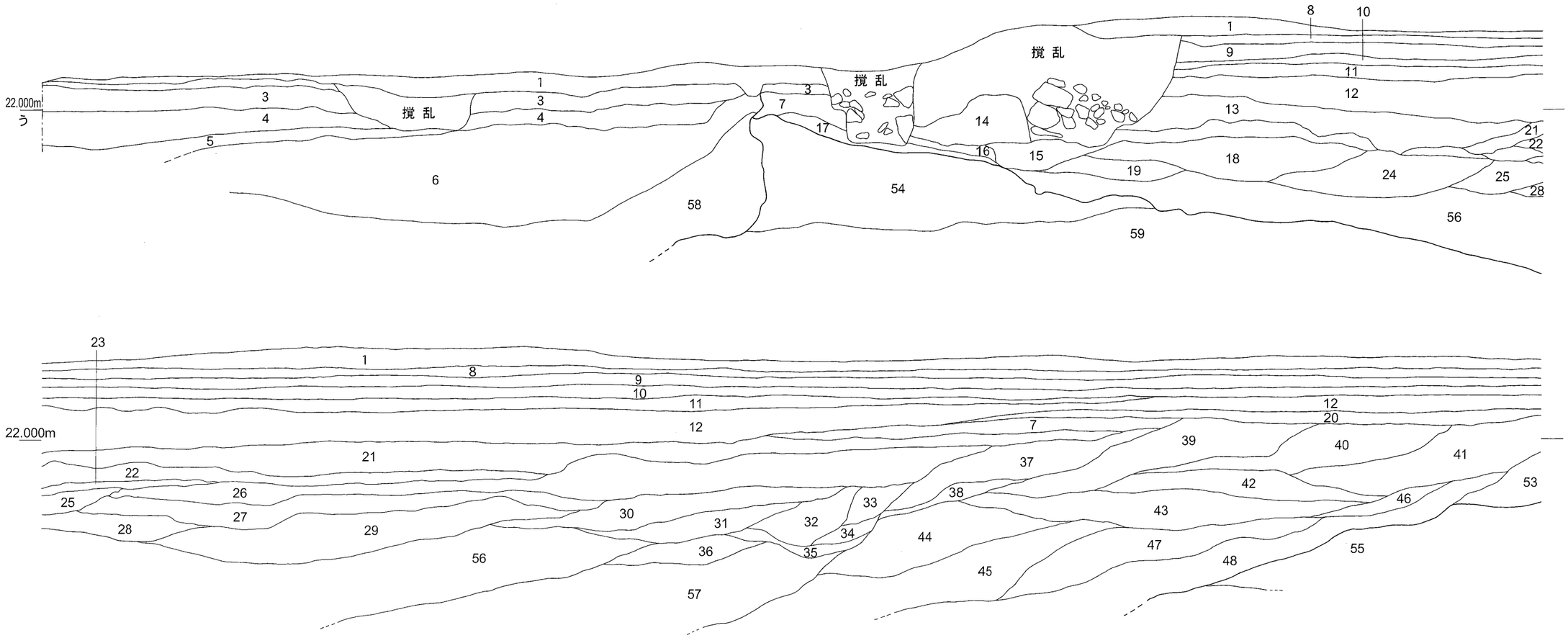
2359～2367は溝跡出土遺物で、2359・2360は弥生土器、2361～2364はサヌカイト製の石鏃・スクレイパー、2365～2367は須恵器である。

時期は出土遺物から中世と考えられる。

6．自然流路跡

ＳＲ03

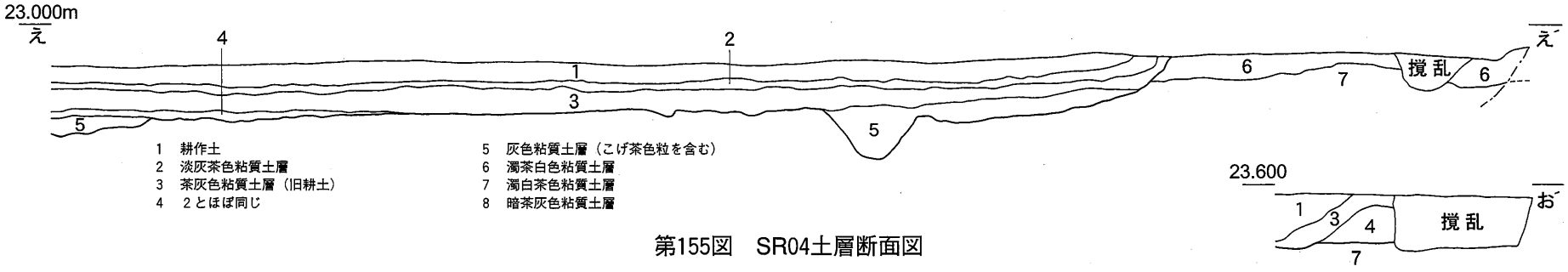
ＳＲ03は第Ⅱ調査区最北端で検出した自然流路跡である。概ね東－西方向に流路を取るもので、南側の掘り方のみを検出し、北側の掘り方は不明である。この自然流路ＳＲ03の北には現在の弘田



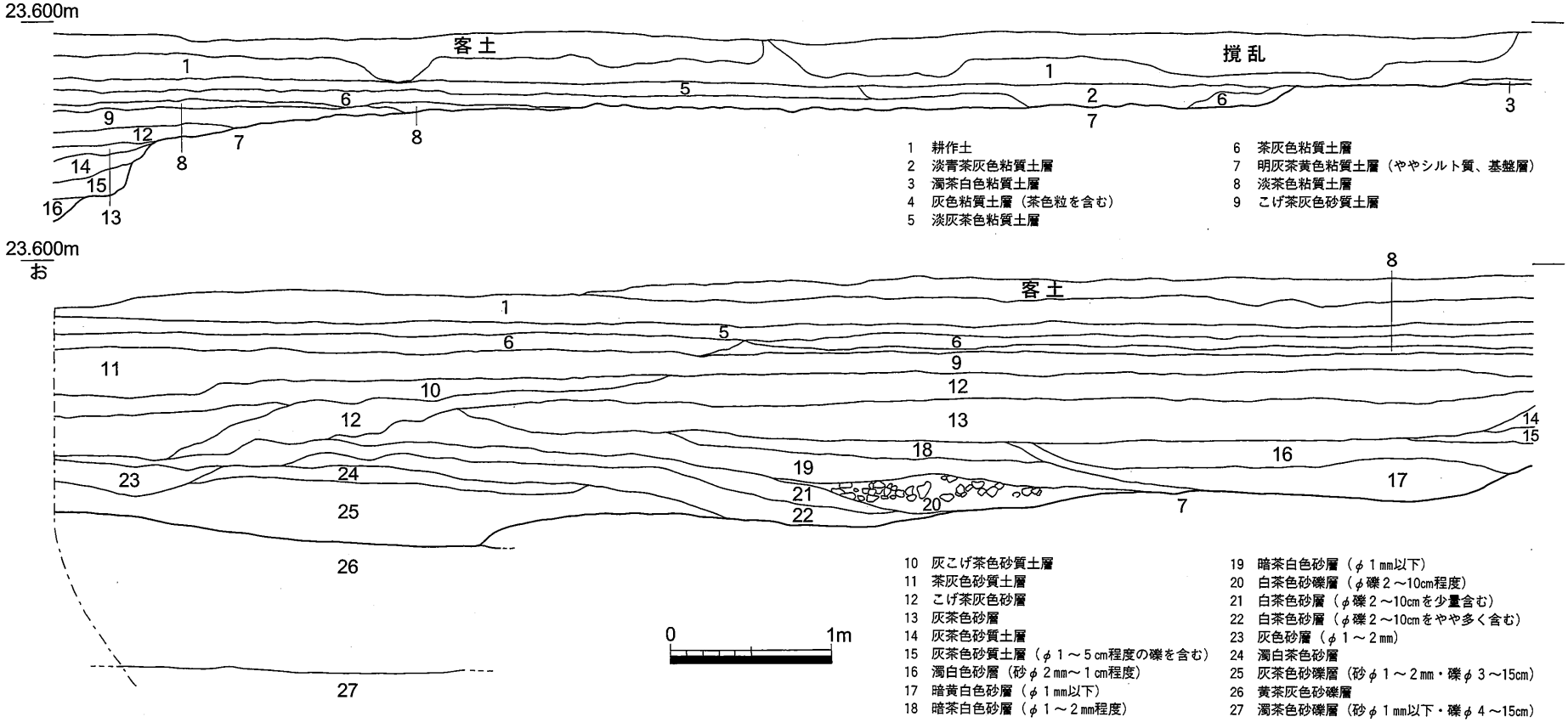
1 耕作土
2 明灰茶色粘質土層
3 茶灰色粘質土層
4 灰こげ茶色粘質土層
5 淡茶色砂質土層
6 淡茶色砂礫層（砂φ2～5㎜・礫φ2～10cm）
7 灰茶色粘質土層
8 濁茶白色粘質土層（床土）
9 濁灰白色粘質土層（旧耕作土）
10 濁白茶色粘質土層（旧床土）
11 灰色粘質土層（こげ茶褐色粒を含む）
12 こげ茶灰色砂混じり粘質土層
13 白茶色砂質土層
14 13と15が混じった土層
15 白灰色シルト質層
16 茶灰色砂層
17 灰色砂層
18 濁茶白色砂礫層（砂φ1～4㎜・礫φ2～6cm）
19 明白茶色砂礫層
20 12にφ1～5㎜程度の砂粒を含む
21 濁茶灰色砂質土層（φ2～5㎜程度の砂粒を含む）
22 灰茶砂質土層（φ2～5㎜の砂粒を含む）
23 明灰茶色砂質土層
24 青灰色シルト質層
25 白灰色シルト層
26 灰こげ茶色砂質土層
27 灰色砂質土層
28 淡黄茶色砂層
29 灰色砂礫層（砂φ3～4㎜・礫φ2～10cm）
30 茶灰色シルト質層
31 茶灰色砂質土層
32 茶色砂礫層（砂φ4㎜以下・礫φ1～5cm）
33 茶灰色シルト質層
34 灰色砂礫層（砂φ2～4㎜・礫φ4～5cm）
35 灰色シルト質層
36 淡茶灰色砂層（砂φ1～3㎜）
37 灰黄茶色粘質土層
38 灰こげ茶色粘質土層
39 濁茶白色砂礫層（砂φ1～5㎜・礫φ3～8cm程度）
40 こげ茶灰色砂層
41 茶白色砂層
42 茶白色砂層（φ2～3㎜程度）
43 こげ茶色砂礫層（砂φ2～3㎜・礫φ2～3cm）
44 白茶色砂礫層（砂φ2㎜・礫φ4～10cm程度）
45 暗茶白色砂礫層（砂φ2～5㎜・礫φ2～5cm）
46 茶色砂層
47 灰白色砂層（φ1㎜以下）
48 灰白色砂層（φ1～5㎜程度）
49 こげ茶灰色砂質土層（φ1～7㎜程度の砂粒を含む）
50 こげ茶灰色砂層
51 淡灰茶色砂層
52 灰色砂層
53 淡茶色砂礫層（砂φ1～5㎜・礫φ2～10cm程度）
54 明茶黄色粘質土層（基盤層）
55 明茶灰色粘質土層（基盤層）
56 茶色砂礫層（砂φ2～5㎜・礫φ5～15cm）～濁茶白色砂礫層（砂φ4～5㎜・礫φ3～10cm）
57 淡茶灰色砂礫層（砂φ0.2～1㎜・礫φ2～4cm）
58 暗茶色砂礫層（砂φ2～5㎜・礫φ2～6cm）
59 青灰色シルト質層（基盤層）
60 濁茶黄色粘質土層（縄文包含層）

0 2m

第154図　SR03・04土層断面図



第155図　SR04土層断面図

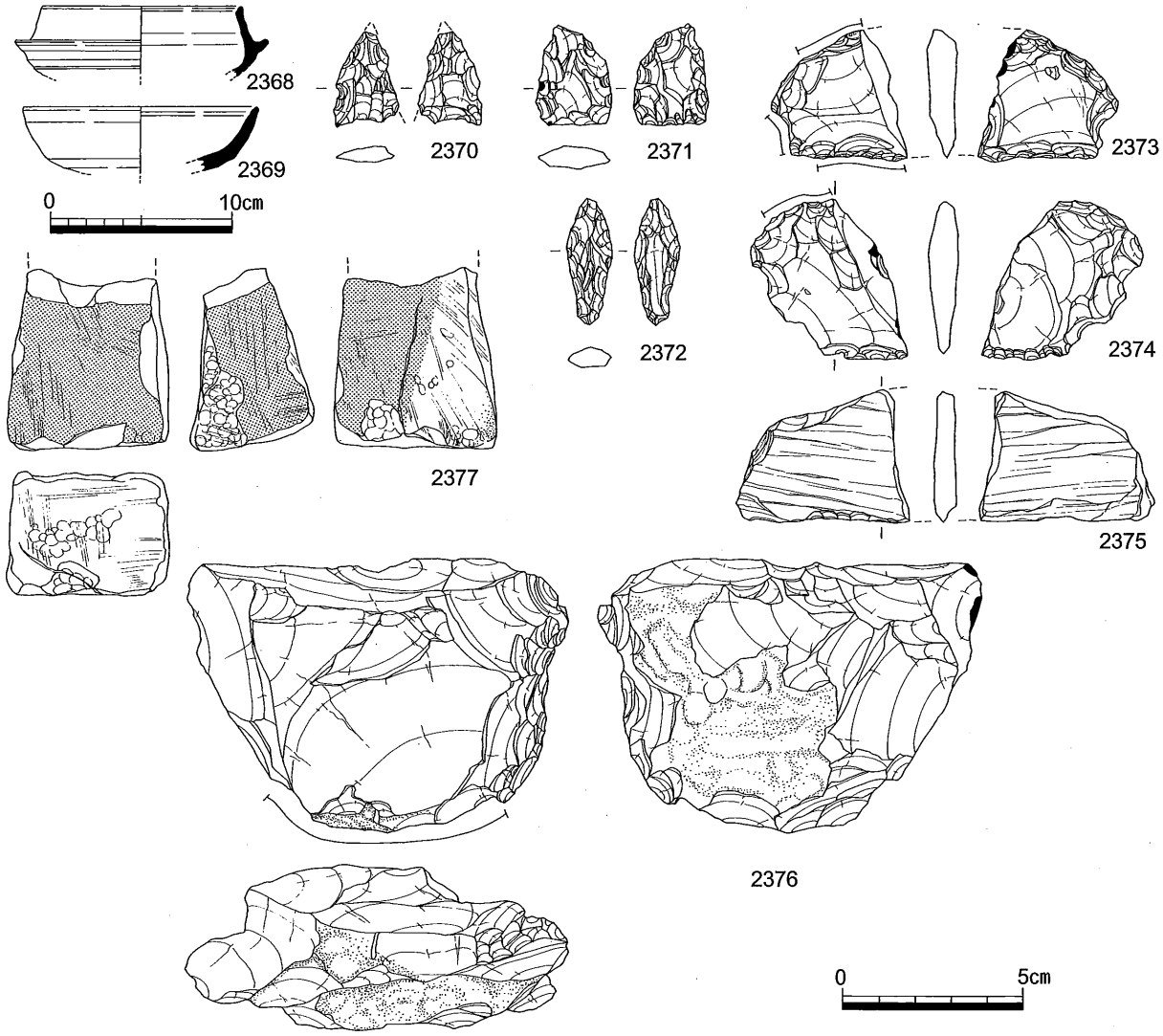


第156図　SR05土層断面図

川があり、更に北の第Ⅰ調査区南端には北側の掘り方のみを検出しているＳＲ02がある。このＳＲ02とＳＲ03が同一の自然流路で、徐々に埋没し、現在の弘田川になっているとも考えられるが、堆積土・遺物からは断定できない。第Ⅱ調査区北部の自然流路跡ＳＲ03の堆積土は６層で、上位が粘質土系で、下位が砂礫を主としている。

自然流路跡の堆積層からはほとんど遺物が出土していない。

2368～2377は第154図（うーう´）第５層から出土した遺物で、2368・2369が須恵器、2370～2372がサヌカイト製の石鏃、2373・2374がサヌカイト製の石包丁、2375が結晶片岩製の石包丁、2376がサヌカイト製の楔形石器、2377が流紋岩製の砥石である。2378～2407は第154図（うーう´）第６・58層から出土した遺物である。2378・2379は弥生土器で、2378が壺、2379が高坏である。2380～2391は須恵器で、2380～2383が坏蓋、2384・2385が高台付坏、2386・2387が坏、2388が高坏、2389が壺、2390・2391が鉢である。2392・2393は土師質甕、2394は土師器坏である。2395は緑釉陶器、

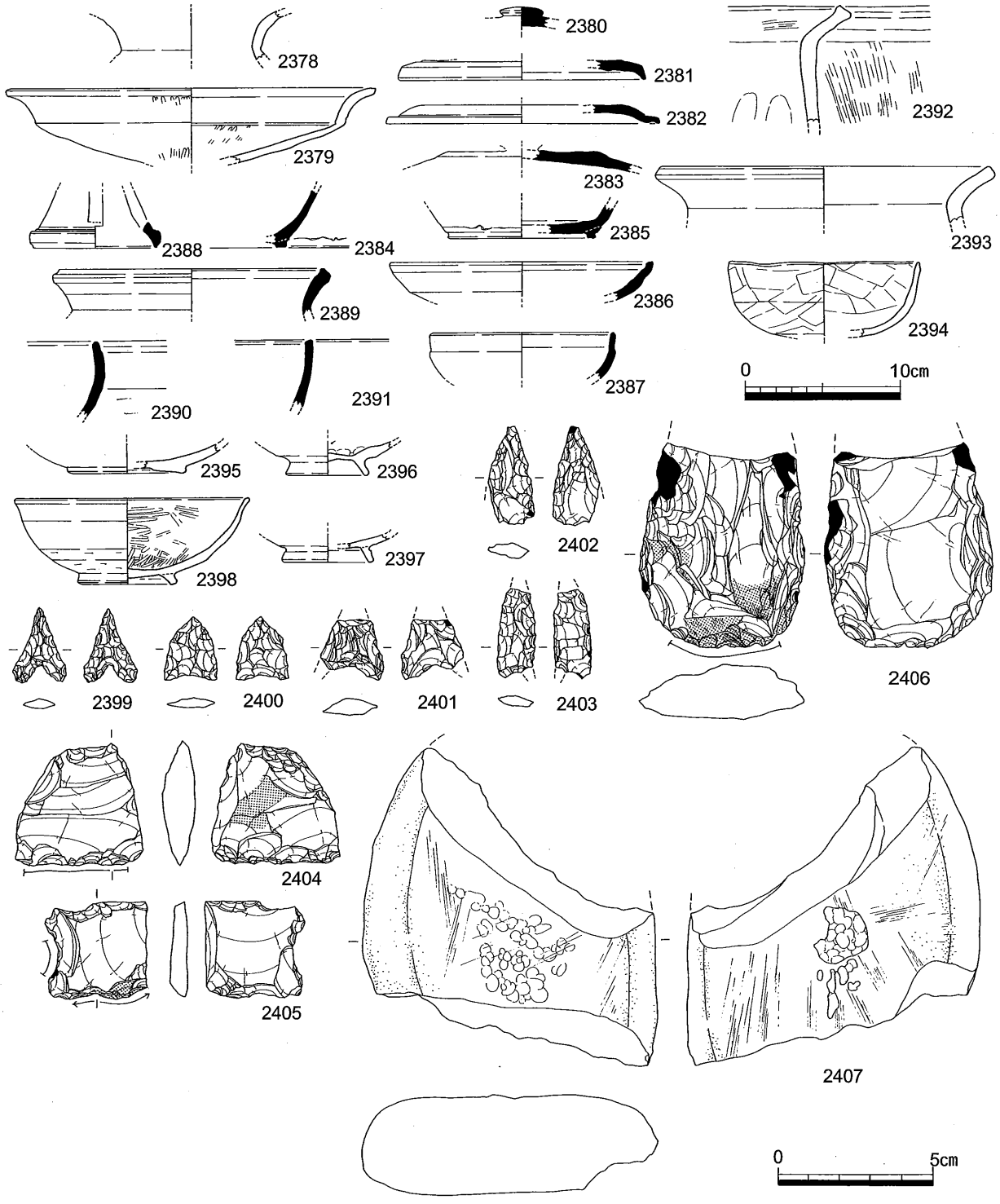


第157図　SR03出土遺物実測図①

2396～2398は土師器椀である。2399～2401がサヌカイト製の石鏃、2404・2405がサヌカイト製の石包丁、2406がサヌカイト製の打製石斧、2407が砂岩製の台石である。

時期は、出土した遺物の時期が弥生時代～古墳時代中期と幅が広く、時期決定できない。しかし

この自然流路ＳＲ03の北の掘り方としたＳＲ02から中世の遺物が出土していることから、弥生時代～中世の遺物を包含した中世以降の自然流路としたい。



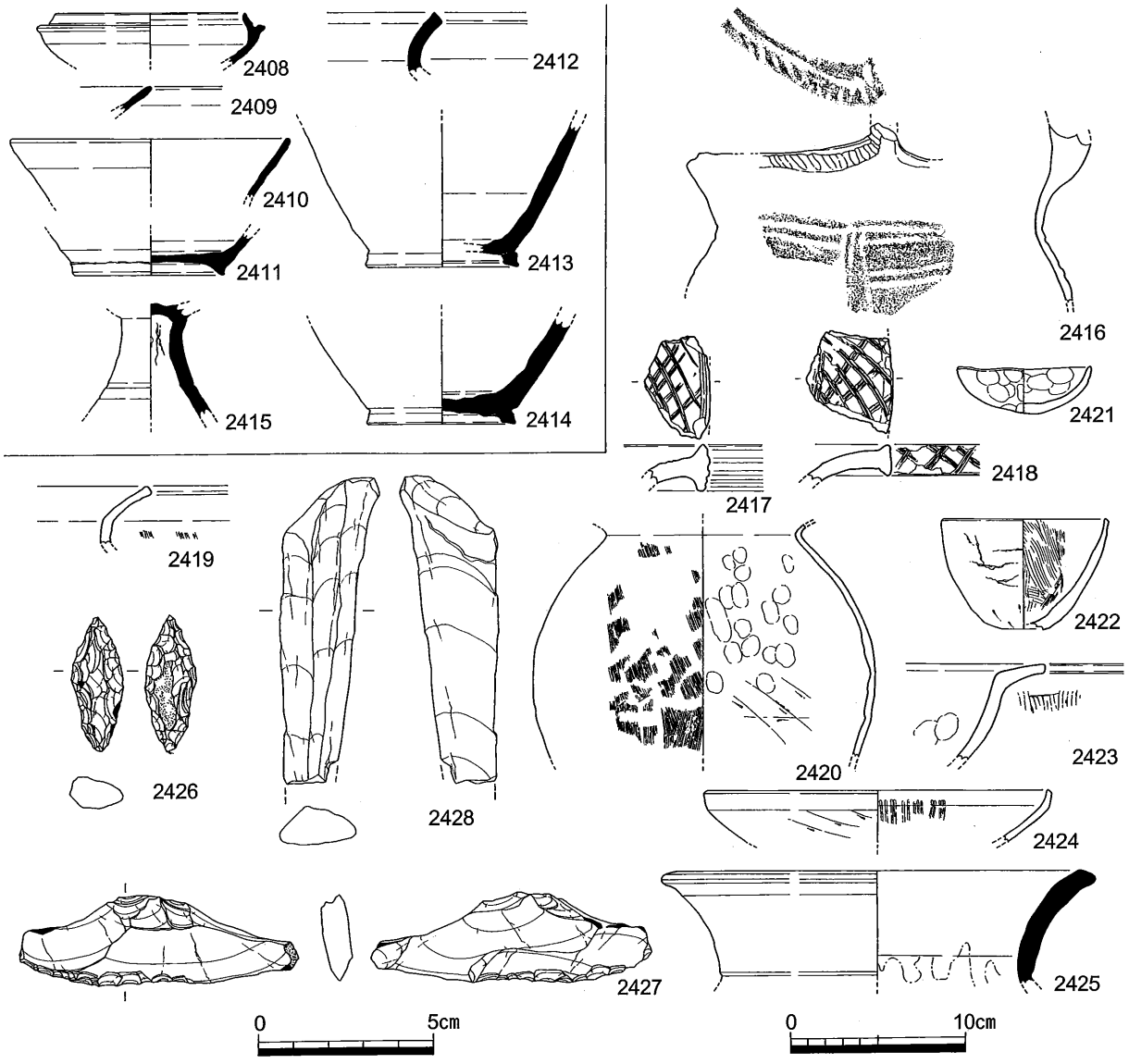
第158図　SR03出土遺物実測図②

ＳＲ04

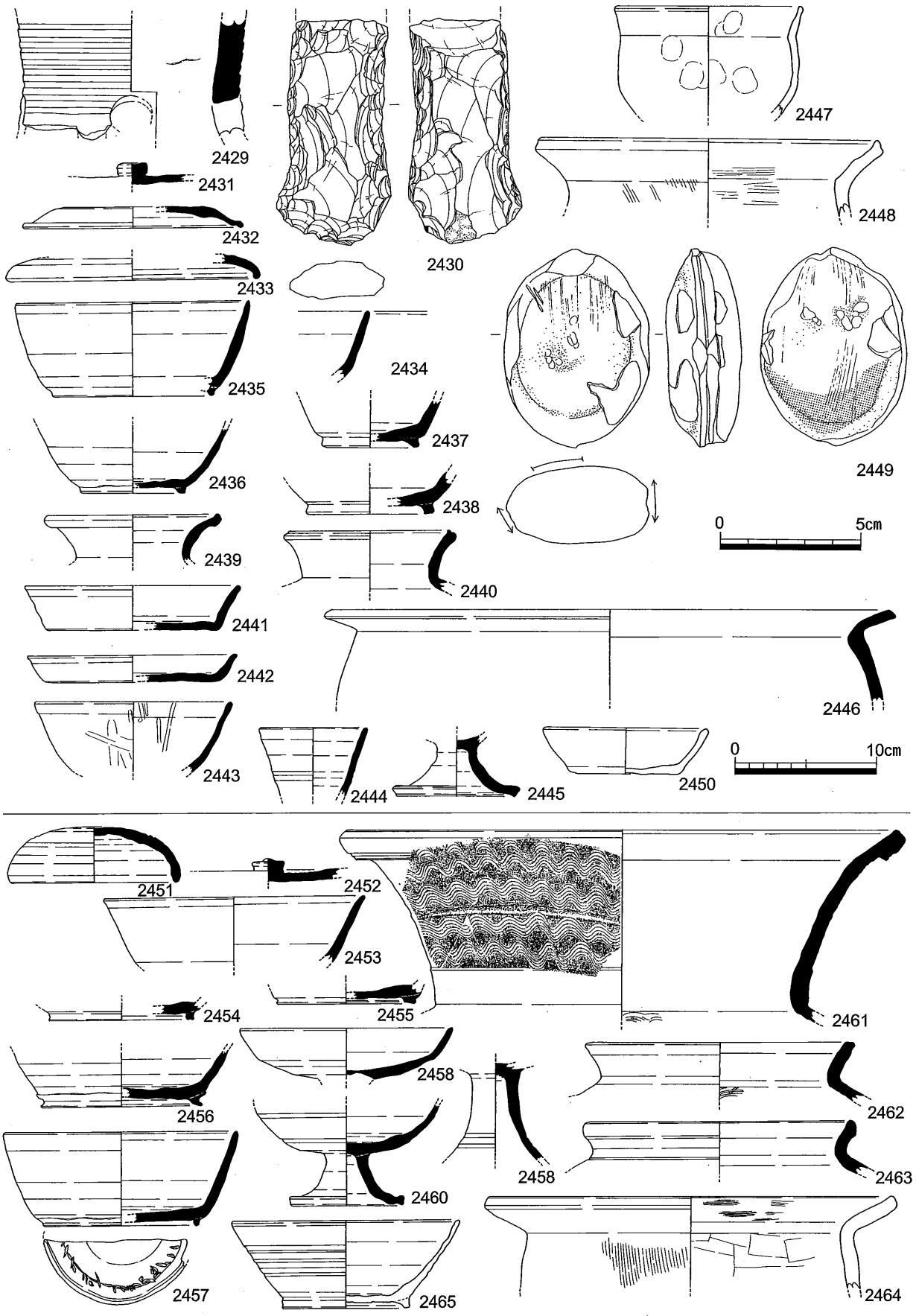
ＳＲ04は第Ⅱ調査区北部から北東部にかけて検出した自然流路跡である。北部では自然流路ＳＲ03に併行する流路をとるが、東側で流路が南方向に曲がり、調査区とほぼ併行するように流路を取る。現在の弘田川と流路方向は合致し、旧の弘田川と考えられる。第Ⅱ調査区で検出している全て

の遺構は、自然流路ＳＲ04によって切られている。第154図（うーう´）の土層図から自然流路ＳＲ03によって切られていることがわかる。自然流路ＳＲ04の規模は最大幅約25.0m、検出長約105.0mを測る。深さは現地表下約2.5mで砂礫層となったことから、自然流路底面まで掘削できなかったため、不明である。自然流路跡の堆積土は41層で、２時期に細分できる。上位の流路はやや北寄りにあり、第154図第13～19層、第21～36層、第56・57層で、上部が砂質土を主体とし、下部が砂礫層を主体としている。下位の流路は南寄りにあり、第154図第26層、第39～53層で、上部が砂層を主体とし、下部が砂礫層を主体としている。土層断面から流路の位置が南から北に移動したと考えられるが、堆積土には明確な差は確認できず、概ね砂・砂礫を中心とした堆積土であることがわかる。

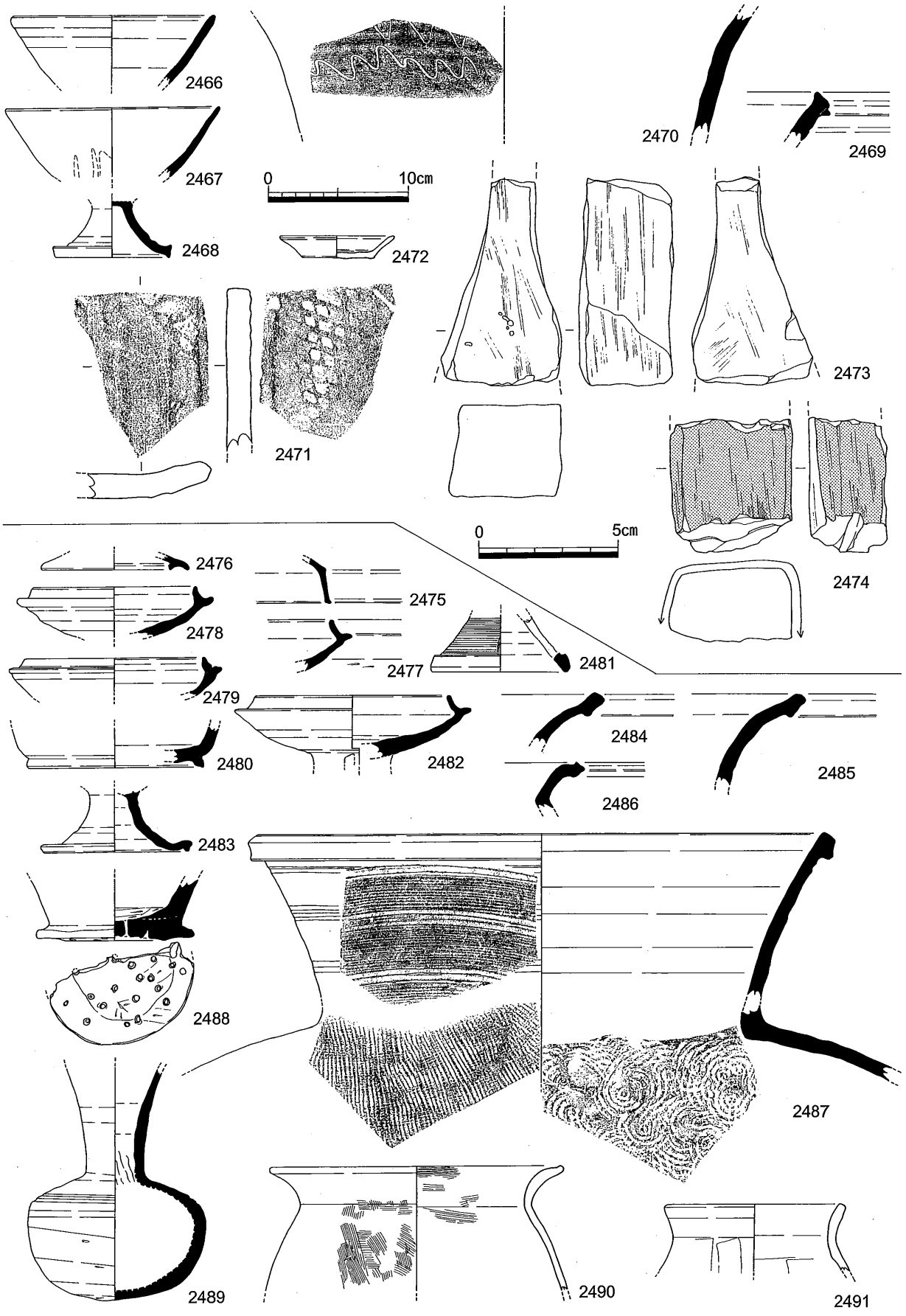
自然流路跡の各層から弥生土器、石製品、須恵器、土師器、土師質土器、瓦が多量に出土している。



第159図　SR04出土遺物実測図①



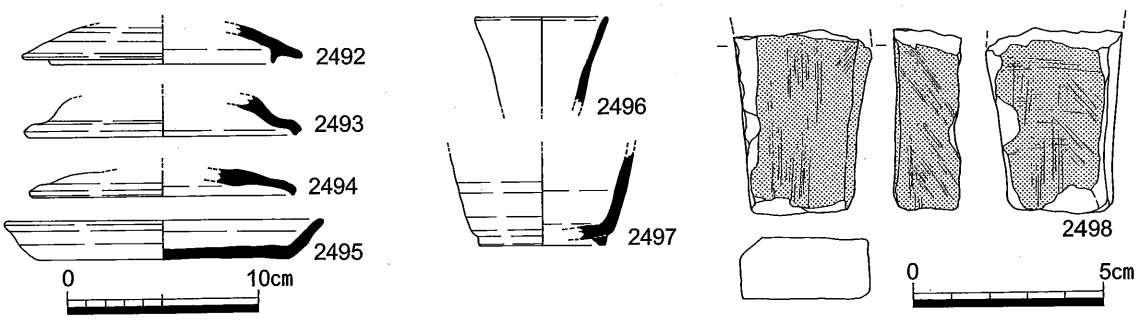
第160図　SR04出土遺物実測図②



第161図　SR04出土遺物実測図③

2408～2415は第154図第11層から出土した遺物である。2408は須恵器坏身で、内傾する立ち上がりを持つ。2409～2411は須恵器高台付坏で、体部が直線的に延び、底部端に断面台形状の高台が付く。2412は須恵器甕、2413・2414は底部端に高台が付く須恵器壺である。2415は高坏で、脚部中央部に１条の沈線を持つ。2416～2428は第154図第12層から出土した遺物である。2416は縄文土器深鉢で、口縁部を拡張し、沈線・刻み目を持つ。体部外面には縦方向と横方向の２～３条を１単位とした沈線が施されている。2417・2418は弥生土器壺で、口縁端部を上下に拡張し、外面に沈線・格子文を、上面に格子文を持つ。2419・2420は甕で、2420の甕は体部外面に刷毛目、内面に指頭痕とヘラ削りが施されている。2421は皿、2422～2424は鉢、2425は須恵器甕である。2426～2428はサヌカイト製品で、2427はナイフ形石器、2428は縦長剥片である。2429～2450は第154図第21層から出土した遺物である。2429は弥生土器器台で、軸部外面に沈線・円形の穿孔が認められる。2430はサヌカイト製の打製石斧である。2431～2433は須恵器坏蓋、2434～2436は須恵器高台付坏である。2437・2438は須恵器高台付壺、2439・2440は須恵器甕である。2441は須恵器坏、2442は須恵器皿、2443は須恵器坏である。2443の須恵器坏は内外面に火襷が残り、９世紀と考えられる。2444は須恵器壺の口縁部、2445は須恵器高坏、2446は須恵器鉢である。2447・2448は土師質甕である。2449は砂岩製の石錘で、胴の張った紡錘形を呈し、側辺部に溝を全周させる。2450は土師器坏である。2451～2465は第154図第21・22・23・26層から出土した遺物である。2451は７世紀中葉（ＴＫ217型式）の須恵器坏蓋、2452は坏蓋で、天井部外面にやや扁平な摘みが付く。2453～2457は８世紀の須恵器高台付坏で、底部端に断面方形あるいは外方に踏ん張る高台が付く。2457は底部の高台内側に爪形圧痕が認められる。2458～2460は須恵器高坏で、脚の長いものと短いものがある。2461は大型の須恵器甕、2462・2463は須恵器壺、2464は土師質甕である。2465は土師器椀である。底部端に断面方形の高台が付き、平底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。器形的には須恵器であるが、焼成は土師器である。2466～2467は第154図第29層から出土した遺物である。2466・2467は須恵器坏、2468は須恵器高坏、2469・2470は大型の須恵器甕である。2471は須恵質の瓦で、凸面に４㎜程度の格子目叩きが、凹面は布目が施されている。2472は土師器小皿で、底部はヘラ切りされている。2473・2474は流紋岩製の砥石である。2475～2491は第154図第31層から出土した遺物である。2475は６世紀中葉（ＴＫ10型式）の須恵器坏蓋、2476は７世紀中葉（ＴＫ217型式）の須恵器坏蓋である。2477～2478は７世紀前半（ＴＫ209型式）の須恵器坏身である。2480は底部端に外方に踏ん張る断面方形の高台が付く須恵器高台付坏である。2481～2483は須恵器高坏である。2481は６世紀中葉（ＴＫ10型式）で、脚部に長方形の透かし、外面に描き目が認められる。2482は７世紀前半（ＴＫ209型式）で、脚部に４方向の透かしが認められる。2484～2487は大型の須恵器甕で、口縁端部の外方が肥厚する。2487は体部外面に併行叩きが、内面には同心円状の青海波文が認められる。2488は須恵器鉢、2489は須恵器壺である。2490・2491は土師質甕である。2492～2498は第154図第52層から出土した遺物である。2492～2494は須恵器坏蓋、2495は須恵器皿、2496は須恵器壺、2497は須恵器高台付坏、2498は流紋岩製の砥石である。

以上ＳＲ04の堆積土及びそれぞれの出土遺物・時期をみると上位から下位にかけて、弥生土器中期～後期や古墳時代（６世紀～７世紀）、古代、中世の遺物が混在して出土していることがわかる。しかし下位層になるに従い、須恵器製品が多くなり、古代の遺物を中心にしていることからこのため時期決定できないが、概ね古墳時代から古代にかけて機能していた自然流路と考えたい。



第162図　SR04出土遺物実測図④

ＳＲ05

ＳＲ05は第Ⅱ調査区北東部で検出した自然流路跡である。北部で自然流路ＳＲ04に切られており、平面的な切り合い関係からは一番古いことがわかる。

自然流路跡の各層から弥生土器、石製品、須恵器、土師器、黒色土器、土師質土器が多量に出土している。

2499～2506は弥生土器で、2499・2500が壺、2501～2503が甕、2504・2505が高坏、2506が支脚である。2507は流紋岩製の磨製石斧、2508・2509は砂岩製の台石、2510は流紋岩製の石包丁、2511・2512はサヌカイト製の石包丁である。2513～2532は須恵器である。2513は坏蓋、2514～2516は坏身、2517～2520は高台付坏、2521～2524は坏、2525～2529は高坏、2530は壺、2531・2532は壺、2533・2534は土師器坏、2535～2537は土師器坏、2538～2540は土師器椀、2541は口縁部外面に鍔の付く土師質長胴甕、2542は口縁部が「く」の字に屈曲する長胴甕、2543・2544は土師質甕、2545は口縁部が「く」の字に屈曲し、その下部に鍔の付く土師質長胴甕である。2546～2548は須恵器椀である。体部が内湾気味に外上方に延び、底部は突出する平高台で、底部は回転糸切りされている。2549は黒色土器椀で、平底状の底部縁辺に断面方形の高台が付き、体部は内湾しながら外上方に延びる。内面にはヘラ磨きが密に施され、更に上部に十字に連結輪状のヘラ磨きが施されている。2550は土師質土釜、三足土釜である。2551は頁岩製の銅剣形石製品である。柄部分は約2.3cm、断面概ね六角形、刃部は残存長約3.5cm、断面菱形である。柄部分から約2.5cmの所に穿孔が認められる。

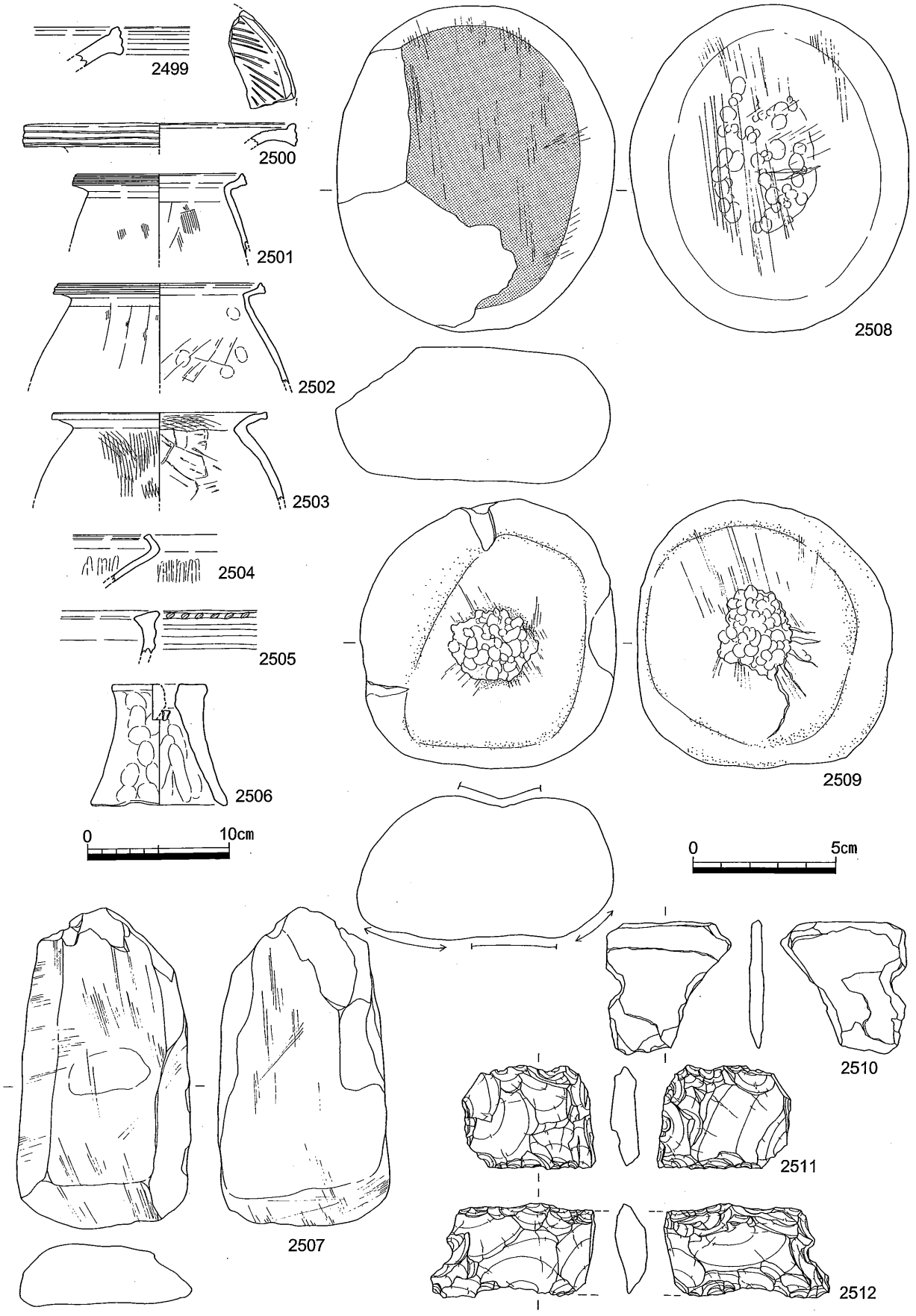
以上ＳＲ05の堆積土の遺物及び時期をみると、弥生土器中期～後期や古墳時代（６世紀～７世紀)、古代、中世の遺物が混在して出土していることがわかる。明確に時期決定できないが、概ね古墳時代から古代にかけて機能していた自然流路と考えたい。

７．柱穴

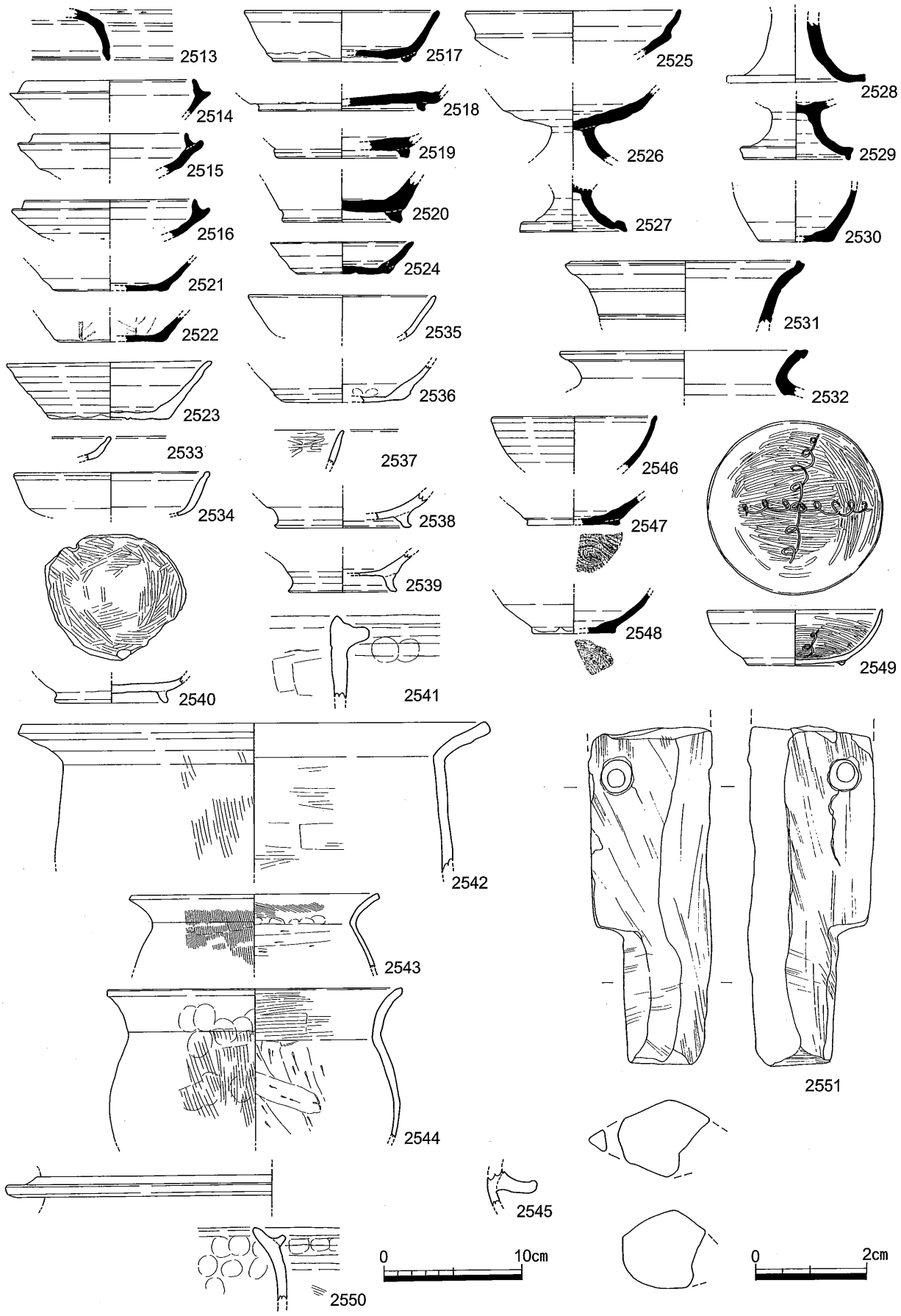
第Ⅱ調査区で検出した柱穴は941穴で、調査区中央部で密に検出している。この調査区南部では弥生時代中期末頃の掘立柱建物を構成する柱穴を多数検出している。

ＳＰ1913

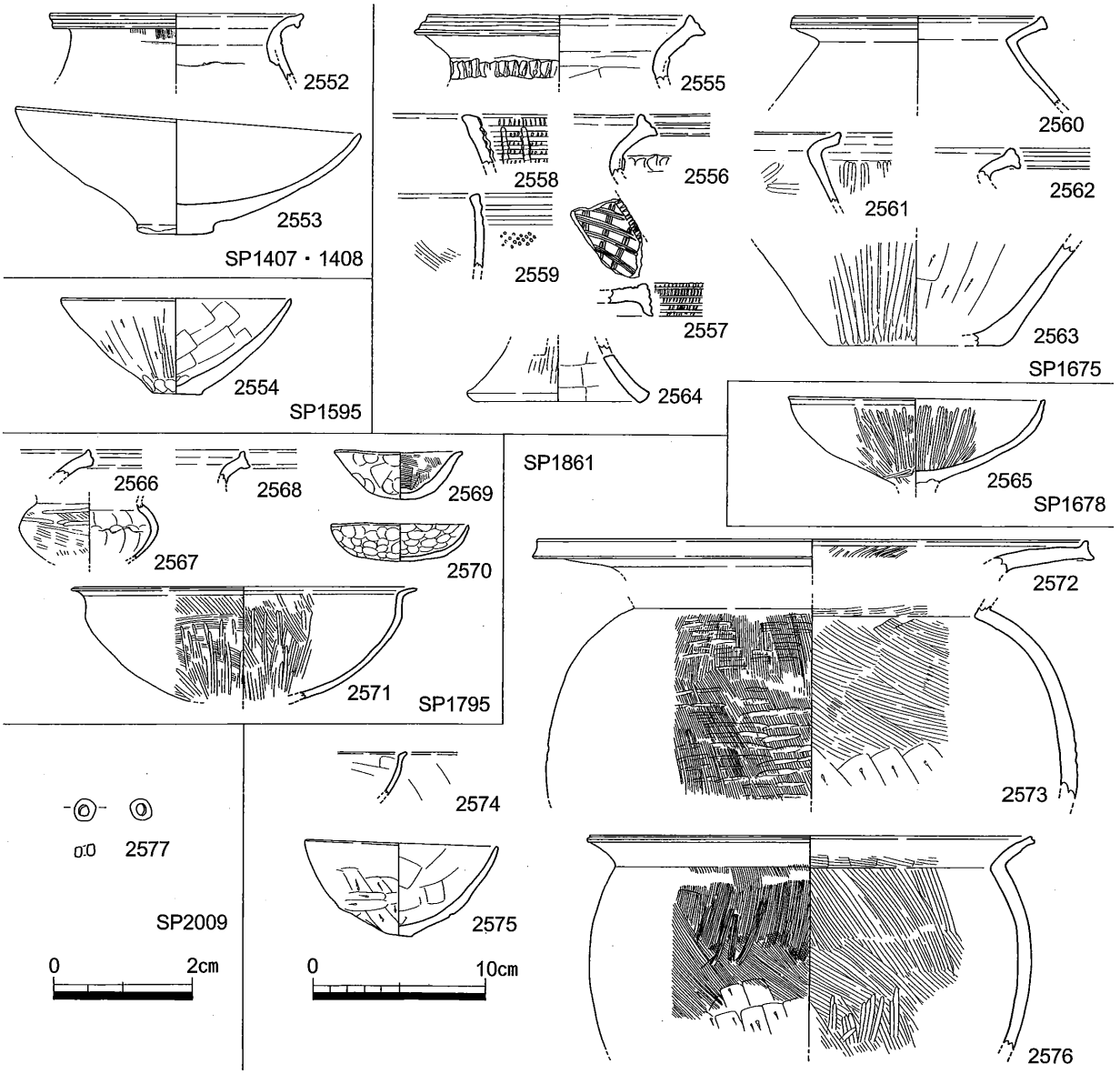
ＳＰ1913は第Ⅱ調査区南部、標高23.01ｍで検出した柱穴跡である。平面形態は若干歪な隅丸方形を呈する。ここでは周辺で同規模の柱穴を多数検出していることから柱穴跡としたが、土坑の可



第163図　SR05出土遺物実測図①



第164図　SR05出土遺物実測図②



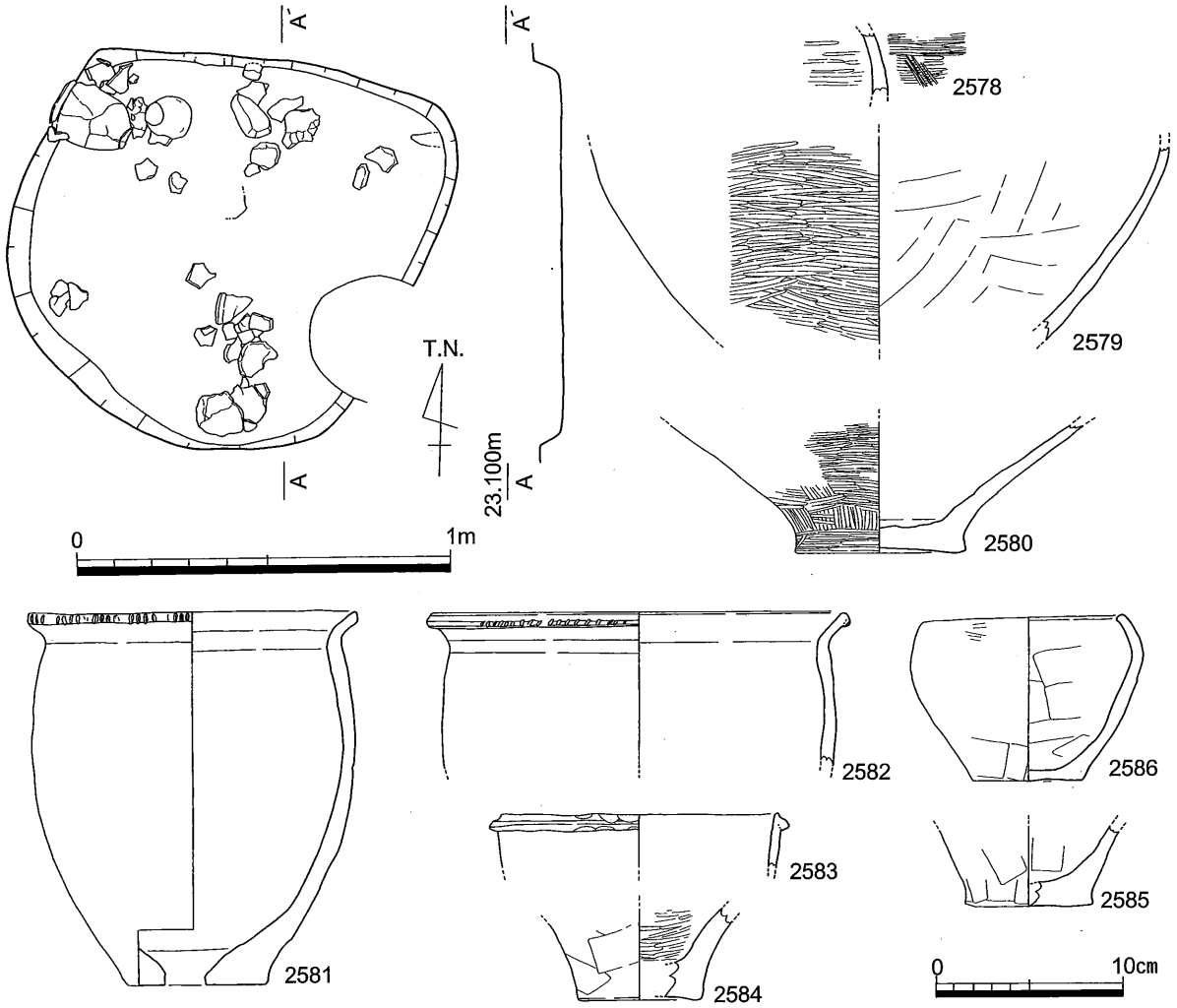
第165図　柱穴出土遺物実測図

能性もある。この柱穴跡はかなり削平されているものと思われ、掘削深度は浅く、断面形態は底面が平らな浅い箱型を呈する。規模は東西方向約1.25m、南北方向約1.06m、検出面からの深さは約0.06mを測る。土坑跡の堆積土は単層で、基盤層である淡茶黄色粘質土を含む茶灰色粘質土が堆積している。

柱穴跡内から弥生土器がまとまって出土している。2578～2580は壺、2581～2585は甕、2586は鉢である。2578は体部外面に横方向のヘラ磨きの後に、横方向に4条の沈線を、斜め方向に4条の沈線を施している。2579は体部下半部で、外面には横方向のヘラ磨きが、密に施されている。2580は底部で、突出底の底部から体部はかなり広がるように延びる。突出部外面には横方向の、体部外面には縦方向のヘラ磨きの後、横方向のヘラ磨きと丁寧に調整されている。2581は甕の底部に穿孔の認められる甑である。体部は紡錘形を呈し、頸部は「く」の字に屈曲させ、口縁端部は短く、そのまま終わらせる。口唇部には刻み目が施されている。2582は甕で、口縁端部外面下端に刻み目を持

つ。2583は突帯文系の甕で、口縁部外面に断面三角形状の突帯を巡らす。2584・2585は甕の底部である。2586は鉢で、口縁部が内湾し、端部はそのまま終わらせる。内外面に板ナデが施されている。2581～2586は器壁の摩滅が著しく、明確な調整は認められない。

時期は柱穴内出土遺物から、弥生時代前期中葉と考えられる。

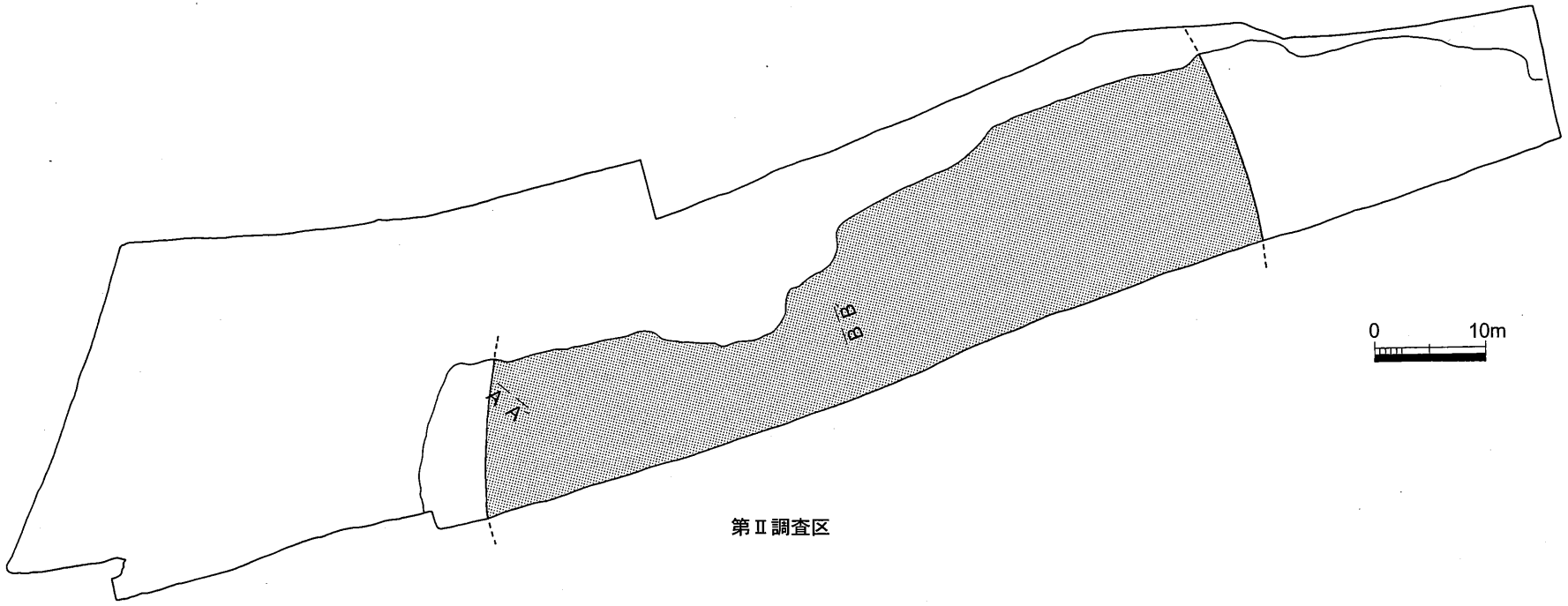


第166図　SP1913平・断面図，出土遺物実測図

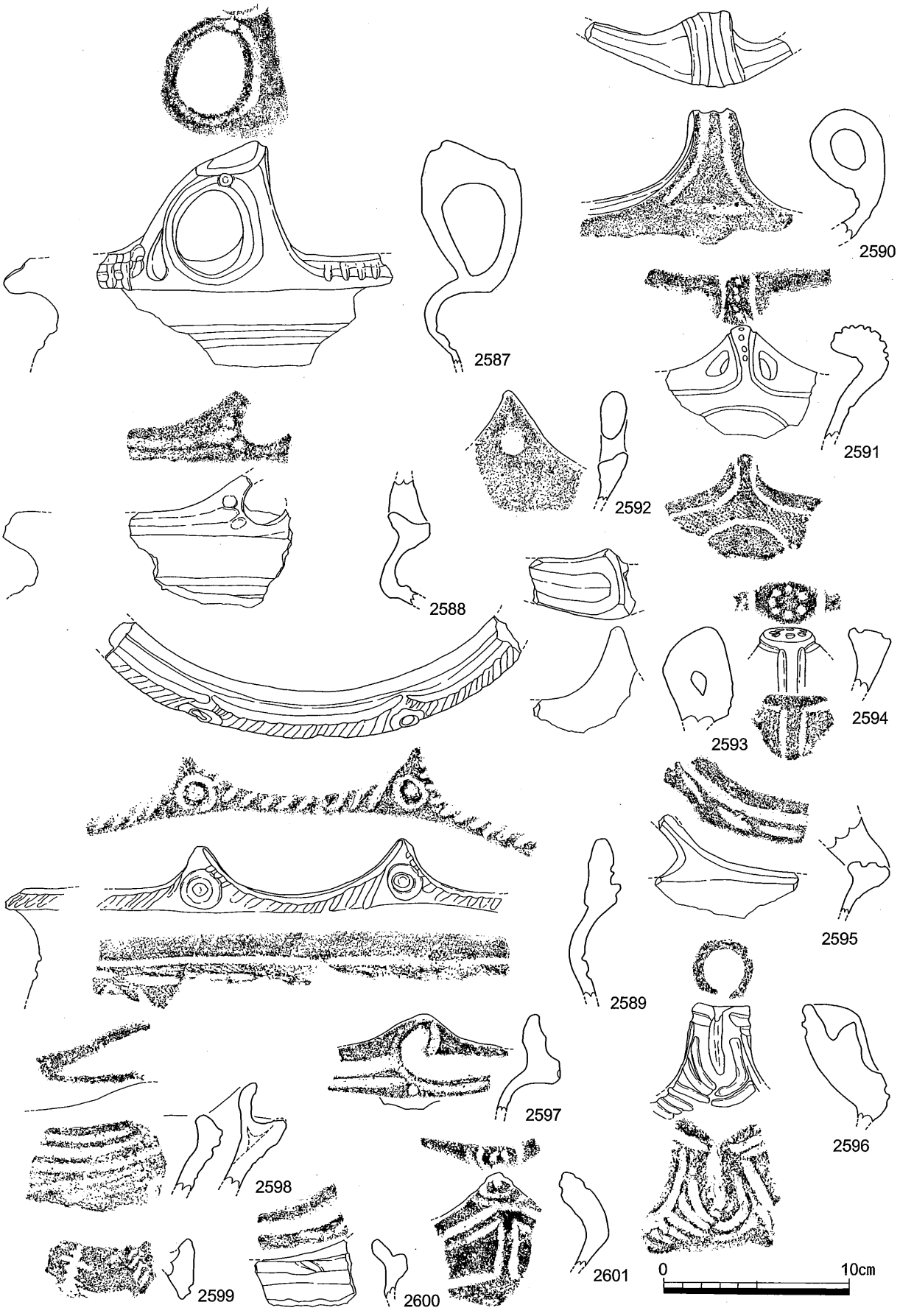
上記以外の柱穴から出土した遺物は、少なく弥生時代中期末～後期にかけてのものが主体を占める。ＳＰ1861からは、壺・鉢が出土している。2572・2573は壺で、体部は球形を呈し、口縁部は朝顔形に広がり、端部を上方に摘み上げる。体部外面には叩き目の後、刷毛目が施され、内面には下半にヘラケズリが、上半に刷毛目が施されている。2574・2575は口径約11cmの小形の鉢で、2576は口縁部を「く」の字に屈曲させるもので、口径約26cmの大型の鉢である。2577はＳＰ2009から出土したガラス製の臼玉である。

8．包含層出土遺物

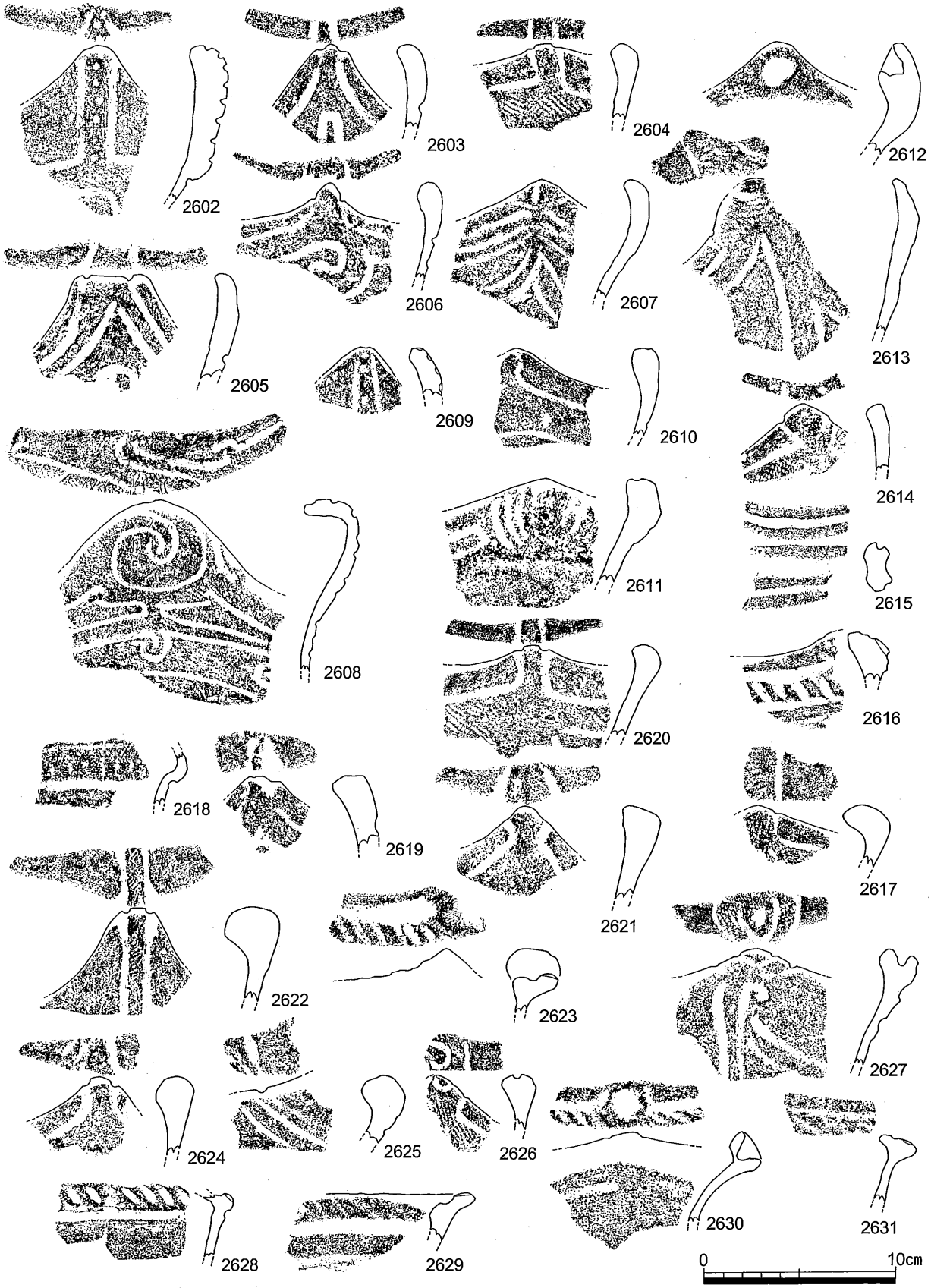
第Ⅱ調査区ほぼ中央部で、検出した弥生時代以降の遺構の基盤層である黄茶色粘質土（第167図Ａ－Ａ´）、暗茶黄色粘質土（第167図Ｂ－Ｂ´）から多量の縄文土器及び石製品が出土した。この



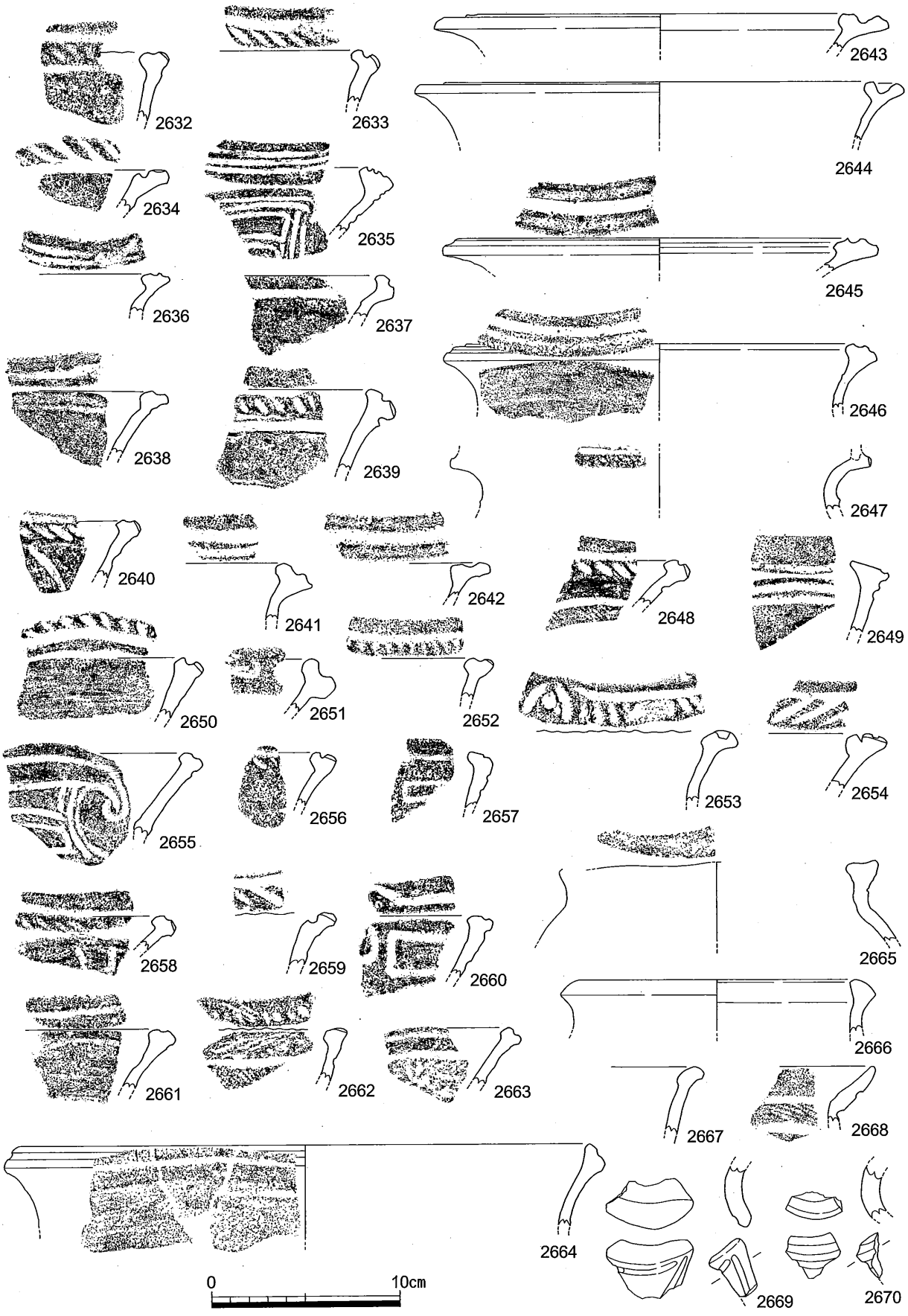
第167図　縄文包含層範囲図



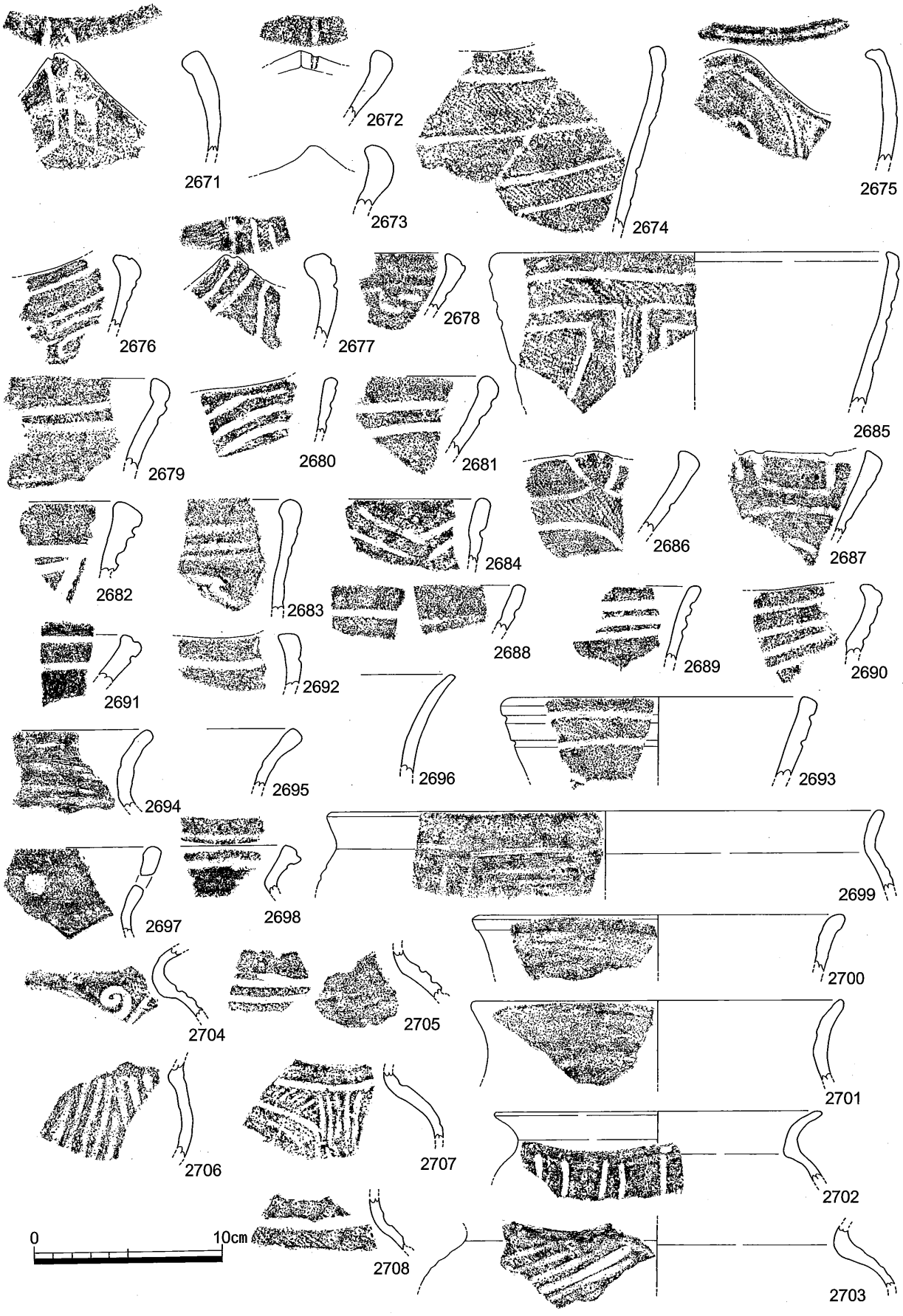
第168図　縄文包含層出土遺物実測図①



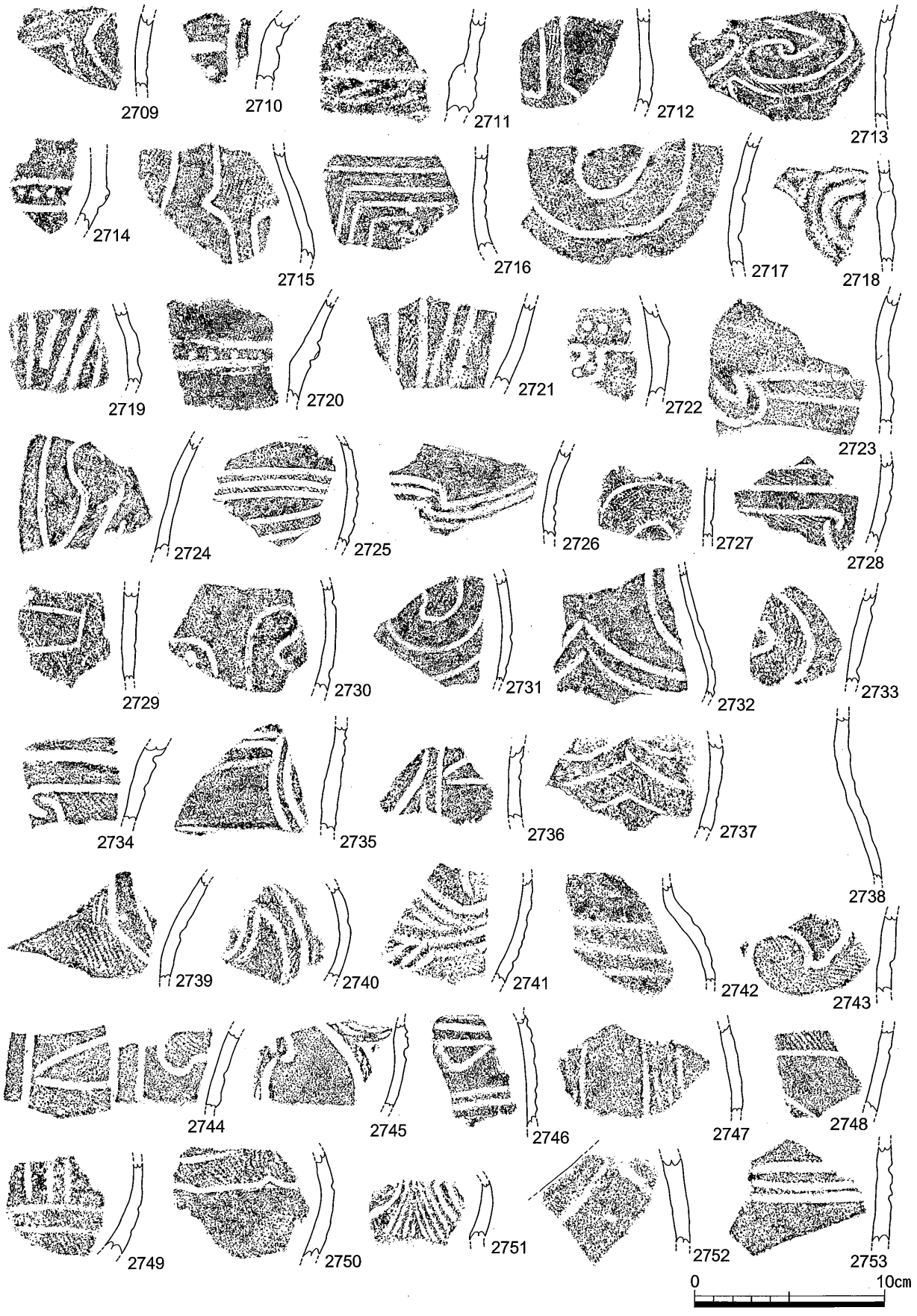
第169図　縄文包含層出土遺物実測図②



第170図　縄文包含層出土遺物実測図③



第171図　縄文包含層出土遺物実測図④

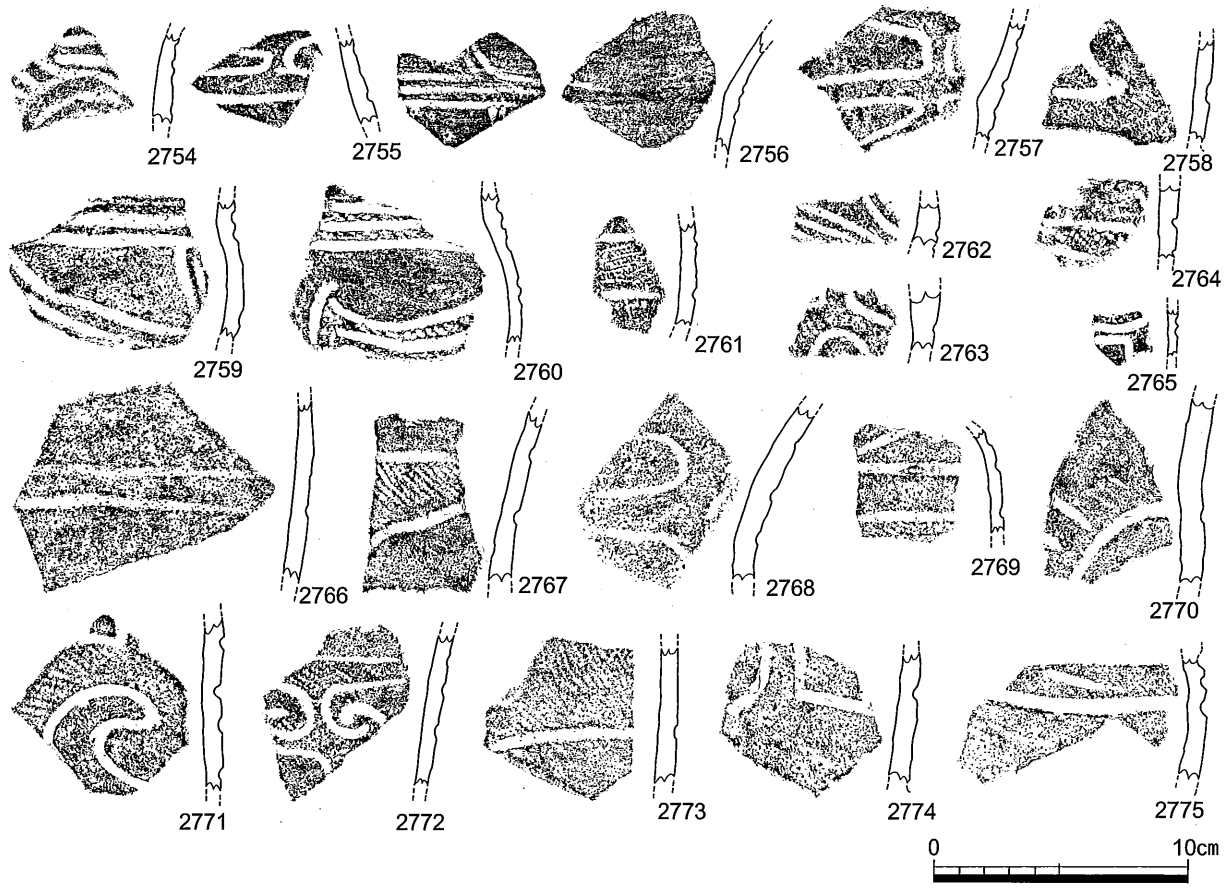


第172図　縄文包含層出土遺物実測図⑤

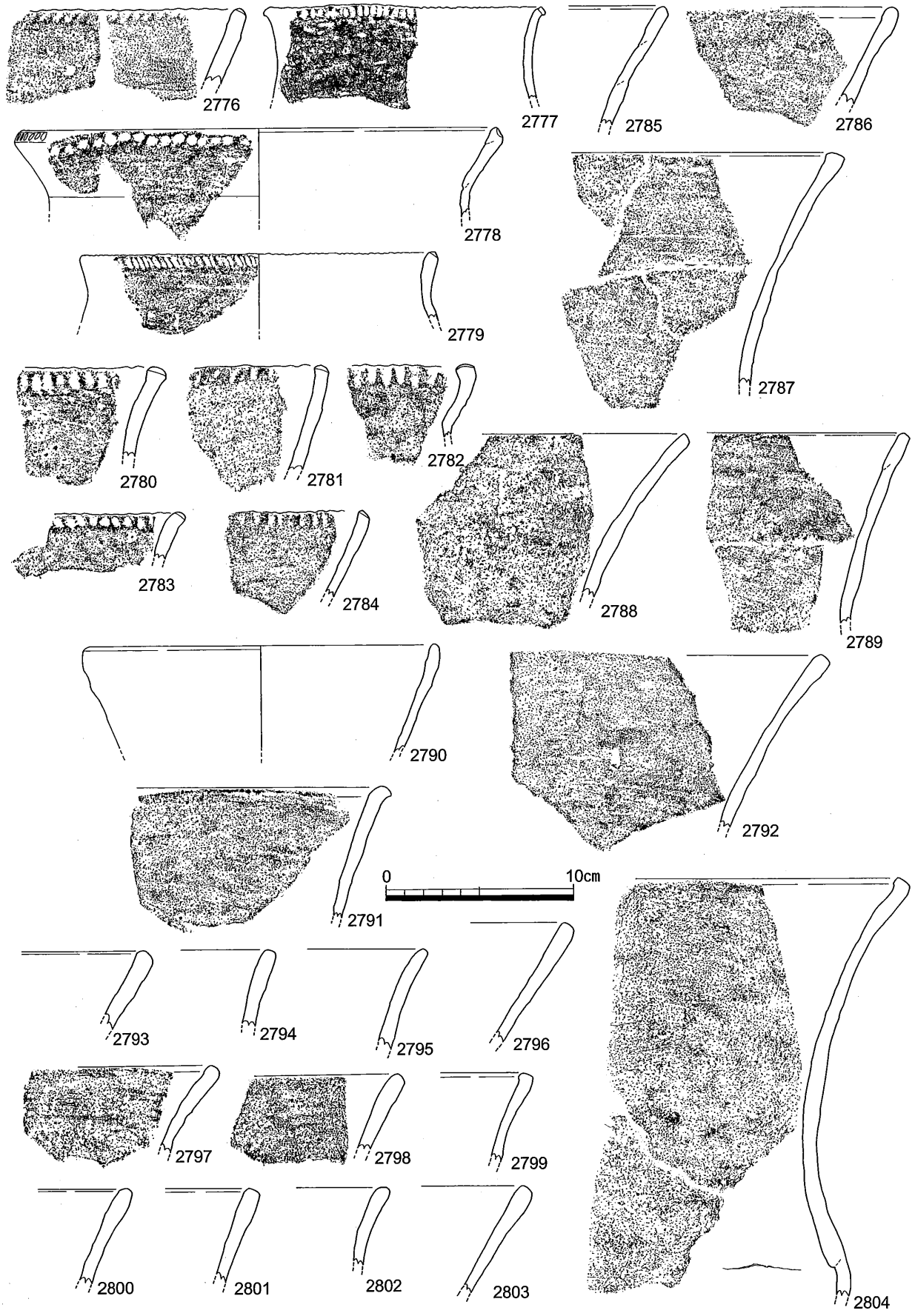
縄文土器・石器包含層は第Ⅱ調査区のこの部分のみにあり、第Ⅰ調査区、第Ⅲ調査区では確認していない。範囲は東西約50m、南北約30mで、深さは約0.3mを測る。このことからこの包含層は、微高地の全域にあるのではなく、微高地全体からも部分的に窪んだ部分に堆積した包含層と考えられる。

2587～3014は縄文土器で、2587～2775は有文深鉢、2776～2845は粗製深鉢、2846～2964は浅鉢、2965～2970は双耳壺、2971は土偶、2972～3014は深鉢あるいは浅鉢の底部、3015～3041は石製品である。

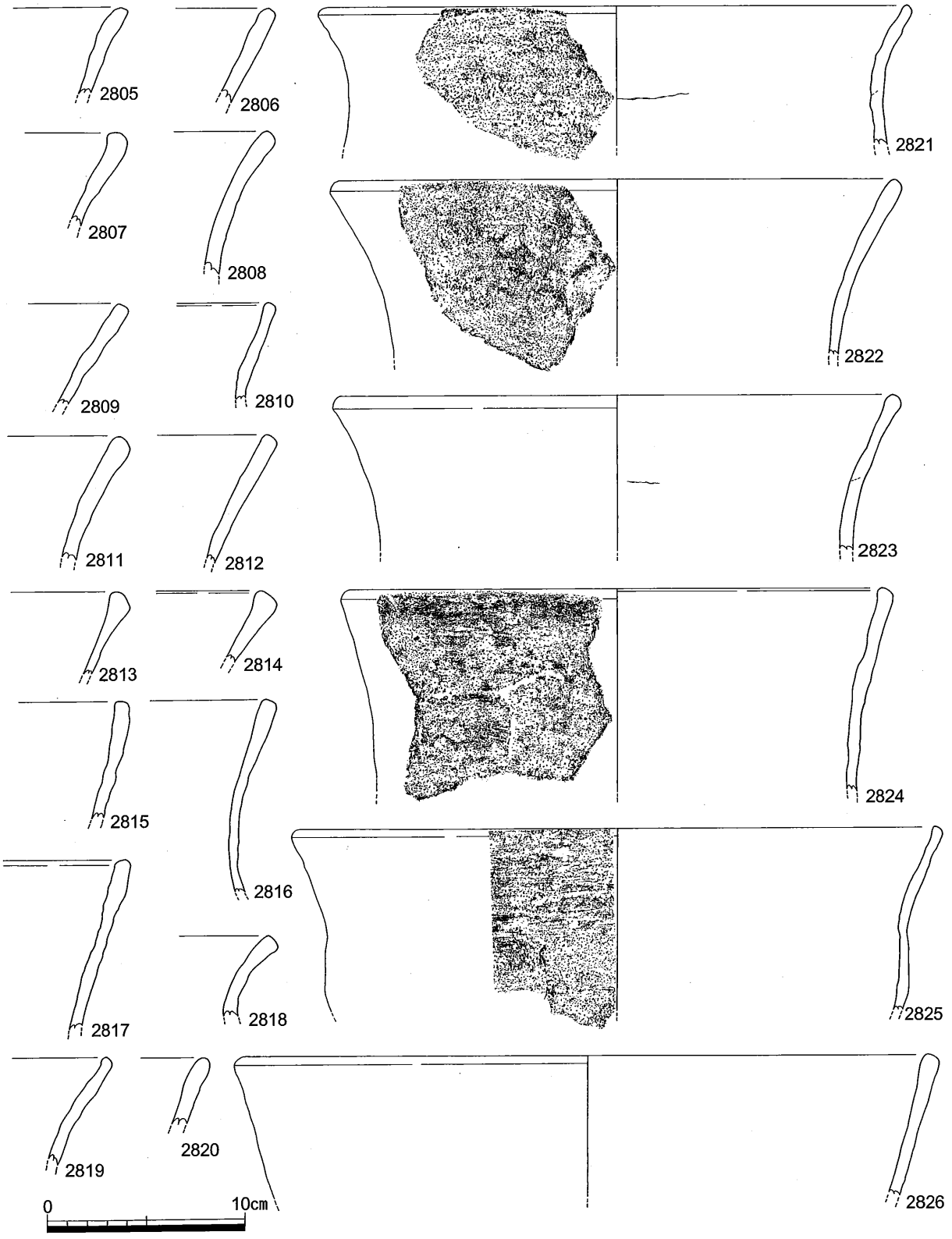
2587～2775は有文深鉢で、口縁部の拡張・肥厚と共に加飾がかなり認められる。2632～2664で口縁端部の形状を見ると内方・外方・両方に拡張し、上面に１～２条の沈線と刻み目が施されている。拡張の程度は小さく、沈線も１条のものが主体を占める。文様は横方向を基調とし、２本一単位の沈線が主体で、３本一単位の沈線も認められる。文様には入組文・蕨手状文・重弧文・鉤手文などが認められる。沈線間は縄文帯と磨消縄文帯がある。2587は口縁部を突起状に拡張し、前後左右上方に穴が開き、口縁部には刻み目が施されている。頸部は短く屈曲し、無文である。2589は山形口縁で、刻み目を有し、頸部は無文で短く屈曲する。2611は突起状口縁部外面を僅かに肥厚させ、外面に左右それぞれが内側に向く３条の沈線を持つ。この文様は津雲Ａ式期に認められる文様である。2776～2845は粗製深鉢で、2776～2784は口唇部に刻み目が認められる。これら以外は沈線などなく、内外面の調整として条痕が施されている。体部は強く張り、頸部は外反しながら上方に延び、口縁端部はそのまま終わらせる。2846～2964は浅鉢である。2846～2908は外面に文様のある浅鉢で、器



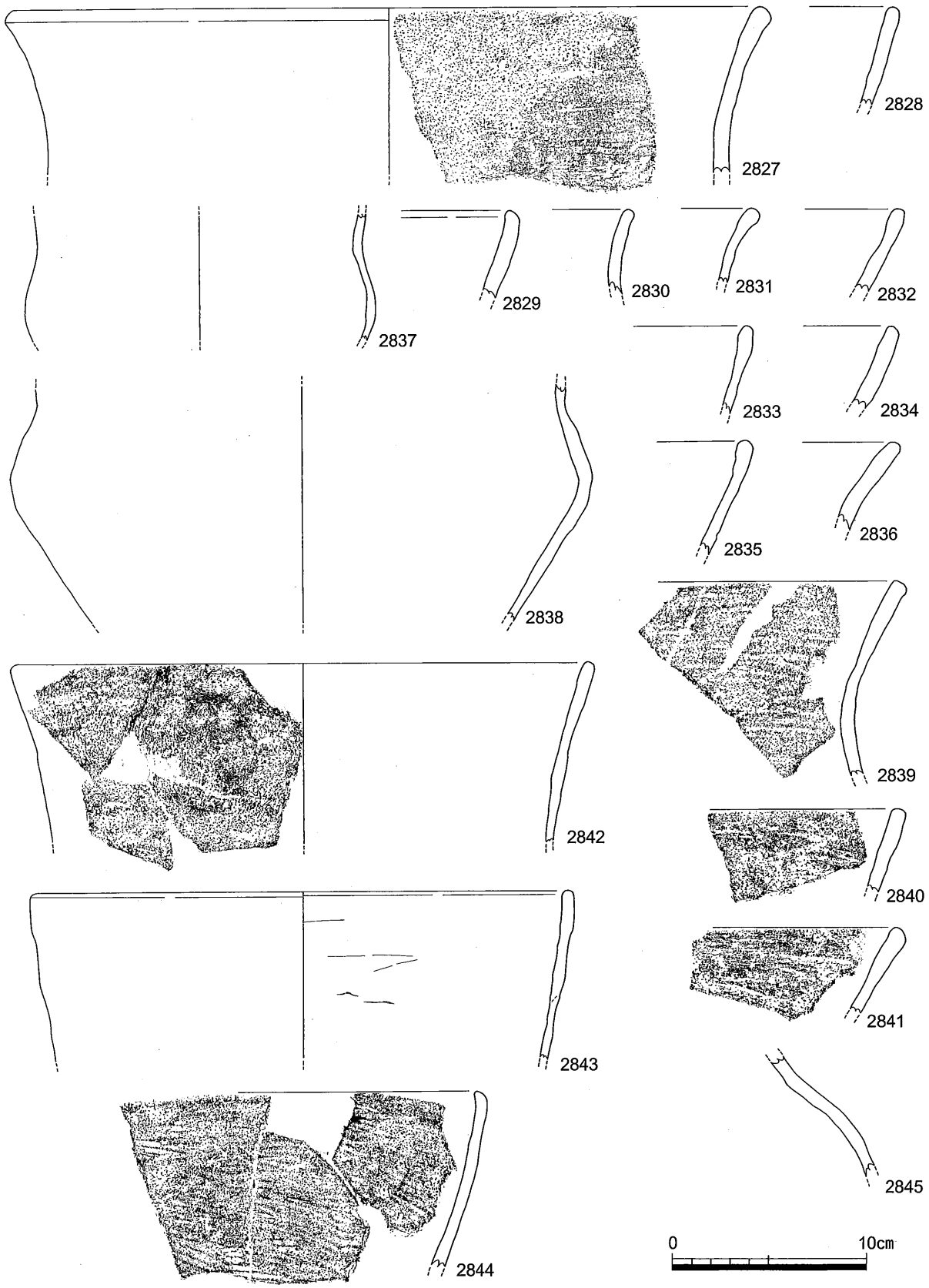
第173図　縄文包含層出土遺物実測図⑥



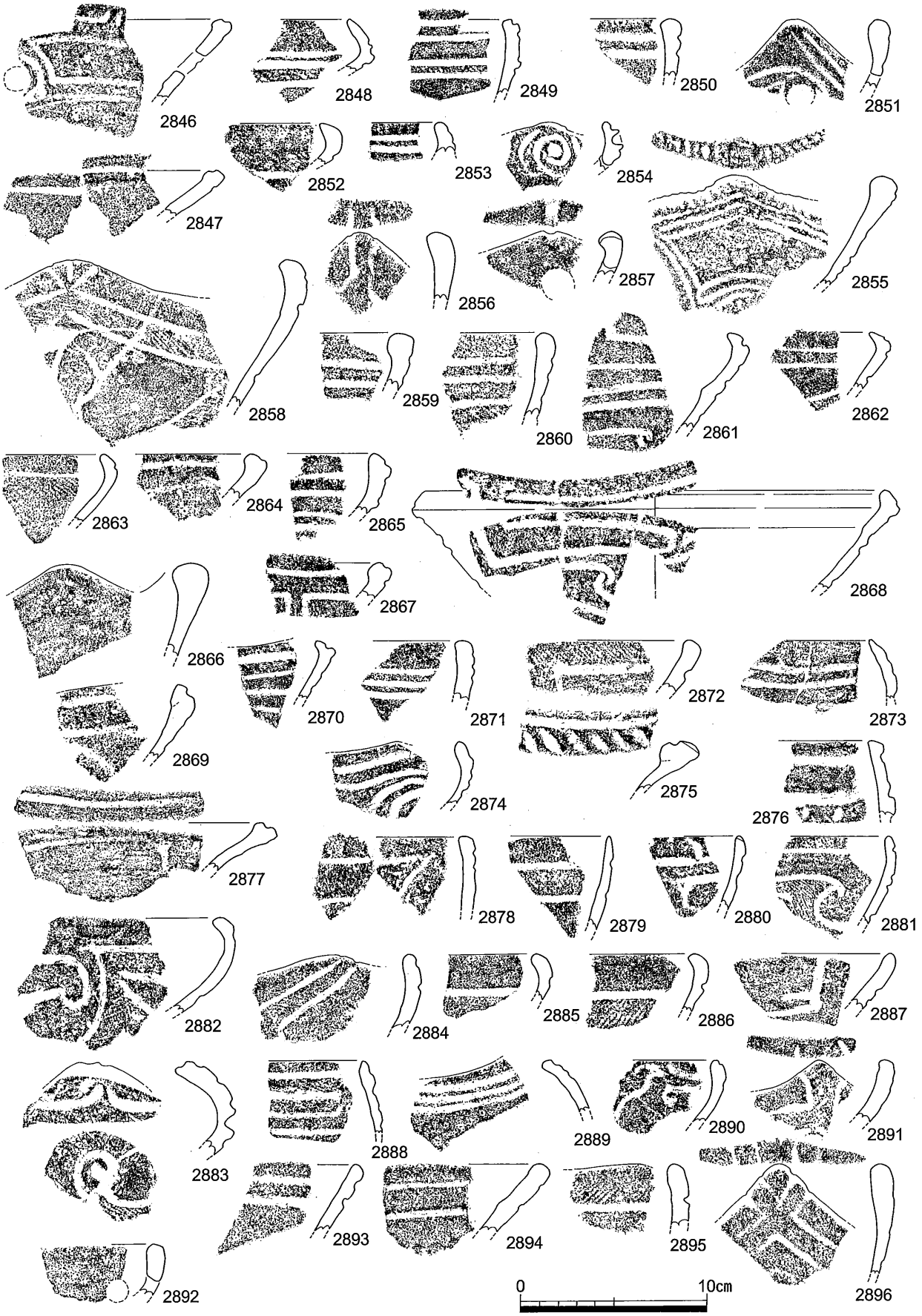
第174図　縄文包含層出土遺物実測図⑦



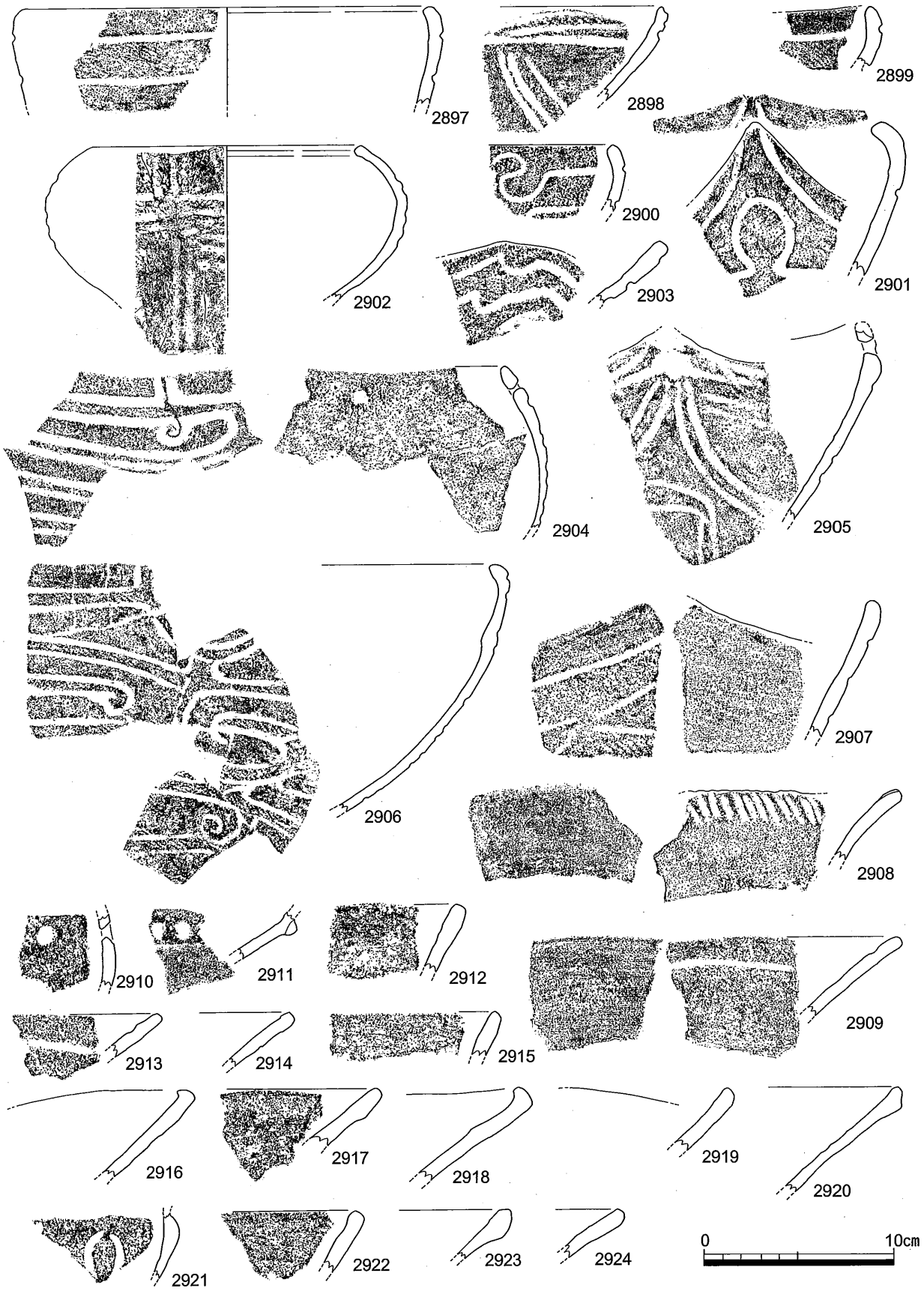
第175図　縄文包含層出土遺物実測図⑧



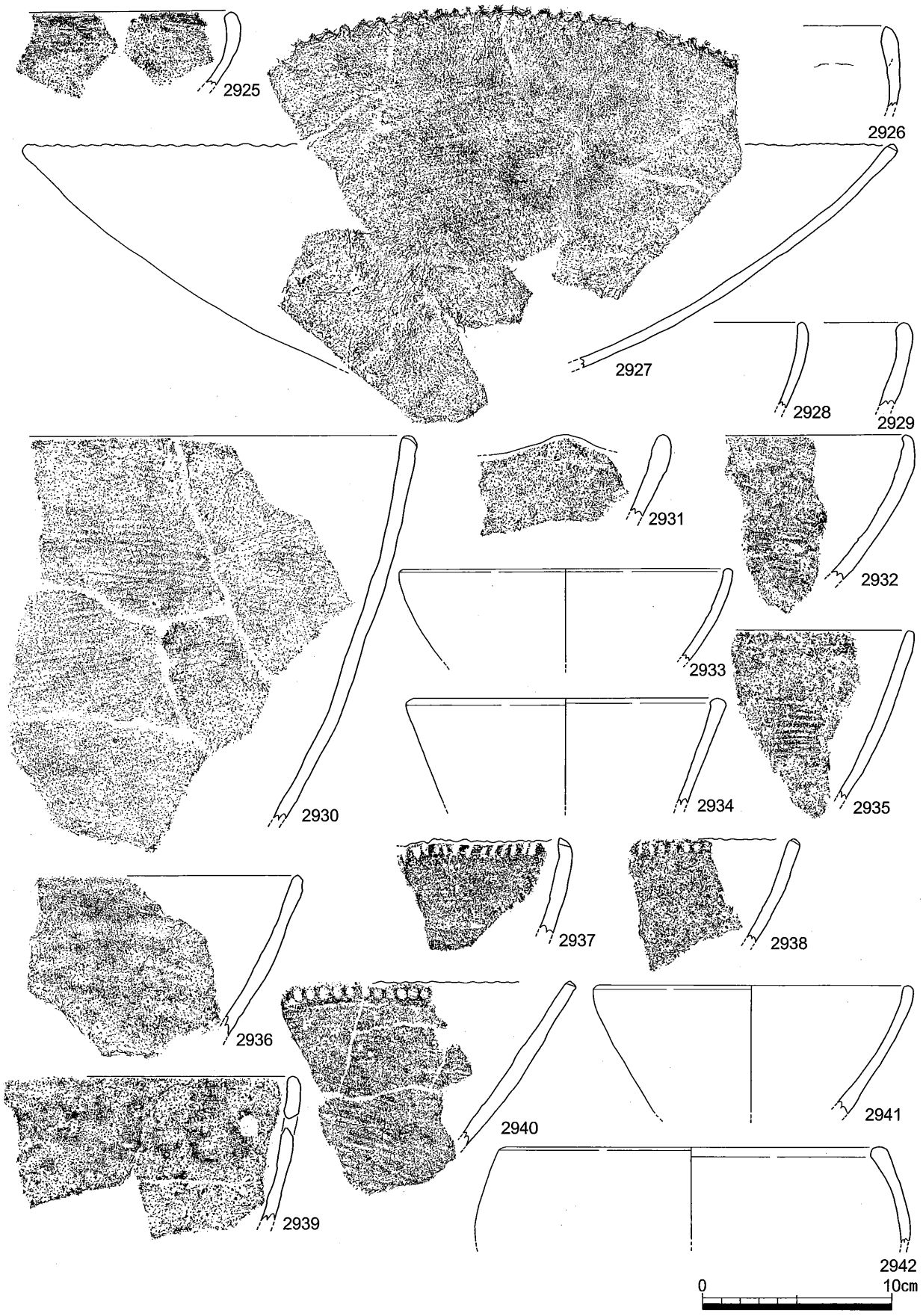
第176図　縄文包含層出土遺物実測図⑨



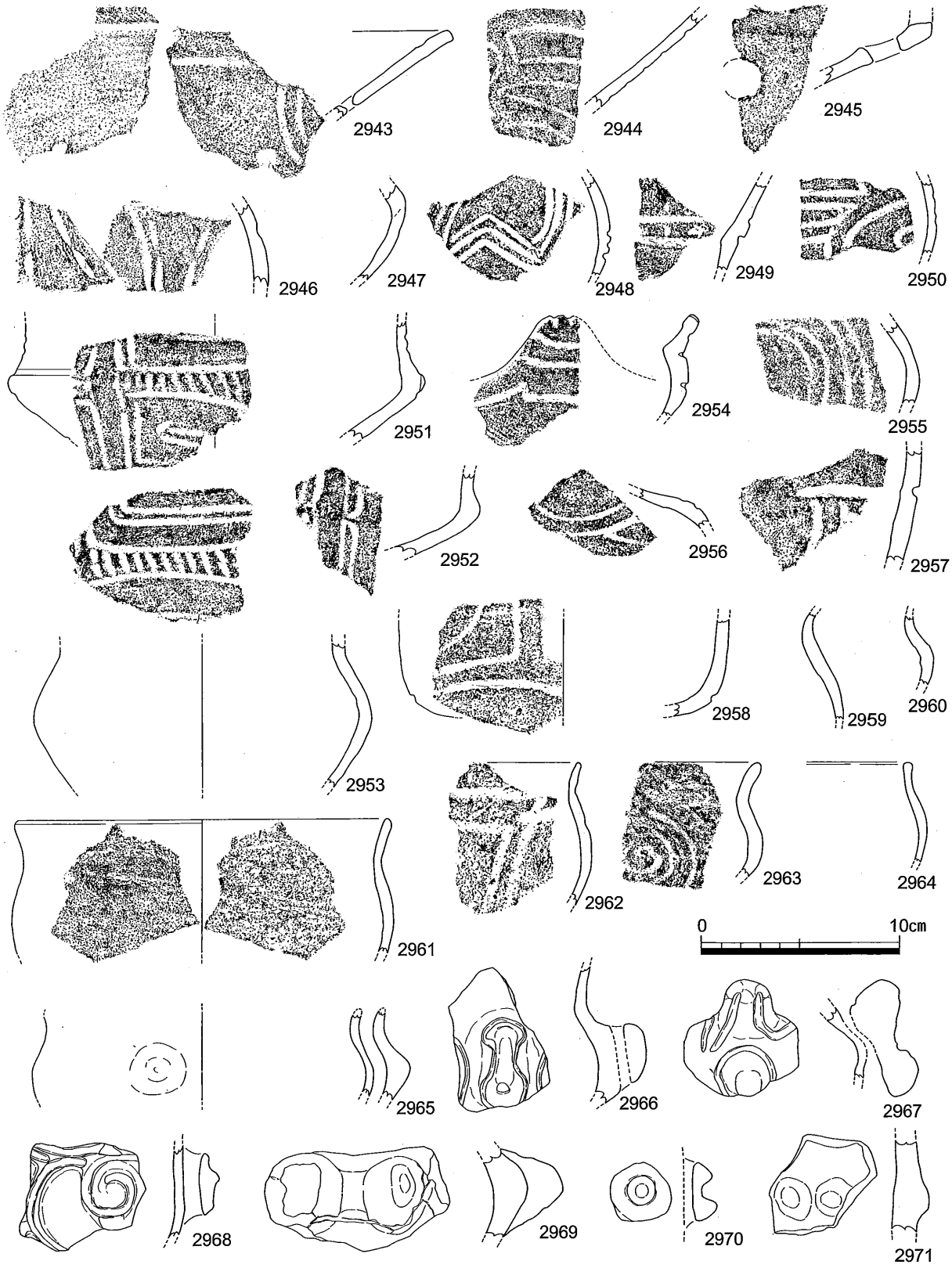
第177図　縄文包含層出土遺物実測図⑩



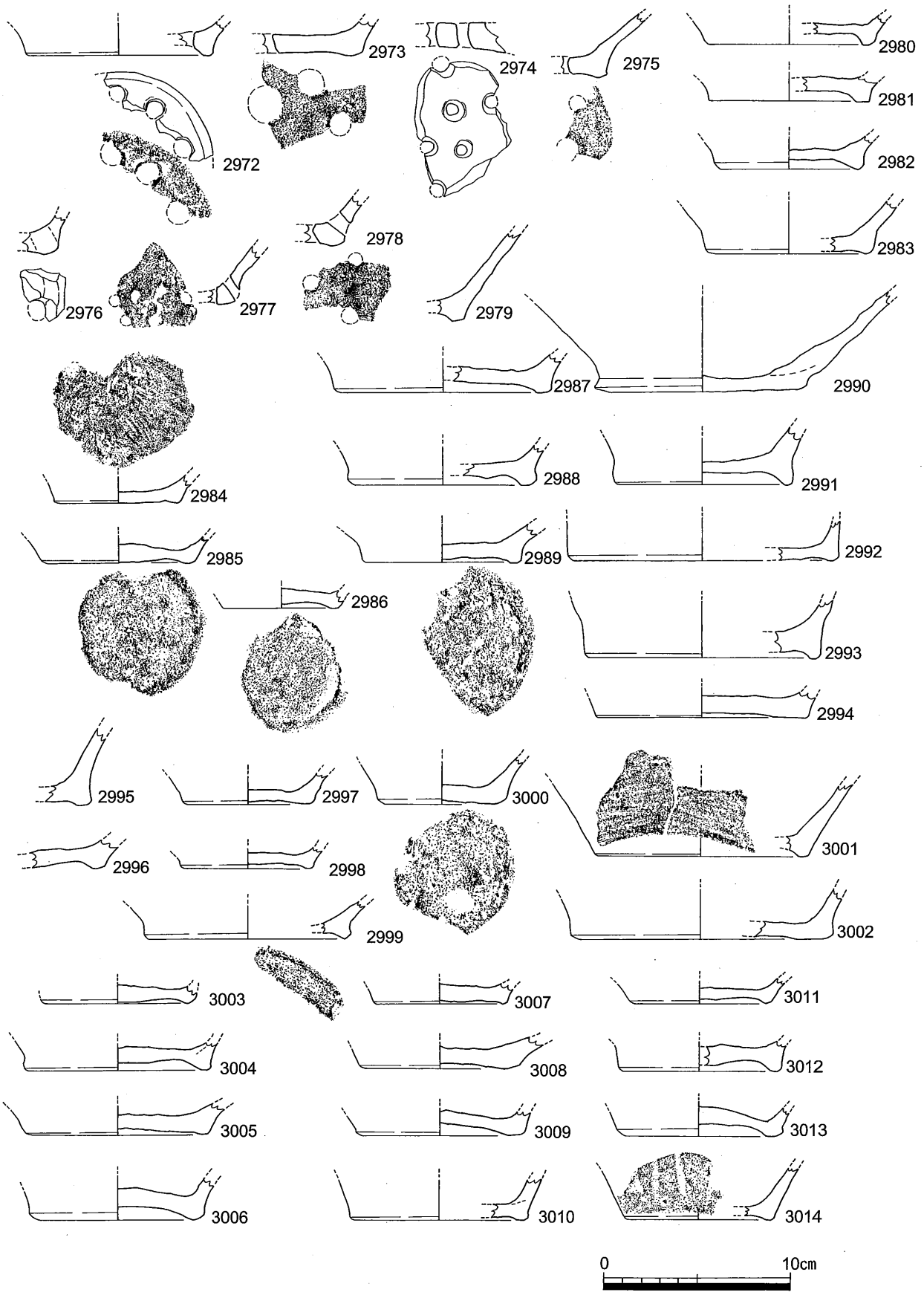
第178図　縄文包含層出土遺物実測図⑪



第179図　縄文包含層出土遺物実測図⑫



第180図　縄文包含層出土遺物実測図⑬



第181図　縄文包含層出土遺物実測図⑭

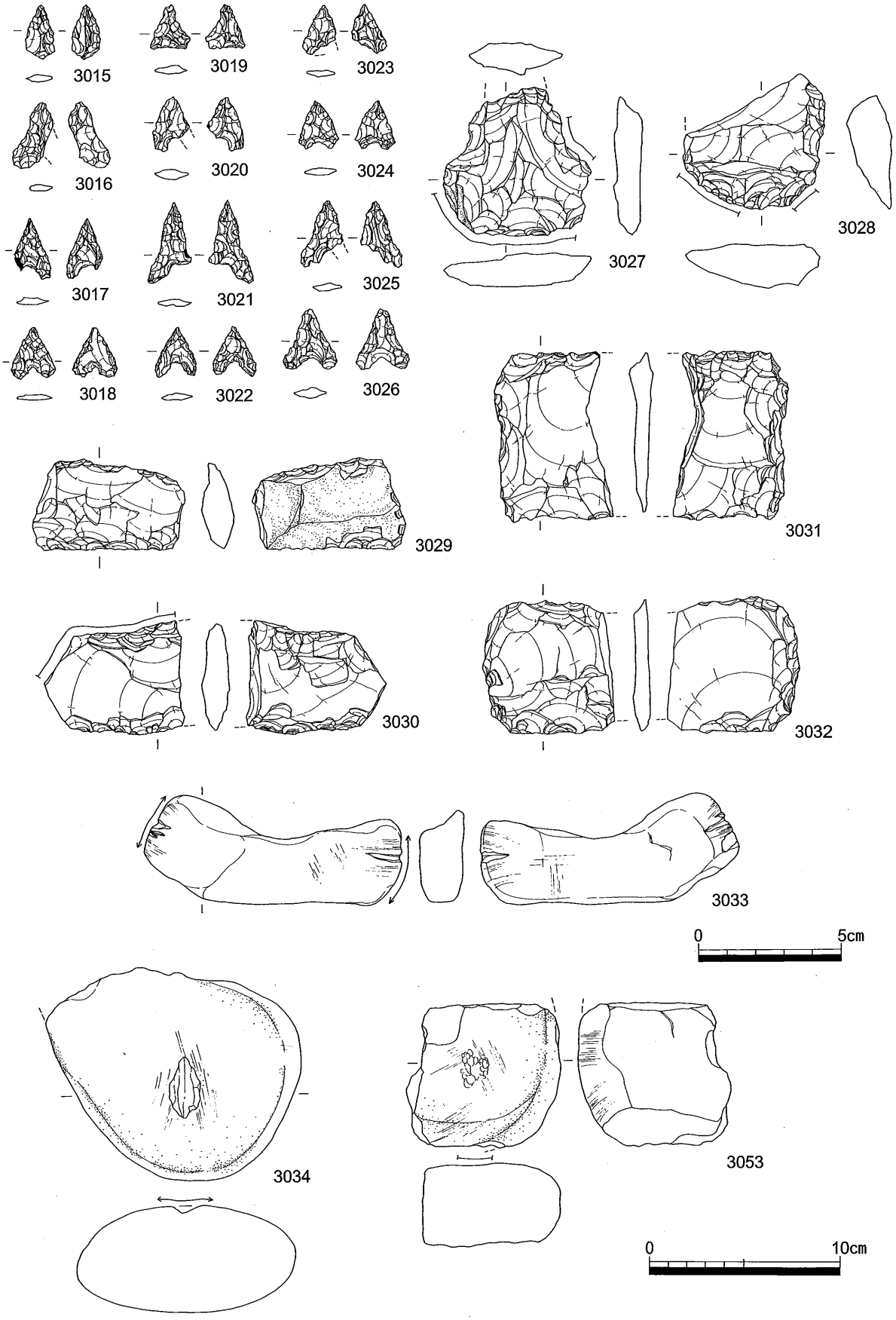
形的には皿のように大きく開くもの、やや内湾気味に立ち上がるもの、ボール状に強く内湾するものに分けられる。口縁部の形状は短く内湾するもの、「C」字形に内湾させるもの、真っ直ぐ延びるもの、外面を僅かに帯状に肥厚させるものがあり、端部の形状はそのまま丸く終わらせるものと沈線を施すために拡張させているものがある。文様は2条あるいは3条を一単位として横方向を基調として描かれている。細部には鉤手状文などが認められる。2854は波状口縁の突起部外面を若干帯状に肥厚させ、渦巻文を施すもので、縁帯文土器である津雲A式期に相当する。口縁端部外面を帯状に肥厚させるものはこれ以外には認められず、少量である。2909～2942は無文浅鉢で、器形的には皿のように大きく開くもの、やや内湾気味に立ち上がるもの、ボール状に強く内湾するものに分けられる。皿のように大きく開くものの口縁部の形状は、2914のようにそのまま終わらせるもの、2909のように口縁端部はそのまま終わらせるが、口縁部内面に一条の沈線を持つもの、2918のように口唇部内面を肥厚させ、体部内面に段を有するもの、2926のように口唇部に刻み目を持つものがある。やや内湾気味に立ち上がるものの口縁部の形状は、2930のように口唇部に刻み目のあるもの、2931のように口縁部が波状になるもの、2936のようにそのまま終わらせるものがある。2910・2939は口縁部下に穿孔が認められる。2943は皿状に開く浅鉢で、口縁部内面に1条の沈線と体部内面に2条一単位のの沈線による文様が施され、口唇部には縄文、体部には焼成後穿孔が認められる。2942はボール状に強く内湾するもので、口縁短部を丸く終わらせる。2945は皿状に開く浅鉢で、口縁部が上方に屈曲する。体部内面には段を有し、焼成前穿孔が認められる。2961～2964は壺である。2965～2970は双耳壺とよばれる小型の壺形土器で、胴部両側に相対する一対の把手を持ち、そこに縦方向の穿孔を有する。2965・2968は胴部長径部から肩部に円形の突出部を持つもので、縦方向の穿孔が認められないが、双耳壺とした。頸部から口縁部がやや外反しながら短く延びる。2968は胴部長径部から肩部に2つの突出部を持つ。2967は把手が上下に突出するように延びるもので、表面には沈線と縦方向の穿孔が認められる。2965～2968は肩部の張りが強く、明瞭に肩部を残すものである。概ね中津式期に相当する。2969・2970は肩部が消失した双耳壺で、胴部のほぼ平らな部分に付く把手である。時期は福田K2式古段階期に相当する。2971は土偶と考えられ、厚さ1cm程度の粘土板に乳房状の突出を2個配している。2972～3014は底部で、底部に穿孔の認められる多孔底部と高台状を呈する底部と平底の底部の3種類が認められる。2972～2978は多孔底部で、直径1cm程度の穿孔が現存で6個と多数開けられている。3015～3026はサヌカイト製の石鏃、3027～3032はサヌカイト製のスクレイパーである。3033は形態が長方形状を呈し、左右の小口部分に1～3条の切込みがあることから、石錘と考えられる。3034～3039は砂岩製の台石・叩き石、3040・3041は砂岩製の磨り石である。

以上、縄文土器・石製品の包含層の時期は、双耳壺の時期が若干古相であるが、縄文時代後期前半の松ノ木式併行期と考える。

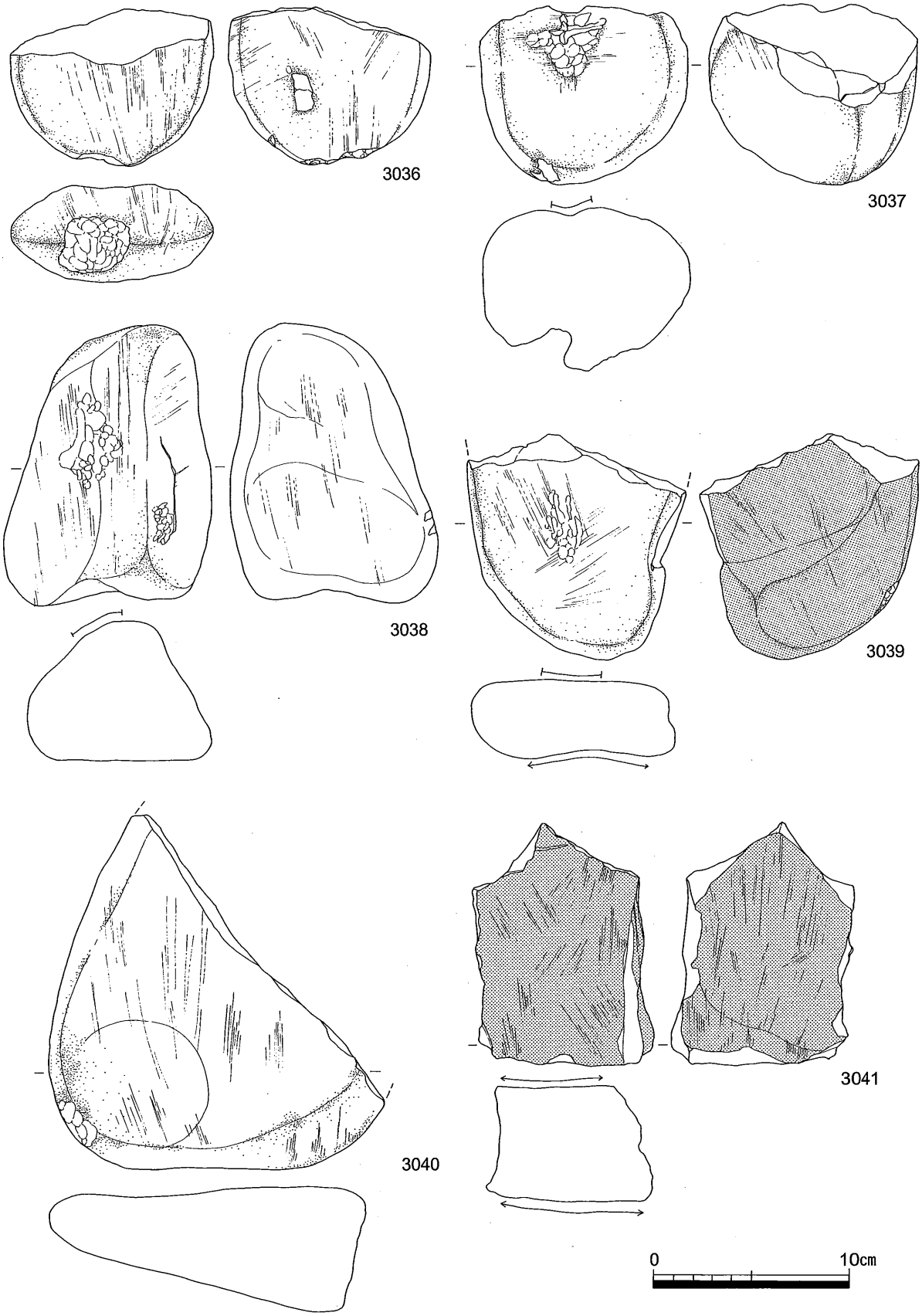
参考文献・引用文献

穂積裕昌 1992「縄文時代後期の壺形土器　－中津・福田K2式土器に伴う双耳壺を中心に－」『同志社大学考古学シリーズ　V　考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会

前田光雄他 2000『松ノ木遺跡』本山町教育委員会

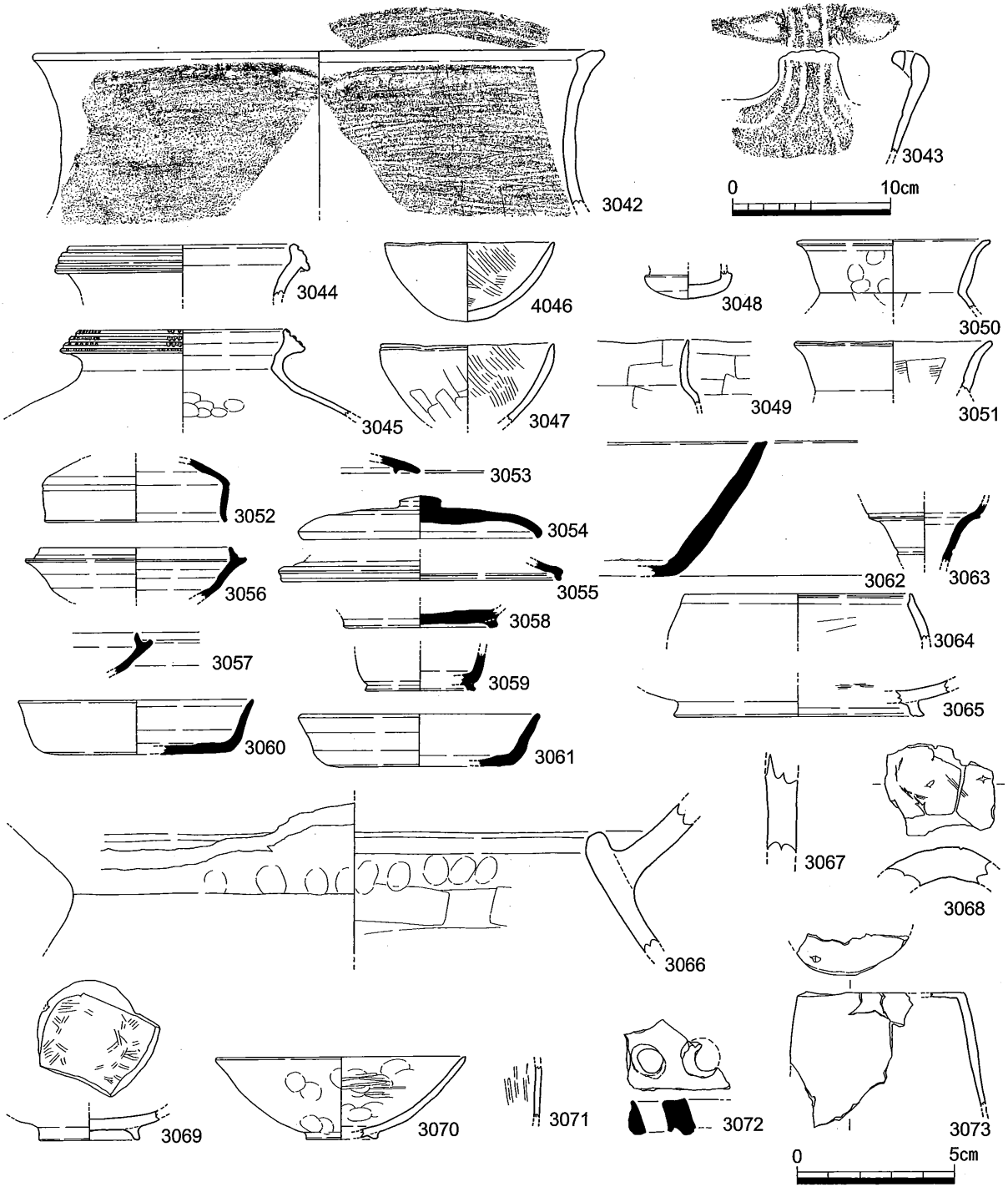


第182図　縄文包含層出土遺物実測図⑮

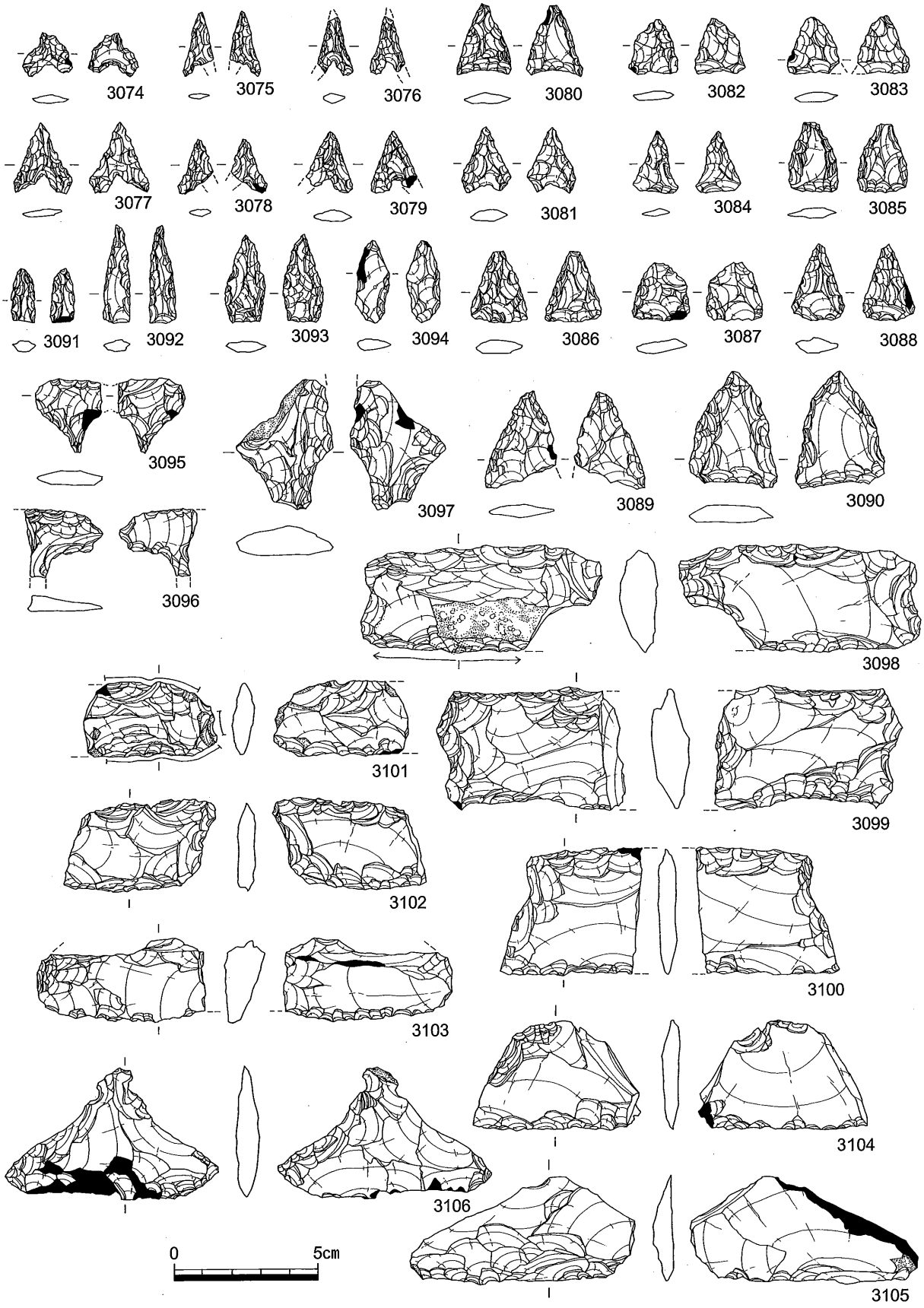


第183図　縄文包含層出土遺物実測図⑯

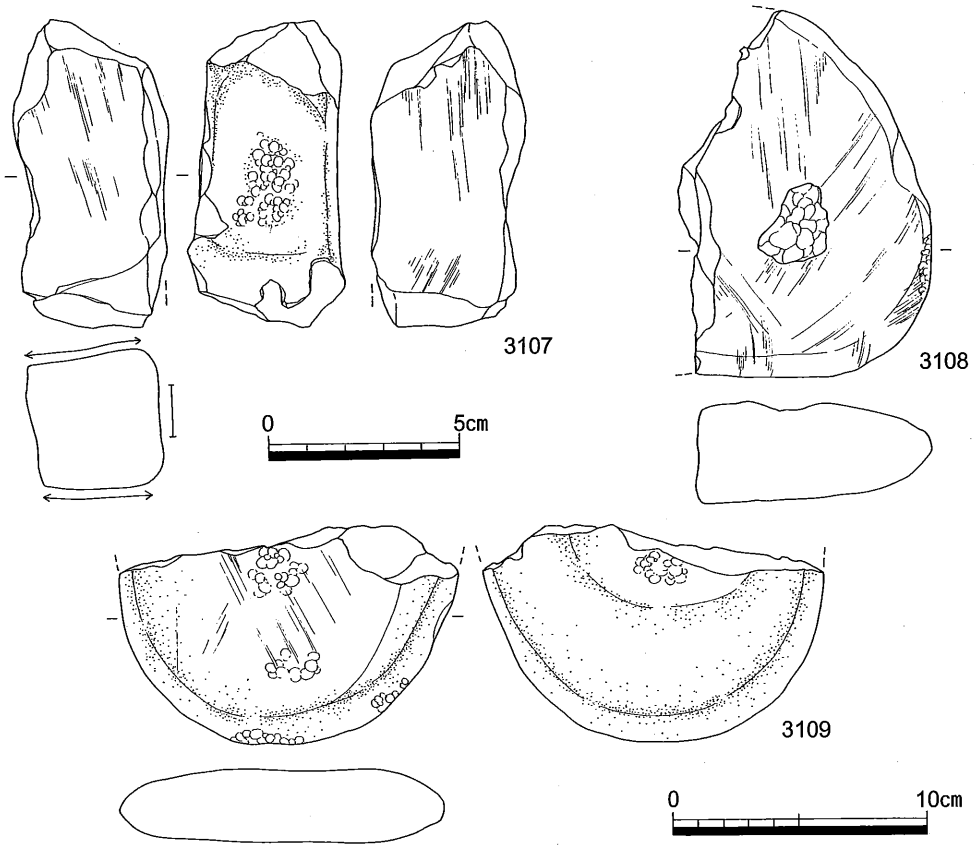
第Ⅱ調査区では縄文土器包含層以外に、遺構面直上に堆積する床土を含む堆積層から遺物が出土している。3042～3109が包含層出土遺物で、3042～3073が土器・金属製品、3074～3109が石製品である。土器には縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・土師質土器などが出土している。3049は製塩土器で、体部が球形状を呈し、口縁部が直立する。内外面に板ナデが顕著に施されている。3062は十瓶山窯跡群で作られた須恵器鉢である。底部が平底を呈し、体部は直線的に外上方に延び、口縁端部はそのまま終わらせる。3067は内外面に緑色の釉がかかった土器片である。3070は和泉産瓦器椀で、底部に断面方形の高台が付き、体部は内湾気味に外上方に延びる。体部外面に指頭痕が顕



第184図　第Ⅱ調査区包含層出土遺物実測図①



第185図　第Ⅱ調査区包含層出土遺物実測図②



第186図　第Ⅱ調査区包含層出土遺物実測図③

著に認められ、内面には僅かにヘラ磨きが認められる。3071は弥生土器甕あるいは鉢の体部で、内面に朱の痕跡が確認できる。3073は小銅鐸片で、第Ⅱ調査区北半部の包含層、黒褐色粘質土層中より出土した。この包含層からは弥生時代後期から古墳時代後期の遺物が出土しており、小銅鐸片の帰属時期を決定するには至っていない。小銅鐸片は、舞の部分の残存長が3.5cm×1.2cm、身の部分の現存長が3.7cm×4.2cm、厚さは約１㎜で、鈍い緑青色を呈する。身はやや裾広がりで、断面形はやや楕円形を呈する。舞の部分には二次的に欠損していない部分が認められ、舞の型持孔の可能性が考えられる。紐の部分は欠損しており不明である。身の部分の内外面の一部に柾目状の擦痕が認められること、身の外面に研磨した痕跡が認められないことと併せて鋳型の痕跡の可能性が高い。石製品は全てサヌカイト製で、石鏃・石錐・石包丁・スクレイパー・石匙が出土している。3107～3109は砂岩製で、台石である。

参考文献・引用文献

北山健一郎1997「小銅鐸について」『立命館大学考古学論集　Ⅰ』立命館大学考古学論集刊行会

第Ⅲ調査区

第Ⅲ調査区は南北に長い弘田川西岸遺跡調査対象範囲の南部に位置し、善通寺市善通寺町に所在する。また、北に位置する第Ⅱ調査区とは旧の弘田川の蛇行によって分断されている。この位置は、森下（森下2000）の旧練兵場遺跡の地形区分では西微高地５（森下2006では弘田川西岸地区）に当たり、森下は弘田川西岸遺跡（弘田川西岸地区）も含めて、広義の旧練兵場遺跡群としている。

遺構面は現地表下約20～30cmで検出でき、耕作土・床土直下遺構面となることから、かなり削平を受けているものと考えられる。遺構面を形成する基盤層は茶黄色系の粘質土で、調査区全域で確認できる。第Ⅰ調査区で確認できた遺構面と床土間に包含層は、第Ⅱ調査区では確認していない。

第Ⅲ調査区では、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、土坑跡、柱穴跡を検出している。

参考文献・引用文献

森下英治 2000「旧練兵場遺跡の集落構造」『旧練兵場遺跡シンポジウム』善通寺市教育委員会・(財)元興寺文化財研究所

森下英治 2006「瀬戸内の大規模密集型集落－香川県旧練兵場遺跡と周辺遺跡」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』日本考古学協会2006年度愛媛大会実行委員会

１．掘立柱建物跡

第Ⅲ調査区で検出した柱穴は北部を中心として135穴を確認しているが、後述する２棟以外に掘立柱建物を構成するには至っていない。

ＳＢ14

ＳＢ14は第Ⅲ調査区北部、標高約22.94ｍで検出した掘立柱建物跡である。北側は旧弘田川に切られており、全容は不明であるが、推定で規模は、梁間（１）間×桁行２間で、(1.40) ×3.82mを測るものと思われる。構成する柱穴は円形を呈し、直径20～30cm、検出面から16～19cmを測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から8.0° 東を取る。

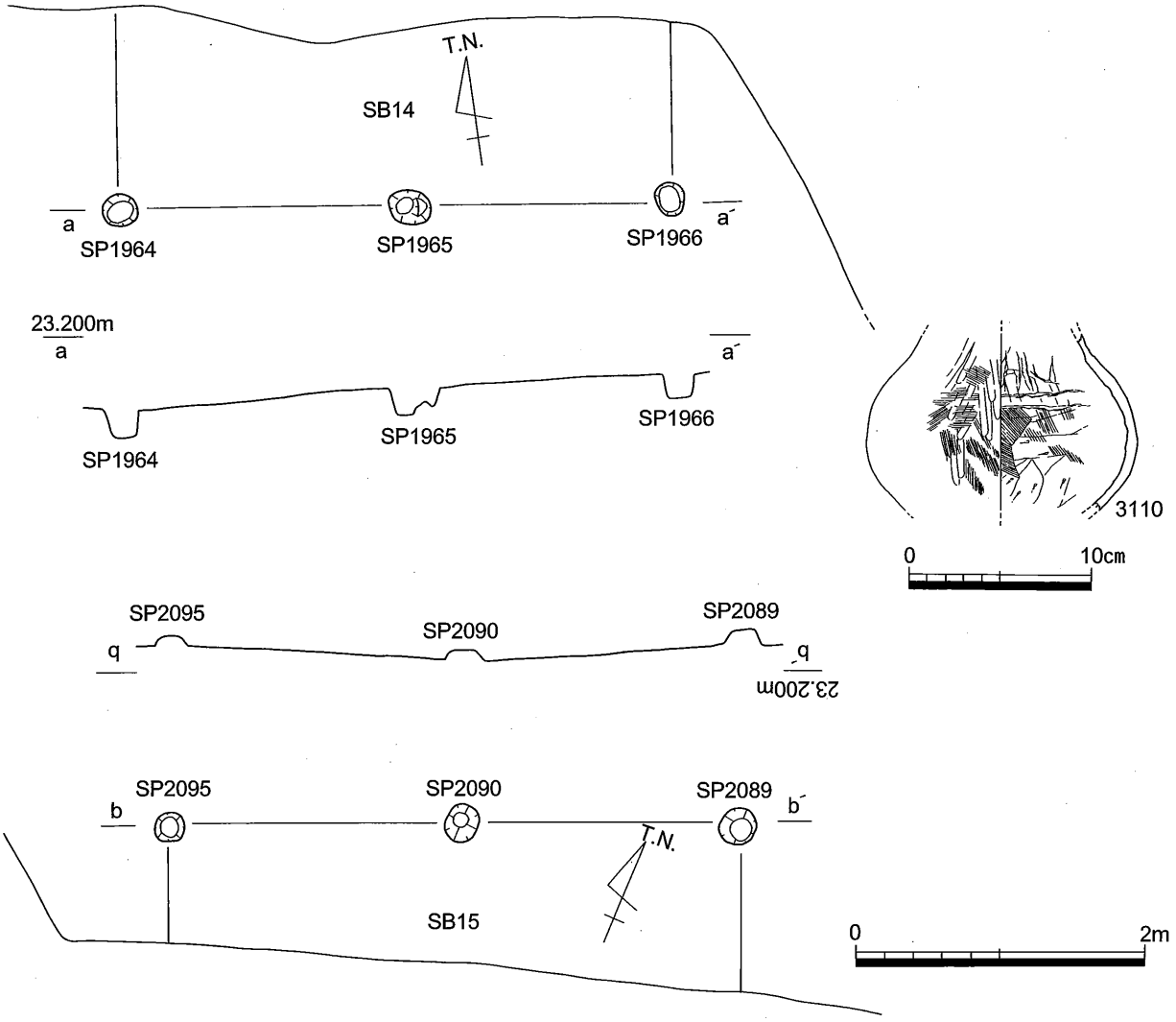
それぞれの柱穴から弥生土器片が出土している。3110はＳＰ1964から出土した壺である。体部が球形を呈し、肩部でやや屈曲し、内傾気味に延びる。体部外面に刷毛目・ヘラ磨きが、内面にヘラ削り・指ナデ・刷毛目が施されている。

時期は掘立柱建物を構成する柱穴出土遺物から、弥生時代後期前半～中葉と考えられる。

ＳＢ15

ＳＢ15は第Ⅲ調査区南部、標高約23.12ｍで検出した掘立柱建物跡である。南側は調査区外に延びており、全容は不明であるが、推定で規模は、梁間（１）間×桁行２間で、(1.15) ×3.95mを測るものと思われる。構成する柱穴は円形を呈し、直径20.0～25.0cm、検出面から6.0～11.0cmを測る。建物は東西棟で、北－南方向（短軸）は真北から22.0° 西を取る。

掘立柱建物を構成する柱穴から遺物が出土していないために時期は不明であるが、ＳＢ14と同様な柱穴・規模を持っていることから弥生時代と考える。



第187図　SB14・15平・断面図，SB14出土遺物実測図

2．竪穴住居跡

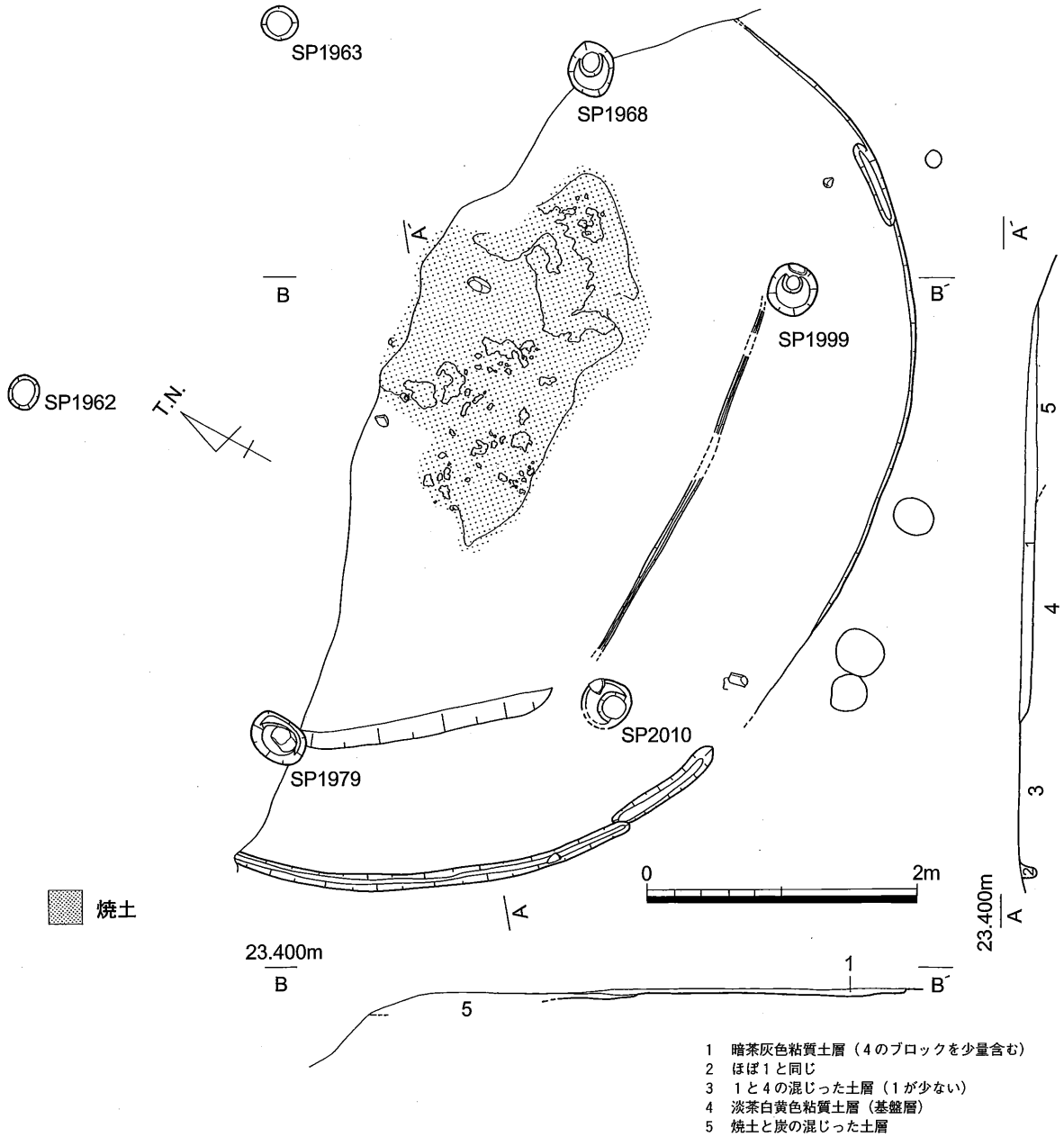
第Ⅲ調査区で検出した竪穴住居跡はＳＨ59～62の総数４棟で、平面形態が円形のものと方形のものがある。この調査区では遺構がかなり希薄になっており、集落の縁辺部の様相を呈している。

ＳＨ59

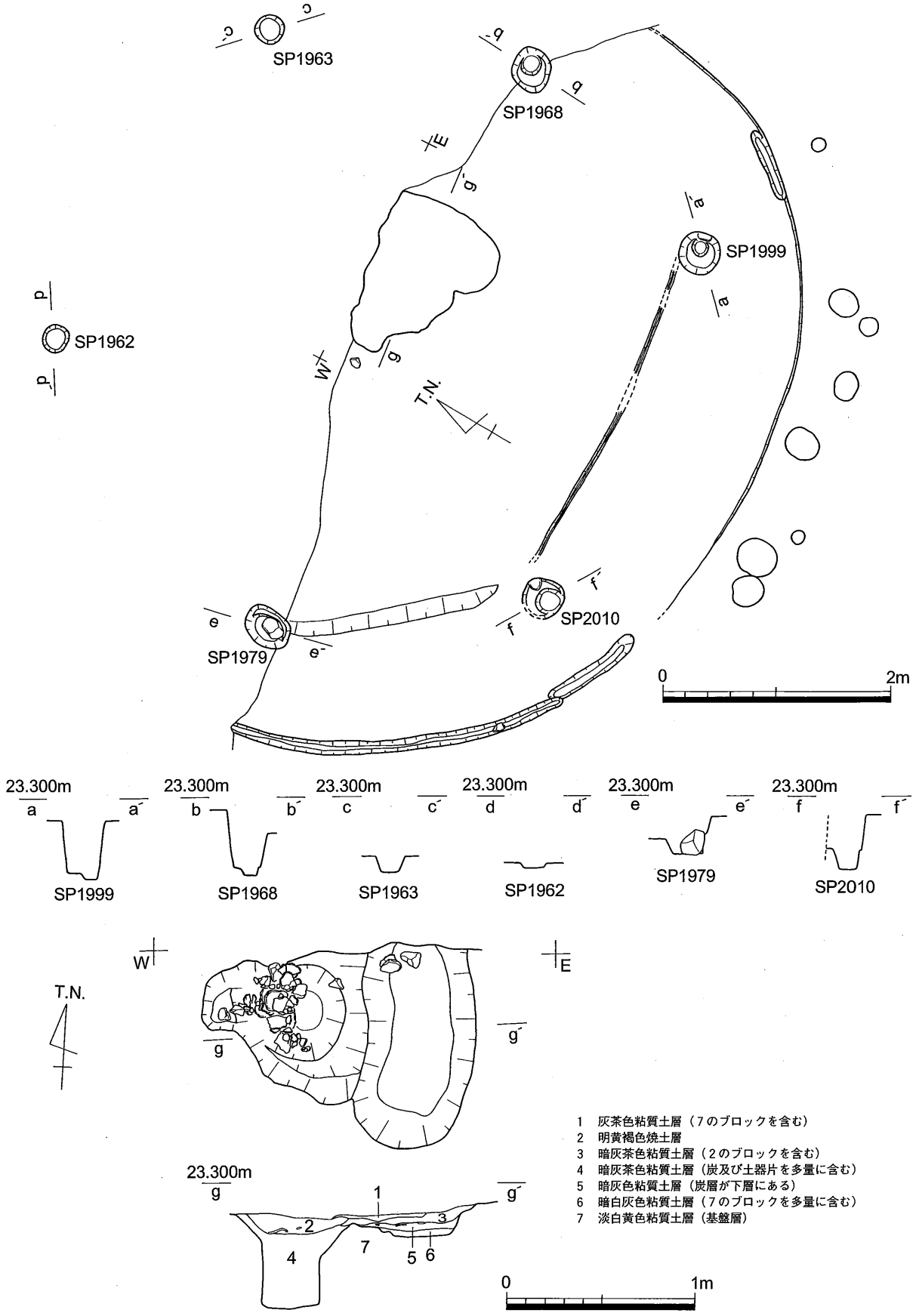
ＳＨ59は第Ⅲ調査区北部、標高23.14ｍで検出した竪穴住居跡である。北半分がＳＲ05によって切られているが、南半部に残存する壁溝・ベッド状遺構の形態から、平面形態は円形を呈し、規模は推定直径約7.78m、検出面からの深さは約0.08ｍを測る。

竪穴住居内では壁溝、ベッド状遺構、主柱穴、ほぼ中央部で炉、焼土・炭化物を検出している。全体的にかなり削平を受けており、ベッド状遺構上面に堆積土はなく、ベッド状遺構内側に基盤層淡茶白黄色粘質土のブロックを含む暗茶灰色粘質土が堆積する。壁溝は南西部の一部と東側で部分的に検出している。規模は幅1.1～13.0cm、深さ約12.0cmを測る。ベッド状遺構は南部と西部で、内形が多角形、おそらく六角形を呈するように検出している。このベッド状遺構は基盤層を削り出

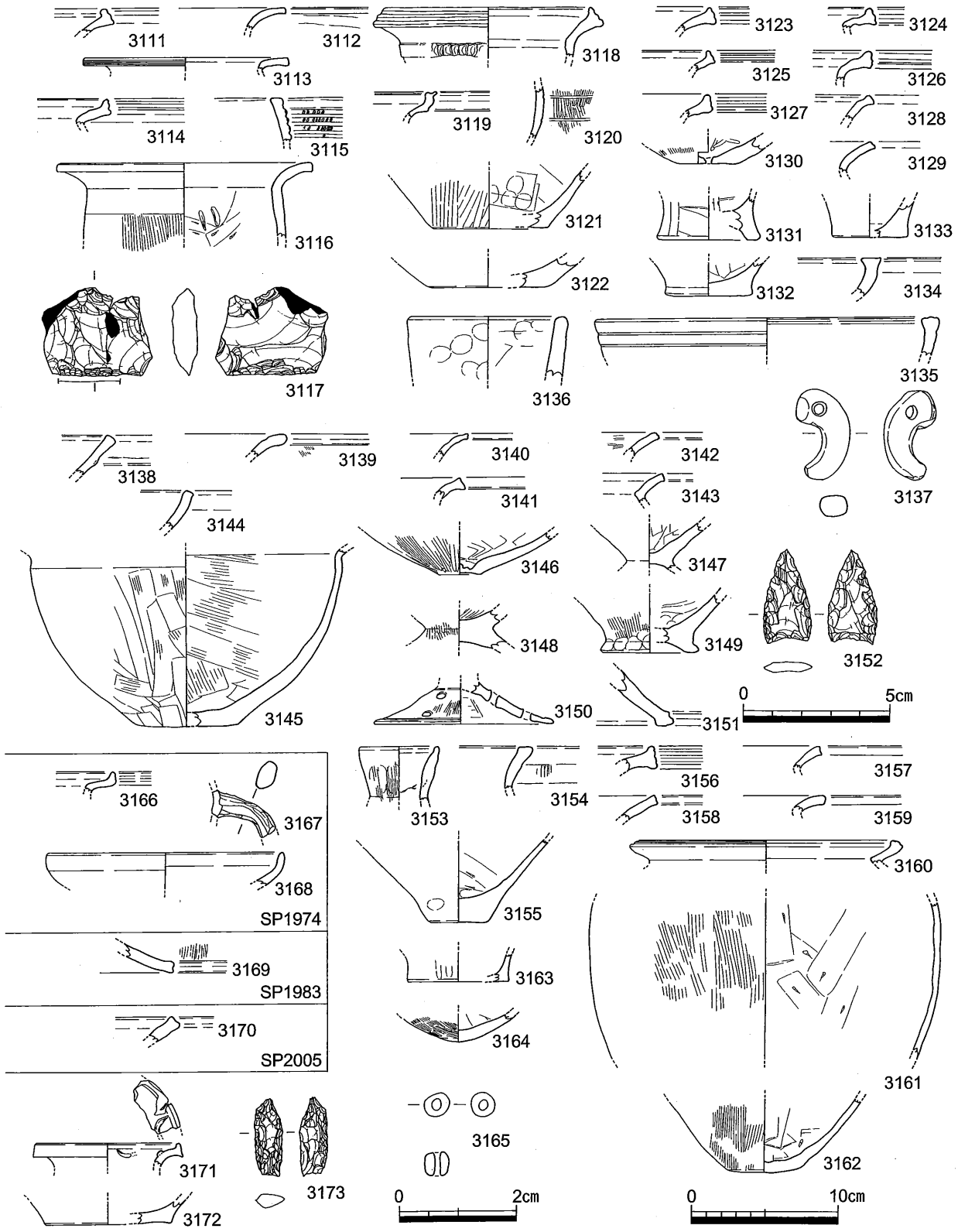
して造られたものではなく、基盤層淡茶白黄色粘質土と暗茶灰色粘質土の混じった土で成形されている。規模は幅約1.0mで、床面との高低差は約0.07mとしっかり残っている。南部のベッド状遺構は、内側に掘削された壁溝状遺構を残すのみである。ベッド状遺構の内側に立てられた側板の痕跡と考えられる。主柱穴はベッド状遺構の内側六角形の屈曲部に6穴検出している。検出した主柱穴の平面形態は歪なものもあるが、全て円形を呈し、規模は0.25～0.35m、深さ0.48～0.51mを測る。この内ＳＰ136・60には柱痕の痕跡が確認でき、直径約0.15mを測る。ＳＰ1979のみに根石を検出している。これら主柱穴の間隔はＳＰ2010とＳＰ1999間が約3.35m、ＳＰ1962とＳＰ1963間が約3.30mで、ＳＰ1979とＳＰ2010間が約2.50m、ＳＰ1999とＳＰ1968間が約2.20mと六角形の東西がやや長くなっている。この主柱穴の間隔の長い部分が入口の可能性が考えられる。ほぼ中央部で東西約3.0m、南北約1.7mの範囲で、焼土・炭化物層を検出した。この焼土・炭化物層下位で、炉



第188図　SH59平・断面図①

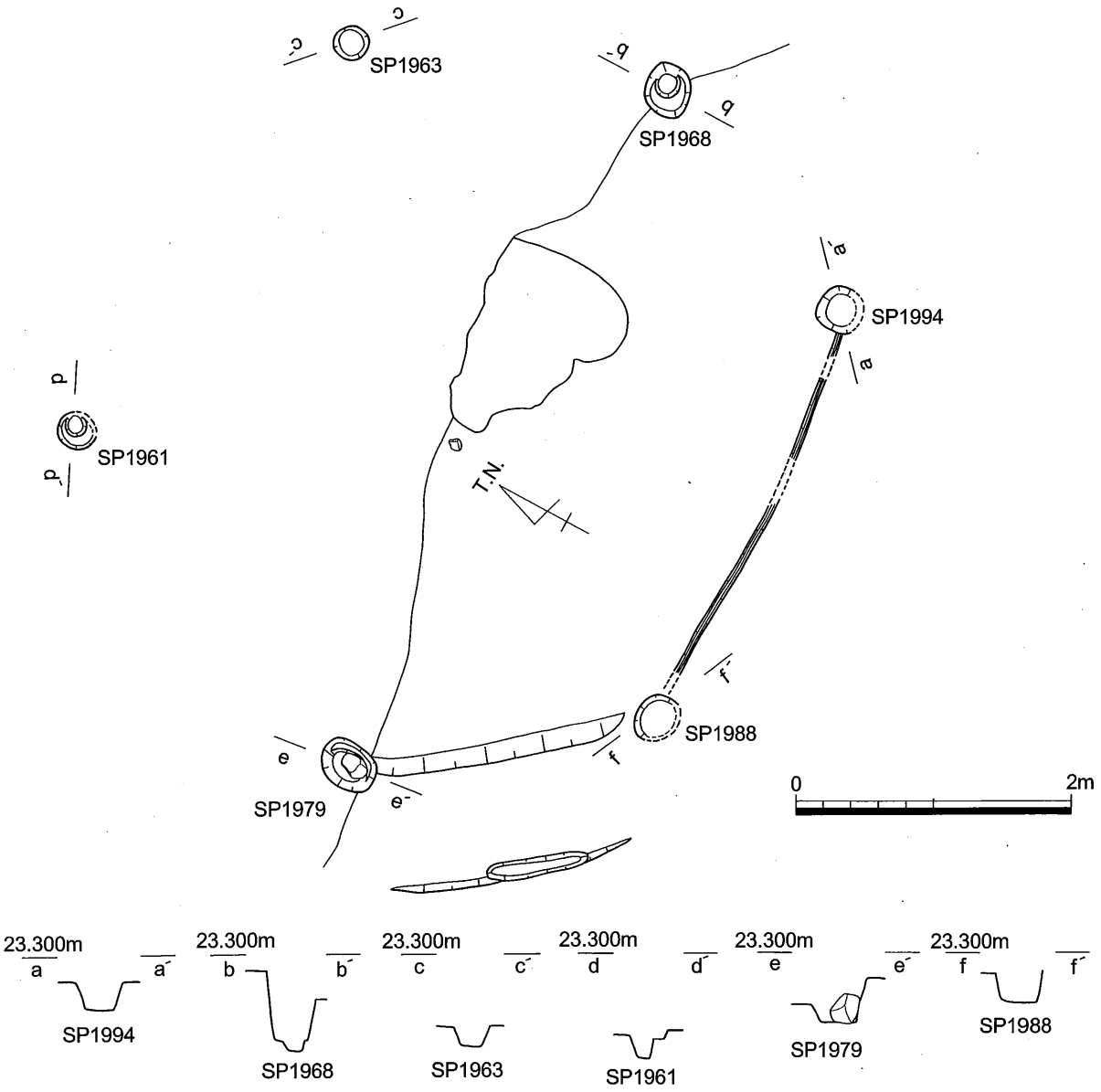


第189図　SH59平・断面図②



第190図　SH59出土遺物実測図

を検出している。炉は円形のものと隅丸の長方形のものが近接して検出した。西側にある円形のものは、上面形態は西側が突出し、２段掘り状になっている。規模は東西約0.87m、南北約0.80m、検出面からの深さ約0.49mを測る。炉断面は上部がロート状に開き、下部は円柱状の箱型を呈している。炉内西寄りに10cm台の砂岩が多量に出土している。炉内堆積土は２層あり、上層に焼土を多量に含む明黄褐色粘質土、下層が炭化物・土器片を多量に含む暗灰茶色粘質土である。東側にある平面形態が隅丸長方形を呈する炉は、南北約1.07m、東西約0.56m、検出面からの深さ約0.13mを測る。断面は逆台形状を呈し、堆積土は４層確認できる。第１層は基盤層の淡白黄色粘質土のブロックを含む灰茶色粘質土、第３層は第２層のブロックを含む暗灰茶色粘質土、第５層は暗灰色粘質土で、下位に炭化物・炭層が確認できる。最下層である第６層は基盤層の淡白黄色粘質土を含む暗白灰色粘質土である。円形の炉と隅丸長方形の炉の堆積土を見ると交互に堆積していることと、同時に機能していたことがわかる。この円形の炉と隅丸長方形の炉は、両方ともこの竪穴住居の炉と考えられ、西側が地床炉、東側の土坑が炭化物・置き火の保管場所と考えられる。この土坑は「10



第191図　SH59平・断面図④

型中央土坑」と呼ばれるもので、松本分類の４類に相当し、弥生時代後期末～終末期に確認できるとしている（松本2000）。

遺物はベッド状遺構内堆積土・床面直上・炉・主柱穴・ベッド状遺構張り床土から出土している。

3111～3117はベッド状遺構内堆積土から出土した遺物である。3111～3114は甕で、口縁端部を上方に拡張し、外面に２条の沈線を持つものとそのまま終わらせるものがある。3115は無頸壺で、口縁部外面に沈線を施し、その間の凸部に刻み目を持つ。3116は長胴の土師質甕である。3117はサヌカイト製の石包丁である。3118～3137は床面直上から出土した遺物である。3118は壺で、頸部に指頭痕の突帯を巡らす。口縁端部は拡張し、外面に２条の退化凹線を持つ。3123～3133は甕で、口縁端部を拡張するものとそのまま終わらせるものがある。3130は底部に穿孔が認められ、甑と考えられる。3134・3135は高坏で、内湾する口縁部から、端部は左右に僅かに摘み出す。3136は鉢である。3137は翡翠（硬玉）製の勾玉である。3138～3152は円形の炉から出土した遺物である。3138・3139は壺、3140～3143は甕、3144～3149は鉢、3150・3151は高坏である。3153～3165は隅丸長方形の炉から出土した遺物である。炉から出土した甕の底部は丸底気味の平底を持つもので、口縁端部は上方に僅かに拡張するものとそのまま終わらせるものがある。3165はガラス製の臼玉で、青色を呈する。3166～3170は主柱穴出土遺物である。3166～3168はＳＰ1979出土遺物、3169はＳＰ1988出土遺物、3170はＳＰ2010出土遺物である。3171～3173はベッド状遺構張り床土から出土した遺物である。

遺物で、鉢に小型の器種が多量にあること、甕の口縁端部が拡張せず、そのまま終わらせるものが主体であること、甕の体部最大径がほぼ中央にあることから弥生時代後期終末と考えられる。

この竪穴住居の時期は、前述した松本の「10型中央土坑」の時期と合致することから妥当と考えられる。

この竪穴住居跡はＳＰ1988とＳＰ2010、ＳＰ1994とＳＰ1999、ＳＰ1961とＳＰ1962がほぼ同じ位置で検出していることやベッド状遺構の掘削後の下位で検出した掘り方及び壁溝からほぼ同じ位置で建て替えがあったものと考えられる。

参考文献・引用文献

松本和彦2000「10型中央土坑について」『都市計画道錦町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』香川県教育委員会

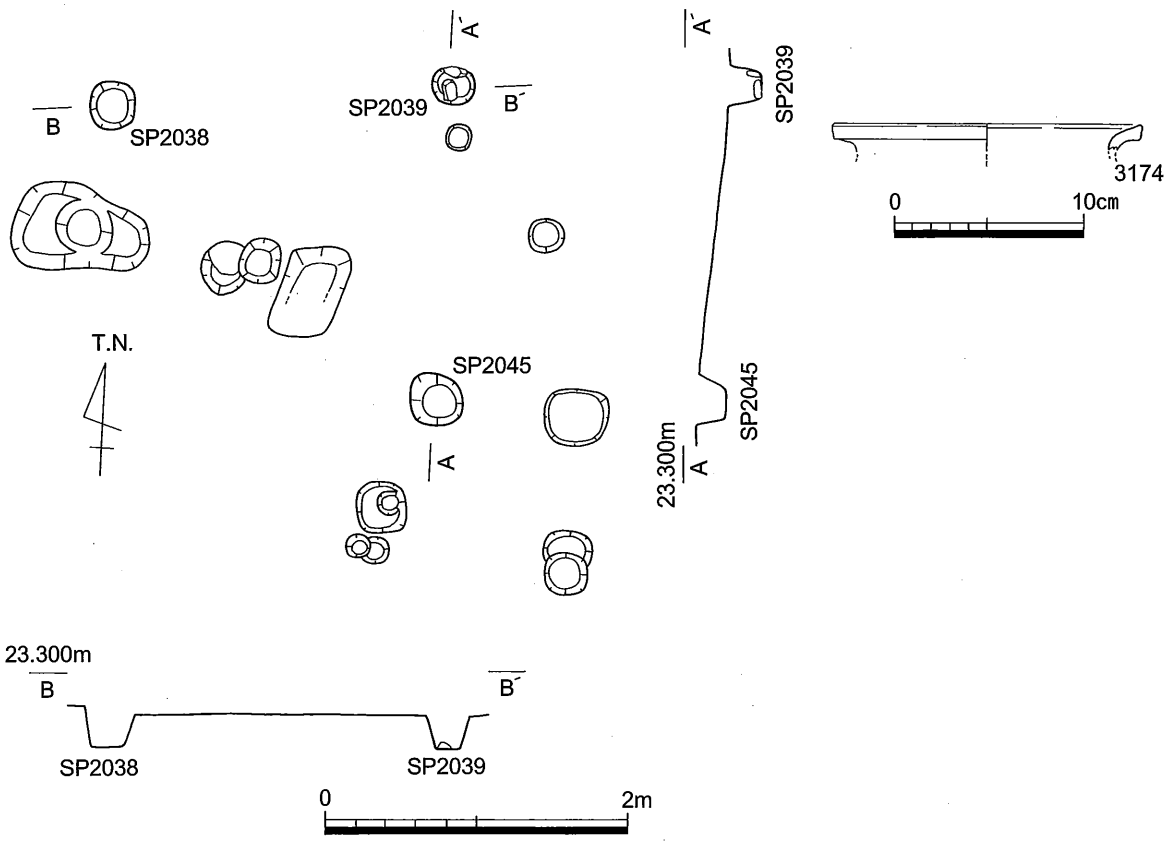
田辺昭三1981「第三章　須恵器生産の展開」『須恵器大成』角川書店

ＳＨ60

ＳＨ60は第Ⅲ調査区中央部、標高23.20ｍで検出した竪穴住居跡である。かなり削平を受けており竪穴住居掘り方を検出していないが、主柱穴を３穴及び炉を検出していることから、平面形態は方形を呈する竪穴住居跡と考えられる。主柱穴間は北－南方向が約2.11ｍ、西－東方向が約2.27ｍを測る。北－南方向の主軸は真北より約4.0°西を取る。

竪穴住居内のほぼ中央に円形の炉と隅丸長方形の炉を検出している。円形の炉は、直径約0.35ｍ、深さ約0.04ｍを測る。炉内からは焼土が出土している。隅丸長方形の炉は長軸約0.61ｍ、短軸約0.40ｍ、深さ約0.04ｍを測る。どちらも浅く、かなり削平を受けているものと考えられる。所謂「10型中央土坑」と呼ばれるものである。主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径29～35㎝、深さ19～22㎝を測る。

竪穴住居主柱穴から遺物が出土している。3174は甕で、口縁端部を上方に僅かに摘み上げる。
時期は主柱穴出土遺物から弥生時代後期中葉～後半と考えられる。



第192図　SH60平・断面図，出土遺物実測図

S H61

S H61は第Ⅲ調査区南部、標高23.02mで検出した竪穴住居跡である。かなり削平を受けており竪穴住居掘り方を検出していないが、主柱穴を４穴検出していることから、平面形態は方形を呈する竪穴住居跡と考えられる。主柱穴間は北－南方向が約2.31m、西－東方向が約2.52mを測る。北－南方向の主軸は真北より約22.5°東を取る。

主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径21～27cm、深さ12～24cmを測る。

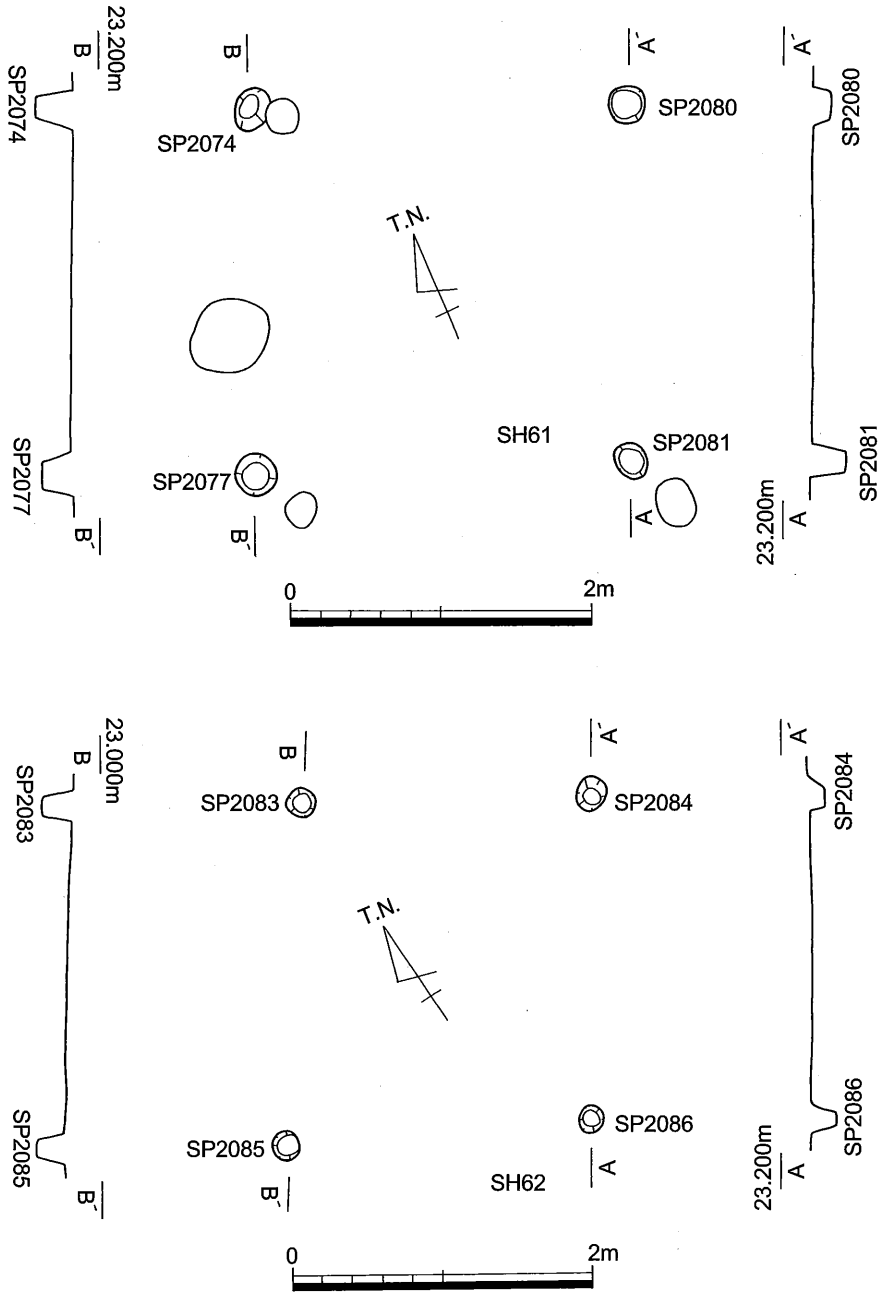
時期は、竪穴住居跡から遺物が出土していないため不明である。

S H62

S H62は第Ⅲ調査区南部、標高23.00mで検出した竪穴住居跡である。かなり削平を受けているために竪穴住居掘り方を検出していないが、主柱穴を４穴検出していることから、平面形態は方形を呈する竪穴住居跡と考えられる。主柱穴間は北－南方向が約2.26m、西－東方向が約2.00mを測る。北－南方向の主軸は真北より約33.0°東を取る。

主柱穴は平面形態が円形を呈し、直径18～20cm、深さ10～18cmを測る。

時期は、竪穴住居跡から遺物が出土していないため不明である。



第193図　SH61・62平・断面図

3．土坑跡

第Ⅲ調査区で検出した土坑跡は、総数で10基（ＳＫ13～22）を検出した。これらの土坑は第Ⅲ調査区全域で検出しているが、特に北部と南部に集中する。

ＳＫ14

ＳＫ14は第Ⅲ調査区北部、標高23.20ｍで検出した土坑跡である。ちょうど竪穴住居跡ＳＨ59の南ベッド状遺構部分で検出しており、同時期に機能していた可能性も考えられる。平面形態は東西に長い歪な楕円形を呈し、断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向約1.36ｍ、南北方向約0.70ｍ、検出面からの深さは約0.11ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器が出土している。3175は甕で、口縁端部を上下に拡張し、外面に３条の沈線を持つ。

時期は弥生時代中期末から後期初頭と考えられる。竪穴住居跡ＳＨ59の時期が、弥生時代後期前半から中葉であることから若干この土坑ＳＫ14の方が古いことがわかる。

ＳＫ15

ＳＫ15は第Ⅲ調査区中央部、標高23.19ｍで検出した土坑跡である。ちょうど竪穴住居跡ＳＨ60部分で検出しており、同時期に機能していた可能性も考えられる。平面形態は東西に長い歪な楕円形を呈し、断面形態は中央部が柱穴状に窪む２段掘りとなる。規模は東西方向約0.90ｍ、南北方向約0.56ｍ、検出面からの深さは約0.49ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器が出土している。3176は壺で、頸部から朝顔形に開き、口縁端部を上下に僅かに摘み出す。頸部外面には縦方向の刷毛目が施されている。

時期は、弥生時代後期前半から中葉と考えられる。

ＳＫ16

ＳＫ16は第Ⅲ調査区南部、標高23.04ｍで検出した土坑跡である。ちょうど北部分が弘田川の旧流路ＳＲ05に、東部はＳＫ18によって切られており、全容は不明である。平面形態は不定形で、残存する部分のほぼ中央部は２段掘りとなり、深くなっている。規模は東西方向約2.07ｍ、南北方向残存長約（1.97）ｍ、検出面からの深さは約0.31ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から弥生土器・須恵器が出土している。3177～3180は弥生土器で、3177が壺、3178が鉢、3179・3180が高坏である。3181～3186は須恵器で、3181が坏身、3182～3184が壺、3185が甕、3186が提瓶である。3187は土師質甕である。

時期は、弥生時代後期の遺物も出土しているが、須恵器が出土していることから古代と考える。

ＳＫ20

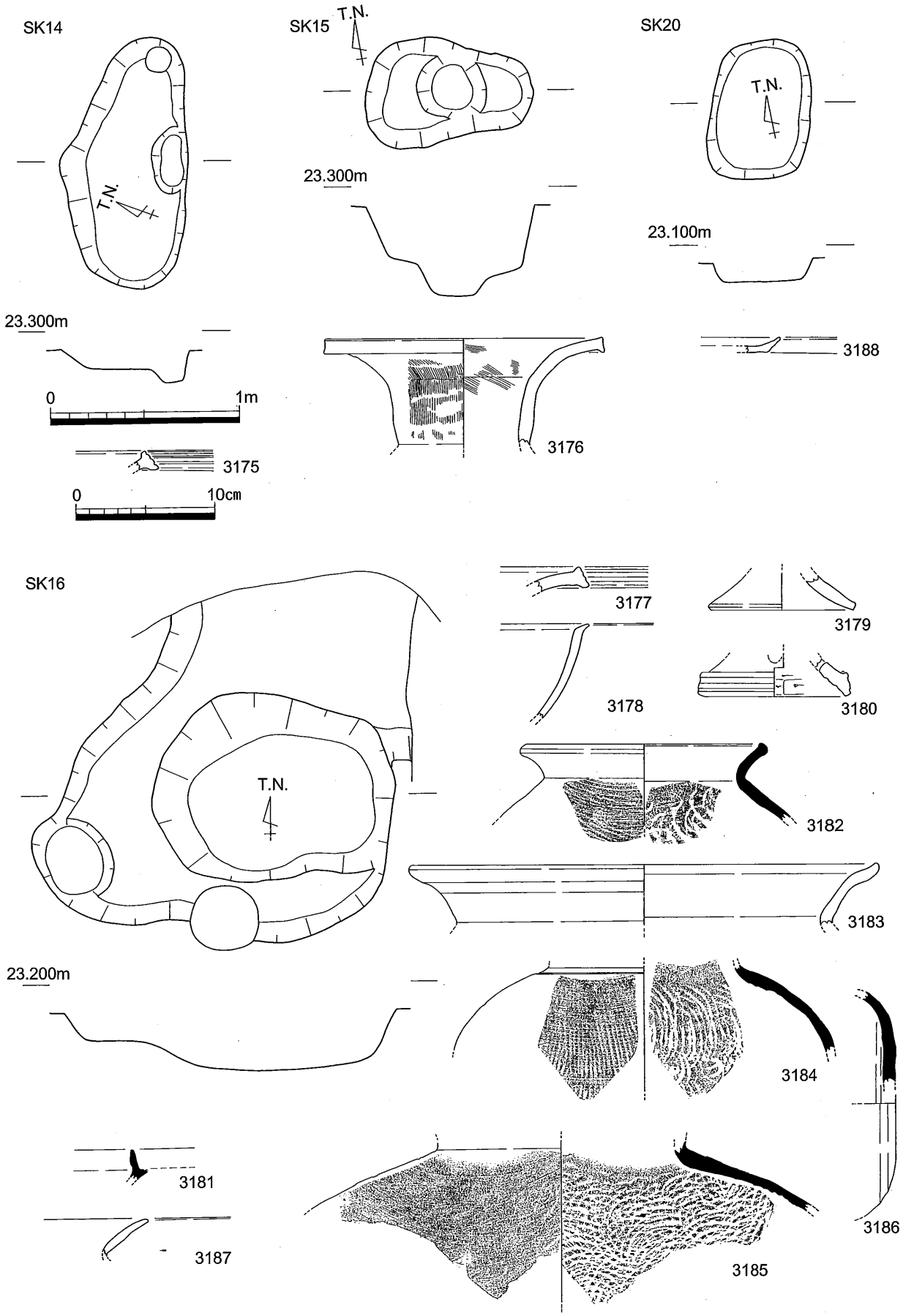
ＳＫ20は第Ⅲ調査区南部、標高23.04ｍで検出した土坑跡である。平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形態は緩やかに傾斜する側面からほぼ平らな底面となる逆台形を呈する。規模は東西方向約0.53ｍ、南北方向約0.75ｍ、検出面からの深さは約0.09ｍを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

土坑跡内から土師器が出土している。3188は土師器小皿で、底部はヘラ切りされ、体部は直線的に外上方に延びる。

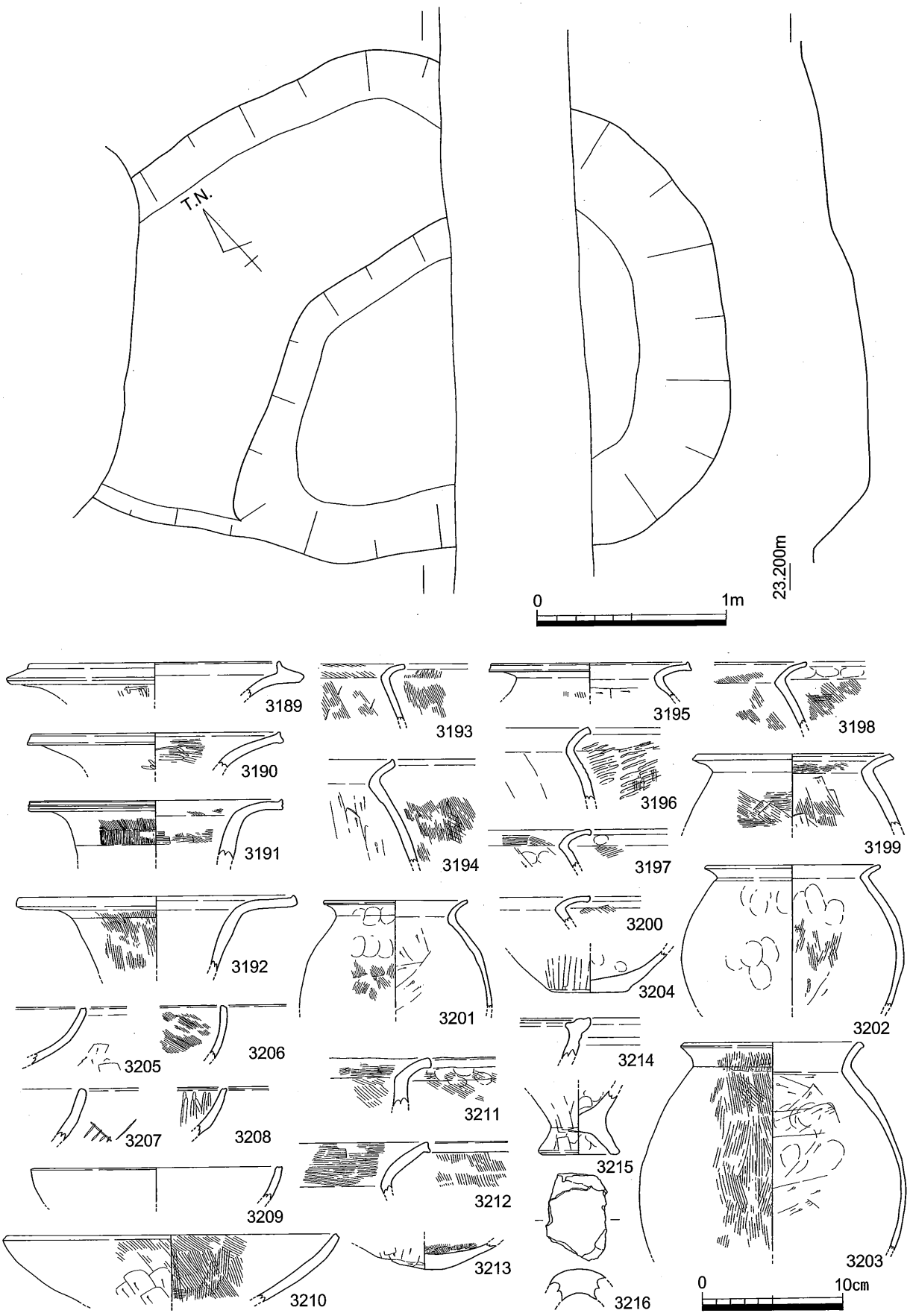
時期は中世、13世紀頃と考えられる。

ＳＫ22

ＳＫ22は第Ⅲ調査区南部、標高23.08ｍで検出した土坑跡である。土坑中央部が撹乱、北西部がＳＫ21により切られているが、歪な楕円形状を呈し、断面形態は南西側に一段深くなる２段掘りと



第194図　SK14・15・16・20平・断面図，出土遺物実測図



第195図　SK22平・断面図，出土遺物実測図

なる。規模は北東－南西方向約2.68m、北西－南東方向残存長約3.14m、検出面からの深さは約0.29mを測る。土坑跡の堆積土は単層で、暗灰色粘質土が堆積している。

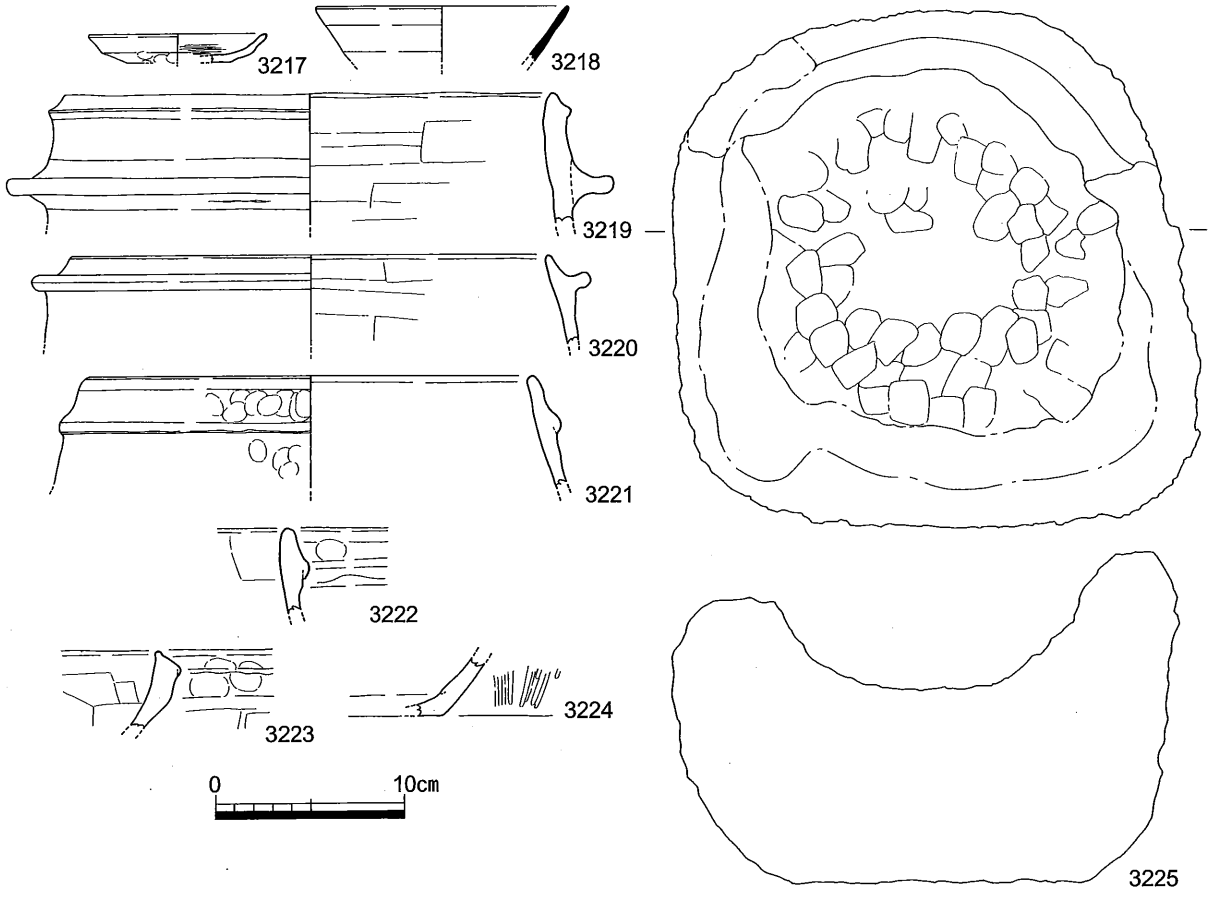
土坑跡内から弥生土器が出土している。3189～3192は壺で、3189・3190は頸部から口縁部にかけて朝顔形に開くもので、3191・3192は頸部が直線的に外上方の延び、口縁部がほぼ水平に緩やかに屈曲するものである。3189は口縁端部を拡張させる。3193～3204は甕で、頸部は「く」の字に屈曲し、口縁端部をそのまま終わらせる。3196は体部外面に叩き痕が認められる。3205～3213は鉢で、3205～3210は内湾する体部から口縁部がそのまま終わるもので、大・中・小型のものがある。3211・3212は口縁部が「く」の字に屈曲するもので、大型のもののみである。3214は高坏、3215は製塩土器である。3215は底部にしっかりした脚部を持ち、体部・脚部外面に縦方向のヘラ削りが施されている。3216は鞴の羽口である。

時期は弥生時代後期中葉と考えられる。

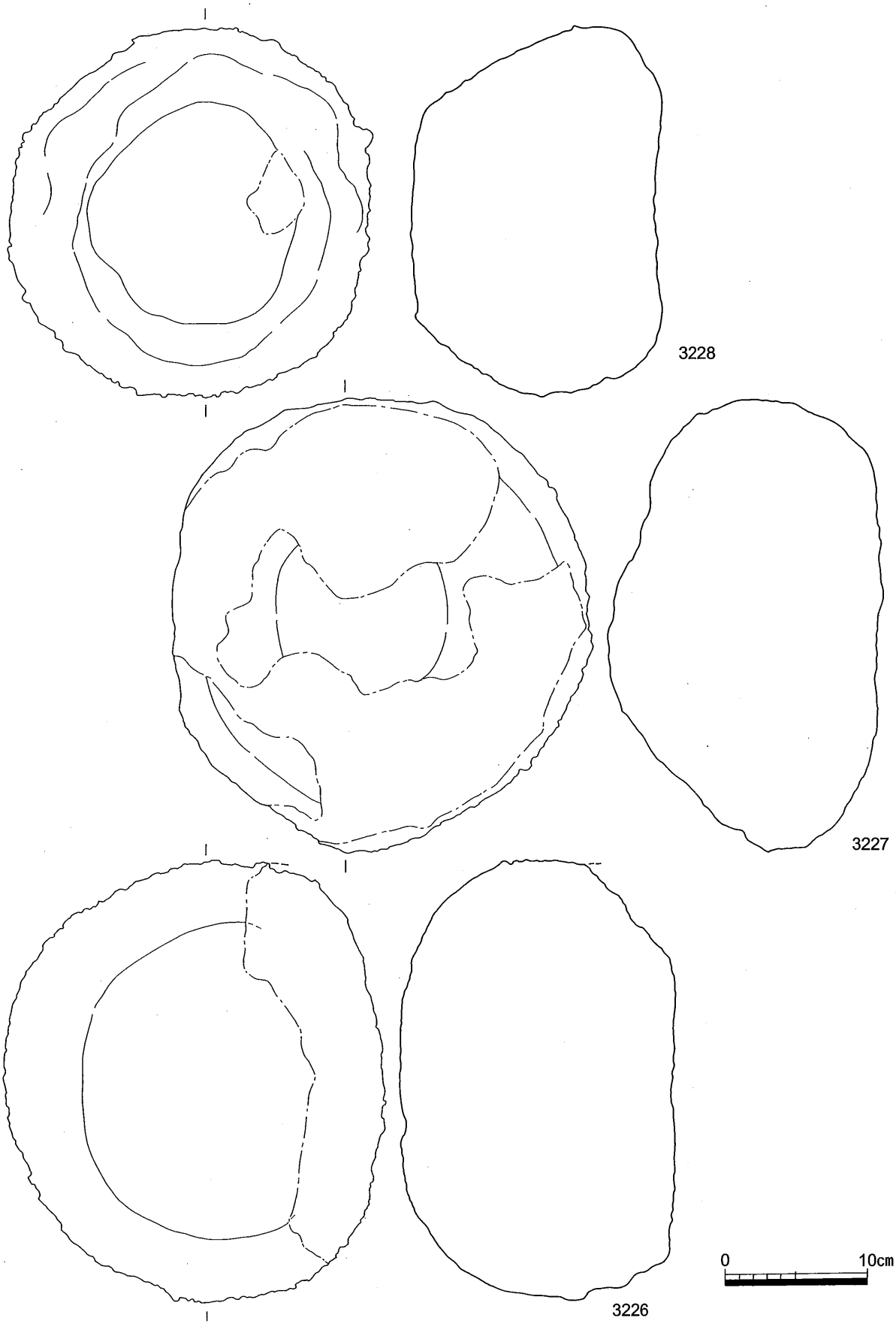
4．包含層出土遺物

第Ⅲ調査区で検出した遺構は、第Ⅰ・Ⅱ調査区に比べるとかなり希薄となっている。また、検出遺構面の標高が第Ⅰ・Ⅱ調査区と比べても約23.00mと高いことから包含層が無く、耕作土・床土直下遺構面となっており、包含層出土遺物が少ないのが現状である。

3217は瓦器小皿で、底部に指頭痕が顕著に認められる。3218は土師器坏で、体部が直線的に外上方に延びる。3219は土師質長胴甕で、外面口縁部下にしっかりした鍔が付く。3220～3222は土師質



第196図　第Ⅲ調査区包含層出土遺物実測図①



第197図　第Ⅲ調査区包含層出土遺物実測図②

土釜で、外面口縁部下に鍔が付くが、3222のようにかなり退化したものまで確認できる。3223・3224は土師質すり鉢である。内面に条溝の痕跡が確認できる。3225～3228は凝灰岩製の五輪塔である。

包含層からの出土遺物は少ないが、第Ⅰ・Ⅱ調査区出土遺物と比べると中世の遺物が多い。第Ⅲ調査区で検出した遺構は少なく、弘田川西岸地区とした微高地の中で、南部になるに従い弥生時代を中心とした遺構の減少と中世の遺構の増加を窺える資料となった。

第４章　まとめ

第１節　弥生時代中期後半～後期終末及び６・７世紀の遺構の変遷

１．はじめに

弘田川西岸遺跡は善通寺市仙遊町・善通寺町に所在する遺跡で、第Ⅰ調査区が仙遊町に、第Ⅱ・Ⅲ調査区が善通寺町に位置する。森下による旧地形（旧流路・微高地）の復元では、第Ⅰ調査区が彼ノ宗地区、第Ⅱ・Ⅲ調査区が弘田川西岸地区に位置し、旧弘田川を挟んで異なる微高地にあり、今回の調査区はそれぞれの微高地の縁辺部に位置している。それぞれの調査区では主として弥生時代～中世の掘立柱建物跡・竪穴住居跡・墓跡（土器棺墓・土壙墓）・土坑跡・溝跡・自然流路跡を検出し、第Ⅱ調査区では縄文時代後期の包含層、弥生時代前期の柱穴（土坑）を検出している。

ここでは弥生時代～古代の掘立柱建物跡・竪穴住居跡を中心に遺構の変遷を見てみたい。

２．弥生時代中期後半

第Ⅰ～Ⅲ調査区では弥生時代中期後半の遺構はほとんど無く、第Ⅰ調査区南部で検出した掘立柱建物跡ＳＢ08の１棟、第Ⅱ調査区中央部で検出した竪穴住居跡ＳＨ50の１棟のみである。掘立柱建物跡は南北棟で、この時期以降の掘立柱建物跡のほとんどが東西棟であることからすると異質な存在である。一方竪穴住居跡は平面形態が隅丸方形を呈し、一辺3.24～3.52mとやや小振りである。

弘田川西岸遺跡では縄文時代後期・弥生時代前期の遺構も検出しているが、単発的で継続しないことを確認している。遺構の継続性から見ると継続して集落が形成されるのは弥生時代中期後半以降で、その初現期である当該期の遺構が希薄であることを確認した。この状況は旧練兵場遺跡の状況と合致する。

３．弥生時代中期末～後期初頭

弥生時代中期末～後期初頭の遺構は、第Ⅰ調査区で検出した掘立柱建物跡ＳＢ01～03、05～07の６棟、第Ⅱ調査区で検出した掘立柱建物跡ＳＢ09～13の５棟、竪穴住居跡ＳＨ52の１棟である。この時期は竪穴住居が少なく、掘立柱建物を主体とした時期である。掘立柱建物跡はほとんどが東西棟で、ある。竪穴住居跡はほとんどが円形で、直径約5.86mを測る。

検出した遺構をみると、彼ノ宗地区・弘田川西岸地区ともほとんどが掘立柱建物跡で、検出位置からこれら掘立柱建物跡は、微高地の縁辺部に位置していることがわかる。微高地上での竪穴住居の居住域と掘立柱建物の倉庫域に微高地内での立地差が認められる。また、掘立柱建物は検出状況から、２～３棟を１単位とすることがわかる。中でもＳＢ07は１間×１間で、掘り方・柱穴間がその他のものと比較すると規模が大きいことから、倉庫ではなく他の用途の可能性があり、櫓状の遺構ではないかと考えられる。

４．弥生時代後期前半

弥生時代後期前半の遺構は、第Ⅰ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ06・08・09・12・19の５棟、第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ25・26・33・35・41～45・58の10棟である。

この時期に掘立柱建物は無く、竪穴住居が一気に増加する時期である。竪穴住居の平面形態は円形と方形で、第Ⅰ・Ⅱ調査区では２m程度の間隔で、近接して検出している。規模は円形の竪穴住居の直径には5.6～7.5mとかなり大きさに差があり、方形の竪穴住居は一辺4.0～5.0mとやや小振りであることがわかる。円形の竪穴住居を主とし、方形の竪穴住居が少ない時期である。

５．弥生時代後期中葉

弥生時代後期中葉の遺構は、第Ⅰ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ02～05・13の５棟、第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ36・40・47の３棟である。

この時期に掘立柱建物はなく、竪穴住居跡の検出数も前時期より減少する。竪穴住居は平面形態が円形と多角形、方形、長方形と多様化し、円形、多角形を主体とする。多角形の竪穴住居が出現する時期である。方形・長方形の竪穴住居は前時期に比べるとさらに小型化する。中でも長方形の竪穴住居跡ＳＨ04は、規模が4.58×3.45mと小振りになり、主柱穴も２穴のものが出現する。

６．弥生時代後期後半

弥生時代後期後半の遺構は、第Ⅰ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ07・15の２棟、第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ22・23・32・48・53・54の６棟である。

この時期にも掘立柱建物は無く、竪穴住居の検出数も前時期より若干減少する。この中で円形の竪穴住居は、ＳＨ22の１棟のみで、前時期に比べると円形の竪穴住居は減少し、方形の竪穴住居が主体となる。

この時期の竪穴住居跡の床面から焼土・炭の範囲と土坑を検出しており、これは竪穴住居の炉と考えられ、北側が地床炉、南側の土坑が炭化物・置き火の保管場所と考えられる。円形の炉が明確に掘削されていないが、この炉の形態は「10型中央土坑」と呼ばれるもので、この時期から出現する。

７．弥生時代後期終末

弥生時代後期終末の遺構は、第Ⅰ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ01の１棟、第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ20・21・28の３棟、第Ⅲ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ59の１棟である。

この時期にも掘立柱建物は無く、竪穴住居の検出数も前時期と変化はない。円形の竪穴住居はＳＨ59の１棟のみで、前時方形の竪穴住居が主体となる。

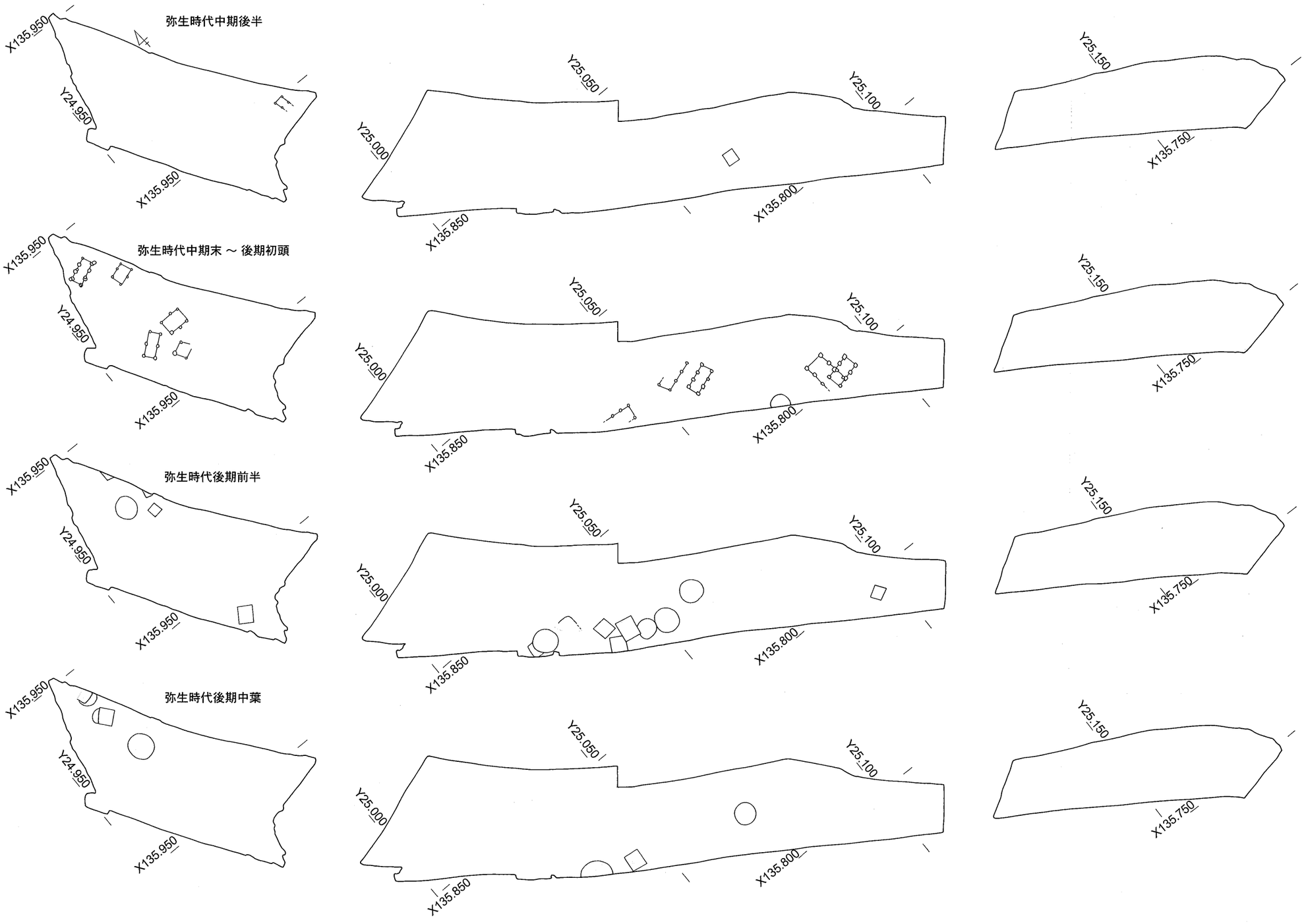
８．６世紀後半

６世紀後半の遺構は、第Ⅰ調査区で検出した掘立柱建物跡ＳＢ04の１棟、第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ37～39の３棟である。

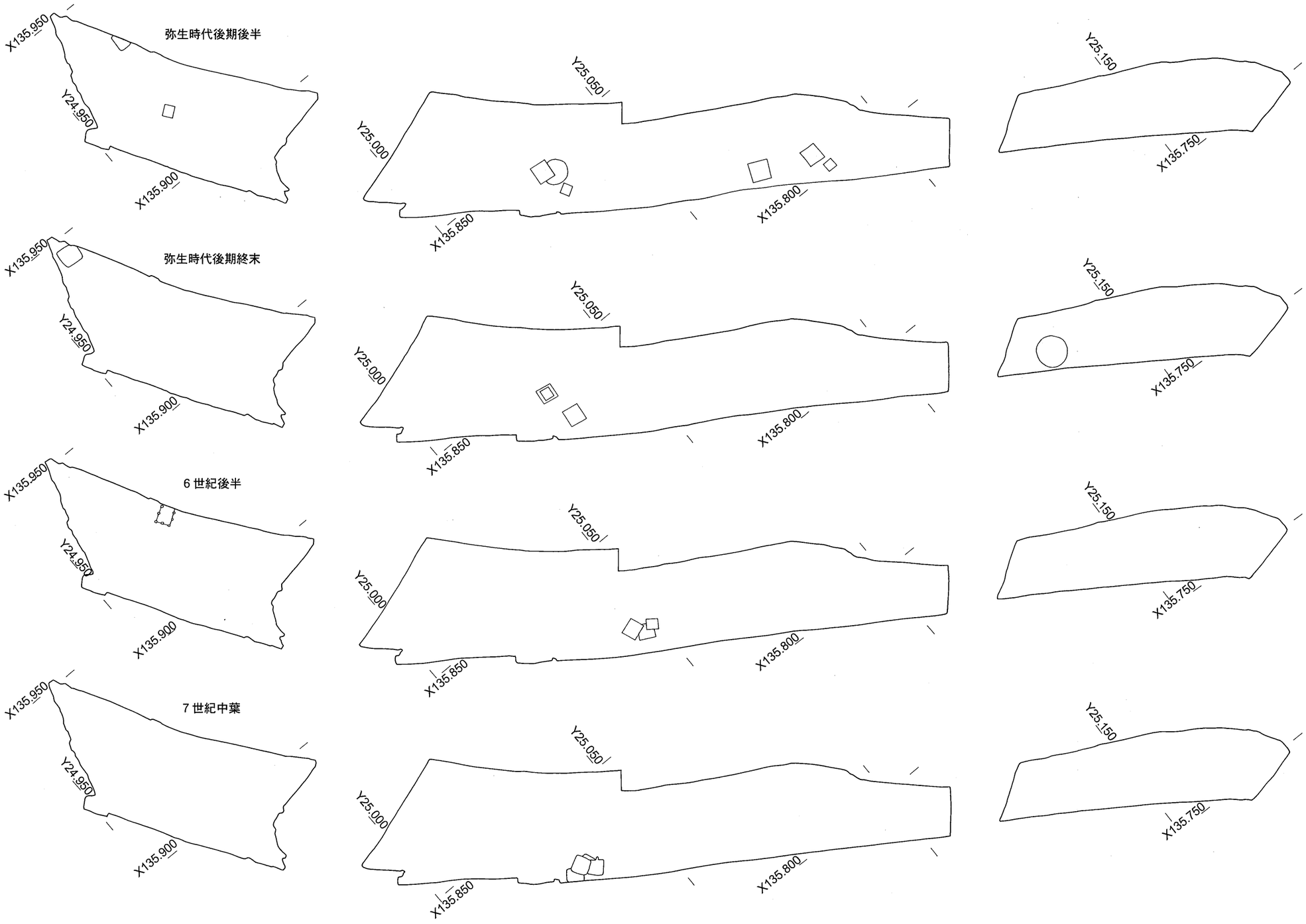
竪穴住居は第Ⅱ調査区の北部で集中して検出した。３棟が重複しており、調査区全域には広がっていない。

９．７世紀中葉

７世紀中葉の遺構は、第Ⅱ調査区で検出した竪穴住居跡ＳＨ27・29～31の４棟である。



第198図　弥生時代中期後半～後期後葉の遺構変遷図



第199図　弥生時代後期後半～後期終末及び６・７世紀の遺構変遷図

竪穴住居は第Ⅱ調査区の北部で集中して検出した。4棟が重複しており、調査区全域には広がっていない。この時期の竪穴住居には造り付けの竈である突出部が付くという特徴が認められる。

10. まとめ

当遺跡で検出した遺構をみると、縄文時代後期から中世の時期の遺構を検出し、遺物が出土しているが、連綿と集落が形成されていたものではない。これらの遺構の中で、継続的に集落形成が確認できるのは弥生時代中期後半から後期終末期までで、縄文時代後期・弥生時代前期・6世紀後半・7世紀中葉の時期は単発的に出現する。これは弘田川西岸遺跡の調査区が推定微高地の縁辺部に位置していることが原因と考えられる。しかし近接して確認されている旧練兵場遺跡の集落の変遷と今回検出した弘田川西岸遺跡とを比較すると、遺構・遺物・集落の消長において概ね合致することから、旧練兵場遺跡と一連の遺跡であることが確認できた。

第１表　柱穴観察表

第Ⅰ調査区　1019穴

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0001	弥　壺・甕	弥生後期	―	―	54	C
0002	―	―	円形	40	18	B
0003	―	―	円形	24	37	C
0004	―	―	楕円形	26・23	17	C
0005	弥　甕、石庖丁	弥生中期末～後期初	不定形	60	31	C
0006	―	―	楕円形	29・18	11	C
0007	―	―	―	―	21	C
0008	―	―	円形	15	23	C
0009	―	―	不定形	33・25	26	C
0010	―	―	楕円形	56	13	C
0011	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	40	16	C
0012	―	―	円形	18	15	B
0013	―	―	―	―	30	C
0014	―	―	不定形	37	16	C
0015	―	―	楕円形	67・42	53	C
0016	弥　甕	弥生後期	楕円形	38・32	36	C
0017	―	―	楕円形	42・32	24	C
0018	-	―	不定形	17	17	C
0019	-	―	楕円形	29	6	C
0020	―	―	不定形	86	85	C
0021	-	―	楕円形	31・26	25	C
0022	-	―	―	―	20	C
0023	-	―	楕円形	26・20	7	C
0024	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	34	16	C
0025	―	―	円形	47	68	C
0026	―	―	不定形	49・39	62	C
0027	弥　甕	弥生後期	不定形	43・32	19	C
0028	―	―	楕円形	44・33	53	C
0029	弥　壺・甕	弥生後期	円形	38	24	C
0030	―	―	円形	34	52	C
0031	弥　壺・甕、焼土	弥生中期末～後期初	方形	90	43	C
0032	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	28	21	C
0033	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	130・90	89	C
0034	弥　甕	弥生後期	不定形	49	39	C
0035	弥　甕	弥生後期	円形	22	31	B
0036	弥　甕	弥生後期	円形	21	33	B
0037	弥　壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	97	73	C
0038	―	―	円形	17	7	B
0039	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	14	55	B
0040	弥　甕	弥生後期	円形	22	27	C
0041	―	―	円形	15	―	A
0043	弥　壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	110	94	C
0044	弥　甕	弥生後期	円形	25	19	B
0045	弥　甕	弥生後期	円形	35	19	B
0046	弥　甕	弥生後期	楕円形	32	15	B
0047	―	―	円形	14	―	A
0048	弥　甕	弥生後期	円形	31	22	C
0049	―	―	円形	24	22	C
0050	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	24	21	C
0051	―	―	円形	38	17	C
0052	―	―	不定形	72	54	C
0053	弥　壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	100	41	C
0054	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	53	64	C
0055	弥　甕・高坏	弥生後半	隅丸方形	94・92	38	C
0056	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	87	49	C
0057	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	―	50	C
0058	―	―	円形	12	6	C
0059	弥　壺・甕	弥生後期	円形	34	17	C
0060	弥　甕	弥生後期	楕円形	49・38	36	B
0061		―	楕円形	16・12	4	B
0062	―	―	円形	24	10	B
0063	―	―	円形	25	15	B
0064	―	―	円形	23	18	B
0065	―	―	―	―	26	C
0066	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	46・44	50	C
0067	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	隅丸方形	88	90	C
0068	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	―	91	C
0069	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	70	82	C
0070	―	―	円形	33	11	B
0071	―	―	円形	22	6	B
0072	弥　甕	弥生後期	円形	23	39	C
0073	弥　甕	弥生後期	楕円形	28・20	9	A
0074	―	―	円形	21	―	C
0075	弥　甕	弥生後期	円形	30	11	B
0076	弥　甕	弥生後期	円形	28	32	B
0077	弥　壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	104・94	68	C
0078	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	25	39	B
0079	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	87・71	67	C
0080	弥　壺	弥生後期	円形	22	31	B

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0081	弥　甕	弥生後期	円形	25	43	B
0082	弥　甕	弥生後期	円形	23	31	B
0083	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	92	74	C
0084	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	114・125	60	C
0086	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	31	34	C
0087	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	42・40	36	C
0088	―	―	―	―	45	C
0089	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	103・89	58	C
0090	弥　甕	弥生後期	円形	24	23	C
0091	―	―	円形	21	19	C
0092	弥　甕	弥生後期	円形	30	27	A
0093	―	―	円形	24	8	C
0094	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	18	18	C
0095	弥　壺	弥生後期	円形	25	12	A
0096	―	―	円形	50	13	C
0097	―	―	円形	20	5	C
0098	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	24	30	C
0099	弥　甕	弥生後期	円形	31	13	C
0100	―	―	不定形	―	20	C
0101	―	―	楕円形	47	5	C
0102	弥　甕	弥生後期	円形	22	24	B
0103	―	―	円形	18	15	B
0104	―	―	円形	16	7	C
0105	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	38	31	B
0106	弥　壺・甕	弥生後期	円形	41	47	C
0107	弥　甕	弥生後期	円形	43	28	C
0108	―	―	円形	10	10	C
0109	―	―	円形	9	4	C
0110	―	―	円形	12	6	C
0111	―	―	円形	10	7	B
0112	―	―	円形	130	12	B
0113	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	15	10	B
0114	弥　甕	弥生後期	円形	8	8	C
0115	―	―	楕円形	40・32	11	C
0116	弥　甕	弥生後期	楕円形	36・24	21	C
0117	―	―	円形	46	20	B
0118	弥　甕	弥生後期	円形	13	3	D
0119	弥　壺	弥生後期	―	―	―	C
0120	弥　甕	弥生後期	楕円形		0	C
0121	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	―	楕円形	―	16	C
0122	弥　甕・器台、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	不定形	85	25	C
0123	弥　甕	弥生後期	円形	25	15	B
0124	―	―	円形	23	19	C
0125	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	10	C
0126	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	不定形	54	14	C
0127	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	67	39	C
0128	―	―	隅丸方形	―	7	C
0129	―	―	円形	24	7	C
0130	―	―	円形	20	7	B
0131	弥　壺・甕	弥生後期	円形	33	24	D
0132	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	10	C
0133	―	―	円形	17	17	C
0134	―	―	―	―	10	C
0135	弥　壺	弥生後期前半	―	―	33	C
0136	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	37	40	D
0137	―	―	円形	16	5	D
0138	弥　甕	弥生後期	円形	31	19	D
0139	弥　甕	弥生後期	円形	24	11	D
0140	弥　甕	弥生後期	円形	17	8	D
0141	弥　壺	弥生後期	円形	24	26	D
0142	弥　甕	弥生後期	楕円形	32・24	26	D
0143	―	―	円形	26	20	D
0144	弥　甕	弥生後期	円形	26	15	C
0145	弥　甕	弥生後期	円形	19	8	C
0146	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	43	C
0147	―	―	円形	22	15	C
0148	―	―	円形	17	10	B
0149	―	―	円形	14	2	D
0150	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	46	30	D
0151	弥　壺	弥生後期	隅丸方形	46・38	14	D
0152	弥　壺	弥生後期	円形	17	7	D
0153	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	20	18	D
0154	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	隅丸方形	46	40	D
0155	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	9	D
0156	―	―	円形	26	12	D
0157	―	―	円形	24	8	C
0158	―	―	円形	26	7	C
0159	弥　甕	弥生後期	楕円形	42・31	28	C
0160	―	―	円形	16	11	A
0161	弥　甕	弥生後期	円形	35	7	A
0162	弥　壺・甕	弥生後期	円形	17	16	C
0163	弥　甕	弥生後期	円形	20	20	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0164	—	—	円形	17	14	C
0165	弥　壺、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	35	5	C
0166	—	—	円形	19	9	C
0167	—	—	楕円形	48・32	23	C
0168	ｻﾇｶｲﾄ	弥生	円形	15	6	C
0169	—	—	円形	16・12	6	C
0170	—	—	楕円形	40・21	44	C
0171	—	—	円形	13	6	C
0172	—	—	円形	34	39	C
0173	弥　甕	弥生後期	円形	24	3	C
0174	—	—	円形	24	14	C
0175	弥　甕・高坏	弥生後期前半	不定形	78	47	C
0176	—	—	円形	18	4	C
0177	弥　甕	弥生後期	円形	18	25	C
0178	—	—	円形	13	5	B
0179	—	—	円形	23	44	B
0180	—	—	不定形	72	8	C
0181	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	57	22	B
0182	弥　壺	弥生中期後半	楕円形	71	27	B
0183	弥　甕	弥生後期	円形	40	21	D
0184	弥　甕	弥生後期	円形	14	12	D
0185	—	—	円形	15	14	D
0186	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	68	44	D
0187	弥　壺、台石	弥生後期前半	円形	52	33	D
0188	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	22	D
0189	弥　高坏	弥生中期後半	円形	17	14	D
0190	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	楕円形	79・56	14	D
0191	弥　壺・甕	弥生中期後半	隅丸方形	62	43	D
0192	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	48	44	C
0193	弥　甕	弥生後期	円形	55	15	C
0194	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	60	33	C
0195	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	52・47	17	D
0196	—	—	円形	30	45	C
0197	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	60	11	C
0198	弥　甕	弥生後期	楕円形	52	11	C
0199	—	—	円形	27	7.9	B
0200	弥　甕	弥生後期	円形	24	17	C
0201	—	—	不定形	25	8	B
0202	弥　甕	弥生後期	不定形	34	15	C
0203	—	—	円形	26	25	B
0204	弥　甕	弥生後期	円形	20	25	B
0205	—	—	円形	43	43	B
0206	弥　壺	弥生後期	円形	22	21	B
0207	—	—	円形	22	15	C
0208	弥　壺	弥生後期	円形	26	26	C
0209	—	—	円形	20	11	B
0210	弥　甕	弥生後期	円形	62	34	C
0211	弥　甕	弥生後期	円形	18	37	C
0212	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	30	C
0213	弥　壺・甕	弥生後期	円形	56	24.5	C
0214	—	—	円形	27	—	C
0215	弥　高坏	弥生後期前半	円形	—	—	C
0216	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	19	7	C
0217	—	—	円形	—	5.7	C
0218	弥　壺・甕	弥生後期	円形	29	15	C
0219	弥　壺・甕	弥生中期後半	—	—	—	D
0220	—	—	円形	22	31	C
0221	弥　壺・甕	弥生後期	円形	50	33	C
0222	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	楕円形	66・53	78	C
0223	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	円形	40	67	C
0224	—	—	円形	39	29	C
0225	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	20	16	C
0226	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	隅丸方形	68・53	55	C
0227	弥　甕	弥生後期	円形	23	85	C
0228	弥　壺・甕	弥生後期	円形	14	10	C
0229	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	—	C
0230	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	28	—	C
0231	弥　壺・甕	弥生後期	円形	22	11	C
0232	—	—	円形	20	10	C
0233	弥　甕・鉢	弥生後期前半	隅丸方形	40	6	C
0234	弥　壺・甕	弥生後期	円形	33	22	C
0235	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	55・44	46	A
0236	—	—	円形	—	4	C
0237	弥　甕	弥生後期	円形	21	7	C
0238	弥　甕	弥生後期	円形	25	22	C
0239	弥　壺・甕・器台	弥生後期	円形	35	27	C
0240	弥　甕	弥生後期	円形	35	49	C
0241	弥　甕	弥生後期	円形	31	11	C
0242	—	—	円形	18	35	B
0243	—	—	円形	13	8	C
0244	弥　壺・高坏	弥生中期後半	円形	—	21	B
0245	—	—	円形	13	22	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0246	須恵器	古墳	円形	40	20	B
0247			円形	23	29	C
0248	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	21	56	C
0249	—	—	円形	32	12	C
0250	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	44	16	C
0251	弥　甕	弥生後期	円形	28	7	B
0252	—	—	円形	13	5	C
0253	—	—	楕円形	33・25	38	C
0254	弥　甕	弥生後期	円形	33	34	C
0255	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	隅丸方形	70	74	C
0256	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	40	—	C
0257	弥 壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ、須恵器	古墳	隅丸方形	40	—	C
0258	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	40	16	C
0259	弥　甕	弥生後期	円形	22	8	C
0260	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	隅丸方形	54	66	C
0261	弥　甕	弥生後期	円形	25	16	C
0262	弥　甕	弥生後期	円形	—	32	C
0263	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	44	—	B
0264	弥　壺・甕	弥生後期	円形	53	30	B
0265	弥　壺・甕・鉢	弥生中期後半	円形	56	63	C
0266	—	—	—	—	—	C
0267	弥　甕	弥生後期	円形	27	31	C
0268	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	53	48	C
0269	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	19	26	C
0270	弥　壺・甕	弥生後期	円形	—	7	C
0271	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	43	17	C
0272	弥　壺・甕	弥生後期	円形	36	34	C
0273	—	—	円形	17	8	C
0274	弥　甕	弥生後期	円形	30	1012	C
0275	—	—	円形	19	14	C
0276	弥　壺・甕	弥生後期	円形	86	26	C
0277	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	—	42	C
0278	—	—	不定形	30	7	C
0279	—	—	円形	38	24	C
0280	弥　甕、須恵器	古代	隅丸方形	43	11	C
0281	弥生土器、須恵器	古墳	円形	48	37	C
0282	弥　壺・甕	弥生後期	—	—	30	—
0283	弥　壺・甕	弥生後期前半	楕円形	38	5	C
0284	—	—	隅丸方形	73	69	C
0286	—	—	円形	15	—	C
0287	弥　甕	弥生後期	円形	30	16	B
0288	弥　壺・甕	弥生後期	円形	25	—	C
0289	—	—	円形	20	14	C
0290	—	—	楕円形	37・24	13	C
0291	弥　甕	弥生後期	円形	18	13	C
0292	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	49	40	C
0293	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	31	—	C
0294	—	—	—	—	—	B
0295	弥　甕	弥生後期	—	—	—	C
0296	—	—	円形	21	11	C
0297	—	—	円形	14	15	C
0298	—	—	円形	16	10	C
0299	弥　甕	弥生後期	円形	30	25	C
0300	—	—	円形	26	7	C
0301	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	26	30	C
0302	—	—	円形	34	6	C
0303	弥　壺・甕・鉢	弥生後期	隅丸方形	48・41	29	A
0304	弥　甕	弥生後半	円形	15	11	C
0305	弥　甕	弥生後半	円形	24	32	C
0306	—	—	円形	57	8	C
0307	弥　甕	弥生後半	円形	—	—	C
0308	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	55	6	A
0309	弥　甕	弥生後期	—	—	64	C
0310	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	隅丸方形	55・45	38	C
0311	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	円形	73	59	C
0312	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	52	63	C
0313	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	44	C
0315	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	隅丸方形	97	78	C
0316	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	33	24	C
0317	弥　壺・甕	弥生中期後半	不定形	—	72	C
0318	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	36	10	C
0319	—	—	円形	41	—	C
0320	—	—	円形	43	10	C
0321	—	—	円形	19	14	C
0322	弥　甕	弥生後期前半	円形	37	33	C
0323	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	15	C
0324	弥　壺・甕	弥生後期	円形	17	35	C
0325	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	23	19	C
0326	—	—	円形	—	25	B
0327	—	—	—	—	25	C
0328	—	—	円形	18	3	C
0329	—	—	円形	14	20	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0330	—	—	円形	27	15	A
0331	弥　壺・甕	弥生後期	円形	31	2	A
0332	—	—	円形	17	5	C
0333	弥　壺・甕	弥生後期	円形	17	31	C
0334	弥　壺、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	40	51	B
0335	—	—	円形	16	12	B
0336	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	30	16	C
0337	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	33	24	B
0338	—	—	円形	16	12	B
0339	弥　甕	弥生後期	円形	34	28	B
0340	須恵器、弥生土器	古墳	円形	17	34	A
0341	弥　甕・鉢	弥生後期	楕円形	48・30	31	A
0342	弥　壺・甕	弥生後期	円形	57	48	A
0343	弥　甕	弥生後期	円形	29	15	A
0344	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	54	47	A
0345	—	—	円形	30	36	B
0346	—	—	円形	32	20	C
0347	弥　甕	弥生後期	円形	30	25	A
0348	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	37	38	A
0349	弥　甕	弥生後期	円形	24	32	A
0350	—	—	円形	17	23	C
0351	—	—	円形	14	3	C
0352	弥　甕	弥生後期	円形	15	14	C
0353	弥　甕	弥生後期	円形	19	19	C
0354	弥　甕	弥生後期	円形	23	33	C
0355	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	30	18	A
0356	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	20	C
0357	—	—	円形	14	6	A
0358	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	63	48	A
0359	—	—	不定形	—	21	B
0360	—	—	円形	27	15	C
0361	—	—	円形	13	8	C
0362	弥　甕	弥生中期後半	円形	31	23	C
0363	—	—	円形	25	15	C
0364	弥　甕	弥生後期	円形	16	26	C
0365	—	—	円形	26	15	B
0366	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	55	29	A
0367	弥　甕	弥生後期	円形	21	17	C
0368	弥　壺・甕	弥生後期	円形	17	16	B
0369	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	円形	38	26	A
0370	弥　甕・高坏	弥生中期後半	円形	20	25	B
0371	弥　甕	弥生中期後半	円形	20	27	C
0372	—	—	円形	35	9	B
0373	—	—	楕円形	18	10	B
0374	弥　甕	弥生中期後半	円形	28	29	B
0375	弥　壺・甕	弥生中期後半	—	—	—	B
0376	—	—	円形	15	7	A
0377	須　甕・杯、弥生土器	古墳	隅丸方形	55	27	A
0378	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	—	71	B
0379	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	—	—	3	B
0380	—	—	円形	40	34	C
0381	—	—	楕円形	50・19	13	B
0382	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	56	13	B
0383	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	—	9	C
0384	—	—	円形	28	5	B
0385	—	—	円形	20	57	A
0386	—	—	円形	28	46	C
0387	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	楕円形	—	—	B
0388	—	—	円形	—	16	A
0389	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	45	33	C
0390	弥　甕・鉢	弥生後期	円形	26	8	A
0391	—	—	円形	31	16	C
0392	弥　甕	弥生後期	円形	17	17	B
0393	—	—	円形	39	23	C
0394	—	—	円形	16	10	B
0395	弥　高坏	弥生後期	円形	17	25	C
0396	弥　甕	弥生	円形	22	17	B
0397	弥　甕	弥生後期	円形	14	8	C
0398	弥　甕	弥生後期	円形	40	36	C
0399	弥　甕	弥生後期	不定形	50	28	A
0400	—	—	円形	17	11	C
0401	—	—	不定形	49	24	C
0402	弥　壺・甕	—	不定形	—	34	A
0403	—	—	円形	41	16	C
0404	須恵器、弥生土器	古墳	不定形	58	63	A
0405	—	—	円形	27	8	C
0406	—	—	円形	44	33	C
0407	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	19	14	C
0408	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ、焼土	弥生後期前半	円形	41	29	C
0409	—	—	隅丸方形	53	14	C
0410	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	24	11	A
0411	弥　甕	弥生後期前半	円形	25	16	A

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0412	—	—	円形	—	16	A
0413	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	16	A
0414	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	17	8	A
0415	—	—	隅丸方形	61	28	C
0416	—	—	円形	19	20	C
0417	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	48	60	C
0418	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	隅丸方形	68	43	C
0419	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	隅丸方形	64	47	C
0420	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	53	30	A
0421	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	46	—	C
0422	—	—	円形	23	10	A
0423	弥　壺・甕・鉢	弥生後期	円形	35	8	C
0424	—	—	円形	18	9	A
0425	—	—	円形	17	7	C
0426	—	—	円形	26	—	A
0427	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	70	63	A
0428	弥　甕	弥生後期	不定形	—	29	A
0429	弥　甕	弥生後期	円形	34	32	A
0430	—	—	円形	—	8	C
0431	弥　甕	弥生後期前半	円形	45	29	C
0432	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	9	C
0433	弥　甕	弥生後期	円形	22	43	B
0434	—	—	円形	19	5	B
0435	—	—	円形	22	15	C
0436	—	—	円形	24	14	C
0437	弥　壺・甕	弥生後期	円形	14	7	C
0438	—	—	円形	12	9	B
0439	弥　甕	弥生後期	円形	—	10	C
0440	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	25	C
0441	—	—	円形	17	8	B
0442	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	42	22	B
0443	—	—	円形	16	10	C
0444	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	24	29	C
0445	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	不定形	117	38	C
0446	弥　甕	弥生後期	円形	46	12	A
0447	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	52	39	A
0448	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	—	14	C
0449	弥　壺・甕	弥生中期	不定形	—	35	C
0450	弥　甕	弥生中期	円形	27	29	C
0451	—	—	円形	32	6	C
0452	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	21	40	B
0453	—	—	隅丸方形	75	54	C
0454	—	—	円形	17	34	B
0455	—	—	円形	26	12	C
0456	弥　甕	弥生後期	円形	32	—	C
0457	弥　甕	弥生後期	円形	23	—	A
0458	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	30	60	B
0459	—	—	円形	33	9	B
0460	弥　壺・甕	弥生後期	円形	57	2	A
0461	弥　壺・甕・鉢	弥生後期	円形	41	17	A
0462	弥　壺・甕・鉢	弥生後期	円形	52	16	C
0463	—	—	円形	28	4	A
0464	—	—	円形	25	11	C
0465	弥　甕	弥生後期	円形	31	23	A
0466	—		円形	18	—	C
0467	—		円形	21	6	B
0468	弥　甕	弥生後期	円形	20	10	B
0469	弥　甕	弥生後期	円形	12	6	B
0470	弥　甕	弥生後期	円形	20	16	B
0471			不定形	—	8	A
0472			円形	18	19	A
0473	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	—	28	A
0474	弥　甕	弥生後期	円形	17	17	A
0475	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	17	3	B
0476	—	—	円形	19	7	C
0477	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	22	16	A
0478	—	—	円形	36	5	C
0479	—	—	円形	30	5	C
0480	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	円形	74	49	C
0481	弥 壺・甕、台石、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	47	69	C
0482	—	—	円形	16	10	C
0483	弥　高坏	弥生中期	円形	18	21	C
0485	—	—	隅丸方形	133	6	C
0486	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	不定形	62	0	C
0487	—	—	不定形	98	—	C
0488	—	—	円形	16	17	C
0489	—	—	円形	22	5	B
0490	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	不定形	32	32	B
0491	弥　壺・甕	弥生中期	円形	18	22	C
0492	—	—	円形	31	20	C
0493	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	39	27	B
0494	弥 壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ、石鏃	弥生中期	円形	24	31	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0495	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	円形	25	27	C
0496	弥　甕	—	円形	17	9	C
0497	弥　甕	弥生中期	円形	13	10	C
0498	弥　甕	弥生中期	円形	64	39	C
0499	弥　壺・甕・高坏、石鏃	弥生中期	円形	47	19	A
0500	—	—	円形	18	24	C
0501	ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	円形	30	8	C
0502	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	—	23	C
0503	弥　甕	—	円形	20	21	C
0504	—	—	不定形	115	67	C
0505	弥　甕	弥生中期後半	楕円形	42・19	17	C
0506	弥　甕	弥生中期	隅丸方形	84	71	C
0507	—	—	円形	14	23	B
0508	弥　甕	弥生後期	円形	14	27	B
0509	—	—	円形	17	7	A
0510	弥　甕	弥生後期	円形	19	27	A
0511	弥　甕	弥生後期	円形	13	9	A
0512	—	—	円形	15	11	A
0513	弥　甕	弥生中期	隅丸方形	67	73	B
0514	弥　甕	弥生後期	円形	25	12	A
0515	弥　甕	弥生後期	円形	25	26	A
0516	—	—	円形	14	7	A
0517	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	—	59	A
0518	弥　甕	弥生後期	円形	13	22	A
0519	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	53	48	C
0520	—	—	円形	26	21	C
0521	—	—	円形	17	12	C
0522	弥　甕	弥生中期	円形	44	56	C
0523	—	—	円形	15	5	B
0524	弥　甕	弥生後期	円形	23	3	C
0525	弥　甕・鉢	弥生後期	隅丸方形	64	15	C
0526	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	44	27	A
0527	弥　壺・甕・高坏	弥生後期	円形	48	41	A
0528	—	—	円形	15	14	B
0529	弥　壺・甕	弥生中期	円形	37	43	A
0530	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	70	37	C
0531	—	—	円形	—	8	B
0532	弥　甕	弥生後期	円形	28	14	C
0533	—	—	円形	12	16	C
0534	弥　甕	弥生後期	円形	33	3	C
0535	弥　甕	弥生後期	円形	—	8	C
0536	弥　甕	弥生中期	円形	24	11	C
0537	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	41・35	7	C
0538	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	84	5	B
0539	—	—	円形	42	49	A
0540	—	—	不定形	—	37	C
0541	弥　甕・鉢、砥石	弥生中期末～後期初	円形	32	33	C
0542	—	—	円形	18	22	A
0543	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	92	60	C
0544	弥　甕	弥生後期	円形	21	13	C
0545	弥　甕	弥生後期	円形	18	15	C
0546	弥　壺・甕	弥生中期	円形	20	20	C
0547	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	27	22	A
0548	弥　壺・甕	弥生中期	円形	27	37	C
0549	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期	隅丸方形	74・66	43	C
0550	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	26	22	B
0551	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	70	39	C
0552	—	—	円形	17	11	C
0553	弥　壺・甕	弥生中期	—	—	18	C
0554	弥　壺・甕	弥生中期	円形	—	15	C
0555	弥　壺・甕	弥生中期	円形	28	28	B
0556	弥 甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ、紡錘車	弥生中期	隅丸方形	69	82	C
0557	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	21	26	B
0558	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	22	15	A
0559	弥　甕	弥生中期末～後期初	楕円形	15	24	B
0560	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	44	17	C
0561	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	21	27	C
0562	—	—	不定形	91	13	C
0563	—	—	円形	14	13	A
0564	弥　甕	弥生中期	円形	26	41	C
0565	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	49・45	33	C
0566	弥　甕	弥生中期	円形	22	33	C
0567	弥　甕・高坏	弥生中期	円形	39	44	C
0568	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	21	—	C
0569	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	—	隅丸方形	140・118	29	C
0570	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	18	—	B
0571	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	隅丸方形	63	17	C
0572	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	楕円形	53・40	53	C
0573	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	85	18	C
0574	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	37	32	C
0575	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	52	35	C
0576	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	14	9	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0577	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	23	24	C
0578	—	—	円形	15	—	C
0579	弥　甕	—	円形	27	28	C
0580	弥　甕	—	円形	20	33	C
0581	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	22	27	C
0582	弥　甕	—	円形	19	47	C
0583	弥　甕	—	円形	23	37	C
0584	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	72	29	C
0585	弥　甕	—	円形	23	28	C
0586	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	50	72	C
0587	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	24	14	A
0588	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	57	54	C
0589	弥 壺・甕・高坏・蓋、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	—	14	C
0590	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	50	18	A
0591	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	—	46	C
0592	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	110	42	C
0593	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	54	39	C
0594	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	—	43	C
0595	—	—	円形	27	25	C
0596	弥　甕	弥生後期	円形	17	10	C
0597	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	20	8	C
0598	弥　甕	弥生後期	円形	30	23	C
0599	弥　甕	弥生後期	楕円形	27・17	5	C
0600	—	—	円形	28	7	B
0601	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	30	20	A
0602	弥　甕	弥生後期	円形	57	7	C
0603	—	—	円形	14	14	A
0604	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	15	8	C
0605	—	—	円形	26	22	C
0606	弥　壺・甕	弥生後期	円形	23	27	C
0607	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	21	24	A
0608	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	53	17	A
0609	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	57	13	A
0610	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	52	20	C
0611	—	—	円形	22	11	C
0612	弥　甕	弥生後期	円形	21	25	C
0613	弥　甕	弥生後期	円形	21	20	C
0614	—	—	円形	24	13	C
0615	弥　甕	弥生後期	円形	30	26	B
0616	—	—	円形	20	31	C
0617	—	—	円形	21	14	C
0618	弥　甕	弥生後期	円形	23	18	C
0619	—	—	円形	54	33	B
0620	—	—	円形	43	31	B
0621	弥　甕	弥生後期	円形	47	35	C
0622	弥　甕	弥生後期	円形	10	19	A
0623	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	30	27	A
0624	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	49	35	A
0625	弥　甕	弥生中期後半	円形	15	8	B
0626	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	48	28	C
0627	弥　甕	弥生後期	円形	35	10	A
0628	弥　甕	弥生後期	円形	27	16	A
0629	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	72・53	37	C
0630	弥 壺・甕・高坏・器台、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	48	52	C
0631	—	—	円形	22	—	A
0632	—	—	円形	27	4	C
0633	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	24	B
0634	弥　壺、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	20	13	B
0635	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	44	24	A
0636	弥　甕	弥生後期	円形	20	15	A
0637	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	33	10	C
0638	弥　甕	弥生後期	円形	43	10	C
0639	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	21	A
0640	—	—	円形	14	7	A
0641	—	—	円形	16	4	A
0642	弥　甕	弥生後期	円形	19	10	A
0643	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	26	29	A
0644	弥　甕	弥生後期	円形	30	9	C
0645	弥　甕	弥生後期	円形	19	17	B
0646	弥　甕	弥生後期	円形	43	15	B
0647	弥　甕	弥生後期	楕円形	37・30	18	A
0648	弥　壺・甕	弥生後期	円形	45	38	C
0649	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	37	35	B
0650	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	70・64	22	C
0651	—	—	円形	27	5	A
0652	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	33	15	B
0653	弥　甕	弥生後期	円形	22	27	A
0654	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	18	A
0655	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	21	23	C
0656	弥　甕	弥生後期	円形	43	23	C
0657	弥　甕	弥生後期	円形	34	24	C
0658	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	56	39	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0659	弥　甕	弥生後期	円形	12	6	B
0660	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	74	33	C
0661	弥　甕	弥生後期	円形	20	33	A
0662	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	73	50	C
0663	弥　甕	弥生後期	円形	28	26	C
0664	弥　甕	弥生後期	円形	26	14	B
0665	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	48	45	C
0666	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	44	47	C
0667	弥　甕	弥生後期	円形	35	15	A
0668	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	50・35	21	C
0669	―	―	円形	17	7	A
0670	―	―	円形	13	13	A
0671	―	―	隅丸方形	45	18	C
0672	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	45	13	C
0673	―	―	円形	31	17	C
0674	―	―	円形	16	7	C
0675	弥　甕	―	楕円形	29・21	44	C
0676	―	―	隅丸方形	46	39	C
0677	土師器　杯	中世	円形	29	49	C
0678	―	―	円形	23	18	C
0679	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	91・80	35	C
0680	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	46	25	C
0681	―	―	円形	22	33	C
0682	―	―	円形	18	12	C
0683	弥　甕	弥生後期	円形	18	46	A
0684	―	―	円形	20	15	A
0685	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	72	42	C
0686	―	―	円形	15	9	C
0687	弥　甕	弥生後期	円形	21	10	C
0688	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	17	22	A
0689	砥石	弥生後期	円形	31	24	C
0690	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	62	44	A
0691	弥　甕	弥生後期	円形	56	28	A
0692	―	―	円形	17	15	B
0693	弥　甕	弥生後半	円形	22	8	C
0694	弥　甕	弥生後半	隅丸方形	71	27	C
0696	弥　甕	弥生後半	円形	28	41	C
0697	―	―	円形	11	16	C
0698	―	―	円形	18	13	C
0699	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	54・48	16	C
0700	弥　壺・甕	弥生後半	隅丸方形	45	31	C
0701	弥　甕	弥生後半	円形	41	13	C
0702	弥　甕	弥生後期	円形	13	4	B
0703	―	―	円形	17	11	C
0704	―	弥生後期	円形	23	17	C
0705	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	―	14	C
0706	弥　壺	弥生後期	円形	18	12	C
0707	―	―	円形	18	8	C
0708	弥　壺	弥生後期	円形	15	10	C
0709	―	―	円形	17	9	B
0710	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	68	21	C
0711	弥　甕・高坏	弥生後期前半	不定形	53	14	C
0712	弥　甕	弥生後期	円形	52	16	C
0713	―	―	円形	44	29	C
0714	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	73・61	25	C
0715	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	62	29	C
0716	弥　甕	弥生後期	円形	21	9	A
0717	弥　甕	弥生後期	円形	45	16	C
0718	―	―	楕円形	33・23	36	C
0719	ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	21	5	C
0720	弥　甕・鉢	弥生後期	円形	39	25	A
0721	弥　甕	弥生後期	円形	35	11	A
0722	弥　壺・甕	弥生後期	円形	83	37	C
0723	―	―	円形	35	20	C
0724	弥　甕・高坏	弥生中末	円形	34	45	C
0725	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	96	74	C
0726	―	―	円形	22	22	B
0727	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	74	29	A
0728	―	―	隅丸方形	69・56	48	C
0729	―	―	円形	20	11	C
0730	―	―	円形	27	21	C
0731	―	―	円形	29	37	A
0732	―	―	円形	33	44	C
0733	―	―	円形	35	34	B
0734	―	―	楕円形	32・24	42	C
0735	弥　甕	弥生中期後半	円形	45	54	A
0736	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	48	46	C
0737	弥　甕	弥生後期	円形	20	22	A
0738	弥　甕・鉢	弥生後期	円形	43	22	C
0739	―	―	円形	18	4	A
0740	弥　甕・高坏	―	円形	65	49	B
0741	弥　甕・高坏	―	円形	45	59	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0742	弥　甕	―	円形	28	59	A
0743	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	―	楕円形	125	72	C
0744	弥　甕	―	円形	16	14	C
0745	弥　甕	―	円形	43	28	C
0746	弥　壺、ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	42	22	C
0747	弥　甕	―	円形	55	45	C
0748	―	―	円形	21	21	C
0749	弥　壺・甕	―	円形	22	29	C
0750	弥　甕	―	円形	21	16	C
0751	弥　甕	―	円形	17	20	C
0752	弥　甕	―	円形	27	34	C
0753	弥　甕	―	円形	17	18	A
0754	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	26	32	C
0755	弥　甕・高坏	―	円形	43	28	A
0756	弥　壺・甕	―	円形	40	43	C
0757	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	42	23	C
0758	―	―	円形	52	8	C
0759	弥　甕	―	円形	29	23	C
0760	弥　甕	―	円形	24	10	C
0761	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	45	22	C
0762	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	97	31	C
0763	弥　壺	弥生後期	隅丸方形	68	44	C
0764	―	―	円形	33	14	C
0765	―	―	円形	12	3	A
0766	―	―	円形	26	20	A
0767	―	―	円形	19	10	A
0768	弥　甕	弥生後期	円形	24	21	A
0769	―	―	円形	34	17	C
0770	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	102	51	C
0771	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	71	49	C
0772	弥 壺・甕・器台、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	56	21	C
0773	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	65	21	C
0774	弥　甕	弥生後期	円形	36	24	B
0775	弥　壺・甕	弥生後期	円形	36	23	A
0776	弥　甕	弥生後半	―	―	47	C
0778	弥　甕	弥生後半	円形	37	30	C
0779	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	39	25	C
0780	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	37	23	C
0781	―	―	円形	28	24	C
0782	―	―	円形	27	8	C
0783	―	―	隅丸方形	47	17	C
0784	―	―	隅丸方形	17	9	C
0786	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	18	5	A
0787	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	楕円形	19・14	4	B
0788	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	45	8	C
0789	―	―	円形	19	16	C
0791	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	115	16	C
0792	弥　甕	弥生後期	円形	23	11	B
0793	―	―	円形	51	39	C
0794	弥　甕	―	円形	52	15	C
0795	―	―	円形	23	12	C
0796	弥　甕	―	円形	16	11	B
0797	弥　甕	―	円形	17	7	B
0798	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	―	―	C
0800	弥　甕	弥生後期	円形	12	16	A
0801	弥　甕	弥生後期	円形	12	12	B
0802	弥　甕	弥生後期	円形	23	27	A
0803	弥　壺	弥生後期	円形	18	19	A
0804	弥　甕	弥生後期	円形	22	10	A
0805	弥　甕	弥生後期	円形	17	7	A
0806	弥　壺・甕	弥生後期	円形	30	14	C
0807	―	弥生後期	円形	13	8	B
0808	―	―	円形	22	12	C
0809	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	66	41	C
0810	弥　甕	―	円形	31	19	A
0811	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	26	12	B
0812	弥　壺・甕	弥生後期	円形	33	23	C
0813	―	弥生後期	円形	16	15	A
0814	―	―	円形	30	20	C
0815	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	46	―	A
0816	弥　壺・甕・高坏	弥生後期	隅丸方形	134・116	32	C
0818	弥　壺、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	楕円形	50・34	11	C
0819	弥　壺、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	―	―	10	C
0820	ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	22	12	A
0821	ｻﾇｶｲﾄ	―	円形	20	12	A
0822	―	―	円形	13	8	C
0823	弥　甕	弥生後期	円形	18	14	C
0824	―	弥生後期	円形	24	4	C
0825	弥　甕	弥生後期	円形	23	14	A
0826	弥　甕	弥生後期	円形	―	7	C
0827	弥　甕	弥生後期	不定形	56	41	C
0828	弥　甕・・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	21	29	C

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0829	—	—	円形	25	38	C
0830	—	弥生後期	円形	53	13.6	A
0831	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	58	65	C
0832	弥　甕	弥生後期	円形	40	17	C
0833	弥　甕	弥生後期	円形	10	4	C
0834	—	—	円形	13	4	B
0835	弥　甕・高坏、須恵器	古墳	円形	50	29	A
0836	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	80・42	23	C
0837	—	—	円形	14	22	C
0838	弥　甕	弥生後期	—	65	37	C
0839	弥　甕	弥生後期	不定形	39	39	C
0840	弥　甕	弥生後期	円形	38	22	C
0841	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	22	24	A
0842	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	楕円形	38・16	19	A
0843	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	65	49	C
0844	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	47	13	C
0845	弥　甕	弥生後期	円形	13	19	C
0846	弥　甕	弥生後期	円形	19	12	B
0847	—	—	不定形	—	19	C
0848	弥　甕	弥生後期	円形	25	19	A
0849	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	59	35	C
0850	弥　甕	弥生後期	円形	50	23	C
0851	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	31	22	C
0852	弥　甕	弥生後期	円形	25	2	C
0853	弥　甕	弥生後期	円形	29	58	C
0854	弥　甕・鉢	弥生後期	円形	40	9	C
0855	弥　甕・高坏	弥生後期	隅丸方形	57	19	C
0856	—	—	不定形	27	35	A
0857	弥　甕	弥生後期	不定形	23	9	A
0858	弥　甕	弥生後期	不定形	—	12	C
0859	—	—	円形	134・116	4	A
0860	弥　甕	弥生後期	円形	15	15	C
0861	—	—	不定形	25	24	C
0862	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	38	21	C
0863	—	—	円形	32	8	C
0864	弥　甕、須恵器	古墳	円形	26	41	C
0865	—	—	円形	21	7	C
0866	—	—	円形	11	6	A
0867	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	81	61	C
0868	—	—	円形	10	17	A
0869	弥　壺・甕	弥生後期	円形	93	30	C
0870	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	—	—	45	C
0871	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	76	40	C
0872	弥　甕	弥生後期	円形	10	29	C
0873	—	—	不定形	46	36	A
0874	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	46	17	C
0875	弥　甕	弥生後期	円形	38	7	A
0876	—	—	円形	13	3	C
0877	—	—	不定形	47	17	C
0878	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	30	21	C
0879	弥　甕・器台・高坏	弥生後期	円形	23	12	C
0880	—	弥生後期	円形	24	22	A
0881	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	22	15	A
0882	—	—	円形	14	6	A
0883	弥　甕	弥生後期	円形	29	16	C
0884	—	—	円形	16	10	C
0885	弥　甕	弥生後期	—	—	12	A
0886	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	23	26	A
0887	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	45	16	B
0888	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	18	36	B
0889	弥　甕・鉢、ｻﾇｶｲﾄ、焼土	弥生後期	円形	62	10	A
0890	弥　甕	弥生後期	円形	18	13	A
0891	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	13	10	A
0892	弥　甕、砥石	弥生後期	円形	52	29	A
0893	弥　甕	弥生後期	円形	17	11	B
0894	弥　甕	弥生後期	円形	13	5	B
0895	弥　甕	弥生後期	円形	23	11	B
0896	弥　甕	弥生後期	円形	18	5	C
0897	弥　甕	弥生後期	円形	72	24	C
0898	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ、須恵器	古墳	円形	53	11	A
0899	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	18	8	C
0900	弥　甕	弥生後期	円形	38	48	C
0901	弥　甕	弥生後期	円形	19	9	B
0902	弥　甕	弥生後期	円形	24	11	A
0903	弥　甕	弥生後期	円形	36	18	A
0904	弥　甕・高坏、須恵器	古墳	円形	46	21	A
0905	弥　甕	弥生後期	不定形	—	25	C
0906	ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	—	2	C
0907	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	19	41	C
0908	弥　甕、焼土	弥生後期	円形	40	25	C
0909	弥　甕	弥生後期	円形	14	8	A
0910	弥　甕	弥生後期	不定形	52	16	A

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0911	—	—	円形	24	7	C
0912	—	—	円形	18	10	C
0913	弥　甕	弥生後期	円形	49	12	A
0914	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	35	24	C
0915	—	—	円形	24	21	C
0916	—	—	円形	21	32	C
0917	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	22	118	C
0918	弥　甕	弥生後期	円形	45	8	C
0919	弥　甕	弥生後期	円形	32	23	C
0920	弥　甕	弥生後期	円形	42	34	C
0921	—	—	円形	16	7	A
0922	弥　壺(朱)・甕・高坏	弥生後期	円形	32	18	C
0923	弥　甕	弥生後期	円形	16	7	B
0924	弥　甕	弥生後期	円形	35	7	C
0925	弥　甕	弥生後期	円形	60	32	C
0926	弥　甕	弥生後期	円形	37	6	C
0927	弥　壺・甕	弥生後期	円形	31	34	C
0928	弥　甕	弥生後期	円形	27	7	C
0929	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	60	60	A
0930	弥　甕	弥生後期	円形	41	11	A
0931	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	46	54	A
0932	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	41	—	C
0933	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	25	23	A
0934	弥　壺・甕	弥生後期	円形	32	11	C
0935	-	—	円形	17	8	C
0936	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	28	23	C
0937	弥　甕	弥生後期	円形	21	20	C
0938	弥　甕	弥生後期	円形	19	25	C
0939	弥　壺・甕	弥生後期	円形	35	34	C
0940	—	—	円形	35	6	C
0941	弥　甕・高坏、須恵器	弥生後期？	不定形	95	85	C
0942	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	不定形	—	46	C
0943	—	—	円形	24	14	C
0944	弥　壺・甕	弥生後期	円形	32	46	C
0945	—	—	円形	45	34	C
0946	—	—	円形	48	4	C
0947	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	31	32	C
0948	弥　甕	弥生後期	円形	29	11	C
0949	弥　甕	弥生後期	円形	39	8	C
0950	弥　壺	弥生後期	円形	28	30	A
0951	弥　甕	弥生後期	円形	36	36	C
0952	-	—	円形	27	10	C
0953	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	30	43	C
0954	—	—	不定形	—	8	C
0955	弥　甕	弥生後期	円形	41	13	C
0956	弥　甕・高坏	弥生後期	隅丸方形	67	42	C
0957	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	—	—	38	A
0958	弥　甕	弥生後期	円形	34	21	A
0960	—	—	円形	15	14	—
0961	弥　甕	弥生後期	円形	16	18	—
0962	—	—	円形	18	10	—
0963	—	—	不定形	62	27	—
0965	—	—	円形	23	9	—
0966	弥　甕	弥生後期	円形	52	21	C
0967	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	不定形	39	40	D
0968	弥　甕	弥生後期	円形	17	2	—
0969	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	24	5	—
0970	弥　鉢	弥生中期後半	円形	13	28	—
0971	弥　甕	弥生後期	円形	16	18	C
0972	—	—	不定形	54	8	—
0973	—	—	円形	25	6	—
0974	—	—	不定形	64	10	—
0975	弥　甕	弥生後期	不定形	51	7	—
0976	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	48	4	—
0977	弥　壺・甕	弥生後期	円形	17	11	—
0978	—	—	不定形	41	14	—
0979	—	—	隅丸方形	26・16	12	—
0980	—	—	円形	10	6	—
0981	—	—	隅丸方形	142・66	23	—
0984	—	—	円形	57	31	A
0985	—	—	楕円形	46	4	D
0986	—	—	円形	22	21	—
0987	—	—	隅丸方形	—	—	—
0988	—	—	円形	18	19	B
0989	—	—	楕円形	114	13	A
0990	—	—	不定形	75	19	—
0991	—	—	楕円形	64・20	4	—
0992	—	—	隅丸方形	99	29	—
0993	弥　壺・甕・高坏	弥生後期	円形	39	42	C
0994	—	—	不定形	—	31	C
0995	—	—	隅丸方形	130	14	C
0997	—	—	円形	20	24	—

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
0998	—	—	円形	31	18	A
0999	—	—	不定形	45	39	—
1000	—	—	円形	46	16	A
1002	弥　壺・甕	弥生後期	円形	15	15	C
1004	—	—	円形	13	8	C
1005	—	—	—	—	—	C
1006	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	—	6	C
1007	—	—	円形	20	17	B
1008	弥　甕	弥生後期	円形	17	15	B
1009	—	—	円形	37	34	B
1010	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	33	4	B
1011	—	—	円形	24	15	C
1012	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	—	33	B
1013	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	—	25	B
1014	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	—	8	B
1015	—	—	円形	13	12	C
1016	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	—	—	—
1017	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	69	—
1018	—	—	隅丸方形	110・71	7	—
1019	—	—	円形	—	9	C

第Ⅱ調査区　941穴

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1020	弥　甕	弥生後期	円形	22	18	E
1021	—	—	円形	22	8	E
1022	弥　甕	弥生後期	不定形	37	9	E
1023	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	42	15	E
1024	弥　甕	弥生後期	不定形	—	19	E
1025	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	58	5	E
1026	—	—	円形	17	5	E
1027	弥　甕	弥生後期	円形	26	14	E
1028	弥　甕	弥生後期	円形	13	7	E
1029	—	—	円形	24	8	E
1030	須恵器、ｻﾇｶｲﾄ	古墳	円形	55	41	E
1031	—	—	円形	24	18	E
1032	弥　甕	弥生後期	円形	21	7	E
1033	—	—	円形	22	6	E
1034	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	—	7	E
1035	弥　甕	弥生後期	円形	30	7	E
1036	弥　甕、焼土	弥生後期	隅丸方形	63・50	10	E
1037	弥　甕	弥生後期	円形	50	23	E
1038	焼土	弥生後期	円形	21	2	E
1039	弥　甕	弥生後期	円形	47	33	E
1040	弥　壺・甕	弥生後期	円形	79	33	E
1041	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	49	35	E
1042	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	50	49	E
1043	弥　壺・甕	弥生中期後半	隅丸方形	87・75	64	E
1044	弥　甕	弥生後期	円形	32	44	E
1045	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	57	31	E
1046	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	58	49	E
1047	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	50	32	E
1048	弥　甕・高坏	弥生後期前半	隅丸方形	43	26	E
1049	—	—	円形	25	5	E
1050	縄文土器	—	不定形	62	15	E
1051	—	—	円形	26	15	E
1052	弥　甕	弥生後期	円形	57	10	E
1053	—	—	円形	23	19	E
1054	弥　甕	弥生後期	円形	24	—	E
1055	—	—	円形	42	19	E
1056	弥　甕	弥生後期	円形	78	9	F
1057	弥　甕	弥生後期	円形	35	48	E
1058	—	—	円形	35	18	E
1059	弥　甕	弥生後期	円形	42	4	F
1060	—	—	円形	37	20	E
1061	弥　甕	弥生後期	円形	—	8	F
1062	—	—	円形	33	31	E
1063	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	56	9	F
1064	—	—	円形	23	36	E
1065	—	—	円形	36	18	E
1066	—	—	円形	33	7	F
1067	弥　甕	弥生後期	円形	52	8	F
1068	—	—	円形	37	22	E
1069	—	—	円形	45	7	E
1070	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	37	34	F
1071	弥　甕	弥生後期	円形	33	8	E
1072	弥　壺・甕	弥生後期	円形	31	7	E
1073	—	—	円形	42	18	E
1074	—	—	円形	—	—	E
1075	—	—	円形	17	8	E
1076	弥　甕	弥生後期	円形	35	51	E
1077	弥　甕	弥生後期	円形	42	25	E
1078	—	—	円形	31	53	E
1079	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	—	円形	72	33	G

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1080	—	—	円形	40	54	E
1081	—	—	円形	31	14	E
1082	弥　甕	弥生後期	円形	35	29	E
1083	—	—	不定形	31	35	E
1084	—	—	円形	31	35	—
1085	弥　甕	弥生後期	円形	17	18	E
1086	弥　甕	弥生後期	円形	12	21	E
1087	弥　壺・甕	弥生後期	円形	51	29	F
1088	—	—	円形	53	—	F
1089	—	—	円形	13	5	E
1090	弥　壺・甕	弥生後期	円形	48	22	E
1091	縄文土器、弥　壺・甕	弥生後期	円形	43	24	G
1092	—	—	円形	15	20	G
1093	—	—	円形	29	9	G
1094	弥　甕	弥生後期	円形	20	7	G
1095	弥　壺	弥生後期	円形	23	12	E
1096	弥　甕	弥生後期	円形	17	13	E
1097	弥　甕	弥生後期	円形	25	14	E
1098	弥　甕	弥生後期	円形	30	7	E
1099	弥　壺・甕	—	円形	18	11	E
1100	須恵器、土師器	古墳中葉	円形	40	35	E
1101	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	36	48	E
1102	弥　甕	弥生後期	楕円形	—	38	E
1103	—	—	円形	39	8	E
1104	—	弥生後期	円形	21	7	E
1105	弥　壺・甕	弥生後期	円形	21	26	F
1106	弥　甕	弥生後期	円形	55	4	E
1107	弥　壺・甕	弥生後期	円形	30	37	E
1108	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	42	11	E
1109	—	—	円形	19	12	E
1110	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	48	25	E
1111	—	—	不定形	—	26	—
1112	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	不定形	—	22	E
1113	弥　甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	77	33	—
1114	弥　壺・甕	弥生後期	円形	35	44	E
1115	弥　壺・甕	弥生後期	円形	22	30	E
1116	弥　ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	20	20	E
1117	弥　壺・甕	弥生後期	円形	—	—	E
1118	弥　壺・甕	弥生後期	円形	35	29	E
1119	弥　壺・甕	弥生後期	円形	14	32	E
1120	—	—	不定形	58	18	E
1121	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	—	19	E
1122	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	—	34	E
1123	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	73	29	E
1124	弥　壺・甕	弥生後期	円形	28	29	G
1125	弥　甕	弥生後期	円形	47	20	E
1126	弥　甕	弥生後期	円形	53	19	E
1127	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	24	7	E
1128	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	—	36	E
1129	—	—	円形	34	7	E
1130	—	—	楕円形	—	6	E
1131	—	—	円形	18	3	E
1132	—	—	円形	19	7	E
1133	弥　甕	弥生後期	不定形	55	36	F
1134	弥　甕	弥生後期	円形	27	42	E
1135	弥　甕	弥生後期	不定形	50	24	E
1136	弥　甕	弥生後期	円形	24	8	E
1137	—	—	円形	16	4	E
1138	—	—	円形	28	13	E
1139	—	—	円形	16	9	E
1140	弥　甕	—	円形	25	21	E
1141	—	—	円形	51	37	E
1142	弥　壺・甕	弥生後期	円形	71	27	E
1143	弥　甕	弥生後期	円形	38	46	E
1144	—	—	円形	40	21	E
1145	弥　壺・甕	弥生後期	円形	50	10	E
1146	弥　壺・甕・鉢	弥生後期	円形	53	26	E
1147	弥　甕	弥生後期	不定形	75	18	F
1148	弥　甕	弥生後期	円形	13	5	F
1149	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	不定形	60	6	E
1150	弥　甕	弥生後期	円形	27	16	E
1151	弥　甕、須恵器	古墳	円形	61	11	E
1152	弥　壺・甕	弥生後期	円形	—	22	E
1153	弥　甕	弥生後期	円形	—	19	E
1154	弥　甕	弥生後期	円形	32	33	E
1155	弥　甕	弥生後期	円形	18	18	E
1156	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	23	E
1157	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	55	45	E
1158	弥　壺・甕	弥生後期	円形	26	23	F
1159	弥　鉢	弥生後期	円形	25	41	E
1160	弥　甕	弥生後期	円形	27	28	E
1161	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	52	39	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1162	弥　甕	弥生後期	円形	20	11	—
1163	—	—	円形	25	19	E
1164	弥　甕	弥生後期	円形	17	6	E
1165	弥　甕	弥生後期	楕円形	—	15	E
1166	弥　甕、須恵器	古代	円形	65	32	G
1167	弥　甕	弥生後期	円形	45	7	E
1168	—	—	円形	52	24	F
1169	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	60	32	E
1170	須 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	古代	円形	61	10	E
1171	—	—	円形	57	29	E
1172	—	—	円形	48	14	E
1173	—	—	円形	33	13	E
1174	弥　甕	弥生後期	円形	—	27	E
1175	弥　甕	弥生後期	円形	35	8	E
1176	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	32	8	E
1177	弥　壺・甕、須恵器	古墳	円形	52	31	F
1178	弥　甕	弥生後期	円形	—	9	F
1179	弥　甕	弥生後期	円形	—	15	E
1180	弥　甕	弥生後期	円形	27	9	E
1181	—	—	円形	60	26	F
1182	弥　壺	弥生後期	円形	63	15	F
1183	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	60	17	E
1184	弥　甕	縄文後期	円形	33	10	E
1185	—	—	円形	44	35	E
1186	—	—	円形	10	4	E
1187	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	縄文後期	円形	21	7	E
1188	弥　甕、須恵器	古墳	円形	16	4	G
1189	弥　甕	弥生後期	円形	30	34	E
1190	弥　甕	弥生後期	円形	18	24	E
1191	—	—	円形	12	3	E
1192	—	—	隅丸方形	65	60	E
1193	弥　甕・高坏	弥生後期	円形	—	44	E
1194	弥　甕	弥生後期	楕円形	63	39	E
1195	弥　甕	弥生後期	円形	50	27	E
1196	弥　甕	弥生後期	不定形	45	17	G
1197	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	55	26	E
1198	—	—	円形	38	26	E
1199	弥　甕、須恵器	古代	円形	46	20	E
1200	弥　甕	弥生後期	円形	56	33	E
1201	弥　甕	弥生後期	円形	38	32	E
1202	弥　甕	弥生後期	円形	15	20	E
1203	—	—	円形	23	15	E
1204	縄文土器、弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	54	27	G
1205	縄文土器、弥 甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	62	25	E
1206	—	—	不定形	—	9	E
1207	弥　壺・甕	弥生後期	円形	33	23	E
1208	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	8	E
1209	—	—	不定形	—	24	E
1210	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	50	36	E
1211	弥　甕	弥生後期	円形	28	11	E
1212	弥　甕	弥生後期	円形	23	7	E
1213	—	—	隅丸方形	40	8	E
1214	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	隅丸方形	50・40	13	E
1215	弥　甕	弥生後期	円形	51	25	E
1216	弥　甕	弥生後期	円形	26	6	E
1217	弥　甕	弥生後期	円形	40	8	E
1218	—	—	円形	53	29	E
1219	縄文土器、弥　甕	弥生後期前半	円形	47	17	G
1220	縄文土器	弥生後期	円形	51	44	E
1221	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	26	E
1222	弥　壺・甕	弥生後期	円形	72	21	E
1223	弥　壺・甕	弥生後期	隅丸方形	82	33	G
1224	須恵器	古墳	隅丸方形	56	38	E
1225	弥　甕	弥生後期	円形	32	38	E
1226	弥 壺・甕・鉢・高坏・器台	弥生中期末～後期初	不定形	80	65	E
1227	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	31	27	E
1228	縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	縄文後期	円形	56	26	E
1229	—	—	円形	43	11	E
1230	—	—	円形	49	49	G
1231	弥　壺・甕・鉢	弥生後期前半	円形	55	44	E
1232	縄文土器、弥　壺・甕	弥生後期前半	不定形	43	29	E
1233	—	—	円形	21	20	G
1234	縄文土器	縄文後期	楕円形	40	23	E
1235	—	—	円形	16	9	E
1236	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	49	42	E
1237	弥　壺	弥生中期末～後期初	円形	24	47	E
1238	弥　甕	弥生後期前半	円形	31	11	E
1239	—	—	円形	31	19	E
1240	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	61	28	—
1241	縄文土器、弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	52	32	E
1242	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	71	30	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1243	弥　壺・甕・器台	弥生後期前半	円形	66	20	E
1244	弥　壺	弥生後期前半	円形	32	33	E
1245	縄文土器、須恵器	古墳	円形	57	33	E
1246	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	32	26	E
1247	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	10	E
1248	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	53	34	E
1249	弥　甕	弥生後期前半	円形	32	10	E
1250	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	38	E
1251	縄文土器	縄文後期	不定形	66	46	F
1252	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	円形	38	56	G
1253	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	円形	49	39	G
1254	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	36	41	G
1255	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	42	E
1256	弥　甕	弥生後期前半	円形	40	44	G
1257	弥　壺・甕・鉢、須恵器	古墳	円形	59	39	E
1258	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	45	31	G
1259	縄文土器、弥 壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	90	50	—
1260	—	—	不定形	50	6	E
1261	縄文土器	縄文後期	不定形	51	14	E
1262	—	—	楕円形	34	13	—
1263	縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	縄文後期	円形	23	26	E
1264	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	52	E
1265	縄文土器、弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	64	35	F
1266	縄文土器、弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	—	6	E
1267	縄文土器、弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	71	30	E
1268	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	24	15	E
1269	—	—	円形	—	42	G
1270	弥　甕	弥生後期前半	円形	43	17	E
1271	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	—	42	G
1272	弥　壺・甕、土師器	古墳	円形	60	24	E
1273	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	44	15	E
1274	—	—	円形	56	26	E
1275	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	57	25	E
1276	縄文土器、弥 壺・甕・高坏	弥生後期前半	不定形	66	37	E
1277	弥　甕、縄文土器	弥生後期前半	不定形	58	30	E
1278	弥 甕、土師器、須恵器	古墳	円形	60	37	E
1279	縄文土器、弥 甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	44	13	E
1280	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	46	17	G
1281	縄文土器、弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	98	57	—
1282	弥　壺・甕、須恵器	古墳	円形	54	40	E
1283	弥　壺・甕、須恵器	古墳	円形	60	45	E
1284	縄文土器、弥　甕	弥生後期前半	不定形	65	30	E
1285	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	38	28	E
1286	縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	縄文後期	円形	72	10	E
1287	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	59	43	E
1288	—	—	円形	50	35	E
1289	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	60	33	G
1290	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	—	22	G
1291	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	60	25	E
1292	弥 壺・甕・高坏、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	楕円形	56	40	E
1293	弥　甕、須恵器	古墳	円形	32	14	E
1294	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	20	—	E
1295	弥　甕	弥生後期前半	円形	46	11	E
1296	弥　甕	弥生後期前半	円形	42	41	E
1297	弥　壺・甕、須恵器	古墳	円形	63	46	E
1298	弥　壺・甕	弥生中期後半	隅丸方形	93	39	E
1299	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	42	27	E
1300	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	円形	34	68	E
1301	縄文土器	縄文後期	円形	23	9	F
1302	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	45	33	E
1303	弥 甕、縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	古墳	円形	51	32	E
1304	弥 甕、縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	古墳	—	59	13	E
1305	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	50	59	E
1306	弥　壺	弥生後期前半	円形	18	12	F
1307	弥　甕	弥生後期前半	不定形	44	31	E
1308	弥　壺・甕	弥生後期前半	—	—	16	E
1309	弥　甕、須恵器	古墳	円形	50	56	E
1310	弥　甕	弥生後期前半	円形	40	49	E
1311	縄文土器、弥 壺、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	48	33	E
1312	—	—	円形	28	29	E
1313	—	—	円形	11	15	E
1314	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	41	53	E
1315	弥　壺・甕	弥生後期前半	—	—	27	E
1316	弥　甕・高坏	弥生後期前半	円形	46	21	E
1317	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	30	10	E
1318	弥　甕	弥生後期前半	円形	47	18	E
1319	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	10	E
1320	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	不定形	84	27	—
1321	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	31	23	—
1322	弥 壺・甕・高坏、須恵器	古墳	不定形	42	53	E
1323	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	83	21	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1324	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	—	25	E
1325	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	46	21	E
1326	弥 壺・甕、須恵器、ｻﾇｶｲﾄ	古墳	不定形	82	13	E
1327	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	不定形	85	44	E
1328	弥　壺・甕、須恵器	古墳	不定形	—	28	E
1329	弥　甕	弥生後期前半	円形	28	13	E
1330	弥　壺、縄文土器	弥生後期前半	円形	27	24	E
1331	土師器、須恵器	古墳	円形	—	53	E
1332	弥　甑、須恵器	古墳	円形	—	32	E
1333	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	25	E
1334	縄文土器、弥　甕	弥生後期前半	円形	34	21	E
1335	弥　甕	弥生後期前半	不定形	53	52	E
1336	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	41	51	E
1337	弥　甕	弥生後期	円形	38	23	E
1338	弥　甕	弥生後期	円形	17	7	E
1339	縄文土器、弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	77	62	F
1340	弥　甕	弥生後期前半	円形	36	22	E
1341	弥　甕	弥生後期前半	円形	39	47	E
1342	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	円形	18	26	E
1343	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	46	33	E
1344	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	28	E
1345	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	35	56	E
1346	—	—	楕円形	66	28	F
1347	縄文土器	縄文後期	円形	36	35	E
1348	弥　壺・甕	弥生後期前半	楕円形	50	35	E
1349	—	—	円形	19	32	E
1350	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	54	37	E
1351	—	—	円形	18	2	E
1352	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	—	45	E
1353	弥　壺・甕、須恵器	古墳	円形	52	31	E
1354	—	—	円形	32	29	E
1355	弥　甕	弥生後期前半	円形	36	23	E
1356	弥　甕	弥生後期前半	円形	37	26	E
1357	弥　甕	弥生後期前半	円形	14	9	E
1358	弥　甕	弥生後期	円形	21	17	E
1359	—	—	円形	32	23	E
1360	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	53	22	E
1361	弥　甕	弥生後期前半	円形	19	36	E
1362	弥　壺・甕	弥生後期前半	—	—	27	—
1363	—	—	不定形	37	30	F
1364	—	—	円形	20	27	—
1365	—	—	円形	17	7	—
1366	弥　壺	弥生後期前半	円形	19	15	—
1367	—	—	円形	26	58	E
1368	弥　甕	弥生後期前半	円形	17	17	E
1369	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	14	E
1370	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	16	18	E
1371	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	31	15	E
1372	—	—	円形	22	11	—
1373	縄文土器	縄文後期	円形	34	13	—
1374	—	—	円形	32	11	—
1375	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	46	38	E
1376	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	37	26	E
1377	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	15	E
1378	—	—	円形	22	33	E
1379	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	29	33	E
1380	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	40	42	F
1381	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	54	31	E
1382	弥　壺・甕	弥生中期後半	不定形	83	10	E
1383	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	32	E
1384	縄文土器、弥　壺	縄文後期前半	円形	28	25	E
1385	縄文土器	縄文後期	円形	39	28	E
1386		—	円形	15	6	—
1387	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	26	E
1388	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	47	20	E
1389	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	不定形	82	44	E
1390	弥　甕	弥生後期前半	円形	13	23	E
1391	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	20	E
1392	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	29	E
1393	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	54	45	E
1394	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	20	42	E
1395	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	71	24	F
1396	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	68	44	F
1397	弥　甕	弥生後期前半	不定形	46	35	E
1398	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	84・73	53	F
1399	—	—	円形	39	17	F
1400	—	—	円形	15	25	F
1401	弥　壺・甕	弥生中期後半	隅丸方形	71	43	E
1402	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	66	42	F
1403	—	—	円形	20	5	F
1404	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	33	47	E
1405	弥　甕	弥生後期前半	円形	21	7	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1406	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	円形	33	66	E
1407	弥　甕	弥生後期前半	円形	34	10	E
1408	弥　甕・鉢	弥生後期前半	円形	27	57	E
1409	弥　甕	弥生後期前半	円形	14	14	E
1410	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	83	30	F
1411		—	円形	45	16	E
1412	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	16	F
1413	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	86	8	F
1414	—	—	円形	59	24	F
1415	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	7	14	—
1416	弥　甕、須恵器	古墳	円形	30	24	E
1417	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	11	E
1418	—	—	不定形	—	43	E
1419	弥　甕	弥生後期前半	円形	34	46	E
1420	弥　甕	弥生中期末～後期初	え	19	9	E
1421	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	33	40	E
1422	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	26	20	E
1423	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	34	14	E
1424	—	—	不定形	—	7	F
1425	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	74	20	F
1426	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	14	E
1427	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	8	E
1428	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	32	34	E
1429	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	100	28	F
1430	弥　甕	弥生中期末～後期初	楕円形	31	16	E
1431	弥　高坏	弥生中期末～後期初	不定形	75	12	F
1432	—	弥生中期末～後期初	円形	21	2	E
1433	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	26	18	E
1434	—	—	不定形	88	37	E
1435	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	41	E
1436	弥　甕	弥生後期前半	円形	—	50	E
1437	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	19	E
1438	—	—	円形	41	13	E
1439	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	29	E
1440	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	69	46	F
1441	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	35	E
1442	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	75・65	43	F
1443	—	—	円形	21	27	E
1444	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	34	28	E
1445	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	38	30	E
1446	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	20	—	E
1447	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	56	46	E
1448	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	53	E
1449	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	20	E
1450	樹尾土器、弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	26	53	E
1451	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	15	E
1452	弥　甕	弥生後期前半	円形	17	19	E
1453	弥　甕	弥生後期前半	円形	58	34	E
1454	弥　甕	弥生後期前半	円形	37	14	E
1455	弥　甕	弥生後期前半	円形	35	15	E
1456	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	—	36	F
1457	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	75	42	F
1458	弥　甕	弥生中期末～後期初	楕円形	60	23	F
1459	縄文土器	縄文後期	円形	65	28	F
1460	弥　甕	弥生後期前半	円形	46	23	E
1461	—	—	楕円形	58	41	E
1462	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	83	43	F
1463	縄文土器	縄文後期	不定形	44	16	E
1464	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	33	49	E
1465	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	72	24	F
1466	弥　甕・高坏	弥生中期後半	不定形	83	46	F
1467	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	33	11	F
1468	縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	縄文後期	不定形	93・78	39	F
1469	縄文土器	縄文後期	隅丸方形	150・76	23	F
1470	—	—	隅丸方形	87・73	54	F
1471	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	95・80	31	F
1472	弥　甕	弥生後期前半	円形	35	28	E
1473	縄文土器	縄文晩期	円形	51	26	F
1474	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	51	29	F
1475	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	11	G
1476	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	55	30	F
1477	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	87	42	F
1478	弥　壺・甕	弥生中期後半	不定形	91	65	F
1479	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	50	33	F
1480	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	83・66	47	F
1481	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	73	41	F
1482	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	12	F
1483	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	16	8	E
1484	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	13	E
1485	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	82	13	F
1486	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	55	32	E
1487	—	—	隅丸方形	79	4	F

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1488	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	50	50	E
1489	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	50	64	E
1490	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	25	11	—
1491	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	75	29	F
1492	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	28	43	E
1493	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	59	43	E
1494	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	57・49	36	F
1495	—	—	円形	43	11	E
1496	—	—	円形	14	7	E
1497	—	—	円形	20	7	—
1498	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	50	16	E
1499	弥　甕	弥生中期末～後期初	楕円形	50	46	F
1500	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	47	38	E
1501	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	37	20	E
1502	弥　甕	弥生後期前半	円形	46	18	E
1503	—	—	不定形	—	37	F
1504	弥　甕、須恵器	古墳	不定形	55	32	F
1505	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	7	E
1506	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	22	45	E
1507		—	円形	36	16	E
1508	—	—	円形	31	11	E
1509	弥　甕	弥生後期前半	円形	63	62	G
1510	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	13	E
1511	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	33	E
1512	弥　甕	弥生後期前半	円形	13	21	E
1513	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	55	26	G
1514	弥　甕、須恵器	古墳	円形	27	22	E
1515	弥　甕	弥生後期前半	—	—	27	G
1516	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	27	19	E
1517	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	48	29	E
1518	—	—	楕円形	69	62	E
1519	弥　壺・甕	弥生後期前半	不定形	—	62	E
1520	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	22	15	F
1521	弥　甕	弥生後期前半	円形	41	41	E
1522	弥　甕	弥生後期前半	不定形	—	24	G
1523	—	—	楕円形	—	22	F
1524	—	—	円形	38	14	E
1525	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	19	E
1526	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	35	24	E
1527	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	23	F
1528	—	—	円形	36	25	E
1529	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	36	19	E
1530	弥　甕	弥生後期前半	円形	21	9	E
1531	弥　甕	弥生中期末～後期初	楕円形	43	12	E
1532	縄文土器	縄文後期	不定形	34	21	E
1533	縄文土器・弥生土器	弥生後期	円形	62	25	G
1534	弥　壺	弥生後期前半	楕円形	40	30	E
1535	—	—	円形	22	9	E
1536	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	31	17	E
1537	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	35	52	F
1538	—	—	円形	12	19	E
1539	—	—	円形	13	5	E
1540	縄文土器	縄文後期～晩期	不定形	29	33	E
1541	—	—	不定形	30	26	E
1542	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	39	18	E
1543	—	—	楕円形	62	42	E
1544	—	—	円形	39	4	F
1545	弥　甕	弥生後期前半	—	—	10	E
1546	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	19	E
1547	—	—	円形	60	32	G
1548	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	56	30	F
1549	弥　甕	弥生後期	円形	56	34	—
1550	—	—	円形	36	37	E
1551	—	—	円形	31	22	E
1552	—	—	円形	60	35	E
1553	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	95	39	E
1554	—	—	円形	53	30	G
1555	—	—	円形	32	15	E
1556	弥　甕、須恵器	古墳	円形	33	26	G
1557	—	—	楕円形	50	18	E
1558	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	—	9	E
1559	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	56	18	G
1560	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	13	E
1561	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	30	E
1562	弥　甕	弥生後期前半	円形	32	15	E
1563	—	—	円形	150	15	E
1564	縄文土器	縄文晩期	—	42	16	E
1565	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	25	16	E
1566	—	—	円形	31	20	E
1567	弥　甕・高坏	弥生中期後半	円形	17	25	E
1568			円形	20	11	F
1569	弥　甕	弥生後期前半	円形	31	16	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1570	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	26	10	E
1571	弥　壺・甕、須恵器	古墳	円形	62	21	E
1572	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	36	22	E
1573	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	楕円形	37	19	E
1574	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	63	21	E
1575	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	16	E
1576	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	55	29	G
1577	—	—	不定形	83	5	F
1578	—	—	円形	17	—	E
1579	弥　甕	弥生後期前半	不定形	—	20	F
1580	弥　甕	弥生後期前半	円形	12	15	E
1581	—	—	円形	17	15	F
1582	—	—	円形	20	18	E
1583	弥　甕	弥生後期前半	円形	78	53	E
1584	弥　甕	弥生後期前半	円形	25	15	E
1585	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	27	E
1586	弥　甕	弥生後期	円形	25	11	E
1587	弥　甕	弥生後期	円形	15	9	E
1588	弥　甕	弥生後期	円形	25	12	E
1589	—	—	円形	16	13	G
1590	—	—	円形	27	12	F
1591	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	80	47	E
1592	縄文土器	縄文後期	不定形	—	6	F
1593	縄文土器	縄文後期	円形	40	10	E
1594	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	不定形	80	19	E
1595	弥　甕・鉢、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	楕円形	45	26	E
1596	弥　壺	弥生後期前半	円形	24	5	F
1597	縄文土器	縄文後期	楕円形	75	6	F
1598	—	—	円形	20	11	E
1599	弥　甕	弥生後期前半	円形	18	20	E
1600	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	17	29	E
1601	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	19	23	E
1602	—	—	円形	40	25	E
1603	弥　甕	弥生後期	不定形	68	85	E
1604	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	31	15	F
1605	—	—	楕円形	36	46	E
1606	—	—	楕円形	—	31	E
1607	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	42	28	E
1608	—	—	円形	30	13	F
1609	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初			0	F
1610	弥　甕	弥生後期前半	円形	45	45	E
1611	弥　甕	弥生後期前半	円形	18	6	E
1612	弥　甕	弥生後期前半	円形	44	56	E
1613	縄文土器	縄文後期	円形	60	42	F
1614	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	円形	86	64	F
1615	—	—	円形	17	8	E
1616	弥　壺・甕、須　杯蓋	古墳	円形	39	29	E
1617	弥　甕	弥生後期前半	円形	68	24	F
1618	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	42	23	E
1619	弥　壺・甕・鉢	弥生後期前半	円形	37	54	E
1620	弥　甕	弥生中期後半	円形	38	62	E
1621	弥　壺	弥生後期前半	円形	25	11	F
1622	弥　甕	弥生後期前半	円形	35	16	E
1623	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	62	16	F
1624	弥　甕	弥生後期前半	円形	49	57	E
1625	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	不定形	77・62	9	E
1626	—	—	不定形	23	8	E
1627	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	38	E
1628	弥　甕	弥生後期前半	円形	38	53	E
1629	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	24	17	F
1630	弥　壺・甕・器台	弥生中期末～後期初	不定形	56	20	E
1631	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	57	23	E
1632	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	20	16	E
1633	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	56	52	E
1634	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	56	39	E
1635	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	39	14	E
1636	—	—	楕円形	—	21	E
1637	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	31	17	E
1638	弥　甕	弥生後期	楕円形	35	22	F
1639	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	—	—	23	E
1640	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	28	14	E
1641	弥　甕	弥生後期	楕円形	—	9	E
1642	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	不定形	40	37	E
1643	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	28	16	E
1644	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	39	37	E
1645	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	76	45	E
1646	縄文土器	縄文後期	隅丸方形	61	23	F
1647	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	26	9	E
1648	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	25	25	E
1649	弥　壺・	弥生中期末～後期初	円形	38	8	E
1650	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	19	—	E
1651	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	77	45	F

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1652	—	—	円形	17	10	E
1653	—	—	不定形	51	28	E
1654	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	78	30	F
1655	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	58	25	E
1656	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	21	17	E
1657	—	—	円形	18	5	E
1658	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	28	34	E
1659	弥　壺	弥生中期後半	不定形	63	38	F
1660	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	48	16	F
1661	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	26	13	E
1662	—	—	円形	18	12	F
1663	—	—	円形	23	12	F
1664	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	99・80	-	F
1665	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	80・72	-	F
1666	—	—	隅丸方形	80・70	-	F
1667	—	弥生後期前半	不定形	60	13	F
1668	弥　甕	弥生後期前半	不定形	42	20	F
1669	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	23	F
1670	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	46	37	E
1671	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	111	52	E
1672	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	90	59	E
1673	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	28	E
1674	弥　壺・甕	弥生中期後半	不定形	87	34	F
1675	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	隅丸方形	85	17	E
1676	弥　甕	弥生後期前半	—	—	11	E
1677	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	72	14	E
1678	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	52	33	E
1679	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	—	12	F
1680	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	56	6	E
1681	—	—	隅丸方形	209	15	E
1682		—	円形	18	27	E
1683	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	17	E
1684	—	—	楕円形	32	7	E
1685		—	円形	20	18	E
1686	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	6	E
1687	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	73	31	E
1688	—	—	円形	22	7	E
1689	—	—	円形	25	4	E
1690	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	64	39	E
1691	—	—	不定形	—	22	E
1692	—	—	—	—	19	F
1693	弥　甕	弥生後期前半	円形	34	40	F
1694	—	—	円形	18	22	—
1695	—	—	不定形	65	30	F
1696	—	—	円形	35	14	F
1697	弥　甕	弥生後期前半	不定形	90	30	F
1698	—	—	楕円形	53	62	E
1699	—	—	円形	33	47	F
1700	—	—	不定形	48	62	E
1701	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	5	—
1702	—	—	楕円形	58	3	F
1703	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	—	33	F
1704	—	—	楕円形	37	51	E
1705	—	—	円形	27	26	E
1706	—	—	円形	13	3	E
1707	弥　甕	弥生後期前半	円形	21	4	F
1708	弥　甕	弥生後期前半	円形	47	20	E
1709	—	—	円形	35	39	E
1710	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	不定形	116	47	F
1711	—	—	不定形	33	30	E
1712	弥　甕	弥生後期前半	不定形	64	27	F
1713	縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ	縄文後期	不定形	105	78	F
1714	弥　壺・甕	弥生後期前半	楕円形	—	12	E
1715	—	—	円形	13	12	F
1716	—	—	円形	20	128	E
1717	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	9	F
1718	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	不定形	57	34	E
1719	—	—	不定形	45	9	F
1720	—	—	円形	46	6	F
1721	—	—	隅丸方形	80	20	F
1722	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	隅丸方形	104	8	F
1723	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	10	E
1724	—	—	円形	29	42	E
1725	弥　甕	弥生後期前半	円形	32	13	E
1726	—	—	円形	12	6	E
1727	—	—	円形	15	4	E
1728	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	57	37	E
1729	弥　壺・甕	弥生後期前半	不定形	54	43	E
1730	—	—	円形	20	10	E
1731	—	—	楕円形	—	33	E
1732	弥　壺・甕・高坏・器台	弥生中期後半	不定形	104	64	F
1733	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	楕円形	56	21	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1734	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	不定形	46	28	F
1735	—	—	円形	29	10	E
1736	—	—	円形	22	9	E
1737	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	59	40	E
1738	—	—	円形	20	4	E
1739	—	—	不定形	31	17	E
1740	—	—	円形	16	9	E
1741	弥　甕	弥生後期前半	円形	22	16	E
1742	弥　甕	弥生後期前半	不定形	70	5	F
1743	弥　壺・甕	弥生後期前半	不定形	72	25	E
1744	—	—	円形	39	18	F
1745	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	63	42	E
1746	縄文土器	縄文後期	不定形	53	36	E
1747	弥　甕	弥生後期前半	円形	17	33	E
1748	弥　甕	弥生後期前半	不定形	63	5	E
1749	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	55	29	F
1750	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	20	28	E
1751	—	—	円形	15	5	E
1752	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	9	E
1753	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	13	F
1754	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	22	20	F
1755		—	楕円形	56	43	—
1756	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	58	30	F
1757	縄文土器	縄文後期	隅丸方形	83	45	F
1758	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	83	35	F
1759	弥　甕	弥生後期前半	円形	55	36	F
1760	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	87	59	F
1761	弥　甕、近世磁器	近世？弥生中期末～後期初	隅丸方形	98	19	F
1762	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	86	11	F
1763	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	125	56	F
1764	弥　甕	弥生後期	円形	17	22	F
1765	—	—	円形	10	5	F
1766	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	107	62	F
1767	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	123・95	47	F
1768	—	—	不定形	39	10	F
1769	弥　甕	弥生後期	不定形	23	12	E
1770	弥　甕	弥生後期前半	円形	32	8	E
1771	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	35	E
1772	弥　甕	弥生後期	円形	43	47	E
1773	弥　甕	弥生後期前半	円形	29	31	E
1774	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	42	35	E
1775	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	27	30	E
1776	—	—	円形	24	14	E
1777	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	59	1	F
1778	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	99	49	F
1779	弥　甕	弥生後期	円形	20	7	E
1780	—	—	円形	13	6	E
1781	—	—	隅丸方形	62	10	F
1782	弥　甕・高坏	弥生中期後半	隅丸方形	92	78	E
1783	弥　壺	弥生中期後半	円形	57	61	—
1784	—	—	円形	43	20	E
1785	弥　甕	弥生後期前半	円形	17	21	E
1786	弥　甕	弥生後期前半	円形	48	49	F
1787	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	—	56	F
1788	弥　甕	弥生中期末～後期初	—	53	46	—
1789	弥　甕・器台、ｻﾇｶｲﾄ	—	不定形	—	89	F
1790	弥　甕	弥生後期前半	円形	40	46	F
1791	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	隅丸方形	206・83	58	F
1792	—	—	円形	21	2	E
1793	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	—	—	49	F
1794	—	—	不定形	88	16	F
1795	弥　甕・鉢・皿	弥生後期前半	不定形	50	46	F
1796	弥　壺・甕・鉢	弥生後期前半	隅丸方形	86	33	E
1797	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	107・90	88	E
1798	弥　甕	弥生後期	円形	40	31	E
1799	弥　甕	弥生後期前半	不定形	—	8	E
1800	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	39	13	F
1801	—	—	隅丸方形	38	11	F
1802	弥　甕	弥生後期前半	円形	16	15	G
1803	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	29	44	E
1804	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	14	F
1805	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	15	F
1806	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	3	E
1807	弥　甕	弥生後期前半	円形	15	4	E
1808	—	弥生後期前半	不定形	79	6	E
1809	弥　甕	弥生後期前半	不定形	85	4	E
1810	弥　甕	弥生後期前半	円形	—	21	E
1811	弥　壺・甕	弥生中期後半	円形	42	51	E
1812	—	—	円形	21	13	F
1813	弥　壺・甕・高坏	弥生後期前半	楕円形	36	34	F
1814	弥　甕	弥生後期前半	円形	72	21	F
1815	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	44	7	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1816	—	—	楕円形	56	36	F
1817	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	73	E
1818	弥　甕	弥生後期前半	円形	45	35	E
1819	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	37	—	E
1820	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	25	20	E
1821	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	22	39	E
1822	弥　甕	弥生後期前半	不定形	52	8	F
1823	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	24	E
1824	弥　甕	弥生後期前半	不定形	57	5	E
1825	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	楕円形	48	53	E
1826	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	11	7	—
1827	—	—	不定形	48	18	E
1828	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	円形	22	43	E
1829	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	4	E
1830	弥　甕	弥生後期前半	円形	18	7	E
1831	弥　甕	弥生後期前半	楕円形	39	8	E
1832	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	31	34	E
1833	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	円形	41	37	E
1834	弥　甕	弥生後期	楕円形	56	10	E
1835	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	17	12	E
1836	—	—	不定形	55	24	E
1837	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	14	F
1838	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	30	18	E
1839		—	円形	22	29	E
1840	—	—	楕円形	46	57	E
1841	—	—	楕円形	27	55	E
1842	—	—	円形	18	17	E
1843	弥　甕	弥生後期前半	不定形	38	15	E
1844	—	—	円形	48	9	E
1845	—	—	—	—	4	E
1846	弥　甕	弥生後期	円形	43	15	E
1847	—	—	円形	42	15	E
1848	—	—	円形	41	11	E
1849	—	—	円形	43	47	E
1850	—	—	円形	52	45	E
1851	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	23	13	G
1852	弥　甕、須恵器	古墳	円形	26	17	F
1853	—	—	円形	17	14	E
1854	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	楕円形	—	13	F
1855	弥　甕	弥生後期前半	円形	31	10	F
1856	—	—	円形	30	11	E
1857	—	—	不定形	55	57	E
1858	—	—	円形	23	61	E
1859	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	不定形	27	—	—
1860	—	—	円形	21	6	E
1861	弥　壺・甕・鉢	弥生後期前半	円形	42	46	E
1862	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	—	14	E
1863	弥　壺・甕、須恵器	古墳	不定形	40	—	E
1864	—	—	円形	23	8	E
1865	弥　甕、須恵器	古墳	不定形	38	—	E
1866	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	不定形	36	—	E
1867	—	—	円形	17	10	F
1868	弥　甕	弥生後期	円形	34	37	F
1869	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	56	3	F
1870	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ、須恵器	古墳	不定形	96	—	E
1871	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	59	—	E
1872	—	—	不定形	—	—	E
1873	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	64	—	E
1874	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	46	—	E
1875	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	79	26	E
1876	弥　甕、須恵器	古墳	円形	44	44	E
1877	—	—	円形	65	37	E
1878	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	不定形	—	22	E
1879	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	6	E
1880		—	円形	36	21	E
1881	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ、須恵器	古墳	不定形	71	6	E
1882		—	不定形	39	50	E
1883	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	78	7	E
1884	弥　甕	弥生後期前半	不定形	33	3	E
1885	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	楕円形	—	46	E
1886	弥　甕、須恵器	古墳	円形	32	—	E
1887	—	—	—	—	—	E
1888	—	—	円形	21	—	E
1889	弥　甕	弥生後期	円形	32	—	E
1890	弥　壺・甕	弥生後期	不定形	44	—	E
1891	—	—	不定形	56	—	E
1892	—	—	不定形	34	—	E
1893	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	46	8	E
1894	弥　壺・甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	45	24	E
1895	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	86	11	F
1896	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	35	54	E
1897	弥　壺・甕・器台	弥生中期末～後期初	円形	41	53	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1898	弥　甕	弥生後期	円形	32	—	F
1899	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	78	—	F
1900	弥　甕	弥生後期	円形	23	—	E
1901	—	—	円形	24	—	E
1902	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期前半	楕円形	—	12	E
1903	—	—	楕円形	25	—	E
1904	—	—	円形	20	—	E
1905	ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	不定形	93	17	F
1906	—	—	円形	13	—	E
1907	—	—	不定形	26	18	F
1908	弥　壺・甕・鉢	弥生後期前半	—	—	—	F
1909	弥　甕	弥生後期	不定形	52	28	F
1910	弥　甕	弥生後期	不定形	36	18	F
1911	弥　甕	弥生後期	円形	17	21	F
1912	弥　壺・甕	弥生後期前半	隅丸方形	76	—	E
1913	弥　甕・鉢	弥生前期	隅丸方形	113	—	E
1914	弥　甕	弥生後期	円形	37	28	E
1915	—	—	不定形	37	9	E
1916	—	—	円形	18	—	F
1917	—	—	楕円形	33	4	F
1918	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	78	30	E
1919	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	81	—	E
1920	弥　甕	弥生後期	円形	24	—	E
1921	弥　甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	隅丸方形	—	35	E
1922	弥　甕	弥生後期	—	78・60	4	E
1923	弥　壺・甕、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期後半	隅丸方形	78・62	—	E
1924	弥　甕	弥生中期末～後期初	隅丸方形	109・85	13	E
1925	—	—	円形	31	7	F
1926	—	—	円形	—	—	F
1927	弥　壺	弥生後期	円形	27	22	F
1928	弥　壺	弥生中期末～後期初	円形	24	9	F
1929	弥　甕	弥生後期	円形	23	—	F
1930	弥　甕	弥生後期	隅丸方形	53	7	F
1931	—	—	円形	32	16	F
1932	弥　甕	弥生前期	円形	30	23	F
1933	弥　壺・甕	弥生後期	円形	21	13	G
1934	—	—	隅丸方形	49	15	F
1935	弥　甕	弥生後期	円形	26	31	F
1936	—	—	円形	18	—	E
1937	弥　甕、叩き石	弥生後期	円形	26	14	E
1938	—	—	不定形	—	8	F
1939	—	—	楕円形	62	6	F
1940	—	—	円形	28	31	—
1941	弥　甕	弥生後期	楕円形	37	12	E
1942	—	—	隅丸方形	59	—	F
1943	—	—	楕円形	26	—	F
1944	弥　甕	弥生後期	円形	35	—	F
1945	弥　甕	弥生後期	円形	30	—	G
1946	—	—	円形	20	19	F
1947	弥　甕	弥生後期	不定形	55	—	E
1948	弥　甕	弥生後期	円形	17	29	E
1949	弥　甕	弥生後期	円形	28	10	E
1950	—	—	円形	23	—	E
1951	弥　壺・甕	弥生後期	円形	27	19	A
1952	—	—	円形	33	28	F
1953	—	—	円形	32	20	F
1954	—	—	円形	44	14	F
1955	弥　甕	弥生後期	円形	64	25	F
1956	弥　甕	弥生後期	円形	43	28	E
1957	弥　甕	弥生後期	円形	34	14	E
1958	—	—	不定形	59	28	F
1959	—	—	円形	18	11	E
1960	弥　甕	弥生後期前半	不定形	52	14	E

第Ⅲ調査区　135穴

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1961	—	—	円形	—	—	E
1962	—	—	円形	22	—	-
1963	—	—	円形	25	14	E
1964	弥　壺	弥生後期前半	円形	23	22	E
1965	弥　甕	弥生後期前半	円形	28	24	F
1966	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	13	-
1967	—	—	円形	20	6	J
1968	弥　甕	弥生後期前半	円形	42	59	E
1969	—	—	円形	15	4	E
1970	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	4	E
1971	弥　甕	弥生後期前半	円形	31	32	E
1972	弥　甕	弥生後期前半	円形	36	27	E
1973	—	—	不定形	26	27	E
1974	—	—	不定形	58	40	-
1975	—	—	円形	30	14	E
1976	弥　甕	弥生中期末～後期初	不定形	57	25	-
1977	弥　甕	弥生後期前半	不定形	45	4	E

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
1978	弥　甕	弥生後期前半	不定形	40	3	E
1979	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	楕円形	43	45	E
1980	弥　甕	弥生後期前半	円形	42	22	E
1981	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	26	15	-
1982	—	—	楕円形	32	7	-
1983	—	—	楕円形	27	7	-
1984	—	—	円形	24	19	J
1985	弥　甕	弥生後期前半	円形	23	21	E
1986	弥　甕・高坏	弥生中期末～後期初	円形	29	36	E
1987	弥　甕	弥生後期前半	円形	12	6	-
1988	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	35	21	E
1989	—	—	円形	16	10	E
1990	—	—	円形	20	10	E
1991	弥　壺・甕・高坏	弥生中期後半	円形	22	11	E
1992	—	—	円形	51	51	E
1993	—	—	円形	18	9	E
1994	弥　甕	弥生後期前半	円形	33	29	E
1995	—	—	円形	38	15	-
1996	弥　壺・甕	弥生後期前半	不定形	22	4	E
1997	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	12	-
1998	弥　壺・甕・支脚、ｻﾇｶｲﾄ	弥生中期末～後期初	楕円形	53・42	25	E
1999	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	38	59	E
2000	—	—	円形	34	22	-
2001	弥　ｻﾇｶｲﾄ	弥生後期	円形	14	5	E
2002	—	—	楕円形	36	17	E
2003	弥　壺	弥生後期前半	円形	16	22	E
2004	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	40・36	10	E
2005	—	—	円形	18	9	E
2006	—	—	円形	23	12	E
2007	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	21	E
2008	弥　甕	弥生後期前半	不定形	27	10	E
2009	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	不定形	45	19	E
2010	弥　壺・甕	弥生中期末～後期初	円形	37	48	E
2011	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	27	E
2012	石	—	円形	29	8	E
2013	弥　壺・甕、土師器	古墳	円形	36	19	E
2014	—	—	円形	11	12	E
2015	—	—	円形	31	30	E
2016	弥　甕	弥生後期前半	円形	26	22	E
2017	—	—	円形	17	8	E
2018	弥　甕	弥生後期前半	円形	25	24	E
2019	—	—	円形	11	7	E
2020	—	—	円形	25	7	E
2021	—	—	円形	19	9	E
2022	弥　甕	弥生後期前半	円形	25	9	E
2023	弥　甕	弥生後期前半	円形	41	38	E
2024	弥　甕	弥生後期前半	不定形	46	5	E
2025	—	—	円形	20	21	E
2026	—	—	円形	20	19	J
2027	—	—	円形	21	20	E
2028	—	—	円形	40	9	F
2029	—	—	楕円形	33	11	F
2030	—	—	円形	24	10	J
2031	弥　甕	弥生中期末～後期初	円形	31	10	J
2032	弥　甕	弥生中期末～後期初	楕円形	25	18	E
2033	—	—	円形	21	6	E
2034	—	—	円形	20	14	E
2035	—	—	円形	30	10	J
2036	弥　壺	弥生後期前半	円形	32	4	E
2037	—	—	円形	29	11	J
2038	—	—	円形	33	28	J
2039	弥　甕	弥生後期前半	円形	29	17	J
2040	—	—	円形	17	2	E
2041	—	—	円形	24	16	J
2042	—	—	円形	34	4	J
2043	弥　甕	弥生後期前半	円形	30	21	J
2044	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	62・40	5	-

遺構名	出土遺物	時期	形態	直径(cm)	深さ(cm)	埋土
2045	—	—	円形	34	16	E
2046	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	41	6	E
2047	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	35	32	E
2048	—	—	円形	16	10	E
2049	—	—	円形	19	11	F
2050	—	—	円形	33	16	E
2051	—	—	円形	28	19	E
2052	—	—	円形	29	16	E
2053	—	—	円形	20	9	E
2054	—	—	円形	22	20	E
2055	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	15	E
2056	—	—	円形	21	11	I
2057	弥　甕	弥生後期前半	円形	20	13	E
2058	—	—	円形	19	7	E
2059	—	—	円形	16	7	J
2060	—	—	円形	25	7	J
2061	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	16	J
2062	弥　甕	弥生後期前半	円形	25	14	E
2063	—	—	円形	18	14	J
2064	—	—	円形	18	7	E
2065	弥　甕、須恵器	古墳	楕円形	45	15	-
2066	弥　甕	弥生後期前半	円形	37	29	E
2067	弥　甕	弥生後期	円形	17	—	J
2068	弥　甕	弥生後期	円形	14	—	J
2069	—	—	不定形	72	—	-
2070	—	—	円形	18	11	E
2071	—	—	円形	17	11	E
2072	—	—	円形	22	19	E
2073	—	—	円形	16	10	E
2074	—	—	楕円形	30	24	E
2075	—	—	円形	24	28	-
2076	弥　甕	弥生後期前半	隅丸方形	52	28	E
2077	弥　甕	弥生後期前半	円形	27	19	E
2078	—	—	円形	25	13	E
2079	—	—	円形	15	4	J
2080	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	21	J
2081	弥　甕	弥生後期前半	円形	24	22	E
2082	—	—	円形	33	7	E
2083	—	—	円形	19	22	J
2084	—	—	円形	22	12	J
2085	—	—	円形	18	18	J
2086	—	—	円形	20	16	J
2087		—	円形	26	16	-
2088	弥　壺・甕	弥生後期前半	円形	24	16	-
2089	—	—	円形	24	19	J
2090	—	—	円形	26	17	J
2091	弥　甕	弥生後期前半	円形	25	13	E
2092	—	—	円形	20	26	E
2093	—	—	円形	24	20	E
2094	—	—	円形	19	30	E
2095	—	—	円形	21	12	E
2096	弥　甕・高杯	弥生中期末～後期初	不定形	97	69	—
2097	—	弥生後期後半～終末	円形	18	36	—
2098	—	弥生前半中葉	円形	21	8	—

A　黒色粘質土
B　暗灰色粘質土
C　地山ﾌﾞﾛｯｸ入り
D　地山ﾌﾞﾛｯｸ入り（多）
E　茶灰色粘質土　地山ﾌﾞﾛｯｸ入り（少）
F　茶灰色粘質土　地山ﾌﾞﾛｯｸ入り（多）
G　暗灰色粘質土　地山ﾌﾞﾛｯｸ入り
H　茶褐色粘質土
I　暗灰色粘質土
J　灰白色粘質土　地山ﾌﾞﾛｯｸ

第２表　土坑観察表

遺構名	形態	法量（cm）			出土遺物	時期
		長軸	短軸	深さ		
03	不定形	144.0	62.0	4.8	弥生壺・甕・高坏・器台	弥生後期
07	不定形	164.0	(50.0)	20.3	弥生甕・サヌカイト	弥生後期
08	隅丸方形	200.0	150.0	55.9	弥生壺･甕･高坏･サヌカイト	弥生中期末～後期初
09	楕円形	148.0	115.0	7.7	縄文､弥生甕･サヌカイト､須恵器	古墳時代
12	不定形	232.0	126.0			
13	不定形	(150.0)	75.0	4.2	弥生壺･甕･台付鉢･サヌカイト	弥生後期中葉
17	隅丸方形	104.0	63.0	36.2		
18	不定形	(230.0)	(106.0)	21.6	弥生甕、須恵器壺・甕	古墳時代
19	不定形	(156.0)	(85.0)	43.4	弥生甕	弥生
21	隅丸方形	250.0	210.0	16.9	弥生壺･甕､須恵器甕､瓦器	中世（12末～13初）

第3表　土器観察表

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
1	9		弥生土器	台付鉢	Ⅰ区	SB01(SP34)	—			石英・長石細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/1褐灰	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
2	9		弥生土器	器台	Ⅰ区	SB01(SP34)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	ﾊｹ目・横ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
3	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂少	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
4	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
5	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石細砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
6	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5Y3/1黒褐	5Y6/6ｵﾘｰﾌﾞ	横ﾅﾃﾞ	指押さえ・摩滅	口縁部小片	
7	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
8	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
9	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・凹線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
10	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP43)	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
11	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP43)	14.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	10YR6/1褐灰	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/8	
12	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP53)	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	頸部小片	
13	9		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SB01(SP53)	—			石英・長石細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
14	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP55)	—			石英・長石中砂少	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/2灰褐	横ﾅﾃﾞ・摩滅・凹線	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
15	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP55)	—			石英・長石細砂少、雲母細砂少	7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
16	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP55)	—			石英・長石細砂少	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/2灰褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
17	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB01(SP55)	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
18	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP55)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/6明褐	横ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部1/8	
19	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP55)	—			石英・長石中砂少	10YR6/1褐灰	5YR5/3にぶい赤褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部小片	
20	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP67)	21.8			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
21	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP67)	—			石英・長石中砂少	10YR5/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	横ﾅﾃﾞ・凹線	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
22	9		弥生土器	細頸壺	Ⅰ区	SB01(SP67)	—			石英・長石中砂並	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	高坏2/8	
23	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP67)	16.2			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
24	9		弥生土器	器台	Ⅰ区	SB01(SP67)	—			石英・長石中砂少、角閃石細砂少	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	摩滅・透かし	摩滅	脚部小片	
25	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB01(SP67)	—			石英・長石中砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	
26	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB01(SP77)			9.6	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・横ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部2/8	
27	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB01(SP77)			13.6	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	摩滅	摩滅	脚部小片	
29	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB01(SP89)	14.6			石英・長石中砂少	5YR5/2灰褐	5YR5/2灰褐	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・沈線・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ	頸部1/8	
30	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB01(SP89)	—			石英・長石細砂少	7.5YR6・2灰褐	10YR8/1灰白	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・透かし・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
31	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・指押さえ	口縁部小片	
32	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB02(SP39)	12.4			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
33	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
34	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・指押さえ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
35	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	体部小片	
36	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	摩滅・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	体部小片	
37	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB02(SP39)	29.8			石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y8/2灰白	ﾅﾃﾞ・剥離・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部1/8	
38	9		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂並	2.5Y3/1黒褐	2.5Y3/1黒褐	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
39	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB02(SP39)	—			石英・長石中砂少	10YR3/1黒褐	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	
40	9		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SB02(SP39)			13.0	石英・長石中砂多	7.5YR7/4にぶい橙	2.5Y7/3浅黄	摩滅・横ﾅﾃﾞ	摩滅	脚部2/8	
41	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP52)	—			雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
42	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB02(SP56)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・絞目	頸部小片	
43	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP56)	—			石英・長石中砂少	7.5YR2/1黒	7.5YR4/3褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
44	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP56)	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
45	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP56)			4.9	石英・長石中砂少	7.5YR5/2灰褐	7.5YR5/2灰褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ・指押さえ	板ﾅﾃﾞ	底部4/8	
46	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP68)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR4/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・指押さえ	体部小片	
47	9		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB02(SP68)	—			石英・長石中砂並	7.5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ	7.5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ	ﾊｹ目・貼付凸帯刻目文	ﾅﾃﾞ	頸部1/8	
49	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP79)	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
50	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP79)	14.2			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
51	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP79)	16.2			石英・長石中砂少	10YR5/1褐灰	10YR5/1褐灰	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
52	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP79)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	10YR7/6明黄褐	横ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ・指押さえ	板ﾅﾃﾞ	頸部小片	
53	9		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB02(SP79)	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・横ﾅﾃﾞ	頸部小片	
54	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB02(SP79)	14.0			石英・長石中砂少	5Y7/1灰白	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
55	9		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SB02(SP79)			5.8	石英・長石中砂少	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	脚部小片	
56	9		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB02(SP79)			11.0	石英・長石中砂多	5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒	7.5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	脚部小片	
57	11		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB03(SP226)	—			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	体部小片	
58	11		弥生土器	底部	Ⅰ区	SB03(SP226)	—			石英・長石中砂少	7.5YR2/1黒	7.5YR8/3浅黄橙	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部小片	
59	11		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SB03(SP226)	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
60	11		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB03(SP127)	15.3			石英・長石中砂並	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/2灰褐	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
61	11		弥生土器	底部	Ⅰ区	SB03(SP127)			6.1	石英・長石中砂並	2.5YR5/6明赤褐	10YR3/1黒褐	板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部	
62	11		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB03(SP127)	—			石英・長石中砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
63	11		弥生土器	無頸壺	Ⅰ区	SB03(SP127)	17.4			石英・長石中砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/3にぶい橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
64	11		弥生土器	短頸壺	Ⅰ区	SB03(SP255)	11.8			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・刻目文・指頭圧痕文・板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
65	11		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB03(SP255)	11.8			石英・長石中砂並	7.5YR5/2灰褐	7.5YR5/2灰褐	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
66	11		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB03(SP255)	—			石英・長石中砂少	5YR5/3にぶい赤褐	5YR6/3にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
67	11		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB03(SP255)	—			石英・長石中砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
68	11		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB03(SP255)			9.5	石英・長石中砂少	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底部1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
69	11		弥生土器	底部	Ⅰ区	SB03(SP255)			5.4	石英・長石中砂少	7.5YR4/1褐灰	7.5YR5/2灰褐	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	指押さえ	底部3/8	
70	11		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB03(SP276)			11.0	石英・長石中砂少	7.5YR6/3にぶい褐	10YR6/2灰黄褐	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	板ﾅﾃﾞ	底部1/8	
71	11		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB03(SP175)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	刻み目・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・指押さえ	体部小片	
72	11		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SB03(SP175)	—			石英・長石中砂並	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
73	11		弥生土器	器台	Ⅰ区	SB03(SP175)	—			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	板ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
74	12		須恵器	杯身	Ⅰ区	SB04(SP342)	—			砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
75	12		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SB04(SP366)	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
76	12		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SB04(SP366)			8.6	石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・横ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・横ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
77	12		弥生土器	杯身	Ⅰ区	SB04(SP377)	14.0			石英・長石細砂少	N6/灰	N6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
78	12	65	須恵器	陶質土器	Ⅰ区	SB04(SP377)	—			石英・長石細砂少、砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	ﾀﾀｷ目	回転ﾅﾃﾞ	体部1/8	
79	12		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB04(SP404)	—			石英・長石中砂並	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	摩滅	摩滅	口縁部小片	
80	12		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB04(SP420)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
81	13		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB05(SP710)	—			石英・長石中砂少	5YR6/2灰褐	5YR6/2灰褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
82	13		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB05(SP710)	—			石英・長石中砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/1灰白	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底部小片	
83	13		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB05(SP725)	—			石英・長石中砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
84	13		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB05(SP725)	—			石英・長石細砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
85	13		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB05(SP725)			5.8	石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR6/6明黄褐	10YR8/4浅黄橙	指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	指押さえ	底部1/8	
86	13		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB05(SP725)	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	剥離・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
87	13		弥生土器	器台	Ⅰ区	SB05(SP725)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
88	13		弥生土器	器台	Ⅰ区	SB05(SP725)			11.8	石英・長石中砂並	5YR6/6橙	10YR6/3にぶい黄橙	剥離・摩滅	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
89	13		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB05(SP770)	—			石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR6/2灰黄褐	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	指押さえ・摩滅	体部小片	
90	13		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SB05(SP770)	—			石英・長石中砂並	10YR6/3にぶい黄橙	10YR3/1黒褐	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	
91	14		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾊｹ目・刺突文	板ﾅﾃﾞ	体部小片	
92	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
93	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
94	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少	10YR5/1褐灰	10YR5/1褐灰	板ﾅﾃﾞ・刺突文	ﾅﾃﾞ	体部小片	
95	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少	7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	体部小片	
96	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/3にぶい橙	5YR5/2灰褐	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ	体部小片	
97	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)	—			石英・長石中砂少	10YR3/1黒褐	10YR3/1黒褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	板ﾅﾃﾞ	底部小片	
98	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP445)			5.3	石英・長石中砂少	10YR4/1褐灰	10YR5/2灰黄褐	板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部小片	
99	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP453)	—			石英・長石中砂少	7.5YR8/6浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
100	14		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SB06(SP453)	15.9			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・剥離	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
102	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP592)	16.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR5/3にぶい赤褐	2.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
103	14		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB06(SP592)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	櫛先刺突文・ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	体部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
104	14		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB06(SP592)	—			石英・長石中砂並	2.5YR5/3にぶい赤褐	2.5YR6/3にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
105	15		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB07(SP569)	—			石英・長石中砂少	5YR6/6橙	7.5YR6/3にぶい褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
106	15		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB07(SP791)	—			石英・長石中砂並	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR3/1黒褐	摩滅	摩滅	口縁部小片	
107	15		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB07(SP791)	—			石英・長石中砂並	2.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
108	15		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB07(SP791)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
109	15		土師質時	鉢	Ⅰ区	SB07(SP791)	—			石英・長石中砂並	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
110	15		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB07(SP816)			9.6	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底部2/8	
111	15		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB07(SP816)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/2灰褐	横ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・絞目	頸部小片	
112	15		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB07(SP816)			6.0	石英・長石中砂並	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	板ﾅﾃﾞ	底部2/8	
113	15		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB07(SP816)	—			石英・長石中砂少	5YR5/8明赤褐	5YR5/6明赤褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
114	15		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB07(SP816)	—			石英・長石中砂少	5YR4/1褐灰	5YR4/1褐灰	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・凹線	口縁部小片	
115	15		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB07(SP816)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
116	15		弥生土器	器台	Ⅰ区	SB07(SP816)			9.5	石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	ﾊｹ目・横ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目・横ﾅﾃﾞ	脚部2/8	
117	15		弥生土器	底部	Ⅰ区	SB07(SP816)				石英・長石中砂少	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	横ﾅﾃﾞ・摩滅	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
118	15		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB08(SP831)	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	10YR3/1黒褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
119	15		弥生土器	甕	Ⅰ区	SB08(SP831)	13.0			石英・長石中砂並	7.5YR3/1黒褐	7.5YR4/1褐灰	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸部1/8	
120	15		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB08(SP843)	—			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	沈線・ﾅﾃﾞ	格子文	口縁部小片	
121	15		弥生土器	壺	Ⅰ区	SB08(SP843)	—			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指頭圧痕文	板ﾅﾃﾞ	頸部小片	
122	15		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SB08(SP843)	—			石英・長石中砂並	7.5YR4/1褐灰	7.5YR5/4にぶい褐	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
123	18	65	須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	13.5	5.0	3.4	砂粒細砂少	10Y8/1灰白	10Y8/1灰白	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
124	18		須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	13.5			砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	右回転
125	18	65	須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	13.4			砂粒細砂少	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	右回転
126	18	65	須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	15.2	4.5		砂粒細砂少	7.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	右回転
127	18	65	須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	14.4	4.9	4.8	砂粒細砂少	5/灰	6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	6/8	右回転
128	18		須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	16.8			砂粒中砂少	7/灰白	7/灰白	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
129	18	66	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	10.3	5.0	5.0	砂粒細砂少	5/灰	5/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	4/8	
130	18	65	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	11.5	4.8	4.0	砂粒細砂少	N5/灰	N5/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	右回転
131	18	66	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	13.8	5.0	4.5	砂粒細砂少	5/灰	5/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	6/8	左回転
132	18	66	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	11.9	4.9	5.4	砂粒細砂少	5/灰	6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	7/8	右回転
133	18	66	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	14.9	6.6	7.4	砂粒細砂少	N6/灰	2.5Y6/1黄灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ・当具痕	口縁部4/8	左回転
134	18	67	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	13.6	4.2	6.7	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	右回転
135	18	66	須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	10.6	5.6	4.5	砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部3/8	左回転
136	18		須恵器	杯身	Ⅰ区	SH01	11.9	5.3	5.3	砂粒細砂少	7/灰白	7/灰白	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	4/8	右回転
137	18		須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01	—			砂粒中砂少	N5/灰	N6/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	破片	右回転
138	18		須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH01		4.5	11.8	砂粒細砂少	N5/灰	N5/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	2/8	
139	18	67	須恵器	高坏	Ⅰ区	SH01			9.6	砂粒細砂少	5/灰	5/灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・透かし	回転ﾅﾃﾞ	2/8	
140	18		須恵器	高坏	Ⅰ区	SH01			7.7	砂粒細砂少	N5/灰	N5/灰	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
141	18	67	須恵器	甕	Ⅰ区	SH01	—			砂粒細砂少	7/灰白	7/灰白	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾀﾀｷ目	ﾅﾃﾞ・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	2/8	
142	18	67	須恵器	壺	Ⅰ区	SH01	—			砂粒中砂少	N6/灰	N5/灰	格子目ﾀﾀｷ	青海波文・回転ﾅﾃﾞ	体部2/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
143	18		須恵器	壺	Ⅰ区	SH01			18.0	砂粒細砂少	N6/灰	N5/灰	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
144	18		須恵器	甕	Ⅰ区	SH01	—			砂粒細砂少	5Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒	4/灰	格子目ﾀﾀｷ・自然釉	板ﾅﾃﾞ	小片	
145	18		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH01	16.0			石英・長石中砂並	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
146	18		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH01	15.9			石英・長石中砂並	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/3浅黄橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部5/8	
147	18		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH01	19.1			石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	10YR6/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
148	18		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH01	15.9			石英・長石中砂少	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	ﾅﾃﾞ・指押さえ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部3/8	
149	18		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH01	16.8			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
150	18		土師質土器	甑	Ⅰ区	SH01	18.9			石英・長石中砂少	10YR8/3浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
151	19		土師器	杯	Ⅰ区	SH01	12.3			石英・長石中砂少	7.5YR8/3浅黄橙	85YR8/4淡橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
152	19		土師器	杯	Ⅰ区	SH01	12.0			石英・長石細砂少	5YR8/4淡橙	5YR8/4淡橙	指押さえ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
153	19		土師器	高坏	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ	摩滅	破片	
154	19		土師器	高坏	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	摩滅・ﾊｹ目	摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
155	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	摩滅・板ﾅﾃﾞ	摩滅・板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部3/8	
156	19	68	土師器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少	2.5YR7/8橙	2.5YR7/8橙	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	摩滅	破片	
157	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白	ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
158	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少	7.5YR8/4浅黄橙	5Y7/8黄	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・指押さえ・ﾊｹ目	脚部4/8	
159	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01			11.4	石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	7.5YR7/3にぶい橙	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
160	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01			13.8	石英・長石中砂少	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ・摩滅・板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・摩滅	脚部6/8	
161	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石細砂並	5YR7/4にぶい橙	7.5YR8/2灰白	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ	体部2/8	
162	19		土師器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	摩滅・板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
163	19		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	17.2			石英・長石中砂並	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	口縁部2/8	
164	19		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	22.1			石英・長石中砂並	2.5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ・摩滅・竹管文	ﾅﾃﾞ・摩滅・竹管文	口縁部1/8	
165	19		弥生土器	小型丸底壺	Ⅰ区	SH01	10.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	口縁部3/8	
166	19		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並	5YR7/4にぶい橙	5/8YR6/8 4	ﾊｹ目	ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	破片	
167	19		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	12.8			石英・長石中砂少	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾊｹ目	ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
168	19		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH01	18.6			石英・長石中砂並	2/85YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・穿孔	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部2/8	
169	19		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	15.8			石英・長石中砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目・摩滅	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・摩滅・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
170	19		土師器	鉢	Ⅰ区	SH01	17.8	7.8	4.8	石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5Y7/4浅黄	2.5Y7/4浅黄	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	2/8	
171	19		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石細砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	7.5YR5/6明褐	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部小片	
172	19			製塩土器	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂普	10R6/6赤橙	10R6/6赤橙	摩滅・指押さえ	摩滅	底部小片	
173	19		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01			7.7	石英・長石中砂普	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	底部3/8	
174	19		弥生土器	脚付鉢	Ⅰ区	SH01			13.3	石英・長石中砂普	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ・透かし	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
183	21		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	22.8			石英・長石中砂普	10YR5/2灰黄褐	10YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
184	21		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	13.5			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/2灰黄褐	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
185	21		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	11.6	5.7		石英・長石中砂普、雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部2/8	
186	21		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	19.8			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
187	21		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	12.2			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	頸部1/8	
188	21		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	28.2			石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5YR7/4淡赤橙	5YR7/3にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
189	21		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	19.7			石英・長石中砂普	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
190	21		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	3.7			石英・長石細砂普、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
191	21		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/3にぶい赤褐	ﾊｹ目	ﾊｹ目	頸部1/8	
192	21		弥生土器	細頸壺	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部3/8	
193	21		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	12.8			石英・長石細砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
194	21		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	13.6			石英・長石中砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ	ﾅﾃﾞ・指押さえ	口縁部1/8	
195	21		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	22.4			石英・長石中砂普	7.5YR5/2灰褐	5Y6/6ｵﾘｰﾌﾞ	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
196	21		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01			2.0	石英・長石中砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾊｹ目	ﾊｹ目	底部8/8	
197	21	68	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	9.0	6.1		石英・長石中砂少	5Y5/1灰	7/8YR66	ﾊｹ目	ﾊｹ目	口縁部3/8	
198	21		弥生土器	椀	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
199	21		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	21.4			石英・長石中砂少	7.5YR7/4にぶい橙	2.5Y6/2灰黄	指押さえ・ﾊｹ目	ﾊｹ目	口縁部1/8	
200	21		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
206	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	15.6			石英・長石中砂普、雲母細砂少	10YR7/3にぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/8	
207	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂普	5YR6/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	摩滅	頸部1/8	
208	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂普	7.5YR8/4浅黄橙	5Y6/1灰	指押さえ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部2/8	
209	23	68	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	8.6	5.4	2.8	石英・長石中砂普	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・クラック・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部5/8	
210	23	68	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	9.8	6.6	2.4	石英・長石細砂少、角閃石細砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/2灰褐	ﾅﾃﾞ・クラック	板ﾅﾃﾞ	8/8	
211	23	68	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	11.8	5.5	1.8	石英・長石中砂少	7.5YR8/1灰白	7.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目・クラック	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	5/8	
212	23		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	12.6			石英・長石粗砂並	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・クラック	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
213	23	68	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	11.4	6.0	6.6	石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	1/8	
214	23	68	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	18.0	5.5		石英・長石細砂少、雲母中砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	4/8	
215	23	69	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	26.0	6.1	3.5	石英・長石細砂並	5Y7/4浅黄	5YR5/6明赤褐	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目・摩滅	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	2/8	
216	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	13.9			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	2.5Y7/3浅黄	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
217	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
218	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾊｹ目	ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部小片	
219	23		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01			9.7	石英・長石中砂並	7.5YR7/8黄橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
220	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
221	23		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01(SP28)	—			石英・長石中砂少、雲母中砂少	2.5Y5/1黄灰	7/85Y7/4浅黄	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
222	25		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH02	12.0			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	指押さえ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
223	25		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂並	10YR5/1褐灰	10YR5/4にぶい黄褐	横ﾅﾃﾞ・摩滅	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
224	25		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石細砂少	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
225	25		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂並	10YR3/1黒褐	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部小片	
226	25		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂少	5YR7/8橙	5YR7/8橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
227	25		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
228	25		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH02	10.4			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/1褐灰	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	1/8	
229	25		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾀﾀｷ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	体部小片	
230	25		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH02	15.3			石英・長石中砂並	5YR7/8橙	5YR7/8橙	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/8	
231	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	19.2			石英・長石中砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
232	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石細砂少	7.5YR4/6褐	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
233	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石細砂少	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
234	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂並	10YR5/2灰黄褐	7.5YR5/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	脚部小片	
235	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02			11.1	石英・長石中砂少	7.5YR5/3にぶい褐	10YR4/2灰黄褐	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
236	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR5/2灰褐	7.5YR5/2灰褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
237	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石細砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・横ﾅﾃﾞ・竹管文・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
238	25		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH02	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/1褐灰	摩滅・ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	
239	26		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
240	26		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH03	15.6			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
241	26		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	N3/暗灰	7.5YR4/1褐灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部小片	
242	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
243	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂並	10YR4/2灰黄褐	7.5YR5/6明褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
244	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂少	5YR7/2明褐白	5YR6/8橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
245	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
246	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂少	10YR5/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
247	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石細砂少	N4/灰	5Y4/1灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
248	26		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/6明褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
249	26		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	5YR7/8橙	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
250	26		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH03	21.0			石英・長石中砂少	5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒	5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
251	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	8.6			石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	指押さえ・板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・指押さえ・板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	2/8	
252	26		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
253	26		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH03	—			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾊｹ目・穿孔	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
254	27		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH04	14.0			石英・長石中砂並	5YR7/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・沈線	横ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ・指押さえ・指ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
255	27		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH04			8.0	石英・長石中砂並	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/1褐灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部1/8	
256	27		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH04			7.0	石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	10いぇ74	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	2/8	
257	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
258	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・沈線	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
259	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・沈線	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
260	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR2/1黒	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
261	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
262	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ・摩滅・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
263	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	19.4			石英・長石中砂並	5YR7/8橙	2.5Y6/1黄灰	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
264	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少	5/8YR6/8	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・刻目文	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
265	27		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂並	7.5YR4/1褐灰	2.5Y6/1黄灰	ﾅﾃﾞ・摩滅・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
266	27		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	板ﾅﾃﾞ・摩滅	板ﾅﾃﾞ・摩滅	脚部2/8	
267	27	69	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・貼付凸帯	ﾅﾃﾞ・指押さえ	口縁部小片	
270	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR8/3浅黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
271	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04	—			石英・長石中砂並	2.5YR4/1赤灰	2/85YR8/3淡橙	ﾊｹ目	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部1/8	
272	27		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH04			5.6	石英・長石中砂多	2.5YR4/1赤灰	2.5YR6/1赤灰	板ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部3/8	
273	27		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH04				石英・長石中砂少	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	板ﾅﾃﾞ	底部小片	
274	27		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH04(SP120)	19.3			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹ目・指押さえ・摩滅	1/8	
275	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH04(SP120)	—			石英・長石中砂並	2.5YR7/8橙	2.5YR6/8橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	小片	
276	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH05	—			石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
277	27		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH05			5.9	石英・長石中砂並	N4/灰	N4/灰	板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部1/8	
278	28		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH06	—			石英・長石中砂並	5YR5/4にぶい赤褐	10YR6/4にぶい黄橙	貼付凸帯刻目文	ﾅﾃﾞ	体部小片	
279	28		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH06	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅	頸部小片	
280	28		弥生土器	細頸壺	Ⅰ区	SH06	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・板ﾅﾃﾞ	頸部1/8	
281	28		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH06	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
282	28		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH06	12.0			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
283	28		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH06	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒	5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
284	28		弥生土器	脚付鉢	Ⅰ区	SH06	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・刻目文	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
285	30	69	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	18.1			石英・長石中砂並、雲母細砂並	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾊｹ目・指押さえ	頸部8/8	
286	30	69	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	22.0			石英・長石中砂並	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	沈線・摩滅・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	斜格子文・摩滅	口縁部1/8	
287	30	69	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	10YR5/2灰黄褐	2.5YR7/6橙	沈線・波状文	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
288	30	69	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	5YR7/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	沈線・刻目文・横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	波状文・竹管文	口縁部小片	
289	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	10.9			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	7.5YR6/8橙	ﾅﾃﾞ・竹管文	摩滅	口縁部1/8	
290	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	25.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・斜格子文	ﾅﾃﾞ・斜格子文	口縁部小片	
291	30	69	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	竹管文・半裁竹管文・横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
292	30	69	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石細砂並	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	頸部2/8	
293	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	13.9			石英・長石細砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
294	30	70	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	27.4			石英・長石細砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部2/8	
295	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	18.7			石英・長石細砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR5/6明赤褐	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・凹線	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
296	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	19.8			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部2/8	
297	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	24.0			石英・長石中砂少、雲母細砂並	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
298	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	28.5			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部2/8	
299	30	70	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	20.0			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	口縁部3/8	
300	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	21.8			石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部2/8	
301	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	21.4			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	口縁部小片	
302	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	19.8			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
303	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	15.4			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
304	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	15.0			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・摩滅	頸部2/8	
305	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	16.4			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・摩滅・板ﾅﾃﾞ	口縁部3/8	
306	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	15.9			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/8黄橙	7.5YR7/8黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部3/8	
307	30		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	25.5			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾊｹ目・沈線	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部2/8	
308	30	70	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	23.6			石英・長石中砂並	5YR7/8橙	5YR7/8橙	櫛先刺突斜格子文・貼付凸帯・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	櫛描波状文・半裁竹管文・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
309	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	17.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ・摩滅・沈線	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部2/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
310	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	25.6			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/8橙	5YR7/8橙	ﾅﾃﾞ・刻目文・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/8	
311	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	21.1			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・鋸歯文	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
312	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	16.6			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ	7/8	
313	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	2.5YR6/8橙	ﾊｹ目・沈線・刻目文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目・刺突文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
314	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	22.6			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	沈線・摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
315	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ・鋸歯文・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
316	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	21.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR7/8橙	10YR8/6黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	1/8	
317	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	18.3			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/3浅黄橙	波状文・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部2/8	
318	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	23.0			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	沈線・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
319	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	26.0			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・波状文	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
320	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	25.2			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・鋸歯文・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
321	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	19.7			石英・長石中砂多	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・刻目文・摩滅・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・竹管文・ﾊｹ目	口縁部3/8	
322	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	18.4			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
323	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	16.0			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	沈線・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
324	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/3にぶい橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・櫛描刺突文	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	頸部2/8	
325	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	2.5YR6/8橙	5YR6/8橙	ﾊｹ目・貼付凸帯格子状刻目文	摩滅	頸部小片	
326	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・刺突文・ﾊｹ目	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸部3/8	
327	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	20.5			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部6/8	
328	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・貼付凸帯格子状刻目文	摩滅・ﾅﾃﾞ・指押さえ	頸部1/8	
329	31		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	18.6			石英・長石中砂少	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	綾杉状ヘラ描沈線・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
330	32		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
331	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	16.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/2明褐灰	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
332	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	14.2			石英・長石中砂並	7.5YR8/3浅黄橙	7.5YR8/3浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部8/8	
333	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	22.6			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・刻目文・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
334	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	19.3			石英・長石中砂並	5YR3/1黒褐	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目・沈線	ﾅﾃﾞ・摩滅	頸部1/8	
335	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	17.9			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR8/4淡橙	2.5YR6/4にぶい橙	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目	口縁部2/8	
336	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07			8.0	石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	底部8/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
337	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07			9.0	石英・長石中砂並	5YR6/6橙	10YR6/3にぶい黄橙	ﾊｹ目・摩滅	指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部5/8	
338	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07			4.2	石英・長石中砂並	2.5YR5/6明赤褐	10YR7/3にぶい黄橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底部1/8	
339	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07			11.3	石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
340	32		土師質土器	壺	Ⅰ区	SH07	12.0			石英・長石中砂並、角閃石細砂少	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	1/8	
341	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	15.3			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	1/8	
342	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/2灰褐	ﾅﾃﾞ・指押さえ・貼付凸帯	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	体部小片	
343	32		弥生土器	小形丸底壺	Ⅰ区	SH07	5.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR5/2灰褐	7.5YR5/2灰褐	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	底部2/8	
344	32	70	弥生土器	台付小型丸型壺	Ⅰ区	SH07	8.8			石英・長石細砂並、角閃石細砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	7.5YR6/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部2/8	
345	32		弥生土器	長頸壺	Ⅰ区	SH07	8.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・指押さえ	口縁部1/8	
346	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/1褐灰	板ﾅﾃﾞ	指押さえ	体部小片	
347	32		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾊｹ目	指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部3/8	
348	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	15.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・指押さえ	小片	
349	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.8			石英・長石中砂並、角閃石細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
350	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.5			石英・長石中砂並	7.5YR6/3にぶい褐	5Y4/1灰	横ﾅﾃﾞ・沈線・板ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
351	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	15.0			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
352	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅・沈線	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
353	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
354	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.2			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目・ﾊｹ目・沈線	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
355	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.9			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・指押さえ	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
356	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	24.8			石英・長石中砂並、雲母細砂並	5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ﾊｹ目	ﾊｹ目・摩滅	口縁部1/8	
357	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.2			石英・長石中砂並	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・摩滅	口縁部1/8	
358	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	12.8			石英・長石中砂並	7.5YR8/6浅黄橙	10YR8/6黄橙	横ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目・摩滅	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
359	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	16.6			石英・長石中砂少	2.5Y4/1黄灰	2.5Y8/2灰白	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
360	33		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH07	16.0			石英・長石中砂少	10YR4/1褐灰	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	4/8	
361	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	頸部3/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
362	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.8			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	横ナデ・ハケ目	横ナデ・板ナデ	口縁部2/8	
363	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.5			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR7/6橙	2.5YR6/6橙	ハケ目・タタキ目・ナデ	ハケ目・ヘラケズリ	口縁部1/8	
364	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	17.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケ目	摩滅・ハケ目・ヘラケズリ	口縁部2/8	
365	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	16.6			石英・長石中砂並、角閃石細砂少	5YR7/6橙	5YR7/4にぶい橙	ハケ目	ハケ目・板ナデ	口縁部2/8	
366	33	70	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	17.2			石英・長石中砂並	7.5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ハケ目・ナデ・タタキ目	ハケ目・指押さえ	4/8	
367	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	15.8			石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目・指押さえ・ヘラケズリ	口縁部2/8	
368	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	18.5			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	ナデ・ハケ目	ナデ・指押さえ・ヘラケズリ	口縁部3/8	
369	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	19.8			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ナデ・板ナデ・摩滅・ハケ目	ナデ・板ナデ・ヘラケズリ	口縁部2/8	
370	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	16.4			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR5/3にぶい赤褐	横ナデ・ハケ目	横ナデ・ハケ目・ヘラケズリ	頸部1/8	
371	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.9			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	ナデ・摩滅	ナデ・摩滅・ヘラケズリ	口縁部1/8	
372	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	横ナデ・ナデ・摩滅	横ナデ・ヘラケズリ	口縁部1/8	
373	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.2			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目・ヘラケズリ	口縁部1/8	
374	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	16.2			石英・長石中砂並	5YR7/8橙	5YR7/6橙	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目・摩滅	口縁部1/8	
375	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	13.8			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR7/6橙	ハケ目	ハケ目	口縁部2/8	
376	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	12.8			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目・摩滅	口縁部1/8	
377	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07			3.7	石英・長石中砂並	2.5YR4/1赤灰	10YR7/3にぶい黄橙	ハケ目	ヘラケズリ・・ハケ目	底部8/8	
378	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	30.4			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	ハケ目	ハケ目・ヘラミガキ	口縁部1/8	
379	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	10.3			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目	口縁部2/8	
380	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07			5.5	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	2.5Y8/2灰白	指押さえ・板ナデ・ヘラミガキ	指押さえ・ナデ	4/8	
381	33		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07			4.7	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ヘラミガキ・ナデ	ヘラケズリ	底部2/8	
382	33		弥生土器	甑	Ⅰ区	SH07			3.8	石英・長石中砂並	2.5Y4/1黄灰	10YR7/3にぶい黄橙	ヘラミガキ	板ナデ	底部8/8	
383	34	70	土師器	小皿	Ⅰ区	SH07	9.5			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR8/4浅黄橙	指押さえ・ナデ	ハケ目	口縁部4/8	
384	34		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	8.8			石英・長石細砂少	2.5Y4/1黄灰	10YR6/2灰黄褐	指押さえ・板ナデ	指押さえ・板ナデ	口縁部2/8	
385	34		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	9.8			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ナデ	ナデ	口縁部1/8	
386	34		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	11.5	5.6	4.6	石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ナデ	ナデ・板ナデ	口縁部2/8	
387	34		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	14.7			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	口縁部1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
388	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	15.4			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
389	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	19.0			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部1/8	
390	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	11.6	7.1	2.8	石英・長石中砂少	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR8/3浅黄橙	ﾀﾀｷ目・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・指押さえ	底部8/8	
391	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	9.0			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	7.5YR6/3にぶい褐	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部3/8	
392	34		弥生土器	鉢	I区	SH07			3.3	石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ	ﾊｹ目	底部8/8	
393	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	15.9			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
394	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	19.6			石英・長石中砂並、雲母細砂少	N3/暗灰	5YR6/8橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・指押さえ	口縁部1/8	
395	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	29.4			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	沈線・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
396	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	13.9			石英・長石中砂並	7.5YR8/4浅黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部2/8	
397	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	29.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
398	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	37.3			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
399	34		弥生土器	鉢	I区	SH07	28.2			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	2.5YR6/8橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾊｹ目	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部2/8	
400	34		弥生土器	片口鉢	I区	SH07	32.3			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR8/4淡橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹ目・指押さえ・板ﾅﾃﾞ摩滅	口縁部3/8	
401	34		弥生土器	鉢	I区	SH07			3.2	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・クラック	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部2/8	
402	34		弥生土器	鉢	I区	SH07			2.2	石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	底部8/8	
403	34		弥生土器	鉢	I区	SH07			5.3	石英・長石中砂多	5YR5/8明赤褐	7.5YR7/6橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・指押さえ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・摩滅	底部8/8	
404	34		弥生土器	鉢	I区	SH07			7.6	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR8/6浅黄橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ	指押さえ・ﾅﾃﾞ	1/8	
405	35		弥生土器	器台	I区	SH07	23.8			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・波状文・刺突文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
406	35		弥生土器	器台	I区	SH07	28.8			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・鋸歯文・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
407	35		弥生土器	器台	I区	SH07	22.0			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂並	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ﾅﾃﾞ・摩滅・波状文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部1/8	
408	35		弥生土器	器台	I区	SH07	20.0			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・鋸歯文・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
409	35		弥生土器	器台	I区	SH07	23.5			石英・長石中砂並少、角閃石細砂少、雲母細砂少	5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
410	35		弥生土器	器台	I区	SH07	26.2			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	5YR6/6橙	竹管文・波状文・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・波状文	口縁部小片	
411	35		弥生土器	器台	I区	SH07	28.4			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・沈線・竹管文	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
412	35		弥生土器	器台	I区	SH07	23.3			石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
413	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	28.3			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
414	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	31.0			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	沈線・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	剥離	口縁部1/8	
415	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	29.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線・指押さえ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
416	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・穿孔	板ﾅﾃﾞ	体部4/8	
417	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/8橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾊｹ目	指押さえ	体部小片	
418	35	70	弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石細砂並、角閃石細砂並、雲母中砂少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・線刻	板ﾅﾃﾞ	体部小片	
419	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾊｹ目・穿孔	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	2/8	
420	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	沈線・ﾊｹ目・穿孔	板ﾅﾃﾞ	頸部1/8	
421	35	70	弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・透かし	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	体部2/8	
422	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾊｹ目・穿孔	板ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目	体部1/8	
423	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・ﾊｹ目・穿孔	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	頸部3/8	
424	35	71	弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	10YR5/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・波状文・穿孔	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部3/8	
425	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・透かし	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	体部1/8	
426	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、角閃石細砂少、雲母細砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部1/8	
427	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	摩滅・穿孔	板ﾅﾃﾞ・摩滅	体部小片	
428	35	71	弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07			11.5	石英・長石中砂並	5YR6/8橙	10YR7/4にぶい黄橙	指押さえ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	底部3/8	
429	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	21.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5Y4/1黄灰	5YR6/6橙	凹線	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
430	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	摩滅・板ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・透かし	摩滅・板ﾅﾃﾞ・指押さえ	体部1/8	
431	35		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	指押さえ・板ﾅﾃﾞ・穿孔	指押さえ・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	3/8	
432	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	18.2			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
433	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	2.5Y6/2灰黄	2.5Y5/1黄灰	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ・沈線	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
434	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR5/2灰褐	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・刻目文・沈線・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
435	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	24.4			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/2灰白	沈線・摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部1/8	
436	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	24.0			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	2.5YR3/1暗赤灰	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
437	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	19.2			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
438	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	27.9			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・波状文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
439	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	24.5			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・波状文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
440	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	17.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
441	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR7/8橙	10YR8/6黄橙	摩滅	摩滅	口縁部小片	
442	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
443	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	21.4			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	口縁部1/8	
444	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	25.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5YR6/8橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
445	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	2.5Y3/1黒褐	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
446	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
447	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾊｹ目・刻目文	摩滅・ﾊｹ目	杯部1/8	
448	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	17.1			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
449	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	21.6			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	摩滅・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
450	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	30.2			石英・長石中砂並	10R6/8赤橙	2.5YR6/8橙	摩滅	摩滅	口縁部1/8	
451	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	34.6			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
452	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	27.3			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	ﾊｹ目・指押さえ	杯部1/8	
453	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	杯部1/8	
454	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	指押さえ・摩滅	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹﾞﾘ	脚部8/2	
455	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	脚部2/8	
456	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・朱塗り	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	脚部1/8	
457	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			19.5	石英・長石中砂並	7.5YR8/8黄橙	7.5YR8/8黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	ﾍﾗｹﾞﾘ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
458	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	板ﾅﾃﾞ・摩滅・透かし	絞目・摩滅	脚部4/8	
459	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			14.0	石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	脚部7/8	
460	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	5YR7/8橙	板ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾍﾗｹﾞﾘ	脚部1/8	
461	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			11.1	石英・長石中砂並	5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ・沈線	ﾍﾗｹﾞﾘ・ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
462	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/8橙	5YR4/3にぶい赤褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾍﾗｹﾞﾘ	脚部4/8	
463	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目・透かし	絞目・摩滅・ﾅﾃﾞ	脚部2/8	
464	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少、角閃石細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹ目	脚部1/8	
465	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/8橙	5YR7/8橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾊｹ目	ﾊｹ目	脚部1/8	
466	36		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	沈線・列点文	ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
467	36		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07			8.2	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR5/1褐灰	2.5Y4/1黄灰	ﾊｹ目	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	脚部2/8	
468	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			15.8	石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	5YR6/8橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾍﾗｹﾞﾘ	脚部2/8	
469	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			16.0	石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹﾞﾘ	脚部1/8	
470	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			15.0	石英・長石中砂並	7.5YR8/6浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	摩滅・ﾍﾗｹﾞﾘ	脚部1/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
471	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			11.3	石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5YR6/6橙	5YR6/6橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
472	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			11.0	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	ﾅﾃﾞ・沈線・ヘラ描・列点文	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部2/8	
473	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			11.0	石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	沈線・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
474	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			11.4	石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	沈線・三角形抉り・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
475	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			10.2	石英・長石中砂並	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	沈線・三角形抉り・刻目文・横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
476	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			4.3	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR7/4にぶい橙	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・沈線	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	脚部1/8	
477	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07			14.0	石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	2.5Y7/1灰白	ﾊｹ目・摩滅	ﾊｹ目	脚部2/8	
478	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・ﾅﾃﾞ・透かし	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	
479	37		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・沈線・	摩滅・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	杯部1/8	
480	37	71	弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	4.6	6.3	6.8	石英・長石中砂並	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	7/8	
481	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	6.4	7.2	9.1	石英・長石中砂並	5YR6/8橙	10YR7/4にぶい黄橙	指押さえ・板ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	4/8	
482	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	7.1	5.7	7.8	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ		
483	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	5.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	板ﾅﾃﾞ・指押さえ	ﾅﾃﾞ	体部3/8	
484	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	6.8			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	2.5Y5/1黄灰	列点文・指押さえ・板ﾅﾃﾞ	指押さえ・板ﾅﾃﾞ・絞目	口縁部3/8	
485	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07			7.8	石英・長石中砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
486	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07			4.8	石英・長石中砂並	10YR7/2にぶい黄橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
487	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・指押さえ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・指押さえ	脚部3/8	
488	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07			7.7	石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	指押さえ	脚部3/8	
489	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	6.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/8橙	指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・ﾅﾃﾞ	6/8	
490	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹ目・指押さえ・指ﾅﾃﾞ	脚部5/8	
491	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	破片	
492	37	71	弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石細砂並	7.5YR5/2灰褐	5YR6/6橙	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ・摩滅	破片	
493	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07			6.1	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部7/8	
494	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07			5.6	石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部7/8	
495	37		弥生土器	支脚	Ⅰ区	SH07			4.6	石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	指頭痕・板ﾅﾃﾞ	指ﾅﾃﾞ	5/8	
496	37	71	粘土塊		Ⅰ区	SH07	—			石英・長石細砂少	10YR7/6明黄褐	7.5YR7/6橙	-	-		
497	37		須恵器	杯身	Ⅰ区	SH07	—			砂粒細砂少	5/灰	6/灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
498	37		須恵器	杯身	Ⅰ区	SH07	—			砂粒中砂少	10BG6/1青灰	10BG6/1青灰	回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	体部1/8	
499	37		須恵器	壺	Ⅰ区	SH07	—			砂粒細砂少	N6/灰	N6/灰	格子ﾀﾀｷ目	青海波文	体部小片	
522	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
523	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	21.2			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	剥離・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
524	40	72	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.8	20.5	2.4	石英・長石細砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・摩滅	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	1/8	
525	40		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少、角閃石細砂少、雲母細砂少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	指押さえ・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	指押さえ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部小片	
526	40		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	11.3			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
527	40		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.3			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部小片	
528	40		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07			3.4	石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾊｹ目	ﾊｹ目・指押さえ	底部5/8	
529	40		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR8/4浅黄橙	指押さえ・ﾊｹ目	指押さえ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部3/8	
530	40		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	8.2	4.6	2.9	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	底部8/8	
531	40		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	8.7	6.2		石英・長石中砂少	10YR8/3浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ	3/8	
532	40		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	10.0			石英・長石中砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	指押さえ・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	指押さえ・ﾊｹ目	口縁部2/8	
533	40		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	15.5			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目・摩滅	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体部1/8	
534	40		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	20.0			石英・長石中砂少	5YR7/6橙	5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
535	40		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	19.7			石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部2/8	
536	40		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	15.9			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR4/1褐灰	10YR4/2灰黄褐	ﾅﾃﾞ・沈線・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
537	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	10YR5/2灰黄褐	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
538	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	10.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	2.5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・凹線	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
539	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	13.2			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
540	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	15.9			石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	5YR6/6橙	摩滅・ﾊｹ目	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
541	40		弥生土器	底部	Ⅰ区	SH07			5.5	石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	板ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	底部2/8	
542	40		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07			7.8	石英・長石中砂並	2.5Y8/2灰白	2.5Y6/1黄灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部4/8	
543	40		弥生土器	甑	Ⅰ区	SH07			3.0	石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	10YR7/2にぶい黄橙	ﾊｹ目	ﾊｹ目・摩滅	底部1/8	
544	40		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
545	40		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH07	22.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
546	41		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/8橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
547	41		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石細砂並	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
548	41		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	15.4			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部1/8	
549	41		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	14.6			石英・長石中砂並	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/2灰白	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部2/8	
550	41	72	弥生土器	片口鉢	Ⅰ区	SH07	29.2	19.2		石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹ目	口縁部7/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
551	41	72	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	10.9	5.9	4.2	石英・長石中砂少	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目	口縁部6/8	
552	41		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/6橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	杯部小片	
554	41	72	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH07	9.8	6.5		石英・長石中砂並	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹ目	口縁部7/8	
555	41	73	弥生土器	皿	Ⅰ区	SH07	9.1	2.7	3.5	石英・長石細砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・指押さえ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	8/8	
556	41		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR5/1褐灰	7.5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部小片	
557	41		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	7.5YR8/8黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	頸部小片	
558	41		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹ目・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体部1/8	
559	41		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH07	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/8橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	
560	42		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・斜格子文	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
561	42		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石細砂並、雲母細砂少	2.5Y5/2暗灰黄	10YR6/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
562	42		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH08			6.2	石英・長石中砂並	2.5YR6/4にぶい橙	7/8.5YR3/1黒褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	板ﾅﾃﾞ	底部1/8	
563	42		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH08			6.0	石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR8/4浅黄橙	10YR6/1褐灰	摩滅	ﾊｹ目	底部2/8	
564	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
565	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
566	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
567	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	13.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
568	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂少	N3/暗灰	N3/暗灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
569	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂少	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
570	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部小片	
571	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・摩滅	頸部小片	
572	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	12.1			石英・長石中砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/2灰褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
573	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08			6.2	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	摩滅・板ﾅﾃﾞ	底部2/8	
574	42		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH08	10.2	6.7	3.5	石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/1灰白	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾊｹ目	口縁部3/8	
575	42		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石細砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
576	42		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH08	17.1			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	摩滅・ﾊｹ目	口縁部2/8	
577	42		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR8/2灰白	横ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
578	42		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並	2.5YR6/8橙	5YR6/8橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅	口縁部小片	
579	42		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH08			10.6	石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
580	42		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH08			12.6	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	2.5YR6/8橙	回転ﾅﾃﾞ・沈線	摩滅	底部2/8	
583	42		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
584	42		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
585	42		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH08	—			石英・長石細砂少、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	10YR5/1褐灰	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
586	42		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH08	19.8	10.4	1.9	石英・長石中砂少	10YR7/4にぶい黄橙	2/85YR8/3淡橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	3/8	
587	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・凹線	ﾅﾃﾞ・波状文・円形浮文	口縁部小片	
588	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
589	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	10.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・貼付凸帯・刻目文	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
590	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/6橙	指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体部小片	
591	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09			6.8	石英・長石中砂並	5YR4/2灰褐	5YR4/2灰褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部2/8	
592	44		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	5YR7/6橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
593	44		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH09	15.1			石英・長石中砂並	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/2灰白	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸部1/8	
594	44		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH09			5.2	石英・長石中砂並	7.5YR4/2灰褐	2.5YR6/6橙	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部2/8	
595	44		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石細砂少	10YR7/1灰白	7.5YR8/4浅黄橙	回転ﾅﾃﾞ・沈線	回転ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
596	44		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
597	44		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
598	44		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH09	14.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
599	44		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	7.5YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
601	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂少	10YR7/3にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	斜格子文・ﾅﾃﾞ	斜格子文	口縁部小片	
602	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	13.5			石英・長石細砂少	5YR7/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
603	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/4にぶい赤褐	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・櫛先刺突文	ﾅﾃﾞ	頸部2/8	
604	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR8/4浅黄橙	N5/灰	摩滅・刻目文	摩滅	体部小片	
605	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09			8.9	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	摩滅	底部2/8	
606	44		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR4/1褐灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	板ﾅﾃﾞ	底部小片	
607	44		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・刻目文	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
608	44		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂並	5YR4/1褐灰	2.5YR7/6橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
609	44		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH09	20.0			石英・長石中砂少	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
610	44		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH09	—			石英・長石中砂少	10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
612	44		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH09(SP179)	17.0			石英・長石中砂並	7.5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒	7.5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
613	45		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH11			6.0	石英・長石中砂並	7.5YR8/2灰白	10YR4/2灰黄褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・板ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部1/8	
614	46		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂並	7.5YR8/4浅黄橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
615	46		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	10YR7/1灰白	ﾅﾃﾞ・刻目文	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
616	46		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	ﾊｹ目・刺突文・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	板ﾅﾃﾞ	体部小片	
617	46		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH12			5.2	石英・長石中砂並、角閃石細砂少	10YR8/3浅黄橙	10YR5/2灰黄褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部7/8	
618	46		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH12			10.0	石英・長石中砂並	2.5Y8/3淡黄	5YR6/6橙	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部3/8	
619	46		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂並	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/3にぶい褐	ﾅﾃﾞ・刻目文	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
620	46		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
621	46		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
622	46		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH12	—			石英・長石中砂少、角閃石細砂少	10YR8/2灰白	10YR7/2にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
623	46		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH12	22.2			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/2にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部1/8	
624	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
625	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	11.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR3/1黒褐	10YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
626	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
627	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂少	5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅・沈線	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
628	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂少	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	ﾅﾃﾞ・刺突文	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
629	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	5YR7/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	沈線・刻目文	板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
630	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂少	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	斜格子文・櫛描沈線	ﾊｹ目	体部小片	
631	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	指押さえ・ﾊｹ目	頸部小片	
632	47		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH13			7.9	石英・長石中砂並	10YR6/4にぶい黄橙	*	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部2/8	
633	47		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH13			6.6	石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	2.5Y5/1黄灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目	底部1/8	
634	47		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH13			7.4	石英・長石中砂並	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR4/1褐灰	板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部1/8	
635	47		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
636	47		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	2.5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ﾅﾃﾞ・刻目文	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
637	47		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	5YR7/8橙	10YR6/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
638	47		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・沈線	ﾅﾃﾞ	脚部小片	
639	47		弥生土器	高坏	Ⅰ区	SH13			11.6	石英・長石中砂並	10YR4/1褐灰	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・凹線	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部1/8	
640	47		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
641	47		須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH13	—			砂粒中砂少	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	回転ヘラキリ	指押さえ・回転ﾅﾃﾞ	1/8	
642	47		須恵器	杯蓋	Ⅰ区	SH13	—			砂粒細砂少	6/灰	6/灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
643	47		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH13	18.9			石英・長石中砂並	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	摩滅	摩滅	口縁部1/8	
644	47		土師質土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	10YR8/2灰白	10YR6/2灰黄褐	摩滅	摩滅	口縁部小片	
645	47		土師器	杯	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	１０YR８/２灰白	１０YR８/２灰白	ﾅﾃﾞ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
647	47		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH13	8.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR4/1褐灰	5YR4/1褐灰	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
648	47		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
649	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	17.8			石英・長石中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
650	47		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR4/2灰黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
651	47		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH13			3.8	石英・長石中砂並	5Y5/1灰	5Y4/1灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・板ﾅﾃﾞ	底部5/8	
652	47		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH13	13.9			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR3/1黒褐	10YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
653	47		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH13	—			石英・長石中砂並	5YR6/2灰褐	5YR6/2灰褐	ﾅﾃﾞ・剥離	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
654	47		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH13			20.0	石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR5/6明赤褐	5YR6/4にぶい橙	穿孔・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・沈線・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
655	49		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH15	19.0			石英・長石中砂並	7.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	斜格子文・ﾅﾃﾞ	斜格子文・ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
656	49		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH15	14.0			石英・長石中砂少	5YR6/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・貼付凸帯・刻目文	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
657	49		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH15	9.4			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	脚部1/8	
658	49		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石中砂並	5Y7/1灰白	2.5Y7/3浅黄	刻目文・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
659	49		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部1/8	
660	49		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH15			7.0	石英・長石中砂少	5YR6/6橙	10YR4/2灰黄褐	板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部1/8	
661	49		弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH15			5.3	石英・長石中砂並	10YR6/1褐灰	10YR5/1褐灰	ﾅﾃﾞ	指ﾅﾃﾞ	底部1/8	
662	49		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH15	19.3			石英・長石中砂並	2.5YR5/1赤灰	2.5YR5/1赤灰	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
663	49		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH15	19.4			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
664	49		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石中砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	摩滅・ﾊｹ目	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体部小片	
665	49	73	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石細砂少	10YR6/4にぶい黄橙	10YR2/1黒	波状文・沈線・ﾊｹ目	板ﾅﾃﾞ	体部小片	
666	49	73	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石細砂並	10YR4/1褐灰	10YR5/1褐灰	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・刺突文	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・爪痕	体部1/8	
667	49		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR8/6浅黄橙	5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
668	49		弥生土器	器台	Ⅰ区	SH15	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	脚部小片	
669	49		弥生土器	台付鉢	Ⅰ区	SH15	23.6			石英・長石中砂少、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
670	50		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH16	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/8橙	7.5YR2/1黒	ﾅﾃﾞ	指押さえ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部小片	
671	50		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH17	—			石英・長石中砂並	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
672	50		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH18	14.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
673	50		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH18			8.2	石英・長石中砂並	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部小片	
675	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19	—			石英・長石中砂並	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
676	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19	—			石英・長石中砂並	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
677	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
678	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19	—			石英・長石中砂並	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部小片	
679	51		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH19(SP931)	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
680	51	73	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH19(SP931)	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/8黄橙	10YR3/1黒褐	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部8/8	
681	51		弥生土器	壺	Ⅰ区	SH19(SP931)	—		7.2	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部8/8	
682	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19(SP931)	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・横ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
683	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19(SP931)	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ﾅﾃﾞ・沈線	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
684	51	73	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19(SP931)	21.5			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	摩滅・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	摩滅・ﾅﾃﾞ・指押さえ・指ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部8/8	
685	51		弥生土器	甕	Ⅰ区	SH19(SP931)	—			石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部小片	
686	51		弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH19(SP931)	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部8/8	
687	53	73	弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ01	19.2		4.9	石英・長石中砂並	7.5YR6/6橙	7.5YR3/1黒褐	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾀﾀｷ目・ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ	口縁部8/8	
688	53	73	弥生土器	高杯	Ⅰ区	ＳＴ01	29.2	19.0	24.0	石英・長石細砂並	5YR6/8橙	5YR6/8橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・指押さえ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部8/8	
689	53		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＴ01	—			石英・長石中砂多、雲母細砂少	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ・摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・摩滅	口縁部小片	
690	53		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ01			6.0	石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/1灰白	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	指押さえ・摩滅	底部小片	
691	53		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ01			7.8	石英・長石中砂並	2.5YR7/2明赤灰	2.5YR7/2明赤灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部2/8	
692	53		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ01			5.4	石英・長石中砂多	10YR5/1褐灰	10YR7/2にぶい黄橙	ﾊｹ目・摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・指押さえ	底部8/8	

報文番号	挿図番号	図版番号	種類	器種	調査区	遺構名	法量(cm)			胎土	色調		調整		残存量	備考
							口径	器高	底径		外	内	外	内		
693	54		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ02	—			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	10YR7/3にぶい黄橙	ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	指押さえ・ﾊｹ目・板ﾅﾃﾞ	体部5/8	
694	54	73	弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＴ02	19.8	31.1	2.6	石英・長石中砂並	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	指押さえ・ﾀﾀｷ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾊｹ目	口縁部7/8	
695	55		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ03			6.4	石英・長石中砂並、雲母中砂少	7.5YR6/6橙	7.5YR3/1黒褐	ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅・板ﾅﾃﾞ	指押さえ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ	底部6/8	
696	55	74	弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＴ03		35.5	8.1	石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	ﾀﾀｷ目・ﾊｹ目・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・指押さえ・ﾅﾃﾞ	指ﾅﾃﾞ・指押さえ・ﾊｹ目・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部8/8	
697	55		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ03	—			石英・長石中砂並	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・貼付凸帯刻目文	指押さえ・横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
698	55		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ03			8.4	石英・長石中砂並	5YR5/6明赤褐	10YR4/1褐灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	板ﾅﾃﾞ・摩滅	底部2/8	
699	56		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＴ04	12.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR7/3にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目・貼付凸帯刻目文	横ﾅﾃﾞ・指押さえ	口縁部3/8	
700	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	20.0			石英・長石中砂並	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	沈線・横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
701	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	20.4			石英・長石中砂並	5YR6/6橙	10YR6/3にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
702	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	22.8			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	横ﾅﾃﾞ	口縁部2/8	
703	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	15.0			石英・長石中砂並、雲母細砂少	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ・指押さえ	頸部2/8	
704	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂並	2.5YR6/8橙	2.5YR6/8橙	沈線・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	ﾅﾃﾞ・摩滅	頸部2/8	
705	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	10YR5/2灰黄褐	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部小片	
706	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	摩滅・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部小片	
707	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
708	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	29.7			石英・長石中砂並、雲母細砂少	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部小片	
709	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂多、雲母細砂少	10YR4/1褐灰	5YR7/6橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・貼付凸帯刻目文	ﾊｹ目・指ﾅﾃﾞ	体部小片	
710	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01	10.4			石英・長石中砂並	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	横ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
711	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01			7.0	石英・長石粗砂並	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙	ﾊｹ目・ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部2/8	
712	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01	12.6			石英・長石中砂並	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	横ﾅﾃﾞ・凹線	横ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部1/8	
713	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01	13.0			石英・長石中砂少、雲母細砂少	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
714	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01	14.7			石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/3にぶい褐	横ﾅﾃﾞ・沈線	横ﾅﾃﾞ	口縁部1/8	
715	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	7.5YR8/3浅黄橙	横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ目	口縁部小片	
716	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01	—			石英・長石中砂並	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	横ﾅﾃﾞ・刻目文	横ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
717	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01	13.0			石英・長石中砂少	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部小片	
718	57		弥生土器	壺	Ⅰ区	ＳＫ01			5.8	石英・長石中砂並	7.5YR7/6橙	7.5YR4/1褐灰	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部6/8	
719	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01			5.6	石英・長石中砂並	7.5YR5/3にぶい褐	5Y6/6ｵﾘｰﾌﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・摩滅	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部3/8	
720	57		弥生土器	甕	Ⅰ区	ＳＫ01			5.9	石英・長石中砂少	2.5Y3/1黒褐	10YR7/4にぶい黄橙	ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部4/8	
721	57		弥生土器	鉢	Ⅰ区	ＳＫ01			3.6	石英・長石中砂並、雲母細砂少	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	板ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	底部8/8	
722	57		弥生土器	底部	Ⅰ区	ＳＫ01			6.0	石英・長石中砂並、雲母細砂少	2.5Y7/2灰黄	10YR7/2にぶい黄橙	摩滅・ﾍﾗﾐｶﾞｷ・ﾅﾃﾞ	摩滅・ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部3/8	